ファイヤー! 桜庭和志&髙阪剛が、なんと焼鳥屋で越境対談

紙のプロレス RADICAL

31
2000

●10・31『PRIDE.11』すでに開戦!!

村上一成敗戦の
落とし前はどうつける?
小川直也

遂に『PRIDE』出陣! なっ!
谷津嘉章

ボブチャンチン戦決定!
またもや高い山へ——!
髙田延彦

●リングスKOK秒読み開始!!

リングスジャパン批判は
どこに向かう?
田村潔司

元パンクラシストが、
KOKに電撃参戦&激語り!
柳澤龍志

堀辺正史
骨法創始師範が
"KOKの見方"を
なんと無料伝授!

「新プロレス」が本格始動!! どうする新日本!?

真の「ストロング・スタイル」は『PRIDE』にあり!!

●衝撃の独占スキャンダル連発!!

「前田日明総帥、尾崎社長暴行(?)事件」の
目撃者を直撃!/ジェレミー・ホーン

『PRIDE』の侵攻に、
盟主・新日本の対応は?

プロレスリング・ウィズ・シャドウズ
ダン・スバーン

パンクラスを10倍楽しく見る方法

"全日本的なるもの"への挑戦!
高山善廣

健介との頂上対決接近!
いま川田利明がヤバイ!!

島田裕二プロデューサーを直撃!!
バトラーツに一体何が
起こったのか!?

昭和の凄み炸裂!
生きる伝説2連発!!
永源 遥
ユセフ・トルコ

紙のプロレス RADICAL NO.31 『PRIDE』にあり!!

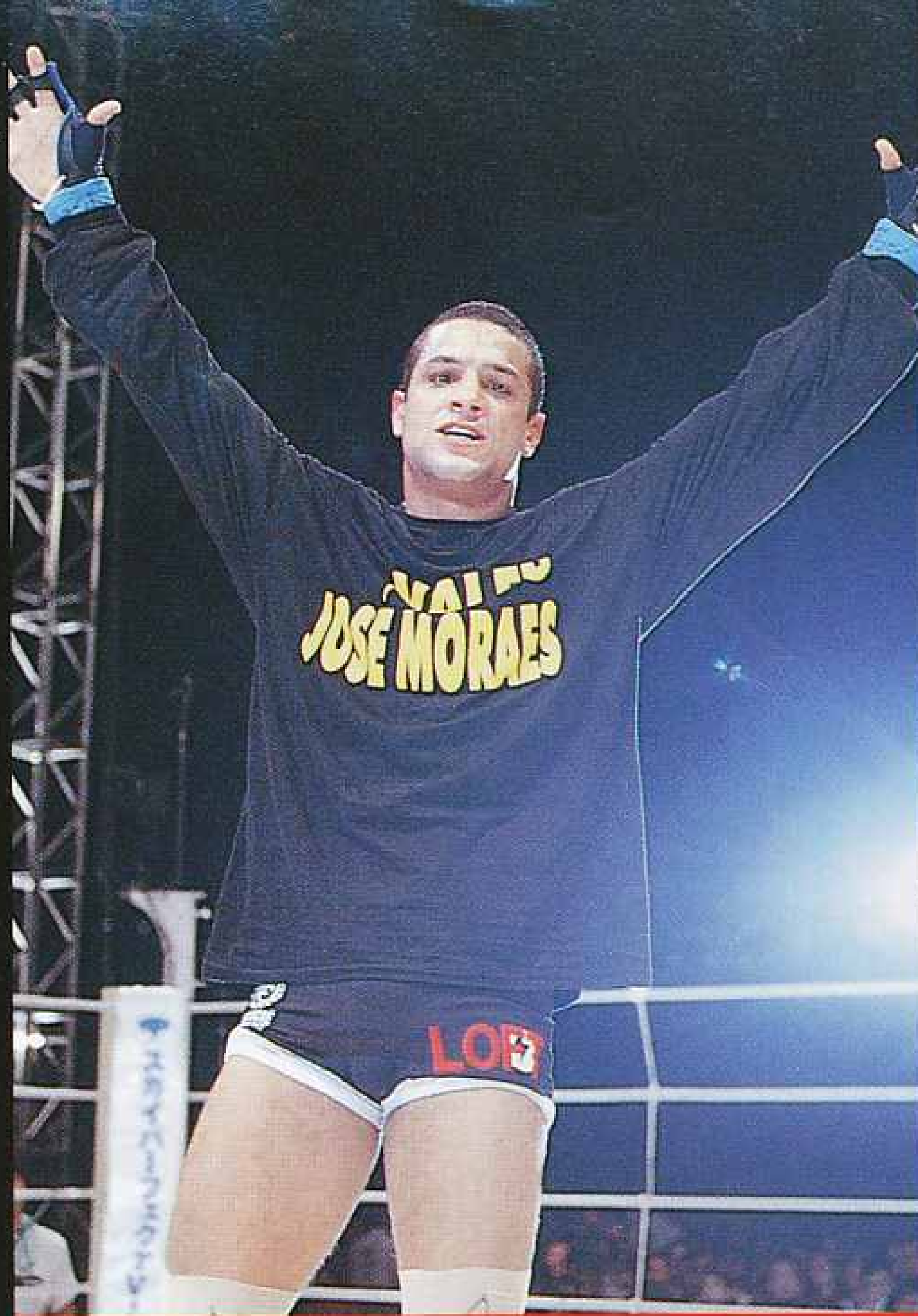
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体800円+税

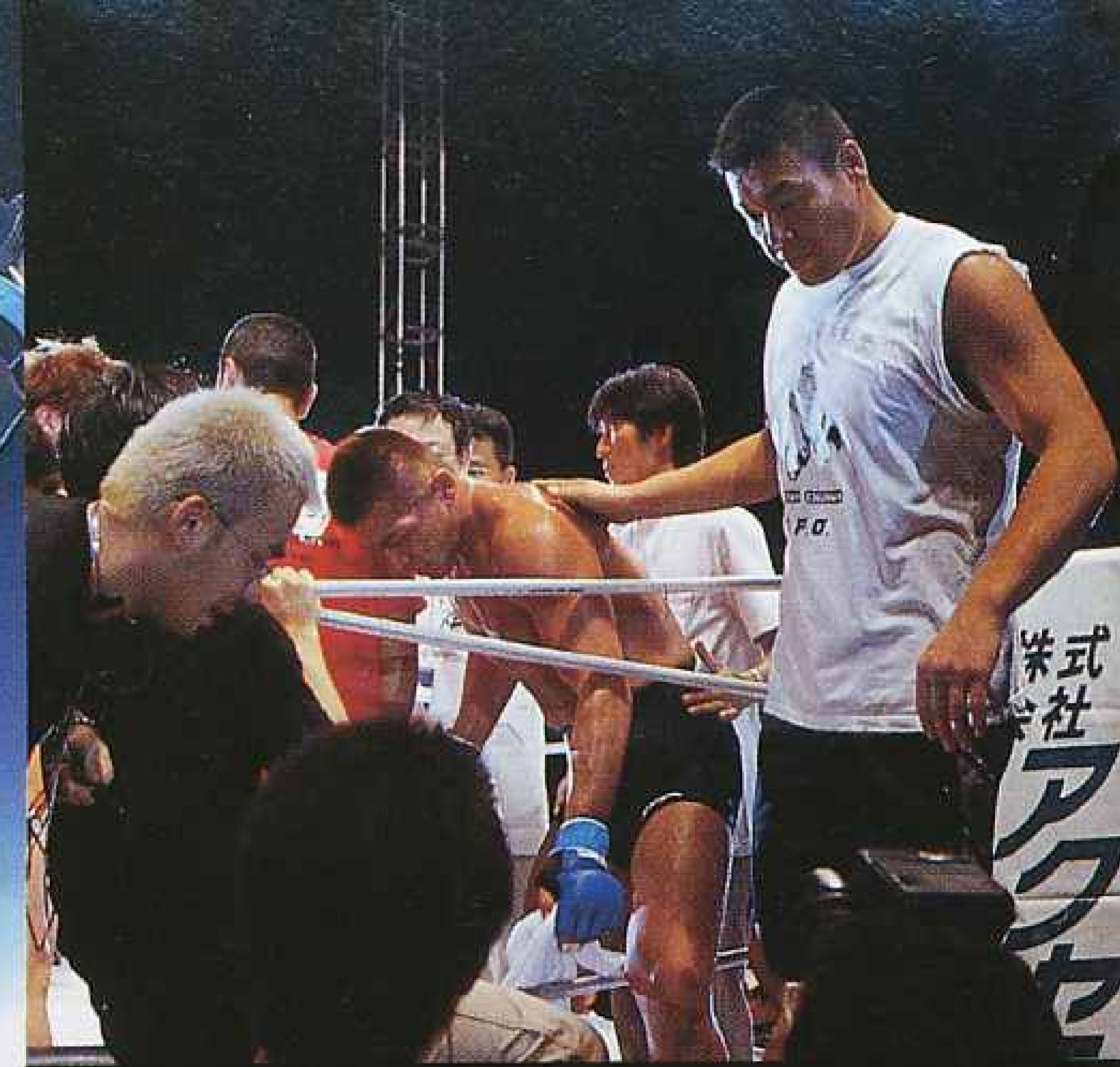

WRESTLE DISCO FEVER DX
お詫び
「どこに行けば買えるの?」
「商品がお店においていない」等々皆様には大変ご迷惑をおかけしております。商品の性質上なかなかCDショップで見つけにくいと思われます。申し訳ございません。
その際CDショップの店員さんに商品番号(TOCT-24379)を伝えて取り寄せていただくか、下記の通信販売をご利用するのが確実です。お手数ですがよろしくお願いいたします。
音楽を通して、CDを通しての世界平和をよろしくお願いいたします。
闘争本能に火をつける!
信じられないくらい元気が出る奇跡のCD!
誰もが知っている"闘い"のテーマ曲が大和魂を揺さぶる強烈ディスコ・サウンドで超衝撃的に大登場!
◎ オールナイトニッポンで話題のあの曲 "1・2・3・ダー!"あの春一番が"猪木語録"を連発!初CD化!
◎リングを彩った名曲『かけめぐる青春』が新ユニット『ビューティー・ペア2000』(キャンディー奥津&藤田 愛=アルシオン)で"デジタル"に"COOL"に復活!!
◎"セクシーグラビアクイーン"で格闘技ファンの岡元あつこと「トゥナイト2」「タモリ倶楽部」そしてFMWの悶絶実況でお馴染みの杉作J太郎が堂々のCD歌手デビュー!
WRESTLE DISCO FEVER DX
レッスル・ディスコ・フィーバー・デラックス
TOCT-24379 ¥2,500(TAX IN)
1. 炎のファイター ～INOKI BOM-BA-YA～
(アントニオ猪木の入場テーマ)
HAL2000 MIX feat.春一番
2. 西部警察
FUNKY HOLLYWOOD 2000MIX
3. キューティーハニー
(キューティーハニーの主題歌)
GO-GO SEXY PUNCH MIX 歌:岡元あつこ
4. THE GAME OF DEATH
(死亡遊戯のテーマ)
CHINESE KUNG-FU SPARRING MIX
5. スピニング・トー・ホールド
(ザ・ファンクスの入場テーマ曲)
BIG TEXAS BEAT 2000 MIX
6. 仁義なき戦い
JINGI 2000 LATIN MIX
7. かけめぐる青春
TRIBAL TECHNO "COOL" MIX
歌:ビューティー・ペア2000
(キャンディー奥津&藤田 愛)
8. ENTER THE DRAGON
(燃えよドラゴンのテーマ曲)
HONG KONG GARAGE ROX MIX
9. 愛をとりもどせ!!
(北斗の拳の主題歌)
DYNAMITE SOUL "LOVE" MIX
歌:杉作J太郎&岡元あつこ
10. ゴジラ
CYBER MONSTER IN N.Y.2000 MIX
IN STORES NOW
WRESTLE DISCO FEVER
NOW ON SALE!!
レッスル・ディスコ・フィーバー
TOCT-24154 定価2,500円
1 レッスル・ディスコ・フィーバー MEGA MIX
① オープニング～燃えよドラゴンのテーマ
② 炎のファイター
③ パワーホール
④ スカイ・ハイ
⑤ ワイルドシング
⑥ 吹けよ風 呼べよ嵐
⑦ スピニング・トー・ホールド
⑧ タイガーマスクのテーマ
⑨ キャプチュード
⑩ UWFプロレス メインテーマ
⑪ サンライズ
⑫ ロッキーのテーマ
⑬ アイアン・マン
⑭ 日本テレビ スポーツテーマ～エンディング
2 レッスル・ディスコ・フィーバー Radio MIX
3 炎のファイター AMAZON MIX
4 ENTER THE DRAGON 2000X
通信販売でのお求めは
(株)双葉工芸 お問合せ Tel. 03(3235)2912
ご予約とお求めは全国のCDショップ、プロレスショップにて受付中!
TOSHIBA-EMI LIMITED VIDEO DEPT ☎ 03(5512)1749


時代性の中の
"ストロング・スタイル"

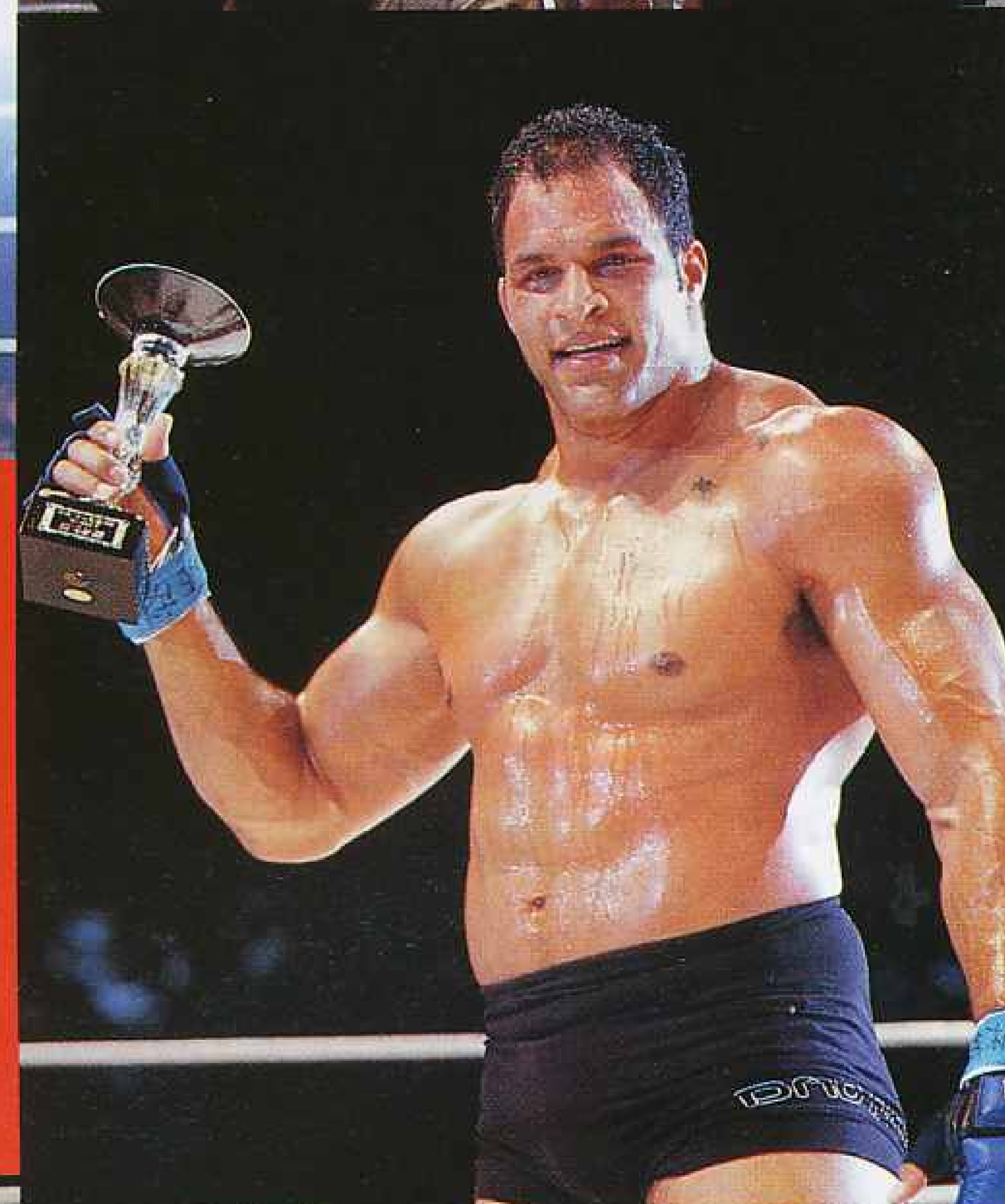


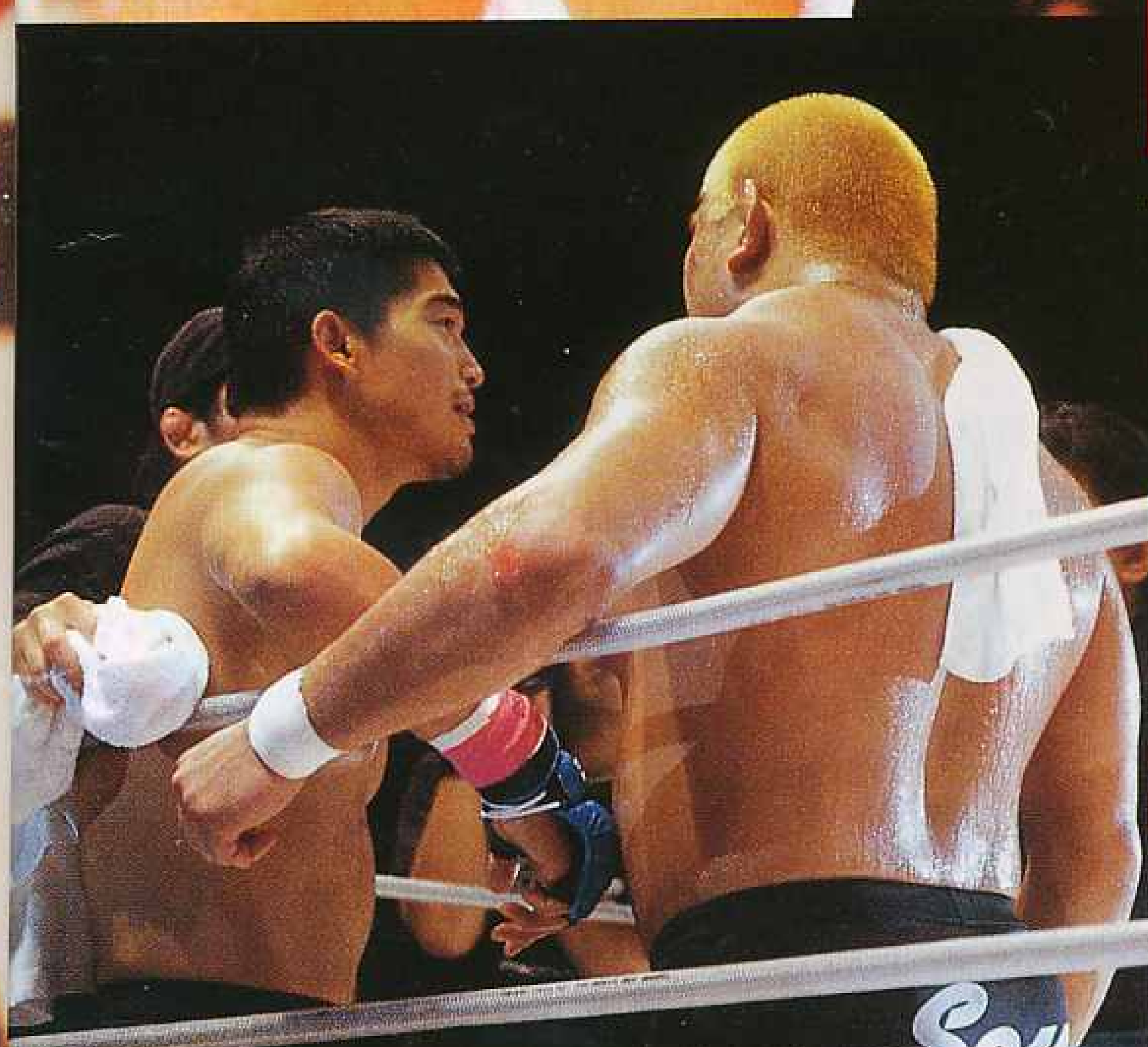
















「新プロレス」は七転八倒している

「ストロング・スタイル」の象徴は、かつては〝黒タイツ〟だった。

「黒タイツは本格派の象徴」というやつだ。

その〝本格派のプロレス〟が元気だった頃には、堂々と「プロレス」が「格闘技」を謳っても、どこも異を唱えようがないほどのエネルギーを放出しまくっていたものだ。

エネルギーとは何か？

それは今回は置いとこう。

その代わり、エネルギーを出しまくっていた主の名前をズバリとお教えしましょう。

主の名はズバリ言って、「アントニオ猪木」と言います。

元気ですかーーーッ!!

その主の産み落とした「新日本プロレス」のリングの風景は移り変わり、様々な変節や組織の変革を繰り返した。そして、いまだに〝ストロング・スタイル〟という御旗は掲げられ、〝黒タイツ〟たちは、ラリアットを打ちまくっている。

〝ストロング・スタイル〟とは「あのときのもの」なのにだ。

もしもいまの時代という中で、〝ストロング・スタイル〟を探すとすれば、それは『PRIDE』を代表とした「新プロレス」の中にしかない。『PRIDE』こそ、〝時代性の中でのストロング・スタイル〟なのである。

確かに『PRIDE』のリングで行われている「バーリ・トゥード」と「プロレス」は違う。

ならば、なぜプロレスラーは、『PRIDE』のリングに上がるのか。

なぜ、主がいた頃の「新日本プロレス」は、格闘技世界一、キング・オブ・スポーツの看板を掲げられたのだろうか。

エネルギーがあるからである。

では、エネルギーとは何か？



では、エネルギーとは何か？

やっぱりそれは今回は置いとこう。

プロレス界の盟主・新日本プロレスにとっては、『PRIDE』を代表とする流れを「新プロレス」などと捉えることはハタ迷惑に違いない。

しかし、閉じた物語よりも、広がりのある物語のほうが圧倒的に面白いはずだ。

そういえば、主がリングを降りた98年4月4日、東京ドームにこんなナレーションが流れた。

『思えば38年に及ぶプロレス人生、旅から旅への連続であり、そして猪木の精神も旅の連続であった。安住の地を嫌い、突き進んでは出口を求め、飛び出しては次なる場所に歩を進め、ドン底からの新日旗揚げ、世界王者とのストロング・マッチ、大物日本人対決、格闘技世界一決定戦、IWGP、巌流島、人質開放、国会に卍固め、魔性のスリーパー！ 決して人生に保険を掛けることなく、その刹那、刹那を燃やし続ければよいという生き様』

〝世界王者とのストロング・マッチ〟と、〝国会に卍固め〟では、明らかに単位が違うが、グルッと一周回れば同じものだ。

誰だったか偉い人が、「クリエイティブ」とは七転八倒だと言った。

いまの「プロレス」は、七転八倒しているか？

「新プロレス」は、七転八倒している。

「新プロレス」へと踏み出したプロレスラーもまた、七転八倒している。


思えば、主のプロレスは「クリエイティブ」そのものだった。そして、その精神は旅から旅への連続で、主はいまだに安住の地を求めず、旅を続けようとしている。

〝ストロング・スタイル〟とは、試合スタイルのことを指すのではない。おそらく「旅から旅へ連続する精神」のことを指すのである。

いきますかーーーーッ！

1・2・3、ンムフフフ！

←関連座談会はP42へ


咆吼三昧!!
21世紀に咲く悪の華

10.31佐竹雅昭戦実現？

小川直也

E-mailインタビュー



オイオイオイオイ！　冗談じゃねえよぉ。オーちゃんは佐竹とやるって言ってんのによぉ、やるのかやらないのか、どっちなんだよ！　締切に間に合わないじゃねえかよぉ。『PRIDE』さん、目を覚ましてくださ〜い。と、オーちゃん風に言ってみました。8・27『PRIDE.10』で村上一成が佐竹雅昭に敗れた直後、その佐竹と一触即発の事態に直面したオーちゃん。最近リングから遠ざかってることで、さすがにファンもシビレを切らし気味なわけだだが、久々に『PRIDE』のリングに上がるのか？　10・31大阪城ホールで、果たして「小川vs佐竹」というビッグ・カードは実現するのか？　締切直前では実現濃厚だが、まだ確定マークは打てない。ん〜、ここが月刊ペースの悲しさだが、その動向は、こうなったら本誌発売日翌日に出てる週刊誌、もしくは日々のニュースペーパーで確認してくれ！　それよりも、まずあくまでも茶化しに徹する、この悪の華ぶりを発揮したEメール・インタビューで、1ヶ月間楽しんでくれたまえ。UFO、続行ーーーッ!!



Q1 元気ですかーッ!?

A↓なんだよ、文句あっか!!

Q2 肩の負傷の治り具合はいかがですか？

A↓パーフェクト!!

Q3 オーちゃんのHPに「この夏といえば、今でも思い出すと興奮するね」と感想が書かれていた、サザンの茅ケ崎ライブへのゲスト出演。なにに興奮して、なにが凄いと感じたのか、もう少し詳しく教えてください。

A↓昼間（といっても夕方だけど）の、それも野外で、自分の目の前全てが人、人、人の海。プロレスの会場とはひと味違う、あの熱気、歓声。大好きなサザンの地元凱旋ライブというそれこそ歴史的なオープニングアクトとして出演できて、これが興奮せずにいられますか!!　また、眠れなくなっちゃうよ。

Q4 日刊スポーツの競馬予想欄「最強の一発」が再開されましたが、戦績はどうですか？

A↓再開してまだ2回目。これから、これから。

Q 5
シドニー・オリンピックが開幕しましたが、日本柔道はメダルをいくつくらい取れると思いますか？

A↓戦前の予想では、女子が2個、男子は1個。でも、初日の勢いをかって女子は3個、男子は3個。そうだ、吉田も組み合わせがいいから4個になるかな？

Q 6
いま練習はどんな方法で、どこで、なにを中心に行ってますか？

A↓柔道とキック。

Q 7
橋本真也選手が10・9東京ドームで藤波辰爾社長相手に復帰しますが、これについて一言お願いします。

A↓……。わーーー、すっごーーーい!!

Q 8
その日には、ファン待望の新日本と全日本の対抗戦も行われます。興味はありますか？

A↓……。えーーー、すっごーーーい!! 今世紀最後の大、大、大イベントじゃない!! これは、見逃せないね!!（これぐらいでいいですか？）

Q 13
佐竹選手と睨み合った



Q 9
さて、ここからは少し、より専門誌チックで率直なQをしていきたいと思います。8・27『PRIDE.10』では、村上一成選手が佐竹雅昭選手に敗れました。この一戦の感想をズバリとお聞かせください。

A↓練習不足。以上!!



Q 10
前のQと被るかもしれませんが、ズバリ言って、村上選手の敗因はなんだと思いますか？

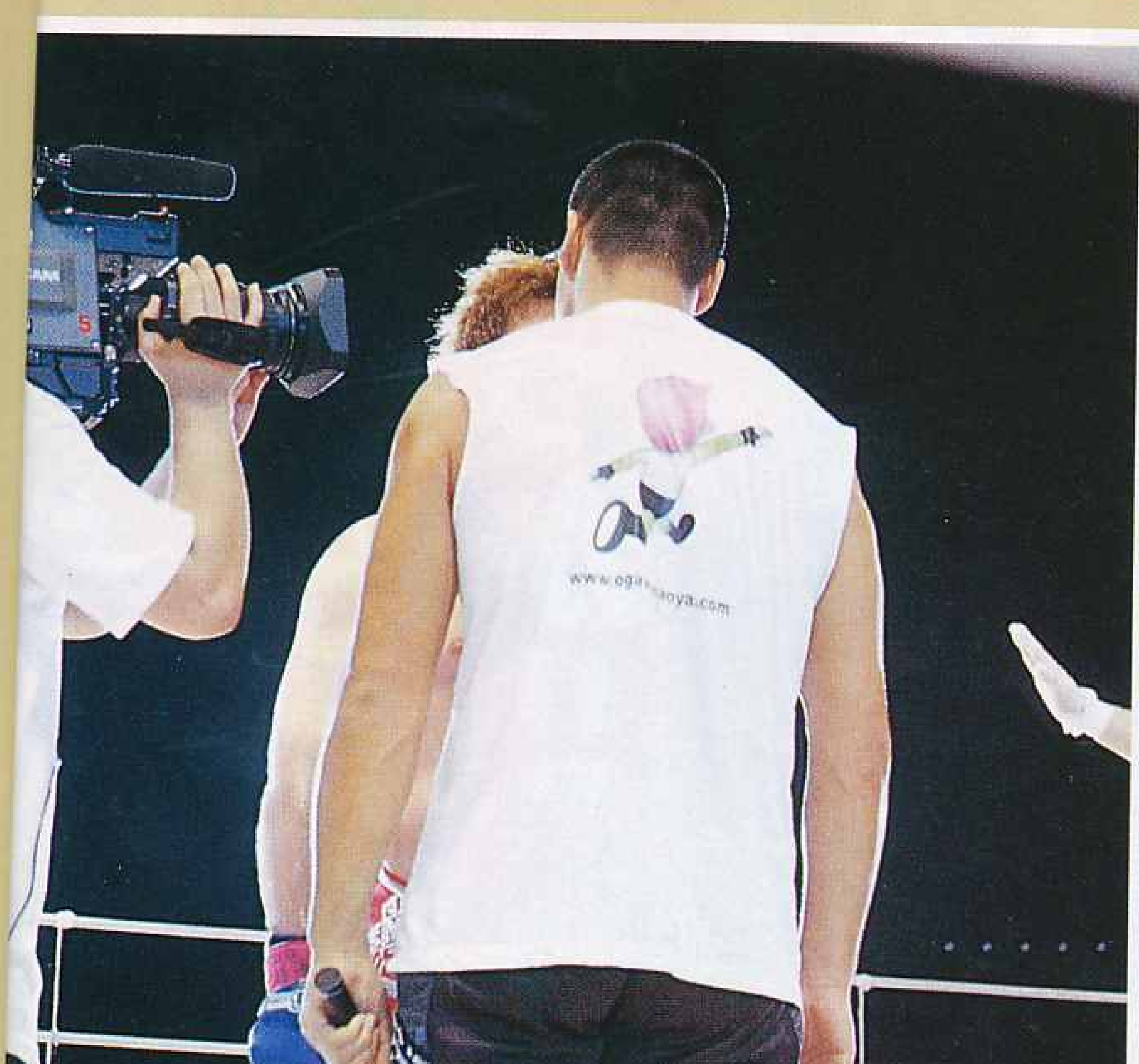
A↓うるせーな!! だ・か・ら! 練習不足って言ってんだろ!!

Q 11
村上選手と一番最近では何を話しましたか？

A↓「クマのプーさんの乗り物って楽しいねー」

Q 12
その村上選手の対戦相手、佐竹選手を試合後に挑発しました。睨み合ったときに、佐竹選手が「本気で来る気があるのか？」と言ったそうですが、あのときのやり取りを詳しく教えてください。

A↓「マジでやる気があるのか？」ってきたから、「あったりめーだろ!! この野郎!!」って確か言った。なんか、「エッ!!」て顔してたなー。



Q 13

佐竹選手と睨み合った際に、「小川はビビっていた」的な報道もチラホラされました。そういった報道に対して何かありますか。

A↓「えっ、おっ、おっ、俺が、さっ、さっ、佐竹にビビッてるって、だっ、だっ誰がそんなこと言ってるの。そっ、そっ、そんなこと、あっ、あっ、あるわけ……（その後、腰が抜けて声にならず）」実況担当は小川直也でしたー。解説の山口さん、どうぞーー。





小川直也E-mailインタビュー

Q 14

10・31『PRIDE.11』でその佐竹選手との対戦が取り沙汰されてますが、ズバリ言って出陣する気持ちはありますか?

A↓あとは、プライド側に聞けよ。



Q 15

佐竹選手と闘ったら勝つ自信はありますか?

A↓勝つ自信はないけど、殺す自信はある。

Q 16

『PRIDE』になかなか上がらない理由を読者にわかりやすく教えてください。

A↓俺に聞くな!!　ごきげんなプライドに聞け!!

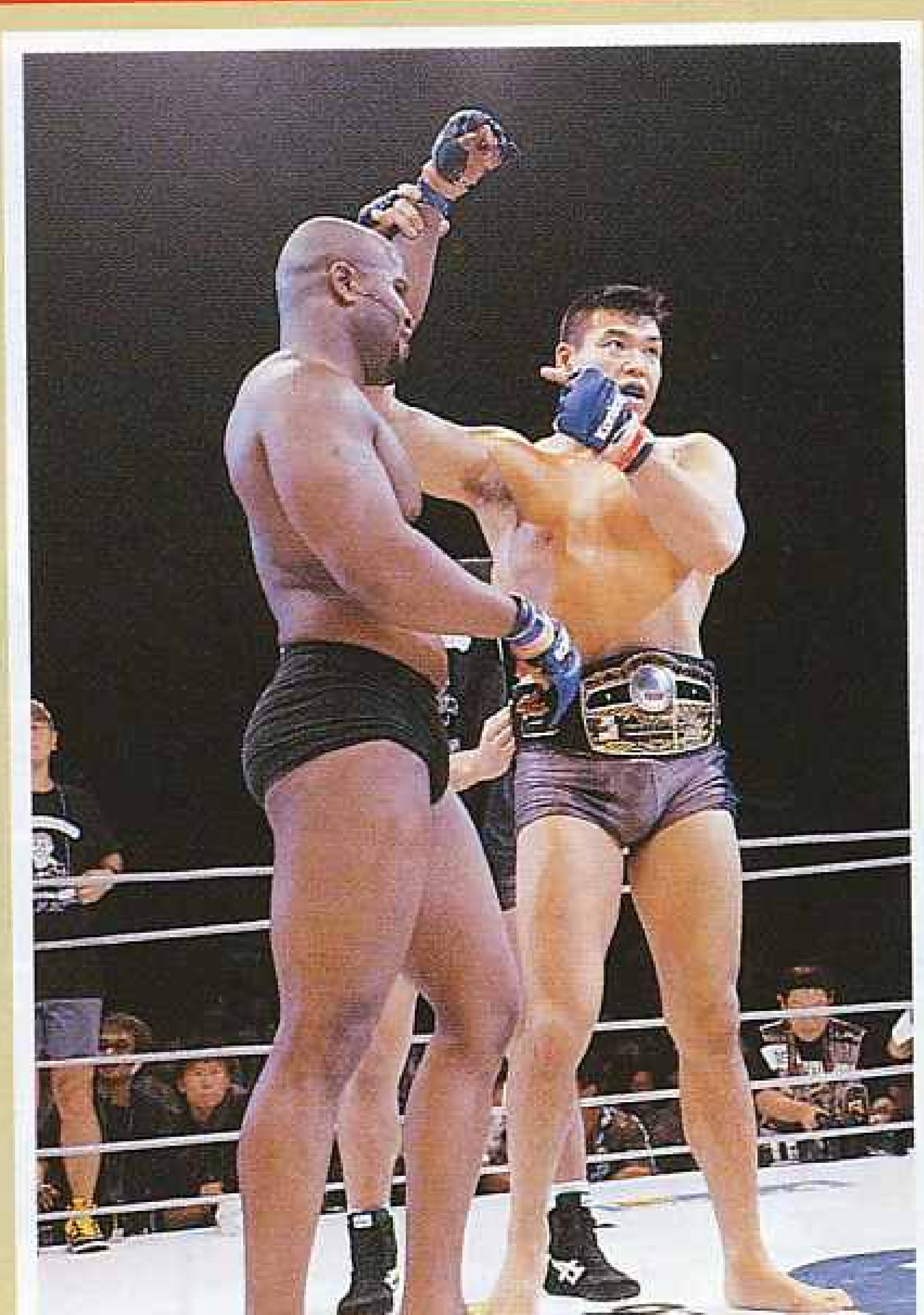
Q 17

『PRIDE』から逃げているという声もありますが、そういう声に対して、ここらでガツンと言い返してください。

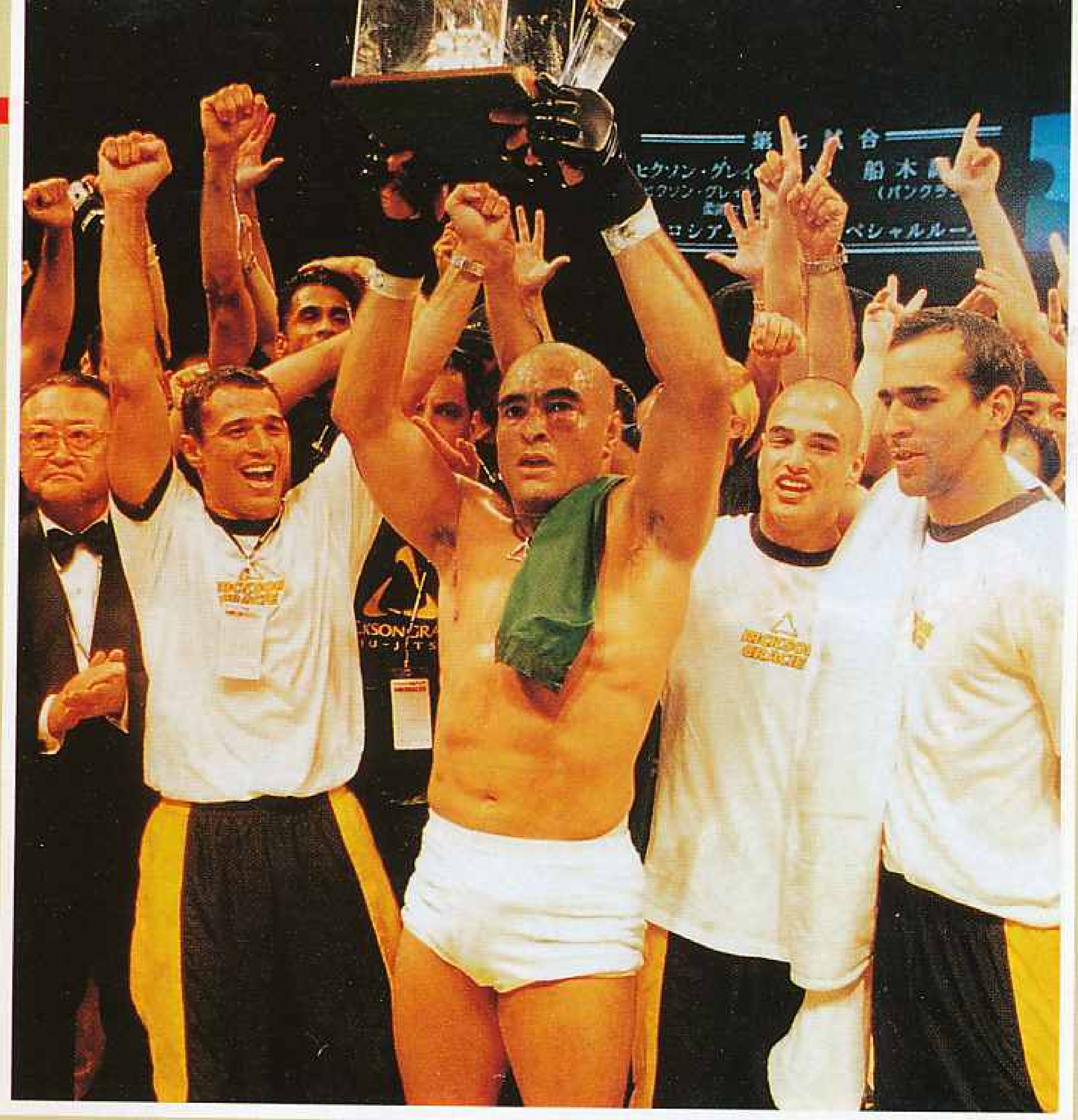
A↓へ～、逃げてんだ。そんなことばっか言ってるとホントに逃げちゃうぞ～。

Q 18

『PRIDE.10』では新日本の石澤常光選手がハイアン・グレイシーに秒殺されるという、ファンにとってはショッキングな事件が起こりました。この試合の感想を聞かせてください。見てない場合も、これによってどうマット界が変化していくのか、などでもいいですから、何かお答えください。



A↓うん、見てない。変化するもしないのも、ファン次第。



Q 19

当面の指標となるヒクソン戦も、なかなか具体的なものが出てきてない状況ですが、ヒクソンと契約交渉中の『コロシアム』側とは、折衝はあったのでしょうか?

A→そんなもん、俺が知るか!! 契約だとか、折衝だとか、うるせー!!

Q 20

桜庭和志選手がホイラー、ホイス、ヘンゾとグレイシーを三タテし、桜庭VSヒクソンを待望する声も大きくなっています。桜庭選手にヒクソン戦を譲る気はないですよね?

A→譲るって、どういうこと?

Q 21

高田延彦選手が『PRIDE.11』でイゴール・ボブチャンチンと対戦します。どちらが勝ちますか。

A→口も滑らか、顔もすっきり、鼻筋ピーンとなってきた高田選手。自信が顔に表れてんじゃないの、顔に。もちろん高田選手の勝利。

Q 22

かつて対戦を表明していた高田選手のことをいまはどう捉えていますか?

A→えっ、誰? もう一回言って。

Q 23

パンクラス・近藤有己選手の「ヒクソンとの対戦権を賭けて小川選手と闘いたい」という発言がありました。近藤選手、あるいはパンクラスについてはどう思ってますか?



A→な~んにもないね。

Q 24

ズバリ言って、ヒクソン戦は実現するのでしょうか。

A→うっるせーなー。しつこいんだよ!!



Q 25

①試合の間隔が開きすぎている。②今後の展望が見えない。③「なにかと難癖をつけて、試合をやりたくないだけなんじゃないか? テレビにばっか出やがって」といったような勘ぐりorやっかみ ④村上選手の敗戦――などなどの積み重ねが理由なのか、マスコミの報道、ファンの空気が「小川直也」に逆風気味に感じます。こういう状況をどう思いますか? または、こういう空気を吹き飛ばす発言をお願いします。

A↓オーラスで、一発ツモ!!裏ドラのってダブル役満!!

Q 26
ド素人のようなQをしますが、いま、ヒクソンの他に闘いたい相手はいますか?

A↓だから、佐竹って言えばいいんでしょ!!

Q 27
小川選手の頭の中では今後、マット界はどのように展開していくと思いますか。

A↓知らねー。

Q 28
今後プロレスラーを続けていく上で、大きなテーマはありますか?

A↓第1ステップが、共存共栄。第2ステップが、この業界自体を一つにまとめて、日本から、世界へ向かっていくこと。

Q 29
ここ最近で猪木さんとはどんな話をしましたか? 印象に残った話を聞かせてください。ダジャレでも構いません。



A↓（真面目な、ホントに真面目な話をしている最中に突然）
会長「今、ニューヨークでは、とうふパンが流行ってんだ。お前も、前に食っただろ?」
小川「はい。えっ、ホントですか?」
会長「それでな、そのパンと紅茶を一緒に食うのが一番いいんだ。」
小川「・・・?えっ、そっ、そうですか」
会長「ふふふ、わかんねーか? お前が一番好きなもんだよ」
小川「えっと、・・・・、え～と、なっなんですか?」
会長「パンティー!! パンとティーで、パンティー。ダーッハッハッハー!!」
小川「えっ、あっ、アッハハハ」



Q 30
最近やっていて一番楽しいことはなんですか?

A↓練習。

Q 31
ところで、UFOの自主興行はいつ行われるのでしょうか?

A↓心配すんな!! 九回二死での逆転満塁サヨナラホームランだから。ノープロブレム。



えっ!? 焼鳥屋でファイヤー!?

っていうか何それ?

夢の越境対談が実現!!

神奈川県の猿島でスイカ売りのオヤジをやります(笑)

40歳になっても『PRIDE,45』とかで現役で闘いたいですね

世界に誇る「新プロレスラー」同士のトークバトルがJ-SKY SPORTSの番組で実現!

世界のTK
髙阪剛 × 桜庭和志
ミドル級世界最強

構成／坂井ノブ　撮影／森鷹博　取材協力／Jスカイスポーツ

格闘ロマン
OLYMPIA 2000

プロレス&格闘技専門誌では本誌独占！
世界に誇る超豪華対談をお届けします！

どーですかっ、この顔合わせ！ かたやホイラー、ホイス、ヘンゾとグレイシー一族を3人連続で撃破し、いまやミドル級世界最強の称号を欲しいままにする桜庭和志。もう一方はUFCやリングスを舞台に世界で活躍する高阪〝TK〟剛。この2人の凄玉の対談が、なぜか東京・四谷の焼鳥屋さんで実現してしまったのだ。それにしてもこの2人、なんか同じ匂いがしませんか？ ドえらいことばっかりやって、世界的に高い評価を得ているのに、居酒屋が似合うんだから最高にカッコいい男たちです

で、「焼鳥屋でファイヤー！」などと、威勢のいいタイトルを付けてはみたものの、早速「なんのことだかワケがわからん！」というお叱りが読者の皆さんから飛んできそうなので、ここでしっかり説明させていただくとしよう。

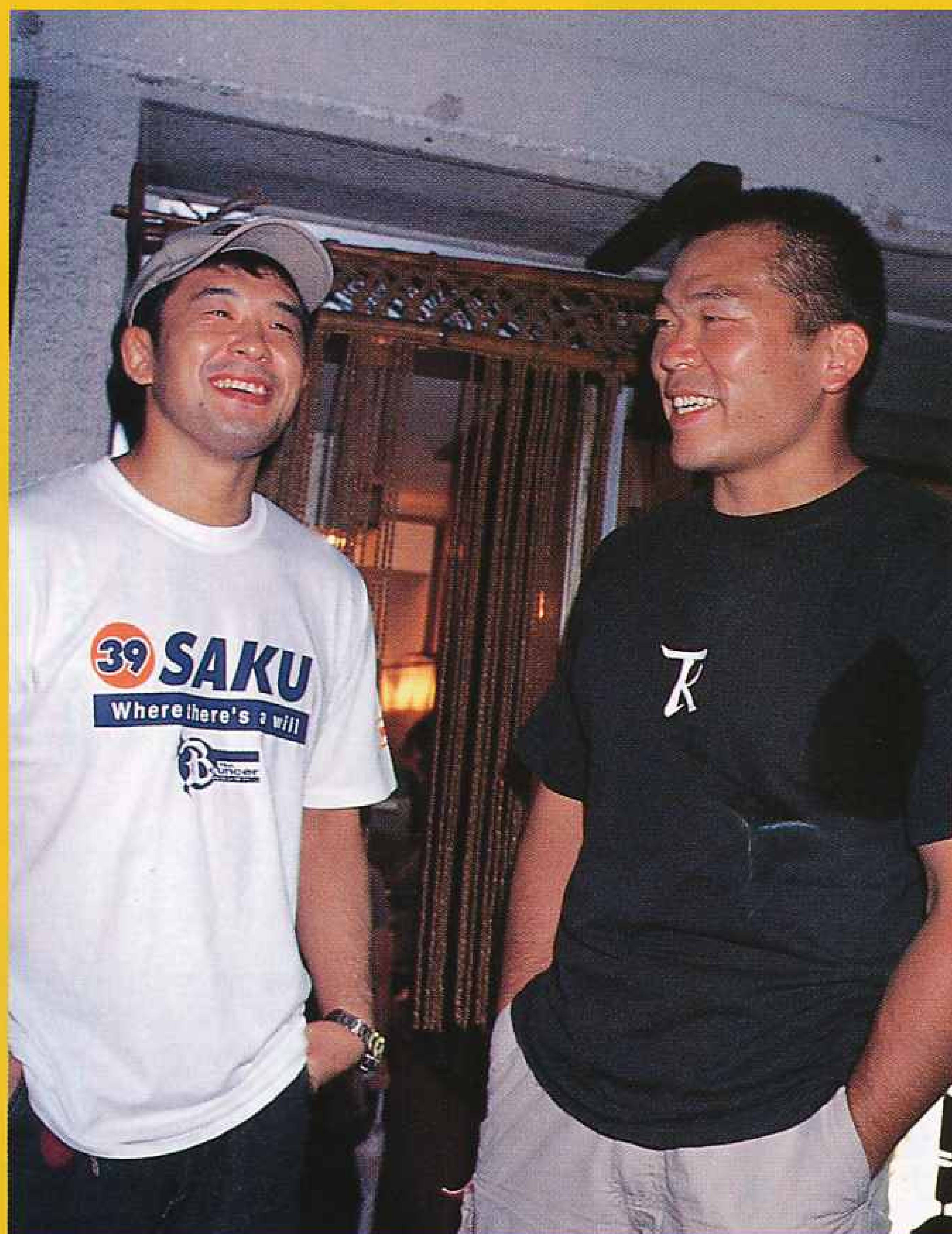
この番組の収録が行われたのは9月6日。WWFを放送している『Jスカイスポーツ』（以下、『Jスカイ』）が放つ秋の新番組『ワールド・ファイティング』（詳しい番組内容は下の囲み記事を参照）のオープニング企画として、いまや世界に誇る日本格闘技界の〝顔〟となったサクとTKのドリーム対談が実現したのだ！

残念ながら、その放送はすでに終了してしまっているために見ることは出来ないが、今回はその中でも特に面白かった部分を本誌の読者だけにこっそりとお教えします。サクとTKの対談は、過去に他誌で一度行われているが、今回は酒ありの無礼講バージョン。しかも司会は浅草キッド！ 面白くならないはずがない超強力なメンツである。ちなみにサクとTKの当人同士は「近いうちに飲みに行きましょう」と話していたそうだがなかなか実現していなかったときに、この企画の話が来たらしい。

エッ？ なんでその収録現場に、プロレス&格闘技専門誌では『紙プロ』だけが潜入できたのかって？

じつは、この番組で（敏腕）広報を担当しているM氏には、本誌がWWFの企画を進めるにあたって何度も窓口となっていただいており、そのつながりで「『紙プロ』さん、取材に来ませんか？」という流れになったのだ。そこで僕が「行く！ 行く！ 行きます！ 行きたい！ 私を現場に連れてって！」と、ふたつ返事どころか4つも5つも返事をしたら、OKが出たというわけだ。格闘技からエンターテイメントまで、あらゆるジャンルを幅広く、深く網羅する本誌だからこそ活字化出来たといえるだろう（かなり自画自賛）。という冗談（なのか？）はさておき、居酒屋でこんな豪華な対談を企画してしまう『Jスカイ』に拍手！ VIVA！ 『J スカイ』！ ブラボーだ！

と、いうわけで、お待ちかねの対談を次のページからさっそく読んで頂きましょう！



右■こうさか・つよし。昭和45年3月6日、滋賀県草津市出身の30歳。リングス・ジャパン所属だが現在はシアトル在住。　左■さくらば・かずし。昭和44年7月14日、秋田県南秋田郡出身の31歳。高田道場所属。『ＰＲＩＤＥ』を舞台に大活躍中。世界にその名を轟かせている。

松井大二郎、二度目のアメリカ遠征速報!!

9月16日、前回と同じ会場で第5回『KingoftheCage』が開催され、6月に続いて松井大二郎が出場した。対戦相手は『ＰＲＩＤＥ．３』でグッドリッジにボコられまくって、ＴＫＯ負けを喫したアミールだ。

上になられたまま何もできなかった前回と比べ、今回は松井も果敢に闘い、積極的にタックルしたり、上になられた状態でも下からパンチや蹴りを繰り出した。

金網マッチでの戦い方も身につけ、明らかに前回よりいい試合内容であったものの、上になられていた時間が長く、劣勢は否めなかった。結果は３Ｒフルに闘っての判定負け。

試合後、判定に納得できない松井が、主催者側に「何で負けなんだ？」と詰め寄っていた。松井のこの一戦に賭けていた意気込みは試合後のコメントにもにじみ出ていた。この詳報は次号でお伝えします！

●

松井の試合後のコメント■「がんばりが報われないというか……。今日は勝たなきゃいけない試合だったのに……。悔しいっていうか、情けないっていうか……」

●

松井のセコンドについたリコ・ロドリゲスのコメント■「相手のパンチが見えていないのでは、と思えた。パンチを受ける練習をすれば、もっと強くなる」

●

アミールの試合後のコメント■「松井は勇敢な選手。敬意を表するとともに闘えたことを誇りに思う」

リポート　本誌アメリカ通信員・山根由里

J・SKY SPORTSとは？

プロ野球、ヨーロッパ・サッカーリーグ、Ｊリーグ、国内・海外ラグビー、ウィンタースポーツ、全米・全英オープンゴルフ、モータースポーツなど、多彩なスポーツをお届けする、スカイパーフェクＴＶ！およびケーブルテレビ放送向けのスポーツ専門チャンネルです。いま話題のWWFも絶賛放送中！　加入手続きに関するお問い合わせは 下記の番号まで。
Ｊスカイスポーツ　カスタマーセンター　TEL.03・5500・3488 （9:30〜18:00）

9月よりスタートする新格闘技番組
『ワールド ファイティング』とは？

『J SKY SPORTS』が、この秋からスタートさせるプロレス＆格闘技番組――それが『ワールドファイティング』だ！その名の通り、世界各地から古今東西の試合映像をかき集め、ゲストに迎えた選手とともにその当時を振り返るという画期的な番組である。貴重なお蔵だし映像満載なのでビギナーからマニアまで必見だぞ！10月の放送は、剛竜馬（予定）をゲストに迎えて、80年代のカナダ・カルガリーに拠点を置いていた『スタンピード・レスリング』（ステュ・ハート主宰）の映像を２回に分けて大放出！　必見！
放送日■10月8日（日）、10月22日（日）　Ｊスカイスポーツ３にて、23：30〜放送開始！
（原則的に放送日は隔週木曜日の23：00〜24：00だが、変更の場合もあるので要注意！）

メチャクチャ手が合う2人のトーク! そのサワリをお届けします!!

桜庭和志×髙阪剛 トークバトル実況中継

レフェリーは浅草キッドの2人だ!!



サクとTKは、何度も一緒に練習をしている旧知の仲。いずれ、飛行機嫌いのサクもTKを訪ねてモーリス・スミスのジムがあるシアトルに行くことがあるかもしれない。浅草キッド（水道橋博士＆玉袋筋太郎）の2人はリングスも『PRIDE』も欠かさず観戦する大の総合格闘技ファン。話が盛り上がらないはずがない。

この世界的なファイター2人が対談するというのに、現場は最初から最後まで非常になごやかなムードだった。サクもTKも普段から肩の力は必要以上には入ってないリラックスしたキャラクターだから、まあそれも当然か。さらにビールを飲み、焼き鳥をつまみながら収録が行われたので、普段以上にくだけたいい感じ。

焼鳥屋というチョイスも抜群で、もしこれが、こじゃれたレストランやバーだったりしたら、ここまでいい雰囲気になったかどうか……どんなに強く有名になっても焼鳥屋が似合う男たち。じつに素敵じゃありませんか!

この対談の司会・浅草キッドは本誌読者にはもちろんおなじみのリングス＆『PRIDE』も含めたプロレス＆格闘技の大応援団長。わかりすぎるぐらい2人のことをわかっているキッドを相手に、サクもTKも伸び伸び話している印象を受けた。おかげで意外な初公開のエピソードも飛び出したゾ。

TV向けということもあり、両者には何度も取材をしている本誌では聞かないような質問ばかりだったので、逆に返ってくる答えも非常に新鮮だった。

そんなわけで、サクとTKの歴史的対談のオモロ部分を誌上公開だ!

さあ、いますぐ焼き鳥つまんで、ビールを片手に読め!

【お題 その1】

「桜庭選手に質問です。今まで闘った中で一番強かった相手は誰ですか（スパーリングも含む）?」

これはじつに興味深い。ご存知のように、髙田道場には藤田和之や佐竹雅昭、さらには和術慧舟會の小路晃や宇野薫、さらにMAキックの佐藤堅一らもトレーニングにやってきており、日本の格闘技界の重要な〝ヘソ〟となりつつある。いまやミドル級世界最強となったサクがそんなツワモノ達の中で感じた「強いヤツ」とは一体どんな男なのか!?

水道橋博士（以下、博士）　いきなり核心を突いた質問です! これはもったいないなぁ。本来なら、エンディングに聞くようなことですよ!

玉袋筋太郎（以下、玉袋）　じゃ、さっそく聞いてみましょう!

桜庭　（グランド状態で）下のポジションから強いのは高阪さんですね。

玉袋　高阪さんですか⁉

桜庭　せっかく押さえこんだと思ったら、下からコロッと返されるんですよ。せっかく上取ったと思ったのに、後から足が入ってきて引っ繰り返されたり。あれが、もう……腹立ちますよね（ニコニコ）。



髙田さん強いですよ アームロックとかガッチリ極まったら逃げられないです!

8・23リングス大阪大会 TKはノゲイラと激闘でヒザを負傷!!



セコンド・坂田の肩を借りて立ち上がったTK。こんな状態で、よく判定→ドローに持ち込んだものだ。このケガによって、9月30日リングスUSAトーナメント決勝も欠場することになった。復活は12月のKOK大阪大会だ!



ヒザの負傷で立つのもままならない状態に陥ってしまったTKはスタンドを避け、グランドで勝負を挑む。柔術王者のノゲイラは下のポジションからも関節を狙ってくるなど、TKを追い込む。TKもヒザ十字などで対抗。



WEFスーパーヘビー級王者アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ（ブラジル）と激突したTK。2R開始早々、タックルでコーナーに押し込まれたときに右ヒザの靭帯を負傷してしまった。

玉袋　ガハハハ！　ということは、2人の夢の対決がどこかで行なわれてるということですね？

博士　道場マッチが行なわれてるということじゃないですか？

玉袋　そのスパーリングはチケット売り出してほしいですよね。見たいなぁ〜。

博士　SWSの道場マッチより面白そうですね（笑）。他には誰かいませんか？

桜庭　力だったら、髙田（延彦）さんです。今までやった人の中で、力は一番強かったですね。極める力が凄いんですよ（笑）。

TK　ホント、アームロックとかガッシリ捕まれたら、逃げられないですよ。

桜庭　そうそう。アキレス腱固めされたら、破壊されますよ（笑）。

博士　腕力とか足力でいうと、髙田道場の髙田選手と、リングスのコピィロフ選手の伝説はよく聞きますよね。

玉袋　それが二大伝説ですか！　髙田選手とコピィロフ選手がイコールなんですか!?

博士　その2人は、とにかく力が強いんだって伝説ありますからね。

■技のTK！　力の高田！　素晴らしいじゃありませんか！　本誌NO．27掲載の「高田さんの体力はハンパじゃないですよ。関節やらせても別格ですよ。いまでも桜庭と髙田さんがやると、髙田さんの方が全然取るじゃないですか」というリングス金原弘光の発言を裏付けるようなサクの証言である。

【お題　その2】
「お二人に質問です。いま開発中の新技を教えて下さい」

おお、いい質問だ！　次なるサクの必殺技は本誌も凄く気になります。そして、TKが開発中の「総合の世界が一変する」新技は8月の大阪大会では不発に終わったようだが、それは一体何なのか？

博士　お二人とも新しい形のテクニックを格闘技界に持ち込んでるっていう意味では、非常に画期的な存在ですよね。

玉袋　TKシザースは、世界的に通用しましたしね。

TK　へっへっへっ（笑）。そうですかぁ？　あれはでもハッキリ言って、技じゃないんですけどね。

博士　いやだって、「TKシザーズは『現代用語の基礎知識』にも載せろ」って俺は言いましたよ。

TK　じゃあ今度『知恵蔵』に載せましょうか（笑）。

玉袋　桜庭選手はアイ〜ンチョップも炎のコマも開発してますから。そろそろ世界の髙阪さんにも、新技を考えて頂きたいですね！

TK　ちょうどいま、開発中の技があるんですよ。モーリス（スミス）との練習で試してみたんですけど、今んところ完成度は50％くらいですかね？　何か掴みつつあるんですけどね。

玉袋　いやぁ、そりゃ楽しみだ。あとは、桜庭選手と髙阪選手が二人で新技を共同開発したらどうですか？

博士　それはいいじゃないですか。藤子不二雄みたいで（笑）。

玉袋　いい技が出来そうですよね。桜庭さんは「次はこの技をやってみようかな？」っていうようなのは、何かありますか？

桜庭　空中殺法はやりたいですね（ニコニコ）。

玉袋　く、空中殺法ですかっ‼

博士　コーナーポストに登って飛ぶんですか？

桜庭　でも、登ったら反則になるんですよね。フライング・クロスチョップみたいなヤツなら出来ますけどね。

玉袋　ロープのリバウンドを使うのはOKなんですか？

桜庭　それはOKですね。（ボソッと）あと、セントーン。

玉袋　ガハハハハ！　セントーンもいきますか！

桜庭　でも、難しいですよね（ニコニコ）。

博士　雷電ドロップなら出来ますよ。

桜庭　どんな技ですか？

玉袋　サンダー杉山さんが開発した技で、相手が寝てるところに、ただドーンってケツで乗っかるだけです（笑）。

■雷電ドロップからのマウント・ポジションなんていう奇跡の連係プレーが次の大会からサクのレパートリーのひとつに加わっているかもしれない。じつに夢が広がるじゃありませんか！　そういえば、サンダー杉山もアマレス出身、ひょっとしたらVTで雷電ドロップを使えないこともないか!?　バーリ・トゥードでモンゴリアン・チョップを復活させたサクのこと、きっと雷電ドロップも復活させてくれるだろう。サクとTKが、シアトルでモーリス・スミスを相手に雷電ドロップの練習したりなんかしたら……ああ、幻想はどこまでも膨らみまくる！



新技は考えてますよ
フライング・クロスチョップをやってみたいです

【お題　その3】
「それぞれの師匠について、忌憚のない意見を述べて下さい」

つまり前田日明と高田延彦のことで

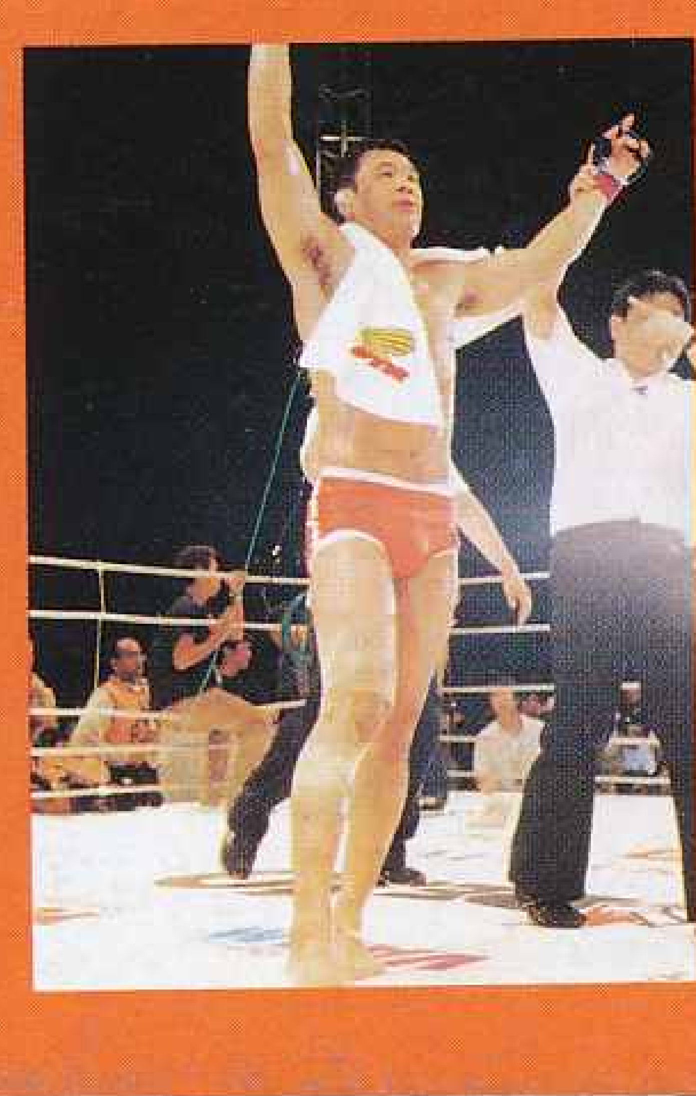
8・27PRIDE10
サクはヘンゾ・グレイシーにキッチリ完勝!!



「しあわせチョップ」「サクラバード・キック」「猪木vsアリ状態からのローキック」など、サクのオリジナル・レパートリーはかなり研究されていたため、途中まではなかなかペースを掴めなかったが……。



残り1分を切ってからバックを取らせて得意の型にはまると、残り17秒で電光石火の腕固め炸裂！　「ジョリ」っという音とともに、ヘンゾのヒジは不自然な角度で曲がったという。怖ろしすぎる！



ホイラー、ホイスに続いてヘンゾにも完勝だ！　もはやミドル級では世界最強か!?　次回、『PRIDE．11』では石澤常光をKOで破ったハイアン・グレイシーとの対戦が噂されているが……果たして実現するか!?

ある。これまた非常に興味深い質問だ！ 今年も、金原（弘光）選手の結婚式で顔を合わせたそうだが……この2人といえば、やはり酒にまつわるエピソードだろう！ それぞれ団体を支える立場となったサクとTKから見た前田と高田とは……？

玉袋 まず髙阪選手はどうですか？
TK そうですねぇ……自分がこんなこと言うのも何なんですけど、前田さんは物凄く純な方なんですよね。自分が今まで見てきたスポーツ選手、格闘技選手の中で一番ピュアな方ですね。ホントに純粋です。だからとにかくウソがつけないし、ウソが嫌いな方なんですよ。それは凄い当たり前のことなんですけど、それが出来る人ってなかなかいないですよね。
博士 いろんな意味でムキ出しですよね。
TK これはもう時効なんで、話してもいいと思うんですけど……昔、前田さんがブラジルに釣りの番組を撮りに行ったことがあるんですよ。その時、前田さんの付き人だったんで自分も一緒に行ったんですけど、「向こうで練習もしたい」と、前田さんがおっしゃるんですよ（笑）。だから「練習の道具を持ってきてくれ」と。「わかりました。何が必要ですか？」って聞いたんですけど、そのときの答えが「練習用のスパッツとシューズ、あとダンベル！」って。
玉袋 ダッ、ダンベルゥ〜!!
TK 自分もビックリして「ダンベルですか!? 何キロ必要ですか？」って聞いたら、「20キロや」と。「じゃあ片方10キロづつで、合計20キロですか？」って聞いたんですけどね、違うんですよ、これが（笑）。「いや、片方20キロ！」って（笑）。
玉袋 ガハハハハ！ 40キロのダンベルをブラジルに持ってってたんだ（笑）。
TK ええ（笑）。だから自分はスーツケースの中に20キロのダンベル二つしのばせて、成田から出発したんです。でも、空港ってバックのチェックがあるじゃないですか？ 「引っかかるかな」と思ってたら案の定「明らかに不審なものが二つある」って言われました（笑）。
玉袋 ガハハハ！ X線でチェックするんですよね。
TK カタカナの「エ」の形をしたものが写ってて、「これは何ですか？」って聞かれたんですけど、「あっ、ダンベルです」「ダンベルって何ですか？」「ダンベルとはこういうモノで……」って説明しましたよ（笑）。そしたら、納得してくれたんですけどね。「わかりました。でもあんまり重いんで、別途料金頂きます」って、ペタッと何か貼られて（笑）。
玉袋 ガハハハハ！ それはムチャクチャ大変ですねぇ。
TK そんな重い荷物を持って、プラス前田さんのスーツケースも持って。しかもブラジルでそれを使ってる形跡が全然ないんですよ。結局、ドアの重しにしか使ってなかったみたいですけど（笑）。

桜庭和志×髙阪剛 トークバトル実況中継



こないだの金原さんの結婚式ではリングスと高田道場が争うように飲んでましたよ（サク）ああっ、自分もそれ行きたかった！（TK）

玉袋 ガハハハ！ それでは桜庭選手の師匠はどうでしょうか？
桜庭 ……（しばらく黙り込む）。
玉袋 結構考えますね！
博士 いいですよ。その長考するところがいいんですから。そこに風情があるんですよ。
桜庭 （じーっとうつむいて考え込む）……。
博士 あのぉ、すいません。あんまり沈黙が長いと、逆に誤解されますよ（笑）。
玉袋 高田さんの付き人はどれくらいやってたんですか？
桜庭 どれくらいやったかわかんないくらい、長かったですね。僕がUインターに入ったときには社長だったんで、口も開けないような感じで。（ボソッと）今も社長なんで口開けない……。以前ほどではないですけどね。いろいろ言えるようになってますけど。今でも「オレって、しゃべりづらい？」とか聞かれるんですよ（ニコニコ）。
玉袋 逆に高田さんのほうから、気を使ってくれるんですか？
桜庭 はい。でも、「前ほどじゃないです」とか答えて（ニコニコ）。
博士 ハハハハ！ でも、酒の話は凄いですけどね。高田選手の酒豪ぶりも聞くし、桜庭選手も酒癖の悪さはかなり有名ですからね。
桜庭 酔っぱらったらみんないろいろやりますからね。
博士 リングスも酒にまつわる話は凄いですよね。
玉袋 「リングスが飲み会開催！ この日は六本木を歩くな」って号外が格闘技界では出回るらしいですよ（笑）。「六本木のアマンド前をウロウロするの禁止！」とか（笑）。
TK でも、何年か前の忘年会で事務所から選手全員にホントに注意書き送られてきたことがありますよ（笑）。何かなと思ったら、そこに項目が色々書いてあって、最後のところに「今年は大爆発禁止！」って（笑）。「小爆発を繰り返すようにしてください」って書いてあるんですよ。
博士 あんまりハジけるなと（笑）。
玉袋 ぜひとも打ち上げ団体対抗戦ってやってほしいなぁ。
桜庭 髙阪さんがアメリカ行ってる間に、金原（弘光）さんの結婚式があったんですけど、そのときは争って飲んでましたよ。
博士 誰と誰がですか？
桜庭 もう、みんなで。リングスと高田道場で争うように（ニコニコ）。
玉袋 おおぉ〜、いいなぁ！
TK ああっ！ 自分もそれはすっごい行きたかったんですよ（笑）。そのためだったら、5、6万円払ってシアトルから帰ってもいいかなとか思いましたから。
玉袋 その時は大丈夫でした？
桜庭 ボクはそのときはセーブして飲んでたから（ニコニコ）。でも、後で誰かが言ってましたね。「店が破壊されてるところがありました」って（笑）。
TK トイレのドアが壊れてたんですよね？
桜庭 そうそうそう（笑）。

TK　リングスも飲み会があると、なぜか必ずトイレのドアが壊れるんですよ。

玉袋　な～んで、そうなっちゃうんですかね？

TK　要は自分で鍵をかけてるのに、鍵かけてるのを忘れちゃって「ドア開かねえぞ、このヤロー！」って壊しちゃうみたいで（笑）。

博士　西部警察の石原軍団が通るようなもんだからね。戦車が通ってるようなもんだから（笑）。

■リングスと高田道場の飲み比べ！その現場は是非とも見てみたい！見た過ぎる！　リングスも、UWFインター（キングダム）も、昭和・新日から脈々と受け継がれる「酒の席での豪快なエピソード」には事欠かない団体だ。バーリ・トゥードを中心とした、いわゆる〝新プロレス〟になっても、こうした愉快なエピソードだけは今後もしっかり残して頂きたい限りである。

【お題　その4】「お二人に聞きます。10年後のあなたは何をしていますか？」

最後の質問になってしまったが、この世紀末マット界を支える2人の近未来を予想してみたのだが、やっぱ凄いぞ、この2人！　考えてることがハンパじゃない！

博士　10年後ということは、お互い40歳ですか。

玉袋　40歳と言ったら格闘家の人は殆どが引退してる年でもありますね。

桜庭　ボクは出来ればやっていたいなと思いますけど。

博士　その頃は『PRIDE．45』ぐらいですかね？

桜庭　なってるでしょう（ニコニコ）。

TK　年とったら、とったなりの試合のやり方がありますからね。同じような試合のやり方やったってダメなんですけどね。

博士　ということは、高阪さんも40歳で現役を考えてる？

TK　自分はね、神奈川県の猿島でスイカ売りのオヤジをやります（キッパリ）。

博士　ハハハハ、また具体的ですねぇ。

玉袋　なぜスイカ売りを？

TK　自分、自給自足の生活に凄い憧れてるんですよね。もしくはカニ取って暮らすっていうのもいいかなぁって。

玉袋　カニ食い猿生活ですか（笑）。じゃあ現役か否かっていうところで言うと？

TK　自給自足でも、試合はやりたいですね（笑）。

玉袋　総合格闘技のシニア・リーグつくるっていう道もあるんですよね。

TK　ペースメーカー付けながら試合したり（笑）。

玉袋　そうそう。だから40代は40代のリーグがあってもいいですもんね。桜庭選手は最近、グレイシーファミリーを連破したじゃないですか？　桜庭選手が40歳くらいになって、あの人たちの倅とかが大きくなったときに「ちょっと闘ってくれよ！」って来たらどうします？

博士　いや～、そしたら桜庭選手の息子が出るんですよ！

玉袋　あっ、桜庭ジュニアが出てくるわけですか？　もし、桜庭選手が40歳だったら？

桜庭　長男が12歳ですよ。

博士　そして次男が10歳ですかね。

玉袋　その頃には高阪剛子（つよこ）も誕生してますかね？

博士　高阪さんはその頃結婚してるかどうかもわかんない（笑）。

玉袋　女の子は産んじゃダメですよ。

桜庭　それは、かわいそう（笑）。

TK　へっへっへっ、自分にそっくりだったら不憫でならないですよね（笑）。

玉袋　ガハハハハ！　格闘家を辞めて俳優になるような人もいるじゃないですか？　海を見ながら俳優になりたいっていう人もいるくらいですからね。

TK　へっへっへっ。

桜庭　（ニコニコ）。

博士　おふたりとも俳優志望は全くないんじゃないですか？

TK　まあ、流れでそうなりゃいいですけどね（笑）。

桜庭　ボクはムリです（ニコニコ）。

玉袋　それよりお笑いの方にもぜひ来てください！

博士　たけし軍団入りっていうのはどうですか？

TK　そしたら、『東スポ』で一面取れるじゃないですか⁉

博士　もし〝世界のTK〟が新弟子修業なんてやったら、最高ですよ！

■最初から最後まで笑いが絶えず、アッという間に時間は過ぎ去っていった。もちろん司会の浅草キッドのリードによるところは大きいが、サクもTKもゼニの取れるトークやただずまいでこうしたトーク番組には向いていると思う。

掲載は出来なかったが、現場では最近話題の某選手に関する話題などでメチャクチャ盛り上がったということも付け加えて置こう。

総合格闘技の現在を支える両者もいまや30歳台――まだ当分は全盛期が続くだろうが、これからはサクやTKに憧れて総合格闘技の世界に入ってくる人も多くなるはず。そういうことを考えると、こうした露出はこれからもどんどんすべきだろう。

2人ともトークはイケてるだけにリング内同様にリング外の活躍も期待したい。

【00年9月6日、東京・四谷『串友』にて収録】

この日の出演者の寄せ書きサイン色紙を2名様にプレゼント!!



サク、TK、浅草キッドの寄せ書きサイン色紙だ！　欲し過ぎる！
応募方法はP159参照！

サクラバグッズ続々登場!! ドドーンと読者プレゼント!!



3名様

グレイシーも唖然！
サクのにこにこストラップ
世界の〝新プロレスラー〟、桜庭和志に今度は携帯ストラップが登場！　¥1000（税抜）【お問い合せ■高田道場TEL.03・5749・5030】



2名様

グレイシーも驚愕！
サクマシーンキーホルダー
あの桜庭マスクを完全かつ精密に再現！　あの感動がキーホルダーとなってあなたの手元に！　¥800（税抜）【お問い合せ■インスパイアTEL.03・5670・9283】





2名様

インスパイア特性
桜庭和志フィギュア
GIジョーのボディを使用＆Tシャツは本物と同じ工場で染め上げられた超こだわりの逸品！　¥10000（税抜）

●すべて応募方法はP159参照

格闘ロマン OLYMPIA 2000

パンチ有り、膠着ナシ、猪木アリ！で、夏の暑さにも負けず大爆発した『PRIDE.10』。興奮冷めやらぬうちに10・31『PRIDE.11』大阪城ホール大会が急接近！ 今回の目玉は何といっても、ホイス戦以来、約9ヶ月振りの『PRIDE』登場となる高田延彦。バーリ・トゥードは、これが最後との噂も流れる高田の勇姿をその目に焼き付けろ！

なぜ『PRIDE』復帰戦の相手に “戦慄の顔面ハカイダー” イゴール・ボブチャンチン を選んだのか？



目の前にある一番高く険しい山に挑む！ それが高田にとっての『PRIDE』である！



言葉を慎重に選びながらコメントしていた、この日の高田。『猪木さんが『高田はプロレスをやった方がいい』と言ってましたが？』との記者からの質問には不機嫌この上なし。しかしボブチャンチン戦への意気込みはすこぶる伝わってきた。ノー問題！

なきファイティングスピリットに感服することこの上なし！

“格闘登山家”高田延彦は『ＰＲＩＤＥ』での進退をかけた一戦の相手として、またしても険しすぎる山を選択した。

しかしながら、高田のこのファイティングスピリットこそが、現在の『ＰＲＩＤＥ』ブームの土台を作ったということを忘れていないだろうか？ 桜庭和志も藤田和之も、そして石澤常光、さらにはグレイシー一族も、すべて高田が切り開いてきた道を歩んでいると言えるのだ。

高田は果たして山の頂までたどり着くことができるのか？ それとも見るも無惨に顔面を破壊され、バーリ・トゥード界からの撤退を余儀なくされてしまうのか？ その答えが出るのは、泣いても笑っても、あと１ヶ月である！

全プロレスファン、そして『ＰＲＩＤＥ』ファンよ。いまこそ、その多大なる功績を称え、高田延彦を心の底から応援しようではないか？ この闘いを見たら20世紀も終わってノー問題！ 立ち向かえノブ！ 最終兵器を破壊せよ!!

10・31『PRIDE.11』大阪城ホール

高田延彦は難攻不落の



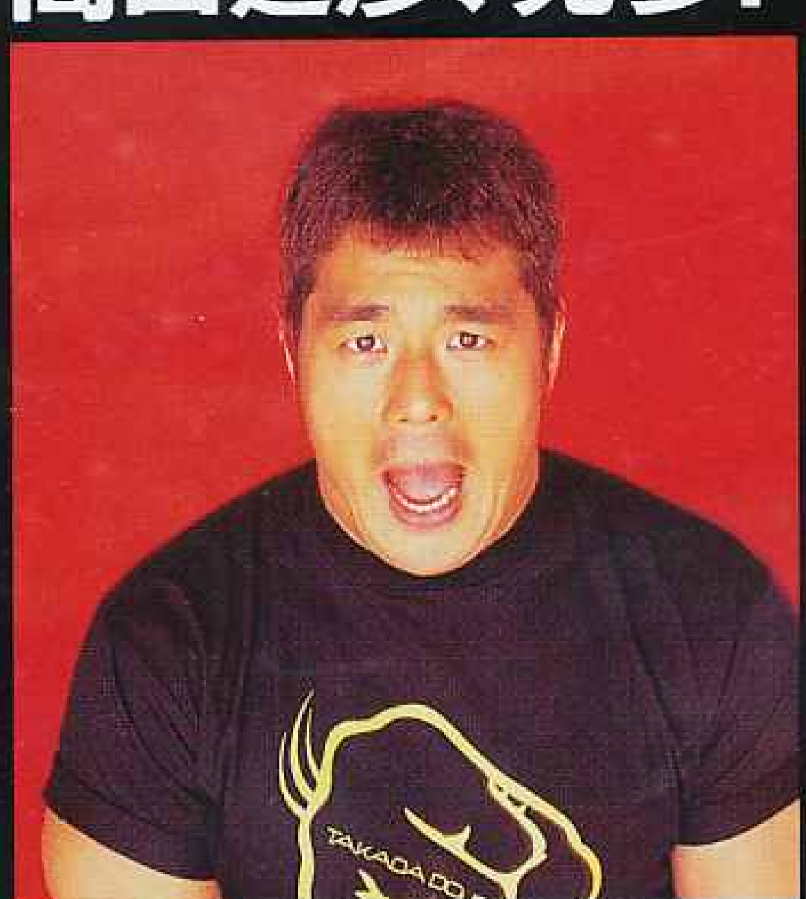
2000年10月31日（火）
『PRIDE.11』
大阪城ホール
開場18:00　開始:19:00

高田延彦vsイゴール・ボブチャンチン
谷津嘉章vsゲーリー・グッドリッジ
【出場予定選手】桜庭和志、小路晃、アレクサンダー大塚、佐竹雅昭、マーク・ケアー、ギルバート・アイブルその他、好カード続出！
★高田延彦復活シート、桜庭和志応援シート（12.000円　応援グッズ付）をドリームステージ（TEL. 03-5775-5770）のみで販売！

【全てに関するお問い合せ】
株式会社ドリームステージエンターテインメント
TEL.03-5775-5700

株式会社ステージア
TEL.06-6344-4441

9・30（土）『紙プロ』主催『青空プロレス道場』に高田延彦、見参！



4シーズン目を迎えた『紙プロ』主催『青空プロレス道場』も今回でラスト。最後を飾るにふさわしい超ビッグな講師は高田延彦先生！　ボブチャンチン戦を1ヶ月後に控えた高田延彦のナマの声を聞けるのは『青空プロレス道場』だけ！ ねっ。【お問い合せ】池袋コミュニティ・カレッジ ☎03-5992-0496　詳しくはP127参照！

北の最終兵器に完勝この上なし！その言葉を待ってるぜ！

いつかいつかと待ちわびてきた"高田延彦の季節"が遂に到来！　様々な情報が飛び交ったが、高田が選んだのは、やはり『ＰＲＩＤＥ』のリングであった。

1・30東京ドームでのホイス・グレイシー戦以来、約9ヶ月振りとなる試合に挑む高田。その相手は、"戦慄の顔面ハカイダー"イゴール・ボブチャンチン。

8・27『ＰＲＩＤＥ.10』では、大和魂が爆発したエンセン井上との真っ向からの壮絶な殴り合いを制したボブチャンチン。ボコボコにされたエンセンの顔がオーロラビジョンに写し出される度に、うだる熱さの西武ドームを一気に冷やしてみせたのは記憶に新しいところだ。

『ＰＲＩＤＥ.11』決定カード一番乗りとして、9月13日に高田対ボブチャンチンの対戦発表記者会見が、高田道場で行われた。『紙プロ』でも最近はご無沙汰気味だったので、高田のナマの声をいつもより多めにお届けしよう。ねっ！

会見開始早々、コメントを求められた高田は「え～、闘うことになりましたんで、楽しみにしてください。以上！」

と、会見を秒殺する勢いで周囲を和ませると、続けて「それしか言いようがないじゃん！　あんまり結果出してないから期待持たせるのはね。冬眠しすぎたので、当日までのお楽しみです。以上！」

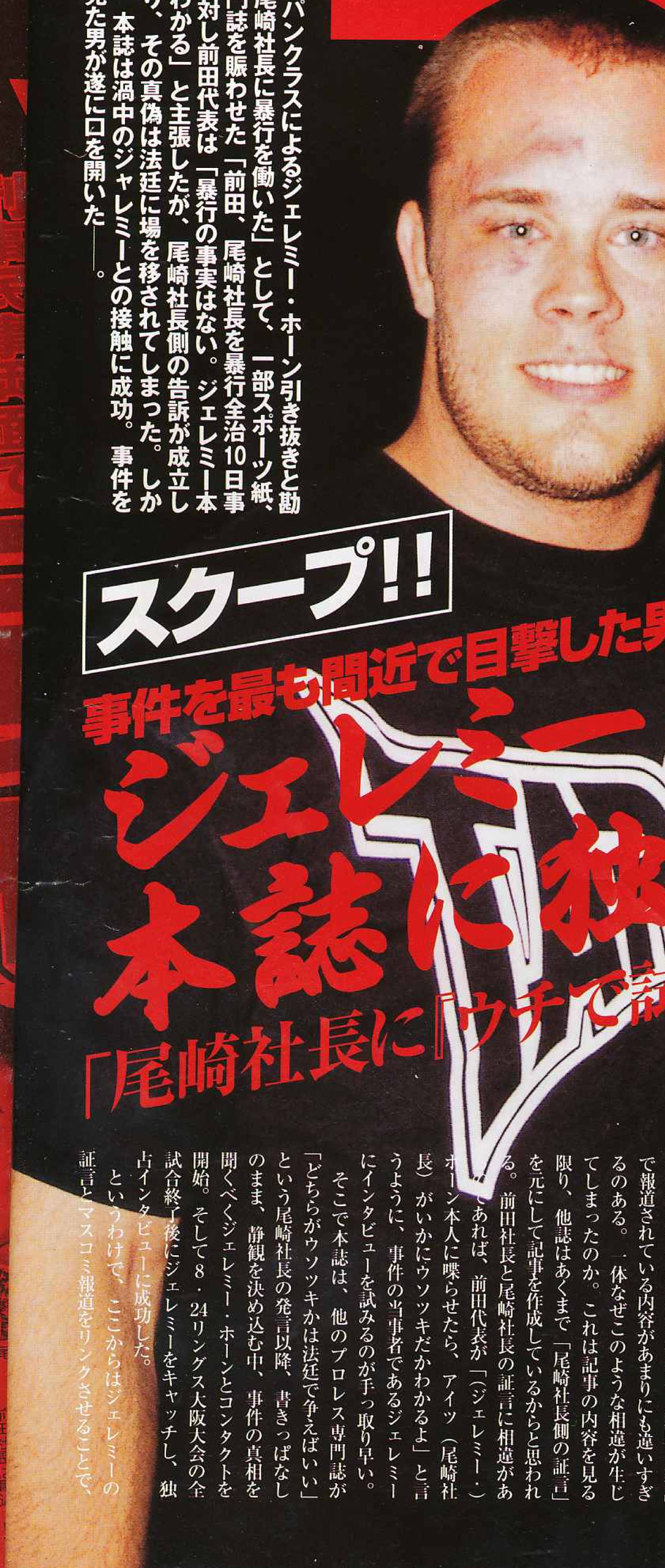
リラックスモードの高田は、今回ボブチャンチン戦が決定した経緯をこう語った。「ボブチャンチンを指名したのは自分からです。一番評価の高い強い選手と闘うというのが、僕がこの『ＰＲＩＤＥ』のリングに出てきたキッカケですから。柔術系の選手はトップ2人とやってるし、レスリング系もトップ2人とやってますし。打撃系が今までまだ1人もいないんで、どんなもんかなって興味もあるし。僕もドキドキするし、また打撃系だとお客さんも緊迫感を持って見れると思うんで、少しでも長く持てるように頑張ります」

と、最後はギャグも交えつつも、常により険しい山へと挑み続ける高田の飽く

前田暴行(?)尾崎社長全治10日事件の真相

（「尾崎」のルビ：パンクラス）

「前田日明がパンクラスによるジェレミー・ホーン引き抜きと勘違いして、尾崎社長に暴行を働いた」として、一部スポーツ紙、プロレス専門誌を賑わせた「前田、尾崎社長を暴行全治10日事件」。これに対し前田代表は「暴行の事実はない。ジェレミー本人に聞けばわかる」と主張したが、尾崎社長側の告訴が成立したことにより、その真偽は法廷に場を移されてしまった。しかしそんな中、本誌は渦中のジャレミーとの接触に成功。事件を最も間近で見た男が遂に口を開いた——。





スクープ!!

事件を最も間近で目撃した男

ジェレミー・ホーンが本誌に独占激白!!

「尾崎社長に『ウチで試合をしれくれないか』と言われた」

6月13日付の「東京スポーツ」裏一面のスクープ記事で表面化した「前田、パンクラス尾崎社長を暴行（?）全治10日事件」。

この事件はスポーツ紙、一部プロレス専門誌等では「『コロシアム2000』の前日、尾崎社長とは旧知の間柄であるジェレミー・ホーンの方から話しかけ、それがきっかけとなりホテルの喫茶店で会談。そこへパンクラスがジェレミーを引き抜こうとしていると勘違いした、リングス前田代表が現れ、尾崎社長に暴行をはたらき、全治10日のケガを負わせたもの」として既に報道されている。

本誌でもこの事件が発生した翌日には既に様子をキャッチしており、東京スポーツがスクープする2週間前の5月29日に前田代表にインタビューし、事件についても克明に語ってもらっていた（本誌28号参照）。

ところが奇妙なことに、本誌が前田代表から聞いていた事件の概要と、新聞、雑誌で報道されている内容があまりにも違いすぎるのある。一体なぜこのような相違が生じてしまったのか。これは記事の内容を見る限り、他誌はあくまで「尾崎社長側の証言」を元にして記事を作成しているからと思われる。

前田社長と尾崎社長の証言に相違があるのであれば、前田代表が「（ジェレミー・）ホーン本人に喋らせたら、アイツ（尾崎社長）がいかにウソツキだかわかるよ」と言うように、事件の当事者であるジェレミーにインタビューを試みるのが手っ取り早い。

そこで本誌は、他のプロレス専門誌が「どちらがウソツキかは法廷で争えばいい」という尾崎社長の発言以降、書きっぱなしのまま、静観を決め込む中、事件の真相を聞くべくジェレミー・ホーンとコンタクトを開始。そして8・24リングス大阪大会の全試合終了後にジェレミーをキャッチし、独占インタビューに成功した。

というわけで、ここからはジェレミーの証言とマスコミ報道をリンクさせることで、

事件を立体的に検証していくことにしよう。

事件のポイントは3つある。まず第1に「ジェレミーと尾崎社長（パンクラス）のどちらが会談を持ちかけたか」ということである。報道では「リングスとパンクラスの不仲を知らないジェレミーが旧知の尾崎社長に会談をもちかけた」となっているが、実際にジェレミーに聞いてみると、まったく正反対の答えが返ってきた。

「『コロシアム2000』の前々日にパンクラス渉外担当の追立氏からボクの部屋に電話があって「明日、会いたい」と言われたんで、次の日の午後6時に会うことにしたんだ」

6月15日の会見と本誌のインタビューで前田代表は「ホーン本人から〝パンクラス側から接触があった。どうしたらいいか〟という連絡があった」と語っているが、少なくともジェレミーの証言からすると、パンクラス側から話を持ちかけて実現したものだということがわかる。そしてさらに、ジェレミーはそのときの様子を

「ボクの左側に尾崎社長が座って、他にはパンクラスの渉外担当である追立氏、ボクの日本人の友人ヒロ、UFC-Jの坂田代表、そしてリングスの内田マネージャーが同じテーブルにいたよ」

と、語っており、この会談はリングスの人間が同席の下行われたようだ。

続いて2つ目のポイントは「そこで『引き抜き』の話は実際にあったのか」ということである。新聞、専門誌の多くでは「前田代表の勘違いの可能性が高い」と報道されているが、ジェレミー本人は

「尾崎社長とは追立氏の通訳を通して1時間から1時間半話したんだけど、その時に『もう一度、パンクラスで試合をして欲しい』と言われたんだよ」

と、「引き抜き」の事実が確かにあったことを証言している。顔馴染みの尾崎社長が社交辞令で「ウチに出てよ」と言った可能性を指摘する向きもあるが、それについても

「ファイトマネーなど細かい契約内容は提示されなかったけど、尾崎社長から直々の『試合をして欲しい』っていうオファーだったよ」

と、明らかなビジネスとしての交渉だったと断言。しかし、リングスの人間が同席する中で引き抜きを行うなどということが、実際にありえるのだろうか？

「ちょうど尾崎社長から『パンクラスに来てくれ』と言われたとき、内田マネジャーは坂田代表と話し込んでいたときだったんで、聞こえないと思っていたんじゃないのかな」

なんと、坂田代表と内田マネジャーが話をしている隙をついて、交渉を切り出したようなのだ。前田代表も本誌28号で「『ウチで試合しないか』って、尾崎が渉外に英語で言わせてるのが、ウチのマネジャーに聞こえてるんだよ。そこまでウチのマネジャーに英語力がないとナメてるんだよ」と語っているが、これが事実なら、あまりに軽率な行動と言える。

そしてポイント3つ目は今回の最大の焦点である「前田代表は尾崎社長に暴力を振るったのか」ということ。6月13日付の『東京スポーツ』では「尾崎社長は大柄な前田社長に胸ぐらを掴まれ、引き上げられた際、前田社長のこぶしによって、上唇の裏側を切る全治10日のケガを負ってしまった。またテーブルに押し倒された際に頚椎ねん挫、背中打撲の怪我も負った」と、その暴行内容について克明に記されており、プロレス専門誌も同様の記述を掲載。さらに6月28日付の『東京スポーツ』では、「34歳の会社員Aさん」の証言として、「前田社長は大声で尾崎社長を威嚇し、完全に暴力を振るっていました」という目撃情報が寄せられたことも明らかにした。

しかし、最も至近距離で目撃しているはずのジェレミーに、報道された内容を説明すると、

「ハハハ、そんな大げさな話になってるのかい？ 殴ったりは全然してないよ」

と一笑に付し、詳しい状況を話してくれた。

「まず、ボクらが会談をしているところに前田社長が突然現れたんだよ。そして前田社長はまず尾崎社長の肩に手を回して話しかけたんだ」

なんと、イメージと違っていきなり怒鳴らずに、まずは肩を組んだという。

「そして次に前田社長は尾崎社長を立たせようとして後ろ襟を掴もうとしたんだ。そのときに尾崎社長がテーブルにしがみついたのでテーブルが横にずれたんだよ」

驚愕事実発覚！ マスコミ報道で「テーブルに押し倒した」とされたのは「尾崎社長が（立たされないように）自分からテーブルにしがみついた」というのだ。そして胸ぐらを掴んで恫喝したことについては、

「いや、襟を掴もうとした以上のことは何もしていないよ。怖い顔で抗議していたことは確かだけどね（笑）」

と、34歳のAさんが「大声で威嚇した」と証言したようなことはあったようだが、それ以上の暴力行為は一切なかったということらしい。

以上がジェレミー・ホーンが語った事件の一部始終である。前田代表が「ジェレミー本人に喋らせたら、アイツ（尾崎社長）がいかにウソツキかわかるよ」と言ったとおり、ジェレミーの証言は事件のマスコミ報道とは異なり、逆に本誌28号で前田代表が語った話とほぼ一致した。

公衆の面前であるホテルの喫茶店で大声を出したのであれば、前田代表の抗議の仕方が誤解を生み騒ぎが大きくなってしまった部分もあるだろうが、ジェレミーの証言を元にすれば、少なくとも報道されるような「暴行事件」でないことだけは確かである。

そして、この事件の真相は尾崎社長が言うとおり裁判で明らかにされるであろう。しかし、本当に解決して欲しい問題は、前田代表と尾崎社長のどちらが悪いかではなく、リングスとパンクラスの関係の正常化でしかないのである。

取材 堀江ガンツ





ジェレミー本人に喋らせたらアイツ（尾崎社長）が、いかにウソツキかわかるよ（前田社長）

どちらがウソツキか法廷で争えばいい もうアキレました（尾崎社長）

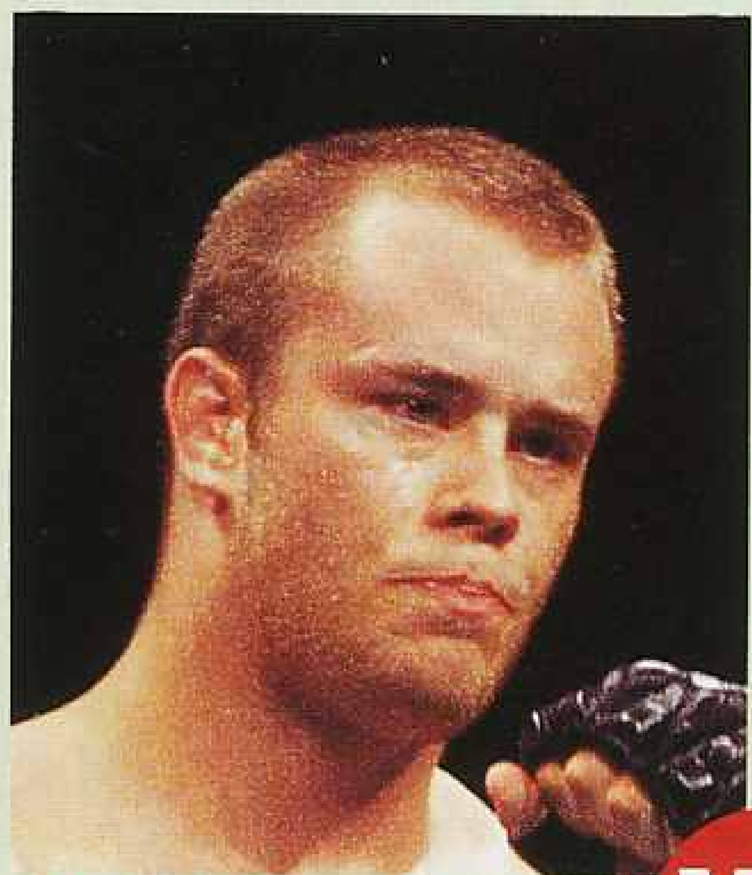
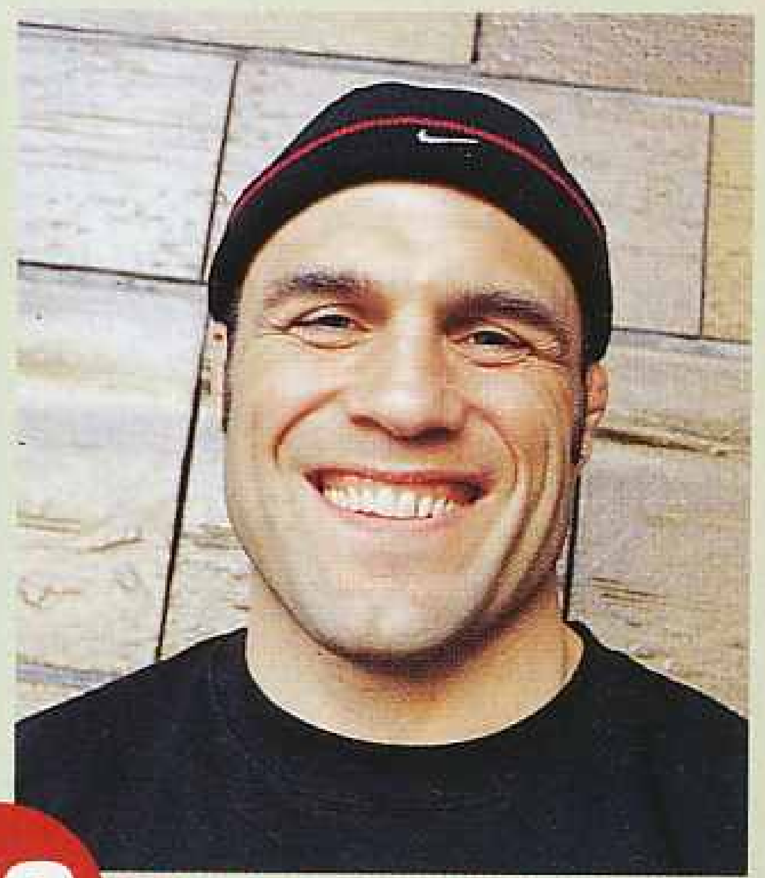
昨年は「リングス史上最高のイベント」と呼ばれたKOKが、今年はメンバーをさらにグレードアップして帰ってきた！ しかし悲しいかなマニア以外に、その実力が知られていない選手も例によって多い。というわけで、読者に優しい本誌は、見所を詳しく紹介します。2・24両国に勝ち進めるのは各ブロック1名！ 果たして誰が生き残るか！

田村 潔司
ブラッド・コーラー
ラバザノフ・アフメッド
アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ
ボリス・ジュリアスコフ
柳澤 龍志
ジェレミー・ホーン
ランディー・クートゥアー
レナート・ババル
ビターゼ・タリエル
ヴァレンタイン・オーフレイム
バラテンスキー・スレン
坂田 亘
デイヴ・メネー
ホベルト・トラヴェン
ボリソフ・ミハイル

ワールドメガバトル
オープントーナメント2000
KING of KINGS
2000年10月9日(月・祝)
国立代々木競技場第二体育館
(16:00ゴング)
チケット ￥20.000～￥3.000
【問い合わせ】
オデッセー ☎03-3796-9999

構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

CARD.3

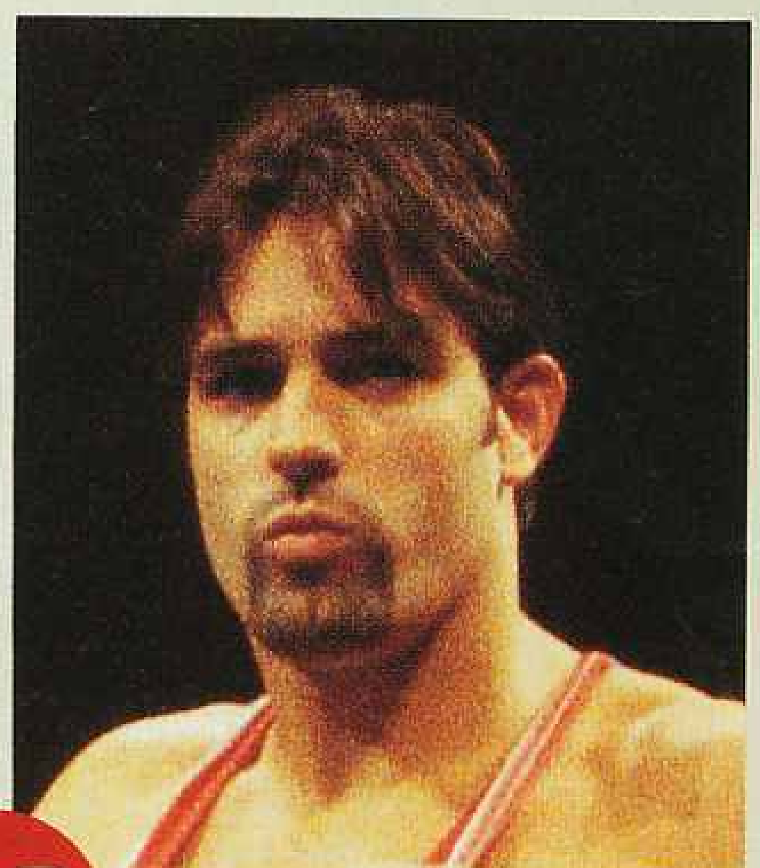



ジェレミー・ホーン
(リングス・USA)
99年KOKトーナメント出場
リングスオフィシャルランキング6位

VS

ランディー・クートゥアー
(アメリカ・リングマスターズ)
『UFC13』優勝
第3代UFCヘビー級王者

UFC王、満を持して登場
大注目! "元パンクラス"柳澤

柳澤 龍志
(チーム・ドラゴン)
元パンクラス・ランキング3位
『K−1ジャパン・グランプリ2000』出場

VS

ボリス・ジュリアスコフ
(リングス・ブルガリア)
99年KOKトーナメントベスト16
94年96年レスリング・ブルガリア選手権優勝

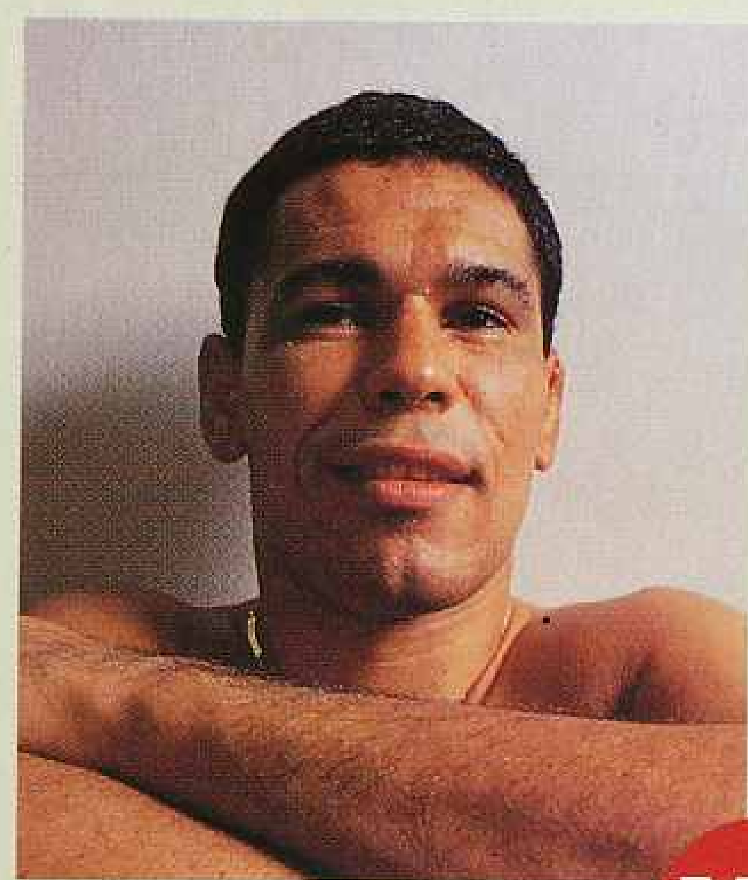
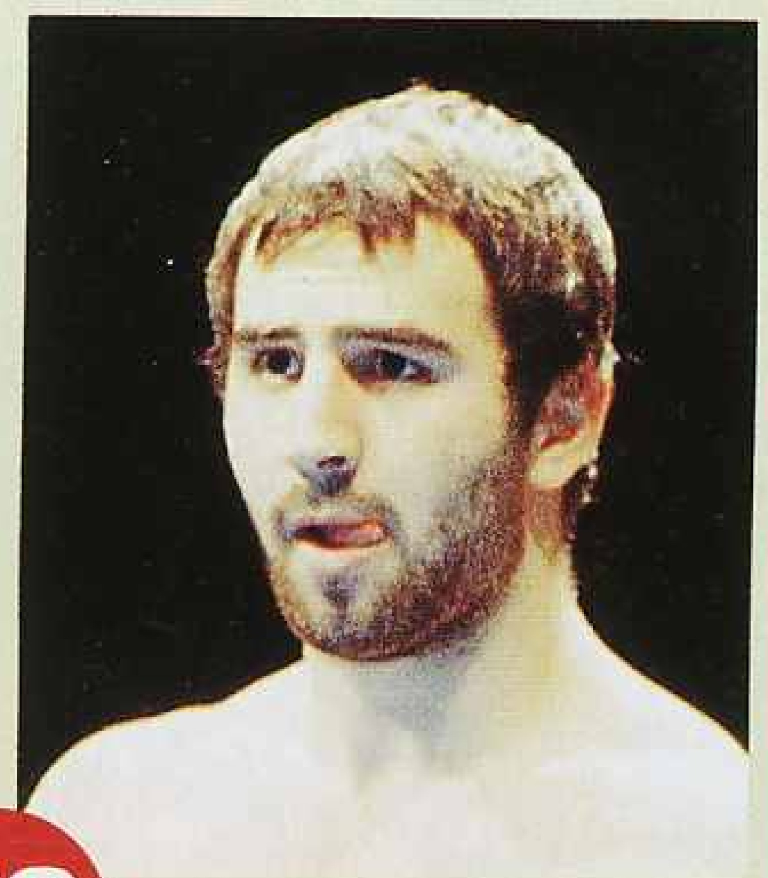
ドームで新日vs全日が行われているこの日、リングスに元パンクラスの柳澤が登場！ U系のファンにとっては新日本vs全日に匹敵する事件だろう。その柳澤は1回戦でジュリアスコフと対戦。ジュリアスコフは9月まで、ブルガリアのレスリング五輪強化チームで調整。組み手で乗り込んでくるため、グラウンドに持ち込まれたら厄介だろう。柳澤は打撃でしとめる事ができるか？（柳澤のインタビューはP154へ）

そしてもう1試合は1回戦屈指の好カード、ジェレミーvsクートゥアー。VT、レスリングの実績では他の追随を許さないクートゥアーは、昨年、盟友ダン・ヘンダーソンが22万ドルを獲得したことで、「今年は俺が」の意気込みでの出場だろう。しかし、グラウンドでのパンチがないKOKで、どこまでやれるか。対戦相手のジェレミーはKOKルールでは有利かと思われるが、9・22UFC、9・30リングスUSA、そして10・9KOKという超過密スケジュールでの出場。"鉄人"ジェレミーでもこれはキツイか？

決勝トーナメント進出者 編集部員予想

山口日昇	ジェレミー・ホーン
スモーノブ	ボリス・ジュリアスコフ
松澤チョロ	ランディ・クートゥアー
堀江ガンツ	柳澤龍志
水戸泉(仮)	ジェレミー・ホーン
幸田珍	ジェレミー・ホーン
戸高"マッハ"茶	ジェレミー・ホーン

CARD.4

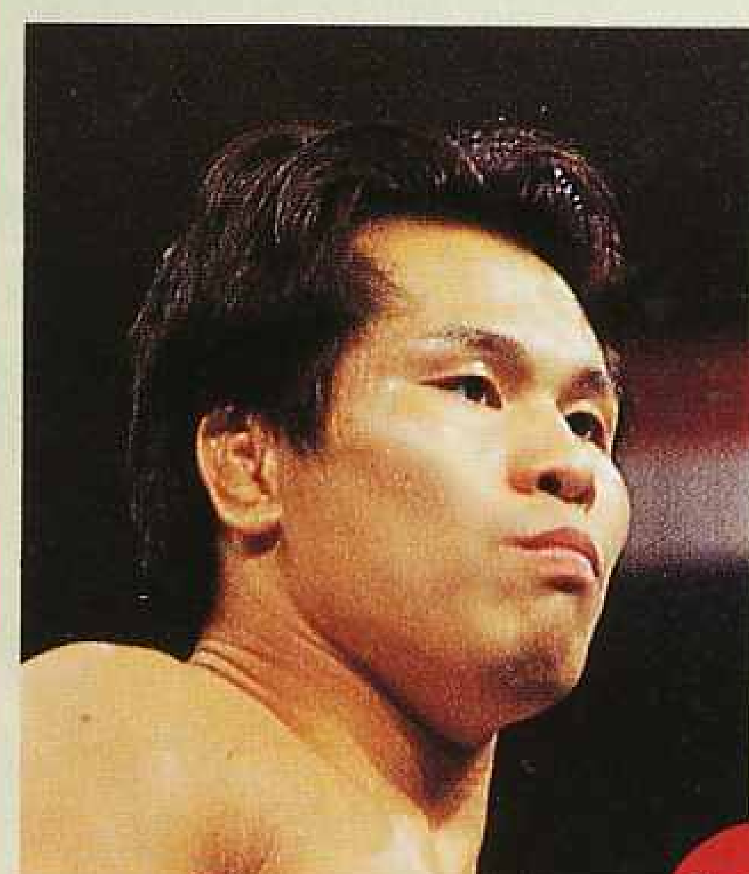
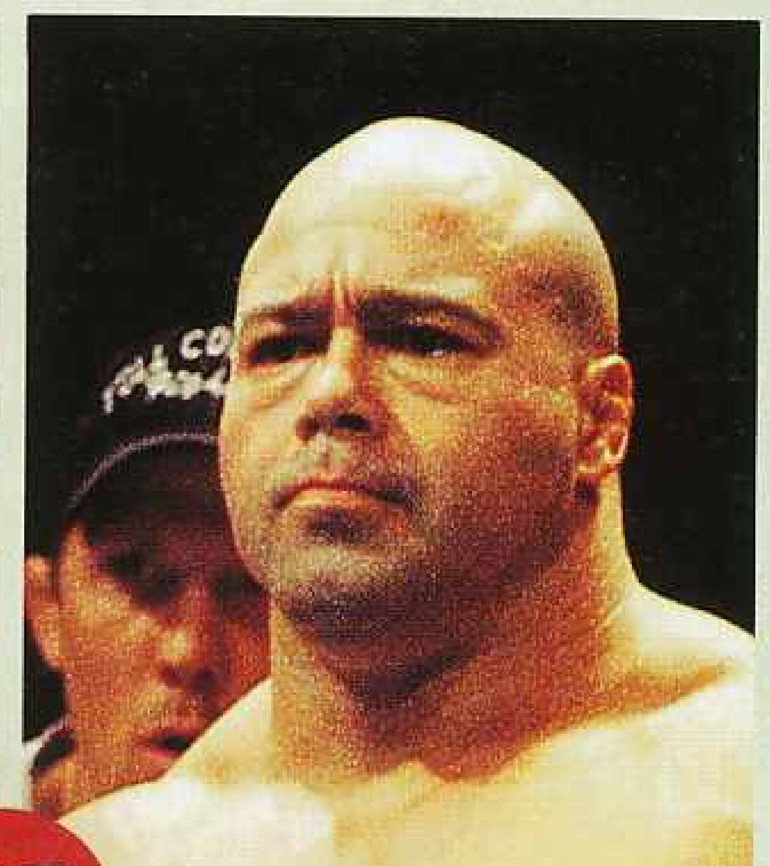



アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ
(ブラジリアン・トップチーム)
99年KOKトーナメント・ベスト4
99年ブラジリアン柔術世界選手権3位

VS

ラバザノフ・アフメッド
(リングス・ロシア)
99年ロシア白兵戦王者
99年KOKトーナメント出場

B柔術vsコマンドサンボ再び
エース田村にまたもや試練

田村 潔司
(リングス・ジャパン)
第1・3代リングス無差別級王者
99KOKトーナメント・ベスト4

VS

ブラッド・コーラー
(リングス・USA)
99年KOKトーナメント・ベスト16

95アブソリュートでの怪獣モラエスvsミーシャ以来、これまた因縁のカードであるブラジリアン柔術vsコマンド・サンボが実現！ まずノゲイラは昨年、準決勝でヘンダーソンに敗れたが、微妙な判定だったため、一部では実質的な優勝者と言われ、8月のTK戦でもその恐るべき強さを見せつけた強豪。対するアフメッドは昨年、ロシアの秘密兵器と恐れられた男。気合い十分で大会2ヶ月前に来日し前田道場で練習に励んだが、慣れない生活でホームシックになり体重が激減。肝心の試合ではへろへろになる失態を見せてしまった。今年こそ、「ロシア白兵戦王者」という幻想溢れる肩書きに見合う活躍に期待したい。

そして田村潔司。8月の大阪大会では、またもや爆弾発言をして、自分を追い込んだ田村。あの発言をした以上、予選敗退は許されない。しかし、一発が怖いコーラーを避けたとしても、2回戦にノゲイラが上がってきた場合、苦戦は避けられないだろう。はたして田村は体重差15キロの優勝候補を倒して昨年同様、感動のメインを演出できるか!?

決勝トーナメント進出者 編集部員予想

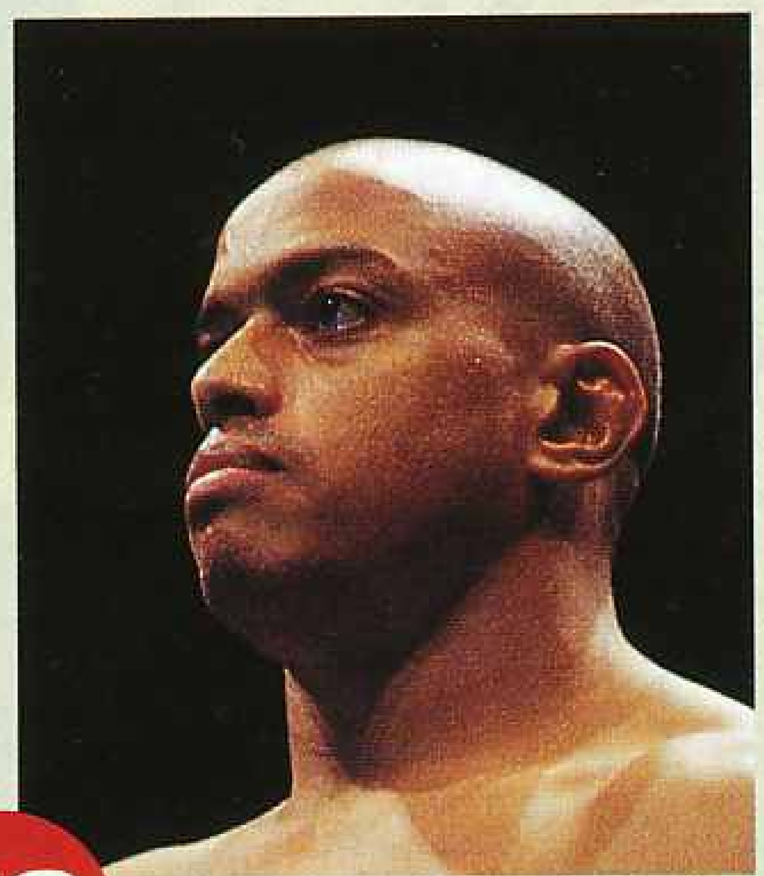
山口日昇	田村潔司
スモーノブ	アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
松澤チョロ	田村潔司
堀江ガンツ	ラバザノフ・アフメッド
水戸泉(仮)	アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
幸田珍	田村潔司
戸高"マッハ"茶	ブラッド・コーラー

10月9日はこれを持って代々木第2体育館へ行こう！

『KOK2000 ワールドメガバトルオープントーナメント』見どころ大解剖

Aブロック別　編集部予想付き

CARD.1

ボリソフ・ミハイル VS **ホベルト・トラヴェン**

ボリソフ・ミハイル
（ロシアサンボ連盟）
91年サンボ・ロシア選手権優勝

ホベルト・トラヴェン
（ブラジル・アリアンシ）
99年アブダビ・コンバット無差別級優勝
99年ブラジリアン柔術世界選手権優勝

ロシアvsブラジル大戦争勃発！ サンボ王か、柔術王か！




坂田　亘 VS **デイヴ・メネー**

坂田　亘
（リングス・ジャパン）
99年KOKトーナメント出場

デイヴ・メネー
（ミネソタ・マーシャルアーツセンター）
99年KOKトーナメント出場
フックンシュートライト級王者

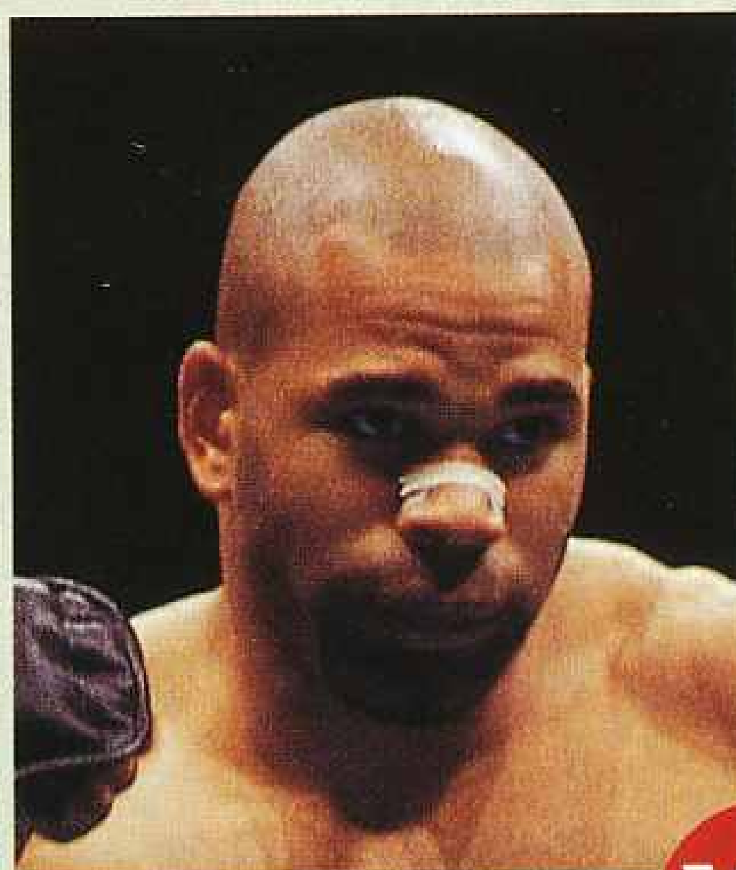
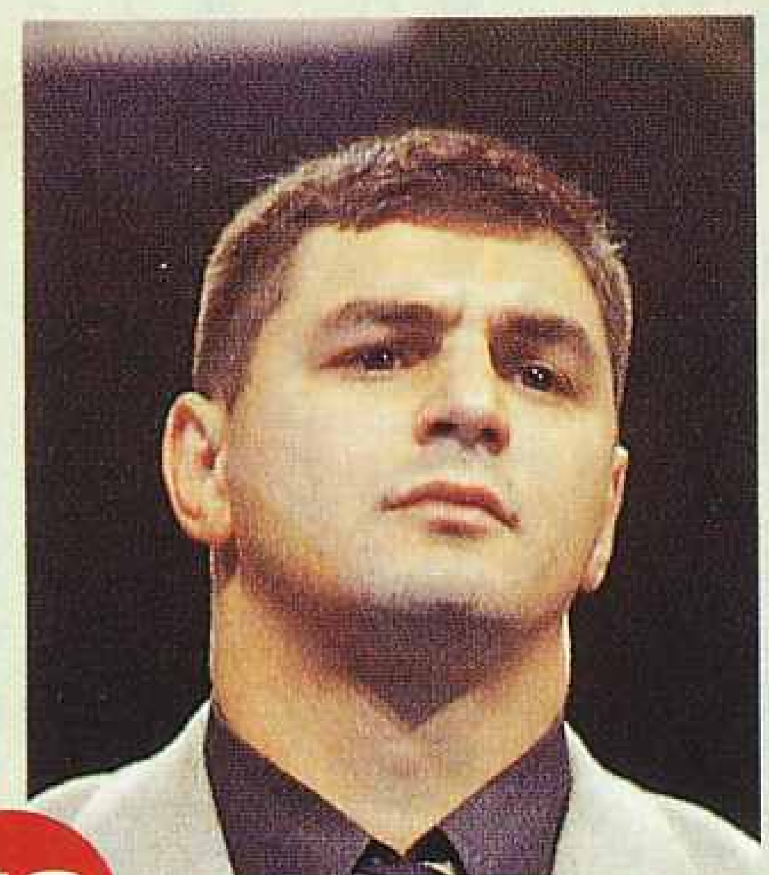
まず注目は、もはや"宿命の対決"と言えるロシア・サンボvsブラジリアン柔術の一戦。昨年のKOKでは、柔術世界王者のC・ブランコをコピィロフが1回戦で秒殺するも、決勝トーナメントでは、コピ、ミーシャがそれぞれ、ノゲイラとババルに敗れたため、柔術がやや優勢。そして今年は、いきなり、その頂上対決とも言える好カードが組まれた。99年のアブダビと柔術の世界王者のトラヴェンはコピに敗れたブランコと同じチームに所属。いわばサンボへの仇討ち。対するミハイルは、世界サンボ連盟会長が「キャリアと実力はロシアで5本の指入る」と太鼓判を押すほどの選手。その軍服姿の写真だけで幻想が膨らみまくる。この"組み技世界一決定戦"とも言える対決はあまりに見逃せない。

そして、もう1試合はミドル級同士の対決となる坂田vsメネー。メネーは今年、あの"ペレ"を判定ながら破ったミドル級のトップ選手。9・5後楽園でシムに破れ、連勝をストップさせられた坂田としては、勝って今年前半の勢いを取り戻したいところだ。

決勝トーナメント進出者 編集部員予想

山口日昇	ボリソフ・ミハイル
スモーノブ	ボリソフ・ミハイル
松澤チョロ	坂田亘
堀江ガンツ	ホベルト・トラヴェン
水戸泉（仮）	ボリソフ・ミハイル
幸田珍	ボリソフ・ミハイル
戸高"マッパ"茶	ボリソフ・ミハイル

CARD.2

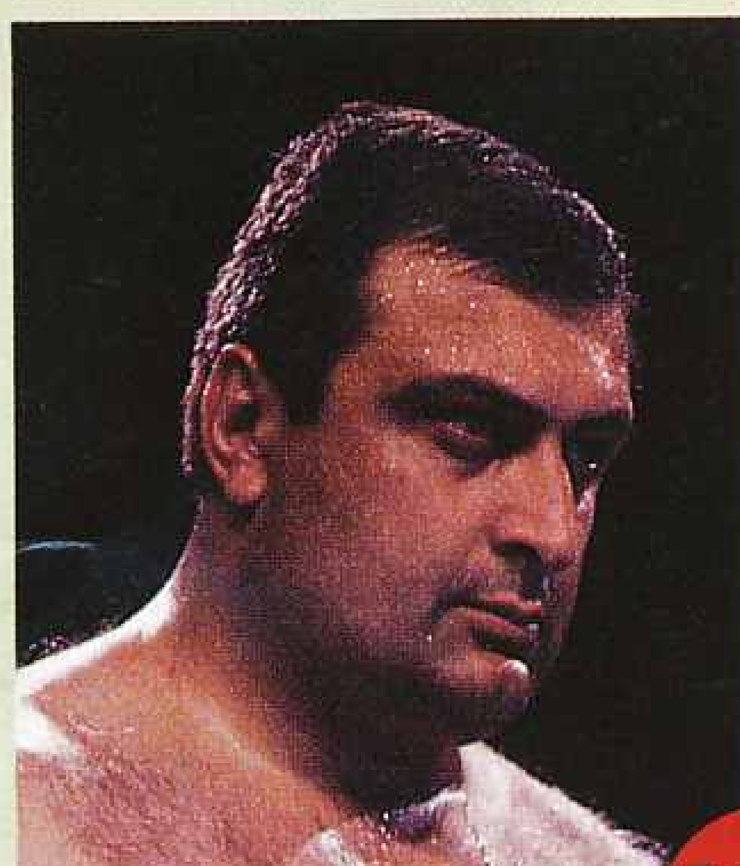



ヴァレンタイン・オーフレイム VS **バラチンスキー・スレン**

ヴァレンタイン・オーフレイム
（リングス・オランダ）
99年KOKトーナメント出場

バラチンスキー・スレン
（ロシアサンボ連盟）
98～99サンボ世界選手権優勝
97～99サンボロシア選手権優勝

"リアル"サンボ王者が遂に参戦！ 優勝候補ババルと激突か!?




ビターゼ・タリエル VS **レナート・ババル**

ビターゼ・タリエル
（リングス・グルジア）
第2代リングス無差別級王者
99年KOKトーナメント出場

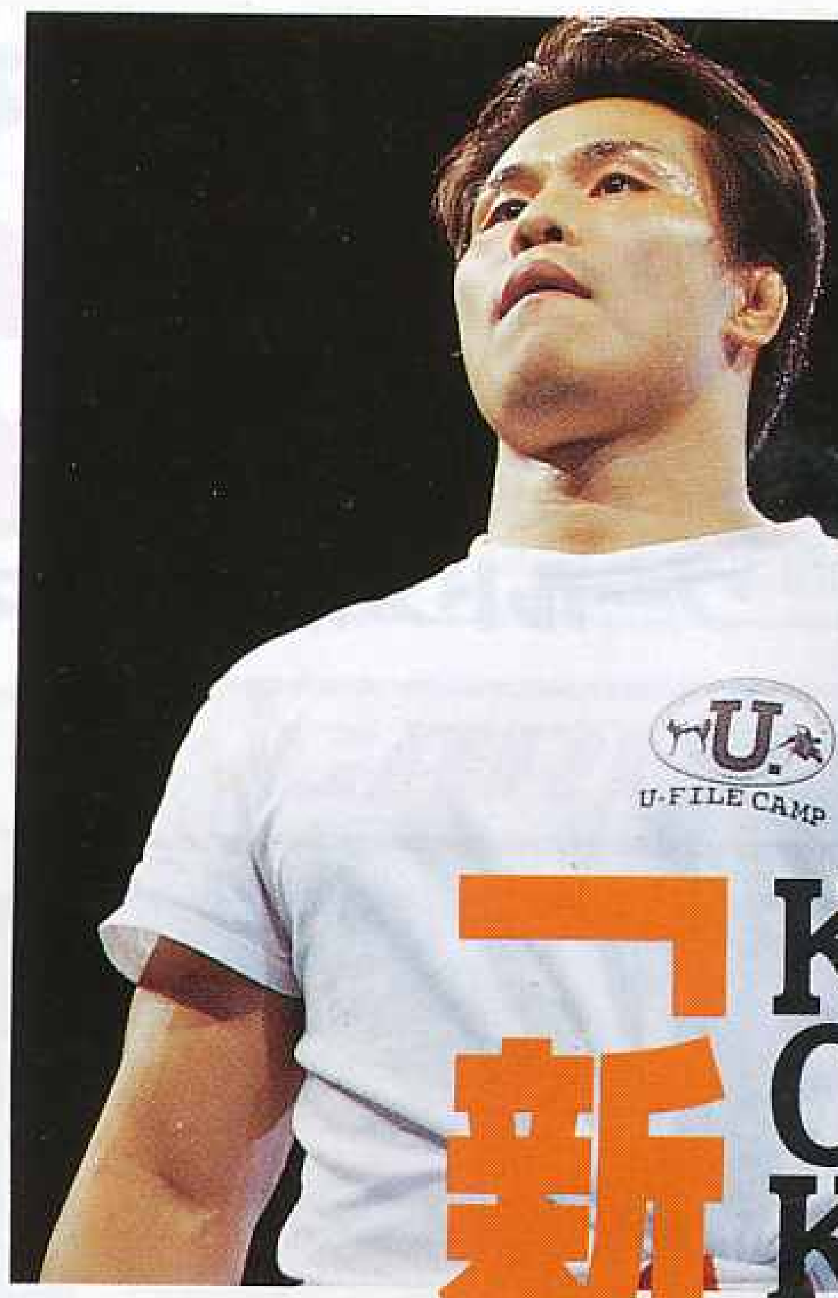
レナート・ババル
（リングス・ブラジル）
99年KOKトーナメント準優勝
98～99レスリング南米王者

今大会の目玉、バラチンスキーがここで登場。バラチンスキーは巷に溢れる「自称・サンボ世界王者」が、VT等で次々と敗れる事に業を煮やした「ロシア・サンボ連盟」が満を持して送り出す、"本物の"現役世界王者。はたしてKOKルールでも、その実力は発揮されるのか、大注目である。その対戦相手はリングス・オランダの新エース、オーフレイム。リングスNO.1とも言える打撃の使い手ながら、ここに来て関節技もメキメキ上達しおり、前田総帥もイチオシの今大会のダークホース的存在。バラチンスキーを破れば、今大会がオーフレイム大ブレイクの舞台になる可能性は十分である。

もう1試合は元リングス無差別級王者タリエルが久々の登場。昨年はアイブルの顔面パンチで一歩的に敗れ、幻想が崩壊してしまったが、あれから1年、タリエルは汚名返上できるか？　しかし相手が悪いとしか言いようがない。来日する度に強くなる男、ババル。文句なしの優勝候補者である。2回戦でババルvsバラチンスキーが実現すれば、今大会最注目の1戦と言っていいだろう。

決勝トーナメント進出者 編集部員予想

山口日昇	バラチンスキー・スレン
スモーノブ	ビターゼ・タリエル
松澤チョロ	ヴァレンタイン・オーフレイム
堀江ガンツ	レナート・ババル
水戸泉（仮）	レナート・ババル
幸田珍	ヴァレンタイン・オーフレイム
戸高"マッパ"茶	レナート・ババル



KOKもまた「新プロレス」だ 〝ヒトヂカラ〟が試される〝場〟を注視せよ!!

構成／編集部
text by The editorial staff
撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

リングスの「ワールド・メガバトル・オープン・トーナメント King of Kings」が10・9代々木で開幕する。King of Kingsを略して〝KOK〟だ。が、ここでトーナメントの展望をするわけではない。

現在のリングスは、トーナメント以外でも、エスケープありの初期リングスルールとも、MMA（ミックスド・マーシャルアーツ＝バーリ・トゥードのアメリカでの呼称）とも違う、KOKルールを採用している。

過激さではMMAに劣るが、行く手には地獄が待っている。それがKOKルールだ。

最大の特徴は、膠着ブレイクがあること。マウントを取ったとしても、攻め手がないと判断されればレフェリーによって立たされてしまい、またスタンドからの開始になる。

そのため、グラウンドで膠着してる間を利用して休むことができないため、ノンストップでハイレベルな攻防が生まれやすい。

裏を返せば、それは選手にとって、スピード、スタミナ、スキル――そのすべてが要求されるルールとなるわけだ。

堀辺正史・骨法創始師範は、このKOKルールのキーワードは、「順応」と「克服」であるという。

詳しくは、堀辺師範の「KOK講座」（P32～）を読み込んでほしいが、これをわかりやすく説明できる試合が4・20に行われたギルバート・アイブルvs田村潔司戦だ。

アイブルはこのKOKルールというものに「順応」し、苦手なグラウンドで下になると、田村にしがみついて「立たされる」のを待った。そして、スタンドになると、水を大量に得た暴風雨のように、得意の打撃で田村を追い込んでいったのである。

ブレイクがかかる度に、暴風圏に巻き込まれるかのようにアイブルに殴り倒され、それでもなんとか田村は立ち上がり、何度も何度もテイクダウンにトライし、関節を狙った。

つまり、ここで田村は、KOKルールを必死に「克服」しようとしていたのだ。

アイブルの空恐ろしいまでの「順応」ぶりに対し、田村の「克服」しようとする姿が、観客席をヒートさせっ放しにさせたのである。

その田村は8・23のP・ミレティッチ戦では逆に「順応」ぶりを見せつけ、一本は取れなかったものの危なげなく勝利した。

「順応」と「克服」。

「ド」がつく「克服」ぶりを試合の中から突き刺してくれる選手が多く出てくると、さらにKOKは面白くなってくる。

反対に、ヘタに「順応」した選手ばかりが集まれば、ポイントの奪い合いになって、判定決着が多くなってくるだろう。

だからこそ誉められるべきは、「克服」タイプの選手なのである。実際に「克服」するには、総合的なスキル以外に人間力、つまり〝ヒトヂカラ〟がなければできないからだ。

スキルや試合展開だけを見るのではなく、〝ヒトヂカラ〟もまた格闘技を見るときの重要な要素だ。いや、実はそれがファンが一番見たいものなのである。

ヘタに「順応」するだけで、毎度毎度判定で逃げ切ろうとする選手には、ファンは容赦ないジャッジメントを下していいだろう。なぜなら、KOKは「プロ」の世界だからだ。

この地獄のようなルールだと、卓抜したスキルと、洗練されたボディを持つタフなヤツら。つまり、世界中の若くてイキのいい選手が頭角を現しやすい〝場〟となってくる。

が、リングスの場合、ベテランが、そして〝まだ見ぬ強豪〟が、経験を積んだ〝ヒトヂカラ〟を武器にこのKOKルールを「克服」しようと乗り込んでくるから面白い。

前田日明は、8・23大阪で「リングスは、いつ何時でもオープンです」と言い放った。『PRIDE』というビッグネームが集まる場に比べれば地味な感は否めないが、リングスからは、とんでもない〝ヒトヂカラ〟を携えた強豪が出てくる可能性が高い。

例えば、リングスの「力骨（ちからぼね）」的な存在であるハンやコピィロフもそうだ。

「力骨」とは、フスマなどを強めるために取りつけた骨（木）のなかで、他より太い骨のことをいう。リングスの中では、前田日明という巨木が、引退するまで自然と「力骨」



世界の総合ファンにとってはたまらない、ジェレミー・ホーンvsヒカルド・アローナ戦。バリバリの新世代の対決は、最高レベルの試合を見せた。テイクダウンの差でアローナに凱歌【8・23大阪】



ダン・スバーンvsアンドレィ・コピィロフ戦。未来形のルールに果敢に挑んでいったベテラン2人は息を切らしながら、〝ヒトヂカラ〟を競い合い、スバーンが優勢勝ちを収めた【8・23大阪】



スイープ三昧の最高峰の技術戦、いや秘術戦を展開したTKとノゲイラ。ドローとなったが、激戦の代償としてTKは膝を負傷。決勝トーナメントで、再度激突はあるか【8・23大阪】

賞金20万ドルが欲しいという武道家の皆さん、団体・流派を問わずリングスは

いつ何時でも

オープンなので、どうぞお集まりください

の役割を担っていたが、前田が引退してからは、ハンやコピィロフなど、前田と激闘を繰り広げた凄玉たちが「力骨」となっていった。

昔のプロレスの醍醐味の一つに、ベテラン対若手の対決というものがあったが、まるでそれは人生の縮図のような闘いであり、観る側にも一種異様な熱がこもったものだ。

4月のコピィロフvsアローナ戦、6月のハンvsヒンクル戦などは、そのリアル版という趣があった。屈強な若い選手たちに、コピィロフやハンは、「まだまだお前らでは、細すぎる。『力骨』になるには、歴史と経験が必要なんだよ」とでも言いたげに、自らの経験をモノサシとして、若い力の前に〝必死の形相〟で立ちはだかったのだ。

現実的には昔のプロレスとは違い、「打・倒・極」が常に回転していくノンストップの闘いであり、UWF理念の完成型ともいえるルールの中では、ベテラン勢が活躍するのは難しくなっていくだろう。

が、そういうシンドイ闘いに挑む勇者が世界中にゴロゴロいるのが、前田日明が推進してきたネットワークの凄みなのだ。

KOKにおける「打・倒・極」が常に回転していく闘いが、UWF理念の完成型であるとしたら、このネットワークは、前田日明の生き方そのものである。

KOK2000
RINGSWORLD MEGA-BATTLE
King of Kings





前回のKOKの決勝（00・2・26）。ボクシング+レスリングの技術を駆使し、R・ババルを下したダン・ヘンダーソンが制した。次は『PRIDE』に上がるという“不穏”な噂もあるが……



もっと日本人選手が頑張らないと
リングスがダメになる！

これからは自分の闘いをやっていく！

僕一人が頑張ってもしょうがない！

もうやる気ないです！

最近、試合をやっても刺激が少ない！

8.23リングス大阪大会で
田村潔司が
リングス・ジャパン勢に
爆弾投下！

8・23のリングス大阪大会でUFCライト級王者のパット・ミレティッチを判定で下した田村潔司。試合後、田村の口からは「もうやる気ないです」「僕一人が頑張ってもしょうがない」「最近、試合をやっても刺激が少ない」「もっと日本人選手が頑張らないとリングスがダメになる」といった内部批判とも取れるネガティブな発言が連発された。これらの発言は田村の本音の部分なのか？　それともジャパン勢の奮起を促す確信犯的発言なのか？　悩み多き田村潔司を事情聴取。この取材後、10・9リングス代々木大会KOK・Aブロック1回戦、田村潔司vsブラッド・コーラー戦が正式決定！

聞き手／チョロ
interview by Choro
撮影／マツモト・タ・カシン
photographs by Takashi Matsumoto
試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

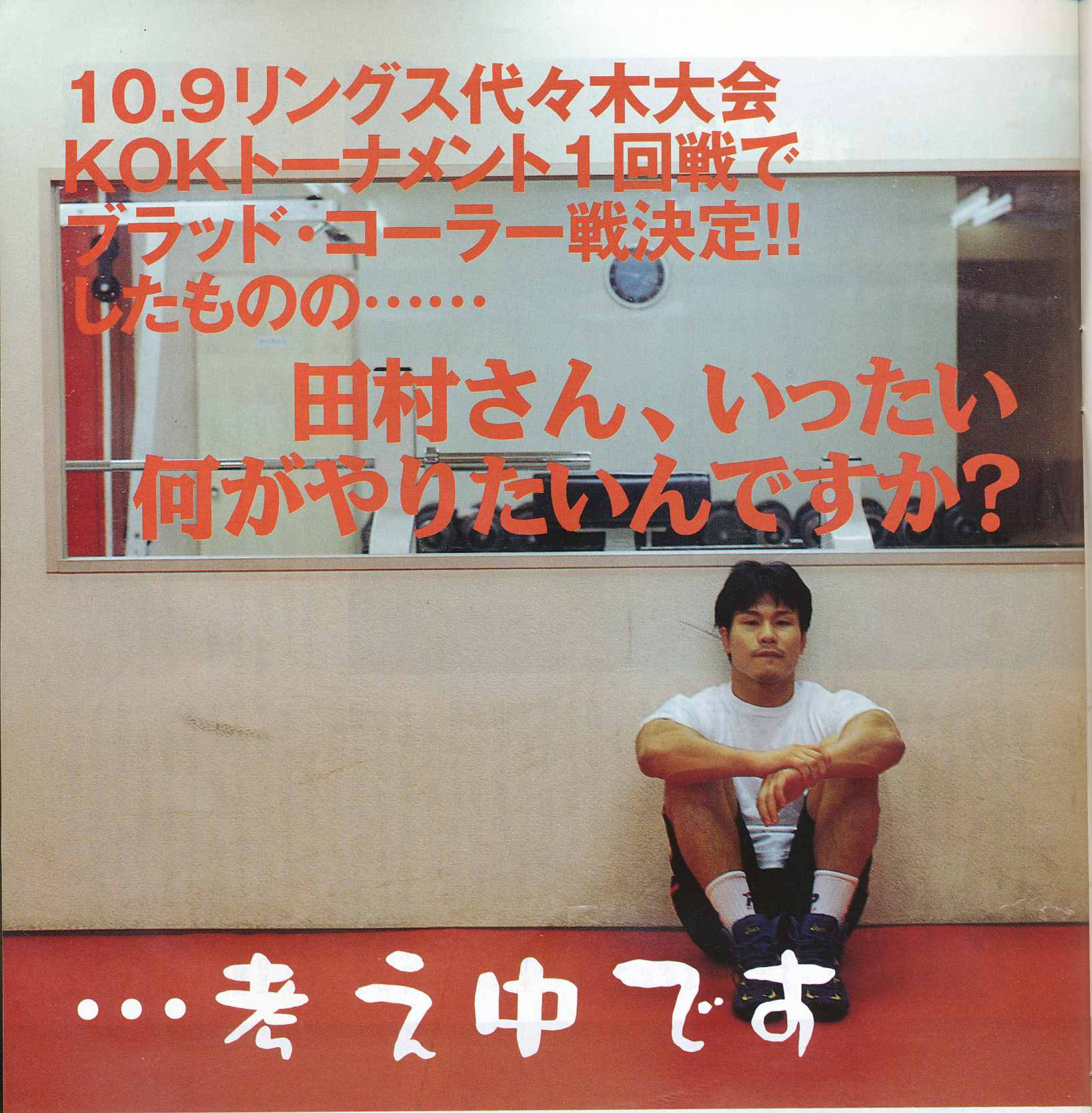
悩み多き男に内部批判の真意を直撃！

田村潔司

10.9リングス代々木大会 KOKトーナメント1回戦でブラッド・コーラー戦決定!! したものの……

田村さん、いったい何がやりたいんですか？

…考え中です



——え〜、田村さん！　ズバリ言って、いま、やる気はあるんでしょうか？

田村　アッハッハッハッ。まあ、やる気はあるようなないような。無難な答えで。

——無難ですね（笑）。で、いきなりですけど、大阪大会での一連の問題発言は、試合前から言おうと思ってたことなんですか？

田村　まあそうなるのかなぁ？　そうですね。

——大阪大会のカード（対P・ミレッティッチ）はそんなに乗り気じゃなかったと？

田村　いやいや、全然不満はないッスよ。決まったら、もうしょうがないですからね。

——「しょうがない」って（笑）、それは不満なんじゃないですか？

田村　そうやって揚げ足を取らない！（笑）。……あのね、結局ボクはテーマのある試合をしたいんですよ。だから、この間はパット・ミレッティッチっていう現役のUFCチャンピオンに勝ったと。で、それで終わりなんですよね。勝っただけなんですよ。

——まあ、現UFCチャンピオンと前リングスのチャンピオンの激突っていうテーマはありますけど、その後に繋がらないっていう部分が不満なわけですか？

田村　そうそう。繋がらないし、あの〜、それだけで盛り上げて欲しいんですよね。ボクの与えられた仕事っていうのは、いい試合をして勝つことじゃないですか？　それで最後は、周りが盛り上げてくれればいいんですけど、そういうのがないし。だから、単にパット・ミレッティッチっていう本当の現役のチャンピオンを連れてきても、そのイメージ戦略をしてないんですよね。昔で言ったら、ロード・ウォリアーズが、スラム街でネズミを喰って大きくなったとか。ねえ？

——はいはい、ありましたね。

田村　そういう恐いイメージがあって、その恐いイメージプラス秒殺とかがあってっていうイメージ戦略があるわけじゃないですか。だけど、それはあくまでもイメージであって、ミレッティッチはUFCのチャンピオンで実

いまUスタイルが時代遅れとか言われたらショックで返す言葉もないですね



際強いわけですよ。その本当の強さと、お客さんにも「こんな強い人なんだ」っていう風なイメージを伝えて欲しいんですよ。

——まあヒクソン・グレイシーとかも、ある意味イメージ戦略の成功例ですよね。

田村　そうそう。そういうことだよね。

——そういう意味で、リングスのイメージ戦略は欠けてる部分があると？

田村　全然欠けてます。それにボク自身も頑張ってもたかが知れてるじゃないですか。

——たかが知れてるっていうと、例えば世間一般に対する知名度とかですか？

田村　そうそう、そうです。そういうのも知れてるし、逆に何も変わってないと思うんですよ。だからもっと、お客さんにわかりやすいような……（腕を組み、頭をひねって）ちょっと難しくなってきたなぁ。

——まあミレティッチなんかだと、格闘技ファンとかには「強い」っていうのは伝わってますけど、世間一般の人には「誰？」って思う人が実際多いでしょうからね。

田村　そうでしょ。そういうのが不満というか……（熟考）。自分で凄いことやってるのか、やってないのかわからないんですよね。

——前田社長は「Jリーガーとかより、お前の方が何十倍も頑張ってるやんけ！」とか言ってますけど、田村さん自身は、そういう自覚が持てないということですか？

田村　うん。それもある一部分だけじゃないですか。だからそれが嫌なんですよ。格闘技界って狭いでしょ？　まあ今は『PRIDE』とか一般的にも知られてきてますけど。

——『PRIDE』は、テレビを使ったりとかイメージ戦略は上手いですよね。

田村　そうですね。ただ、ボクが言ってすぐにできるようなことでもないんで。あんまりね、ボクは蝶野（正洋）さんみたいにバーーッと言えないですから（笑）。

——ヒャハハハ。田村さんの「トゥー・サウザンッ！」は見たいですけどね（笑）。でも、田村さんも『東スポ』の一面になるようなこと言ったら、リングスも今以上に盛り上がりますよ。「田村、エンクミと熱愛発覚！」とかでもいいですけど（笑）。

田村　コラッ！　でも、それはない（笑）。

——それと「ジャパン勢にもっと頑張ってもらいたい」っていうことでしたけど？

田村　そうですね。だから誰かもう一人でも頑張ってくれれば、いろんな闘い方ができるじゃないですか。でもジャパン勢はみんな怪我してるし、怪我してる部分はしょうがないんですけど、それはもう怪我した人しかわかんないことなんで。だから正直言って、そういう選手が出てこないともうダメでしょ。ボクが例えば怪我しちゃうとどうなるかっていうのは、わかんないじゃないですか。

——リングス的にはキツイでしょうけどね。

田村　そうでしょ。で、ボクがリングスをやめたいとなった時に、みんなのやる気が感じられないと、逆にこっちも、じゃあ、もう自分の闘いをやっていこうっていう気持ちになるじゃないですか？　責任感なのかなぁ？　誰か他に日本人選手が出てこないと興行は成

……PLAY BACK 8.23　田村vsミレティッチ　BOUT……



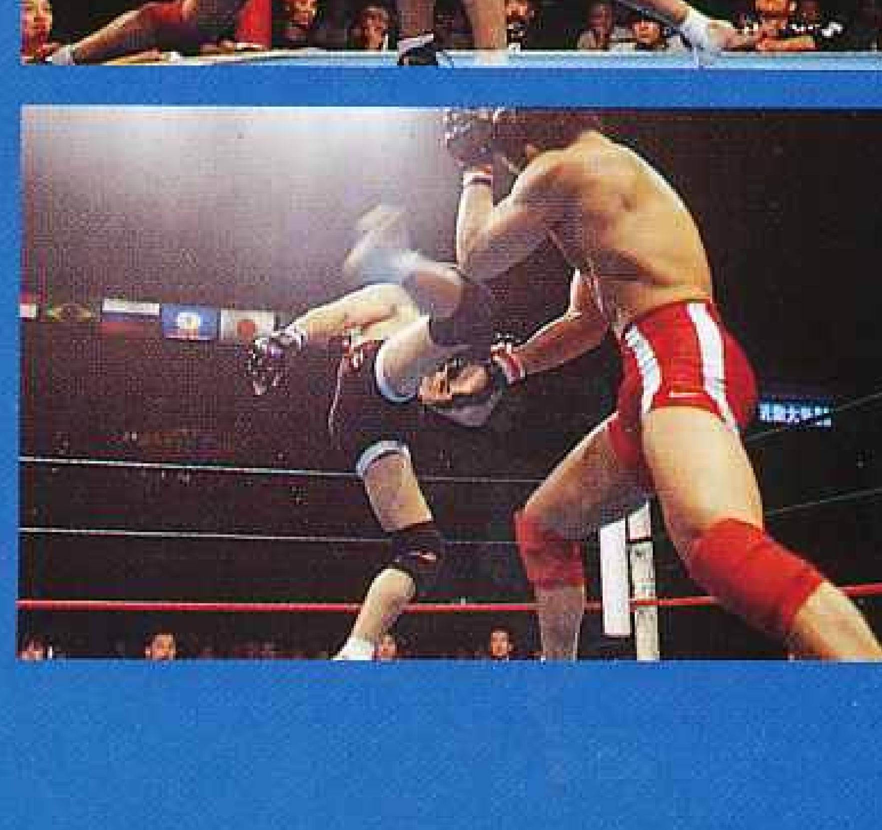
接戦の末バーリ・トゥード界の超大物を下し堂々と勝ち名乗りを受ける田村。しかし、試合後、田村があの問題発言を口にした！





（右上）田村のミドルが的確にUFCライト級王者を襲う！　ミレティッチの間合いを掴みカウンターのミドルキックを多用、このスタンドでの攻めで徐々に試合の流れが田村へと傾く。「あのミドルがなかったら向こうのペースだった」と田村。（左上）グラウンドでのポジショニング争いでは常に上をキープしたミレティッチ。





（左上）ミレティッチのパンチを潜り抜け素早いタックルにいく田村。（左下）得意のパンチに加えてハイキックとのコンビネーションも見せたミレティッチ。さすがUFCライト級王者！

○田村潔司　2R　判定　パット・ミレティッチ●

り立たないかなと思うんですよ。

――最近は日本人選手が2人とかっていう興行が多くなってきてますからね。

田村　そうそう。だからボクだけ頑張って会社を盛り上げていきますよね？　あとのみんなは「怪我してるんで自分のペースでやっていきます」とか。そういう発言を聞いているとリングスにボクがいる意味がないじゃないですか。フリーになればいいわけですよね？　リングスはどうなるかわかんないですけれど、まあ協力体制ということでもいいですし。

――この間の発言を聞いて、「じゃあ田村潔司は何がやりたいんだ？」っていうのがあると思うんですよ。

田村　……自分の頭の中では、やりたいこと、やっていかなきゃいけないことはいっぱい考えてるんですけどね。

――考えてはいるんでしょうけど、でも「今のままだとやる気ないです」って発言もあったじゃないですか。今の流れのままKOKトーナメントに突入するわけですよね。

田村　はいはいはい。

――リングスの方向性が今までと変わらないんであれば、田村さんにとっては乗り気じゃない闘いが続くってことになりますよね？　まあ対戦相手にもよると思うんですけど。

田村　リングスの方向性って何なんでしょう。興行団体になって行くんですかね？　それがわからない。

――前田さんは「リングスはいろんな人が集まる〝場〟であって、団体じゃありません！」ってよく言ってますけどね。これまで田村さんをずっと見てると思うんですけど、KOKルールが田村さんにとって理想のルールじゃないってことは何度も言ってるじゃないですか？

田村　うんうん うん。

――一番の理想の闘いは、進化したUWFスタイルって言ってますよね。

田村　はいはいはい。

――でも時代の流れは、KOKとか『PRIDE』もそうですけど、バーリ・トゥード系の闘いが主流になってるじゃないですか？

田村　まあ、そうですよね。

――Uスタイルをやりたくても、それをやれる場がなくなってきてますよね。外人選手にはエスケープ有りの旧リングスルールでの闘いを望んでいる選手は結構いるんですけど、日本人選手では田村さんのような考えの選手は少なくなってきてるじゃないですか？

田村　うん。今の流れはそうだよね。

――でも、その流れとともに田村さん的にも変わってきてる部分はあるんですよね。

田村　はいはい、ありますね。お客さんの見方も変わってきてますから。

――今の流れからすれば、「いまさらUスタイル？」って思われる場合もありますし、だから田村さんも「進化したUWFスタイル」がやりたいって言ってるわけですよね。

田村　そうそう。でもまあ、ボクはしつこいぐらい言ってるんですけど、それは5年経ったり10年経ったりしないと答えはわかんないと思うんですよ。だから、今そうやって時代遅れとか言われたらショックで返す言葉もないですからね。それが否定されるんであれば、ボクはもう消えるときだと思うんで。今まで消されないように頑張ってきたんで、これからも消されないように頑張るだけですよね。

――そういうことを考えると、田村さんが何をやりたいのか悩んでるっていうのも、わかるような気はするんですけどね。

田村　わかるでしょ？（笑）。

――そういう意味で、田村さんが「U―FILE」で底辺を拡大してるのもわかるし「新人育成を考えた方がいい」っていうのも凄くわかるんですよ。

田村　はいはい。でももう、リングスにもいろんな選手が出ているじゃないですか。だから逆にリングスの選手がいろんなとこに出てもおかしくないと思うんですよね。ボクが『PRIDE』とかにも出てもいいと思うんですよ。だから一番理想なのは、KOKのルールがあり、『PRIDE』のルールがあり、UWFスタイルのルールがあると。で、その興行団体それぞれを選手は選べて出れると。それがボクは一番いいと思うんですよ。あれ、前に言ったかな？

――前も聞いたことありますけど、UWFから別れた団体も理想を言えば一緒にやった方が見る側からすれば面白いんでしょうけど、でも、今の団体間の関係を考えると、すぐにはそこまでいけませんよね。

田村　すぐにはいかないですけど、でも将来的にはそうなるんじゃないですか。それは変えていかなくてはダメですね。（突然）ゲーム業界ってどうなんですかね？

――ゲーム業界ですか？

田村　「プレイステーション」があって「ドリームキャスト」があって。ソフトで言ったら何が有名ですかね？

――ドラクエとかにしておきますか。

田村　昔はもう、「ドリキャス」だったら「ドリキャス」専属で契約とかしてましたよね。でもね、この前、おもちゃ屋に行ったら両方でできるソフトがあったんですよ。同じゲームで「ドリキャス」用と「プレステ」用の2種類のソフトが出てたんですよ。「ドリキャス」持ってる人も「プレステ」持ってる人も遊べると。だから格闘技界もそういうふうになるんじゃないですかね。ならない？

――将来的にはそうなっていくとは思いますけどね。所属選手を抱える団体っていう形式は、これから下火になっていくんでしょうかね。前田さんが言うように〝場〟になっていった方がいいと？

田村　うんうんうん。それでいいんじゃないですかね。さっき言った三大ルールの興行になっていけばいいんじゃないですかね。



これが問題の“田村発言”だ！



【8・23リングス大阪大会。試合後の田村発言】

最近、試合やっても刺激があんまり少ないんですよ。だから、う～ん、何のためにこっちのリングの中にいるのか分からないですし、1人だけ頑張ってもね、しょうがないんで。だから、もっと他の選手がね、何クソという気持ちで来てくれないと全然やりがいがないですね。今後は、もう、誰か代わりの日本人選手が出て来ないとリングス自体がダメになると思うんで。僕はもうこっちの会社に入った半年ぐらいから「新人育成を重点に考えた方がいい」と訴えてるんですけど、そうしないと会社自体が本当にダメになるんで、それは本当にね、僕は3年前に同じ発言をしたんですよ。「このままじゃ、リングスはダメになる」と。だからいま、全然、面白くないッスね。あの～、外国人に勝つこともUFCという肩書きに勝つことも大事だと思うんですけども、やっぱりリングスを盛り上げていくためには日本人選手が頑張らないといけないんで、まぁ、だから今日の高阪であり金原であり坂田ですから。もっと緊張感持ってやらないと、自分もいま言えることなんですけど、これからサバイバルの闘いになっていくと思うんで、1年、2年経って他の日本人選手が出てこないと本当にダメだと思います。自分の方はもうダメだと思ったら自分の闘いを……会社、リングスと話し合っての問題になると思うんですけどね。やっぱり、そういう選手とか会社はみんなで盛り上げていこうという気持ちでいかないと、僕はもうやる気ないです。だから、いますぐリングスを離れるとか、そういう意味ではないですけど、やっぱり、フ～ン（とため息）、僕の発言聞いて活躍していることが悔しいとか嫉妬心がなければ本当に無理だと思うんですよ。だから、この発言を聞いて、やっぱり日本人選手は、いまだけ頑張ってもダメだと思うんで、3ヶ月、半年、1年なり時間かけて練習して早く追いついて来てほしいですね。

―例えば、KOKルール、『PRIDE』ルール、UWFルールがあったとしたら、田村さんはUWFルールしか出ないんじゃないですか？（笑）。

田村 いやいや、そんなことないですよそれはそん時の気分で（笑）。

―「気分で」って（笑）。

田村 だってそれって面白いじゃないですか？ 全ての面で選べると。団体も選手を選べて、選手も団体を選ぶという形でね。

―ファンにとっても理想でしょうけどね。

田村 ホントの理想を言えばそうなんですよ。選手もやりたいことができて、ファンも見たい闘いが見れるわけだからね。例えば、KOKルールで重量級と軽量級のチャンピオンがいて、『PRIDE』ルールで重量級と軽量級のチャンピオンがいて、それで『PRIDE』のチャンピオンとKOKのチャンピオンがやったりとか。そういうのがいいかなと思うんですけどね、発想としては。

―でも、その三大ルールの場合、田村さんは『PRIDE』ルールを選択する場合もあるんですか、気分によっては？

田村 『PRIDE』ルールを選択する場合もあるでしょうね。

―顔面を殴りたい相手とやる時は『PRIDE』ルールを選択するわけですね（笑）。

田村 そ……うですね（笑）。

―『PRIDE』といえば田村さんは、『PRIDE・10』はご覧になりました？

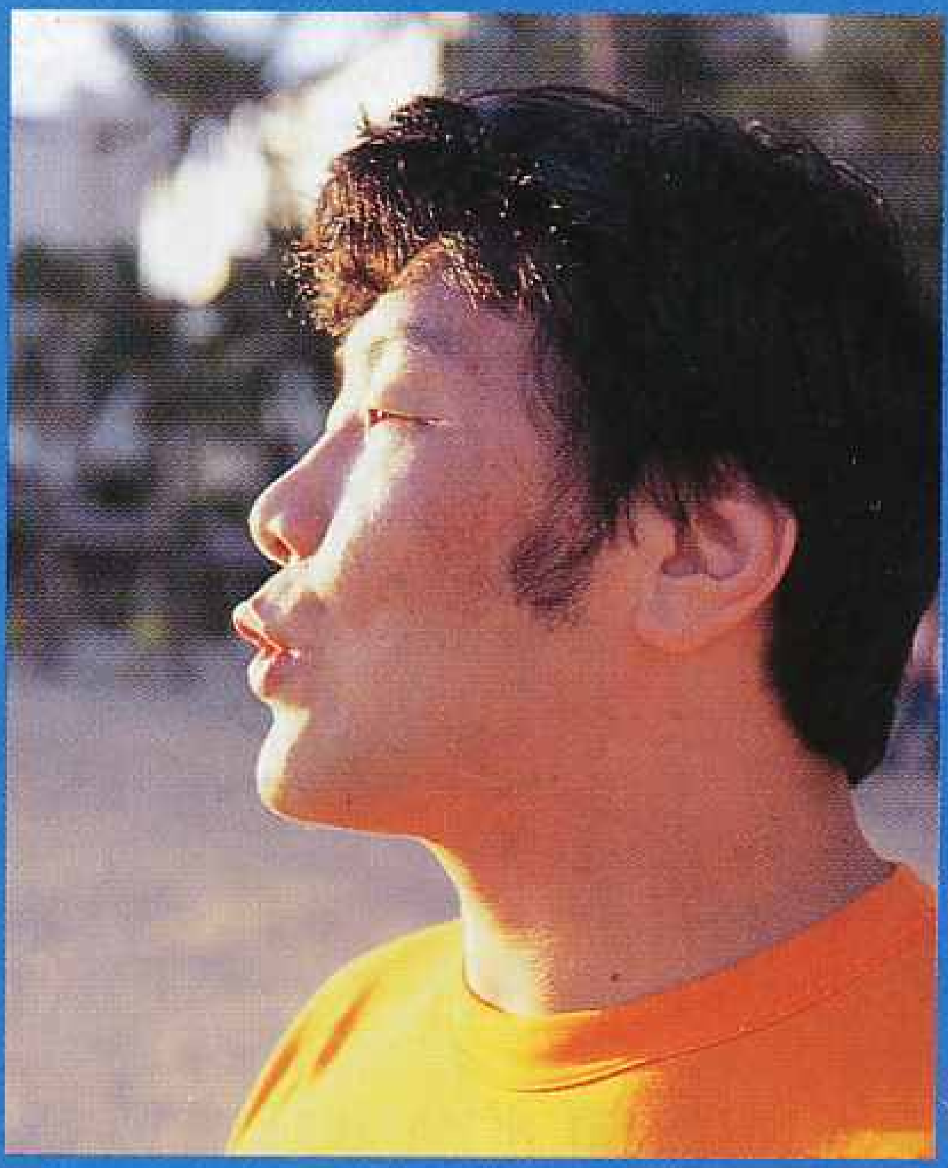
田村 はい。ビデオで見ました。

―テーマはそれほど感じなかったとは思うんですけど、一試合一試合、選手のモチベーションが高くて、『PRIDE』史上、最高の大会だって声も多かったんですけど。

田村 （本気で驚いて）えっ！ そうなの？（笑）。アイブルの試合は面白かったけどね。

―『PRIDE10』では、田村さんと対戦経験もある桜庭（和志）さんとヘンゾ（・グレイシー）が闘ったわけですけど、ど

“田村発言”をジャパン勢はどう受けとめたのか？



…金原弘光…

金原 まず、「やる気がない」って発言はしちゃいけないよね。お客さんがチケット買って試合見に来てるのにさ、試合終わった後に「やる気なかった」って言われたら「そんな試合を客に見せるな！」って話でしょ？ やる気がないならやらなきゃいいじゃないですか！ そんなの闘った選手にも失礼だよ。

金原 いやぁ、5月の東京ドームの試合は関係ないからさ。あれはほら、他団体の方からギャラが発生して「やりたいか？」って言われて「自分はやります」ってやってるわけでしょ。その後、「リングスの試合はやる気がしない」って言ったらそれは話が違うわけじゃん。そういう意味では、あの人が一番うまい生き方してると思うよ。海外で試合前に言うんだったら相手が「コイツ油断してるな」とか思って逆に心理作戦になるけど、やっぱり、プロとして客が金払って見に来ている以上そんなこと言うもんじゃないよ。

―「日本人選手がもっと頑張ってくれないと」っていう発言についてはどうですか？

金原 俺なんかも足に6本痛み止め注射打ったり、アバラが折れてるのに試合してるのにさ。それでも「頑張ってない」って言われたら「スミマセン」って言うけどね（笑）。

―謝りますか（笑）。

金原 でも田村さんは海外での試合もないし、いつも2ヶ月おきで、ちゃんと最高のコンディションで出れてるわけでしょ？

―でも田村さんも、ヘンゾ、アイブル、ジェレミーと世界の強豪相手に連戦してるじゃないですか？

金原 合しないし、それで本戦だけはしっかり出てさ。ちゃ〜んといいペースで、最高のコンディションで出れてるわけだから。だいたい俺、リングス来てから、本戦の間に何回海外行ってんの？

―確かに金原さんや滑川さんは海外での試合は多いですからね（笑）。

金原 そうでしょ。いや〜、でもちょっとね、あの発言は違うよ！ もしそれが、リングスを盛り上げるための思惑があって、それで俺らが噛み付いてくんのを待っててさ、“リングスが盛り上がった”ってなってたらいいけど。そこまで考えてたら「凄い！」って思うし、後から「実はこういうことだったんだよ」っていうんだったらいいんですよ。でも俺はいまんとこ100%そうじゃないと思うから！ まあ、お互いにKOKトーナメントで勝ち上がったら前田さんに言って1回戦で当ててもらうよ。それかさ、もう日本人だけのトーナメントやっちゃえばいいんじゃない？ 田村さんが名前上げてた、俺と高阪さん、山本さん、坂田さんだっけ？ それでトーナメントやればいいじゃん！

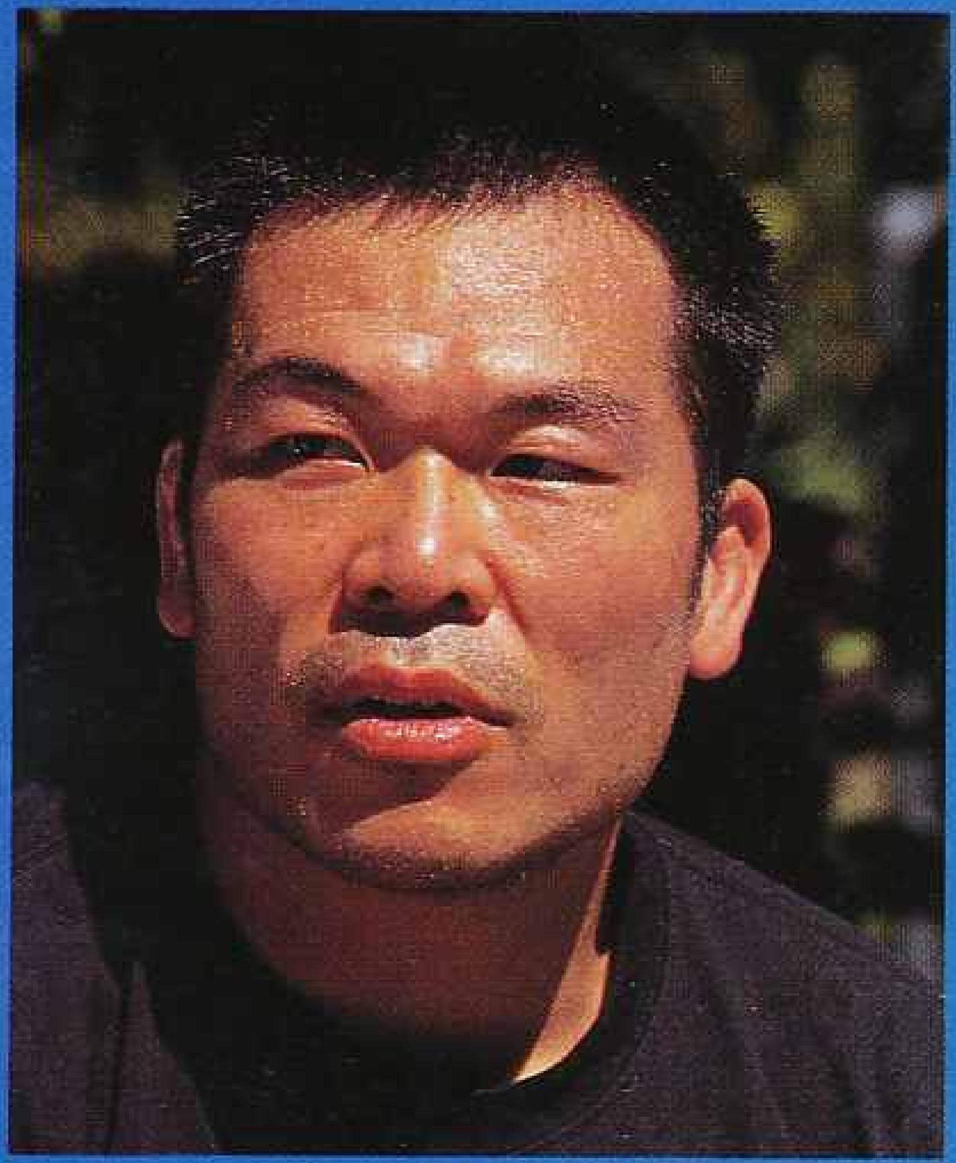
―それは見たいですね！ 滑川さんも入れて。

金原 やりましょうよ。絶対盛り上がりますよ！ それで、そのトーナメントで田村さんが優勝したら「あなたの言ってる通り、僕らは努力が足りませんでした」って言うからさ（笑）。まだまだ言いたいことは山ほどあるんだけど、まあ次のKOKでお互い決勝トーナメントまで残って、1回戦で闘いましょう！



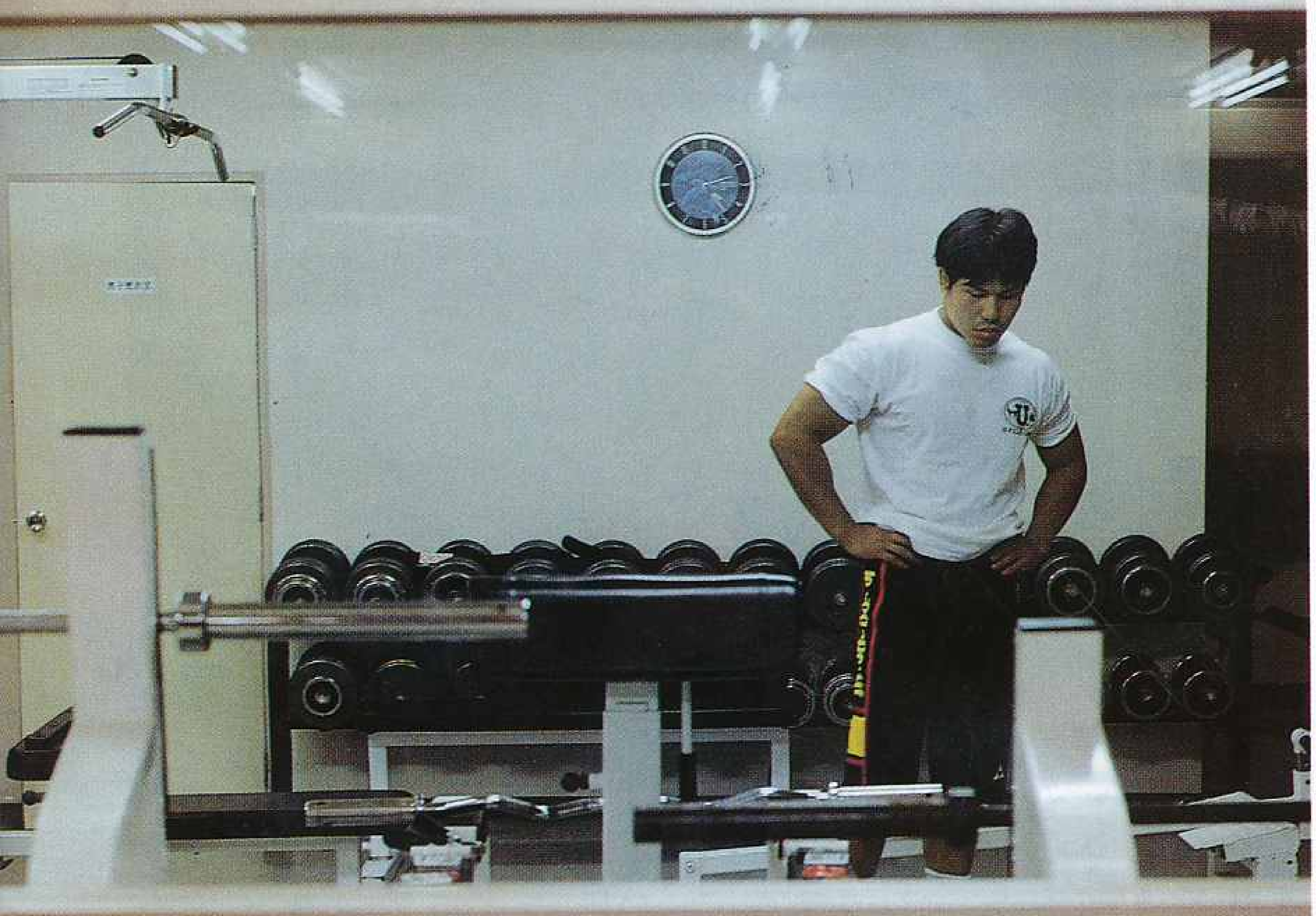
…山本宜久…

田村発言があった8・23大阪ではWOWOWのテレビ解説を務めたヤマヨシ。田村とは何かと因縁めいたモノがあるヤマヨシだけに、今回の田村発言についても大人しく黙ってはいられないはず。ヤマヨシ自身は、試合後の田村の発言を聞いていないとのことで現段階ではノーコメント。こんな時代だからこそ、二人の直接対決が見たい！



…高阪剛…

高阪 （田村さんの発言の真意はリング内の活性化という意味もあるんじゃないかと思うんですけど）そこまで考えたら試合が机上の空論になっちゃうんですよ。机上の空論が過ぎると試合で相手に対して何にも通用しないですから。選手というのは「いま何をすべきか」っていうことを常に考えてやんなきゃいけないと自分は思うんです。まあプロとして、ああいう発言をして問題提起するのはいいことだと思いますよ。「田村さんにそう思われないようにしよう」と一人一人がやれば、結果として全体的に良くなるんだから悪いことじゃないと思いますよ。



新日本の石澤選手と闘ったらって……ハッキリ言って比べられるのが嫌ですね

うでした?

田村　またそれ言うと問題あるから（笑）。

――そんな問題ありそうなこと言うつもりなんですか（笑）。

田村　またぁ、そうやって煽ろうとしてるでしょ（笑）。まあだけど、桜庭は活躍し過ぎてるから、これからが大変でしょうね。いままでは壁をブチ破る方だったじゃないですか？　今度は壁をブチ破られる方になるんで、ちょっと大変だと思いますね。

――いま桜庭さんはたくさんの選手から対戦要求される側ですからね。でも読者に見たいカードを募集すると「田村対桜庭戦」って常に1位か2位になるんですよ。まあ実現の可能性は少ないんだろうなって読者も思ってるみたいですけど（笑）。

田村　そんなに望まれてます?

――そりゃ望まれてますよ。田村さんも前から「UWFの最終形の闘いを見せる自信がある」って言ってましたからね。

田村　まあ、ちょっと違ってきてますけどね。今は難しいでしょう、向こうが。（手で昇り調子を示して）「こう」なってるから。やれるんだったら望んでいるファンの人に夢を提供できるんじゃないかと思いますけど。

――さきほどの話で言うと、桜庭さんと闘うなら三大ルールの中で、どのルールを選択しますか?

田村　いや、どれでもいいですよ。

――どれでも勝つ自信はあると?

田村　なんで、そんなに煽るかなぁ（笑）。まあ、それはやってみないとわかんないことですからね。負ける気はもう全っ然ないんですけど。……でも煽るよなぁ～（しみじみと）。

――やっぱり田村対桜庭戦はドリームマッチですからね。ところで、石澤常光対ハイアン・グレイシー戦はどうでしたか?

田村　石澤選手ね（笑）。

――田村さんは、リングスのホームページで、「田村さんと石澤さんが闘ったらハイレベルな試合になると思うんですが?」っていうファンのメールに「石澤?　それは新日本の選手ですか?　もしそうだとしたらどちらかが一方的でしょう。ハイレベルにはなりません」ってズバリ答えてましたよね。

田村　はいはい。

――いろんな意味に受け取れますよね（笑）。

田村　これ言ったら波風立ったり、カドが立ったりするんですけど、新日本プロレスの石澤選手とボクがやったらって……ハッキリ言って比べられるのが、もう嫌ですね。

――団体を背負うっていうことがですか?

田村　いや、そういう試合を見たいわけなんでしょ?「いい試合になるかもしれない」って思って。もしやることがあっても、いい試合になるっていうのは一っ切ないです!

――何ルールでやってもってことですか?

田村　まあアマレスだったら負けると思いますけど、総合だったら負けませんよ。

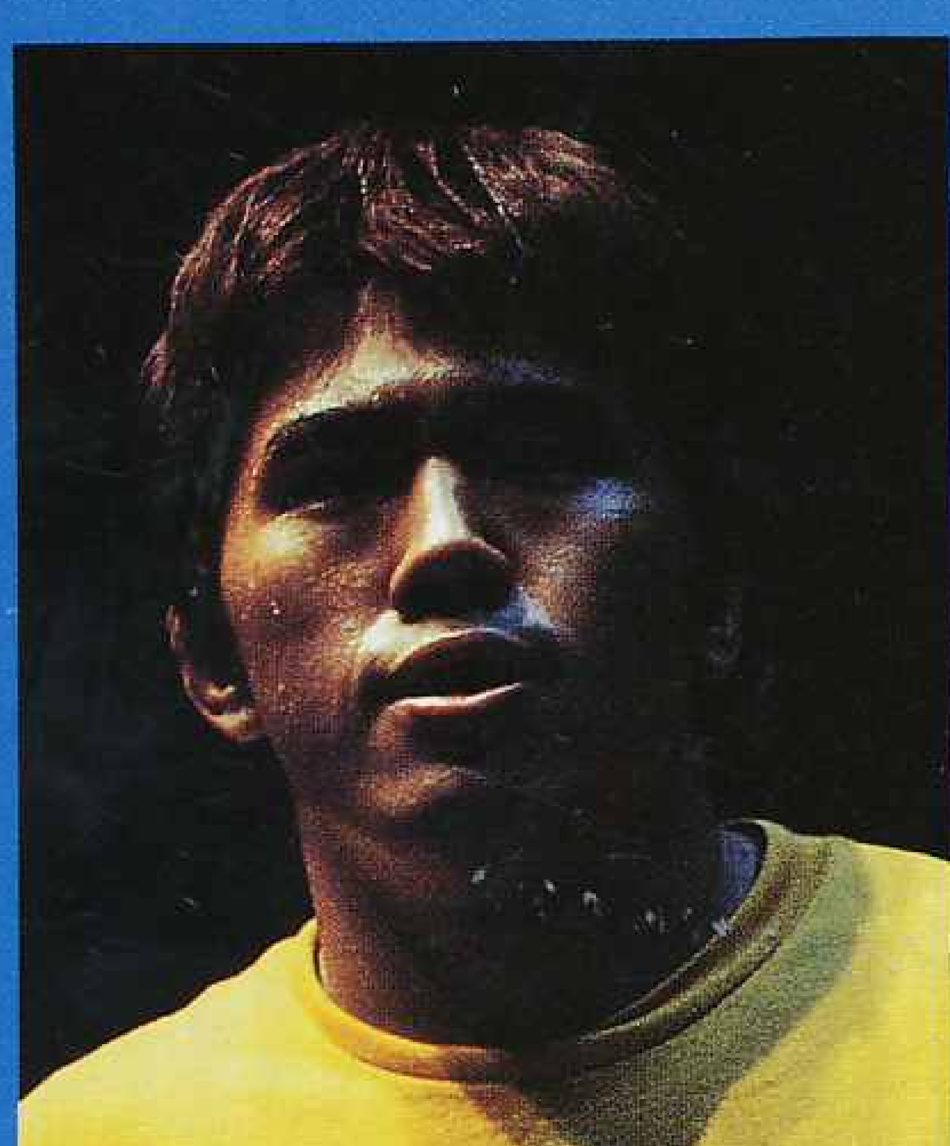
――それはやっぱり、総合での実績や、やってきたものが違うという意味で、比べてほしくないということですか?

田村　それはありますよね。



…坂田亘…

9・5後楽園でグスタボ・シムと闘った坂田亘。田村発言に対し結果で答えを見せつけたかった坂田だが、グスタボのハイキックで出血。無念のドクターストップ負けを喫した。試合後、「田村選手とか桜庭さんとかメインでずっとやってる人の凄さが改めてわかります」とメインの重みを体感した坂田。この悔しさをデイヴ・メネーにぶつけろ!



…滑川康仁…

田村さんの発言ですか?　あの～、ボクもいろいろと思うことがあったんで、いっぱいメモに書いたんですけど、ボクなんかはまだ結果も出してないし、発言権はないと思うんで、ノーコメント（苦笑）。でも、ボクは9月30日にリングスUSA大会のミドル級の決勝トーナメントでクリス（トファー・ヘイズマン）とやるんですよ。これまでクリスには2回負けてるんで、次は絶っ対勝ちますよ!　それに金原さんがケガして出れなくなったんで、その分も頑張りますから。もし自分がトーナメントで優勝したらKOKのBブロックにも出れるんスかね?　優勝狙いますよ!

——田村さんが言ってたイメージ戦略じゃないですけど、〝新日幻想〟というか〝石澤幻想〟っていうのがファンの間では大きかったと思うんですよ。新日本っていう看板もあるし、レスリングでも実績がありますからね。

田村 でも、どう思う？ 石澤対田村戦ってどっちが勝つ？

——新日本ルールだったら間違いなくケンドー・カシンが勝つでしょうね！

田村 アハハハハ！ わっけわからん（笑）。

——飛び付き逆十字で田村さんが負けますよ（笑）。でもKOKルールだったら田村さんが勝つと思いますけどね。

田村 『PRIDE』ルールだったらどう？

——顔面パンチありでも、打撃では差があるでしょうから、田村さんが有利でしょうね。

田村 （自信満々に）そうです。

——でも、新日本ルールだったら田村さんが負けます（キッパリ）。

田村 アハハハ！ しつこいね、キミは（笑）。

——やっぱり、カシンは強いッスよ！

田村 （ムキになって）いやっ、負けない！ 新日ルールでも負けない！

——わかりました（笑）。でも田村対石澤戦は単純に見たいですけどね。Uインターと新日の対抗戦の時に、石澤さんは「対抗戦に出てない選手で興味のある人はいる」って、暗に田村さんのことを言ってましたし、それにリングス対新日本というテーマもあるわけじゃないですか？

田村 あ、そうかぁ。（興味なさそうに）でも、別にいいッスよ。

——石澤さんは、田村さんにとって闘いたい相手にはならないと？

田村 それが話題になって、「何を言ってるの？」って気持ちが少しでも彼にあればやってもいいですよ。でもそうやって、こっちから仕掛けるつもりは全然ないんですけどね。それも石澤選手に失礼だし。話題変えよ（笑）。

——はい（笑）。KOKの一回戦は現時点では、まだ出場選手も正式に決まってないんですけど、漠然とした希望で結構なんですけど、どんな選手と闘いたいんですか？

田村 う〜ん。いまはあんまり誰っていうのはないなぁ。でも、キツイでしょうね。強い選手と当てられると思いますから（苦笑）。

——でしょうね（笑）。それで、元パンクラスの柳澤（龍志）選手がKOKトーナメント参戦が決まりましたけど、ノアを退団した垣原（賢人）選手もトーナメントに出るんじゃないかって期待してる人も多いんですよ。田村さん、最近、垣原さんと連絡は取ってないんですか？

田村 垣原とはコンタクトは全然取ってないですね。電話も掛けてないですし、掛かってもこないですから。

——田村対垣原戦とかはピンときませんか？

田村 う〜ん、ピンとこないですね。

——まあピンとこないって言われたらそれまでなんですけどね。

田村 だってピンとこないんだもん！（笑）。まあ誰でもいいですよ。ボクに刃向かうような言い方してる選手と闘いたいですね。

——この間の発言に「なにクソ！」って思ってる選手ですよね。

田村 はいはい。そうですね。

——そういう意味では、金原さんは「僕一人で頑張ってもしょうがないって言ってるけど、他のジャパン勢も頑張ってるよ！」って言ってましたけどね。

田村 う〜ん、ボクが「ジャパン勢も頑張って欲しい」って言ったのは……他のジャパン勢も頑張ってるとは思うんですよ。でもね、試合に出れば頑張ってるのかって言えば、また違うと思うんで。ボクの発言が違うふうに捉えられてもあれなんですけど。頑張ってるって言うんだったら、ボクはその二倍以上頑張ってると思うんですよ。だから頑張ってるの次元がちょっと違うから。う〜ん、頑張ればいいってもんでもないですよね。

——まあ単純に、田村さんの二倍三倍練習をやったから、それでいいのかって言えばそれも違うでしょうからね。

田村 その頑張り違いで……例えば、営業とかにしても「頑張ってます頑張ってます」って言っても、結局は仕事を取ってこないければ頑張ってないと一緒じゃないですか？

——結果がすべてですからね。

田村 まあちょっと、モノの考え方っていうか、見解に相違があるかんでしょうね。

——ぶっちゃけた話、田村さんは、リングス内で孤立しているって感じはあるんですか？

田村 いや、孤立は昔っからしてますよ。

——あ、リングスに入ったときから（笑）。

田村 そう。入ったときから（笑）。

——そういうイデオロギーの違いをリング上でぶつけ合って欲しいんですけどね。

田村 それが一番いいよね。まあでも憎しみ合ってるわけじゃないから……。話題変えましょうか（笑）。

——はい（笑）。リングスのホームページで、ファンからの質問に、田村さんは「リングスがこのまま変わらなければ辞めます」って書き込んでましたけど、実際どういったところを変えて欲しいわけですか？

田村 それを言うと愚痴レベルになるから（笑）。まあ言葉ではちょっと難しいですね。

——愚痴レベルでいったら誰でも言いたいことはあるでしょうからね。

田村 そうでしょ。まあ格闘技は結果出せば誰も文句言われないじゃないですか？

——まあ、そうですよね。

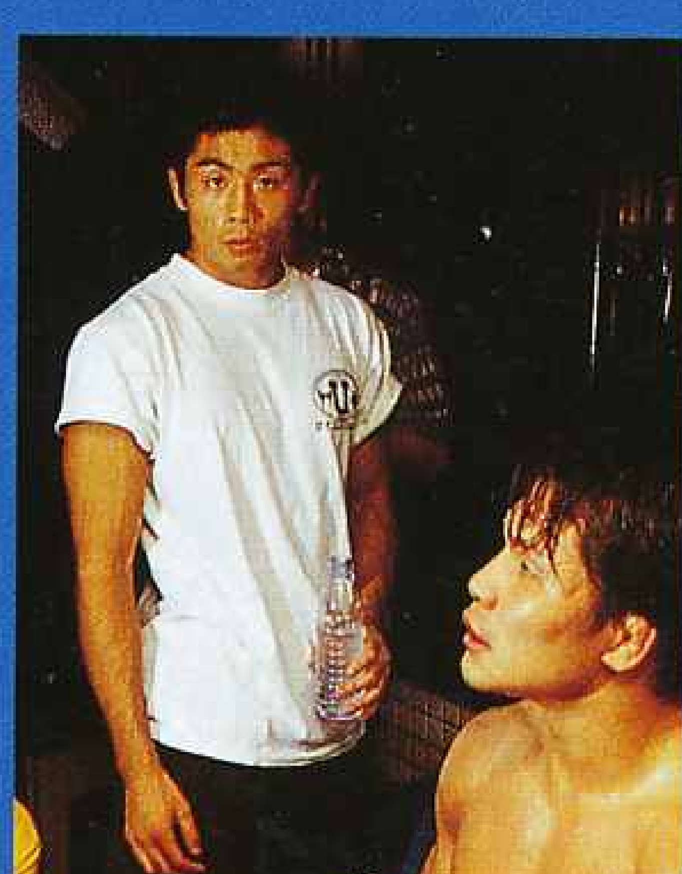
田村 それがあるから、生き残る人、消えていく人っていうのが、わかるじゃないですか。

（資料として持っていった大阪大会での自分の試合写真を見て）いい身体してるね。

——ヒャハハハ！ 田村さんはいい身体して

上山龍紀

田村の一番弟子は“田村発言”に何を感じたのか？



「あれ？ 田村さん、辞めちゃうのかな？」って思いましたね（笑）

——大阪大会での田村さんの発言を聞いて、一番身近にいる上山さんはどう思いましたか？

上山 あれを聞いた時に一番に思ったのは、純粋に僕も、もっと頑張らなきゃダメだなって。でも自分自身、試合に出るチャンスが少ないんですけど、試合にもっと定期的に出してもらえれば、上に行く自信はあるんですけどね。

——自信はあるけど、チャンスがあまりもらえないと？

上山 そうなんですよね。僕は海外だろうと、とりあえずどんどん試合をしていきたいんですよ。週イチでいいぐらいです。

——週イチでいいんですか（笑）。

上山 全然いいですよ。

——外人選手ではそういう人多いですけどね。

上山 そうですね。自分は選んでる立場でもないんで何でもいいから試合がしたいです（笑）。あと他の日本人選手ともやりたいですね。今は、やっぱり田村さんが目立っちゃってると思うんで……自分も田村さんと同じ意見なんですよ。日本人選手も頑張らなきゃって感じなんで。まあ自分もそうですけど（笑）。でも正直言って、あの発言を聞いた時は「あれ？ 田村さん辞めちゃうのかな？」って思いましたね（笑）。

——それは衝撃発言ですよ（笑）。

上山 僕はどうしたらいいのかな？って思いましたよね（笑）。

——上山さん的には、一生、田村さんに付いていこうと？

上山 自分はそう思ってます。

——一生〝キャンプ〟生活を続けるわけですね（笑）。

上山 〝キャンプ〟生活って（笑）。でも田村さんにいらないって言われればそれまでなんですけどね（笑）。自分の気持ち的にはどのリングでも上がりたいですよ。例えば禁句になるかもしれないですけど（笑）、パンクラスでもUFCでも出て試合したいですね。年齢的にも僕はどんどん試合をしなければならない時期だと思うので。話がくれば、慧舟會とかアブダビでもどこへでも出たいです。失うものは何もないんで（笑）。

——田村さんはUスタイルにこだわりがありますけど、上山さんはスタイル的には何でもいいと？

上山 いや、本当は自分はUスタイルが一番好きなんですよ。掌底で前のリングスルールみたいな。

——田村さんの影響じゃなくて？

上山 はい。田村さんは関係なしで、個人的に。

——今後の活躍を期待してます。

上山 期待されても、まだ試合が組まれてないんで（笑）。でも組まれればドンドン出ていきますんで。よろしくお願い致します！

ますよ（笑）。

田村　ちょっと話変わりますけど、ボクってステロイド打ってると思います？

——は？　どうしたんですか、突然（笑）。打ってないとは思いますけどね。

田村　いや、正直に言ってどうですか？　ボディービルダーとかに「やってるんですか？」ってよく言われるんですよ。

——ボディービルダーとかは、やってるやってないってわかるんじゃないですか？

田村　ボクもやってる人と、やってない人わかるんですけど、自分の身体を客観的に見てみると（と言って自分の写真を見て）。

——やってる身体ですか？（笑）。

田村　そうそう。これはやってる身体！　バリバリやってそうな身体だね（笑）。

——ヒャハハハ。（もう一度写真を見て）でも、よく見ると確かにやってますね（笑）。

田村　コラッ！（笑）。ボクはステロイドは一回もやったことないです！　ボクの目を見て？（と言って目を閉じる）。

——目ぇ閉じてるじゃないですか！（笑）。

田村　では嫌な質問に戻りましょうか（笑）。

——なんですか、嫌な質問って？（笑）。

田村　だって『紙プロ』って嫌な質問多いよ！　俺がこういう心境だからかなぁ？

——心境もそうですけど、とりあえずKOK盛り上げること言ってもらわないと（笑）。

田村　何言ったら盛り上がりますかね？　まあボクはマイペースに与えられた仕事をこなして、いい試合をして勝つと。それをやってれば自然と盛り上がってくるとは思うんですけどね。欲を言えば、日本人選手がトーナメントの決勝にたくさん残ってもらいたいと思うんですけど。う〜ん……もう時の流れに身を任せるしかないですね。ありがとうございました！（と言って帰ろうとする）。

——ち、ちょっと待って下さいよ。最後に優勝宣言でもしましょう！

田村　……はい、優勝します。でも優勝したら、どうする？（笑）。

——またか（笑）。でも優勝したら20万ドル手に入りますし。充分じゃないですか？

田村　でもね、そうやって簡単に言うから、腹が立つんですよ！

——まあまあ、落ちついて下さい（笑）。

田村　優勝したらなんか下さいよ（笑）。お金はいいんで、なんか下さい（笑）。

——いま何か欲しいモノってあります？

田村　う〜ん……あっ、液晶テレビが欲しい！　50インチぐらいのおっきいヤツ。

——ま、それはWOWOWさんにでも頼んで下さい（笑）。でも、それぐらい優勝するのが難しいトーナメントではありますからね。

田村　そうそう。そうでしょう？

——でも、テレビは約束しませんけどね！

田村　じゃあ、鼻と鼻の間ハサミで切って下さい！（笑）。

——どっかで流行ってるんですか（笑）。

田村　いやいや（笑）。で、今回は何ページなんですか？

——8ページですよ！　だから景気のいいこと言ってもらいたいんですよ（笑）。

田村　今日はねっ、聞き手がダメ！（笑）。ボクの気持ちを引き出してくれない！

——（肩を落として）はぁ〜、すみません。

田村　結構いつもはいい感じで喋れてんだけどね。あ、みんながボクの発言についてどう思ってるか載っけて下さいよ。それ見てブルーになるかもしれないけど（笑）。

——場合によってはブルーになると？

田村　場合によっては（笑）。やっぱり、上の立場になったら下の状況とかも考えなきゃいけないじゃないですか？　でも上になるとなってたで、下の気持ちが理解してあげられないのかな。ボクはそれが負担になって考え過ぎちゃって悪い方向に行ってるのかなって。それだったら、周りのこと気にしないで、自分の闘いをすればそれでいいのかなって思うんですけどね。

——それでいいと思いますよ。今度のトーナメントなんかは特に。

田村　じゃあ、今年のトーナメントは、やりたいようにやります！

——10・9新日ドーム大会のメインに負けないぐらいの試合を期待してます！（笑）。

田村　は？　わっけわからん（笑）。

【9月9日／川崎市／アンナミラーズにて収録】



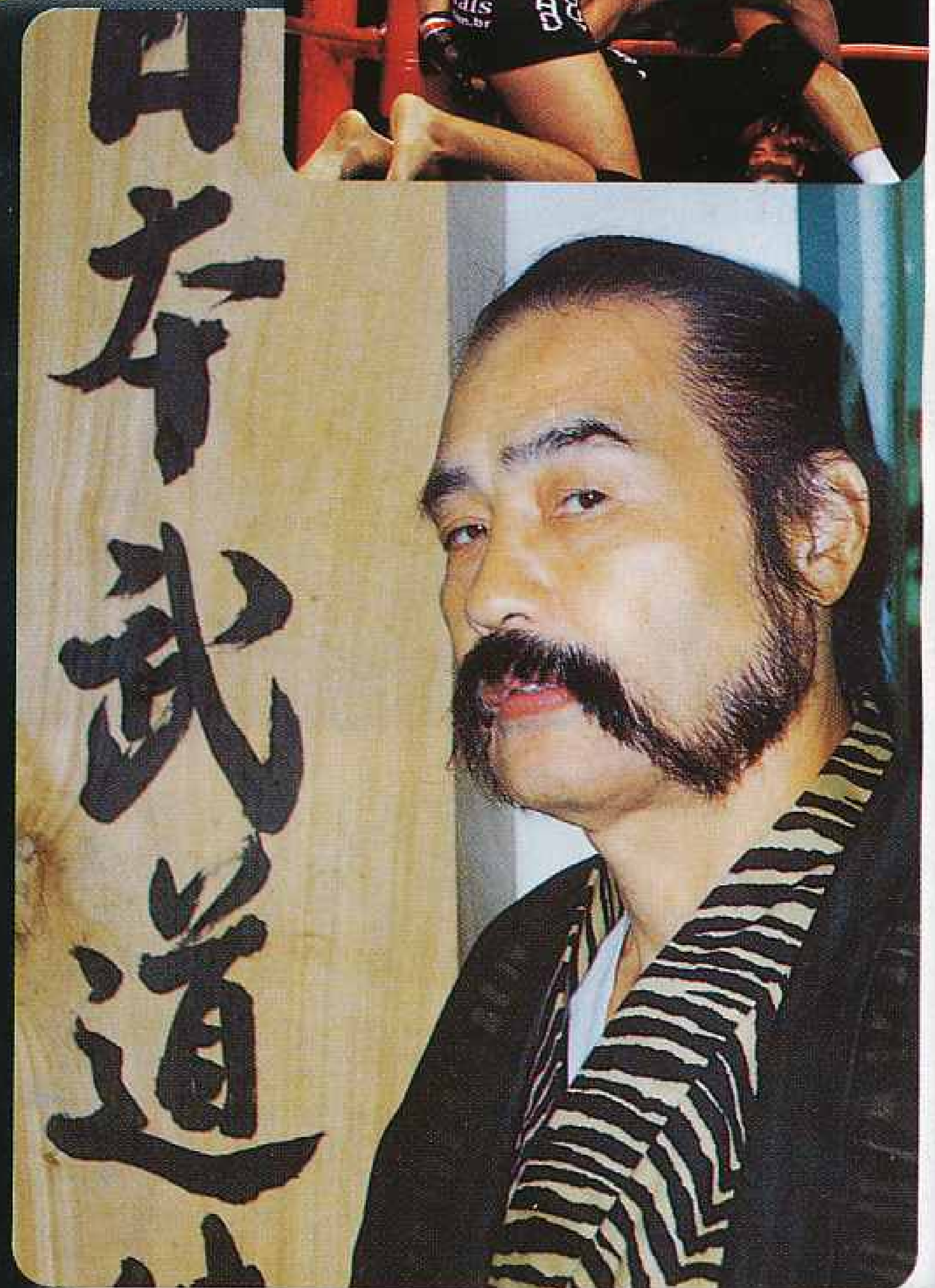
KOKとは世界規模の“前田道場”である!!





『KOK2000』開幕直前特別企画

KOKの正しい見方教えます



青春の大発見シリーズ第4弾!

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史の活字KOK超濃密講座

聞き手／山口日昇（ド素人）
interview by Gunts Horie
構成＆撮影／堀江ガンツ（ド素人）
text&photographs by Gunts Horie

おまたせしました！　毎度毎度大好評の堀辺師範の「ド素人のための格闘技講座」。第4回目となる今回は、28号で予告してから早4ヶ月。満を持してお送りする特別講座。題して「KOKを解き明かす」。KOKに対して誰もが感じていた、あんな疑問、こんな疑問を例によって、ド素人にも分かりやすく大分析。これを読まずにリングスは語れませんよォォォ!!



KOKの疑問 その1

膠着ブレイクがあり、顔面パンチを禁ずるのはなぜか？

―先生！ 予告してからずいぶん間が空いてしまいましたが、いよいよ、「KOK」を解き明かしてもらう日がやってきました（笑）。

堀辺 はい。それでは、恒例の「ド素人講座」を始めます！ 今日はバンバン行きます（笑）。

―先生、もうバンバン行っちゃってください（笑）。

堀辺 はい、行きます！ まず、「KOKを解き明かす」というのは、言い替えれば「KOKルールに関する一般的な疑問を解き明かす」ということなんです。そしてKOKルールにはズバリ言って、四つの疑問があるんです！

―今日は四つですか！（笑）。

堀辺 四つです。では、一つずつ疑問点を挙げていきます。第一に「膠着ブレイクがあり、グラウンドでの顔面パンチを禁ずるのはなぜか?」という素朴な疑問があります。

―それはKOK最大の謎とも言えますね。

堀辺 はい。これがKOKルールの最大の疑問なんですよ。このことを捉えれば、KOKルールは解明できます（キッパリ）。

―ズバリ言い切りましたね（笑）。

堀辺 ええ（笑）。二つ目が、「KOKで培った技術はバーリ・トゥード（以下VT）で役立つのか?」。そして続いての三つ目は、「マウントを取ったにもかかわらず、なぜ膠着ブレイクを取るのか?」ということです。

―理解できない選手も多いと聞きますからね。

堀辺 このことに対しては、VTを見慣れた人にも抵抗感はありますよね。そして四つ目は、同じくVTを見慣れた人にとって「KOKルールが時代に逆行しているのではないか?」と映るということです。

―KOKルールは初期修斗のルールに似てるとも言われてますからね。

堀辺 はい。今日はこれら四つを踏まえて、KOKルールを解明していきます！

―毎度のことながら実に興味深いですね。

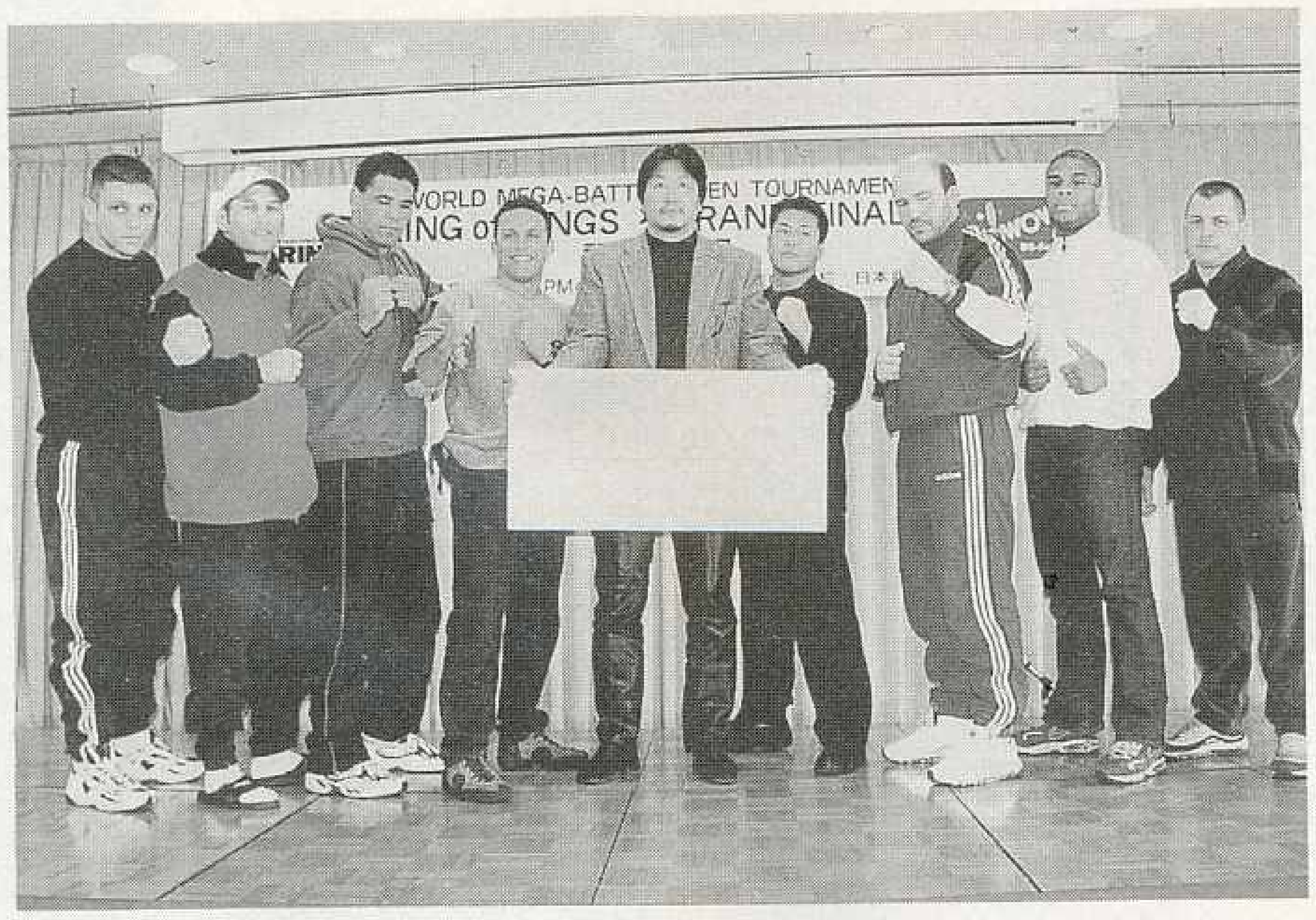
堀辺 では、これを解明するために、まず「ルール」ということを理解しなければいけません。

―「ルールとは何か?」ということですね。

堀辺 そういうことです！ 格闘技の「ルール」というのは、禁止事項の体系です。「何をしてはいけないか?」という、刑法のようなものなんです。

―刑法！

堀辺 はい。だから、してはいけないことを犯した場合には罰則がある。



昨年大好評の内に幕を閉じたKOKトーナメントが、今年も10・9代々木第2体育館で開幕する。KOK独自の見方が知れ渡れば、よりその面白さが広く認知されるだろう。

―イエローカード、レッドカードに代表されるものですね。

堀辺 そしてある一つのルールを作ると、ある特定の「格闘環境」が生み出されます。例えば、ボクシングは、キックや組み技の全てを禁止してます。そういう〝手かせ足かせ〟をはめることにより、ボクシングという格闘環境の中で〝殴る〟という行為が異常に発達したわけです。ここまで、いいですか?

―けっこうなものをいただいてます（笑）。

堀辺 ルールというものは、特定の格闘環境を作り出します。そしてその環境の中から特定の技術やプレイヤーが誕生するんです！

―つまり、マダガスカルの法律とアメリカの法律は違うから、そこに住む人たちも違ってくるということですね（笑）。

堀辺 そういうことです。戦前の明治憲法と戦後の憲法の違いにより社会環境が変わったことと全く同じです。だからボクシングと反対にレスリングは、打撃を禁止したことにより〝倒す技術〟が異常に発達したんです。このように、「何を禁止事項にするか」によって格闘環境が作り出される。そして、ある一定のルールが永続的に繰り返されていくと、それに適応した固有の技術と固有のプレイヤーが誕生するというわけです。

―ズバリ言って非常によくわかります。

堀辺 「ルールとは何か?」の次のポイント！ ここが、みんなわかってないんですよォォ！

―ワクワクしますね（笑）。

堀辺 ルールによって作られた格闘環境のもとで、選手は通常二つの反応を示します。その二つとは「順応」と「克服」です！

―「順応」と「克服」ですか！

格闘ロマン OLYMPIA 2000

堀辺 ルールによって格闘環境が決まると、選手はその設定したルールの最も簡単な形に「順応」するか、そのルールを「克服」するか。相反する二つの適応能力のどちらかを発揮していくわけです。つまり「順応派」と「克服派」に別れるというわけです。

―「順応」か「克服」か、それが問題だ！ ということですね。

堀辺 そう。「ルールに『順応』しての闘い方か?」、あるいは「ルールの中で『克服』しようとする闘い方か?」ということがKOKルールの闘いを見るうえでは非常に重要なキーワードになります！ 要するに、リングスで行われている闘いは、「順応」か「克服」の二つしかないんです！

―はっはー。

堀辺 このような法則性は、あらゆる格闘技のルールの中に見受けられるわけです。

―人間社会全体の話にも関係してきますね。

堀辺 そういうことです。これは、人間がある環境に置かれた時に起こす二つの適応の種類とも言える。つまり、作られた環境によって「順応派」と「克服派」に別れるというのは、人間の法則なんです。このことを踏まえて、KOKルールをさらに具体的に観察していきましょう。すいません、ここで一杯飲ませてください（笑）。

―ガハハハ！ 一気に飛ばしましたからね。ここらでイッキにグイッといってください（笑）。でも「順応」と「克服」というのはよくわかりますね。

堀辺 わかるでしょ。これを理解しないでKOKルールを語るなんてド素人もいいとこ！ 専門誌の中で執筆する者がそれを無視して書くことは、今後、許されなくなりますよォ！

―ガハハハ！ でも「順応」と「克服」という発想は、ド素人には出てきませんよ。

堀辺 ド素人には、絶対に出てこない！（キッパリ）。それでは、KOKルールをいま言った視点に基づき観察します。

―あ、もう休憩はいいんですか?「膠着ブレイク」がかかるのが早いですね（笑）。

堀辺 はい。バンバン行きます（笑）。KO

Kルールでは、「寝技で膠着するとブレイク」というのが最大の特徴ですよね。

——リングスのポスターにも「膠着なし！」って大きく出てるくらいですからね（笑）。

堀辺　この「膠着ブレイク」というルールに「順応」しようとする選手と、このルールを「克服」しようとする選手に別れるんです。その中でKOKルールへの「順応」が最も成功した例が、田村vsG・アイブル戦（4・20代々木）でのアイブルです！

——つまりアイブルはKOKルールに「順応」したことによって、田村に勝つことができた、というわけですね。

堀辺　その通りです！　この試合でアイブルはルールに「順応」したわけです。アイブルは、田村にテイクダウンを取られると、しがみつき何もさせないようにした。そうすることで動きが止まり、レフェリーは「ブレイク」と言ってくる。これは、選手として極めて賢い選択なんですよ。ルールを理解し、そのルールを味方に付けて選手が闘っているという意味で、アイブルの闘い方はなんら批判されるものではありません。勝利を導く手立てとしては、非常にルールを活用したいい方法なんです。

——前田日明も「アイブルのためにKOKルールはあるようなものだ」と言ってましたね。

堀辺　ところが今回、大阪で行われたパット・ミレティッチvs田村戦（8・23）では、今度は逆に田村がアイブルになったんです！

——なるほどぉ！　今度は田村が「順応」をやったわけですね。

堀辺　そういうことです！　田村は、アイブル戦で何度もタックルに行ったが、相手が「膠着ブレイク」を誘うために自分が疲れたわけですよ。そのときに「下になった場合に何もせずくっつけば、膠着ブレイクで立たされる。そしてそれを繰り返すと相手が疲れる」ということを田村がアイブル戦から学んだわけです。それで今回、田村がアイブルになり、ミレティッチがアイブル戦の時の田村になって、スタミナ切れが見られたわけです。

——なるほど！　それは面白い見方ですね。

堀辺　これは、さきほど説明した、選手は二つの反応するという中で、「膠着ブレイク」というモノに対する「順応」の具体例なんです！

——つまり田村vsアイブル戦では、アイブルがルールに「順応」し、田村がルールを「克服」しきれなかったということですね。

堀辺　そうです。この時は「順応」の方が勝ってしまったわけです。だから4月にアイブルが、そして8月に田村が見せた闘いが「膠着ブレイク」に対する「順応」という闘い方の具体例なんです。これは今後、このルールの中で必ず見られる闘い方です。

——うーん、膝を叩いてしまいました（笑）。

堀辺　次に「膠着ブレイク」の「克服」に関して考えていきます。実はKOKルールを「克服」した試合も既に現れてるんですよ。

——現れてましたか！

堀辺　はい、とっくに。それが『コロシアム2000』（5・26東京ドーム）で行われた金原vsマリオ・スペーヒー戦です！　この金原vsスペーヒー戦は現時点でリングスの理想形といえる内容だったんですよォ。しかし、船木vsヒクソン戦に目を奪われて、誰もそれに気付いてないんですよォォ!!

——先生、ボクもぜひ気付きたいです！（笑）。

堀辺　私がなぜこの試合がリングスの理想形と言うかというと、スペーヒーと金原の二人とも「膠着ブレイク」を「克服」してるんですよォォォ！

——勝ったスペーヒーだけじゃなく、金原も「克服」してましたか。

堀辺　そうです！　なぜかいうと、金原はスペーヒーが押さえ込んでもすぐうまく立ち上がり、倒されてもまた反転したりして押さえ込まれたままにならず、立ち上がったり返したりしてるんです。そしてスペーヒーも押さえ込んでいても「膠着ブレイク」を取られないように、次々と体勢を変化させながら相手を押さえ込んでいるんですね。

——それで両者のグラウンドの動きがテニスのラリーのように、「膠着ブレイク」も取られることなく続いたわけですね。

堀辺　だから、この試合は、技術によって「膠着ブレイク」を「克服」したということなんですよォ！

——技術で「克服」したということは、知能によって社会環境を克服したとも言えますよね。

堀辺　そうなんです。〝手かせ足かせ〟があることを逆用して、技術を発達させることが「克服」ということの真の意味です！「膠着ブレイク」があることにより、スペーヒーは膠着されないためにどうするべきか？　と考えた。つまり、「順応」と逆のことを考えたわけですね。そして膠着ブレイクを取られないような闘い方を自発的にやっているわけです。これが設定されたルールに対する「克服」という適応の仕方なんですよォ！

——いやー、「克服」というのは非常にクリエイティブなものですね。

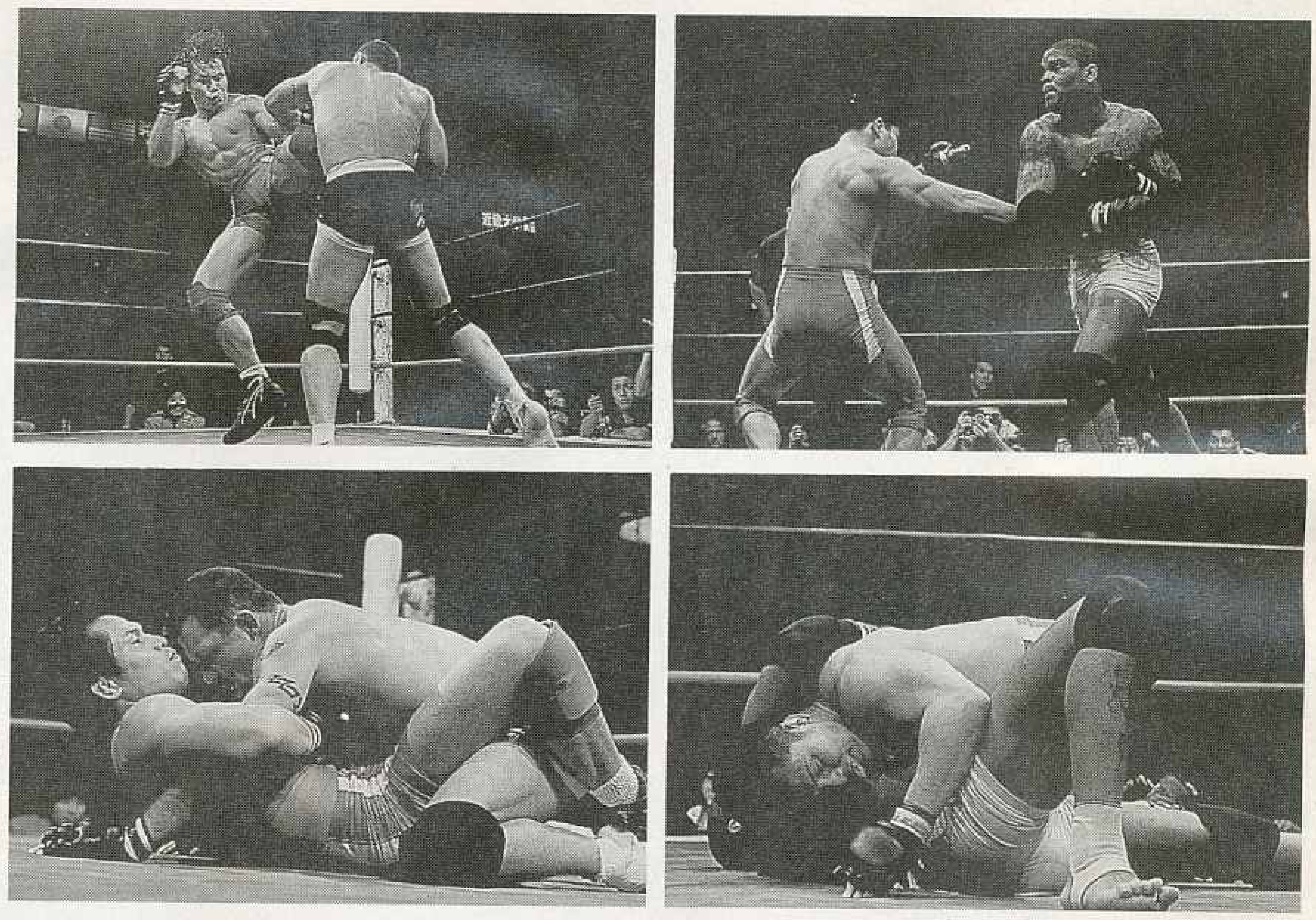
堀辺　私も『コロシアム2000』でこの試合を見て、KOKルールの持っている面白さに気付いたんですよ。そして8月の大阪大会でもまた「克服」が見られたんです。それが、ジェレミー・ホーンvsヒカルド・アローナ戦です！　この試合も「膠着ブレイク」がほとんど取られなかった。なぜ取られなかったかというと、アローナのポジショニングが相手の動きに合わせて、まるで波の上の船のように波が下がれば自分も下がる、波が起きれば自分も上がるといった形で、無理なくポジションを変えていくことによって相手を押さえ込んでいったんです。

——先生、いきなり詩的ですね（笑）。

堀辺　無駄がなく、しかも相手の動きにこだわることなく次々とポジショニングを変えていき、それでいて相手を押さえ込んでる。そういう形で、アローナがポジショニングで圧倒していた。これも「膠着ブレイク」を技術的に「克服」したと言えるわけです。つまり「膠着ブレイク」があっても関係ない戦場を、自分から技術により築き上げたんです！

——ルールが変われど、常在戦場というわけですね。

堀辺　だから、この試合を見て多くの観客は喜んだと思います。なぜかと言うと、動きがあり攻守が目まぐるしく変わっていくわけだから。これが、「膠着ブレイク」というものをいい形で消化したことになります。同じことが言えるのが、高阪vs（アントニオ・ロド



右の2枚が田村vsアイブル、左の2枚が田村vsミレティッチ。見比べてみると、田村がアイブルにやられた「順応」をミレティッチ戦では、見事に自分のものにしていることがわかる。今後も「順応」が打撃系選手の必勝パターンとなるか。

KOKの疑問 その2

KOKで培った技術はバーリ・トゥードで役立つのか？

リゴ・）ノゲイラ戦ですね。この試合も「克服」していています。ですからKOKルールの中でのいい試合というのは、「克服」という選択をできた選手の試合で、「克服」した選手が「凄い」ということに、ファンも気付いてほしいわけです！

――高阪vsノゲイラ戦なんて、レベル的にはとてつもないですからね。

堀辺 もう、最高ですよォ！ あの試合を見る限り高阪は本当に強くなりましたね。とにかく、彼は日本人で最高レベルに達してます！ だからできるんですよ、「克服」ということが。

――凄いぞ、TK！（笑）。

堀辺 では、『紙プロ』読者に「克服」ということの凄さをよく理解して頂きたいので、もう一度説明しますよ。

――もう、何度でもけっこうです（笑）。

堀辺 つまり、技術の制限があることで、逆に技術性が高まることを「克服」というわけです。これは、先ほど言った、「ボクシングのパンチがなぜ発達したか？」ということと全く同じ理屈です。「膠着ブレイク」があることにより膠着しない技術が発達したんです。すでに、ここ数試合でその片鱗が見受けられています。これは今後、永続的にこのルールを繰り返すことによって、更なる発達の可能性を秘めているということが見えたということなんです！

――まさに青春の大発見です（笑）。VTでは陥りやすい「膠着」という問題点を、ルールを制限することによって、選手の技術で解消していくということですね。

堀辺 しかし、ルールブックだけで見ている人にはここがわからない！

――ド素人どもにもわからない！（笑）。

堀辺 ルールにどのように適応するかという人間のダイナミズムを考えず、ルールブックに書かれてる文章だけで考えている人は、「すぐに膠着ブレイクを取るのは変だ」という風に考えるんですね。それでは人間の法則というものを見落として、間違った答えを導きだしてしまうんです。

――つまり、言われたことしかやらない人間と、それを克服していく人間の2種類があるということですね。

堀辺 能動的にその環境に適応する人と、受動的に適応する人との違いがあるということです。

――はっはー。「能動的」というのも、これからの話のキーポイントになりそうですね。

堀辺 はい。ここから、「膠着ブレイク」に対する結論を導き出していきます。「膠着ブレイク」は、KOKルールでは頻繁に起こるわけ。そしてそれによって、上下に関わらずグランドでのポジショニング技術の発達が促されるということです。これはルールの「克服」という立場で行われた場合ですね。ところが全ての選手が「克服」に走るとは限らないわけです！

――さっき例に出たアイブルのように「順応」によって勝とうとする人も当然出てくる。

堀辺 では、その「順応」により、いったい何が起こるか！「順応」でも、ルールによって「膠着ブレイク」は頻繁に起こりますね。その「膠着ブレイク」によって立たされることにより、グラウンドで一本取るためには、1試合で何度もテイクダウンを取らなければいけなくなった。つまり、それによってテイクダウンの技術が発達する可能性も出てきたわけです！

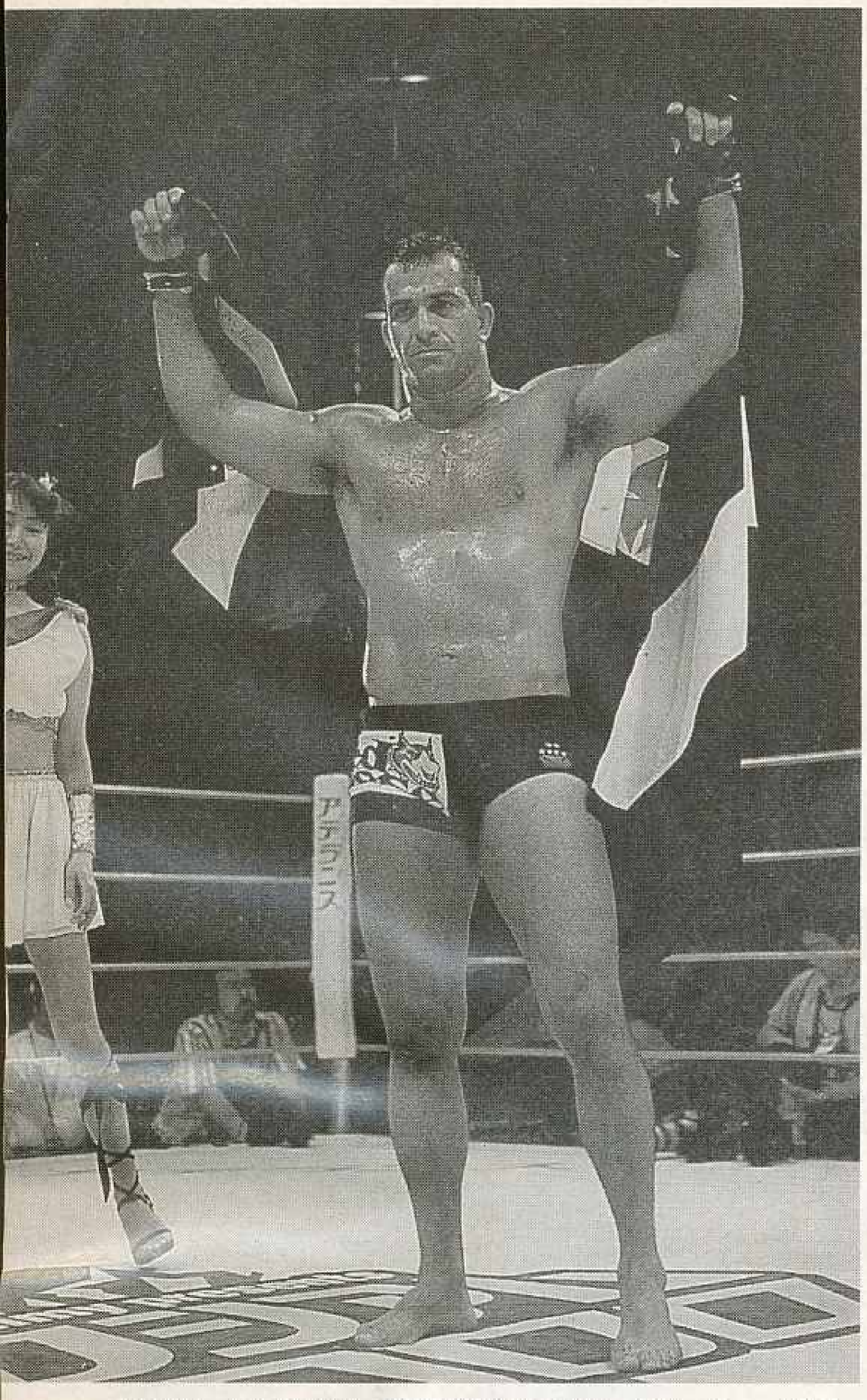
――先生、また膝を叩いてしまいました（笑）。

堀辺 VTなら『PRIDE．9』のビクトー（・ベウフォート）vsアイブル戦のように、一度テイクダウンを取ればいいんです。ところが、リングスでは1試合の中に何度もスタンドに戻る可能性があるわけだから、テイクダウンがうまくないとKOKルールでは勝てなくなるんです。だから、このルールに出てくる人は、テイクダウンの技術を磨くということが「順応」の道を選択した相手と闘う場合、最も重要なことになります。つまり、KOKを続けることによって、ポジショニングの技術が発達すると同時に、立ち技のテイクダウンの技術も発達するということなんですよォ！

――う～ん。なぜ、前田日明はそれを最初に言わなかったんでしょうか（笑）。先にそれを言ってくれてれば、ファンもマスコミもKOKルールをもっと早く理解できたんですけどね。

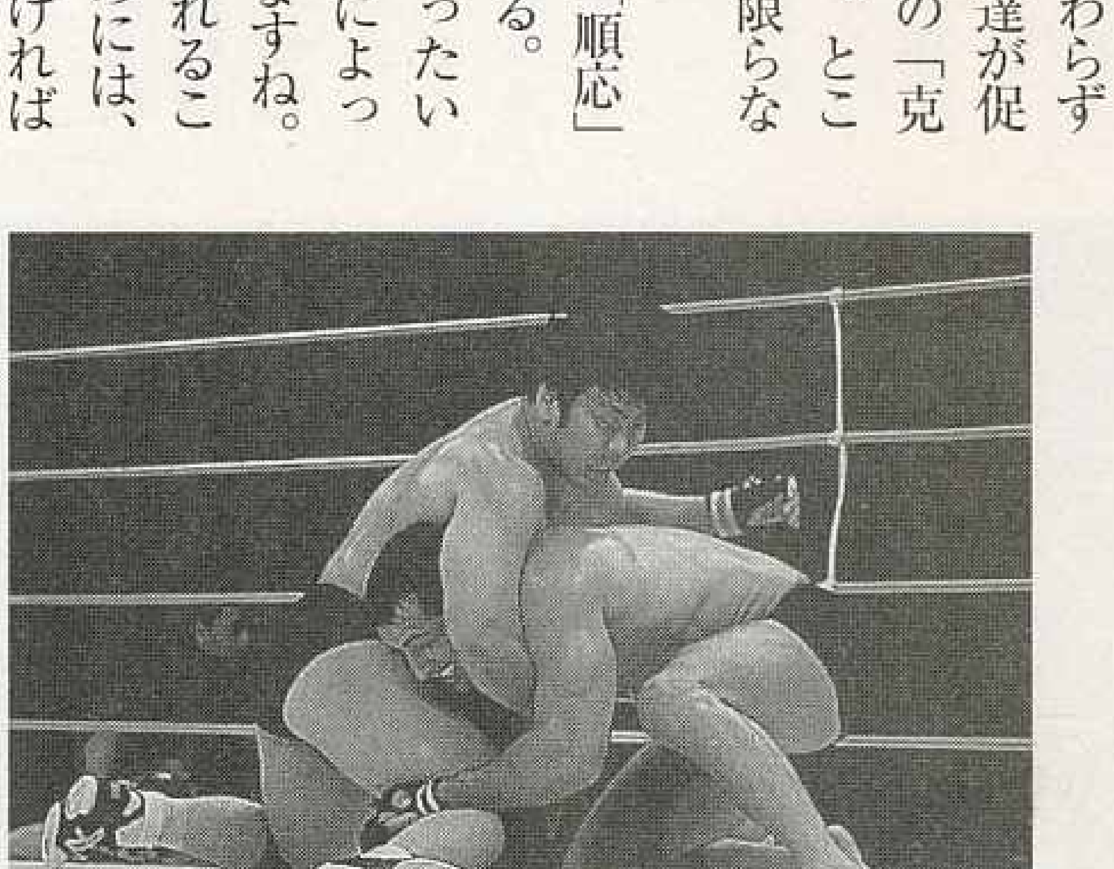
堀辺 いや、前田日明はそれを言わなくていいんです。自分で言ったらオシマイなんですよ（笑）。

――オシマイですか（笑）。



KOKルール「克服派」の最先端を行くマリオ・スペーヒー。果たしてこの、金原をして「寝技最強」と言わしめる、“ヒクソンを見下す男”のKOKトーナメント参戦は実現するか!?





まさに「膠着なし！」のハイレベルなグラウンドの攻防が見られた金原vsスペーヒー戦（5・26東京ドーム）。金原は敗れたものの、切り返す技術を次々と披露。バックを取られても、サクがヘンゾの腕を折った立ち関節を狙っている！（写真・左）。

堀辺　他人が分析して言うからこそ、その言葉が届くこともあるわけです。でも、ここまでの話でだいたいKOKが見えてきたでしょ？

――見えすぎちゃって困るくらいですね（笑）。

堀辺　では次に、「なぜグラウンドでの顔面パンチがなくてもいいのか？」という疑問がありますね。

――これが、VTに比べてKOKは刺激が少ないと言われる所以ですよね。

堀辺　まず初めに覚えてほしいのは、VTにおけるグラウンドでの顔面パンチというのは、実は〝崩し〟なんです。つまり、顔面パンチはKOを狙うモノではなく、関節技を極めやすくするためのものなんです。

――柔道でも〝崩し〟てからじゃないと、投げられませんからね。

堀辺　ところが、この顔面パンチが禁止されると、いままで通りの単発の極め技では極まらないわけですね。そうなると選手は顔面パンチという有効な〝崩し〟がないことをどのように「克服」するか、と考え始めるわけです！

――ここでも「克服」がキーワードになるわけですね。

堀辺　そうです！　これから単発の極め技で極められない、パンチも入れられないとなると、極め技から極め技へと変化していく「極め技のコンビネーション」を発達させることで「克服」していくことが読み取れます。

――立ち技にコンビネーションがあるように寝技にもコンビネーションが必要になると。

堀辺　8月の大阪大会を見る限り、まだまだ寝技のコンビネーションに関しては「克服」の場面が見られませんでしたが、すでに足関節技などで片鱗は見られました。

――マリオ・スペーヒーなどには、すでにその片鱗が見えますね。

堀辺　そうですね。だから今後、必ず「極め技のコンビネーション」によって「膠着ブレイク」と「顔面パンチなし」というものを「克服」して、ものの見事にグラウンドで勝利する人が出てくるはずです。

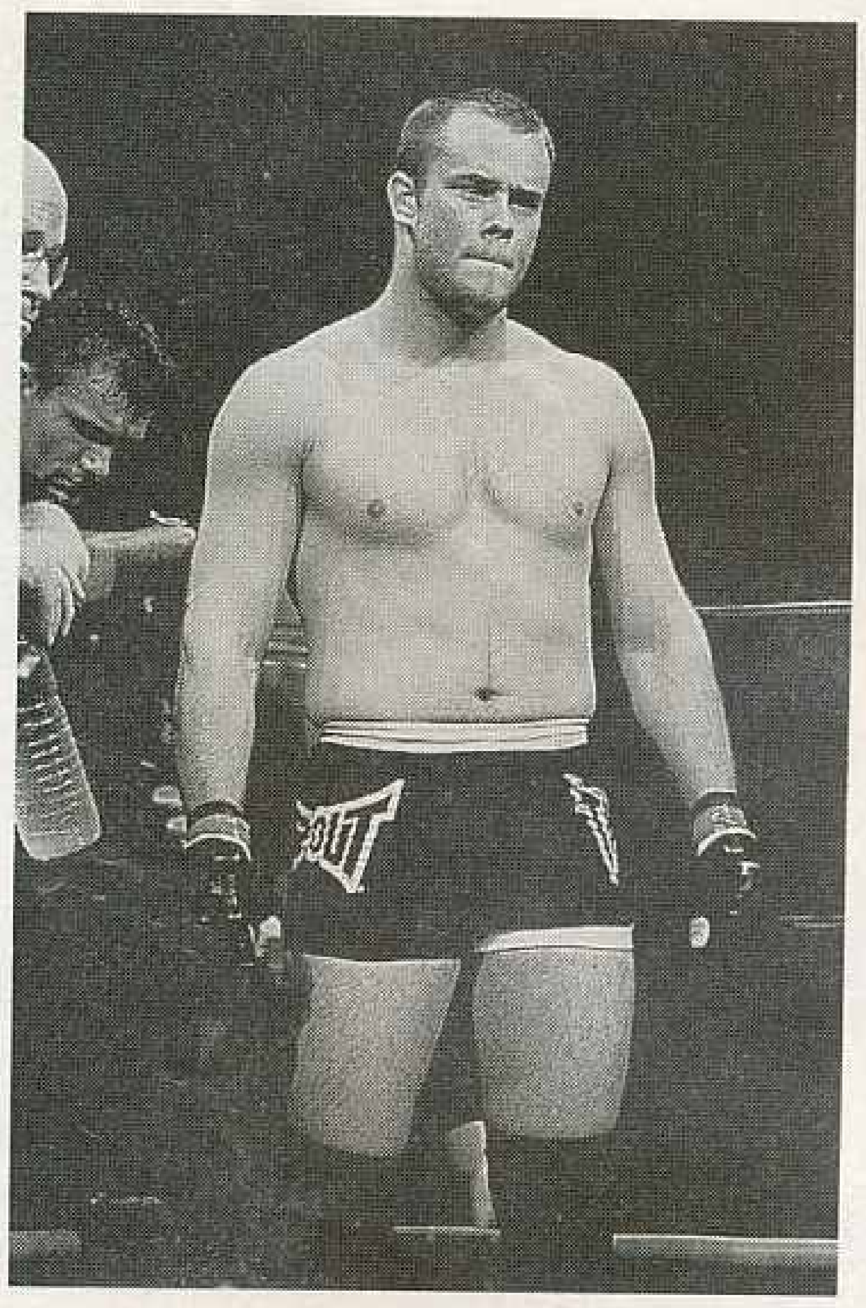
――それは、一刻も早く見たいですね。

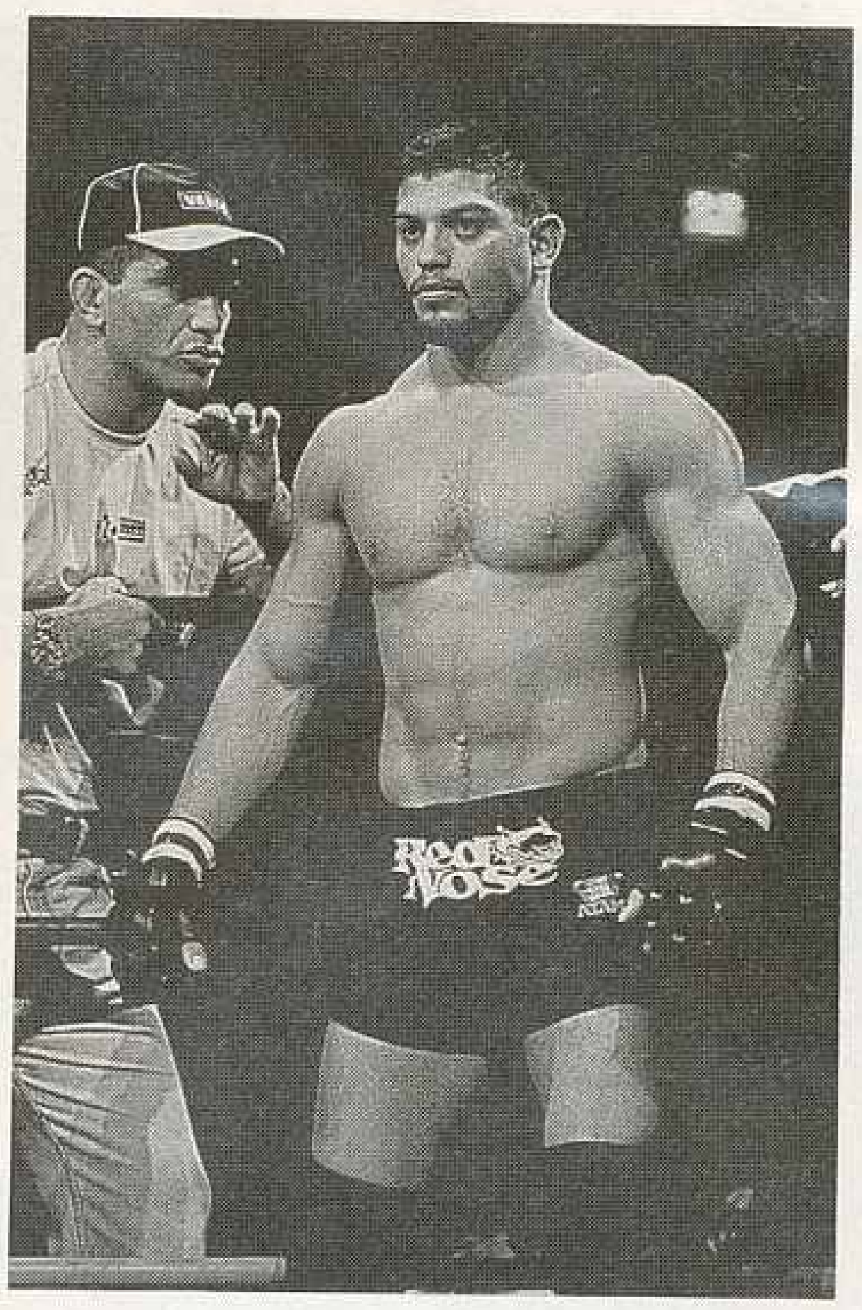
堀辺　これが出てきた時に、KOKルールは完成の方向に向かいます！　このように、膠着と顔面パンチなしということを結び付けて考えていくと、寝技と立ち技が両方発達することと、「極め技のコンビネーション」が発達することになるんです！

――はっは～、「克服」の場面をより多く生むために、禁止事項を多くしたわけか。

堀辺　それと、次にKOKルールでは「マウント・ポジションは不要ではないか？」という意見も出てくるわけですよ。

――VTでは最も有効でも、KOKでは必ずしも有効ではないという意見は確かにありますね。





これからリングスの技術的レベルアップを加速させそうなのが、このジェレミー・ホーン（左）とヒカルド・アローナの2人。共にまだ20代前半で、これからどこまで強くなるか計り知れない。

堀辺　でも、これも大阪大会も見ていて思ったんですが、顔面パンチがある、なしに関係なく、やはりマウント・ポジションは有効です！

――それはどんな点でですか？

堀辺　それはマウントをキープしていれば「最小の力」で相手をコントロールでき、且つ相手の動きに常に対応できるからです。そういう意味でマウント・ポジションは、顔面パンチのある、なしに関係なく有効です！

――つまり、KOKでもポジショニングは重要だということですね。

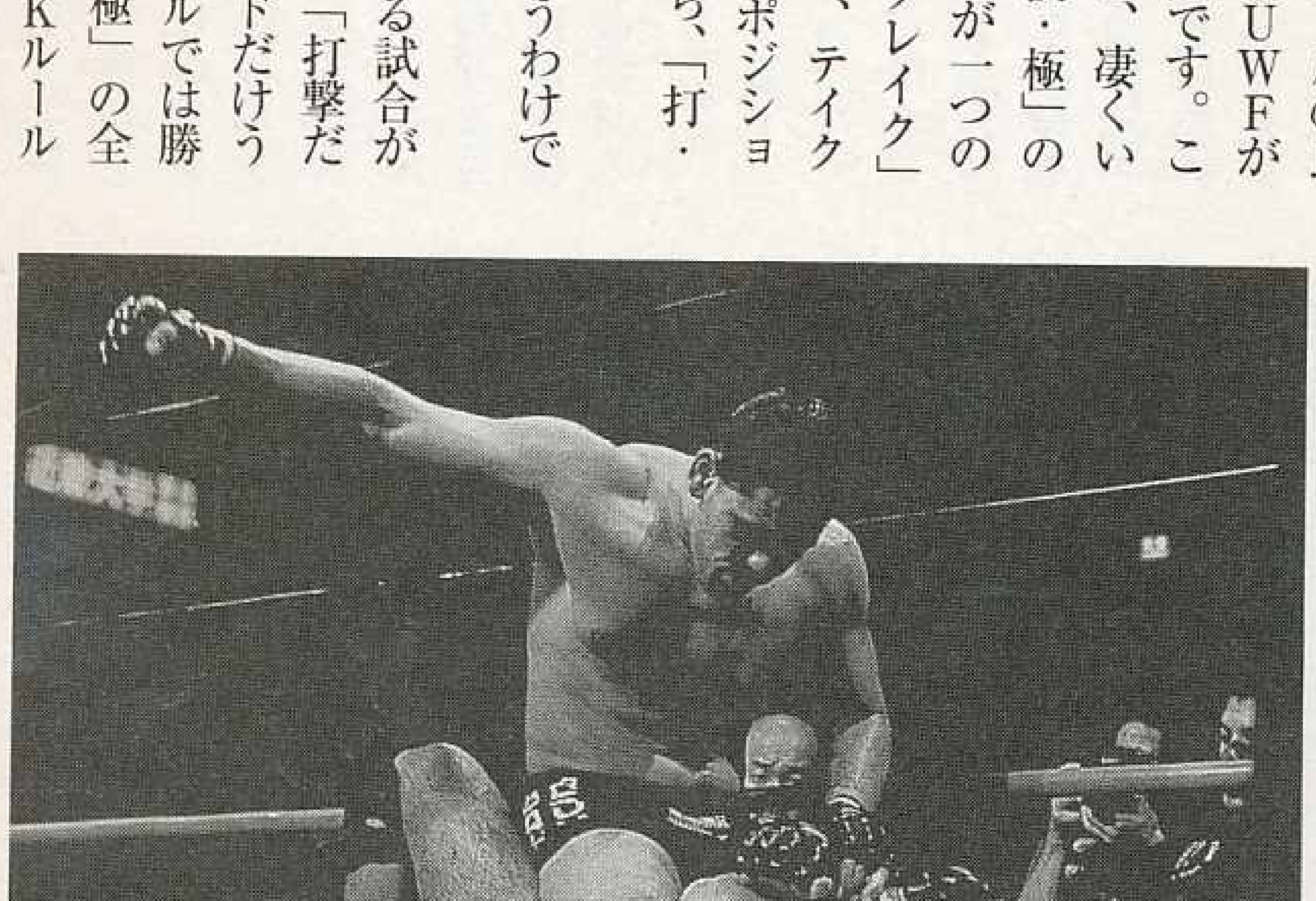
堀辺　その通りです！　では、この辺でKOKルールの総評をします。KOKルールの良い点は、「打・投・極」という、昔UWFが唱えたことがそのまま表れている点です。これが古いと言う人もいますが、実は、凄くいいことなんです。ですから「打・投・極」の境目がしっかりしているということが一つの利点です。それと同時に、「膠着ブレイク」に「順応」した選手が相手のときは、テイクダウンをする度にスタンディング・ポジションに戻らなければいけない。すなわち、「打・投・極」が何度も回転するんです。

――「打・投・極」は連鎖するというわけですね（笑）。

堀辺　そうです。否応無しに連鎖する試合が出るということです。そうすると、「打撃だけがうまい」という選手では、KOKルールでは勝てないということです。「打・投・極」の全てのスペシャリストでなければKOKルールを長くやった場合、絶対勝てなくなります！

――まさに〝総合格闘技〟というわけですね。VTの場合だと何か一点秀でていれば勝てる可能性がありますよね。

堀辺　一点突破でも勝てます！　だからVTでは自分の持ち味にどうやって相手を引き込むかという戦略が大事なんです。桜庭がVTで強いのも、決して自分の不得意な場所では闘わないからです。自分の形に相手をはめ込んでいき、自分の最も有利な局面で闘うんですよ。この間のヘンゾ戦（8・27）を含めて桜庭の試合は全部そうなんです。自分がヤバいところでは絶対付き合ってないんですよ。だからVTは〝自分の場〟をいかに作り出すかという点にかかっていたんですが、KOKルールは、最終的に全てにおいてパーフェクトでないと勝ち残れないようなルール構造に





グラウンドの上下のポジションが、次々と入れ替わる“回転体”を見せた高阪vsノゲイラ（8・23大阪）。TKはこの試合で右ヒザ靭帯を切ってしまい、ドローに終わったが、一刻も早く治して今年こそ決勝トーナメントで活躍してもらいたい

なっているわけです。

――それは実に過酷じゃないですか。

堀辺 過酷なんですよォ！ 何度もスタンディング・ポジションから「打・投・極」を繰り返さなければいけないということは体力が非常に要求されます。体力というのは、単純に肉体的なことだけではなく、頭の体力もあるわけでしょう。格闘家にとって頭脳というものも体力の一部ですから、頭脳が停止すると闘えないわけですよ。心肺機能、筋肉、頭脳といったもの全てのスタミナがないとKOKルールでは勝てなくなります。つ・ま・り！ KOKルールとは、まさに〝トータルファイター〟としての実力を養成し強化する最高のルールということなんです！ KOKルールというのは、「いかにしたら強くなれるか」というルールなわけです。このルールで闘っていれば確実に強くなれるようになってるんです！

――なんか教習所みたいですね（笑）。

堀辺 ハッハッハ。まさにそうです（笑）。〝トータルファイター〟の教習所みたいなもんなんです。なぜなら総合を目指す選手にとっては最も普変的なルールなっているということです。世界中の総合格闘技をやる選手にとって、このルールで闘うことは自分の実力を強化するんです。リングスは総合格闘技養成訓練所なんですよォ！

――だから、アイブルはKOKルールで養成されてVTに行ったんですね。そして、「うちは、『PRIDE』の養成所じゃないやんけ」と前田日明が怒った（笑）。

堀辺 ハッハッハ。総合格闘技はいま世界中で注目されてます。これは、地球の動きと合っているわけですよ。現代は政治、文化あらゆる分野が垣根を越えて国際化していますよね。

――いわゆるボーダレスの時代というやつですね。

堀辺 ボーダレスの時代では、やはり格闘技も〝統合〟が時代の先端を担うんですよ。その先端を担う時に、その〝トータル・ファイター〟を輩出する機構というものがなければVTも滅びるんです。リングスは選手養成所であることにもっともっと誇りを持つべきなんです！

――『PRIDE』に奪われたんじゃなく、養成してやったということですね。

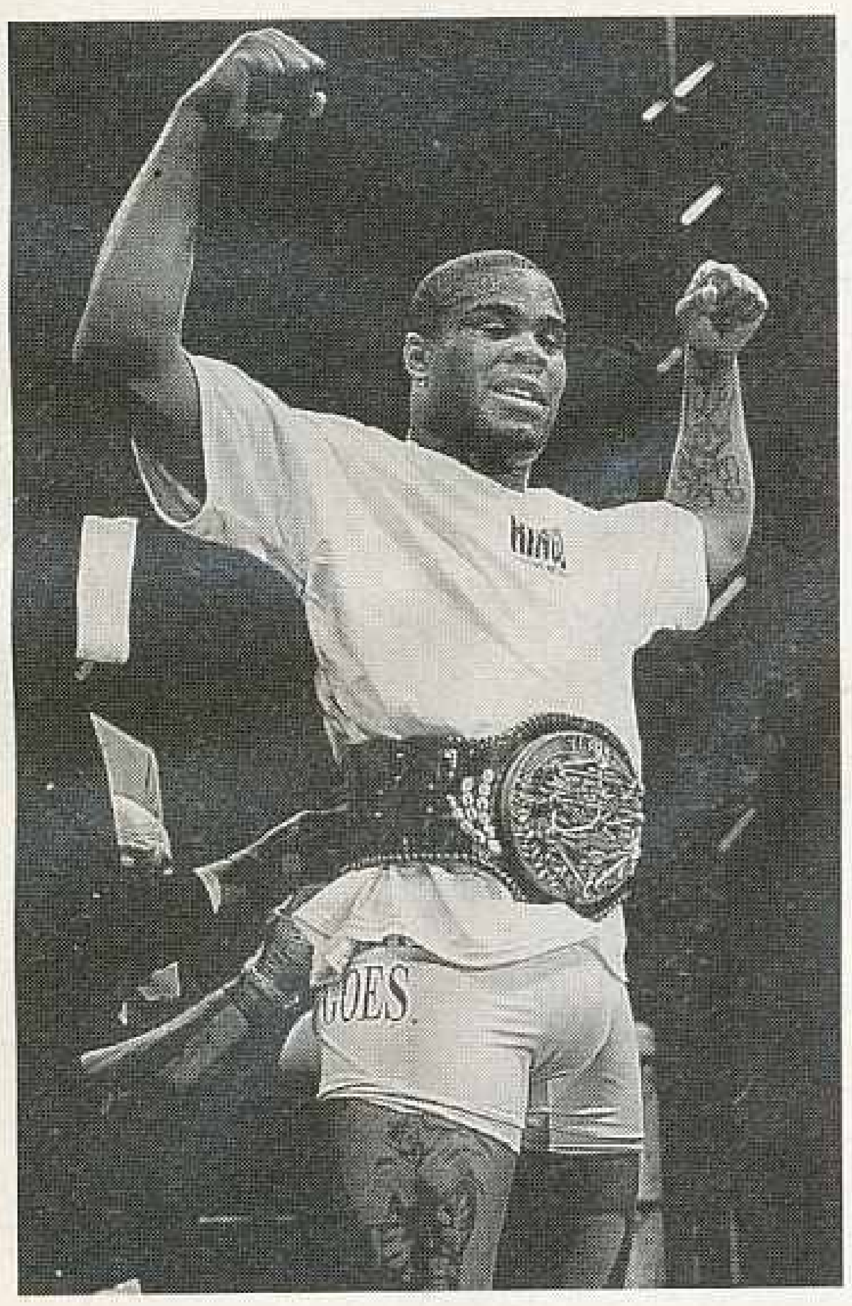
堀辺 リングスは、これから世界中にトータル・ファイターを作り出す〝場〟なんだということです。私は、そういう意味でKOKルールはオリンピック種目にもなる可能性を秘めていると考えますよ。

――全世界に普及できるルール。

堀辺 全ての総合格闘家にとって公平なルールだと言えるんです。これは、オリンピック種目を目指してもいい位のルールだと私は思いますよ。だからリングスのネットワークを世界中に設立したり、試合を行うだけではなく、「これをオリンピック種目にしましょう！」ということを謳い文句にして、選手や観客に訴え、そして署名を取るべきです！

――署名を取りますか！（笑）。

堀辺 各地で大会を開催する度に、「KOKをオリンピック種目にしましょう！」という運動を並行していって、これを実現したら素晴らしいですね。そしてKOKの特徴である「打・投・極」というものはUWFが掲げた



4月に田村を破り、リングス無差別級王者になった10日後に『PRIDE』移籍を表明したアイブル。これからもアイブルに続く『PRIDE』への選手流出はあるのか？

KOKの疑問 その3
マウント状態でも膠着ブレイクを取るのはなぜか？

理念です。つまり、KOKルールはUWFの完成型だと言えるんです！ UWFがミレニアムのリングスで完成したんですよォ！

――KOKはUWFミレニアムですか！

堀辺 UWFは終わったのではなく、KOKルールによって日本から始まった「打・投・極」という総合格闘技の理念が完成型になったんです。「UWFは、死なず」ということです。

――先生は以前、『PRIDE』はウチが言ってる「新プロレス」になりえると言ってましたけど、その意味では、リングスも「新プロレス」になりえるということですか。

堀辺 なりえますね。ただ、みんながそういう見方をしてない。なぜかというと、紙の上のルールブックを読んで議論ばかりしていて、ルールという環境の中で活動する人間のダイナミズムを分析してない。それを分析しなければ答えは出てこないんです。その眼を持たないと、「膠着ブレイク」そして「グラウンドでの顔面パンチなし」が現在の流れに反しているという結論しか導きだせないわけです。人間は、その環境を「克服」しようとする優れた動物だということを忘れている。「膠着ブレイク」そして「顔面パンチなし」というものを「克服」しようとしている選手がすでに出てきているんですよ！ ところが名前は言いませんが、ある専門家は、「KOKルールは、やればやるほど弱くなる」と言ったらしいんです。

――ああ、聞いたことありますね。

堀辺 それは、間違いです。全く逆です！

――その専門家の発想がド素人化したというわけですね。

堀辺 キーワードは「順応」と「克服」なんです。そしてやはり誉められるべきは、「克服」タイプの選手です。これから、観客が今日話したような知識を得ると、「克服」した選手にしか拍手を送らなくなりますよ。

――KOKがさらに面白くなってもらうために、早くそうしたいですね（笑）。

堀辺 「順応」タイプの選手にはブーイングを浴びせて、「なぜ、自分は人気がないんだ？」と考えさせればいいんですよ。そうすれば「あっ、そうか。『順応』してしまったからか」と気付いて「克服」が促進されますよ（笑）。

――それはVTに置き換えて考えてみても同じですよね。VTルールを「克服」した代表選手が桜庭ですよね。

堀辺 そうです。チケットを売る以上は面白くなくてはダメなんです。「真剣勝負だから面白くなくてもいい」ということはないですよ。プロレスが格闘技になっていく初期の段階では言えたかもしれないけれども、いまそれを言ったらオシマイですね。自らプロレスに負けるということです。やる側も観客がワクワクするような試合をしないとプロじゃないです。だからリングスの観客が変われば選手が変わるんです。誰だって人間は誉められたいですからね。だから、誉められる方へ自然に走っていきます。

――やはり、どこまで行っても勝負論と観客論が並行しなければいけないわけですね。

堀辺 当たり前ですよ。お金を貰って、そして〝プロ〟格闘技である以上は、観客論と選手のモチベーションというものには密接な関係があるわけですからね。

――いま『PRIDE』の方がプロレスファンを動員してますよね。KOKは格闘技マニアは目が行ってるけども、プロレスファンは以前のリングスより少なくなってる。でも、いままでの話を聞いてると、KOKも、プロ

KOKの疑問 その4

KOKルールは時代に逆行しているのか否か？

レスファンなら、その動向に注目しなければならないと。

堀辺　ならないですね。KOKは各国でやっていくべきです。「これをオリンピック種目にしましょう」ということがどんどんやれるんですよ。オリンピック種目になれば全ての流れが変わります。金メダリストはお金を稼ぐものとは違うものが残りますからね。同じルールでリングスに来たら、さらにお金が貰えるということで両方やりますよ。オリンピック種目と同じことがやれれば面白いですよね。底辺拡大にももってこいだし。また、「グラウンドでの顔面パンチなし」ということで世界各国に普及しやすい。顔面があることでVTは放送できない地域もたくさんありますからね。顔面ありのルールでオリンピック種目になることとは無理ですよ。だからKOKルールは、社会的に力を持てる可能性も秘めているんです！

――そこには、前田日明の情念を感じますね。社会となんとか接点を持とうとする（笑）。でも、KOKルールはすでに外国では受けがいいみたいですからね。

堀辺　なぜかと言うと、それはテクニカルな闘いになるからです。技術を主体とした闘いになっていくという予感があるわけです。だから、このルールで強い人は凄いということになります。苦手なこともやらなければいけない強制ルールなんです（笑）。

――地獄のルールですね（笑）。

堀辺　だから、このルールにはヒクソンは出てこないです。ヒクソンには、いろいろ弱点がありますから、やらないですね。本当の意味での〝トータル・ファイター〟でないと出てこれないでね。

――〝トータル・ファイター〟というのはUWFの理念でもありますからね。

堀辺　その点ヒクソンは、テイクダウンしてマウントを取ったらホッとした顔しますからね。「膠着ブレイク」取ってもう一回となると、ヒクソンは「もう、やめた」と逃げ出しますよ（笑）。

――その過酷なルールの中では、また人間力が試されるから、非常に人間臭いルールとも言えますよね。コピィロフやハンがあっぷあっぷになりながらも若い選手と闘う姿は、社会の縮図みたいなものを感じますしね（笑）。

堀辺　KOKはいつも選手にムチを打っているルールなんですよ（笑）。

――ラクできない（笑）。

堀辺　そうです！　大阪のダン・スバーンvsコピィロフなんかを見ても、あのVTでは無尽蔵のスタミナを誇り、UFCで優勝するようなスバーンがスタミナ切れを起こしてる。いかにVTと違うかということがわかりますよね。だから今後、彼が何度もリングスに来日し、自分の弱点を克服して、またVTに出場したら、もう一皮剥けたダン・スバーンが表れますよ！

――40歳を越えて、さらに一皮剥けますか（笑）。

堀辺　このルールで続けていけば、そういう可能性も秘めているわけです。ルール自体が選手を強化する道場なんですよ。

――そうか！　KOKルールは、形を変えた、世界規模の「前田道場」だったのか！（笑）。

堀辺　ハッハッハ。そうとも言えますね。どうですか？　この話を聞いてKOKルールの本質が見えたでしょ。

――見えすぎちゃって困りますね（笑）。KOKの魅力は本当に言語化することが難しかったですから。あともう一つ先生にお聞きしたいことがあるんですけど、やはりKOKルールには「判定とは何か？」という問題がある思うんですよ。

堀辺　はい。でも、KOKで判定があることは自然なことであって悪いことではないんです。逆に本来ならVTこそ、判定はあってはならないんですよ。『PRIDE』には、判定がありますよね。あれがいけないんです。

――なぜ、KOKの判定はOKで『PRIDE』ではダメなんですか？

堀辺　それはズバリ言って、〝誰がいま一番強いか〟を決めるのがVTだからです。KOKルールというのは、選手を強くしていく強化合宿訓練なんです。「選手ムチ打ちルール」ってやつだから（笑）。だから、勝負がつかなくても、今の時点でどちらががんばっていたかという評価を下すという意味で判定はいいんです。

――その辺に人間味が絡んでくるんですね。

堀辺　そうです。KOKでは、「判定はくだらない」と言ってはいけない。

――ターザンは思いきり言ってましたけどね。

堀辺　それを言う人は格闘技がわかっていないドドドドド素人ですよォォォ!!

――ガハハハ！　「ド」が五つ付きますか（笑）。でも、8・27の『PRIDE．10』では、判定決着が第一試合のみで、後は全て膠着なし、全部決着が付きましたよね。逆に、「膠着なし」が売りのリングスの8月の大阪大会の方が、全体のイメージとして膠着していたという声もある。これは、どういうことなんですか？

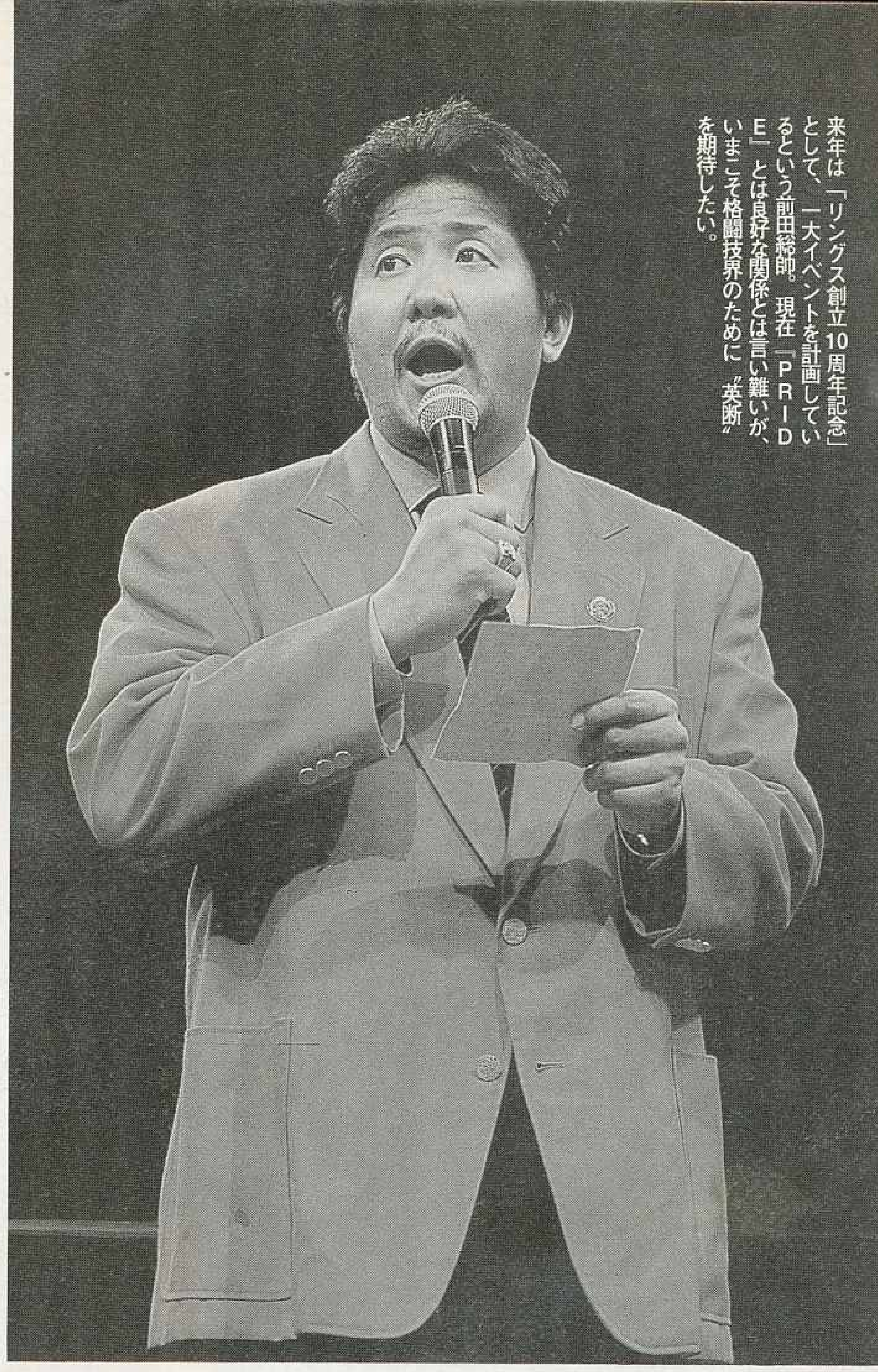
堀辺　それは、KOKルールがまだ完全に選手自身の肉体の中に浸透してないからです。それはまだこのルールができて1年だから仕方がないことです。VTも最初は技術的じゃなく、ただの喧嘩みたいな、プロの格闘家と呼べないような試合がたくさんありましたよ。やはり回数を積み重ねないと正当な評価にはならないですよ。

――8・23のリングスと8・27の『PRIDE』を比較して、「リングスより『PRIDE』の方が面白い」という判定を下すのはまだ早いということですね。

堀辺　早すぎますよォ！　しかも『PRIDE．10』が面白かったのは、新日本の石澤（常光）が出たりとか、プロレスラーが多く参加しているところが面白さを増しているわ



リングスが誇るヘビー級とミドル級の2枚看板「世界のTK」と「世界のKT」。この2人を「前田日明プロデュース」として『PRIDE』に送り込んだら、格闘技界の一大起爆剤となるだろう。



来年は「リングス創立10周年記念」として、一大イベントを計画しているという前田総帥。現在『PRIDE』とは良好な関係とは言い難いが、いまこそ格闘技界のために“英断”を期待したい。

けであって、VTそのものの問題ではないですね。だからリングスも高阪を一度『PRIDE』に出して、強さを見せつければいいんですよ。

——それは見たい！

堀辺　今回、8月のリングスの試合を見て思ったことは、とにかく高阪が強くなったということです！　だから高阪は一度、『PRIDE』に出場して満天下にその強さを証明すべきですよ。そうすると、もっとみんながリングスの面白さに納得しますよ。

——高阪とノゲイラなんてスイープだらけで、プロレスでもこうはならないんじゃないかっていうくらい、グルングルン転がってますからね（笑）。

堀辺　あれができるということが、どんなに選手を訓練しているかということに着目しなくちゃいけないんですよ。KOKルールが世界へ広がっていけば、VTの技術も底上げすることができるんですよ。

——KOKとVTは、共存共栄の関係でやっていった方がいいということですね。

堀辺　共存共栄で成り立つ世界です。どちらがどちらを否定するといったことではないです。独自のそれぞれの領域があり、それぞれの「格闘環境」の良さがあるわけだから。

——日本のプロレスが特殊なように前田日明も特殊な存在ですからね（笑）。どうしても、いまは『PRIDE』と睨み合ってしまってますけど。

堀辺　睨み合う必要はないですね。違うものですから。

——『PRIDE』に「アントニオ猪木プロデュース」の試合があるんなら、「前田日明プロデュース」で何試合か出したら面白いですよね。

堀辺　そうなると、もっと格闘技界全体が面白くなりますよ！

——これは、誌面にでガーンと打ちますか。「前田日明プロデュースで田村とTKを『PRIDE』に出せ！」と（笑）。

堀辺　ハッハッハ。田村は高阪と比べると、まだ安定感がありませんけど、キックボクサーになれるくらい打撃のセンスがいいですね。だから彼は、『PRIDE』より、掣圏道に行ったらいいかもしれない（笑）。

——ガハハハ！　それは衝撃だ。でもKOKルール自体が選手を強化する道場なら、他のリングに出して行くというのは考え方としては、ありですよね。

堀辺　それをやったら、もっとダイナミックになって面白くなりますよ。前田日明自身も、そうした方が、いま彼の持っている世界と、彼の歩んで来た道が繋がるんです。

——『PRIDE』を攻め込むのが一番似合うのが前田日明ですからね。

堀辺　だから、これからも『PRIDE』に選手を引き抜かれることもあるかもしれない。でも、仮にそうなったとしても「引き抜かれた」とは言わない方がいいですね。「送り込んだ」というべきなんですよ！

——前田日明はそういうことは全部わかってるんでしょうけど、でも、その場では怒りが収まらないんでしょうね（笑）。

堀辺　KOKルールで活躍して注目されると『PRIDE』は欲しくなりますよ。この流れは止められない。止められないのなら、「KOKで鍛えられた人間がどれだけ強いか見ろ！」と言うくらいの方が絶対いいし、ダイナミックです。

——「ウチがなけりゃ『PRIDE』なんてないやんけ！」って言えばいいんですね（笑）。

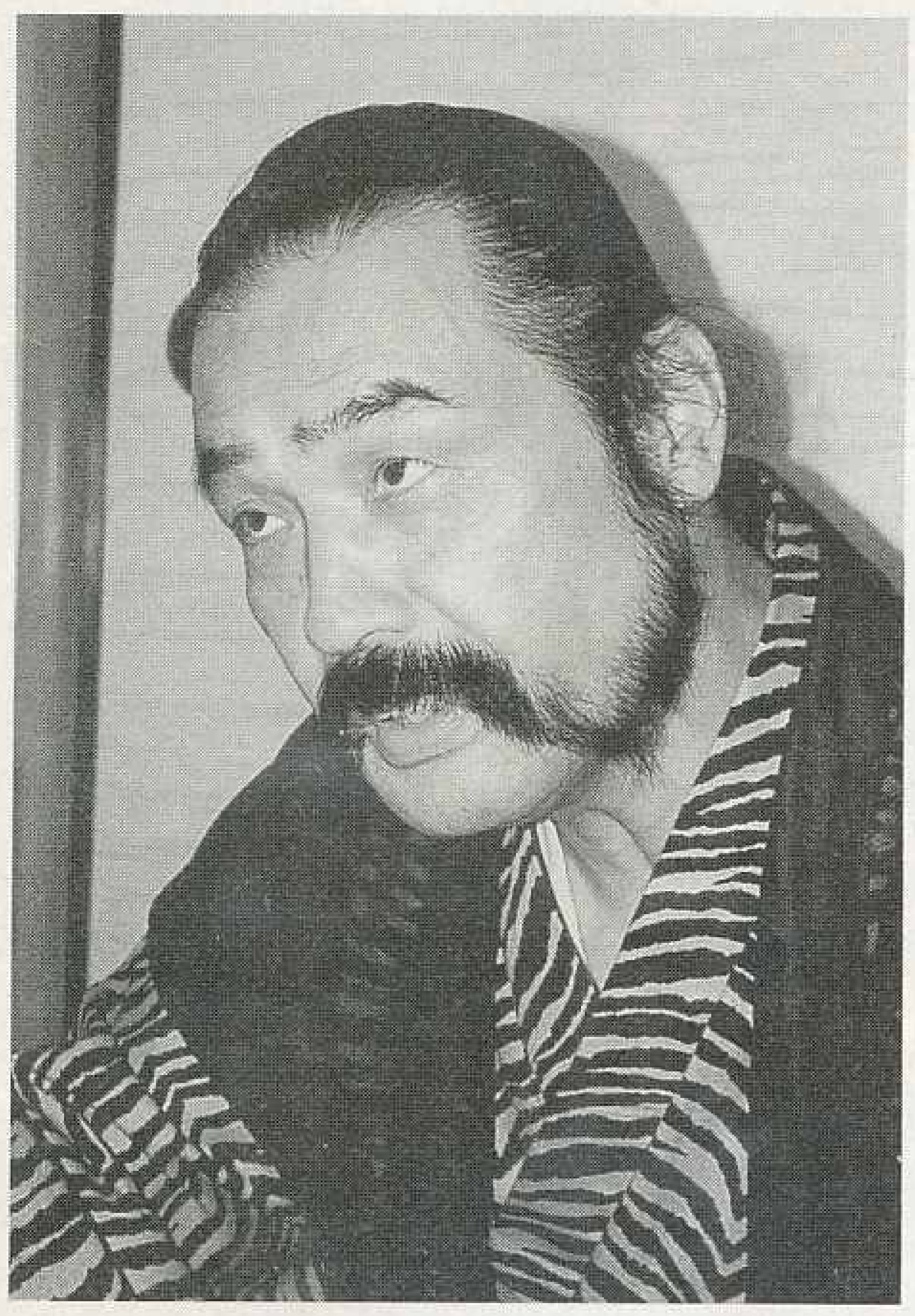
堀辺　いまの情勢を見ると、それが自己主張ですね。逆に、その自己主張をしないとリングスは無くなります。みんなに見放されますよ。

局長（堀辺先生夫人）　こういう話をホントはTV中継の解説でもやったほうがいいのよね。リングスのTV解説を先生と山口さんでやったらいいのよ（笑）。

——ガハハハ！　先生はともかく、ボクがやったらクマクマンボに怒られますよ（笑）。


堀辺　ハッハッハ。怒られるくらいが『紙プロ』らしくていいんじゃないですか。

【00年9月8日　東中野　割烹「大はし」にて収録】



プロフィール

【ほりべせいし】1941年茨城県水戸市生まれ。日本武道傳骨法創始師範。50年間に渡って命懸けで「喧嘩」を追求し、“路上の完全拳法”骨法を完成させる。本誌を始めとする格闘技評論、そして秘伝の骨法整体セミナーも大好評。現在は「どどどどどマイナー」（堀辺先生・談）な観客なしの武道試合開催を計画中だという。


FIGHTING NETWORK RINGS
総勢32名参加 優勝賞金20万ドル。
WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT 2000
KING of KINGS
世界最強の男はリングスが決める
2000.10.9(月・祝) OPEN-15:00 START-16:00
国立代々木競技場第二体育館
入場料金
ロイヤルリングサイド：￥20,000
アリーナリングサイド：￥15,000
リングサイド：￥10,000／スタンドS：￥7,000
スタンドA：￥5,000／スタンドB：￥3,000
学生特別優待席A：￥2,000／学生特別優待席B：￥1,000
※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。
なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、
学生証の提示が必要となります。
発売場所
チケットぴあ TEL:03-5237-9999／CNプレイガイド-TEL:03-5802-9999
ローソンチケット-TEL:03-3569-9900（Lコード-32033）
後楽園ホール-TEL:03-5800-9999／レッスル渋谷-TEL:03-3464-0078
レッスル池袋-TEL:03-3989-0056／書泉ブックマート-TEL:03-3294-0011
大山アメリカン-TEL:03-3962-6443／ビデオショップチャンピオン-TEL:03-3221-6237
フィットネスショップ水道橋店-TEL:03-3265-4646
ファイター新宿店-TEL:03-3354-1903／格闘技プロショップイサミ-TEL:03-3352-4083
イサミ尚武堂-TEL:03-5214-6487
●お問い合わせ：オデッセーTEL:03-3796-9999／
WOWOW情報ダイヤル（24hテープ）TEL:045-683-8009
主催：WOWOW日本衛星放送／
FIGHTING NETWORK RINGS
後援：日刊スポーツ新聞社／東京スポーツ新聞社
協力：日ロスポーツ交流協会／日本コマンドサンボ連盟
2000.12.22(金) KING of KINGS トーナメントBブロック 大阪府立体育会館
2001. 2.24(土) KING of KINGS グランドファイナル 両国国技館

格闘ロマン OLYMPIA 2000

No.31 Main-Event



No.31 Semi-Final

紙のプロレス RADICAL

2000 No.31 CONTENTS

Art Director
出田さん●San Ideta
Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
村松さん●San Muramatsu
マツくん●Kun Matsu
グッチー●Gutty
モリやん●Yan Mori
Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae
Zero Graphics
海老沢 勇●Isao Ebisawa
Cover Model
アントニオ猪木
Cover Photo
乾晋也

※「RADICALとは何か?「根源的」、「根本的」って意味。もっと知りたきゃ、ここに来てオレの横っ面ぶっ叩いてみろ!

Scandal & Scoop

Radical Fight

Columns

Specal

Another

RADICAL特製ピンナップ

折り鶴100万羽達成記念
祝橋本真也復帰記念おりがみ
●
『“燃える闘魂”アントニオ猪木』
by“ゴキータ”こと五木田智央

ビートたけしのご子息、北野あつし君がロスで行われた「第2回ヒクソン柔術大会」で柔術デビュー――世界4位に!（参加者6名中）



『PRIDE.10』に立ち昇った「猪木の勝利」と「猪木の敗北」!!

ストロング・スタイル座談会決行ーッ!!

「新プロレス」勃興にどうする新日本!! 飛び出せオーちゃん!!

『PRIDE』プロデューサー・猪木を通して見えた2つの部分とは何か？

「いつ何時でもモチベーションを高める」のが猪木イズム

山口　さ、「暑い夜には熱い闘いがよく似合う」ってことで、ヤワラちゃん（田村亮子）、凄いな！

豪　（冷静に）もう秋ですよ。

山口　（無視して）世界舞台の決勝で、いまやルチャリブレでも見られないような素早い投げからの秒殺一本勝ちだよ（笑）。でも、それより、同じ柔道の男子60kg級の野村（忠宏）！　あれはいいね。小さいけど、総合に来たら面白い選手になるよ。KOKルールで闘う野村を見たい（笑）。

豪　顔もハ虫類系で宇野（薫）君に似てますからね。

山口　柔道って見てもやっても決して面白い競技じゃないんだけど、それであのポテンシャルの高いバツグンの試合を見せれるんだから、絶対プロになったら面白い存在になるよ。1年やったら総合の○○なんて逆立ちしても勝てないよ。

スモー　どすこ～い！　ちょっと待ったでごわす。いったいなんの話をしてるでごわすか！

山口　あ？　今日はオリンピックの話じゃないの？

スモー　『PRIDE.10』（8・27西武ドーム）でごわす。

山口　『PRIDE.10』って言ったって、この号が出る頃には終わって1ヶ月も経ってるだろ。

スモー　それでも話さなければならないことが、たくさんあるでごわす。

山口　オーケィ！　やるんだったら死ぬ気でやってやるぜ、このヤローッ！　今回は、バツグンに面白かった『PRIDE.10』を振り返りつつ、マット界の問題点を叩っ斬る！　ということでよろしいですか？

豪　マット界の問題点というか、要するに新日の問題点？

山口　おまえ、いきなり、そのドクダミみたいなツッコミやめろよ（笑）。

豪　押忍！（笑）。

山口　まず、『PRIDE.10』から何が見えたか！

スモー　どすこ～い！　なにが見えたでごわすか？

山口　おまえは、その相撲キャラをやめろっつってんだよ！　いたたまれなくなるから今回も普通にしゃべっていいよ（笑）。

スモー　なんでございますか？

山口　（無視して）今大会から、猪木さんが『PRIDE』のプロデューサーに就任したよね。これが非常に重要なキーポイント。で、大会の2日後くらいに、豪ちゃんが「今回は猪木さんの敗北のような気がする」って言ってたでしょ？　それがヒントになって、気付いたことがあるんだよ。

スモー　ほう！

山口　うるさいっつってんだよ、青白デブ！　おまえに「ほう！」なんて感心される覚えはねえです！　今回の『PRIDE.10』から見えたものは、実は「猪木の勝利」と「猪木の敗北」という、その2つの側面なんだよね。

豪　勝利は見えなかったけどなあ。

山口　まあ、聞けよ（笑）。まず、「猪木の勝利」という部分ね。〝猪木イズム〟を構成する本質的な要素のうちの一つに、「いつなん時でもモチベーションを上げる」というのがあると思うんだよ。相手がモハメド・アリであれ、タイガー・ジェット・シンであれ、ジョン・ドランゴであれ……。

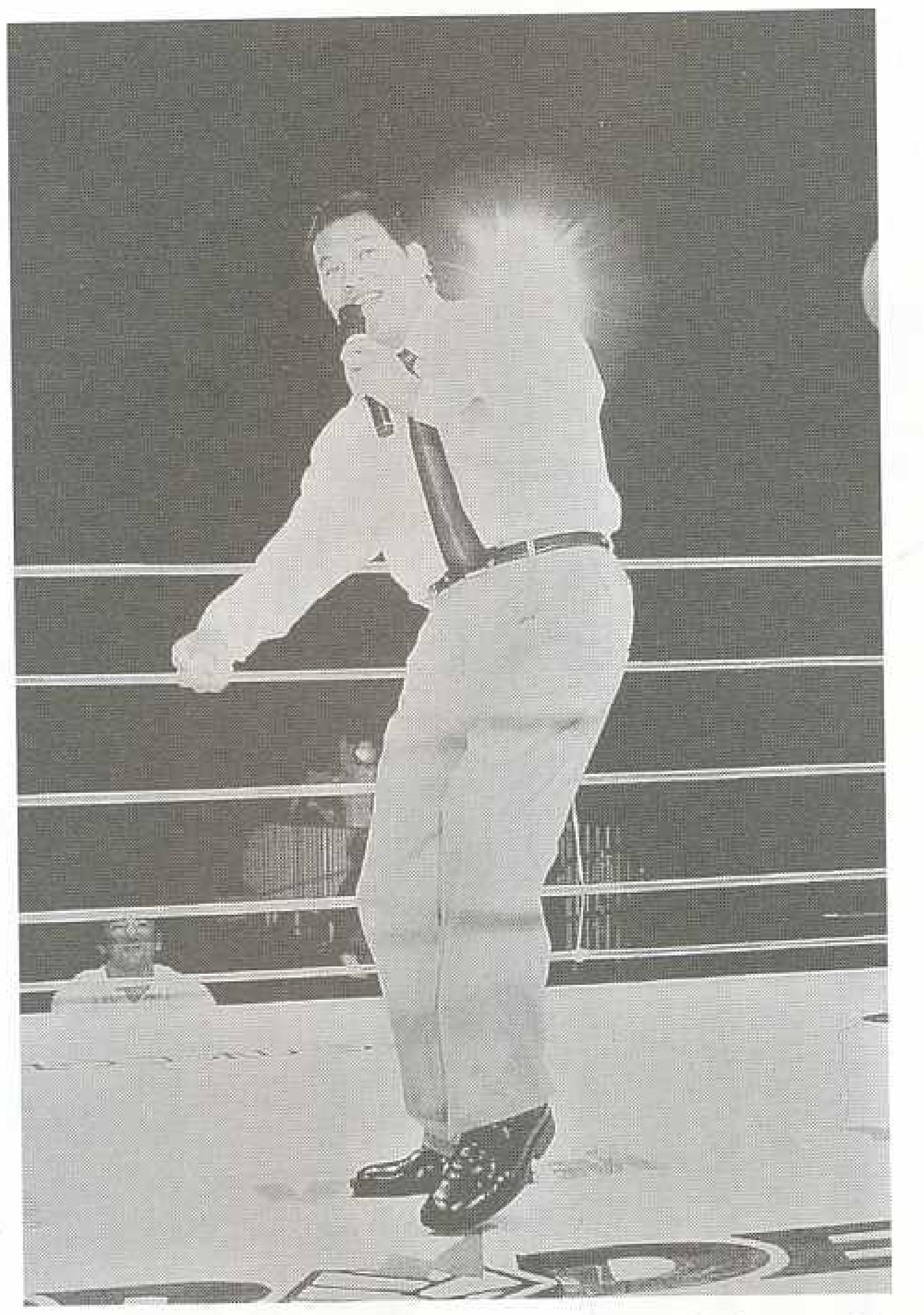
スモー　誰ですか、それ？

山口　新日本の旗揚げシリーズ（昭和47年）に来た無名外人（笑）。つまり、相手が誰であれ、どんな状況であれ、モチベーションを上げてきたのがアントニオ猪木でしょ。プロレスに限らず、政治家時代、スキャンダルに巻き込まれて、さすがの猪木さんも「1週間くらい外に出たくなかった」と漏らした。そんな凡人には想像も付かない追い込まれ方をした後でも、アリ戦で「世紀の凡戦」と世界規模で叩かれた後でも、「プロ」として人前に出るときはモチベーションを上げて出ていったよね。自発的にモチベーションを上げるときもあれば、現役の晩年のようにファンや、プランを立てた人の〝熱〟みたいなものを吸収してモチベーションを上げるときもあるけど、どっちにしても、猪木さんは「いつ何時でもモチベーションを高めた」わけでしょ。

スモー　モチベーション……そういえばモチ食いたくないですか？

山口　永遠に食ってろ、バカ！　そういう猪木さんのエネルギーの出し方に触れたり、見たりという行為が、実は俺らが「プロレスを見る」という行為の源みたいなものになってる。だから、俺のなかでは、猪木さんの〝闘魂の火種〟がバラまかれたことによって、全選手のモチベーションが上がったというように見えたわけよ。それが1点目の「猪木の勝利」。

豪　でも、選手のモチベーションが上がったのは、猪木さんのお陰じゃない



「暑い夜には熱い闘いがよく似合う！　ンムフフフ」と、アントンが遂に『PRIDE』のリングに登場！　予想以上の大歓声にすっかりゴキゲンとなったアントンは、明らかにノリノリ。ジャケットを投げ捨て、いつもよりさらに元気に1、2、3、ダーッ！

Pファンのご要望にお応えしてフザけた顔でお送りする座談会出席者

堀江ガンツ



噂に聞いていた、腹黒さはどうやら本物。読者から、「ハムスターをガンツと命名しました」というハガキが届く等、意外な人気の持ち主 but 腹黒。昆虫占いは、カマキリ。本誌リングス広報係。（水戸泉）

松澤チョロ



昆虫占いは、運も強いが、自尊心も強いカブトムシ。自尊心が感じられるのはキャットファイトに賭ける意気込みだけ。10・8恵比寿みるくに懲りずに参戦予定の本誌キャットファイター（水戸泉）

スモーノブ



自分と同い年。同世代として、自分とひと括りにされることだけは勘弁してほしい23歳。昆虫占いはアゲハチョウ。流行に敏感、新しいものが大好きらしいが、勝手にしてほしい本誌所属力士。（水戸泉）

吉田豪



山口と同じく、昆虫占いはアリ。グレるアリはオタク人生一直線らしいが、それは大正解。家も人との交流も食いつぶすことがないように、今のうちに忠告しておきたい本誌スーパーバイザー。（水戸泉）

山口日昇



昆虫占いはアリ。「頭脳明晰、分析、分類もお得意だが、一歩間違うとただの変わり者」らしいが、一歩間違った方のアリであることは確実。オヘソの下は17歳を自認する、本誌若作り編集長。（水戸泉）

こんなにも気持ちいい「猪木の敗北」はない。そういうことです!!

ですよね。むしろ森下（直人）社長のお陰というか（笑）。

山口　いや、猪木さんのお陰じゃないとしても、今回の選手のモチベーションの上がり方、各試合のポテンシャルの高さは尋常じゃなかったでしょ。だからそれはあくまでも俺のなかの「物語」として、実際の話に〝闘魂の火種〟物語を絡ませたほうが気持ちいいわけ。実際にはブラジルやアメリカでペーパービュー（以下ＰＰＶ）されたりしたことも、各選手のモチベーションを上げる要因でしょう。だからビクトーやシウバまで含めて、全試合マイクアピールがあったからね（笑）。

豪　あと、『ＰＲＩＤＥ』の追い込み方も大きかったんじゃないかっていう。

山口　「あなたたちのファイト・マネーは観客のチケット代によって成り立っている。つまらない試合をしたら切ります！」と言ったっていう話だよね。

豪　それで、あのガイ・メッツアーが積極的になっちゃったわけだし（笑）。

山口　〝膠着大王〟が膠着しなかったという（笑）。非常にバツグンの効果を生んだわけだよね。要はそのひと言で、選手側とプロモーター側、両者が手にしたい、「金」と「人気」と「実力」、これが三位一体になったわけでしょ。

スモー　（ボソッと）それって「プロレス」ですよね。

豪　いい意味でね。

山口　そのひと言は、「プロレス」だろうが、「格闘技」だろうが、「プロ」の世界のプロモーターは言って当然のことですよ。ところで豪ちゃんは、どういう部分に「猪木の敗北」を感じたの？



試合後、オーちゃんとの間に闘いの火種を残した佐竹は、リングサイドで観戦していたアントンとがっちり握手。はたして人間ＵＦＯ vs 怪獣王子は実現するのか!?

豪　いい意味で「プロレス」になってたのは、後半の〝猪木プロデュース〟になる前の試合で終わったと思うんですよ。休憩後に悪い意味も含んだ「プロレス」を感じさせる試合が続いて、最後にサクがどうにか帳尻合わせしてくれたけど、〝猪木プロデュース〟の4試合の方が明らかにテンション低かったわけだし。選手への思い入れがあるから入場シーンは爆発的に盛り上がっても、内容的にはちょっとね。

ガンツ　前半は実力派、後半は人気派っていう、単純な問題じゃないですか？

豪　お前は単純すぎ（笑）。もっと奥深い問題だと思うよ。あと、その言い方は後半の選手に実力がないって言ってるようなものだろ（笑）。

ガンツ　ああ〜、そういう意味で言ったつもりじゃないんですけど（笑）。

山口　だから格闘技マニアにとってみれば、後半4試合はプロレスラーが主体なわけだし、バーリ・トゥード（以下、ＶＴ）のセオリーから考えてみたら、藤田の試合にしても佐竹 vs 村上戦にしても、技術的には濃くないという意見も出てくるわけだよね。でも、ズバリ言って、「純ＶＴ」じゃないから、あれは。「新プロレス」！

豪　そういう格闘技方面への言い訳として、〝猪木プロデュース〟という冠を付けたのかなぁと、勘ぐらずにはいられない試合だったんですよね。選手とかに対する「ここまでは普通の『ＰＲＩＤＥ』だけど、ここからは違いますよ」って、そういう電波のような気がするというか。

山口　つまり、「プロレス」の概念があんまり落ちてない前半6試合の方が面白かったということだよね、今回は。

豪　ええ、そこにプロレスを超えるプロ意識やダイナミズムが感じられたから。ハッキリ言って内容的には喰われてますよ、後半4試合は。

山口　確かに前半6試合は面白かった。「格闘技の試合はつまらない」「プロレスの方が面白い」と言われて地団駄踏んでた、格闘技マニアにとっては喜ばしいことだろうね。

豪　内容的な密度では前半6試合の方が全然上。つまり、それは〝猪木プロデュースの敗北〟でもあるわけですよね。

山口　「猪木の敗北」ということで俺が感じたのは、猪木さんは「いつなん時でもモチベーションを上げる」人だから、「元気ですかぁーッ！」一つで持っていっちゃうわけじゃない。ここんとこ新日の大会に代表されるように（笑）。だから、猪木さんの引退後初めてだよね。猪木さんの挨拶に試合内容とか選手のモチベーションが勝ったというのは。猪木さんもテンション高かったけど、終わってみたら、大会全体のレベルの高さが印象に残った。それはむしろ気持ちいいことで、試合をやる側が〝熱〟を生んでくれるのが一番望んでたことなんだから。だから、ようやく新しい時代の光が見えてきたというか、「新プロレス」の土壌が構築されつつあるなと思うよね。まだまだここからだけど、これだけポテンシャルの高い試合の連続で、そういう意味でも、近年稀に見る興行だと思うけどね、俺は。

豪　興行全体で言うなら、『ＰＲＩＤＥ』史上最高ですよね。1〜2試合目から会場が出来上がってたことなんて、『ＰＲＩＤＥ』史上なかったですから。

山口　じゃあ、試合に移って、前号で村上を巻頭にした手前もあるし、佐竹 vs 村上戦から語ってみようか。

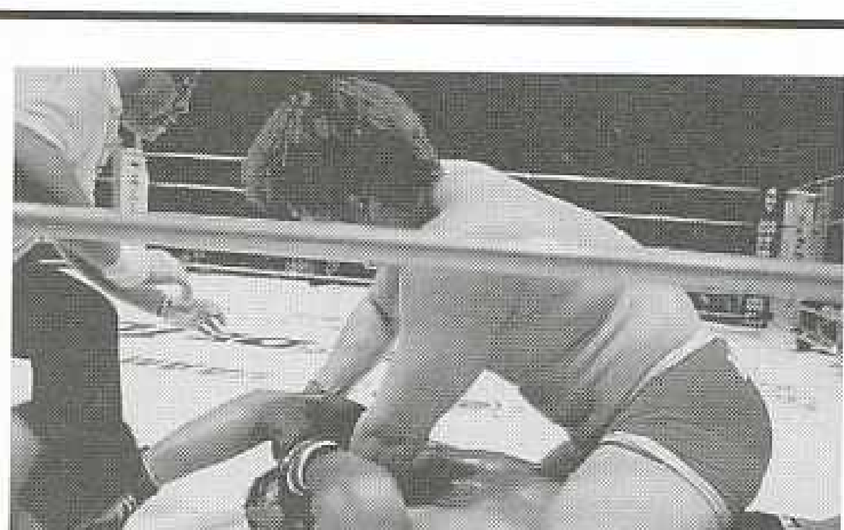
豪　試合はダメですね（キッパリ）。

飛び続けなければ、オーちゃんじゃない

山口　まあ酷な言い方しちゃえば、村上はだらしなかったね。コ

『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／佐竹雅昭（1R6分58秒TKO）村上一成

この闘いはオーちゃんの『PRIDE』再登場への序曲だったのだろうか？　柔術着の村上と共に入場ゲートに現れたオーちゃんにまずは大歓声。試合はシアトルでタックル対策を万全にしてきた佐竹が、差し合いを潰し、マウントを奪い、正拳を振り下ろし、失神KO勝ち。この闘いに関して、後日アントンが「体重差もあったんだろうけど、負けたら後がない佐竹の気持ちが勝っていたと思う」とコメントした通り、勝たなければ、次が無かった佐竹は試合後「逃がさねぇぞ、おらぁぁ〜」と甲高い声でマイクアピールするオーちゃんに、「本気か？」と返答。あの瞬間「小川はビビッていた」「いや、佐竹がビビッていた」と意見が別れる、このにらみ合いが話題をさらった。そこに村上の影はナシ。村上よ、もう一丁行け！



見るからに重そうな佐竹が、漬け物石のようにのしかかり、そこから鉄槌を打ち下ろした！　これをまともに受けまくった村上は、またもや失神！　どうした村上！



村上の唯一にして最大の勝機は、序盤戦にグラウンドに持ち込んだこのシーン。しかし、シアトルで逃げ方を学んだ佐竹を遂に極めきれず。ここが勝負の分かれ目だった

村上、佐竹に完敗　UFO失速か？

ーナーポストに押し込んで、横に振って倒そうとしたら、崩れてそのままマウント取られてんだもん。まあ、あわてん坊の村上らしいといえば村上らしいけど（笑）。

豪　あと佐竹の説得力のなさって、ちょっと問題だと思うんですけどね。

ガンツ　でも、試合の途中から明らかに「村上はかなわないな」っていうのが見えましたけどね。

豪　そういうんじゃなくて、ビジュアル的な説得力って絶対に必要でしょ？

山口　でも、あの髪型とあの腹を見ると、ジャイアント落合の師匠だっていうのはわかるよ（笑）。

豪　本当に怪獣王国は何とかしないとダメですよ。個人的には全面否定！

山口　あ、そう？　それは佐竹のプロデュースセンスが苦手っていうこと？

豪　あの2人は試合もセンスも、どっちもダメ！　『PRIDE』にはいらない！　いまの新日にはピッタリだと思いますけどね（笑）。

ガンツ　確かに考えてみると、緊張感は過去の佐竹の日本人対決に比べると低かったですね。K—1前の空手時代から結構見てますけど、必ず緊張感ありましたから、佐竹の日本人対決は。

豪　身体の問題じゃないの？　あの腹じゃ緊張感も出ないもん。そんなとこまで佐山イズムを学ばなくたっていいのにさあ（笑）。

山口　でもあれは村上が佐竹をアワてさせることができなかったってことに尽きるでしょ。佐竹はもし村上に喰われたらアウトなんだから、リスクは佐竹の方が全然デカイから、試合前はナーバスだったと思うよ。それなのに、グラウンドを凌ぎきったあたりから佐竹に余裕が出てきたのは、他流試合の経験の豊富さだよね。佐竹の「出ていく勇気」はやっぱ凄いよ。去年の春頃かな、「もうチョンマゲは切らなきゃいけない時代だ」って言ってたんだけど、そのあたりから佐竹はグンとよくなってきた。それまではどこか余計な鎧を着けてたからね。豪ちゃんの言うセンスとは別のところで、時代の扉をコジ開ける先兵隊的なセンスはある。ヒクソンとやって、図らずも時代の扉をコジ開けた高田（延彦）に通ずるところがあるというか。

スモー　村上はプロレスでめちゃめちゃ光る人ですよね。

山口　うん。9月7日のバトラーツ史上最低の入りの後楽園大会でも、村上と石川（雄規）が絡んだタッグマッチはバツグンに面白かった。『PRIDE』好きな人たちが初めてバトを見に行って、「面白ェ～」って興奮してたもん。

ノブ　ビートたけしさんのご子息の、あっちゃんたちですよね（笑）。

山口　柔術の国際トーナメント大会4位だよ、あっちゃん。6人中だけど（笑）。

豪　しかも、ヒクソン（・グレイシー）が主催の大会ですからね。

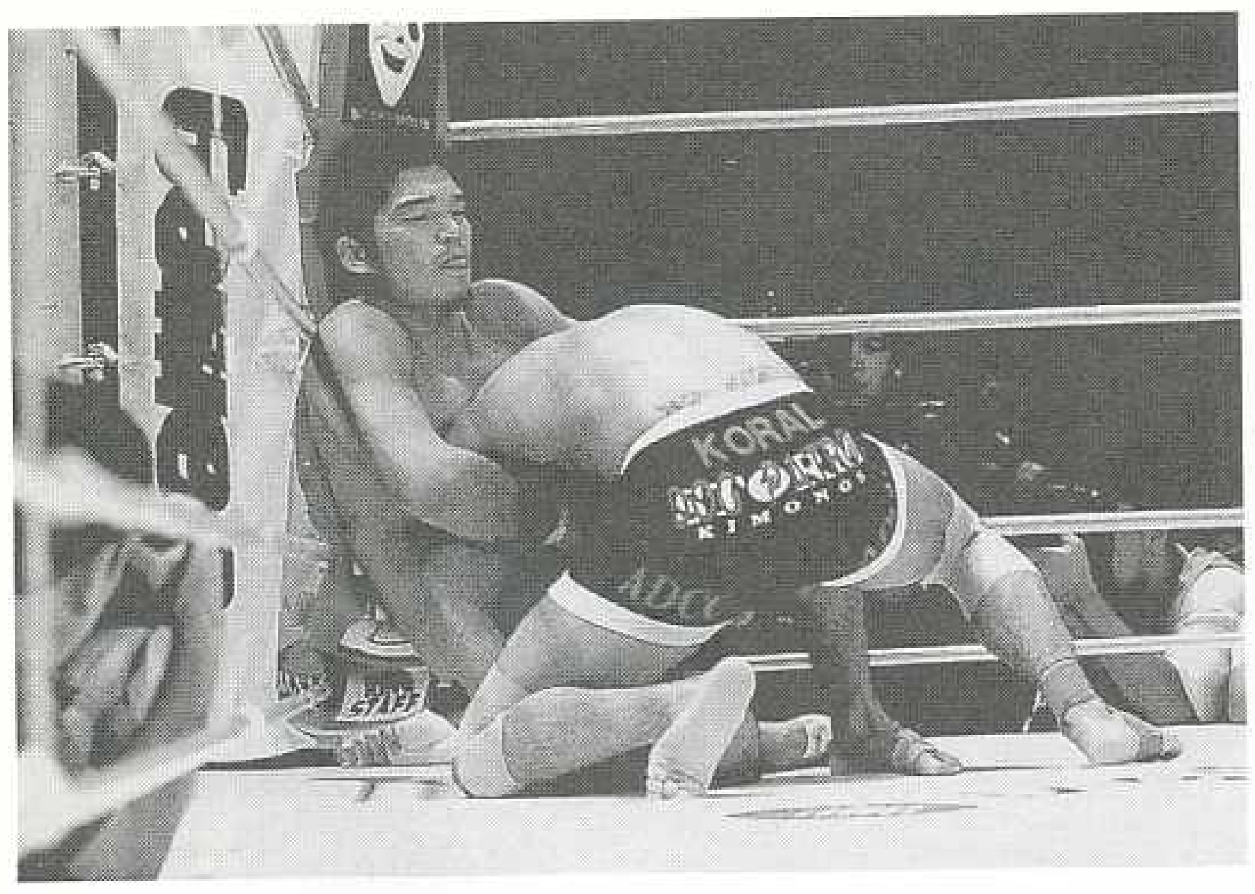
山口　大出世だね（笑）。やっぱり村上の中では「プロレス」と「格闘技」は別物だっていう、以前の意識が悪い形で出ちゃったんだろうね。まだ猪木イズムが細胞の中に入り切ってないというかさ。別に完成された試合を見たいわけじゃないんだからね。プロは「負け方」も問われるもんだけど、負け方に光や色気があるかどうかでしょ。負け方が光ったら、ネットでもやいのやいの言われなくて済んだんだよ。負けて光るというのは、つまり自分のスタンスを負けても見せるっていうことだから。「プロレス」で見せる威勢の良さは「格闘技」の試合でも見せれるはずだし、それを見せれるくらい練習を積んで、いつかリベンジしてほしいけどね、総合で。

豪　でも、試合後のオーちゃんのマイクアピールのタイミングの悪さといい……。今回はUFO失速を痛切に感じましたね。そういう意味でも「猪木の敗北」と言えるかもしれない。

ガンツ　あの中で見ると、オーちゃんがメインエベンターじゃなくて、休憩前か休憩の一つ後くらいの選手のレベルに見えちゃったっていうのがありましたね、僕は。

豪　『PRIDE』での実績だね、それは。仕方ないでしょ。

山口　しかも試合やってないからね、今回は。ただ、村上の入場でセコンドとして付いたオーちゃんがビジョンに映ったときは物凄い歓声だったのに、試合後のオーちゃんのマイクや、佐竹と睨み合ってるときは、思ったほどテンション上がらなかったでしょ、客席が。



タックルを取られた石澤はフロントチョークを極めるが、タップを奪うまでには至らず。逆に離れ際にハイアンの百烈拳を食らい沈んでしまった。後日、アントンは「ケツを地面についたままじゃ攻撃にはうつれない」とコメント。

豪　それは多分、「プロレス的」っていうか、〝そういうベタな流れかよ〟っていうことだと思うんですよ。ベタでやるなら、もっとちゃんと机をひっくり返したりとか路上で襲撃したりとか派手にやってもらわないと（笑）。

山口　ガハハハ！　でも、「プロレス的＝小ネタの羅列」って勘違いしてる関係者やレスラーって、思いのほか多いでしょ？　「プロレス的」っていうのも、もっともっと奥深いもんだと思うだよなぁ、俺。でも今回の『PRIDE.10』の流れの中に入っちゃうと、オーちゃんが図らずも結果的に一番割り喰っちゃったね。睨み合いでオーちゃんがビビったっていう方向に持っていってる媒体もあるけど、それはないよ。マイクのタイミングをハズしたことで舞い上がった部分はあるかもしれないけど（笑）。でも、そういう声をキッチリ打ち消す必要はあるね。

豪　実際、ヒクソン戦はいつできるのかわかんないですからね。この辺で試合しとかないと。新日では当分出来なさそうだし。

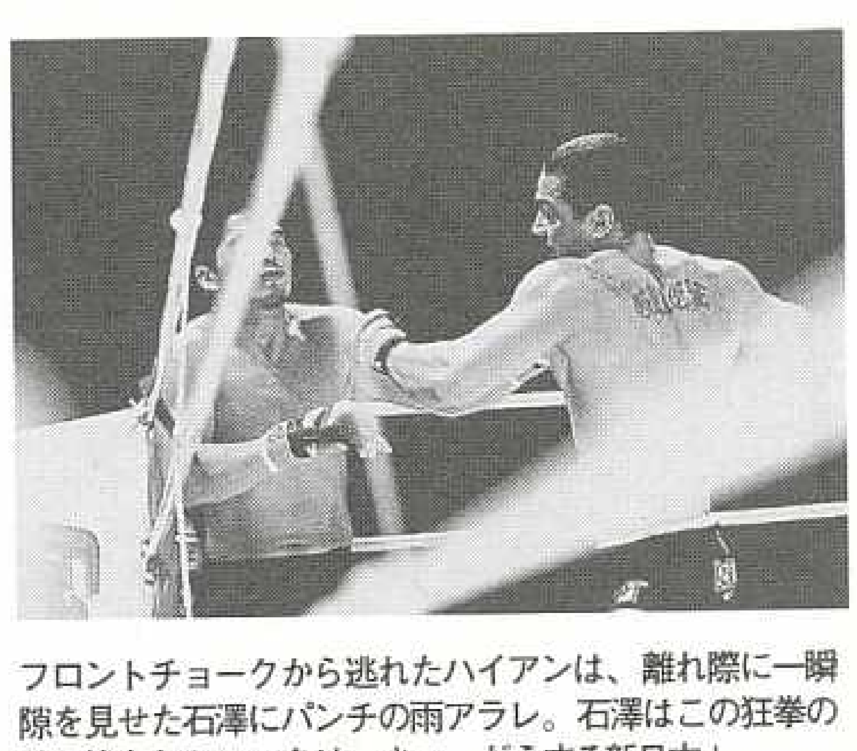
山口　あと一つ言えるのは、今回は、始まる前ではいいカードは揃ってるにせよ、マスコミ陣やマニア側にもそんなに期待感があるのは感じなかった。でも、当日は凄い〝熱〟だったよね、客席は。求心力っていう部分でも、確実にプロレス＆格闘技マスコミの範疇を超えてるんだよね。

チョロ　フジのプッシュも

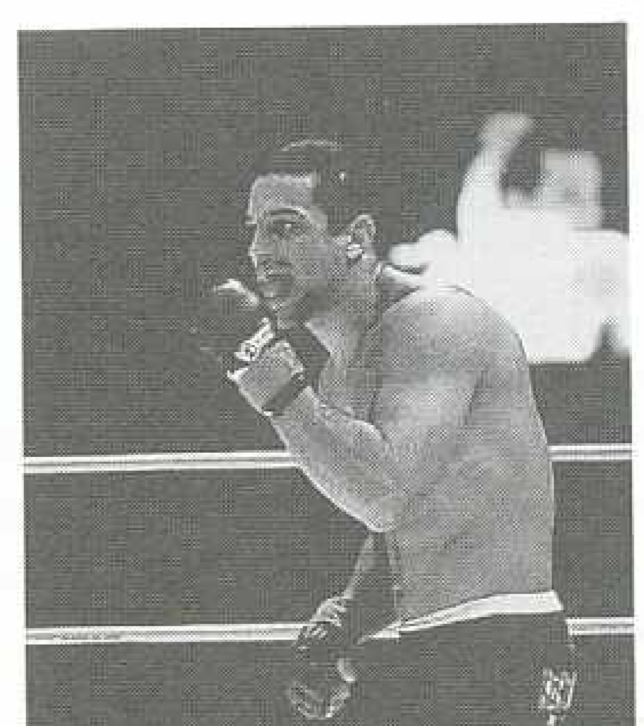
『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／ハイアン・グレイシー（1R2分12秒TKO）石澤常光

ハイアンの狂気 石澤の迷い砕く！

試合前に新日のシンボルマークがモニターに写し出された時点で、会場は一気に異様なテンションに！　新日が遂に『PRIDE』に参戦！　石澤はカシンのテーマで入場！　またもや燃え上がる西武ドーム！　しかし、そこから数分後に悪夢は待っていた……。対するハイアンは入場こそ、小柳ゆきの曲という狂犬とはほど遠いものだったが、リングに上がれば一転、石沢を容赦なく殴り倒し、しっかり狂犬だったことを証明！　まさに人をも殺しかねない表情は圧巻であった。何もできないまま終わったと言える石沢に対し、アントンは「仮面を脱いでもカシン（過信）じゃだめ」と素敵なコメント。アントンの言うとおり、石澤を含めた新日本は自らの力を過信していたことが敗因だろう。新日本はこの落とし前をどうつけるつもりなのか？



フロントチョークから逃れたハイアンは、離れ際に一瞬隙を見せた石澤にパンチの雨アラレ。石澤はこの狂拳の前に棒立ちのTKO負け。さぁ、どうする新日本！



見てみィ、このツラ！　闘志満々という言葉では括りきれっこない、いまにも人を殺しそうなこのハイアンの表情。こんな人とは絶対ケンカしたくない！（当たり前だ）

強力ですからね。

山口　うん。7・30の長州vs大仁田戦のPPVが、5・1の『PRIDE・GP』の5万件を上回るだろうと予想されてたけど、意外なことに4万件止まりだったでしょ。俺にしても、いわゆる「純プロレス」の方がまだまだ求心力はあるだろうと思ってたら、違う結果が出た。PPVはお金を払ってみるもんだから、求心力と言ってもいいと思うんだけど、つまり、『PRIDE』に代表される「新プロレス」の方が、求心力が遥かに付いてるということでしょ。

スモー　一般層にも届いてますよね。

山口　そう。片や遠心力といえる地上波でも、K—1は軽く20%超えるわけだし、『PRIDE』も昼間の放送で相当な数字を取るわけでしょ。4・7の「小川vs橋本（真也）戦」はゴールデンで15・7%取ったけど、従来の「純プロレス」的な闘いではないし、オーちゃんだからこそ、その数字を取ったわけだよね。でも、オーちゃんは、世間を巻き込んでいく力がまだ「純プロレス」のほうがあると考えてる向きがあると思うんだ。でも、いまや「純プロレス」の求心力や遠心力よりも、「新プロレス」のほうが勝ってるんだよ、現実的に。だから、「プロレス」の復権、プロレス界のメジャー化を唱えるオーちゃんの姿勢にとっても、『PRIDE』の持ってる遠心力を利用しちゃったほうが、むしろ手っ取り早い気がするね。

豪　オーちゃんは逆風気味ですよね、今回の件もあって。

山口　だから、そういうふうに見てるファンを掌に乗っけて、思いきりヒールになっちゃえばいいんだよ。「新プロレス」のなかで。『PRIDE』から逃げてるとか言われることもあるけど、逃げてないからね。まだ「純プロレス」のほうが遠心力があると思ってるだけだから（笑）。もし佐竹戦が実現したら、佐竹はベビーフェイスになるだろうから、面白い闘いになると思うよ。フジもゴールデンでの放映を検討してるっていうし、オーちゃんにとっては求心力も遠心力も得られて一石二鳥だよ。まあ、いずれにしても、早くオーちゃんに大暴れしてほしいんだけどな、大ブーイング浴びながらでも（笑）。

なぜ石澤はタオルを払いのけたのか？

山口　次！　衝撃の石澤（常光）vsハイアン（・グレイシー）に行こう。

豪　そういえば、ハイアンの入場曲の謎が解けましたよ！

山口　あ～、小柳ルミ子ね。

豪　小柳ゆきです（笑）。彼女のレーベルが提供やっててCM流れてるんですよ、TVの『SRS』で。

山口　ああ、なるほど。一説によると、ハイアンが「日本で流行ってる曲をかけてくれ」って言ったとか。

豪　それは事実なんだろうけど、せっかくだからって提供元のを渡したんじゃないですか。確かに流行ってるし（笑）。

スモー　トメさん（本誌デザイナー）なんか買ってたもんなぁ（笑）。

ガンツ　入場曲っていえば、カシンのテーマ曲で入ってきた石澤の入場に興奮したとかいう人たちがいると思うんですけど、でも、いままでのU系の選手が出てきたときの緊張感から比べると、僕は全っ然比べものにならないくらい低かったと思いますね。

山口　それはお前がU系が好きなだけじゃないの？（笑）。

ガンツ　いや、それはなぜかといろいろ考えたんですけど……やっぱりセコンドですね。山本宜久とヒクソンがやったときなんか、前田（日明）が付いたからあそこまで面白かったし。高田（延彦）が出てったときも、田村（潔司）がいたり宮戸（優光）がいたり、ヤマケンがゲートの裏で親分を送り出す子分のように「高田さん、階段です！」とか言ったりとか、そういう熱さがあったわけじゃないですか。

山口　あれは実にいいシーンだったね。昔のプロレスや格闘技って、″組″や″一家″を構成するモチベーションっていうか、得体の知れないエネルギーを感じたもんね。そういうのを感じさせた最後のシーンかもしれない。

チョロ　石澤のセコンドが元・維震軍の斉藤彰俊じゃ、そういうのも見えなかったですからね。

スモー　維震軍はいいと思うけど、チョイスとしてあともう一つがパンクラスのKEI山宮っていうのがよくないんですよ。

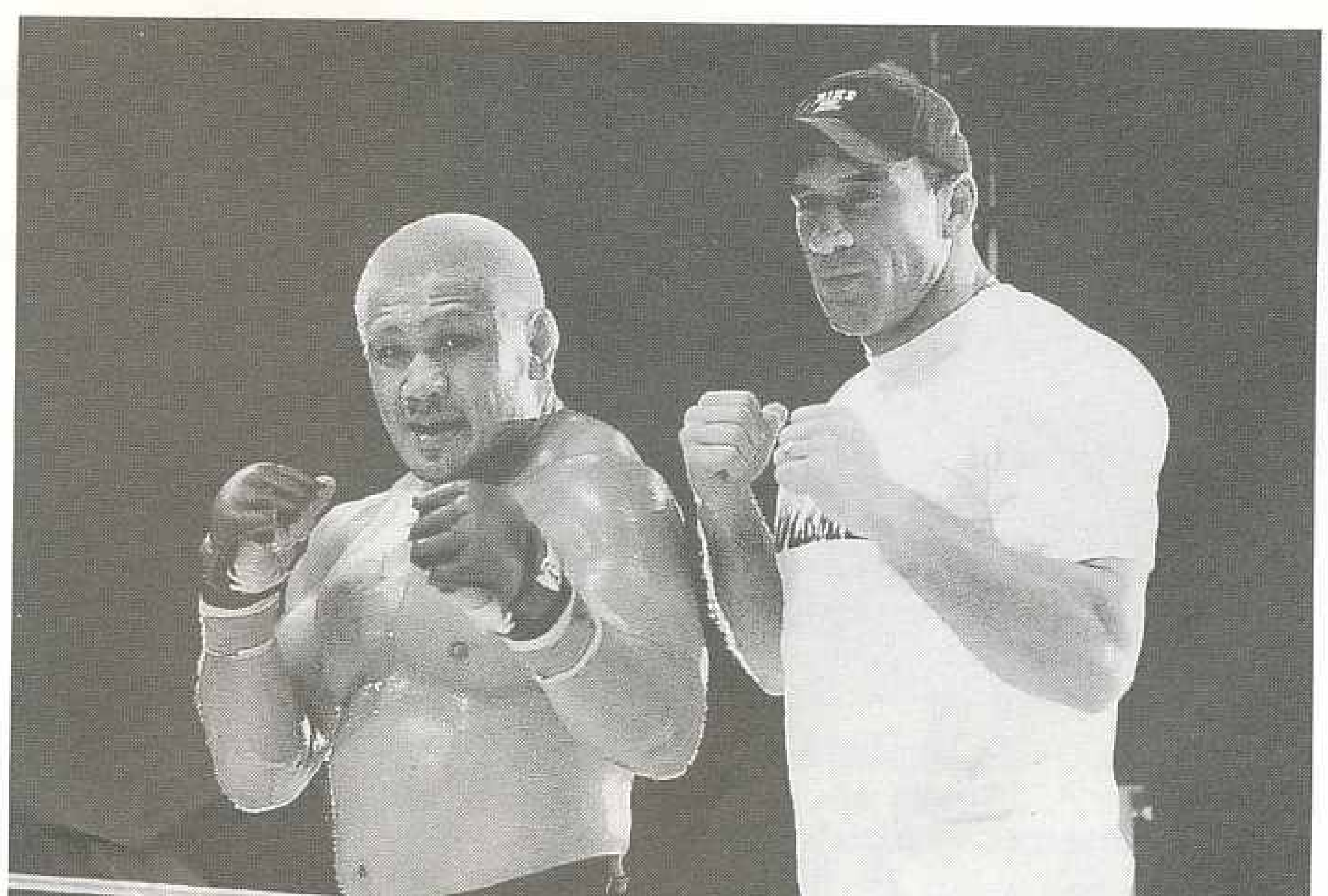
豪　また始まったよ！　レスリングの先輩後輩なんだからしょうがないだろ。

山口　何でそうやってパンクラス、パンクラスって言うかなぁ。あんな素敵な団体を。

豪　電話で怒られちゃったんだから、俺がパンクラスファンに。「『紙プロ』はパンクラスを悪く言いすぎる。そもそもあんたら編集者が顔を出さないのがおかしい！」っていう衝撃の発言が出てきて（笑）。「ウチは多分どこよりも出してると思いますよ」って言ったら、「いやっ！　顔出すときに顔ひん曲げたりしてるのがおかしい！」「もっと真面目な顔で写真撮影しないとわかんないじゃないか！」って（笑）。

山口　ガハハハハ。よし、今回はもっとフザけた写真を出そう。読者のご要望にお応えして（笑）。

ガンツ　いいですか？　だから、セコンドは中西（学）とか永田（裕志）だったりとか、他の新日のジュニアのレスラーだったりとか、そうじゃなかったらカシンが「オレは一人だ」っていう感じで



ケアーに続きシャムロックと、アメリカのビッグネームを連破し、もはやその勢いは誰も止められない藤田。試合後は『PRIDE・GP』王者、コールマンに対戦をアピール。これで「決定ーッ！」と思われたが、アントン・プロデューサーは「次は打撃系とやらせたい」と後日発言。どうなる!?

『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／藤田和之（1R6分42秒TKO）ケン・シャムロック

坊主頭のみならず、眉毛までも金眉に染め、ますます人間離れした風貌となった藤田。タックルを完封し、的確に打撃を繰り出してくるシャムロックに対し、やられても、やられても、やり返しに行く姿からは、今さらながら、藤田が野人だったことを再認識してしまうのであった。序盤は試合の主導権をシャムロックに握られたが、その脅威的なタフネスぶりにより、シャムロックを肉体と精神の両面で除々に追い込んでいく。そして遂にコーナーでシャムロックを捉えたときに、シャムロック陣営がタオルを投入。この不透明な結末ゆえに、何かと物議を醸したが、見るべきところは、藤田の驚きを通り越して、あきれてしまうほどの打たれ強さと、決して折れない精神的な強さの方だろう。藤田とシャムロック両方の凄みが随所に見られた。



今回の試合でも見せつけられることとなった藤田の驚異的な打たれ強さ！　技術論など、とっくに超越してしまったその闘いぶりは、まさにプロレスラーの鏡である



序盤、藤田のタックルをことごとく切りまくり、的確なパンチをヒットさせていくシャムロック。敗れたものの、この試合でアルティメット王の実力を再確認させられた

ケンシャム、藤田の野性を崩せず!!

なぜ石澤の鮮烈なる敗戦は、プロとしてチャンスなのか？

出てくるほうが良かったと思うんですよ。

豪　そういう気持ちはわかるけど、新日内でセコンド付けたらシャレにならなくなっちゃうだろ（笑）。

ガンツ　だけど「新日本vsグレイシー」って打ち出してたじゃないですか。

豪　お前も単純馬鹿だねえ（笑）。それを新日の総意としては打ち出したくなかったっていうことでしょ、要するに。打ち出したくないからこそ、セコンドに付けなかったわけだから。

ガンツ　こっちは、思い切り背負った姿を見ようと思ったんですけどねぇ。ダメですか？

豪　そんなことは知ったこっちゃないよ(笑)。新日はよくわかってるから、その辺はキッチリ線引きしようとしてるんだよ。PRIDEを「出来事」にするためにね。ただ、そこでまた『PRIDE』が一枚上手だから、試合前の煽りでもビジョンにライオンマーク出したりとかして「新日vsグレイシー」を強調するという（笑）。その結果、ガンツが単純に怒ったりとかして、順調に『PRIDE』の思惑通りになってるでしょ。見事に『PRIDE』に踊らされましたよね、ほとんどのファンは。

ガンツ　いや！　昔の新日なんていうのは、セコンドが大暴れだったじゃないですか！

豪　だからお前は本当に単純馬鹿だって言うんだよ（笑）。新日が外のリングで厳密な意味での他流試合に挑んだのって佐山聡vsマーク・コステロ戦ぐらいだと思うんだけど、あのときに誰がセコンドに付いて大暴れしたのかっていうことでしょ？　そんなことなかったわけだから。

ガンツ　ああ、そうですねぇ……。石澤は佐山聡になる可能性もあるってことですよね。

山口　佐山がコステロに負けたときに、みんなから散々に言われて、それがトラウマになって佐山は修斗という新格闘技をつくっていく土壌が出来たという物語があるじゃない。周りがイジメに近いくらいガーッと言ったという。逆に考えれば、その頃には、〝組〟や〝一家〟みたいなものを構成する上での迫力というか、モチベーションがあったわけでしょ、新日内部に。プロレスというものに誇りを持つというか、自分のモノサシで物事を計れるっていうか。でもいまの新日本では、誰もなにも言わないだろうし、触らないようにしよう、なかったことにしよう、別物はもうオシマイっていう空気のほうがデカイ気がするんだよね。

豪　金本（浩二）は言ってましたよ。「カシンは喧嘩が弱い！」って。

ガンツ　あの発言も何年遅れてるんだっていう感じですよね。

豪　いや、金本は喧嘩屋だから強いんだよ。

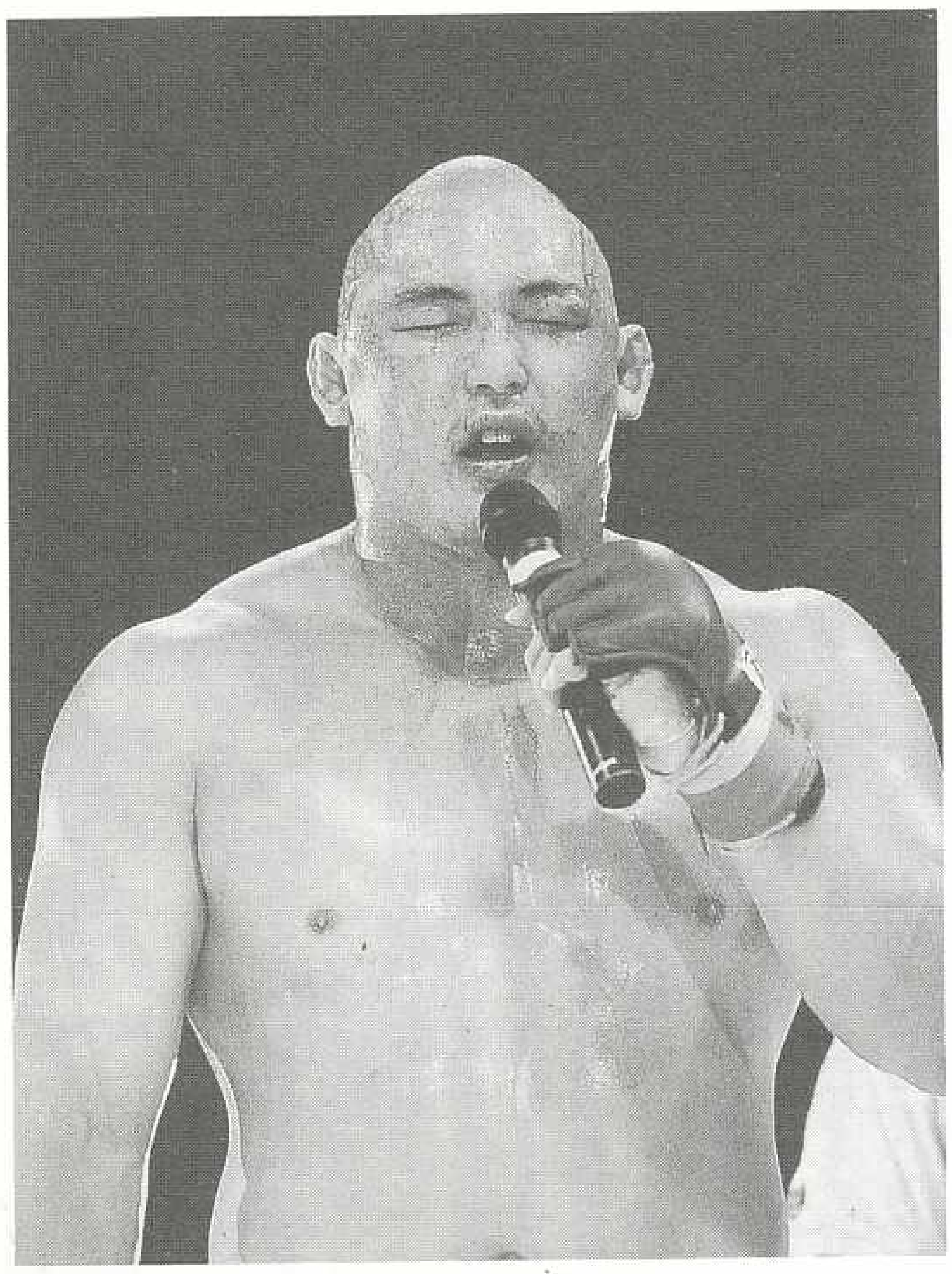
山口　でも、金本の発言はともかく「喧嘩」っていうのは凄くいいキーワードで、ハイアンが「喧嘩500戦無敗」っていうキャッチフレーズで出てきた。石澤が負けたのは、やっぱり俺は「喧嘩」という概念の有無だと思うんだよ。それはストリート・ファイト云々よりも、さっき言った〝組〟とか〝一家〟を構成していくテンションの中には、必ず喧嘩の概念ってあるでしょ。いまの新日にはそれがない。むしろグレイシー一族のほうが、そっち方面では上だということだよね。

ガンツ　看板を背負うってことですよね。逆に『PRIDE』を競技として捉えすぎちゃったんですかね？

山口　だからパンクラスに行ったんでしょ。猪木さんはパンクラスという単語は出してないんだけど、「いろいろなとこに練習しに行ってたみたいだけど、過去を全部捨てちゃダメだというか」みたいなことを言ってたよね。VTに精通してるパンクラスに練習に行くのもいいことだし、競技としては当然プロレスとVTは別物というのもわかるんだけど、今回の石澤には、どこか「プロレス」というものをやってきた自分の経験を愛せない雰囲気が見えるんだよ。前田日明流に言えば、サクには「自分のやってきた経験を愛してる」ってことが試合からも見えるところが凄いとこでしょ。

チョロ　「自分のやってきた経験を愛してる」。僕もメイプルちゃんを愛してます（笑）。

山口　おまえは寝てろ（笑）。そんなこと言ったらサクには「いや、愛してないです」って言われるかもしれないけどね（笑）。キングダム時代なんて、俺、大分とか新潟まで、サクの試合を見に行ってたんだけど、その頃から数段グレードアップしてるとはいえ、試合スタイルはほとんど変わってないんだよ。ということは、技術的に



試合後、救急車で運ばれるほどの状態だったにも関わらず、マイクでファンに謝ったエンセン。さらには自力で控え室まで戻ろうとし、強烈な"大和魂"をみせてくれた。試合には敗れたが、エンセンの心は観客に伝わったはずだ



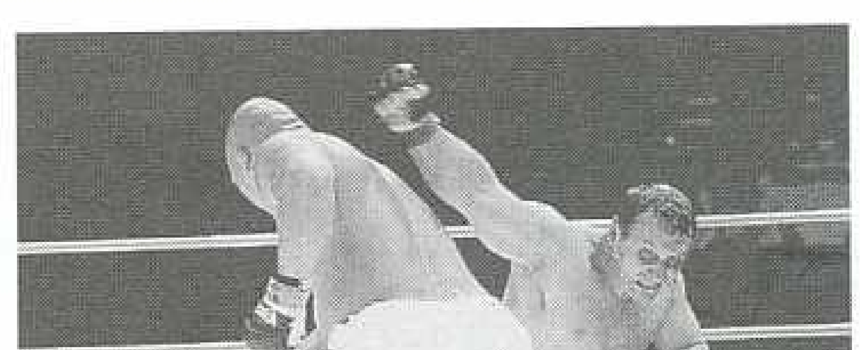
『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／イゴール・ボブチャンチン（1R終了時TKO）エンセン井上

大和魂大爆発するもボブが粉砕！

まず、何よりも先にこれだけは書いておこう、大和魂大爆発！　ボブチャンチン相手にエンセンがいきなり打撃を仕掛け、特攻精神を見せた！　しかし、下になってからも果敢に三角や十字を狙いに行くエンセンに、殺戮マシーンと化したボブチャンチンがパンチを連打につぐ連打！　エンセンの動きが除々に止まって行く。気付くとボブチャンチンのパンチを浴びまくるエンセンの姿に会場中が釘付けに。死んでもタップしない大和魂に場内は騒然となるが、1R終了後、無念のレフェリーストップが宣告された。しかし立ってるのもやっとの状態で「まだやれる」と叫び、最後も、セコンドの手を借りずに控え室に戻ったエンセンの姿に感動！　ボブチャンチンの「エンセンは日本のサムライを具現化したようだった」という発言にもまた感動！



殴り続けて、エンセンの顔面がひどい状態になっていたことは見えてはいたが、それでも殴り続けたと語ったボブチャンチン。真の殺戮マシーンである



ボブチャンチン自身でさえ、打ち合いを挑んでくるとは思っていなかったらしいが、エンセンは試合前の宣言通りに、打撃で仕掛ける特攻精神を見せた

ハイアンの方がプロレスラーらしく見えたのは、いったいなぜだ!?

も、自分のやってきた経験をモノサシにしてるってことでしょ。その自分のモノサシというものが見えなかったよね、石澤には。じゃあ、いま行われてる新日のプロレスってなに？ってことじゃない。田村（潔司）にしてもそうだけど、自分の積み重ねてきた経験をモノサシにしてるから、スタンスってものが見えやすい。そういう意味でもUWFからの流れを汲むUインターがやってきたことってやっぱりデカイんだよ。プロレスの芯という部分では。だから、前回の座談会で、「猪木さんの時代の〝ストロング・スタイル〟と、いまの〝ストロング・スタイル〟は別物」って言ったけど、要は『PRIDE』には、〝時代性の中でのストロング・スタイル〟が息づいてるんだよね。

豪　新日の中ではカシンが明らかに〝ストロング・スタイル〟だったんだけど、カシンよりもハイアンの方が〝ストロング・スタイル〟だったというか。

山口　「ハイアンの方がプロレスラーらしく見えた」っていうね。

豪　顔だけでお腹いっぱいっていう。「怖ェ！」「殺される〜！」って思わず叫びましたよ（笑）。

山口　あとさ、石澤の鮮烈な負け方を見て、「この気分はどっかで味わったぞ」って考えると、やっぱり高田vsヒクソン戦なんだよ。もちろん衝撃の受け具合というのは、全然違うけどね。

豪　あと背負ってるものの大きさも違うし。

山口　でも新日本ファンにとっては、衝撃はデカかったわけでしょ、想像するに。いまの新日ファンだったら簡単に目を背けそうな気もするけど（笑）。だから、新日本は明らかに高田道場がやってきた作業よりも3年遅れてるんだよ、少なくとも。3年あったら、元部下に元夫人を盗られるような事件が起こるには十分な時間だよ（笑）。

スモー　どすこ〜い！

山口　だから、〝時代性の中でのストロング・スタイル〟は、高田延彦が鮮烈な負け方をしたことで種が撒かれて、その後サクが〝グレイシー〟にリベンジするまでの間、高田道場が育ててきたと言い替えることもできるかもしれない。でもホント石澤の敗戦によって浮かび上がって来てるのは、「どうする新日本、どうする長州力！」っていうことでしょう（笑）。

スモー　長州は確か「グレイシーはレベルが低い」みたいなこと言ってましたよね。

山口　言ってたねえ。「ホイスは高校生レベルの飯塚（高史）で十分」って言ってたからね。

豪　ハイアンはどういうレベルなんですかね？

山口　中学生レベルになっちゃうのかなぁ？（笑）。でも石澤に可能性が見えたのは、引き上げてくる花道でセコンドが頭にタオルを被せたんだよね。顔を隠すように気を使って。でも、石澤がそれを自分で剥いだんだよ。あれは〝じょっぱり〟の部分というか、あれが石澤の芯の部分なのか、プロとしての意地の部分なのかはわからないけど、わからないからこそ、もう1回見たいね。石澤のチャレンジを。これだけ、鮮烈な負け方したでしょ。〝鮮烈〟っていうくらいだから、「あざやか」で「はげしい」わけじゃない？　だから、記憶に残るし、なんかしらの種類の色気は絡んできてるよね。俺は逆に、これはプロとしてもうワンステップ登るためのいいチャンスだと思うね。新日本が、石澤の敗戦をどう活かすかが楽しみだよ。

スモー　でも、高岩に負けてしまいました（9・13仙台・IWGP jrヘビー級選手権）。

山口　ほえ〜。もし新日ジュニアでワンステップ登るのが難しいんだったら、「新プロレス」でワンステップ登ればいいんじゃない。俺、今回ああいう負け方しても、石澤が弱いなんて、1ミリたりとも思わないからね。自分のやってきた経験をモノサシにできなかったっていうことも含めて、なにもやってないんだから、石澤は。やっぱり、なんかやってるところを見たいよねぇ。そういえば、石澤vsハイアン戦は、スカパーのPPVとフジの地上波の放送に加えて、通常の『ワールドプロレスリング』枠の中での実況放送もあったわけだよね。辻アナの実況と、東スポの柴田記者の解説による。

豪　あれが一番衝撃だったわけですよね（笑）。『PRIDE』の思惑にハマったという意味では、新日も墓穴を掘ったなっていう（笑）。無茶苦茶考えさせられましたね、あの放送は。

山口　辻アナは、「納得いかない！　新日本のレスラーはそんなに打たれ弱くない。打たれ強さには定評がある！」と叫び、柴田さんは「もうちょっと出来た」「ちょっとレフェリーの判断が早すぎるような気がしますね」と応え、さらに辻アナは「ハイアンのラッシュは物凄いものがあった。あれだけ打たれるとかなりの重傷かもしれませんが、ここからですよね！」と、また叫びました（笑）。加えて柴田記者は石澤の表情を見て、「あれは敗者の表情じゃありませんよ」だとさ（笑）。

豪　思い切り負けた表情なんですけどね（笑）。イッシーにすると逆にプレッシャーですよね。嫌な追込み駆けられてるような。

山口　同じ放送枠で、G1の準決勝&決勝を流したのは逆効果だよな（笑）。

豪　いまやG1なんて、解説のマサ斎藤ですら「ジーアイ」がですね」って名前を覚えてもいないほ



田村をタップ寸前に追い込んだヘンゾのギロチンチョークを警戒したのか、両足タックルに行けないサクは、片足タックルを見事に決めた。見事な「克服」だ

サクに魔性の力宿る！　ヘンゾも撃破!!



次の瞬間、サクがヴォルク・ハンばりの“立ち関節”で一気にヘンゾの腕をねじ曲げる！　ヘンゾの腕が伸びているのに注目



観客が時間切れ判定をぼんやり覚悟したその時、戦慄の瞬間が訪れた！　バックを取ったヘンゾの腕をサクがキャッチ！　サクの体勢だ！

ガードポジションからの攻めを、何度となく試みてきたヘンゾ。サクもそれを防いでいく。グラウンドでも緊張感のある攻防が続く





“猪木ーアリ状態”からローキックだけでなく、この日はなんとローリング・ソバット！　いや、これはアンディに捧げるフグ・トルネードか!?

ど話題の主流から外れちゃってるわけでしょ（笑）。そんな中で『PRIDE』で石澤が惨敗した試合に続いて、よりによって健介vs永田っていう格闘プロレスで、説得力のない打撃のやり合いとか流しちゃうから。ワークだシュートだなんて論争以前に、ロープエスケープで緊張感がなくなるっていう事実を凄い思い知らされましたね。ダラダラしてたじゃないですか、あの試合。現場にいれば面白くも見れるんだろうけど、一つの枠の中で放送されたらイヤでもハッキリと見えてくるものがありますよ。

山口 言うねえ、どーも（笑）。

豪 あと、健介vs永田戦を見ててホント痛感したのは、後ろ髪の長さとかの暑苦しさっていうのは、ラリアットの衝撃を伝えるためにあるものだって気付きましたよ。グラッときて、後ろ髪から汗が飛ぶ。これがまた暑苦し～い感じで（笑）。

山口「熱い夜には暑苦しい闘いがよく似合う」と（笑）。

豪 長州政権になってから新日はラリアット・プロレスとか揶揄されてるけど、もしかしたらいまの新日には「ラリアット手当」とかあるんじゃないですか？　そうじゃないと、あれだけいろんな選手が自分を没個性に見せるだけのラリアットを連発する意味がないと思うんですよ（笑）。

山口 ガハハハハハ！　昔のプロレスでは「流血手当」があったらしいしね（笑）。ベルトを取ればギャラアップと同じように、流血しちゃったらギャラアップ。

豪 昔、「キック1発1000円だから、どんどん蹴れ！」とかミスター高橋に煽られた破壊王が「1000円、2000円！」と叫びながら蹴りまくったらしいですけど、そんな感じでいまもラリアット一発いくらで査定してるんじゃないかって（笑）。その結果、ラリアットを多用するパワーファイターたちが出世するっていう高度なカラクリがあるんだと思うんですよ。

スモー ほう！　そういう意味でもイッシーは、ラリアッターの高岩（竜一）に負けてしまったと。

藤田の「勝ち方」とエンセンの「負け方」

山口 次、藤田vsケンシャムと、エンセンvsボブチャンチンを続けて行こう。

豪 ケンシャムはバカ強いね。現場で見た限り、藤田の光は完全に消されてたよ。あの歳でブランクもあって練習不足であれだけ強いんだからさあ。

スモー でも辻アナの実況と合わせたら、この試合が一番ちょうどいいと思うんですよね（笑）。「ここからだぁ！」っていう。藤田の場合、もうダメかと思ったら、ホントに「ここからだぁ」になっちゃったですからね。

豪「レフェリー止めるの早いですよ」って、まさに辻、柴田の実況が生きるね（笑）。でも、藤田の選手としての良さは見えなかったんだよなぁ。

山口 ふぅん。豪ちゃん的には、藤田の凄みは伝わってないんだ。

豪 いや、打たれ強さは伝わるけど、それだけだから。

ガンツ プロレスラーの強さはそれでいいと思うんですけどね。

チョロ やられたらやり返すっていう。

スモー やってるうちに、どんどんシャムロックの目が丸くなってきましたからね。でも今回のケンシャムは、途中で危なくなったらリングアウトで逃げるリック・フレアーみたいですよね（笑）。

山口 形を変えた、「新アメプロ」だと（笑）。確かに藤田の怪物性ってリアル・アメプロだよね。「アメプロを超えたアメプロ」（笑）。

豪 ゴールドバーグを意識してたら、超えちゃったと（笑）。

山口 進化してるVTの技術っていう部分では足りないから、格闘技マニアにあーだこーだと言わせちゃう隙はあるけど、プロレスラーが絡んだ試合でいろいろ言われるのは、まだしょうがないよ。でも、そういった試合がなぜつまんなく見えないかっていうことなんだよね。そこにやっぱり〝猪木プロデュース〟の芯があると思うな。最初にも言ったけど、今回の大会全体を見渡してみると、〝観客論〟が支配してるよね。こんなにいい意味で〝観客論〟が幅を効かせた「格闘技」の大会って史上初でしょ。「格闘技」という場に過剰な〝観客論〟を落としたことで、〝猪木プロデュース〟に対して批判する格闘技マニアもいるけど、それこそ俺は、「どおってことねえよ」って感じだなぁ（笑）。シャムロックが、やられる前にタオルを投げたフィニッシュは俺は結構ドラマチックに見れたしね。自分の中でいろんな物語を見い出すということが、「プロレスを見る」ということだからさ。それは「新プロレス」になっても変わらないと思うよ。

豪 ところでエンセンは会長のせいですか？　負けたのは（笑）。

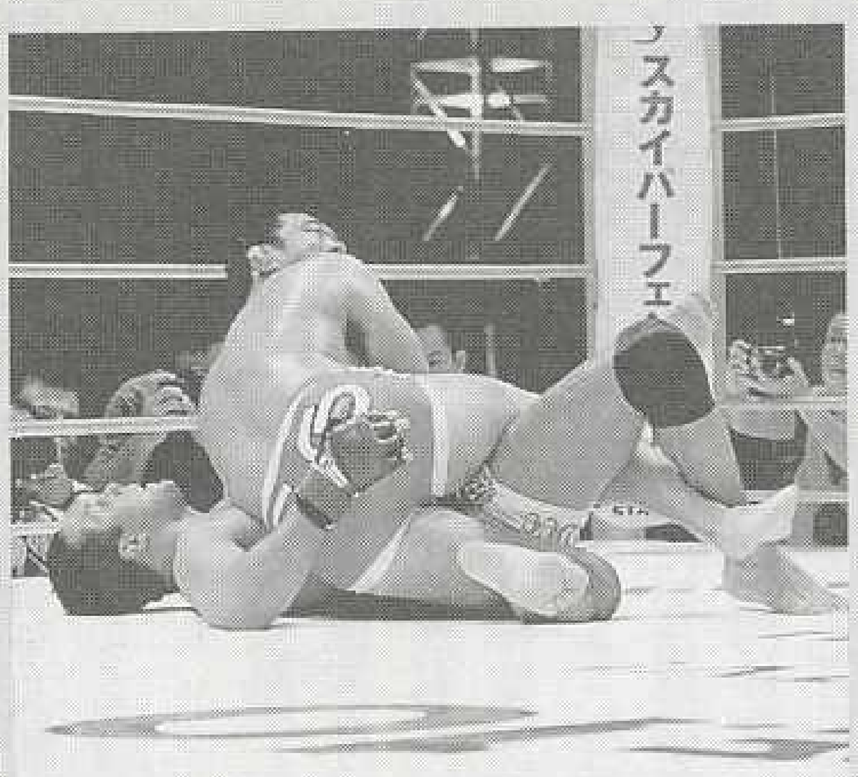
山口 いや…というより、これ以



サク対策を十分に練ってきたヘンゾは、これまでサクの独擅場であった〝猪木―アリ状態〟でも、下から積極的に蹴りを繰り出しサクに主導権を握らせなかった



側転パスガードを久々に繰りだしたサクだったが、ヘンゾはこれも上手く対処。その他のサクの奇策もことごとく切り返し、じっくり研究してきていたことを伺わせる場面が多かった



それまで守りの姿勢が目立っていたサクが、突如キラーサクに！　あまりにも唐突な衝撃のフィニッシュシーンであった。ヘンゾの腕がはずれているのを確認したサクは「外れてますよ」と一言。恐ろしい！

『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／桜庭和志（2R9分43秒TKO）ヘンゾ・グレイシー

いろいろ、見どころ多すぎでお腹一杯の興行となった西武ドーム大会だったが、『PRIDE』史上最高の興行と語られることになったのも、サクがメインエベンターの務めをはたしたからであろう。守りに入りながらも残り時間僅か数秒という場面できっちりヘンゾの腕を破壊したサクはやっぱりただ者ではなかったことを、またも証明した。当初、モチベーションの低さが懸念されていたが、そもそも、その時点でサクマジックは始まっていたのではなかろうか？　そう思ってしまっても不思議じゃないくらい劇的なフィニッシュでした。サク！　キミは本当に凄い！　ハイアン、ビクトー、シウバに対戦を迫られ、いよいよ追われる立場となったことが定着したサク。いつも期待ばかりするのは可哀想な気もするが、次も頼むぞーッ！



それでも体を回転させて逃げるヘンゾに、サクは〝スタンディング・キムラロック〟とでも言うべき体勢に持ち込み逃がさない



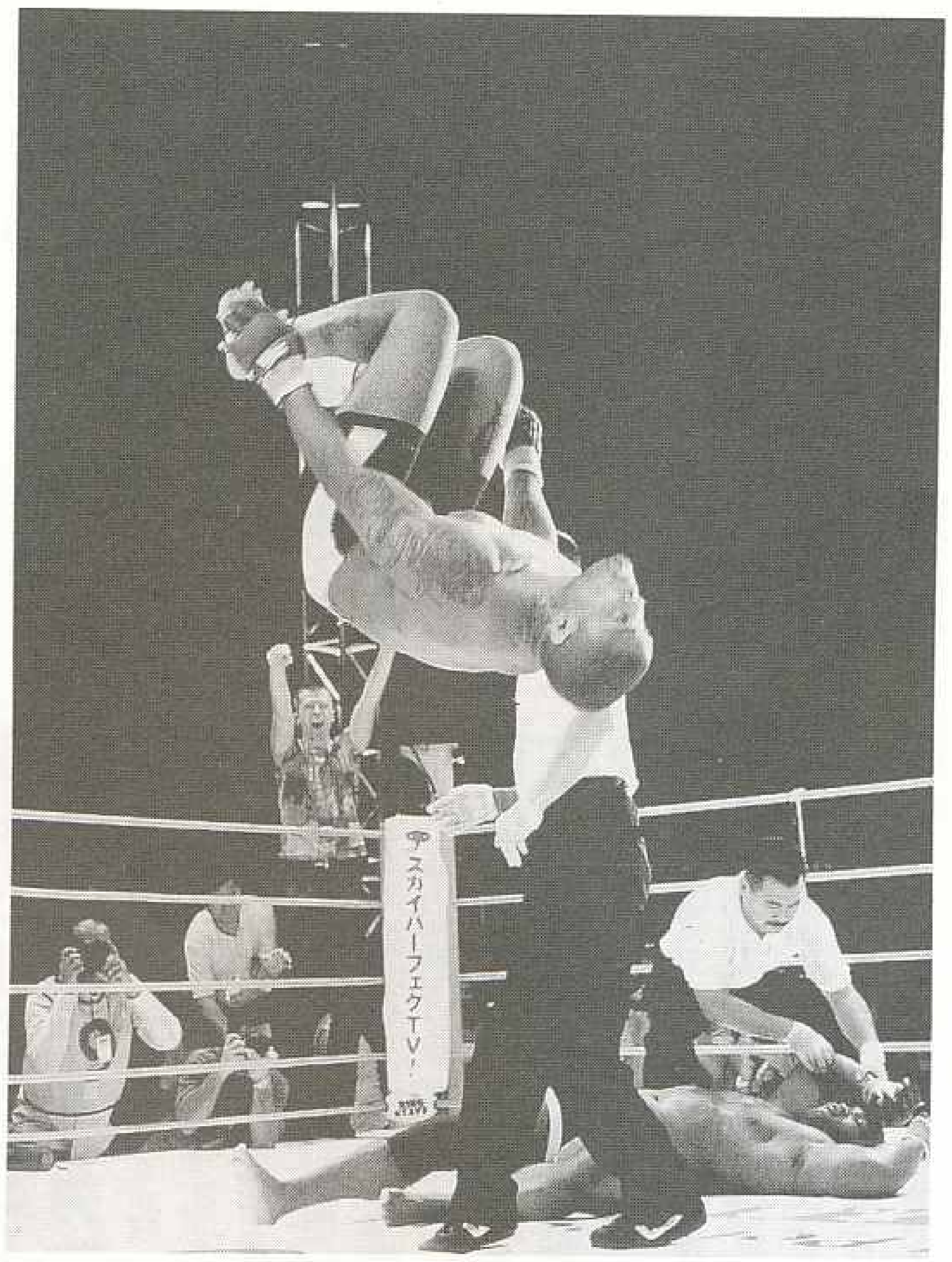
この時点で腕が外れているヘンゾは、もはや抵抗する術は残されていない。しかし残り時間との闘いは続いている、一体どうなるんだ!?



そして完璧なアームロックの体勢に。しかしサクはそれ以上極めず、レフェリーに「ハズれてますよ」とアピール。まさに戦慄の瞬間だった!!

桜庭が〝タイガーマスク〟であり〝ドラゴン〟であり〝イノキ〟である理由

上やったら死ぬだろ！って心配しちゃったよ、柄にもなく（笑）。4日間病院にいたらしいからね、エンセン。
豪　でも、素晴らしかったですよね。
山口　1月のマーク・ケアー戦で「大和魂不発！」って書いて、エンセン怒ったでしょ。だからというわけじゃないかもしれないけど、大和魂を見せることに重点を置いた闘い方だったよね。
スモー　負けてこそ光るっていう印象でしたよね。
山口　プロとして、エンセンの負け方には光があるよね。この間9月5日のリングスの後楽園大会でエンセンに会ったら、「何かヘンな感じだヨ。こんだけボコボコにされて負けたのに、みんな良かった良かったって言うヨ。何でェ？」って言ってたよ、エンセン（笑）。前田日明総帥にも「勇気ありすぎるよ！　俺だったらあいつのあんなパンチ食らうの絶対やだよ」って笑顔で激励されてたね。いままでエンセンは負けるということにナーバスになりすぎてたと思うし。
豪　膠着しててもチャンスを狙うような感じですよね。
山口　今回は「特攻ーッ！」みたいな感じだったもんね（笑）。それはやっぱ素晴らしいと思うよ。
豪　選手単体で言えば、一番光ったのはエンセンっていう気がしますよ。
山口　わかりやすかったからね。2Rになっても、瀕死の状態で「まだやる！」って言ってるのがビジョンを通して映って観客席にも伝わったからね。観客の方が「もうやらなくていい！」っていう状態になっちゃった（笑）。
豪　でもどう見てもやれないだろうし。それで引き上げて行くときに通路に倒れて、救急車で運ばれるという。



ハリケーンのような猛烈な勢いで『PRIDE. 10』を通過したアイブル台風。勢い余って試合後にはリング上でバク宙まで披露した。「『PRIDE』じゃ勝てない」という前田日明の言葉をどこまで克服できるか？

山口　だから、こういうショッキングな試合が届いたっていうことは、結局ファンはリング上にスキャンダルを求めてるんだよね。でもそういう闘いばかりだと、今度は逆に「技術を見せろ」っていう意見も出てくるでしょう。ファンっていうのはホントに残酷でわがままだけど、プロとしては観客という残酷な存在との勝負は避けられないからね。それに、エンセンは修斗にいた頃とは比べものにならないくらい、「プロフェッショナル」っていう概念を取り込んでるし、完全に一皮剥けた。次戦以降が楽しみだよ。もう一方で感じたのは「あのボブチャンチンっていうのは、なに？」ってことだね（笑）。
ガンツ　ホント、相手が死ぬまで殴るって感じですよね。
山口　あそこまで殴れるのも凄いよね。なんか俺、早くも10・31の高田vsボブチャンチン戦にドキドキしてるんですけど（笑）。
山口　メインのサクvsヘンゾ戦は、も

サクの〝怒りのエネルギー〟に取って替わったもの

うね、神様仏様桜庭様って感じだね（笑）。
豪　あのコンディションの悪さで帳尻合わせるっていうのは、ホントに貴重な存在ですよね。
スモー　でも、こういう状況で取れるんだったら、いままでの試合だって、極めようと思えば、ハズそうと思えばハズせちゃうってことですよね、サクなんかは。
山口　だから何でそう短絡的なんだよ、おまえは！　見事だな（笑）。それをやらせたのがメインエベントのプレッシャーなんだって。残り時間17秒でしょ、極めたの。
豪　あのまま判定になったらねぇ。
山口　判定には持ち込めないでしょ、メインだから。サクはプロレスラーだから、メインを張るっていうのがどれだけ大変なことなのか、叩き込まれてるわけじゃない？　そのメインというプレッシャーがいい方向に作用したんだろうけど、あの状況で相手の、しかも〝グレイシー〟の関節をハズせるっていうのは並じゃない。もうサクは押しも押されぬメインイベンターですよ。
豪　ヘンゾは強かったですからね。
山口　うん。「サクはリアル・タイガーマスクだった」って、俺は何号か前に書いたけど、船木と桜庭を比較してみると見えてくるものがあるんだよ。二人ともタイガーマスクに憧れてプロレス入りしたんだよね。それで船木はある時期から「タイガーマスクはプロレスじゃないと出来ない」っていう割り切りができた。でもサクは、VTの場でも「タイガーマスクができると思えちゃう」資質がある。だからこれだけVTで大技の攻防ができるわけじゃない。でも、今回のサクってタイガーマスク的って言うより、かつての藤波辰巳的じゃなかった？
ガンツ　藤波的っていうと？
山口　藤波的っていうか、メインがジュニア・ヘビー級の「藤波vs誰それ」みたいな感じで、フ

『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／

ギルバート・アイブル（1R0分28秒TKO）ゲーリー・グッドリッジ

すっかり番人キャラが定着してきたゲーリー・グッドリッジが、『PRIDE』第1戦でミソをつけた“ハリケーン”ギルバート・アイブルと対戦したこの一戦。試合前はゴキゲンなグッドリッジに対して、かなり緊張気味のアイブルだったが、いざ始まってみれば左のハイキックがテンプルを直撃して一発、たった28秒失神KO！　アイブルは『PRIDE. 9』の悪夢を払拭すると共に、反撃の狼煙を挙げることに成功した。今後に期待！



アイブルが鮮やかすぎるKO劇!!

『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／

マーク・ケアー（1R2分6秒ネックロック）ボリソフ・イゴリ

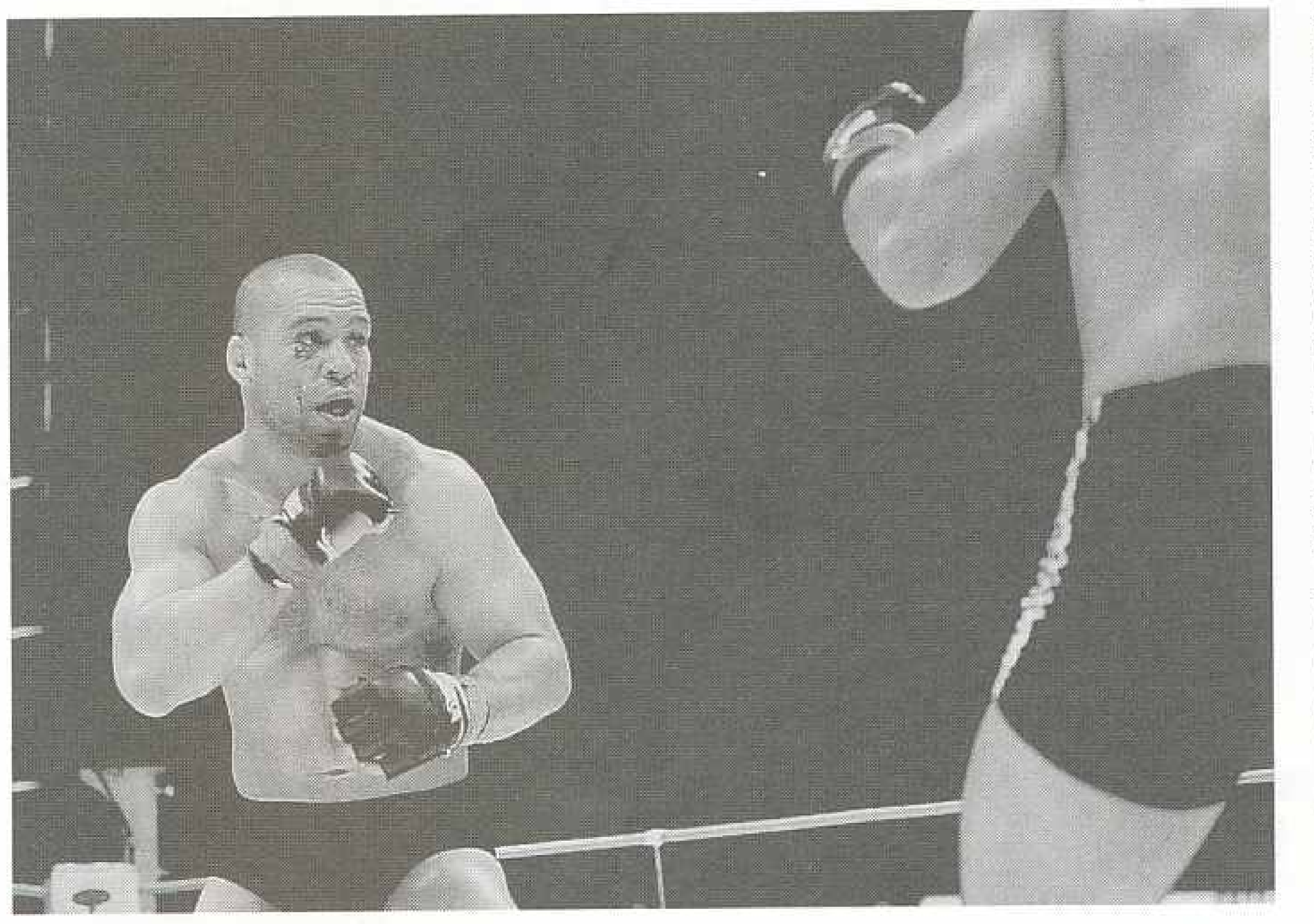
5・1『PRIDE. GP』で藤田和之に完敗（敗因は体内の糖分が抜けてしまったため）したマーク・ケアーが再起戦に臨んだ。相手はサンボ世界王者のボリソフ・イゴリ。イゴリはグランドでは勝ち目がないと判断したのか、いきなりパンチで襲いかかる！　だが、タックルで倒されてからは、サンボのテクを何一つ使わずに完敗。っていうか、ホントにイゴリはサンボの世界王者なのか？　かなり怪しいゾ。ケアーはこの一戦で完全復活だ！



霊長類最強の男ケアー復活!!

格闘ロマン
OLYMPIA 2000

アンもテクニシャン同士、正統派同士の闘いに見ちゃってる部分もあって、見るほうも大会前はテンション上がってなかったじゃん。
豪 つまり、藤波の試合がモチベーションが低いって言いたいわけですか（笑）。よくわからないですけど、サクは「折ってみろ！」って言われて骨をキッチリ折れる藤波である、と。
山口 そう！ 猪木の前で〝折れる藤波〟（笑）。リアル藤波辰巳というか。
豪 まるで藤波が偽者みたいな言い方しますね（笑）。ドラゴンに呪い殺されますよ！
山口 いやいや、概念としての〝ドラゴン〟だから（笑）。
豪 正しい意味の藤波というか、猪木の後をちゃんと継げる藤波？
山口 そう。猪木さんの後継者になれる、リアル・ドラゴンという感じ（笑）。
豪 グレイシー一族にギブアップはないけど、サクも「アイ・ネバー・ギブ・アップ」という（笑）。
山口 ウマイね、どーも（笑）。つまりサクはリアル・タイガーマスクでもあり、リアル・藤波辰己でもあり…。
豪 だけど「リアル・藤波辰巳」って、人としてあまり言われたくないフレーズですよね（笑）。バカにされたと思われますよ。
山口 おまえのフレーズのほうがバカにしてるよ（笑）。じゃあ、リアル・ドラゴンでどーだ！
豪 それでも多分サクの奥さんは怒りますよ。「私はかおり夫人なの？」って（笑）。
山口 ガハハハッ！ いや、だから〝概念〟の話だって言ってんだろ！
豪 これから大変ですよ、サク。腰悪くなっちゃったりとかして（笑）。
山口 もういいよ（笑）。1年半くらい前に、ウチでやったインタビューで猪木さんが、「ズバリ言って〝怒り〟をエネルギーに変えていければ」って言ってたのを読んで、サクは「あ〜、そういえば、スーパーサイヤ人になるには〝怒りのエネルギー〟が必要だった」と思ったんだって。ビクトー（・ベウフォート）戦に臨む前に。本人は覚えちゃいないだろうけどね（笑）。今回の相手のヘンゾは、いままでのホイラー（・グレイシー）やホイス（・グレイシー）戦のように〝怒りのエネルギー〟を出す対象じゃなかったでしょ。



難攻不落のメッツァーを打撃戦でKOし、前半戦の客席のボルテージを一気に高めたことで、この日の裏MVPの声も多いシウバ。以前からマニアの間での評価は抜群だったが、この日ようやく、その世界一わがままな膝小僧ぶりが、広く認知されることになった

チョロ ヘンゾは悪役じゃなく正統派キャラですからね。
山口 だから、今回サクの戦前の「やる気ない」発言とかは、〝怒りのエネルギー〟が充填されなかったんだと思う。だけど、試合中にメインのプレッシャーと客の熱気を背にして、あの戦慄のフィニッシュを現出させてしまったんだよ。
豪 （アクラム・）ペールワンのときの猪木みたいに「折ったゾーッ！」はなかったですけどね。
山口 「面白い試合ができなくてすいません」だって（笑）。だから、当然猪木さんの「折ったゾーッ！」っていうテンションには及ばないんだけど、〝時代性の中での猪木〟という面はあるよ。
豪 タイガーマスクって言ったり、ドラゴンって言ったり、今度は猪木ですか！ いったい誰なんですか、サクは（笑）。
山口 いや、「桜庭和志とは何者か？」っていうのは、『紙プロ』の裏テーマみたいなもんだから（笑）。ホントに「何者なんだ、この人？」って感じだもんね、サクは。脱帽ですよ。

どうする新日本！どう出る長州力！

山口 ところで長州力は『PRIDE』に代表されるような流れを「まだ出来事だよな。プロレスと同じようにシリーズ化して、継続的に試合をやっていくんであれば見方は変わってくるだろうけど」みたいなことを言ってたでしょ。でももう『PRIDE』は完全に流れには乗ってる。それでもまだ、ただの出来事って捉えてるのかな、長州監督は。
豪 『コロシアム2000』くらい間隔が開けば、ただの出来事でもいいですけどね（笑）。
ガンツ 『PRIDE』は次が見たくなっちゃいますもんね、それは「プロレス」において重要な要素ですからね。
山口 しかも、新日本の象徴であった猪木さんがプロデューサーに就任してるんだから。もう対岸の火事では済まされないはずだよね、これは。
豪 そういえば会長（山口日昇のアダ名）が前号で「長州の〝ストロング・スタイル〟の本質は『俺が面倒を見る』ということだ」って言った直後に、「ターザン山本殺害計画」が『メンズウォーカー』別冊の仕事で発覚したじゃないですか（笑）。記者集まると声をかけて「お前らの中で誰か山本を殺すヤツいないか！ 殺したらオレが一生面倒をみてやる！」って、ホントに「面倒を見てやる」って言ってたことが発覚（笑）。あれはいい話ですよねぇ。それでシビれてたら、GK（ゴング金澤編集長）が「長州さんは自分の手を決して汚さないんですよ！」だって（笑）。「なんだ、会長あってたじゃん！」って。
山口 俺も面倒見られたい（笑）。でもさ、やっぱり新日本には「イザ」となったらやってくれるっていう幻想があったわけでしょ。その

『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／

ヴァンダレイ・シウバ（1R3分45秒KO）ガイ・メッツァー

その、必要以上に守りが堅く倒せそうで倒せないスタイルから、“『PRIDE』のリック・フレアー（もしくはニック・ボックウィンクル）”の名を欲しいままにするメッツアー。しかしこの日は得意のスタンド膠着が通用する相手ではなかった。ムエタイ・スタイルを得意とするシウバはメッツァーが組み付いてきても、首相撲からのヒザをぶち込むことで、“ガイ・メッツァー戦法”を完封。まんまと打ち合いに持ち込み、見事KOに成功！



シウバ裏MVP メッツァー陥落

『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／

リコ・ロドリゲス（1R6分4秒フロントチョーク）ジャイアント落合

「空飛ぶ宇宙デブ」「俺流格闘家」など、ゴキゲンなニックネームとその風貌、賛否両論あるキャラ作りなどで、いやでも目立つジャイ落。しかし、目立つだけになおさら試合でも活躍しないと観客が納得しないというインドイ立場にもある。さらにこの日の相手は、大物リコ・ロドリゲス。相手に何とか食らいつくなど、プロ2戦目としては十分合格点の内容だが、はたして『PRIDE』に出場するレベルかという議論も呼んだ。次は結果だ



ジャイ落、見せるも完敗

「イザ」はいつなのか？っていうことでしょ、問われてるのは。まさかターザンを殺すときじゃないだろうし（笑）。それが10・9東京ドームなの？

豪　ドゥ・ジャッジ！

山口　それそれ（笑）。

豪　でも『PRIDE』の流れに対して危機感があるんだったら、あんなカードは組まないですよ、ドームで。このままじゃヤバイから全日との対抗戦で巻き返そうと本気で思ってるんだったらね。ホントにただ対抗戦を引っ張ろうとしてるだけじゃないですか？あまりにも長期展望過ぎでしょ。イッシー敗戦の暗い影を消そうとする気はないですよね。消したいんだろうけど、あれじゃ消えない。新日対全日をこれだけ待ち望んだはずなのに、頂上対決が何で川田vs健介なんだって。お前ら、どっちも頂上じゃないだろ（笑）。

スモー　でも会場に来てたファンは凄い盛り上がってましたよ。9・2の渕（正信）vs蝶野（正洋）のとき。

豪　全日ファン的には渕が光って嬉しいっていうのもあるだろうけどね。

スモー　あれは面白かったですよ！

豪　でも、対抗戦自体は「人」対「人」のぶつかり合いじゃなくて、企業のパワーゲームを見てるみたいでしょ。でも実際、全日は企業として成り立ってないのに、企業戦争しようとしてるからおかしいんだよね。新日が同じレベルで企業戦争出来るのは、『PRIDE』かK―1ぐらいなものなのに。

スモー　例えれば、まるで個人商店を相手にする地上げ屋ですよね。

山口　ガハハハ！　新日を地上げ屋呼ばわり！　キミにしては珍しくその表現は面白いよ（笑）。

豪　ただねえ、個人商店も地上げ屋から相当いいお金を貰ってるから、ぜんぜん被害者に見えないんだけど（笑）。立退き拒否とかしないでホイホイ立退いちゃうから、闘ってる感じがないし。地上げ屋の力が強すぎるんですよね。GEAEが新世代と旧世代の全面対抗戦を組んで新世代が全勝してたけど、新日はそこまで振り切れないだろうし。しかし川田だけは気になるよなぁ（笑）。本人のキャラ自体ホントに面白くなってきた。プロレスラーとしてのキャラの作り方も、天龍イズムにUWFスタイルを混ぜて、髪型はジャパン・プロレス直系だし。

山口　それって寄せ集めってこと？（笑）。

豪　というか、川田こそリアル・ドラゴンですよ。サソリ固めとか他人の技を勝手に使って、みんなに嫌われて、実権もないのにトップに立って、いつでもボヤいてばかりいて、考えのない発言を繰り返して……。何がしたいんだ、お前！（笑）。新日との対抗戦に興味はないけど、藤波と川田のリアル・ドラゴン決定戦は本気で見たいなあ。試合前のやりとりでは確実に『PRIDE』を超えると思いますよ（笑）。

山口　そういえば『サンデージャングル』で川田が「PRIDEの闘いは無視できない」って言ってたけど、川田は無視してた方がいいと俺は思う（笑）。

豪　藤波に至っては「『PRIDE』をどう思うのか？」って聞かれてたのに、「あれはすぐに試合を終わらせようとする闘いで」って、なぜか『PRIDE』の説明しちゃってましたからね（笑）。

山口　ガハハハ。猪木さんが「プロレスは興行なんです」ってよく言うけど、やっぱりもう一方ではソフト制作会社でもあるわけでしょ。そのソフト制作会社が、新しく出てきたプレステ2から目をそらして、いつまでもスーパーファミコンのソフトをつくり続けてるような感じがあるよね、いまの新日には（笑）。

スモー　やっぱりアメプロは、新しいものをつくっていく上で重要な鍵ですよ。

山口　蝶野vs渕戦がテレ朝で電撃的に放送されたとき、辻アナが実況で、「格闘技系のリングが賑やかな雰囲気を持っている中で、新日と全日の共闘がプロレスの歴史をこじ開けていく」と言ってて、『PRIDE』方面に対抗しようという意識があるのはわかるんだよ。でも、猪木さんのプロレスを称して、以前「トゲのように刺さるプロレス」って村松友視さんが言ったんだけど、やっぱりソフトには「トゲ」がないと、人の脳味噌には引っかからないでしょ。前のUインターとの対抗戦には、時代性の中で辛うじて「トゲ」はあったけど、いまの対抗戦には「トゲ」はないよね。

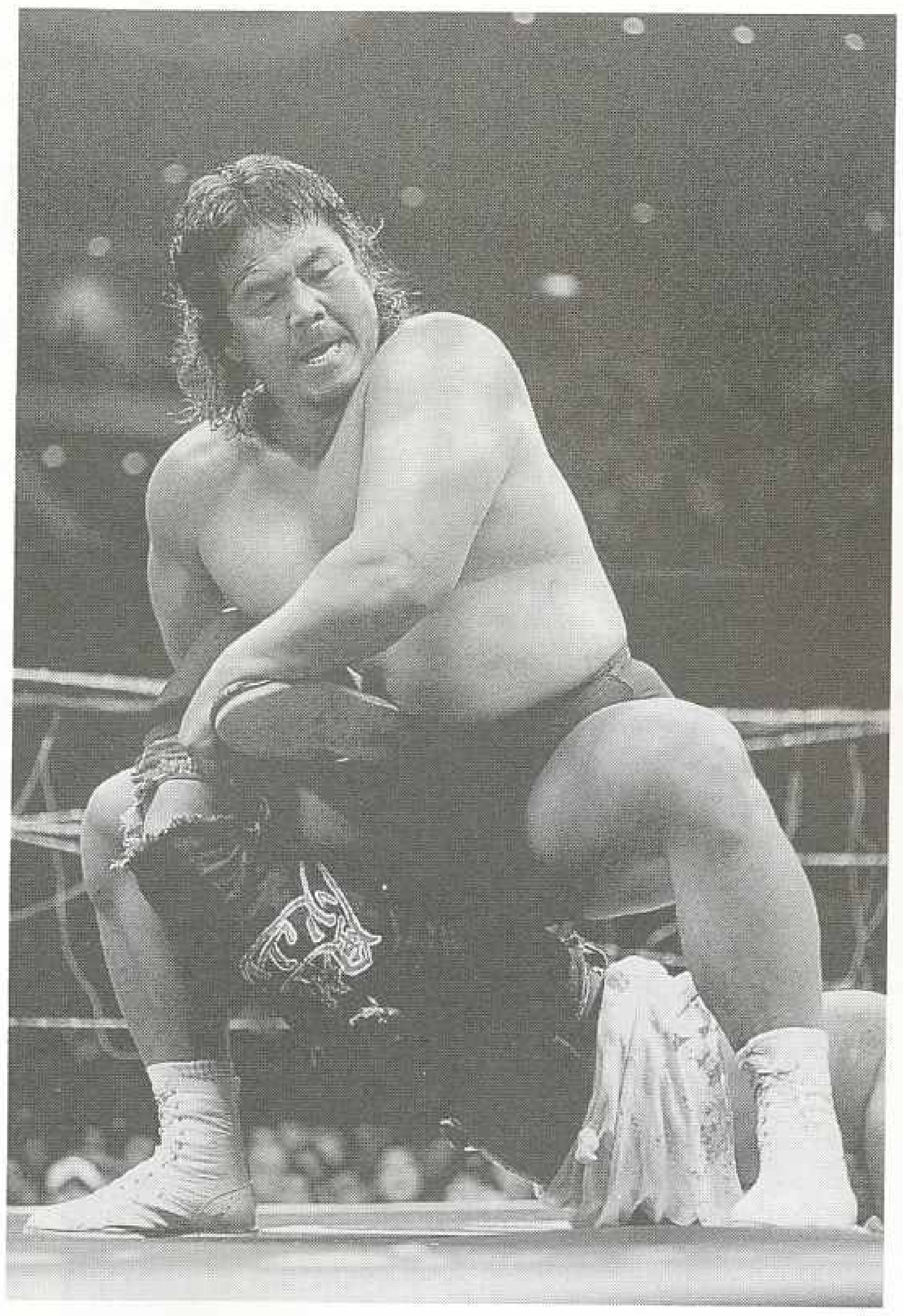
豪　限りなく初心者向きですからね。

山口　だから、長州力があくまでも〝ストロング・スタイル〟を名乗るんだったら、『PRIDE』の「トゲ」のほうが強烈だし、エンターテインメント方向に針を振ったとしても、大仁田の「トゲ」に刺されちゃうし。その両方の「トゲ」を持ってたのが猪木さんだから。新日にはその両方の「トゲ」を取り込むくらいの大きな幹になってほしいんだよ。それだけの素材がゴロゴロいて、体力があるわけだから。

豪　手遅れかもしれないですけどね。

山口　最後まで「トゲ」があるね、君は（笑）。はい、今日はオシマイ！

【9月中旬、シドニー・オリンピック開幕の何日か後に収録／文中敬称略】



まさに親方イズム爆発の「ターザン山本抹殺指令」は、本誌編集部員も他人事と笑ってはいられない。大仁田戦で見せた人をも殺しかねないような殺気をリング外でも発揮するのが長州イズムということか？　怖すぎる！

格闘ロマン OLYMPIA 2000

前田日明編集長『武道通信』通信



もはや『武道通信』の本屋は“地上”ではない！　前田日明率いる『武道通信』がHP上で簡単に購入＆購読可能になった。「前田日明vs古岡勝」の対談を掲載した最新号「十弐の巻」、また電子ファイル版も販売中！　詳しくはHPにて

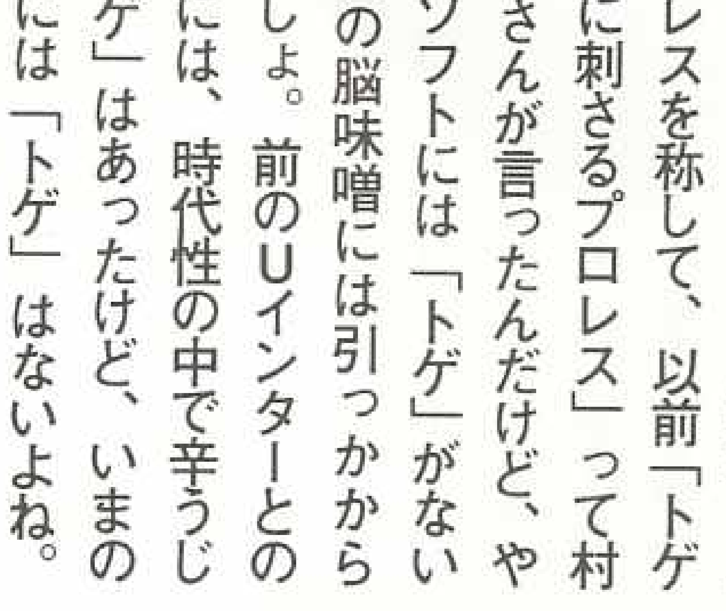
http://www.budotushin.com

『PRIDE.10』PUTIT REVIEW／

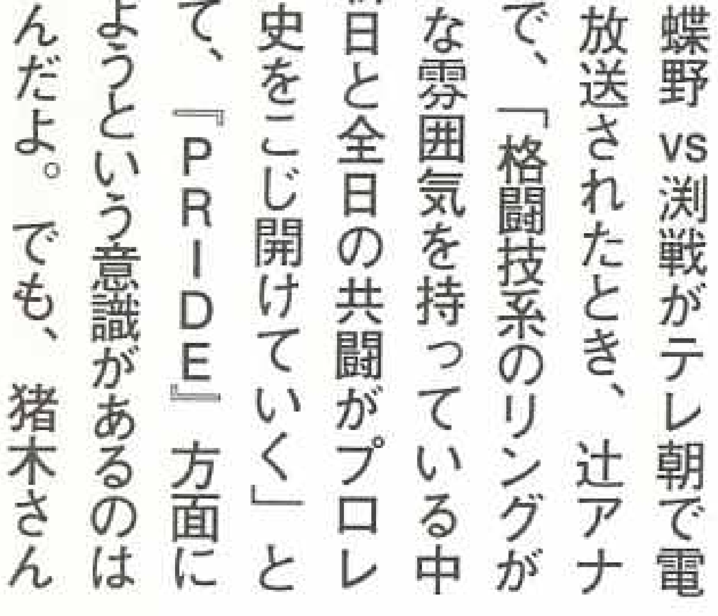
ビクトー・ベウフォード（判定6―0）松井大二郎

〝流血大王〟松井 またも流血化粧

試合開始から1分間は見合ったままの両者だったが、仕掛けた松井のタックルをビクトーが圧し潰し、的確にパンチを浴びせ続ける。なんとか下から反撃を試みる松井。しかし判定の結果は断然ビクトーの圧勝。そのビクトーは試合後桜庭をリスペクトしつつも「あの時はヒザと手の手術を受けていた」「桜庭とも一度対戦したい」とコメント。後でこの発言を聞いた松井は「また、言い訳してるんッスか、あいつ」とご立腹。顔面ボコボコだったが、「走って帰れますよ」と至って元気。その元気さで、9・16（現地時間）、アメリカでアミール戦に挑んだが敗退（P11参照）。次こそ、この元気さを活か切った結果がみたいゾ、松井！



見てみ、この面ッ！　血だらけのボコボコの顔で松井は、試合後「全然効いてないッス！」「UFCのトップはこんなもんかと思った」と負けず嫌い節で大炎上ォォォォ！

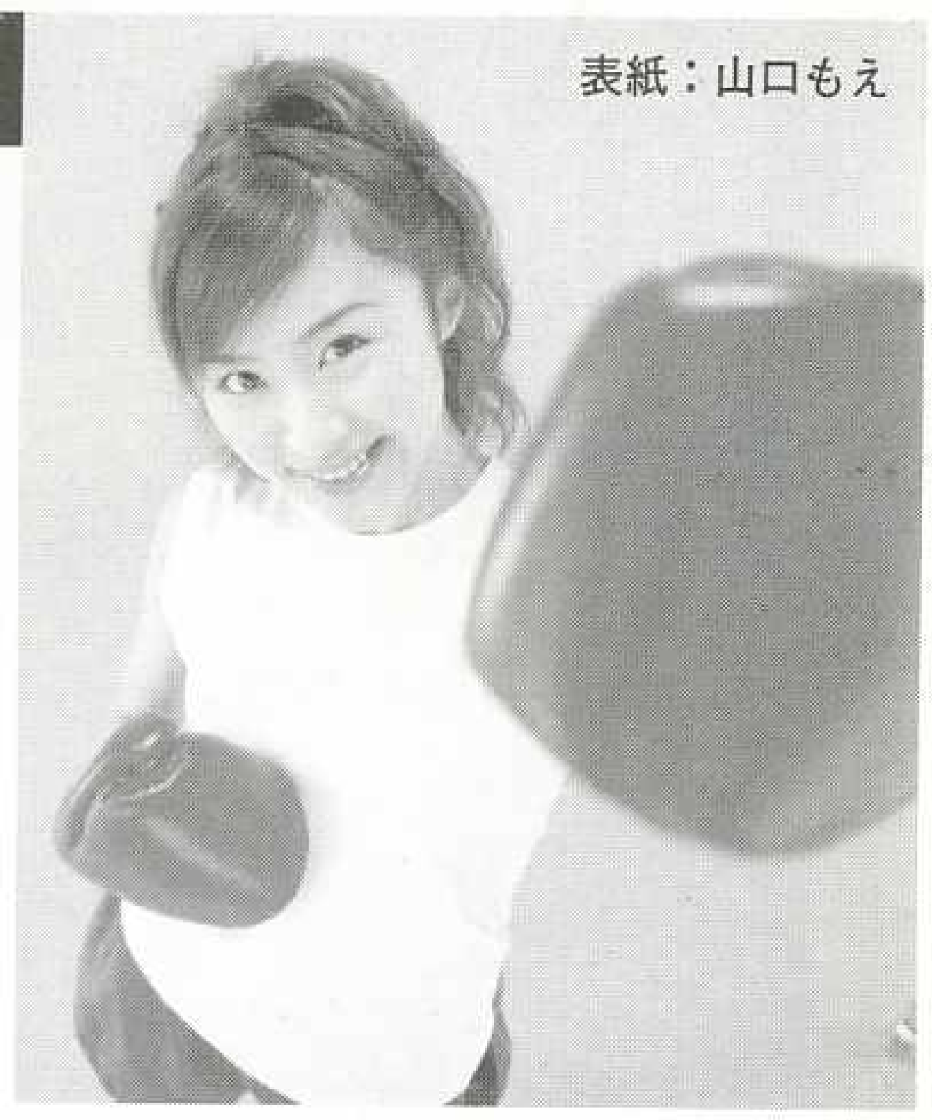


松井のタックルを上から潰し、常に上位をキープし続けたビクトー。一定の距離を保ちつつ松井を殴り続けた。松井もタップせず、判定に持ち込む根性を見せつけた

eb! enter brain

首都圏の書店・コンビニで好評発売中!!

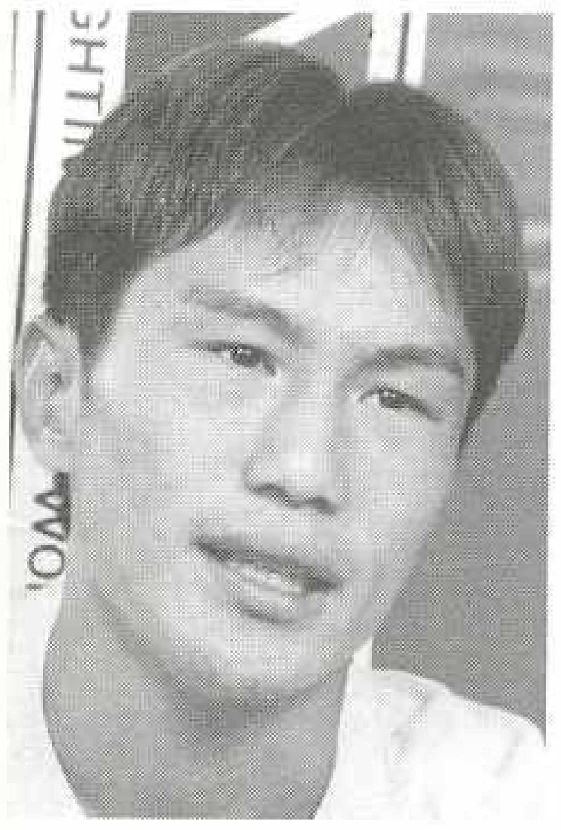
表紙：山口もえ



月刊テレビチョップ TV 男のための テレビ・エンタメ情報誌 チョップ！

Vol.2
定価480円（税込み）

9/23～10/31



10・11 WBA世界ライト級タイトルマッチ

畑山隆則 vs 坂本博之

男の意地のぶつかり合いに勝利するのはどっちだ!!

脚本家、名コンビ、職業モノ　etc.

2000年・秋の連ドラはこの視点で見る!!

付録　早わかり！2000年秋 週間ドラマ番組表

バラエティ、スポーツから報道まで

2000年秋 新番組おすすめガイド

付録　深夜番組ウィークリーガイド

90年代マスト映画＆要チェック監督18人

観ないと損する日本映画

初めまして！
私たちが「テレビ東京」新人アナです!!

15秒間のヒロインたち

今、注目のCM美少女を徹底チェック！



愛里

吉田豪の「男気万字固め」

ゲスト
ガッツ石松



超風雲児、
全メディア制覇宣言！**角川春樹の逆襲**

- 人造人間キカイダー　THE ANIMATION
- ぼくらの時代の落語を聴こう！
- 名プロデューサーの肖像　「男女七人夏物語」武敬子
- 鉄人秘話　～極真戦士としてのアンディ・フグ～
- ＹＭＯ直撃世代におくる 20年ぶりにテクノを聴こう！

●通信販売のお問合せ先：株式会社アスキー イーシー　電話(03)5351-8202　http://www.famitsu.com/
〒154-8528 東京都世田谷区若林1-18-10 みかみビル　営業局　電話(03)5433-7850　株式会社エンターブレイン

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

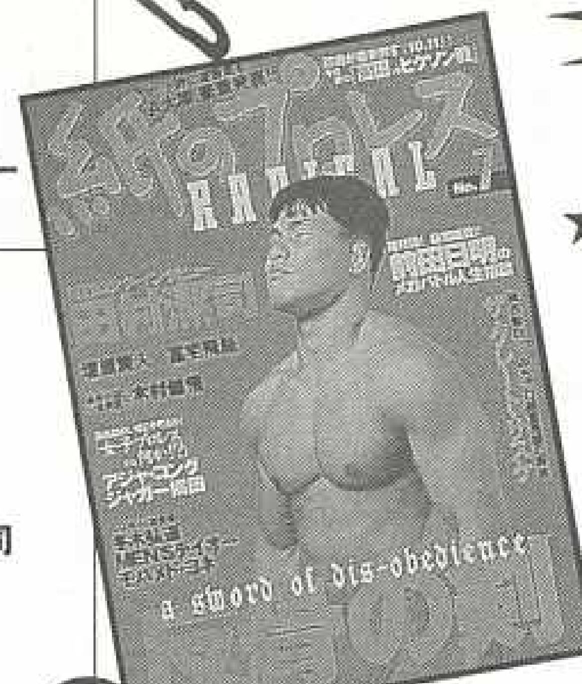
No.5

★すべてはここから始まった!



高田延彦ロングインタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
ドン荒川vs藤原喜明超過激対談!
前田日明の『人生は語らず』
世界格闘技連盟を語りたおす!
佐山聡(タイガーキング)
長井満也/柳澤龍志/ディック東郷
愚乱・浪花/ザ・グレート・サスケ
長与千種/ライオネス飛鳥/ビクター・クルーガー
パンクラス旧合宿所誌上大公開!

編集部大掃除の際、完売したはずのNo.7を
大量発掘!!
ラストチャンス

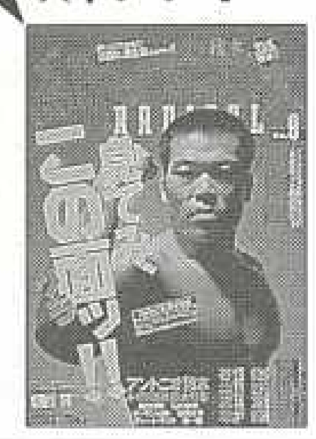


★反骨の剣を研げ!!

鮮烈ロングインタビュー田村潔司
前田日明のメガバトル人生相談
「人生は語らず」/みちプロ経営危機の
真実を激白! ザ・グレートサスケ
新日本魂から長州力まで木村健悟
受け継がれるUの遺伝子垣原賢人
悲しきパンクラシスト冨宅飛駈
グレート・テキサンの涙の訴えを聞け!
テリー・ファンク/喧嘩大王タンク・アボット/「女子プロレスとは何か?」
アジャ・コング、ジャガー横田/
世界で一番ニクイ奴! 冬木弘道

No.9

★「アントニオ猪木・闘魂連鎖!無礼講大特集!!」



前田日明/ザ・グレート・サスケ
高田文夫/春一番/ターザン山本/石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!座談会
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前インタビュー&炸裂人生相談
日プロOB吉村道明&ユセフトルコ
&遠藤幸吉&駿河海
「格闘家からみたプロレス!」
朝日昇★谷津嘉章/佐野なおき
下田美馬&三田英津子

No.10

★特集「灼熱の地殻変動'98」



大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談!
とにかく元気!高田延彦ロングインタビュー
またもや大爆発!
谷津嘉章インタビュー第2弾!
社長&会長対談・ザ・グレート・サスケVS松永高司
『紙のプレイボーイ』発進!!
ダイアナ&宮内美穂
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
『紙プロスーパースター列伝』北沢幹之
冬木弘道ロングインタビュー

No.11

★特集「格闘Viagra'98」



高田延彦vsエンセン井上
エネルギーエクスチェンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
「格闘か?芸術か?それとも格闘芸術か!?」
佐山聡/スーパー宇宙パワー(木村浩一郎)
福田雅一
★ザ・グレート・カブキ/ダンプ松本
★バト両国進出記念石川雄規
トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるSWSの真実
「S多重アリバイ」アポロ菅原

No.12

★特集「格闘TEPODON!!'98」



2度目のヒクソン戦直前!
高田延彦ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ!
祭り囃子を鳴らせ!!」浅草キッド
人気大炸裂!「S多重アリバイ」
第2弾アポロ菅原
★桜庭和志/アレクサンダー大塚
山本喧一/神取&北尾/八木淳子
ダンプ松本/猪木イズム世界一決定戦
石川雄規&ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ前田日明「人生は語らず」
話題騒然!! What is プロ格闘家?
菊田早苗&郷野聡寛

No.13

★特集「四角いジャングルRADICAL」



実写版『1・2の三四郎』降臨!
アレクサンダー大塚インタビュー
「10・11 PRIDE.4」とは何か?
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
「高田VSヒクソン戦!!」
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
「10・11 PRIDE.4」
大反響!「S多重アリバイ」第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド/松永光弘
リッキー・フジ/堀辺正史

No.14

★特集「格闘DREAM CAST」



前田日明独占ロングインタビュー
これがカレリンの発した言葉だ!!
山本美憂・聖子vs父・親子ゲンカ!? 対談
連勝街道爆進中!金原弘光
RADICAL版 ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!!
「高田道場1999!」高田延彦/桜庭和志
佐野なおき/松井大二郎/豊永稔
「S多重トンパチ」第4弾 折原昌夫
★『虎の尾を踏む男たち '99』小路晃
4代目タイガーマスク/村上一成/宇野薫

No.15

★特集1「格闘MARS ATTACKS!」



橋本戦の核心を語る
小川直也with.S.Sインタビュー
佐山聡/4代目タイガーマスク
UFO襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明USA特訓を直撃!
アレキサンダー・カレリン
浅草キッド/アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場!SASUKE
『語ろうマサ・サイトー!』
「S多重アリバイ」2連発!
佐野なおき&Mr.W

No.16

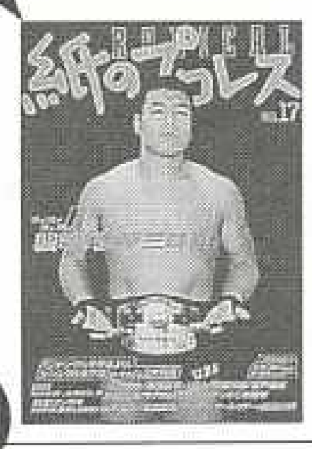
★特集1「格闘ノストラダムス'99」



エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司/坂田亘/高阪剛/山本喧一
村上一成/マーク・コールマン
石川雄規/ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち '99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占インタビュー
大好評!「語ろう」シリーズ第2弾!
『語ろうジャンボ鶴田』
「S多重アリバイ」第7弾石川孝志

No.17

★特集1「格闘MAKE JUNGLE」



UFO襲撃三昧小川直也インタビュー
桜庭和志/高田延彦/アントニオ猪木
豊永稔/マグナムTOKYO/池田大輔
宮戸優光
★特集2
「新生リングスBone&Blood」
前田日明/山本宜久/成瀬昌由
R・クートゥアー
★タイガー・戸口/矢口壹琅/『怪物通信』
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18

★特集「格闘STAR WARS」



カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー/高田延彦
エンセン井上/イーゲン井上/小路晃&宇野薫
格闘STAR WARS座談会
★「S多重アリバイ」第8弾将軍KYワカマツ
「外人さん、いらっしゃ~い」
F・シャムロック/G・グッドリッジ
R・グレイシー
『怪物通信』G・アイブル
『闘魂猪木塾とは何か?』

No.19

★いま一度高田延彦を注視せよ!



マーク・ケアー戦直前高田延彦インタビュー
リングス、パンクラスにも咆吼三昧!!小川直也
マット界の今後を前田日明CEOが激白!
『紙プロスーパースター列伝』ドン荒川
佐山聡/エンセン井上/成瀬昌由
TARUwith AYAKA/宇野薫
アレクサンダー大塚
『怪物通信』4連発!
M・ケアー&G・グッドリッジ&
E・F・ブラガ&G・メッツアー
上田馬之助/井上貴子/川口健次

No.20

★人間UFO吠えまくる!



小川直也インタビュー
独占!! 公開インタビュー前田日明
アレクサンダー大塚
高田延彦爆炎記者会見/佐山聡とは何か?
『語ろう藤波辰爾』/バス・ルッテン
「S多重アリバイ」第10弾ドン荒川
滑川康仁/カール・マレンコ/高阪剛
山本宜久/成瀬昌由/小路晃&宇野薫
ケビン・ヤマザキ/内藤恒仁
敗者『紙プロ』追放試合!
ジャイ子vsトイレの大西さん(仮)

No.21

★恐怖のプロレス大魔王降臨!



小川直也ロングインタビュー
『紙プロRADICAL』初登場じゃあ!
大仁田厚/前田日明総帥激白!
本誌独占! 発見八木淳子
「S多重アリバイ」第11弾鶴見五郎
G・アイブル/R・フィエート
本誌先取りB・コーラー
桜庭和志IN青空プロレス道場
エンセン井上/山本喧一/高瀬大樹
アレクサンダー大塚/モハメド・ヨネ
CIMA/田中健一/平直行
コーラ・パワーズ/本誌独占G・サスケ死す!

No.22

★サク、グレイシーに完勝この上なし!



桜庭和志ロングインタビュー
前田テロ事件サプライズ座談会
ヤマケン?…俺は逃げる!田村潔司
俺は逃がさない!山本喧一
スモーノブ初土俵!大刀光
好評につき第2弾!田中健一/馳浩/小川直也
ゴールドバーグ/坂田亘/木村浩一郎/長井満也
池田大輔/B・コーラー&A・ウォリアー
佐藤耕平/渡辺千景
ヒクソン&ホイラー兄弟の
「ああ言えばこう言う録」

No.23

★道はどんなに厳しくとも笑いながら歩こうぜ!!



ホイス戦直前!高田延彦インタビュー
超異次元対談大仁田厚VSエンセン井上
つっぱれ大刀光
スモーノブがっぷり四つインタビュー佐々木嘉則
ヒクソン・グレイシー/W・ウィリアムス
ジャイアント馬場1周忌追悼座談会
レスラー生活10周年記念ザ・グレート・サスケ
★「リングス『KOK』大特集!」
襲撃事件後『紙プロ』初インタビュー前田日明
ヘンゾ・グレイシー他
刺青女多和田初美/木口宣昭

No.24

★頭、打ちすぎたかアレク!!



アレクサンダー大塚
ロングインタビュー&1・30密着ドキュメント
『新プロレス』とは何か?緊急座談会
5・1ホイス狩りに王手!桜庭和志
グレイシー討伐を公約!田村潔司
VTの見方全て私が教えます!堀辺正史
「柔道多重アリバイ」守山竜介
KOK大予想大会!/中西百重
語ろう船木VSヒクソン座談会
「紙のプロレスAMERICAN」
ブチ抜き17ページWWF大特集
ザ・グレート・サスケ×矢追純一UFO対談

No.25

★「新プロレス」へ突き進めーッ! 格闘ロマン、続行ーッ!!



猪木イズムを携えた『思考する野獣』誕生ーッ!!
藤田和之ロングインタビュー
ヘンゾ討伐記念!田村潔司
アブダビ・KOK・田村の勝利を語り倒す!!前田日明
椎名基樹のいい日アブダビ紀行文!
「UWF」が立ち昇った座談会
4・7ゴールデンタイムで破壊王と激突! 小川直也
UFOの特攻隊長、爆進!!村上一成
石川雄規&小路晃対談
ミスター高橋の新日本セキュリティボディーガード
アカデミー秩父合宿リポート

No.26

★「プロレス」を頼むゾーッ!! やっちゃってくれサク!!



桜庭和志炎のロングインタビュー
本誌独占!金無垢のロレックス贈呈式!!
前田日明&田村潔司
人間UFO、4・7ゴールデンタイムで破壊王を壊滅!!小川直也
「プロレススーパースター外伝」ミスター高橋
本誌独占!斎藤彰俊
遂に復活!クラッシュ2000/大仁田厚/エンセン井上
TAKAみちのく/山本宜久/村浜武洋
「4・7ドーム」&「格闘ドリームキャスト」座談会
女子総合格闘技ReMiXの全貌!

No.27

★「新プロレス」は連鎖する!



桜庭和志withサクラバマスク
ホイス完封記念インタビュー
ほ乳類最強の男藤田和之ド迫力に降臨!!
タムタム元気!田村潔司
大仁田厚vs馳浩ハイテンション対談
佐山聡vs田中健一師弟対談
G・アイブル/K・シャムロック
本誌独占第2弾!斉藤彰俊/格闘連鎖座談会
金原弘光/M・スペーヒー&R・アローナ&R・ババル
ホイス&ホリオン&エリオのその後/平直行/堀辺正史

No.28

★「格闘リンク」続行ーーッ!!



小川直也ロングインタビュー
前田日明、尾崎社長を暴行? or説教?
"事件"の胸中をド激白!
無差別対戦表明、咆吼!田村潔司
故・ジャンボ鶴田夫人、衝撃の真実を独白!
ヘンゾ・グレイシー/アラン・ゴエス/TKおかん
『紙プロスーパースター列伝』2連発!山崎一夫&仲野信市/旭道山/池田大輔
豊永稔/ミスター高橋/I元編集長「井上用語の基礎知識」
山口日昇のサブウェイ「格闘リンク」トーク

No.29

★「格闘環境」は刻一刻と激化する!



秋山準マット界の新エース初登場インタビュー
三沢光晴&ノア勢フル登場
丸藤正道&金丸義信
故・ジャンボ鶴田夫人感動の闘病秘話
「PRIDE10」の主役はこの男桜庭和志
村上一成の波瀾万丈人生/小川直也/山本喧一/
ホフマン&ツベトフ/TKおかん後半/大反響!
『紙プロスーパースター列伝』仲野信市後半
里村明衣子/I元編集長「井上用語の基礎知識」/
大仁田厚

No.30

★燃えよ! 闘魂の火種!!



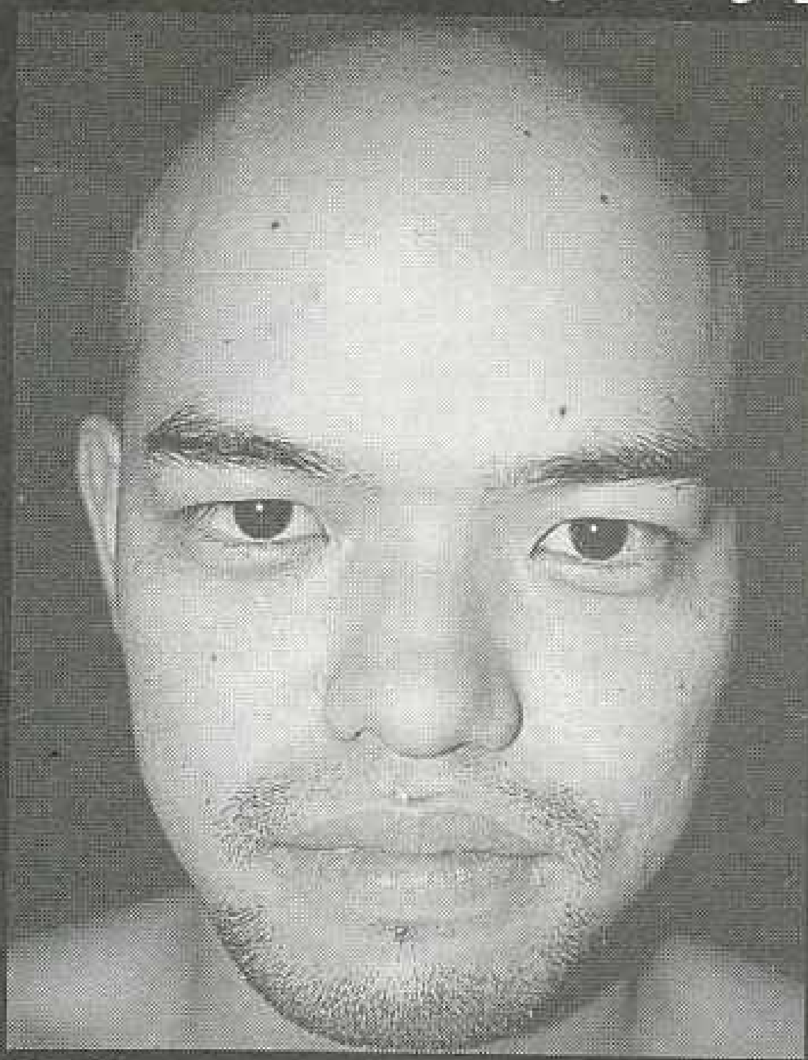
UFOの核弾頭 村上一成
ヒクソン襲撃準備中 小川直也
石沢常光という名のマスクマン暴言集
大和魂とトルコ魂の接近遭遇エンセン井上&ユフ・トルコ
怪物通信ヘンゾ&ハイアングレイシー
ノアから"怒りの火種"秋山準
『紙プロスーパースター列伝』永源遙/リングスinハワイ金原弘光/滑川康仁/格闘技界の未来を背負って立つ男高阪剛/緊急座談会さようなら長州力
「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り!

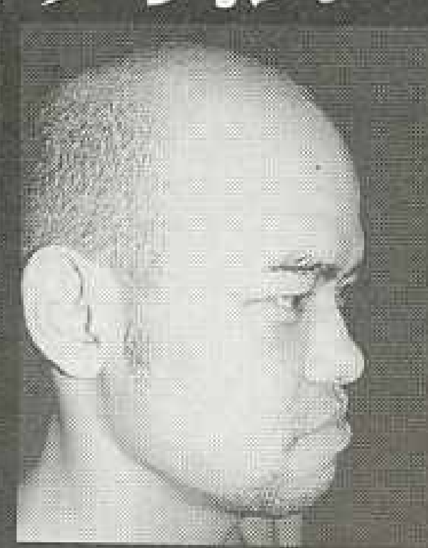
※NO.1~NO.4、NO.6、NO.8は完売しました!

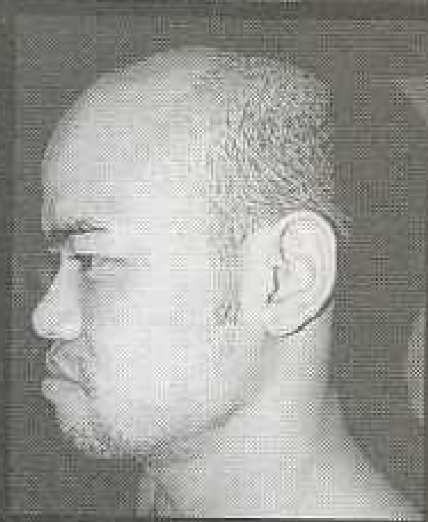
【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります(バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません)
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702(株)ダブルクロス「RADICAL通販」係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130-3-769154 (株) ダブルクロスまで。代金はNO.5~NO.10=680円 NO.11~NO.19=780円 NO.20=880円 NO.21=840円 NO.22~NO.23=880円 NO.24~NO.29=800円 送料1冊=310円 2冊=340円 3冊~4冊=450円 5冊=520円 6冊以上=700円
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バティスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO" CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS(池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店)

その四 紙プロ記者列伝







見てみ、この面ッ!!

幸田　珍（仮）

紙のプロレス

本誌バックナンバーのお知らせ

紙プロ本誌時代のような強烈キャラが久々に登場!!

この顔で意外にも某国立大学の大学院を卒業している珍。『紙プロ』入社はズバリ言って学歴の無駄遣いだろ。金の話には敏感で関西人フレイバー丸出し。「居候中だからオナニーもできないですよぉ」などとボヤきつつ上京一週間で早くも都内にSEXフレンドを確保。じつにいやらしい田吾作編集者（の卵）だ。



第5号
特集 たたかいグランプリ
特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタビュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣!　高田文夫、ナンシー関、浅草キッド



第8号
特集 さらば新日本プロレス
ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た



第11号
特集 狂気とは何か?
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記



第12号
特集 色気とは何か?
村松友視が前田日明を語る!／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場!／色気王A・猪木も登場



第13号
特集 道場破りとは何か?
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画　山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場



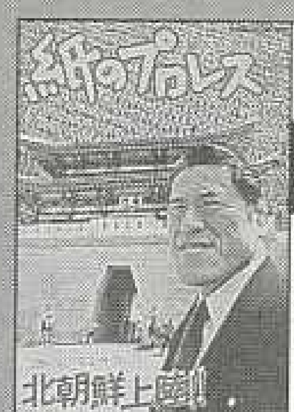
第14号
特集 神秘とは何か?
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!



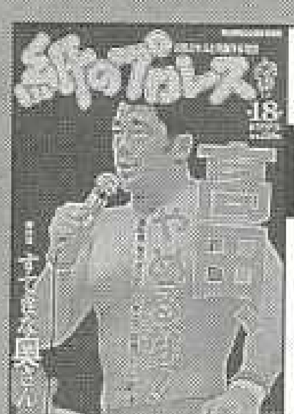
第15号
特集 インディペンデントの逆襲
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人　高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー



第16号
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談



第17号
特集 実況パワフル北朝鮮
猪木×永島のナマハゲ対談（© 大仁田）、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!?　ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」



第18号
特集 高田延彦さんへ愛をこめて
引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!



第19号
特集 さようなら紙のプロレス
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー



第20号
特集 たたかいグランプリ
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念　ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場



第21号
特集 幻的格闘技
古武道を通じてプロレスを考えよう!　前田日明も登場!　スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場



第22号
特集 この人が喝っ!!
巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号



猪木とは何か?
スキャンダル　れていた時期の猪木を直撃!　どうって　よ!／村松友視、立川談志、告発仕掛人・　が登場　のPKO発言を誌上再録

完売



パンクラス公式読本［矛］
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載



パンクラス公式読本［盾］
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!



極真とは何か?
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー



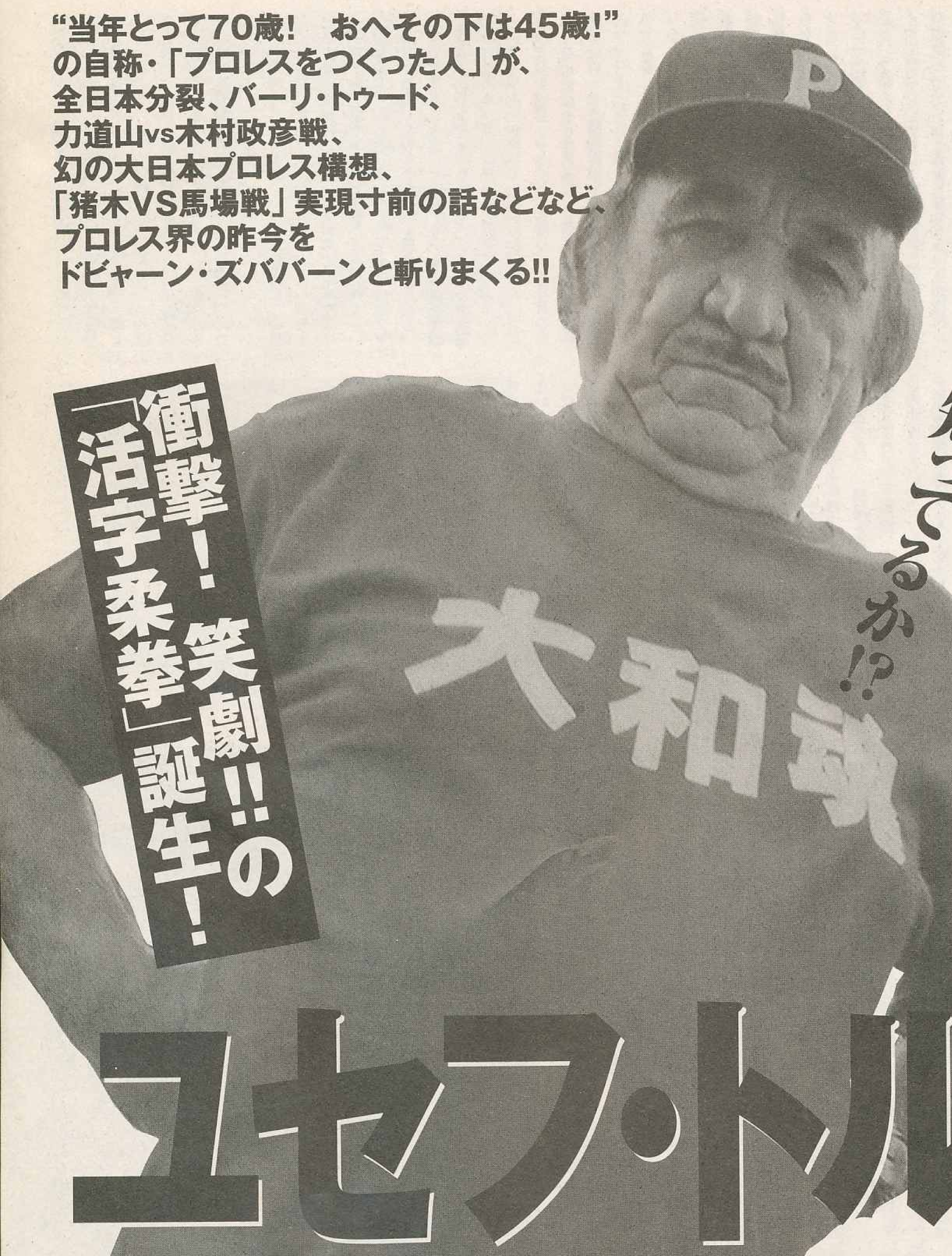
紙の前田日明
インタビューという名のエネルギー史
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／完全保存版

伝説に触れたい人のための申込み方法

●現在は1号～4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か?　キラー編』は完売しました。ノーダウト!!　●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号～22号は780円となります。　●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。　●送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。　●9号、10号、『猪木とは何か?』、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留送り先】
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

【郵便振替振込先】
00130-3-769154　（株）ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。
※絶対おつりのないようにお願いします!



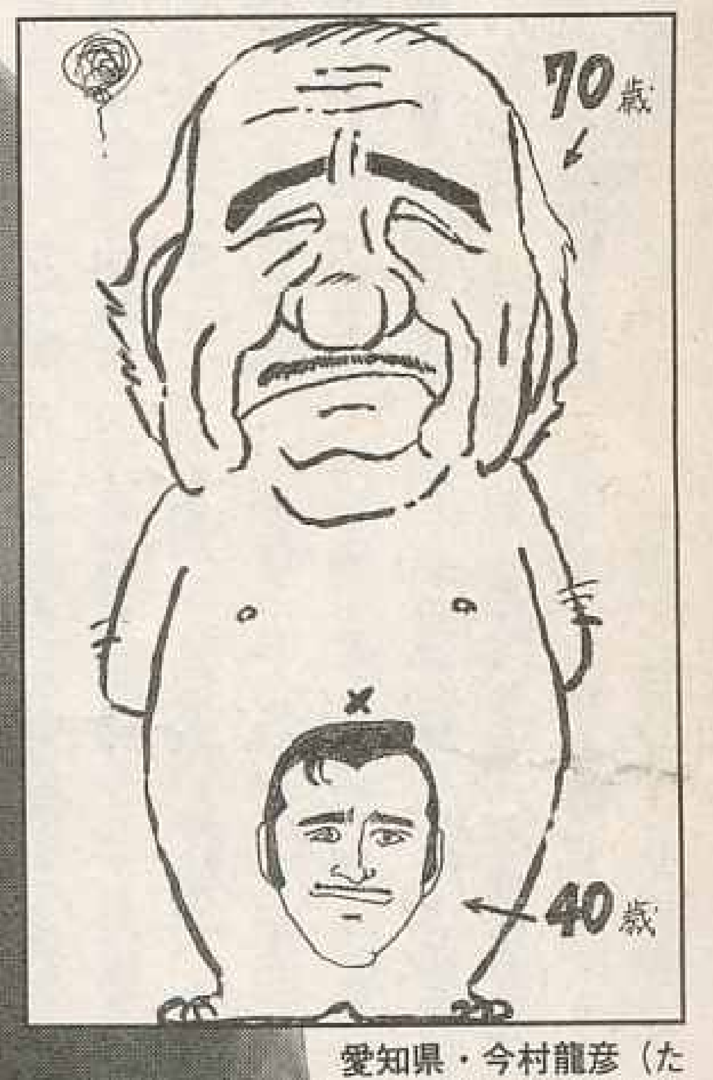
闘う"ヒト"の凄みと"ヒト"が生き抜いた時代を浮き彫りにしまくる不定期連載

ニッポンプロレス妖怏伝

"当年とって70歳！　おへその下は45歳！"
の自称・「プロレスをつくった人」が、
全日本分裂、バーリ・トゥード、
力道山vs木村政彦戦、
幻の大日本プロレス構想、
「猪木VS馬場戦」実現寸前の話などなど、
プロレス界の昨今を
ドビャーン・ズバババーンと斬りまくる!!

ユーは知ってるか!?

衝撃！笑劇!!の「活字柔拳」誕生！



愛知県・今村龍彦（たっつぁん）からも実にキャッチーなイラストが届きました

ユセフ・トルコ

『俺は日本人だ』という名著を持つ、この思いきり外人顔の男をユーは知ってるか!?　前号ではボブチャンチン戦を前にしたエンセン井上をこの男が激励に訪れたのをユーは知ってるか!?　この男がエリオ・グレイシーを破った木村政彦と約50年前にプロレスをやったことをユーは知ってるか!?　この男が「プロレスをつくった男」だということをユーは知ってるか!?　この男が猪木vsウィリー・ウィリアムス戦のレフェリーだったことをユーは知ってるか!?　ミーは知ってます。まさに"生きる伝説"と化した、世界一元気な70歳のインタビューを読めば、一升瓶が頭の中に飛んでくること、この上なし！

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito
資料&写真提供／ユセフ・オマー
thanks by Noboru Omer

シャープ兄弟が来日し、力道山vs木村政彦の天下分け目の一戦が行われた昭和29年といえば、日本中に瞬く間に一大プロレスブームが巻き起こった日本のプロレスの勃興期だ。しかし、それよりも前に、木村政彦と共にプロレス興行を打ち、柔拳（素人の飛び入りアリの柔道vs拳闘＝ボクシング）をやっていた男が、このユセフ・トルコなのである。ユーは知ってるか!?

その類稀なるデタラメ・パワーを武器にこの男は戦後を駆け抜けてきたわけだが、プロレスラーとしての現役時代には、昭和31年に日本ウェイト別選手権のライト・ヘビー級の1位に輝くという実力派で、加えてコミカル＆ユーモラスなファイトまで披露したのだから、一世を風靡したというのもうなずける話だ。そしてそのキャラは映画や舞台の世界でも認められ、そこでもまた大活躍したのである。ユーは知ってるか!?

レフェリーに転身してからも小気味のよいコミカルなレフェリングで人気を博し、若き日の馬場・猪木の試合を星の数ほど捌き、結局、昭和55年に行われた格闘技史上に残る大一番、猪木vsウィリー・ウィリアムス戦まで捌いてしまったのである。ユーは知ってるか!?

かと思えば、ルー・テーズと組み「日本プロレス乗っ取り」を企てた〝日系の黄色い悪魔〟グレート東郷をホテルの一室で半殺しにしたり、坂口征二のプロレス入りの際には反対する柔道サイドとやり合ったり、某空手道場に乗り込んだりと、とてつもない武闘派っぷりの側面もあるのだからバッグンだ。しかも、「グレート東郷殴打事件」では、あまりに一方的に痛めつけたため、逮捕状まで出ていたという話だが、自分の拳で自分の顔面を殴りまくって血だらけにし、その足で警察に出頭。喧嘩両成敗ということで逮捕を免れるという知能犯ぶりまで見せつけたのである。ユーは知ってるか!?

日本のプロレス史の表も裏も、光も闇も知り尽くし、政界や財界にまで名を轟かす顔の広さを持った世界一元気な70歳！ その声を聞く元気がユーにはあるか!? ミーにはあります。実は前号でボブチャンチン戦を前にしたエンセン井上の激励に現れたトルコを引っつかまえて、密かにインタビューを取っていたのだ。ニッポンのプロレスを駆け抜けた、妖しくも快い怪声を聞きたまえ。

トルコが全日本分裂、元子さん、日本プロレス末期の真相を語る

――そういえば、トルコさんは当年とっていくつですか？

トルコ 当年とって70歳！ おヘソの下は45歳！

――ガハハハ！ トルコさんに初めてインタビューしたときから、おヘソの下が10歳年齢が上がってますね。最初は「当年とって70歳、おへその下は35歳」でしたから（笑）。

トルコ デャーッハッハッハ。

――さ、久しぶりに今日は、もはや〝生きる伝説〟と言ってもいいトルコさんに、昨今のプロレス界の話題をブッタ斬っていただきたいと思ってるわけです（笑）。

トルコ 俺はね、プロレスに入ってきたんじゃないんだから！ 俺はプロレスに入門したんじゃないんだよ。ユーは知ってるか？ 俺はプロレスを作ったんだから。俺がいなかったら、馬場も猪木もクソもないんだよ。

――トルコさん、その辺はもう何十回と聞いてますから、ミーに任せてください（笑）。

トルコ そうだな。ユーならダイジョブだな。俺も『紙のプロレス』っていう名前、やっと覚えたから（笑）。

――5～6年の間、ウチの雑誌名を『紙の新聞』だと言い続けてましたからね、トルコさん（笑）。

トルコ デャーッハッハッハ。もう覚えた覚えた。

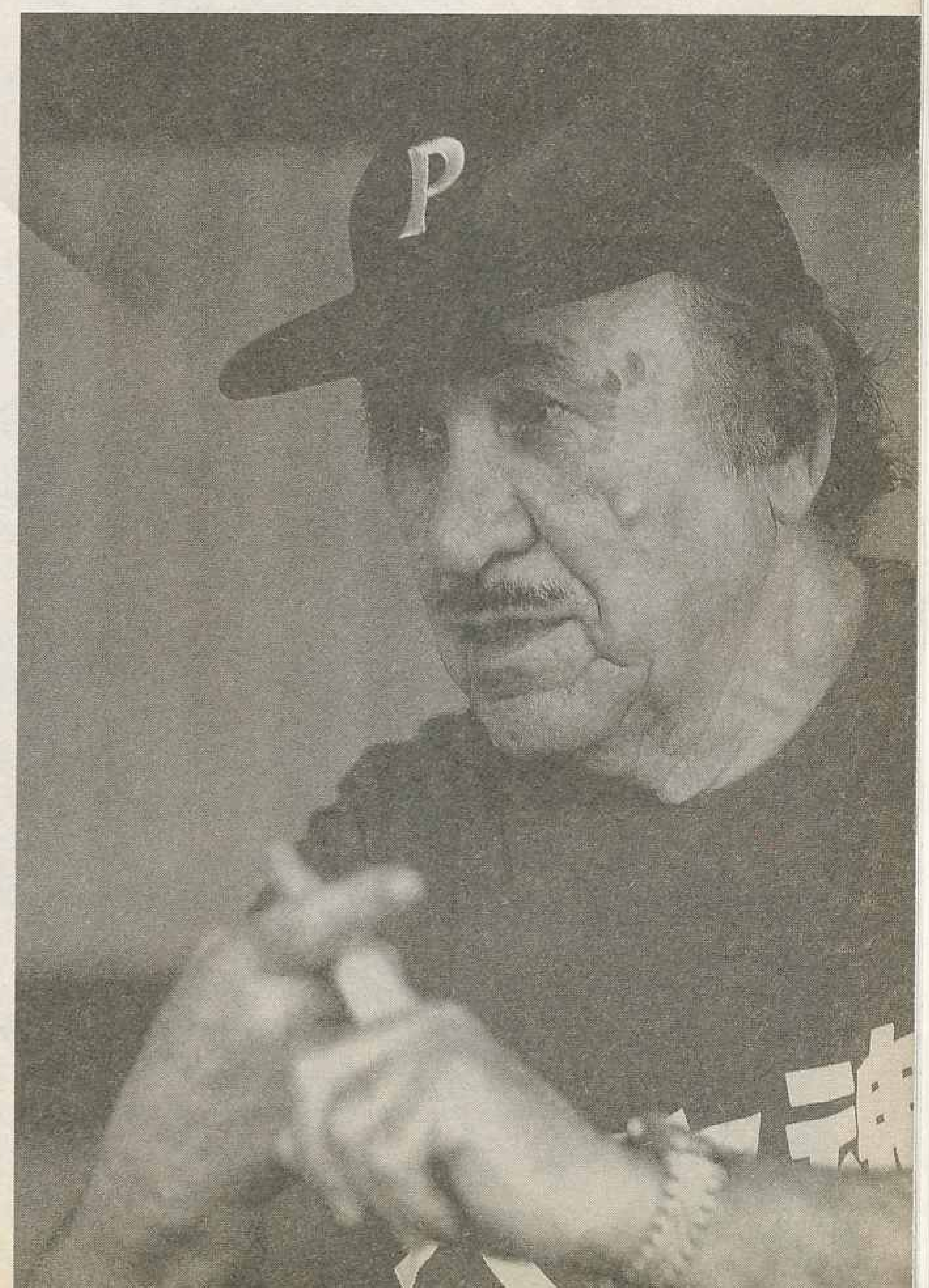
――ところで、馬場さんが亡くなって約1年半経ちますけど、この間、全日本から選手が24人も離脱するという、プロレス史上でも希にみる大量離脱劇があったんですよ。

トルコ 当たり前だよ。

――手厳しいですね！ トルコさんは、元子さんとは旧知の仲と言ってましたよね。

トルコ 旧知もなにも一番最初っから知ってるよ。元子はまだ俺たちが日本プロレスにいた頃からいたんだから。ユーは馬場に最初は違う女がいたのを知ってるか!?

――ゲ！ ミーは知りません。馬場さんに違う女がいたんですか？



「猪木vs馬場戦」を馬場はOKしたんだから！ それを壊したのが元子だよ！

トルコ いたいたいた、最初は。その女に逃げられて、それでいつの間にか、元子を連れて来たんだよ。

――にわかには信じ難いなぁ。だって、馬場さんの自伝とかには、元子さんがまだ16歳か17歳の頃から知り合ってたって……。

トルコ 嘘だよ嘘。元子がどっかの練習場によく来てたんだよ。

――まだ馬場さんがジャイアンツにいた頃ですよね？ 大洋の頃だったかな？ どっちにしろ、まだプロ野球やってた頃ですよ。

トルコ いやいやいや、馬場ちゃんはその女に逃げられたから、元子のことを思い出して一緒になったんだよ。俺よく知ってんだから！

――はあ（笑）。トルコさんは、ここでも（赤坂・キャピタル東急ホテル）、ときどき元子さんと顔を会わせてたんですよね？

トルコ そう！ で、俺が文句言ったの！「馬場ちゃんに、いつまでお化けみたいなことやらせてんだ」って怒ったんだよ。

――お化け（笑）。馬場さんもここが常宿でしたからね。

トルコ でも、俺に言われてから元子が来なくなっただろ。

――トルコさんはいまでもここが常宿だけど、馬場さんは、晩年は常宿をホテル・オークラに替えたんですよね。

トルコ そうだよ！ 俺に怒られたからだよ。だから、リキさん（力道山）は後継者を馬場ちゃんだと思ってたんだから。俺もそう思ったしさ。俺も馬場が一生懸命練習して体作ったのも覚えてるし。だから馬場ちゃんが、もうちょっと早くリングを降りてたら、俺は馬場ちゃんはもっと偉大になれたと思ったよな。でも元子に口出しされて、いつまでもお化けみたいにリングに上がってたろ。アッポーって。俺はそれを



前列左が、おへその下が現役バリバリだった頃のトルコ氏。故・豊登（前列中央）、故・芳の里（前列右）、駿河海（後列左）など、みんな実にコクのある顔をしている



左から故・ミスター林、トルコ氏、1人置いて、故・九州山、故・芳の里、大木金太郎、吉村道明。錚々たる面子の昭和44〜45年頃のスナップ

闘う"ヒト"の凄みと"ヒト"が生き抜いた時代を浮き彫りにしまくる不定期連載

ニッポンプロレス妖快伝

見て、凄く寂しかったよ。だから怒ったんだよ。

——元子さんっていうのは、トルコさんから見ると、一体どういう人なんですか?

トルコ 悪い女だよ!

——ゲ! 悪い女! 載せていいのかなぁ、そんな発言。

トルコ いいよ! 悪い女なんだから! 馬場が日本プロレスを辞めてったのは、経理だとかお金の流れをガラス張りにしようっていう大義名分で出たんでしょ。ところが、全日本を作っても、それがいつの間にか、元子が馬場の事務所にいてダミー会社みたいなのを作ったわけでしょ。それで全日本プロレスに金払うわけでもなく、事務所をタダで使って。なのに売上がそこにいっちゃってるわけだよ。そういうことで天龍とか、みんな怒ってたわけだから。それは馬場の女房が全部握ってたんだから。だけど、馬場は女房には頭上がらないわけだよ。あの女に逃げられたら、馬場には悪いけど女は来ない!

——ヒッドイこと言いますね!（笑）。

トルコ なに言ってんだよ! 俺が一番知ってんだよ!「女郎屋行ったら馬場探すのわけないぞ、下駄箱見ろ!」って言われて、見たら下駄箱から馬場の靴、半分出てたんだから。それで靴の中に猫が入って眠ってたりしてたんだから。それ事実なんだから! 俺がウソ言ったってしょうがないんだから。ユセフ・トルコは、腐っても鯛ですよ!

——ガハハハ! トルコは腐ってもトルコ（笑）。

トルコ そうですよぉ! それで、4〜5年前に、俺が馬場ちゃんに「引退興行を猪木とやれ」って言ったんだよ。元気なうちに、俺がレフェリーやって、馬場と猪木が闘うと。で、いつもマイクで吠えてるヤツ、なんだっけ? 馬場んとこにいた。

——もしかしてラッシャー木村?

トルコ そう! それそれ! ラッシャー木村! 俺も入れてみんな合わしたら200歳超えるでしょ。で、200歳プロレスとして、今世紀最後の大試合をやろうって言ったんだよ。そしたら馬場が「（馬場さんの口真似で）長い試合はできないからなぁ。アッポ〜」って言うから、「だからタッグマッチやろう。お前はハンセンと組め、猪木は誰か入れるから」と。

——ハンセンって、ラッシャー木村はどこ行っちゃったんですか?（笑）。

トルコ いやいやいや、いろんなプランがあったんだよ。それで東京ドームでやって、その売上金は全部、日本のいろんな困った人に寄付しようってことだったんだよ。日本赤十字社を通してね、交通遺児とか災害児を援助してやろうって! 猪木はOKしたんだから。

——ゲ! そうだったんですか!

トルコ そしたら馬場がさ、「猪木は信用できない」って。

——何をするかわからないから（笑）。

トルコ だから、「俺がレフェリーやるんだから、大丈夫、やろう」って言ったらOKしたんだよ。

——「よし、やろう」と（笑）。それ、ボクもいつか企画書見せてもらいましたよ!

トルコ 見せただろ?

——その企画書には、大会名が「天下統一」とあって、メインは、「馬場&渕正信vs猪木&藤原喜明」になってましたけどね。

トルコ そうそう、「天下統一」!

——で、ラッシャー木村とハンセンはどこ行っちゃったんですか?（笑）。

トルコ いやいやいや、いろんなプランがあったんだよ。お客だって、猪木と馬場が闘うのを見たいんだから。一度は馬場ちゃんもOKしたのに、それを元子に壊されてパーになっちゃったんだよ。アジャパーだよ。

——アジャパー（笑）。トルコさんは、その件を潰されたから元子さんを恨んでるわけですか?

トルコ いやいやいや、もう恨んでな〜い。いつまでも恨んでんのはアホらしいと思って。でも、もったいないことしちゃったなぁと。やってたら、ファンの一生の思い出に残るでしょ。もう二度とできないことだし、誰が儲けるとかじゃなくて、収益は困ってる人に寄付したらさ、馬場も猪木も「ウワーッ」って言われんだよ。今世紀最大のチャリティになったんだよ! 見たお客さんも「とうとう見れた」って、いろんな思い出が最高に残るじゃない。それをしなかったのが元子だから、バカだよな。それやってたら、選手は誰も出ていかなかったんだよ。例えば馬場ちゃんの遺産が10億残ってたとしたら、5億は「プロレスのもんだから、使ってください」って言って、半分だけ持ってりゃいいじゃないの。だってプロレスのお陰で稼げたんだから。そうだろ? そういうことをしてれば、「じゃあ奥さん、重役でいてください」ってなったんだよ。だから、結局墓穴掘ったってことだよな。俺、こうなるって思ってたら、その通りだもん。

——馬場さんが亡くなったときに予測はついてたと。トルコさんは、分裂劇に代表されるお家騒動も随分見てきてるわけですよね。

トルコ 力道山が死んだときはね、分裂とかはなかった。でも、もうちょっと後に、豊登（故人）が出しゃばってきてから、「これはなんかなるな」って思ってな。10チャンネル（当時NET、現テレビ朝日）が放映したいって来たときに、俺は反対したんだよ。賛成したのは芳の里（当時の日プロ社長＝故人）、それから遠藤（幸吉）かな? 遠藤は経理部長外されるって気持ちがあったから、豊登と芳の里についたんだよ。反対派は俺と吉村道明!「これやったら選手は大変だよ、必ず分裂するよ」って。

——あれ、日本プロレス末期だから、昭和45〜46年頃ですよね。日本テレビが独占放映していた日本プロレスを、現テレ朝も放映を始めたという。それで、様々な利権が絡んできて、日本プロレスは崩壊への道を辿ったと、大方の資料には書いてありますよね。

トルコ ゲタ（芳の里は現役時代、ゲタを使った悪党殺法を得意としていた）たちが放映料とか裏金欲しさに10チャンネルとくっついたんだから。俺は日本テレビがリキさんの時代からズッとプロレスやってるんだからダメだって言ったんだから。それで芳の里、遠藤、吉村の三人を追放するってなったんだよ。俺を追放したらブッ殺されちゃうから、俺は追放されなかったんだよ。

——誰にブッ殺されるんですか（笑）。

トルコ 俺にだよ!

——その頃は、後に決裂する猪木さんと馬場さんも手を組んで選手会が大同団結して、放漫な経営陣を追い出そうという動きがあったわけですよね。幹部がお金を使いこんでるとか、私腹

を肥やしてるっていうのが問題の発端になったんですよね。

トルコ　そんなの嘘！

――トルコさんも、その当時の日プロ幹部ですよね。

トルコ　金使いこんでたのは、芳の里だけだよ。ゲタだよ、ゲタ！　あの野郎、社長の顔じゃなかったんだから。俺はあいつを追放しようと思ったんだよ。芳の里が豊登とくっついて、二人で作戦を練ったんだよ。

――豊登さんと芳の里さんがよからぬことを企んでたということですか？

トルコ　そうそう。それを俺たちが元に戻そうとしたんだよ。で、ビャビャーンとやっちゃったわけだ、俺が。

――一体何をやらかしたんですか。

トルコ　そのとき豊登は、渋谷のホテルに住んでたんだよ。あいつ、借金で首が回らなかったんだから。それであいつの取締役降ろさせる委任状取りに行くってなったときに、誰も取りに行けなかったんだよ。だから豊登も遠藤が来ると思ってたんだけど、俺が行っただろ。で、豊登に「借金は会社が持つから、これに書いて」ってな。で、「取締役降ります、その代わり役員になる」っていう条件でやったんだよ。豊登は俺が来たから怖かったんだよ。俺が何かあったらやるの知ってるから、俺はオスマン・トルコ魂持ってるからね。

――武闘派ですからね、トルコさんは。

トルコ　豊登は力強いじゃん。でも俺のトルコの力は違うんだから。

――トルコの力は違う（笑）

トルコ　で、豊登はあとで「芳の里に裏切られた」ってこぼしてたもん。俺は幹部としての責任取って、自分から辞めたんだから。豊登にも怖い思いさせたからな（笑）。

――その日本プロレス末期の頃も、真実はどうあれ、要はお金で揉めるわけですよね。団体の興亡というのは金銭トラブルが多いわけですけど、いくら強いレスラーでもお金には勝てないんですよね。

トルコ　（タメ息をつきながら）寂しいねぇ。役員になんかなる素質がないんだよ、みんな。芳の里にしてもさ、頭ないんだから。学校出てんの、道っちゃん（吉村道明）しかいないんだから。金使いこんでたゲタは、当時の金で毎月100万ぐらい会社の金で飲んでたよな。後で聞いてビックリしたけど。いまだったら、1千万くらいの価値だよ！　ゲタなんか飲むしかできないんだから。全然喋れもしないし、遠慮もできないんだから。それがよくないって怒ったわけ。

――日本プロレスの時代って、いまと比較にならないぐらい儲かってましたよね。

トルコ　そうだよ。俺ら、みんな役員手当、ボーナス貰ったもん。みんないい生活してたよ。

――有名な話では、馬場さんが給料貰ったら、札束がドンと縦に立ったという。

トルコ　俺も、現ナマ持って、クラブ行くと50万ぐらい払ってたからね。いまで言うと400～500万ぐらいだよ。

――500万！　昭和45年ぐらいの少年漫画誌を見てたら、長嶋（茂雄）さんが年俸4千4百万ぐらいで、王（貞治）さんが2千8百万ぐらいのときに、馬場さんは1億1千万稼いでて、馬場さんがスポーツ界でダントツのトップなんですよね。いまでいえば、さしずめ10億円プレイヤーですよ。プロ野球を凌駕するぐらいプロレスが稼げた時代があったんですよね。

トルコ　いやいやいや、もっと凄いよ。こっちはクラブで、相撲取りはスナックで飲んでたもの。でもそれじゃみんなダメになっちゃうから、経理とかは専門家入れて、選手はダメになったら、使える人は重役になってもらって、できない人はアパートとか持って、家賃が入るようにしろって言ってたんだから。それで、土地買おうって言ってたんだよ。俺がスポンサー回れば、1億や2億、すぐ集まるんだから。

――集まりますか！（笑）。

トルコ　新宿のいまの京王プラザが建ってる土地、あそこ買うつもりでいたんだよ。あそこ水道局だったんだから。都の水道局潰して、坪40万で売りに出てたから「買いてえな」って思って。

――その土地を日本プロレスで買おうとしてたんですか？

トルコ　そうだよ！　俺のスポンサーがまず1千万出すからってな。所沢のパン屋の社長が。

――所沢のパン屋！　スケールでかいんだか小さいんだかよくわからないな（笑）。

トルコ　それで「俺が1千万出すんだから、中小企業をお前が回ったら、1億、2億、すぐ集められるから、行って来い」って言われて。2億で買えたんだから。三菱も「出します」って言ってたんだから。それをゲタたちが10チャンネルのバカみたいのとくっついちゃったから、三菱が怒っちゃったんだよ。ゲタに「二つの局でやるのは難しいよ、無理だよ」って言ったんだよ。レフェリーが取り組み作んなくちゃいけないだろ。

――マッチメイクですね（笑）。

トルコ　4チャンの日テレ派と10チャン派で派閥になるって言ったんだよ。そしたら、その通りになっちゃっただろ。ゲタが「いや、1年だけ」って言うからさ、「1年で辞めるわけにいかねえだろ」って言ったんだよ。

――じゃあ、芳の里さんがテレ朝からお金を貰ってたんですか？

トルコ　そしたら10チャンネルの重役が来て、俺に「芳の里、遠藤幸吉、沖識名（故人）、みんなOKになった。トルコさんだけ反対なんだ。吉村さんもいまこっちに傾いてる」って言うんだよ。それでちょっと考えて、3日後ぐらいに六本木の料亭で会ったんだよ。そこにヴィトンだかなんだかのバッグ持って重役が来たの。でも、俺は蹴ったんだよ。

――さすがオスマン・トルコ魂だ（笑）。

トルコ　で～も、俺以外はみんな賛成してたんだよ。「あ、そこまで行っちゃったのか」と。俺だけ反対しても、役員が5人賛成してたら通るからさ。

――で、結局日テレ派と現テレ朝派に分かれて、日プロは崩壊への道を辿ったわけですね。

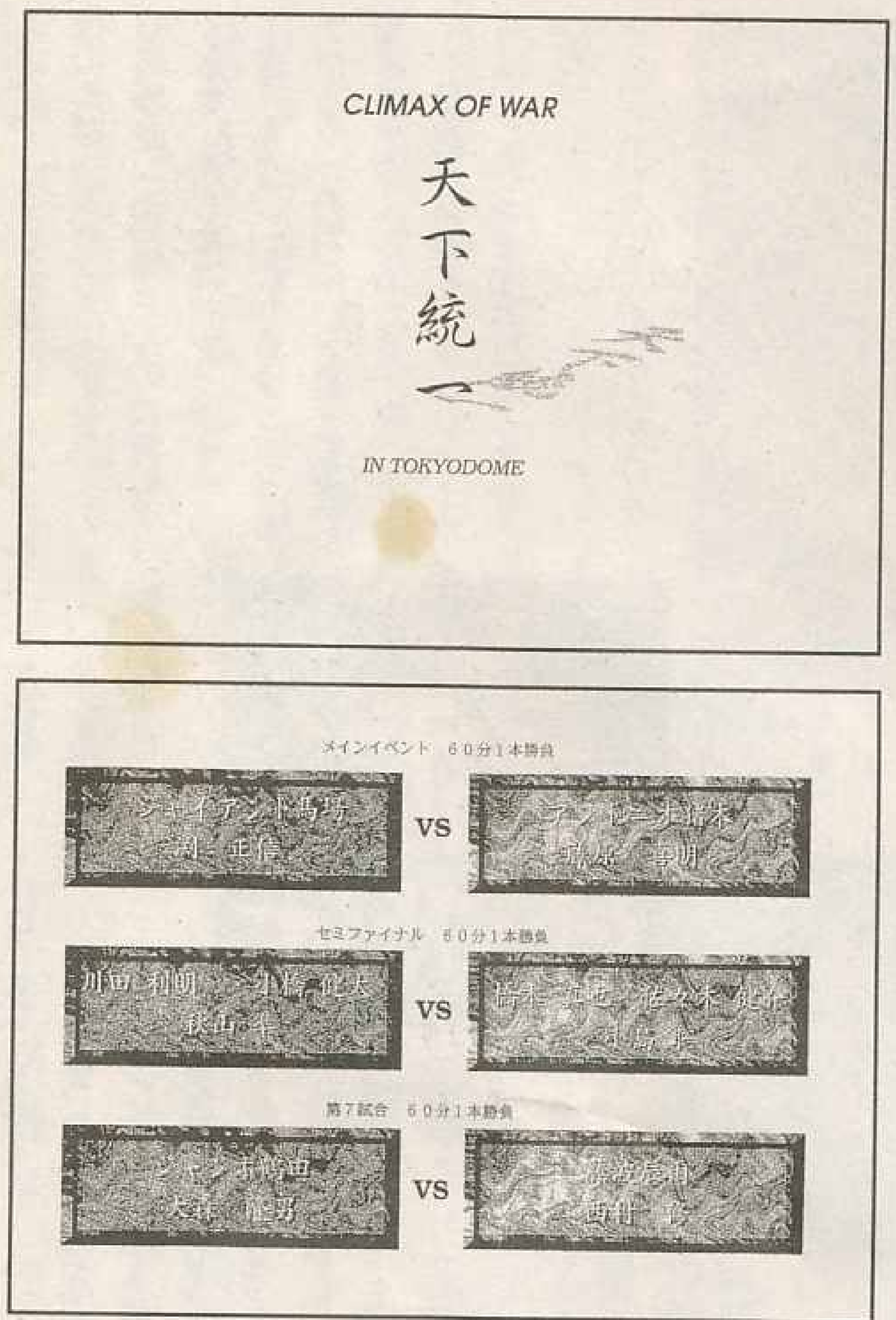
トルコ　で、ゲタは追い出されちゃったでしょ。その後、猪木が日本プロレス辞めてな。

――クーデターを企てたということで除名されましたよね。

トルコ　その後、馬場が日本プロレスをブワーッて飛び出したんだから。そうなっちゃうんだよ。

――いや、貴重な話ですよ。もはや真実なんてどうでもいいですね（笑）。当時の人で残ってるのは、トルコさんと吉村さんと駿河海さんくらいですよね。馬場さんまで亡くなって。

トルコ　うん。で～も、吉村道明はいい試合やったよ。馬場も猪木もあるのは吉村がいたお陰なんだよ。いまそういうこと誰も言わないだろ！　タッグで、ほとんど吉村が一人でやって、相手を伸ばしてから馬場や猪木が出て来るんだから。それまで吉村がやられて、血だらけになってさ、あの四角い顔が、三角になってたんだからね。



これが幻の「馬場vs猪木戦」の企画書。表紙には大会名として「CLIMAX WAR 天下統一　IN TOKYO DOME」の文字が。対戦カード案には、メインに「馬場＆渕vs猪木＆藤原」、セミに「川田＆小橋＆秋山vs橋本＆健介＆小島」、その前に「鶴田＆大森vs藤波＆西村」「田上vs安田」「菊池vs金本」など、全日vs新日の対抗戦が主軸となっていた。しかし、「神取vs長与」が第一試合にあったり、「佐山vs安生」のエキシビションがあったり、「サブゥ＆ハヤブサvsライガー＆サムライ」があったりと、トルコ氏らしいデタラメ・パワーぶりが存分に発揮されていた。でも、見てぇ

――"火の玉小僧"ですね。
トルコ　ああ～～、あれは最高だったよ。吉村がタッグに出てるときはね、俺もレフェリーやってて最高にファイトが沸いてくるんだよ。いまのプロレスはカッコだけだろ、なんですか、あれ？　力道山が生きてたら大変だよ。ゴルフバットでブン殴られて二度とプロレスできなくなるよ。
――ゴルフバット（笑）。ゴルフクラブです。
トルコ　デャーッハッハッハ。ゴルフバットでいいんだよ。大木金太郎の石頭作ったのは力道山のお陰だよ。リキさんが殴ってたから、ゴルフバットで。（ここでトルコの携帯が鳴る。着メロは水戸黄門）はいはい！　水戸黄門です！
――ガハハハ！　ネタの仕込みが完璧だ（笑）。

トルコがバリ島（バーリ・トゥード）&ハクション（ヒクソン）&「力道山vs木村政彦戦」を語る！

――ところで最近は、バーリ・トゥードというものが出てきたのを知ってます？
トルコ　なんだ？　バリ？　マリ？　ここは日本だよ、バリ島じゃな～い！
――ガハハハハ。バリ島！（笑）。バーリ・トゥードっていうのは、「なんでもあり」。プロレ


前号では『PRIDE.10』のボブチャンチン戦を控えたエンセン井上の激励に駆けつけたミスター・トルコ。その元気っぷりにエンセンもタジタジだったが、オスマン・トルコ魂が火をつけたのか、エンセンの大和魂は西武ドームで大爆発した

俺だけだよ、リキさんに「朝鮮野郎！」って言ったのは。それには意味があるんだよ！

スは顔面パンチはやっちゃいけないけども……。
トルコ　あるよ、プロレスは！
――やる人はいるけども、一応ルールではやっちゃいけないでしょ。
トルコ　そんなことない、そんなことない！　パンチOKだよ！　金玉とかはダメってなってるだけだよ。あと頭の後ろのとこ。
――脊髄ですね。顔面パンチはよかったんですか？（笑）。
トルコ　いいんだよ！　なに言ってんだよ！
――ボクは30年ぐらいプロレス見てますけど、てっきり顔面パンチなしだと思ってました（笑）。
トルコ　みんなやってるよ！　ビユーンってパンチやったり、ドビャーンってゲンコツでやってるよ！
――いや、元・名レフェリーのトルコさんが言うんだから、プロレスは顔面パンチありなんでしょう（笑）。で、大雑把に言うと、いまはグローブをつけて、金的と噛みつき以外はなにをやってもいいという競技が、従来のプロレスの人気を食いつつあるんですよ。
トルコ　それがバリ島だろ？
――バーリ・トゥードです（笑）。
トルコ　こないだサクラダだかなんだかが、刀持って出て来たヤツでしょ？
――サクラダじゃなくて桜庭です（笑）。しかも、刀を持って入場して来たのは桜庭じゃなくて船木ですね。
トルコ　ああ～！　船木とヘクションだかハクションだかがやったんだろ？
――ハクションじゃなくてヒクソンです（笑）。
トルコ　俺に言わせりゃハクションだよ。な～にがハクションだよ、馬鹿みたいにさ。船木もよく刀持って出てったよな。恥ずかしくないかなぁ。恥を知らないんだよ、恥を。で、その試合を藤波も見に来てたんだろ？
――橋本と来てましたね。なんで船木が日本刀持って出て来るのが恥なんですか？
トルコ　だ～って、プロレスやるのに、なんで日本刀がいるんだよ？　剣道だったら橋本元総理のほうが強いよ！　あいつは剣道強いから。
――ガハハハ！　なぜ橋本元総理が出てくる（笑）。船木vsヒクソンの試合は見たんですか？
トルコ　もうね、雰囲気でわかったね。そしたら案の定、思った通りの試合だったよ。なんかさ、馬乗りになられて足もなにもジーッとしちゃってんだもん。カーッて逃げればいいのにさ。なんたってさ……（突然、聞き手の山口に向かって投げキッスのポーズ）。
――な、なんですか！　いきなり！
トルコ　もうね、嫌んなっちゃうよ。
――さすが「プロレスをつくった人」は手厳しいですね（笑）。
トルコ　そうだよ！　最初に俺と遠藤が熊本で、プロ柔道やめた木村政彦とやったんだから！　俺のほうがリキさんより1年先輩なんだから！
――まだ「プロレス」という名称が浸透する前の昭和25～26年頃の話ですね。力道山よりもプロレスで先輩っていうのは感動もんですよ（笑）。トルコさんは柔拳もやってますからね。
トルコ　そうですよ！　ユーはさすがよく知ってる！　山口さん、バンザイッ！　柔拳っていうのは、柔道vsボクシング……拳闘ね。全部ブン殴っちゃうんだから、俺は。最後に出て来る飛び入りを、俺が専門にやってたんだから。飛び入りがあったんだよ、飛び入り飛び入り。飛び入りっていうのは、柔道の四～五段の凄いヤツとか、お巡りさんとか多かったんだよ。で、俺たちに勝ったら賞金もらえるから、みんな必死だよ。俺たちはボクサーじゃないけど、ボクサーだって言ってブン殴っちゃうの。
――デタラメだなぁ（笑）。いま、白日の下に晒される真実ということで、柔拳時代の飛び入りっていうのは、サクラじゃなかったんですか？
トルコ　な～に言ってんだよ！　飛び入りのときはシュートマッチですよ、シュートマッチ！　それで、飛び入りの青年たちがいい場面あると、客が「ウワーッ」って喜ぶだろ。それで調子に乗ったとこをバーンッてさ。凄いよ。プロレスだったら飛び入りはないけど、柔拳っていうのはさ、柔道家とか、素人のちょっと力の強いヤツは上がってみようと思うからさ、乗っかってくるわけよ。で、俺たち仲間同士で試合やるときはさ、グローブ大きいヤツつけてな（笑）。12オンスのつけて。
――ガハハハ！　汚いなぁ。
トルコ　それで飛び入りのときは8オンスのグローブでバッチャーンと一発だよ、お前！
――その8オンスか10オンスのグローブで殴りあうのが、いまのバーリ・トゥードなんですよ。グラウンドでも顔面パンチありの競技が出てきちゃったから、実際の話、プロレスもぬるく見えちゃってるんですよ、ファンの間では。
トルコ　それにはやっぱり、小川直也が、FOだかMOだか知らないけどもね。
――UFOです（笑）。
トルコ　なんだかわかんないけどさ、アッポーだかメッポーだか知らないけど、小川がプロレスをガーッとやりゃいいじゃない。あんな中途半端にテレビ出たり、バカみたいな落語家みたいなのと一緒に出て遊んでんだろ。チャンピオンは！　力道山はそんなの出なかったんだよ。チャンピオンは！　ああいうのは、俺みたいなのが出るんだよ。
――ガハハハハ！　あ、バラエティはトルコさんみたいな人が出ると（笑）。
トルコ　そうそう。チャンピオンはチャンピオンらしくして出なきゃ。
――そういえばトルコさん、小川直也に二代目・力道山を襲名させるとも言ってましたよね。
トルコ　いまでも俺は思ってるよ。日本のプロレス界ではあいつが一番スタイルもいいし、世界の柔道チャンピオンになったし、やればできる男

闘う"ヒト"の凄みと
"ヒト"が生き抜いた時代を
浮き彫りにしまくる不定期連載
ニッポンプロレス妖快伝

でしょ。それをあんなバカみたいにバラエティ出てねぇ。そういうのはいけないよ。リキさんはね、周りに人がいたら、ステーキだってこ～んな大きいの食うからね。それが選手だよ！

――まがまがしい迫力を見せつける。

トルコ　いまの選手はあんま食わないだろ。小川も。昔は食ったよ！　で、激しい稽古するから太らないんだよ。

――上田馬之助さんなんて、飲みに行くと、プロレスラーがナメられないように、周りに人がいるとガラスのコップまで食ってたらしいですからね。

トルコ　うん、バリバリ！

――ダハハハ、バリバリですか！

トルコ　昔は肉も野菜も食うもん。凄い量だよ。いま食わないでしょ？　ケーキかなんかで満足なんだよ。そんなのは底の厚い靴でも履かせたらいいんだよ。

――は？　なぜ厚底が出てくる？（笑）。

トルコ　ダイエットしたいギャルだかグルだかが、ああいう底の高いの履いてるだろ。

――あ、なるほど（笑）。食わない＝ダイエット＝厚底ってことですね。ようやくわかりました（笑）。

トルコ　それといまの選手はね、なに喋ってるか、全然わかんない！　俺だけじゃないよ、みんな言うんだもん。

――なに喋ってるかわかりませんか、いまの選手は（笑）



これがハワイから九州山宛に来たエアメイル。力道山の直筆は貴重すぎてたまらない

トルコ　あ！　1回、電気屋呼べよ、電気屋。バッチャンバリバリの。対談やってやるよ。

――ガハハハ！　大仁田厚のことですか。トルコさん曰く電気屋は、こないだ長州力とやったんですよ。

トルコ　電気屋負けたんだろ？　あれ、猪木も怒ってたんだよ。「あれ、金儲けのためにやってんだ」って。それにしてもさ、何十枚か猪木に持って来るのが当たり前だろ？　招待券も全部売っちゃったんだってよ。猪木に渡すのがなかったって言うんだから。それで、見に行ったヤツがね、「なんですか、あれ？」って言ってたよ。だから「見に行くな」って言ったのに。

――でも、凄い入りでしたよ。

トルコ　へぇぇぇ、電気屋と南州太郎の試合が売れますか。

――ガハハハ！　南州太郎ではなく長州力です（笑）。トルコさんは、長州さんとは付き合いあんまりないんですか？

トルコ　好きじゃないもん。あいつ、外人選手といい試合しないだろ。外人といい試合できないヤツはダメなんだよ。日本人ばっかりだろ、相手が。

――ああ、確かに長州さんは外人相手だと名勝負はないですね。

トルコ　自分が外人だからそうなのかもわかんないよな。俺はトルコ人でも日本人の魂持ってるよ。違～う！　逆だ！　俺は日本人だけど、いまでもオスマン・トルコ魂持ってるよ。俺はリキさんにも言ったんだよ。「朝鮮野郎」って。

――う～、コ、怖い。

トルコ　喧嘩になったよ。でも、俺だけだよ。リキさんに「朝鮮野郎！」って言ったのは。

――リ、力道山にそんなこと言う場面を想像すると……冷や汗だけでダイエットできますよ。

トルコ　それはどういう意味で言ったかというと、リキさんは自分が北朝鮮出身だということを隠してたんだよ。地方行くと、自分の故郷の人たちから声かけられてもサッと逃げちゃうでしょ。戦争中は朝鮮人は差別受けたからな。純粋な日本人はわからない感覚かもしれないけど、俺は外人だからわかるんだよ、気持ちが。だから、力道山と喧嘩したとき言ったんだよ、「俺は日本人だけど、いまでもトルコの魂持ってる。なんであんたは朝鮮人であることに誇りを持たないんだ。コソコソしてるから朝鮮野郎って言われるんだ！」ってな。

――当時の時代背景を考えると、もの凄いやり取りですよ、それは。「闘い」があるなぁ。

トルコ　（鞄から手紙を取り出し）これ、見たことあったか？　力道山から九州山（故人）に来た手紙だよ。ハワイから送ってきたやつ。書いてあるよ。「俺はトルコに言われたあの言葉は忘れない」って。

――はぁ～。

トルコ　でも、「籍は日本だけど、心は朝鮮の魂。それでいいじゃないか」って言ったよ。そんなことがあってから、リキさんも変わったよな。北には帰れなかったけど、韓国にはそれから行ったからね。

――いや、その話はトルコさんから何回か聞かされたけど、民族的な歴史の重みから出てくる「怒り」や「孤独感」をリング上に叩きつけたというか、プロレスに集約したから、力道山のプロレスや生き方は尋常じゃない迫力が出たんでしょうね。なぜ、その当時のプロレスにいまとは違う迫力があったのか、なんとなくわかる話ですよ。

トルコ　そうだよ。みんな凄かったよ。だからね、リキさんの頃、俺たちの頃のプロレスから見れば、ハクションなんて目じゃない目じゃな～い。ハクションにだって猪木がやれば勝てるよ。猪木がカムバックしてハクションに負けたらプロレスはおしまいでもいいよ（キッパリ）。

――ボクらも、昔からプロレス見てるから「プロレスラーは強い」と思ってる。ところが、コロッとプロレスラーがやられちゃうことが続いちゃったんですよね。

トルコ　な、な、な。高田（延彦）なんかだろ。それは高田なんて強くないのが出てったから。高田は猪木んとこ出てユーだかミーだかやったろ？

――もしかしてUWFのことですか？（笑）。

トルコ　それそれ。ユーダブだかなんだかに行ったっていうのは、我慢できないから出てったわけだよ。だから強くないわけだよ。猪木がそれをベチャッてやんなきゃな。ベチャッとやんなかった猪木も悪い！　力道山見てごらんよ。「いつでも誰でも来い！」って言ってたんだよ。木村政彦とか来たじゃない。それでもリキさんは勝ったろ（昭和29年、巌流島の決戦といわれた、力道山vs木村政彦戦）。俺は木村さんも尊敬してるけどな。「木村の前に木村なし、木村の後に木村なし」って言われた、鬼の木村ですよ。

――その木村さんがブラジルに行って勝った柔術家がエリオ・グレイシーというんですけど、その息子がヒクソンですよ。

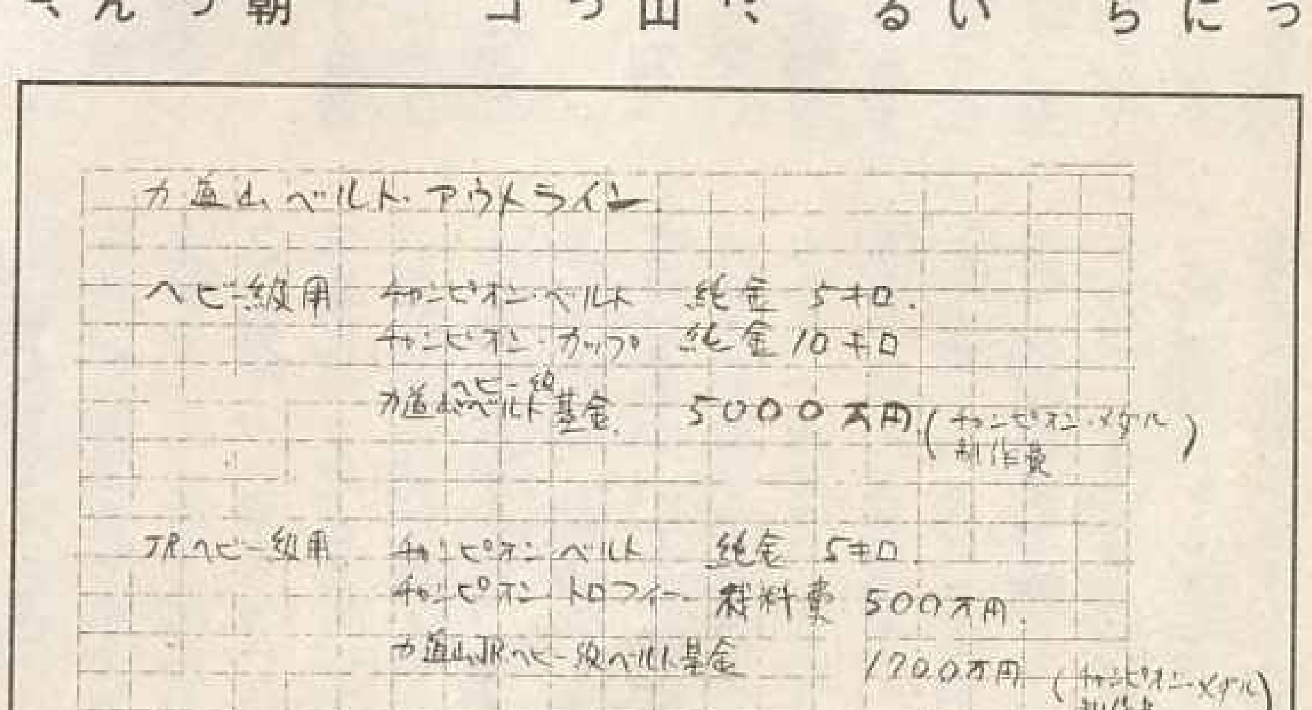
トルコ　な！　そうだろ。その凄い木村政彦に勝ったのがリキさんだからな。それで、大山バイタツな！

――ガハハハ！　またその話ですか（笑）。大山倍達総裁の話ですね。

トルコ　梶原一騎の漫画だとリキさんと木村政彦がやったときに、大山倍達がリングサイドにいて挑戦したとかあるだろ。嘘だから。大山は力道山がいたときは逃げ回ってたんだから。力道山が死んで初めて梶原一騎が空手を漫画にして、それから大山バイタツは出てきたんだよ。

――ウチの会社から『大山倍達とは何か？』を出したときも怒ってましたもんねぇ、トルコさん。

トルコ　怒ったよ！　リキさんの空手チョップ



「大日本プロレス構想」が実現していれば、設立されていた「力道山ベルト」のアウトラインのメモ。純金でつくられるヘビー級、ジュニアヘビー級のベルト、カップ、トロフィーなど併せて総額1億5千万の予算だというのだから、そのスケールのデカさには圧倒されまくりだ。だが、筆文字で書かれているところがシブすぎ。

があったから、空手っていうのが広まったんだから。そうだろ？

「大日本プロレス」はね、プロレスの天下統一のためにやろうとしたの

トルコがジャンボ鶴田&幻の「大日本プロレス構想」&「女性が一番！」を語る

トルコ （ヴィトンのカバンをゴソゴソ漁り、故・ジャンボ鶴田との記念写真を見せる）ほら、これ知ってるだろ、ジャンボ。こんとき、ジャンボ来たんだから、相談に。

——そうだ、ジャンボといえば、ジャンボをエースにした、幻の「大日本プロレス」（もちろん、現存する大日本とは別物）構想がありましたよね。

トルコ そうだよ！　そんとき俺んとこに来たんだから、ジャンボが。本人も「辞めたい」って言って、当時は馬場とダメだったんだから。

——その大日本プロレスには大相撲の千代の富士（現・九重親方）や高見山（現・高砂親方）も参加するとか言われて、スケールの大きい構想でしたよね。

トルコ そ〜うそう！　（ウエイターに向かって）これ邪魔！　下げていいよ。

——その構想っていうのは、なにが発端だったんですか？

トルコ 結局、新日本と全日本に二つに分かれてたから、統一してやろうと。

——あ、やっぱテーマは「天下統一」なわけですか（笑）。

トルコ あっちこっちでやってもしょうがないから。それで大日本作って、その統括の元に各道場を作ってね。馬場道場とか猪木道場とかね。相撲協会と一緒だよ。

——部屋別制度！　メガネスーパー（SWS）もやろうとしてましたけどね。

トルコ それは俺のアイデアかっぱらってんじゃねぇか！

——ガハハハ！　そうか。あれはトルコさんのパクりだったわけか（笑）。

トルコ そうだよ！　俺の言ったこと全部やってんだから。

——そういえば、ジャンボ鶴田にも二代目・力道山を名乗らせるって言ってましたよね。二代目・力道山を作るのが念願なんですね（笑）。

トルコ だって、力道山の名前は残さなきゃおかしいだろ。

——大日本構想は、結局なんでポシャッちゃったんですか？

トルコ 金持ってたヤツが、金使っちゃったの。梶原一騎も金出したんだよ、1億5千万。

——い、1億5千万！

トルコ で、道場作る金持ってたヤツがさ、なんかに引っ掛かっちゃったんだよ、5千万かなんか。

——それも軋轢は金が元なんですね。

トルコ 猪木も天龍も来るって言ってたんだから。

——ゲ？　猪木さんも来る予定だったんですか？

トルコ 呼べば来るもん（かわいらしく）。

——ガハハハ！　呼べば来ますか。

トルコ ジャンボもそうだったし。（資料を見せて）こういうベルト作ろうって言ってたんだから（P62参照）。

——じ、純金5キロ！

トルコ そうだよ。こんな金まで用意したのに。

——これは大日本プロレスを作るときの構想の一環ですか？　はぁ〜、凄い。昭和50年代の中盤ですよね、大日本プロレス構想は。トルコさんと梶原一騎と、あと有名な人では誰が絡んでたんですか？

トルコ ピッチャーの豊田（泰光）だろ、西鉄にいた。いまの評論家。あれを社長にしようと思ってたの。

——は？　豊田さんをですか！

トルコ 豊田さんが社長になって、俺が本部長になって、あとは梶原一騎でしょ。あとは誰だっけ？

——いや、ボクに聞かれてもわかりません（笑）。

トルコ 絡んでない絡んでない。梶原一騎がいた頃は、あいつまだ芽が出てなかったから。

真樹（日佐夫）先生は絡んでなかったんですか？

——ところで、ジャンボ鶴田の話の続きを聞かせてください。

トルコ そうそう。当時のジャンボからは、馬場の批判をいろいろ聞いたから、俺がジャンボに「いいスポンサー付けるから、出ろ」って言ったんだよ。

——しかし、物騒なことばっかりやってますね（笑）。

トルコ 亡くなった金丸信ね。それで事務所で「金丸さん紹介するから。あの人は将来凄い人になるから、後援会長になってもらえ」って言ったら、ジャンボも喜んで「お願いします」って言ってたんだよ。まだ田中角栄が生きてた頃だから、力あったんだよ、金丸信。そしたら、あの野郎、2時間ぐらい遅れて来やがったよ！

闘う"ヒト"の凄みと
"ヒト"が生き抜いた時代を
浮き彫りにしまくる不定期連載

ニッポンプロレス妖怪伝

——ガハハハ！　ジャンボ鶴田は金丸信を2時間待たせた！　まさに呑気が一番！

トルコ こっちは金丸さんとずっと待ってたんだよ。それでやっと来て、ジャンボを紹介して、「いまちょっと忙しいから、暮れに選挙が全部終わるから、それからちゃんとやってあげる」って言ってもらって、喜んで帰ったんだよ。それでしばらくしたら、山梨の違う代議士が応援してくれるっていう話があると。それで、俺は「そんな話は蹴れ」って言ったんだけど、結局そっちにしちゃったんだよな。俺も頭に来たから断っちゃったよ。あのとき金丸さんに後援会長やってもらってりゃ、ジャンボの病気も治っちゃってるよ。いやいや、これは事実だから！　病気にならなかったと思うんだよ、俺は。病気はストレスから来るんだから。金丸さんで決まってたらね、もっとその後のジャンボの生き方も違って、病気も飛んでったと思うよ。病気って〝気〟だからな。〝気〟がなくなったら、みんな死んじゃうんだよ。〝気〟がガッシリしてる人は病気も逃げちゃうんだよ。

——「元気が一番」と。

トルコ うん。俺、ジャンボと九州まで行ったりしたからなぁ。死んじゃって残念だけどなぁ。でも、大日本プロレスができてれば、凄いことになってたんだよ。いまのプロレスはテレビでも見ないもんなぁ。俺に見せなくしちゃったってことはな、なんか他の番組やってるんだろうな。

——は？　いまプロレスやってるのは夜中ですからね。

トルコ あ、そうか。じゃ、見ないよ。カラオケで騒いでるよ。

——しかし、つくづく元気な70歳だなぁ。





昭和55年前後、トルコ氏がアブドーラ・ザ・ブッチャーと蜜月関係だった頃に、力道山の墓参りに行ったときのスナップ。ブッチャーの本を書いた覆面作家ゴジン・カーンとのトラブルもあり、この後、トルコとブッチャーは疎遠になっていく

その四
紙プロ記者列伝

紙のプロレス

闘う“ヒト”の凄みと“ヒト”が生き抜いた時代を浮き彫りにしまくる不定期連載

ニッポンプロレス妖怪伝

トルコ　そんな時間に見る気しないよ！　飲んでる最中だもん。ただ膨らまし粉で膨れたヤツらがカッコだけつけてるだけだろ。いまはね、みんなレスラーじゃないもん。

――膨らまし粉（笑）。

トルコ　いま、変な試合やっても、客が「あら可哀想」ってなるもんな。あんなこと昔にやってたら、一升瓶が飛んでくるよ、ロケットみたいに。俺、何回も当たったもん！

――出た！　一升瓶がロケットのように（笑）。

トルコ　昔は客に侍の血が残ってたんだな、戦争終わったばっかだから。だからもう客も血気盛んだよ。で、ヘタなことやると、一升瓶がボボーンビューンと飛んでくんだから。いまは投げても紙テープぐらいだもんな。それから「八百長」って言わなくなったよね、いま。

――「八百長」っていう言葉を言わせないための闘いは、以前に比べればないですよね。ファンも割り切って楽しんでる部分もあるし。

トルコ　いいよなぁ〜。こっちなんか、ちょっと調子悪かったりすることあるじゃねえかよ。そうするとすぐ「なにやってんだ！」って言われてたもん。20分でも30分でも動き回ったよ。いまは6〜7分だろ。昔は10分以内ってことないんだから。リングの外に落ちて暴れるのは、グレート東郷が来てからだから。それまでは落ちてもすぐ上がってたよ。リングから落ちて、またすぐ上がるのって大変だからね。

――勢いついでに素人みたいなこと聞きますけど、力道山時代って、ガチンコはあったんですか？

トルコ　ん？　おおお。大いにあったよ！　前座なんかガチンコだよ。……マズいこと言っちゃったかな？　山口さん、ガチンコってなんですか？

――ガハハハ！　いまは、ファンがそういう言葉を全て知ってますからね。

トルコ　でも俺が山口さんに言いたいのはね、プロっていうのは「プロフェッショナル」ということをよく理解しないと。金もらってんだよ、プロは。貰うには、客に受けるようにしなかったら、客は来なくなっちゃうよ。「真剣」って言葉は、昔「いざ真剣」って刀で斬り合うのが真剣勝負だったんだよ。スポーツにはそういうことがないんだよ。それがいつのまにか、スポーツに「真剣勝負」って当てはめちゃったけどもね。「真剣」っていうのは相手を殺すことだから。だからさっきのなんだ？　バリ島？

――バーリ・トゥードです（笑）。

トルコ　そのバリ島だって「真剣勝負」とは言わないんだよ。だからいまな、若い子がちょっとおかしいのは、電車に乗ってもさ、底の高〜い靴履いてみたり、目の周り白く書いたり、あれが通っちゃってるんだから。人の迷惑とか、そういうのは関係なしの若い人たちを見ると、どこをどうやって「真剣」に見てるのか、それがわかんない。

――話は飛びまくるけど、いいこと言いますね。「どこを真剣に見てるのかわかんない」（笑）。

トルコ　だろ？　だからプロレスがもうちょっとね、厳しさを見せれば、そんなバリ島だかF1だかK－1だかに負けることないと思うんだよね。いまは前座でもショー的にワーッ、バーッ、キャーッってやるからね。バリ島なんて俺から見たら、絶対「真剣勝負」なんて言えないもん。だから小川でもなんでも、いつでもやってやればいいんだよ。「来るなら来い！」って言わなきゃダメだよ。それができるのは、小川しかいないんじゃないの？　プロレスを一つにして、そこで「いつでも来い」って言ったヤツがチャンピオンだよ

――ホントに天下統一好きですね（笑）

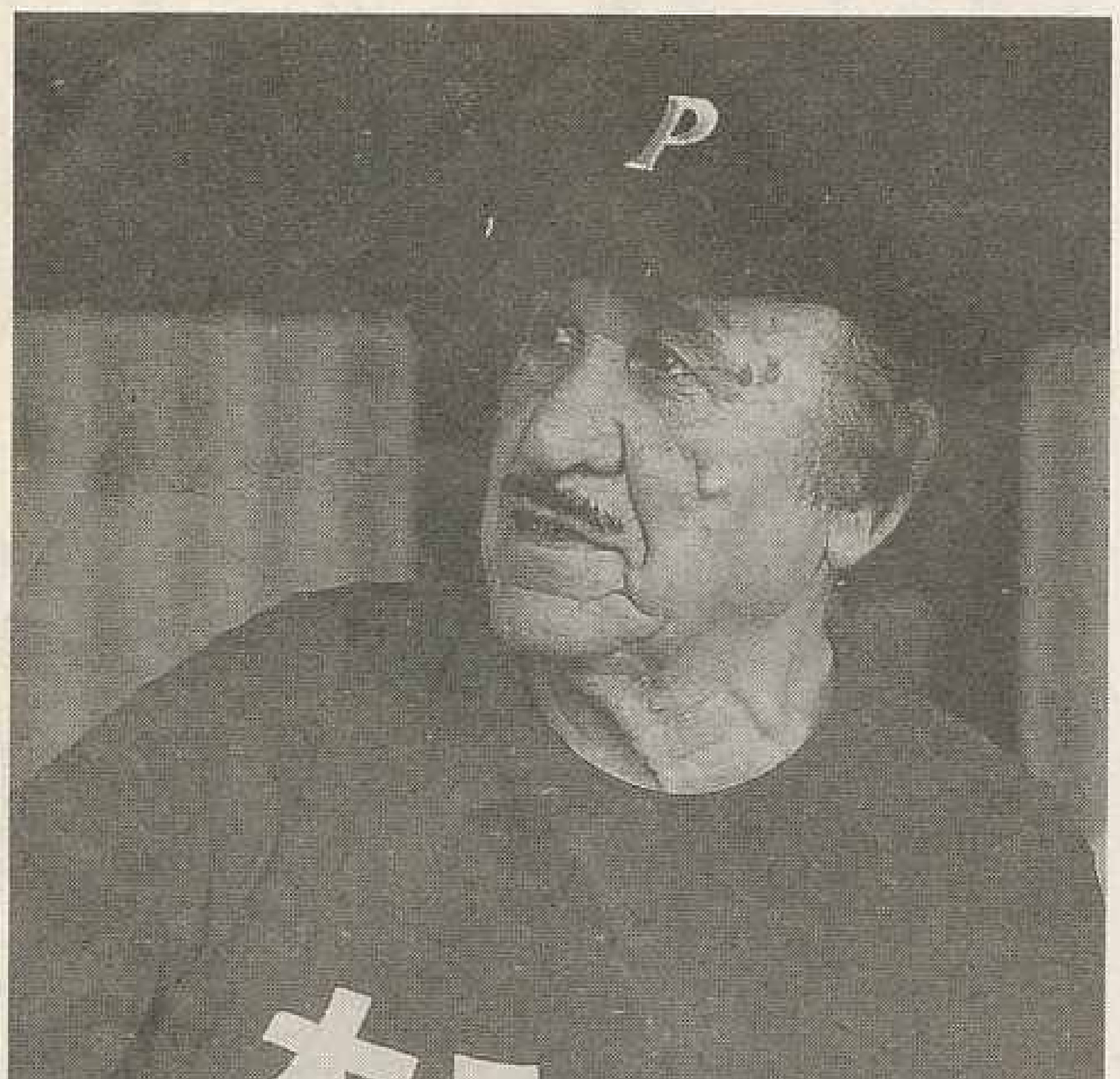
トルコ　それをいまはさ、バーンッってさ、ロープの上に相手が上がったら、それ追っかけて捕まえて、「どうだ」ってさ、なにあれ？　格闘技でそんなことあり得ないじゃねえか。それで「ワン、ツー」でカウント止めちゃうんだよな。それで何回もやるんだよ。「ワン、ツー、スリー、はいおしまい！」ってやりゃいいんだよ。それで、あんなにやられて倒れてたヤツが、パッとカムバックしたりするだろ。あれがわかんないんだよ、俺。あんなにやられて、すぐ回復するかっていうの。あんなことやってるから「ショー」と言われてもしょうがないんだよ。いま力道山いたら、ホントに泣いちゃうよ。

――試合展開なんて綺麗じゃなくていいから、底から滲み出る迫力を見たいですよね。

トルコ　ただ思いっきり、勝っても負けても最高の試合をすればみんな納得するんだから、それでいいんだよ。野球だってそうでしょ。なんで4番バッターが出たらストライク投げないんだよ、四球なんか八百長じゃねえか。プロだったら思いっきり投げろよ！　打たれたっていいじゃねえか！　だから面白くねえんだよ。

――そう考えると、トルコさんがレフェリーやった猪木vsウイリー（・ウィリアムス）は面白かったですね。

トルコ　そうでしょ〜、いまああいうのないもん。どっちがやられても、俺もまともには帰れないだろうと思ってたから、女房に「今日は俺はどうなるかわかんないよ」って言って家を出たの。その覚悟で行ったからさ。



「当年とって70歳！　おへその下は45歳」の、元プロレスラー＆名物レフェリー＆元・新日本プロレス幹部。コミカルだが武闘派でもある。力道山がブームを起こす前からプロレスに携わる“生きる伝説”。昭和5年5月23日樺太生まれ。あとは、ドビューンババーンと、本文参照ーーッ！

――スポーツの緊張感と、そういう類の試合の緊張感は違いますからね。

トルコ　あれは、ホントに殺気立ってたからな。プロレスが負けるか、空手が負けるかって、凄かったんだから。あれは俺の人生の中で一番凄いね。あと、リキさんと柔道の木村さんとやったときもね。あれも、リキさんが負けたら、俺たちもおしまいかなって思ったもんな。リキさんが勝ってくれたから、嬉し泣きだよ。半分は木村さんに対して可哀想で泣いてね。

――トルコさん、最後に聞きたいんですけど、その元気の秘訣はなんですか？

トルコ　元気の秘訣は、やっぱし正直に前に進んで、それから女性を大事にすること！

――「女性が一番！」（笑）。

トルコ　女性を感じなくなったときは、男はシオれてっちゃうの。20歳の女と会うときは自分も20歳になったつもりで、30歳の女のときは30歳になる！　だから俺、20歳の女と喋るときも、絶対に「オジサンはね」って言わないから。「ボクはね」って言うの。

――目から鱗が落ちまくりますね（笑）。

トルコ　デャーッハッハッハ。奥さんから離れたら、他の女性を大事にする！　ウチ帰ったら、奥さん大事にする！　奥さんにバレないように……あんまりこれ喋っちゃうとマズいなぁ。女房が読んでなくても、女房の友だちが読んでるかもわかんないからねぇ（笑）。

――ちゃんと頭の中で戦略を練ってるんですね。天性の詐欺師というか（笑）。

トルコ　なに言ってるんだよ、バカ！

――いや、いい意味で（笑）。やっぱり詐欺師って言われる人は、みんな頭いいですよ。

トルコ　俺は詐欺師じゃな〜い！　俺は嘘言わないもん、バレちゃうから。血液が証明してんだよ。俺はB型だから。嘘がつけないんだよ。

――それがすでに嘘に聞こえますね（笑）。

トルコ　なに言ってんだよ、バカ！「当年とって70歳！　おへその下は45歳！」。ユセフ・トルコはこれからも前にまっすぐ進みます、はい。『紙のプロレス』、バンザイッ！

【00年8月某日／キャピタル東急ホテルにて収録】

「あなたはパンクラスが嫌いですか？」

本誌を取材拒否し続けるパンクラスおよびそのファンに大胆提言!!

これを読めばパンクラス嫌いのアナタもきっと好きになる!!
いまよりもパンクラスを10倍楽しく見る方法、教えます!!

「尾崎社長のコメントをもらうべく、働きかけるつもりである」と本誌は28号で書いたにもかかわらず、一向に事態は進展しないまま早3ヶ月が過ぎた。昨今では、「『紙プロ』はリングス寄りだ」というような声もチラホラ聞くようになったが、そんなことはない！　っていうか、なくもない？　やっぱそうか？　なんて考えてるときに、本誌周辺では数少ないP党のライター・大坪ケムタ氏から企画のリクエストがあった。「ルールが変わって、船木が引退したいまこそ、パンクラスが面白いんですよ！」。ほぉ、果たしてホントにそうなのか？　ならば、というわけで旗揚げ以来会場に通い詰め、長い時間見続けてきた大坪氏に現在のパンクラスが抱える問題と可能性を包み隠さず書いてもらうことにした。パンクラスのファンはあまり本誌を読んでいないと思われるので、最近のパンクラスを見ていない人のために入門ガイドのようなかたちでパンクラスを斬ってみた。というわけで、これを読んだ感想なんかもお待ちしております。
（編集部）

構成／大坪ケムタ
text by Kemuta Ootsubo

あの2日は「船木の落日」ではなく「近藤の旭日」と刻むべし！

みんな早く船木を忘れろ!!

「21世紀のプロレス」。この言葉を船木とパンクラスに見た人は多いのではないだろうか。そして、後々騙されたと思った人も。今や船木はおらず、団体のイメージは最低。だが「船木以後」のパンクラスには新たな魅力が一杯詰まっている。今や船木は死んだ、現在のパンクラスを見つめよ！

一体いつからこうなってしまったのか？

ハイブリッドレスリング、完全実力主義、秒殺、チョークスリーパーのルール化、トーワ杯への挑戦、モーリス・スミスとの対戦、UFCでのイズマイウ戦勝利、そして何より船木という未完の大器と鈴木というカリスマの存在。それに続く「大砲」柳沢、「驚異の新人」近藤という後継者……。

93年、『秒殺』の衝撃と共に現れたパンクラスという団体は、日本のプロレス界における「先端」を越えた「突出」であった。「究極のUWF」と謳われるのも納得する試合内容に、「もしかしてとんでもないものを我々は見ているのでは？　本当にこれこそ21世紀のプロレスでは？」と大方のファンは信じていたのではないだろうか。そしてパンクラスがそれに値するだけのインパクトを与え続けていたのも事実である。イメージと現実の試合の両輪が見事に噛み合った、エンターテインメントとして最高の形を成していたはずだ。

それがいつからパンクラスのイメージの悪さが、非・パンクラスファンだけでなく、ファンの間ですら言われるようになったのだろう？　減少する地方大会、マッチメイクの魅力不足、そして何よりマスコミを通して伝わる団体のイメージの悪さ。特にフロント尾崎社長に関してはリングスとの舌戦でファンの心象を悪くした。いずれも真偽が謎なうえ確かに前田的言い回しをされたなら腹も立つだろう。しかし絶縁・告訴といった反応は多少ヒステリックではなかったか。暴行はやむなしにしろ、絶縁という言葉を不用意に出すことが格闘技界のためになるのか、というところまで考えなかったのか。またコロシアム2000直前も涙の記者会見を開いていた。その被害者意識丸出しの発言にはファンですらウンザリしている。団体のオフィシャルBBSにまで「尾崎社長にはやめてもらいたい」などの発言が載る現状をどう捉えてるのだろうか？

だが、そういう人為的な出来事とは別に、やたらと「運の悪い団体」という事を指摘しておかないと不公平だろう。リングス問題をはじめ、団体の顔でありながらここ一番で負ける船木、そして今回の近藤のUFCミドル級タイトル挑戦の中止。王者のティト・オーティズといえば人気・実力共に現在のUFCではトップランクなだけでなく、結果いかんによっては小川とのヒクソン戦挑戦者争いでも俄然有利に働いていただけに惜しい話だ。



ルッテン戦、そしてヒクソン戦と、共に覚悟を極めていた闘いで船木に2度訪れた「死」。しかし同日同会場で近藤がシャムロック、ヒベイロといずれも下馬評では不利だった強豪を下しているのは偶然か。

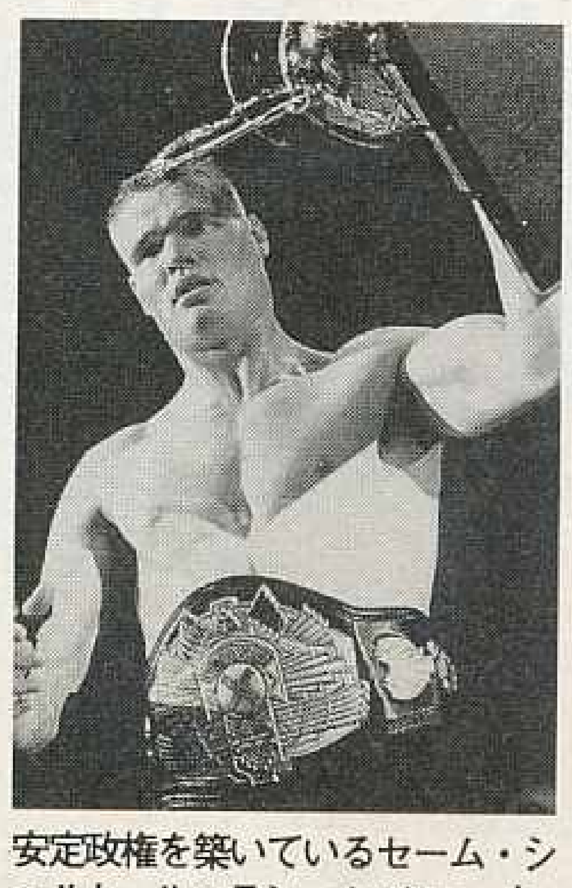
またフランク・シャムロック、バス・ルッテン、モーリス・スミス、アラン・ゴエス、ガイ・メッツァー、ジェレミー・ホーンなど、外人選手の定着率の悪さも不幸のひとつだろう。

大きく分ければ、パンクラスという団体の成長は3期に分けられる。まず旗揚げから96年9月7日東京ベイNKホール、「最初で最後のタイトルマッチ」「負けたら引退してもいい」と言い切った王座挑戦で船木がルッテンの狂拳の前に崩れ落ちるまで、団体そのものが勢いづいていた第一期。それから船木がヒクソンに敗れるまでの第二期。そして「船木以後」の他団体開国路線の現在、第三期である。リングス問題、フロントの姿勢、膠着試合、流れのないマッチメイク。いずれも第二期に立ち上がった問題だ。そもそも船木自身がモチベーションが上がらないまま王者になり、死に場所を求め続けた時期。「死に体」がトップの団体に何を望まんや、である。

しかし第二期に起きたのは悪いことばかりではない。何より近藤・国奥ら第二世代の著しい成長、そして膠着試合を減少させるルール改正。そしてそれまでの鎖国ムードを一変する他団体受け入れと、パンクラスという団体の成熟、そして次の段階への進化を感じさせた。特にその変化を象徴するのが昨年のネオブラッドトーナメント。パンクラス・高田道場・慧舟会・誠ジム・須藤元気という5つに分かれた客席の応援ぶりは「シーン現象」とは無縁なもの。また、今ではお馴染みになった須藤の派手な入場もこの日が初お目見え。試合内容も他団体対決らしい意地がぶつかり合う好勝負で、しかも全試合一本勝ちで生え抜きの美濃輪が優勝するという結果も団体的には文句無し。これぞ「船木以後」の方向を示す興行ではなかったか。

第二期と第三期、2度の船木の死をもって次の扉を開いたパンクラス。しかし、全く同日同地で起きた出来事で、こういう言い方も出来る。「近藤が、船木も負けたフランク・シャムロックをKOし、世代の差が無い証明から始まった第二期。再び近藤がヒクソンの一番弟子サウロ・ヒベイロをKOし、新たな最強の証明を始めた第三期」と。

時代を「終えた」のではない、時代を「始めた」と言うべきなのだ。



安定政権を築いているセーム・シュルト。ルッテン、メッツァーと、共にキング・オブ・パンクラス在位中に離脱しただけに心配だ。



ファンをナメてるのか？　いくら好きでも許せない問題連発！

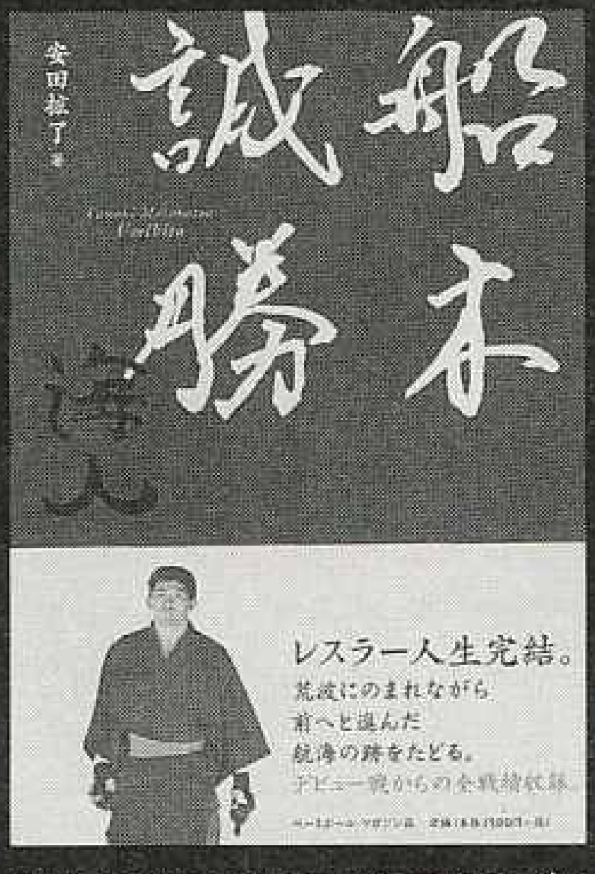
ここが ダメだよ パンクラス!!

ファンの声を無視するフロント、「完全実力主義」が見えないマッチメイク、守られたベテラン勢、ネジ曲がったイメージ連発のマスコミ……初期パンクラスはオシャレで格好良い雰囲気満載だったはずが、いつからこんな雰囲気も格好も悪い団体になってしまったの？　現在のパンクラスの問題点を突付いてみる！

まずパンクラスの語り部、と言えば裏モノ雑誌『ダークサイドJAPAN』（ミリオン出版）でも思いっきり癒着扱いのヤスカクおじさんこと安田拡了氏。もともとパンクラスはストイックなイメージを持ちやすい団体、そこに悲壮感を演出すれば日本人にウケるのは必至である。その集大成である『海人』（ベースボールマガジン社）ではまさに殉教者扱い、どんな敗北も失恋も万引き話も美しく描く筆力はさすがというか。でも今のパンクラスには大きなお世話なのだ、その選民思想と被害者意識は。

しかしヤスカクにどれほどの影響力が？　と思っていたら、石井大輔・渡辺大介と興行直前に週プロで注目選手としてインタビューした選手は、当日見事に声援が集まっているのだ。前大会で矢野を6秒KOした石井ならまだしも、富宅と引き分けに終わっている渡辺に声援が集まるとは考えにくい。意外とヤスカク支持者が多いかもしれない。

またもう一人の船木番と言えばShow氏。『BRAIN　船木誠勝』（メディアワークス）に関して言えば、いかに自分が船木と繋がってるか自慢したいの？という印象を受ける。最後のスクワット自慢話も含めて、「ああ、この人は『僕』が好きなんだなぁ」という読後感を与えてくれる。



船木の発言がいちいち面白すぎるのか、ヤスカクの読み取り方がいちいち面白すぎるのか、とにかく不幸話のコラボレーション。詳しくは吉田豪先生の素晴らしい評が載った本誌No.29「書評の星座PART2」を参照のこと。

対リングス問題、『コロシアム2000』のルール問題など、イザコザ名物と化している尾崎社長トーク。自らの団体のハードさを切々と語り、他団体には絶縁・告訴・涙といったヒステリックな反応は、団体のスポークスマンというよりはアジテーターの方が近い。「団体間の問題はフロント同士で」「選手には試合に専念してほしい」という姿勢は納得出来ないこともない。しかし、そこに選手の顔が見えないフロントは格闘技団体として正解なのか？　尾崎社長は芸能畑にいただけに、イメージ戦略には通じているだろう。ならば「フロントに守られた格闘家」というイメージがどれだけ格好悪いかを考えて欲しい。

またその目に「ファン」が見えているのか？　という点も気になる。特に地方大会の大幅削減。昨年は関東・大阪以外は名古屋・仙台各一回ずつしか興行を打っていない。今年も関東・大阪のみで地方興行の予定は組まれていない。また、以前「高橋vs山田」（96年6月25日福岡）のようなアンケート結果に基づいてカードを組んだ事もあった。最近そういったファンサイドに立ったマッチメイクもしばらくやっていない。船木が現役から離れ、只でさえファンの熱は冷めつつある。今ファンの意見を聞かねば、単なる船木信者は離れていくのでは？

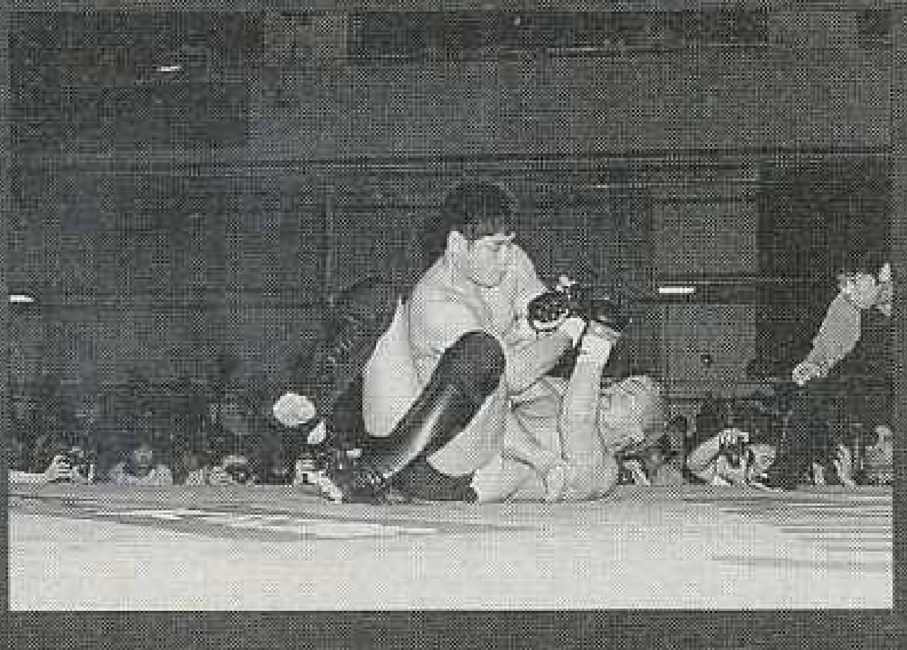


オフィシャル掲示板に「やめるべき」と書かれるほどファンから不信感を抱かれてる事を本人はどう思ってるのか？

とにかく気になるのがベルト挑戦とランキングの関係の無意味さ。今回王座に挑戦する無差別9位の渋谷、今年は4月に行ったvs大田戦（一本勝ち）のみ、昨年の実績は1勝2敗5引き分け。その一勝も明らかに格下の渡辺大輔、それなのに王座挑戦。実績を見れば今無差別級に挑戦するのは7連勝中の菊田としか思えないはずだが。これが「完全実力主義」と言えるだろうか？　船木という客を呼べる大きな幹を失った今、次回も客の足を運ばせるような、流れのあるマッチメイクなしにこれからのパンクラスはない。

また「完全実力主義」下における渡部謙吾の扱い。そのキャラクター・体躯、未来のパンクラスを支える逸材なのは分かる。デビューがルッテン戦、パンクラチオンマッチも経験という、エリートとしての育てられ方は本人にとって正解なのか。ついでにフィギュアや写真集の発売も経営として正解なのか。

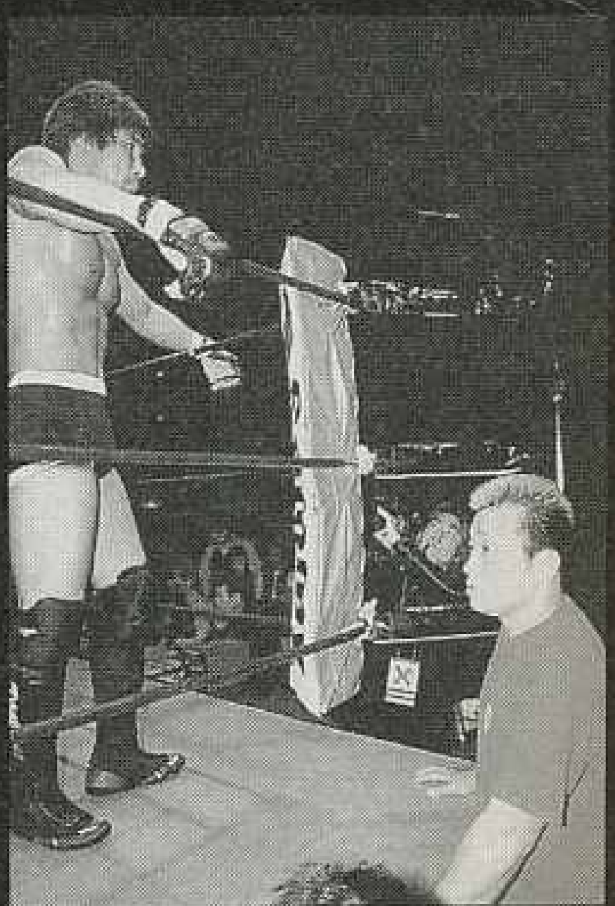
また、深刻なのが外国人不足。日本では無名ながらルッテン、ゴエス、デルーシアといったインパクト大な初期の外国人を次々と見つけてきた発掘力はどこへやら、シュルト以降安定した定着率とインパクトを残す外人は出てきていない。トップ勢を脅かすような未知の強豪の登場を望む！



負けなし7連勝、されどランキング戦を1度経験したのみで王者挑戦の機会も無い菊田。GRABAKAとしてでなく、自分の声で上に噛み付く姿を見たい！

パンクラスはあくまでも「完全実力主義」を謳う団体のはず。しかし他団体の日本人選手と試合が組まれるのは常に第二・第三世代の若手ばかりだ。99年から8月まで、16試合行われた他団体との交流戦のうち、第一世代が登場したのは柳沢vs小路（99年9月18日東京）、稲垣vs大田（99年12月18日横浜）、高橋vs矢野（00年8月27日大阪）の3試合（ネオブラッドトーナメント除く）のみとなっている。また、第二・三世代間の対決は頻繁に行われているが、第一・二世代間対決は5試合のみ。これでは「負けのイメージを恐れるあまり、ベテランが守られている」と言われても仕方ない。

船木同様に第一世代、特に鈴木・富宅・山田など長期休養組は選手としてガタガタなのは見てる側も分かってる。しかしトーワ杯やモーリス戦を闘ってきた第一世代が内に篭る状況というのは非常に寂しい気分にさせられるのだ。旗揚げ戦メンバーの鈴木・高橋・富宅、そして稲垣・山田。「守られた客寄せパンダではない」という意地のカード、意地の試合内容を今こそ見たい！　例えば道場対抗戦でなく3vs3の世代対抗戦といった試合。そういったプロレス的マッチメイクを大胆に導入する事も、求心力ある興行の方法ではないだろうか。



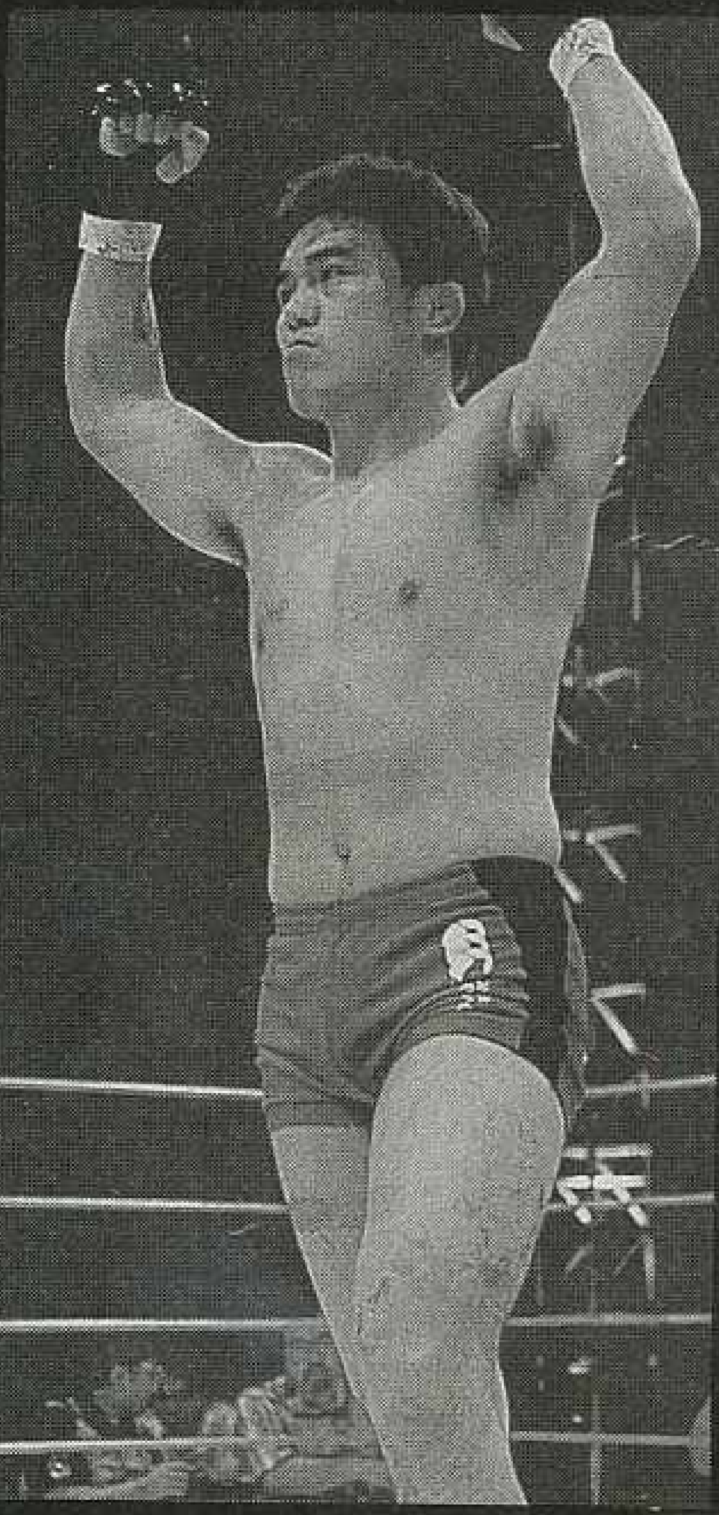
かつては船木と名勝負を繰り広げた富宅も昨年試合ゼロ、今年1戦のみ。初代王者決定トーナメント準優勝の山田も今年は1月の近藤戦以降試合がない‥

21世紀の総合格闘技をリードするパンクラシストはこんなにいるぞ!!

この男たちの輝きを見ろ!!

船木も引退し、体にガタを隠せない第一世代。今や「パンクラスの現在形」を体現しているのは近藤以下の世代なのは間違いない。心・技・体、それに加えて「魅せる」部分を兼ね備えた闘いぶりはこれからのパンクラスマットに不可欠。他団体参入と階級制、「船木以後」のこの二つの流れをリードするのはこの男たちだ！

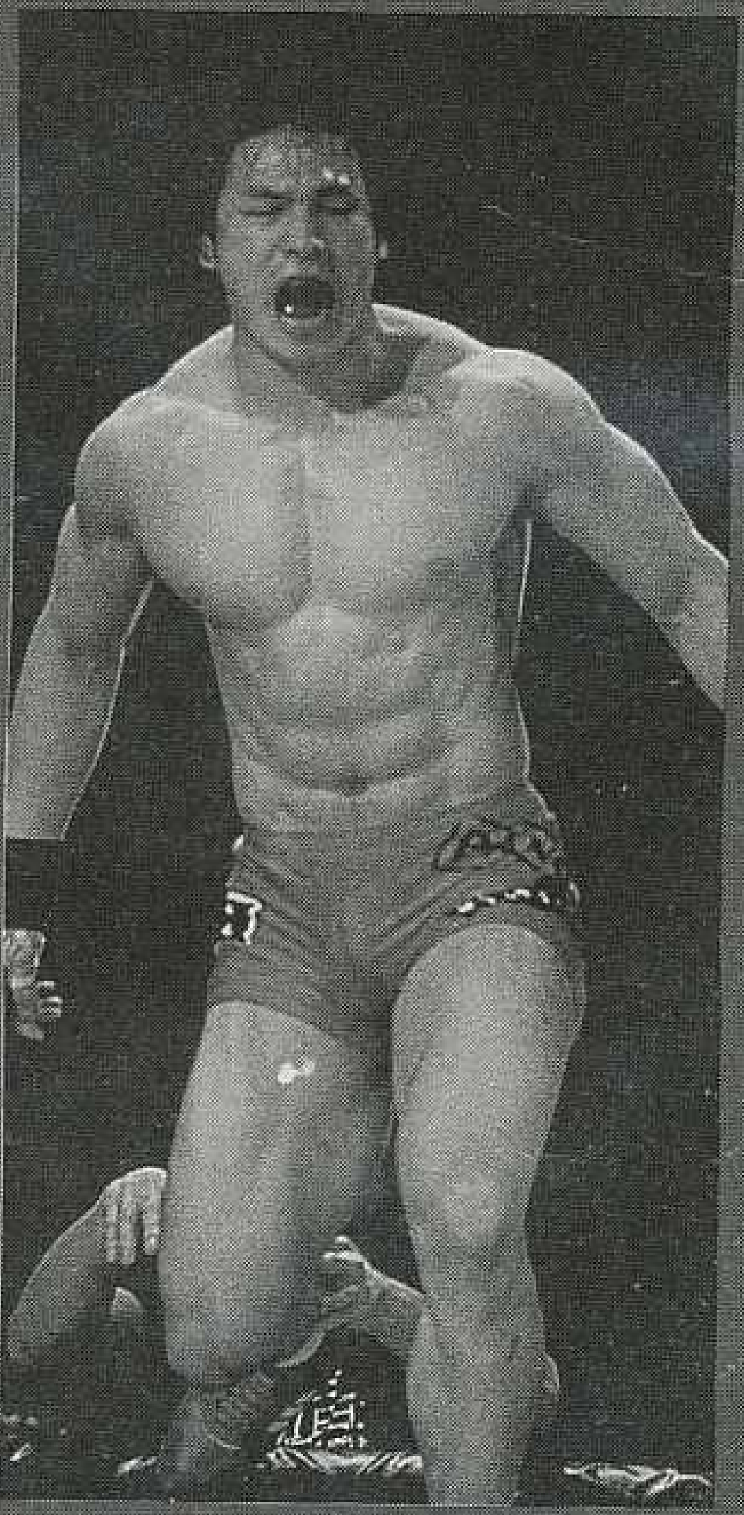
近藤有己



國奥とのタイトルマッチで飛びヒザを決めたかと思うと、ヒベイロ戦での全く無表情で顔面にパンチを叩き込む姿。試合後の「狙ってなくて自然に体が動いた」という言葉が本当ならば、まさにパンクラス流英才教育が産んだ格闘マシーンは完成に近づいたといえるだろう。共にヒクソン戦の候補となっている小川との比較で知名度の低さで不利さが挙げられている。確かにキャラは地味だが、試合は素人が見てもインパクト大なものも多い。完全実力主義を謳う団体なら勝利こそが存在証明、だがその上で「派手な勝利」であることがエンターテインメント上望ましい。それをコンスタントに出来る才能、これこそ近藤の魅力である。この号が出るころにはUFCの結果も出ているだろう。リングスの高坂も「UFCも見せる技を出さないと継続して使ってはもらえない」ということを言っており、ならば近藤の天性のセンスはアメリカ向けのはずだが……再び王者挑戦の日は来るのか？

美濃輪育久

メインも2度経験し、昨年夏以降の怒涛の勢いにすっかり「美濃輪女」の声援が耳になじむほど会場人気が高くなった。これまでデビュー直後から頭をピンクに染めたりレガースにPUNXの文字を入れたりと、キャラの強さは見えていたがパンクラスの中ではちょっと浮き気味な印象は否めなかった。それが一気に爆発したのが、オール一本勝ちを成し遂げた昨年のネオブラッドトーナメント優勝。続くシュルトとのランキング戦では敗北したものの、試合開始直後に回転して脚を取りに行くなどトリッキーな戦術で好勝負を演じた。下からの関節技も巧く、デビュー当初から「顔面殴るのは好き」と答えており、掌底からグローブにルール改正されて効果の上がった選手のひとりだろう。団体内のライトヘビー級にこだわらず、これまでの大道塾・UFC－J参戦同様に国内外にガンガン討って出る「サーチ＆デストロイ」なパンクス魂を見せ続けてほしい。



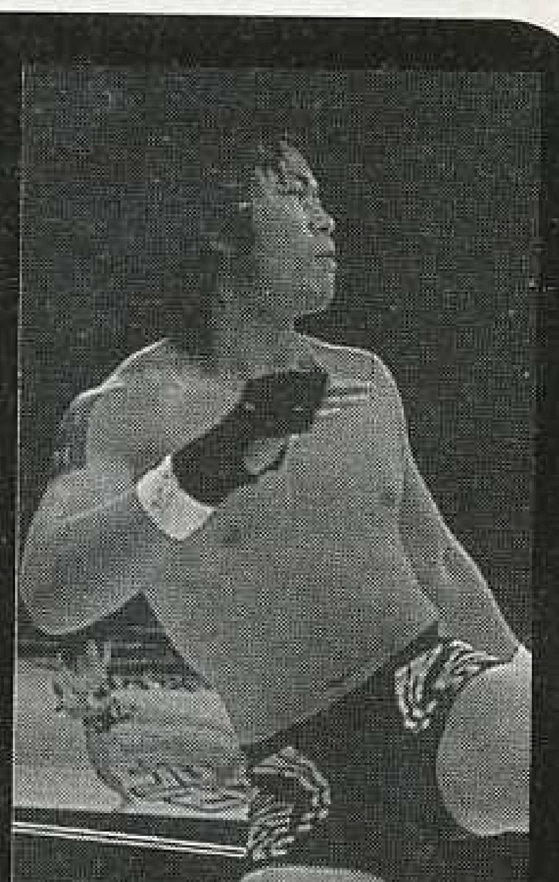
國奥麒樹真

3階級制になり最も光りそうなのがこの人。他団体、特に日本人選手の参入が激しくなると思われるミドル級の中で日本勢の看板を守る壁としての活躍が期待される。既にスポット参戦している高瀬（慧舟会）や今年のネオブラッドトーナメントを制した星野（RJW）からも対戦表明されている。これまで無差別級相手が当然だったのに対し、ミドル級トーナメントでも当然本命、それ以降ミドル級に絞って対戦を続けるならこれまで見えなかった実力が露になるに違いない。また「技の國奥」と呼ばれた関節技に加えボクシング技術にもより一層磨きをかけている。これまで揉まれてきた実績と、第二世代では唯一となる藤原組生え抜きの意地が爆発するか。



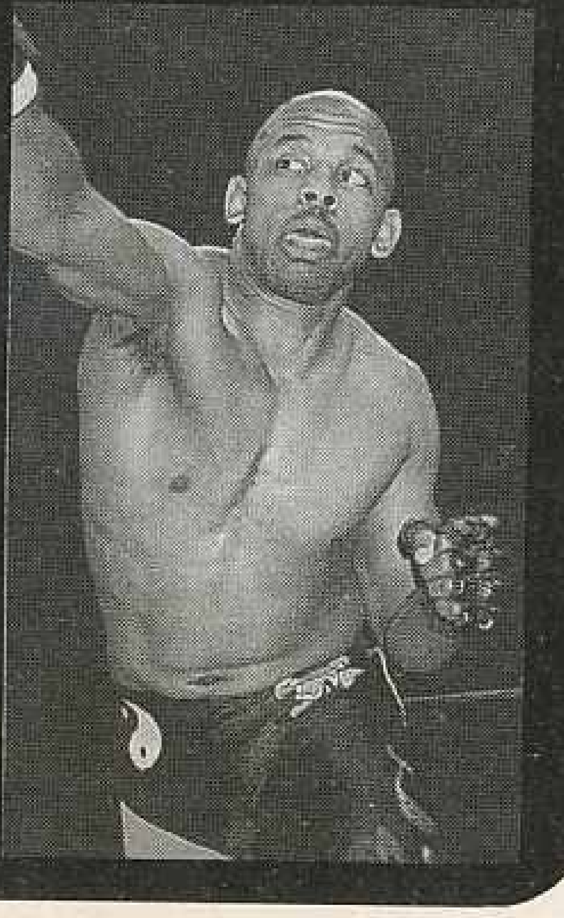
須藤元気

正式入団ではないが「パンクラスGRABAKA」として菊田と共に活動している須藤。毎回派手な衣装で登場する入場や、芸術家というキャラクターが先行しているイメージがあるが、実績も上げているのがジャイアント落合とは違うところ。アマレス実績と柔術をベースにした動きは単なる色モノでは終わらせない。『コロシアム2000』でのペデネイラス戦では足を極めかけ判定勝ち、コンテンダーズでの宇野薫戦では判定勝ちと実績も積み重ねている。しかし新年の後楽園大会の挨拶で船木にマイクを渡され「123ダーッ」をやったり、試合中にジャイアントスイングを仕掛けるセンスが今のパンクラスで光るのも事実なのである。



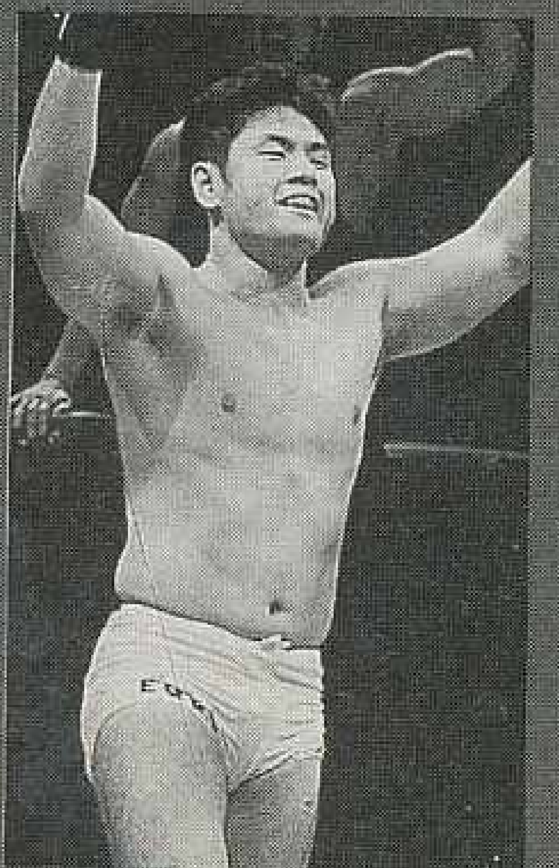
ショーニー・カーター

前に書いたように定着しない外国人選手だが、期待したいのがカーターだ。「ギルバート小アイブル」とでも言うべきワイルドな風貌と打撃が売りの実力者。海外の数々の大会で優勝を飾っており、ミドル級最強に推す声も高い。パンクラスでは過去4戦を経験、4月横浜大会での國奥戦では大打撃戦を展開し、ミドル級トーナメントではおそらく決勝で國奥と当たるのではないだろうか。また日本と縁が深いのか、昨年士道館シカゴ大会でキック・シュートボクシング等で活躍している「立ち技バーリトゥーダー」の異名を持つ後藤龍治（士道館）を破っており、10月には再戦も行う。國奥と共にミドル級の軸として度々来日を望みたい選手である。



菊田早苗

「トーナメントオブJ」2年連続優勝という実績を引っさげて、PRIDE・修斗・リングスマットに上がり続けるフリー生活から昨年の入団以来、負け無しの7連勝中（1引き分け挟む）。そろそろ上位日本人ランカーか王座への挑戦が望まれるところ。特に近藤や渋谷といった第二世代相手に柔術でどう挑むかは見てみたい。一方で第三の集団「パンクラスGRABAKA」のリーダーとしての動きも気になる。大阪大会の石川・佐藤の連続一本勝ちを見て分かるようにレベルは保証付き。パンクラス第三世代の危機感を煽るのにこれ以上の素材はない。修斗では選手が不足がちなライトヘビー・無差別の選手が活躍する受け皿としても機能しそうだ。



ただ勝ち続けることだけがパンクラシストの存在証明！

精密格闘マシーンの超絶バトルに酔え!!

船木の引退と共に一旦リセットされた感があるパンクラス。しかし、これまでの闘いからも船木以後の新風景は朧げながらも見えている。他団体参入、階級制導入、本場UFC進出、船木のプロデューサー就任と、面白くなる要素は十分にある。振り子がどこまで大きく広がるか分からない、それが今のパンクラスの魅力なんですッ！

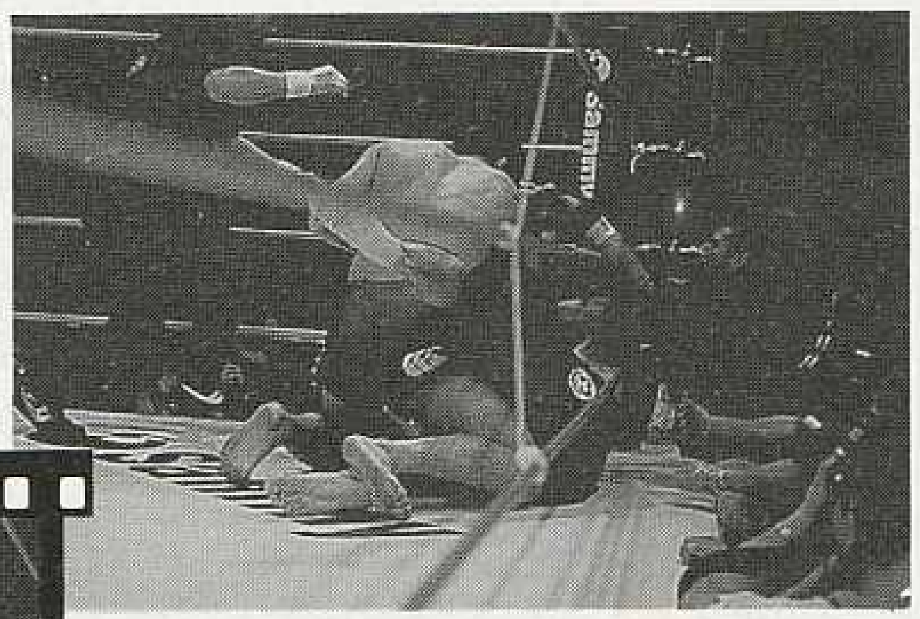
「なぜパンクラスは嫌われるのか?」

今回のこの企画を進めるにあたり、この問いをプロレス好きに問うてみた。面白いのがパンクラスを見てる人も見てない人も「なるほどねぇ」といった反応を示したこと。「パンクラスが嫌われている」という前提を誰も否定しないのだ。もしこれが「なぜ新日は嫌われるのか?」だったら「いやぁラリアットプロレス反対っても、あれだけ客入ってるからねぇ」と切り返されるだろう。その団体名がリングスでも修斗でもノアでも、ほとんどの団体はそれに対する切り返しのセリフを言われるに違いない。または嫌われるだけのネームバリューすら持っていないか。パンクラスだけが、嫌われる。正確に言えば嫌われるだけの「理由」を持っている。前のページを読んで頂ければ、その理由はわかるだろう。

じゃあ試合がつまらないのか、というと全然ンなこたァはないのである。新ルール導入と他団体参入後、リングの光景は変わりつつある。特にグローブ採用と10分一本勝負は「パンクラス=膠着試合」の印象を薄くさせた。また交流戦の増加は試合に一層の緊張感を与えている。特に今年7月に行われた「デイ&ナイトトーナメント」は慧舟会、RJW、誠ジム、グラバカ、SAW、JJAに外国人勢も加わったパンクラス史上かつてない他団体参入興行。階級制の導入とこの他団体参入ラッシュにより「団体」から「場」としてパンクラスが新しい展開を迎えるのは必至だ。

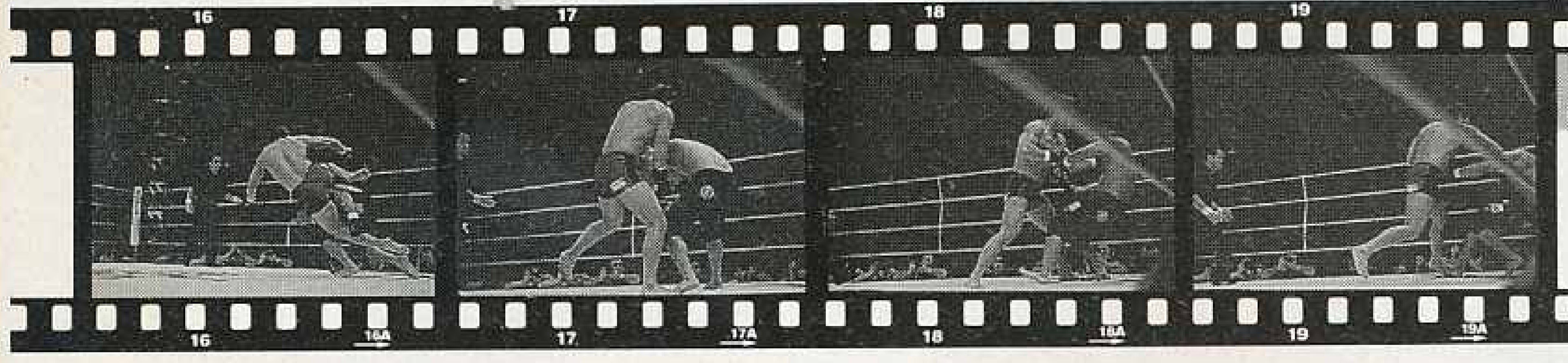
しかしそれを迎え討つパンクラス側に十分な戦力がなくてはお話にならない。その上、強さ=集客とはいかないのが興行というもの。強くてなおかつ客を呼べるメインイベンターの育成は団体として常に重要な問題である。その点で一本勝ち率が高い近藤はその風格十分。そして昨年、もう一人メインイベントを任せられる風格を持った選手が生まれたのは大きい。美濃輪育久である。昨年10月の後楽園ホール大会、メインが美濃輪育久vsエイドリアン・セラーノのパンクラチオンマッチ、セミに菊田が出場、第一世代の出場は稲垣のみという大会で満員マークをつけた。伸びてる選手は皆チェックしているのだ。

以上のように試合や選手は充実してきており、ハッキリ「船木以後」の絵を描き出している。それなのに、嫌われる。これはまだ「船木以後」のイメージをファンが掴んでいないのもあるだろう。皮肉な事に「船木以後」のイメージを打ち出すのは、フロント入りする船木自身のプロデューサーとしての手腕にかかっている。外国人選手発掘、魅力的なマッチメイクの作成と課題は山積みだ。ヒクソン戦という「本当にやりたかった試合=最強と呼ばれる男との試合」を終えた今、船木は「本当にやりたかった団体=完全実力主義」をどう描くのか。

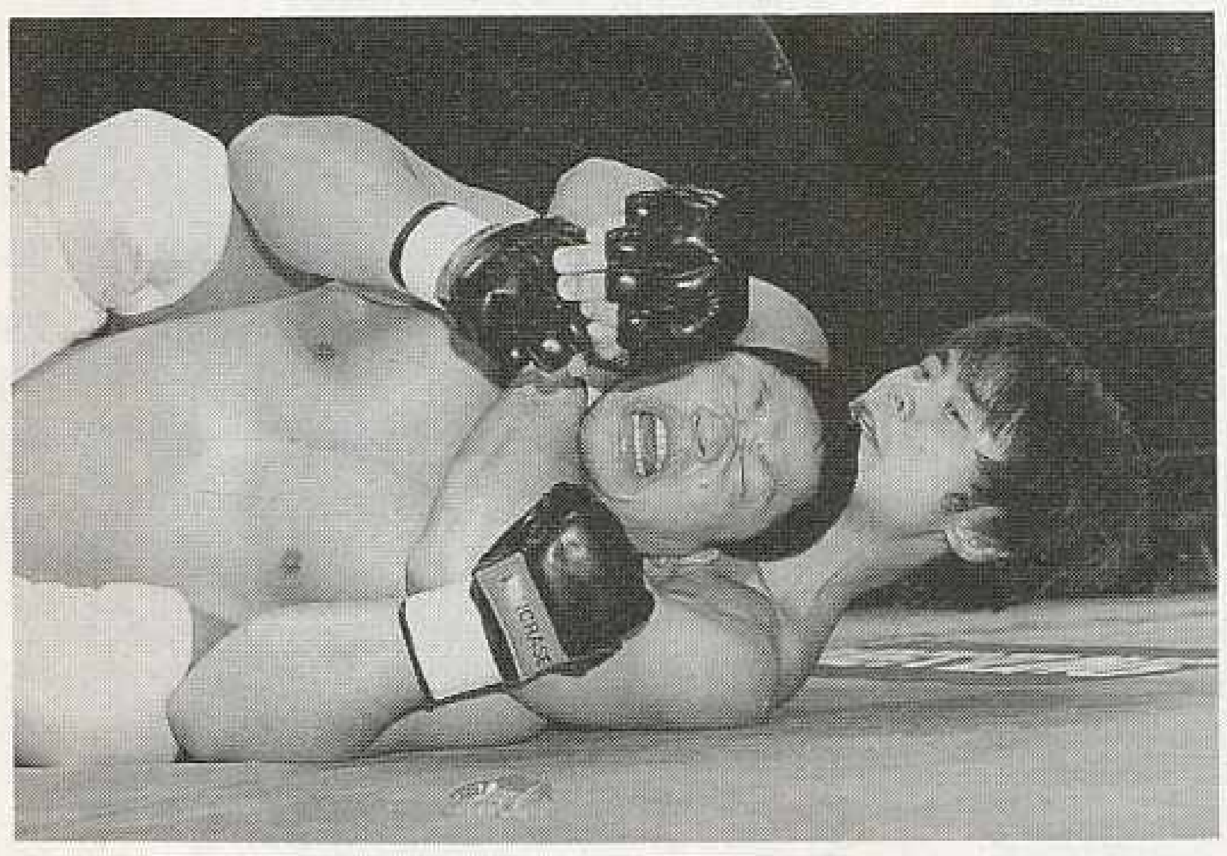


近藤の冷たい強さは十分ゼニが取れる!! 強ければキャラなんて無用！

旗揚げの時から繰り返し言い続けてきた「完全実力主義」。その名を冠した以上は勝利こそが正義、勝ち続けることだけが最上位の概念でなくてはおかしいはずだ。だが船木も前田も「最強なんてありえない」と語っている。理屈で考えればそうかもしれない、それでも最強を追いつづけなくてはいけないのは矛盾だろうか。結論は無かろうと、より強い相手に挑戦し、勝ち続けること。それがただ唯一のパンクラスという団体の存在証明である。そのためにはキャラが弱いだの、サラリーマン的だのという意見は気にせず、勝ち続けさえすれば全てはついてくる。今でこそキャラが立っている桜庭も、コナン戦での勝利が無ければ只の無名選手で終わっていたかもしれないのだから。



次号はそのパンクラス幻想の申し子、近藤有己のUFC挑戦をレポートする。残念ながらティト・オーティズのミドル級王座挑戦は流れてしまったが、結果次第では継続参戦もありえる話。この号が出る頃にはとっくに結果も出ているけども、ペドロ・ヒーゾ、モーリス・スミス、ダン・スバーンなど日本でもメジャーな選手の活躍も含めてお伝えする。ニューオリンズに秒殺の風は吹いたか？



自主興行を打てない団体・フリー選手にとって修斗に並ぶ受け皿が出来るのは業界全体の発展に繋がる。また「サラリーマン的」と揶揄されるパンクラス本隊の奮起材料にもなり、より一層緊張感のある試合が期待できる。

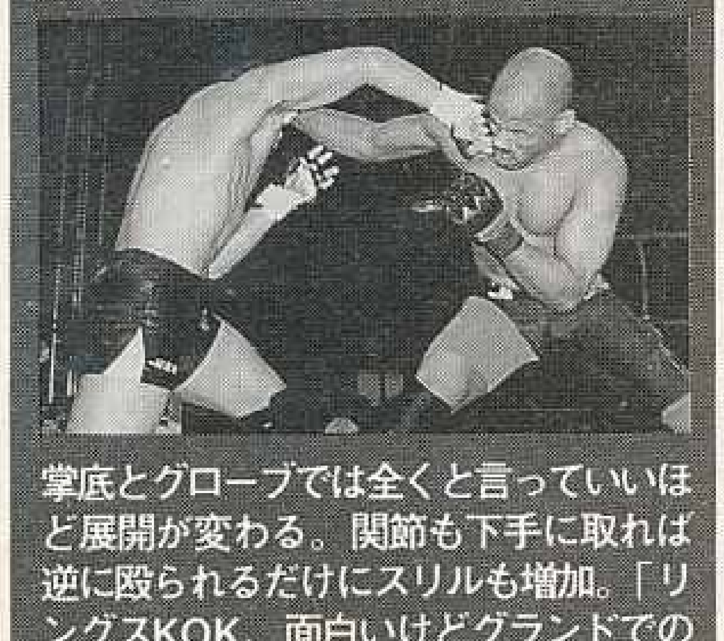
パンクラスはここがオモシロイ!!

いきなりUFC王座挑戦、近藤vsティト戦決定！のハズだったんだけど……



ヒクソンショックも乾かぬ内に近藤がティト・オーティズに挑戦のニュース！と思ったら流れ流れて相手は柔術家アレクサンドレ・ダンタスに変更。それでも注目の近藤初オクタゴンファイト、次号渡米リポート！

寝ても立っても見逃せない！ 展開が変わるオープンフィンガーグローブ採用



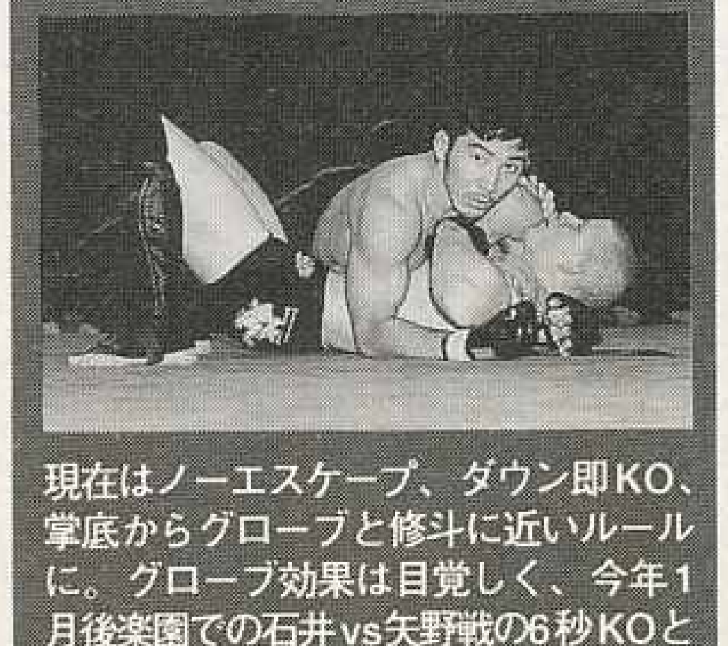
掌底とグローブでは全くと言っていいほど展開が変わる。関節も下手に取れば逆に殴られるだけにスリルも増加。「リングスKOK、面白いけどグランドでの顔面がないのはなぁ」とお思いの方は是非！

噂の菊田軍団！ 非道場所属の第3勢力「パンクラスGRABAKA」誕生



元々フリーで新宿スポーツ会館を練習場としていた菊田が、知られてない強豪を世に出すべく作った東京・横浜道場に所属しない第3勢力。8月の大阪大会では佐藤・石川両選手とも一本勝ちと実力をいかんなく発揮した。

グローブ採用・10分1本勝負のルール改正によりスピーディな試合展開に



現在はノーエスケープ、ダウン即KO、掌底からグローブと修斗に近いルールに。グローブ効果は目覚しく、今年1月後楽園での石井vs矢野戦の6秒KOという記録も生まれた。残る問題はKOの判断が難しい点か。

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝Ｉ編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク Inoue mode



大好評につきリニューアル

——さて、井上さん、今回からタイトルが変わったんですけど、さらにパワーアップしていきましょう！

井上　はい。

——それで今回は『ＰＲＩＤＥ．10』のお話をおうかがいしたいんですけども。井上さんは西武ドームに行かれたんですよね。で、うちのノブが偶然井上さんにお会いしたらしいですけど、どうも聞いたところによると試合開始の時間を間違ってしまったそうで（笑）。

井上　いやあ、6時半だとばっかり思っとったからなあ。4時に東京駅着いて、ほんで水道橋のグリーンホテルにチェックインして、まだ大丈夫だと思うて昼寝したんだよ（笑）。

——ハハハハハ。

井上　ほんでいざ西武ドーム着いたら、アンタ、猪木がマイク握ってたからな、「よかった、間に合った」と思うとったらお宅の若いのが「あと4試合ですよ」言うたからねえ（笑）。

——まあでも、後半4試合観られてよかったじゃないですか。

井上　そうだな。**ただこれからどんなビッグマッチが組まれても、俺は西武ドームには行かん！　あんなに遠いところでやってどうするんだ！**（ドンッとテーブルを叩く）。帰りの電車なんか地獄ですよ。みんな汗びっしょりで。しかも試合が終わって真っ直ぐにホテルに向かったのに、着いたのは11時ですよ、言うちゃ悪いけど！　**もう行かない！**

——まあまあ、そう怒らないで（笑）。それでも興味深い試合はたくさんありましたけど、その中でもやはり石澤常光vsハイアン・グレイシーについてお話を訊きたいですね。

井上　ハッキリ言うてね、まだあの試合で石澤の実力もハイアンの実力も十分にはわからんけど、でもオレは石澤に何やっとんだと言いたい。

——特にどういったあたりですか？

井上　あのフロント・ネックロックですよ！

——コーナーに追い詰められながらもハイアンの首を絞めに行きましたね。確かにあれしかできなかったのは残念でしたよ。

井上　ハッキリ言うてね、**あんなフロント・ネックロックなんか、オレでもできる！**

——井上さんがネックロック！

井上　オレだけじゃない。**君もできる。**

——ええ!?　僕もですか！

井上　なんなら、**そこらのおばちゃんでもできるんだから!!**

——そこらのおばちゃんまでも！（笑）。

井上　**君が今からそこらへんのおばちゃんのスカートの中にタックルしてみい、**おばちゃんは咄嗟にフロント・ネックロックしてくるから！

——僕がおばちゃんにタックルしてどうすんですか！（笑）。

井上　ネックロックどころか、**持ってた大根**で殴られますよ。

——ワハハハハ！　それは効きそうだ（笑）。

井上　やっぱりね、**場数**なんだよな。**ケンカ慣れ**してるかどうかですよ。それは高田や船木がヒクソンに敗れたのと同じであってね。そういう意味ではみんな**現代っ子**なんだな。

——やっぱり井上さんの時代なんかケンカは多かったですか？

井上　多かった？　バカなこと言っちゃイカンよ！　毎日学校の校庭で同時に3ヶ所くらいでケンカがあったな。

——へえ。凄い時代ですねえ。

井上　そんなもん、**毎日が闘い**ですよ。オレなんか小学校の時にな、ちょっと田舎の方に行ったら、なんにもしてないのにいきなり10人くらいに囲まれて、田んぼで袋叩きにあったことがあるんだから。

——なんにもしてないのに？

井上　そう。

——ひどいなあ。

井上　ほんでボコボコにやられてね。でもオレもそれでは終わらんから！　今で言う**リベンジ**ですよ。

——お、ということは、単身仕返しに行ったわけですね！　カッコいい！

井上　いや、オレの**親分に行ってもらった。**

——ガクッ。まあ、でもそんなもんでしょうね。

井上　オレの先輩だから当時の尋常高等小学校だな。花屋の息子だったんだけど、「うちの井上を殴ったそうだな」って敵討ちに行ってくれてな。ほんで向こうは震え上がって、お詫びに親がせんべいを持ってきたよ。当時のせんべいなんて、アンタ、言うちゃ悪いけど、どれだけ貴重だったか。

——戦時中ですからねえ。

井上　それを親分がもらってきてな、子分をみんな部屋に呼ぶんだ

今月のお題

石澤のフロントネックならオレでもできる！

よ。ほんで、「半分はオレが取る。後はお前らで分けろ」言うて、電気を消すんだよ。ほんならもう、今度はナンバー2や3あたりがバーッと食ってね。ほんで真っ暗なもんだから、オレなんか先輩にションベンかけられた（笑）。

――ムチャクチャいいお話ですね（笑）。そんなのが当たり前の時代だったんですね。

井上 そんな時代だったんだから。イジメなんかも凄かったよ。オレなんか一度、5人くらいに袋叩きにされて、ほんで**手を縛られて棒にくくられて、そのまま引きずりまわされた**こともあるから！

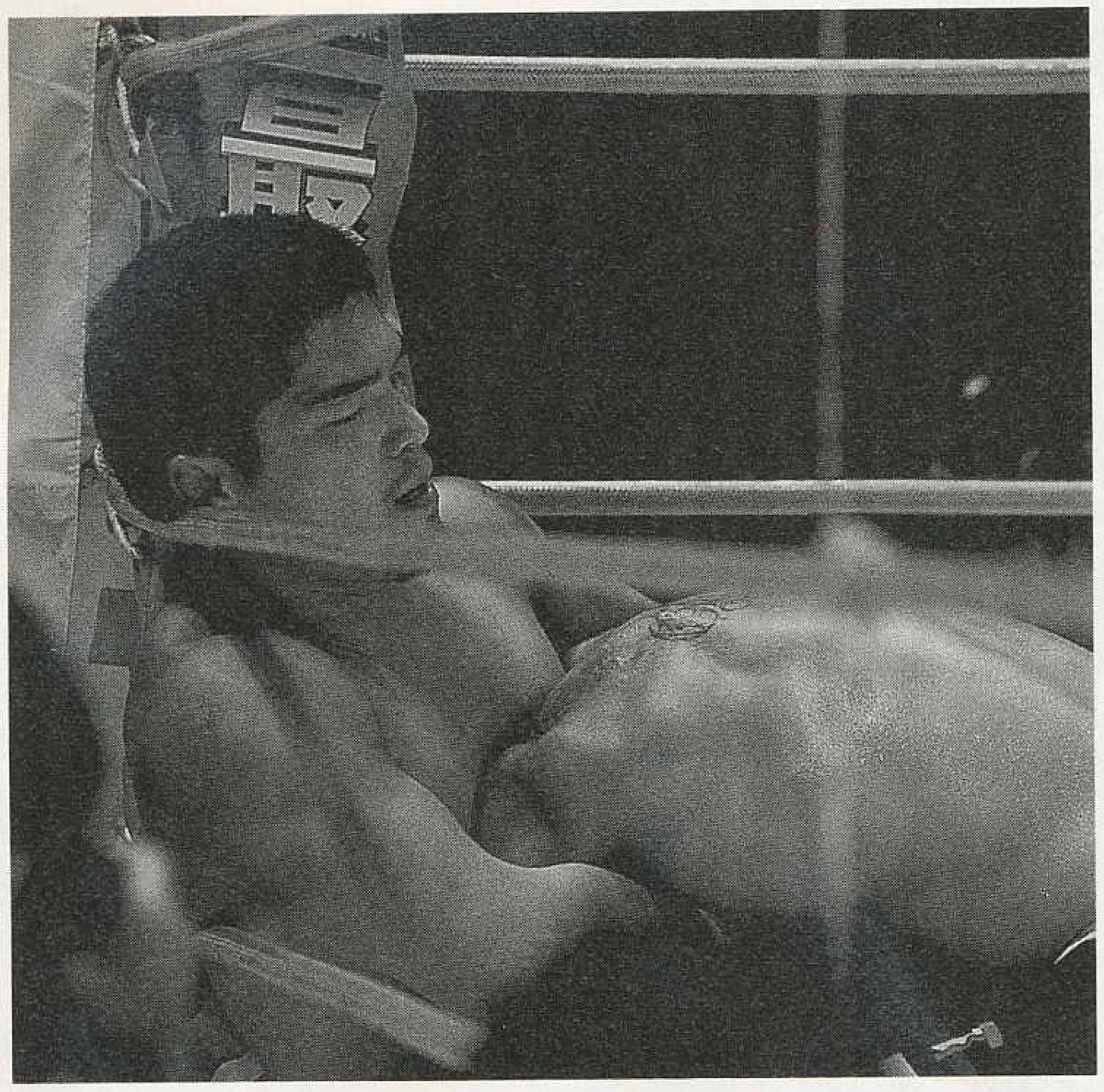
――エゲツないなあ。

井上 ほんだらもう、体中傷だらけだもん。**腹なんかもう白い脂肪が見えた**もんな。もうちょっと引きずられとったら、多分**腸**まで見えてたな。

――腸まで！

井上 ああ、そんぐらいひどい怪我だったよ。でもそんなもん、親も驚かんもんな。「ケンカばっかりして！」言うて**怒られて、しまい！**

――今の時代じゃ大事件になるでしょうね。



今月のお言葉

今は自殺する若者が多いけど死ぬ気になるんだったら殺して来い！

大好評につき、今回からさらにパワーアップを遂げたI編集長のインタビュー連載。いままでは、いわゆる「井上用語」の解説がメインだったが、今回からはざっくばらんに時々の事件を鋭く批評していただくこととなったので、読み易さ200％アップ（当社比）は間違いなし。さあ〝平成のデルフィン〟たちも〝昭和プロレス者〟たちも、このページを読んで、気分をi（井上）モードにチェンジしよう！　今回のお題はプロレスファンの間でも大反響を巻き起こした『PRIDE.10』＠西武ドーム大会だ！　井上さんは果たしてあの大会をどう斬るのか!?

聞き手／原一博　試合写真／乾晋也

井上 ハッキリ言うてな、今は自殺する若い子が多いけども、そんなもん、**死ぬ気になるんだったら殺して来いとオレは言いたいわけだよ！**（ドンッとテーブルを叩く）。これは極論だけどもな。**相手の家に灯油撒いて放火するくらいできるだろう、死ぬくらいなら。**

――確かに極論ですけど、そのくらいの気持ちを持てということですよね。

井上 猪木なんかはね、言うとったよ。ブラジル時代に**朝起きると畑に農民が死んどる**だって。白目剥いて。脱走しようとして射殺されたんだな。そういう光景を**当たり前のように猪木は見てたん**だから。

――うーん、やっぱり見てきた地獄が違いますよね。

井上 そういう経験がな、**リングの上でいざとなった時に生きてくるんだよ。**だから技術を磨くってのもわかるけど、やっぱり**ケンカ魂**というか、何やっても勝ってやるぞという気持ちが一番なんだよ。

――そうですよね。やっぱり猪木さんになりますか。

井上 ただな、オレがいつも猪木が凄いと言うのはな、好きだからとかじゃないんだから。**人間的に言うたら、馬場と猪木じゃ馬場の方が好き**ですよ。人柄がいいからね、言うちゃ悪いけど。

――なるほど。猪木が好きだから凄く見えるんじゃなくて、猪木が凄いからしょうがないということですね。

井上 そういうことだよ。

――そういう意味では石澤選手が今度、猪木さんから何を学んでリベンジしてくれるか楽しみですよね。

絶対、もう一度PRIDEに上がってほしいもんなあ。井上さん、今日はありがとうございました！

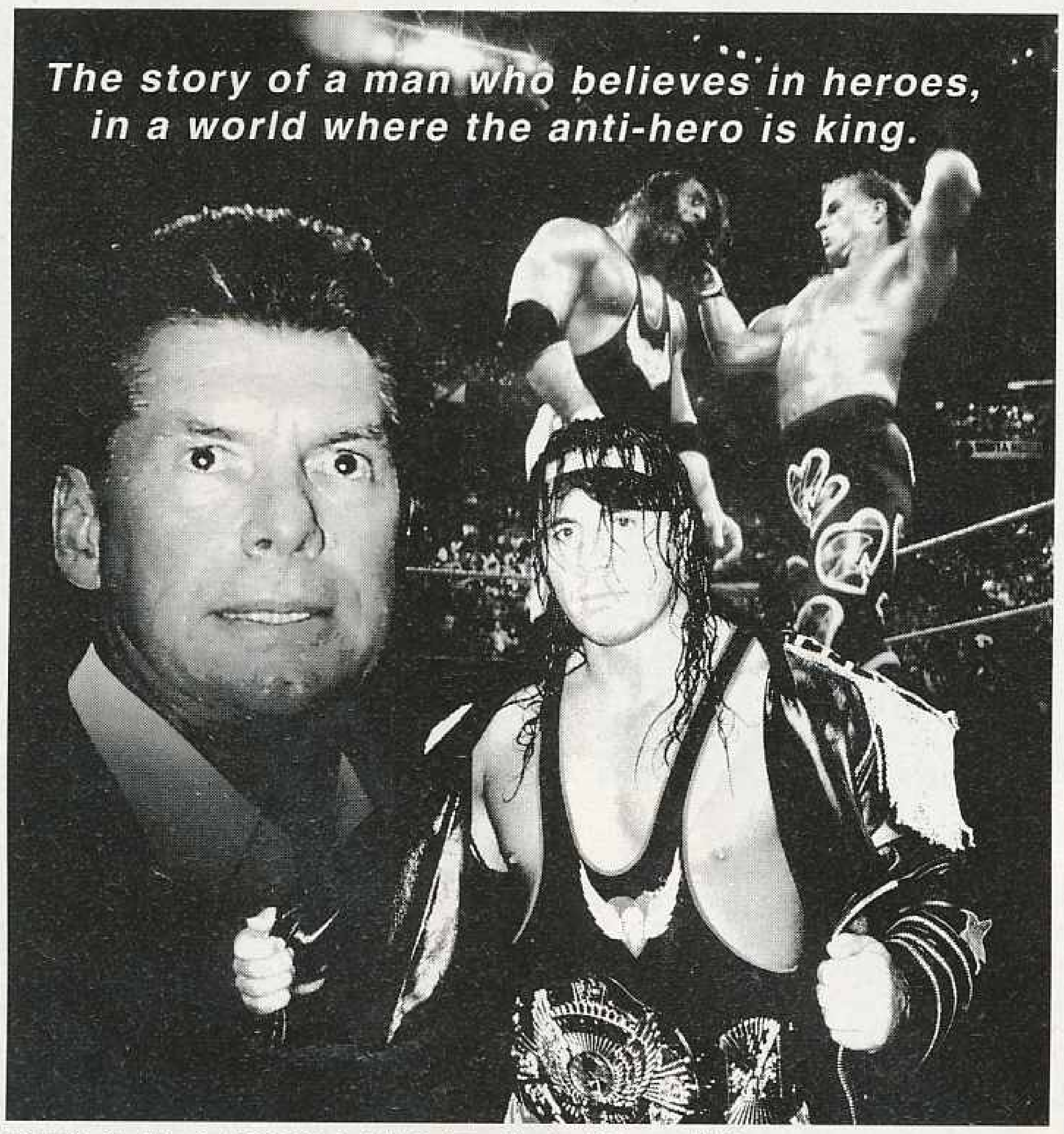
【'00年9月2日　大阪・茨木駅近くの喫茶店にて収録】

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身。若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず。『週刊ファイト』編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。現・ビートたかしのターザン山本やゴングのGK金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる。現在も『ファイト』で鋭すぎる批評コラムを連載中（必読）。

マット界を牛耳るWWFの帝王=ビンス・マクマホン VS
'90年代最高のスーパースター=ブレッド・ハートの戦いは
プロレス史上最大の裏切りと化した…

誰もが知らない、誰もが知りたかった
プロレス業界の秘密
〈興行・勝敗・契約などの掟〉が
初めて白日の下に…!
全米を震撼させた掟破り・禁断の
ドキュメンタリー、遂に日本上陸!

HITMAN HART
wrestling with shadows
レスリング・ウィズ・シャドウズ



●1997年11月9日、
プロレス界史上最大の事件は起きた…
WWF世界ヘビー級チャンピオン ブレッド"ヒットマン"ハートは地元カナダ/モントリオールで人気急上昇のショーン・マイケルズを相手に防衛戦を行なう。この試合を最後にヒットマンは、ライバル団体のWCWへ移籍する事が決まっていた。WWFのオーナーでありプロレス業界全てを掌握するビンズ・マクマホンが、ヒットマンを簡単にWCWへ手放すはずはなかった…

●カナダ国営映画が製作!
やらせ一切無しの100%ドキュメンタリー。
元々はカナダの英雄=ブレッド・ハートのドキュメント映画としてスタートした本作品。しかし、運命の悪戯はプロレス界の内幕を暴露する禁断の作品へと転化していく…

●巻末に映像特典として撮影18ヶ月後のヒットマン&ポール・ジェイ監督のインタビューを追加収録!
WCWへ移籍したヒットマンと監督が語る撮影秘話と真実、プロレス界の帝王=ビンズ・マクマホンの素顔、さらに衝撃の告白!
ヒットマン自身に起きた新たなる悲劇とは…?

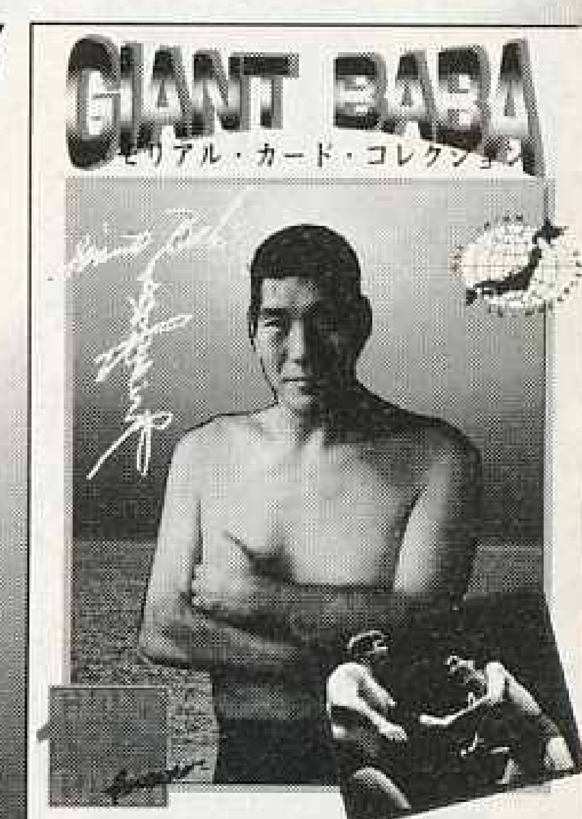
監督:ポール・ジェイ 1998年 カナダ・ハイロード・プロダクションズ制作
1998年 アメリカ&カナダ作品/カラー/ステレオ/94M+映像特典30M/日本語字幕

発売元:エンドレス株式会社　販売元:株式会社 ビーム エンタテインメント
©1998 National Film Board of Canada in co-production with HRP entertainment All Rights reserved

販売価格:**ビデオ・DVDとも/¥4,800(税別)**

ジャイアント馬場 メモリアルカード 好評発売中!!

24枚組・豪華BOX入り
裏面解説つき限定カード
(定価 2400円/税別)



全日本プロレス独立発表
第14回ワールド・リーグ戦優勝
60th BIRTHDAY MATCH(還暦試合)等
偉大なジャイアント馬場の足跡をカード化

ご注文はお近くのCDショップ・ビデオショップ等で!!
お求めになれなかった方は、インターネットか次の方法をご利用下さい。

お申し込み方法 ●住所、氏名、年齢、電話番号、商品名、個数、合計金額を明記の上、下記のいずれかの方法でお申し込み下さい。
※明記の際、必ず捺印して下さい。
尚、18歳未満の方は、保護者の署名、捺印が必要となります。

現金書留 ●上記のお申し込み内容をメモに明記し、商品代金と送料¥800(何点でも)を同封の上、お申し込み下さい。

代金引換 ●右記の受注センターに上記の要領でお電話又はFAXでお申し込み下さい。

クレジットカード ●クレジットカードはweb上でのみ対応しております。

【記入例】
希望商品　個数
DVDビデオ.　1本
〒
住所
氏名
年齢
電話番号
合計金額　印
(送料追加の事)
(18歳未満の方のみ)
保護者の方の署名　印

◎お申し込みの商品は2週間前後でお届け致します。
◎お届けした商品は十分にご点検下さい。また、交換、返品のご連絡は、商品到着後8日以内までにお願いします。一度ご使用になった商品や、お客様の責任で汚れや傷が生じた商品の交換、返品は、お受けできません。返品の場合の商品の送料はお客様のご負担になります。

お申込先:〒261-0025 千葉県千葉市美浜区浜田2-19
(株)MPS「プロレスグッズ」係

受注センター **TEL.0120-599-556 FAX.03-3861-8004**
E-mail : mps@mb.infoweb.ne.jp
受付時間:TEL/月〜金AM9:00〜PM5:30 FAX/24時間

〈他にもプロレス関連ビデオ、お宝グッズ多数あり。ぜひアクセス下さい。〉
www.toreka.com/market/mps

谷津嘉章



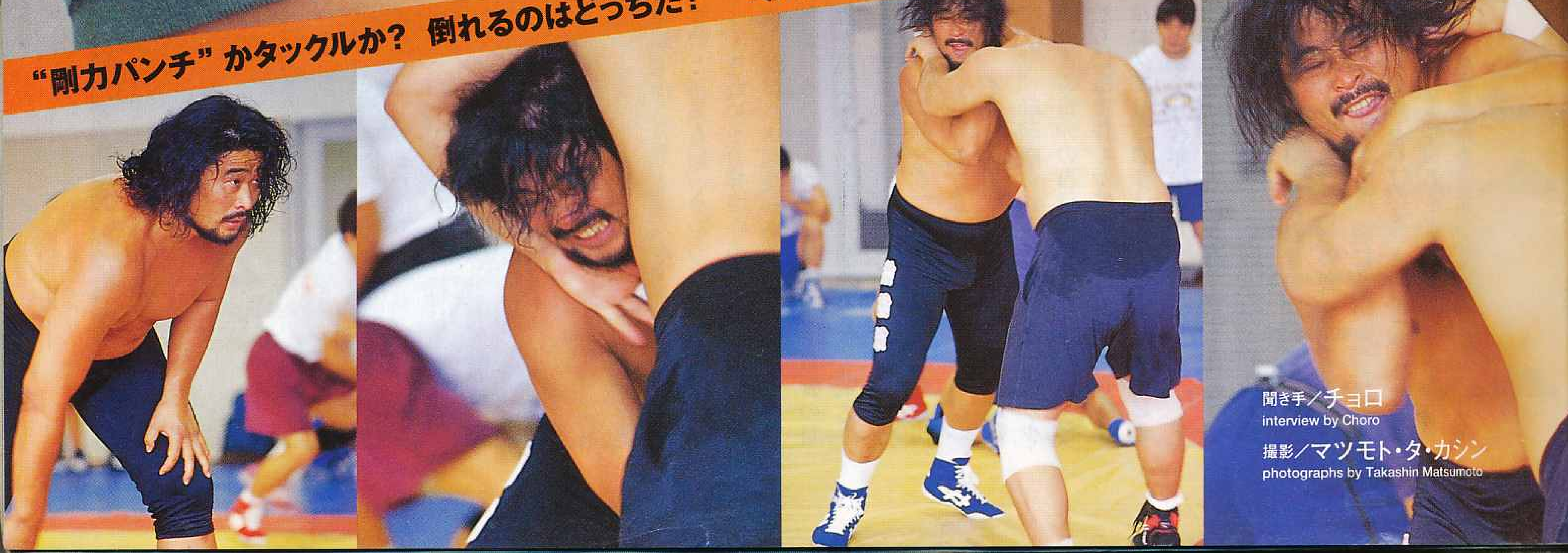
祈願！『PRIDE』でも目ぇつぶって30秒！

やっちゃってくれヤツ!!

10.31大阪城ホールで『PRIDE』の番人G・グッドリッジと激突！

"ミスター・レスリング" ヤツ、遅ればせながら『PRIDE』に出陣!!

"剛力パンチ" かタックルか？ 倒れるのはどっちだ？



聞き手／チョロ
interview by Choro

撮影／マツモト・タ・カシン
photographs by Takashin Matsumoto

『紙プロ』の御意見番として『PRIDE』から、古巣の新日本、レスリング部の後輩、三沢・川田まで、マット界を片っ端から一刀両断し、読者からの好評を博した人気連載『谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!!』。

その中でも盛んにレスリング、そしてタックルの重要性を必要以上に力説していた谷津は、レスリング時代には全日本選手権5連覇、そして日本不参加により幻となってしまったが、モスクワ五輪の代表としてメダル獲得間違いなしと言われたほどの文句なしの実力者である。

そんな谷津も気がつけば44歳。本人いわく「中年のジジイ」の『PRIDE』出陣が遂に決定したのだ。

取材時には対戦相手はまだ決まっていなかったが、その後、谷津にとっては大刀光の仇討ちの意味合いもある〝『PRIDE』の番人〟ゲーリー・グッドリッジとの対戦が正式に発表された。

すでに戦闘モードに入っている谷津は、この日は山梨学院大学で「シドニー五輪」レスリングのキューバ、日本代表の合同合宿に参加。五輪代表選手と激しいスパーリングを終えた後の谷津を直撃！　天才は忘れた頃にやってきた。オリャ！

——かつての盟友の長州力さんがヒクソン(・グレイシー)とやるんじゃないかって噂がありますけど、どうですかね？

谷津　あ？　新日本のリングでやれば別にいいじゃない。新日本でやったら長州力が勝つんじゃないの。なっ(笑)。

——長州さんのコンディションの良さを見ると、ヒクソン相手でもいけるんじゃないかって思うんですけど。

谷津　『PRIDE』だったらそういうわけにはいかないでしょ。大仁田(厚)とはワケが違うわけだからな(笑)。

——『PRIDE』で長州vs大仁田戦も見たいですけどね(笑)。ところで谷津さん、遂に『PRIDE』出陣ですね！　ちょっと遅かったかなとは思いますけど(笑)。

谷津　遅すぎるよなっ(笑)。だけど逆に言えば、いろんなルーツを辿っていくと、UWFとか藤原組とかそういう連中の礎の元に今は来てる感じがするんだよ。そういうブームを作った功績は確かにあるけど、今はもっとリアルになってるでしょ。

——まあ、そうですね。

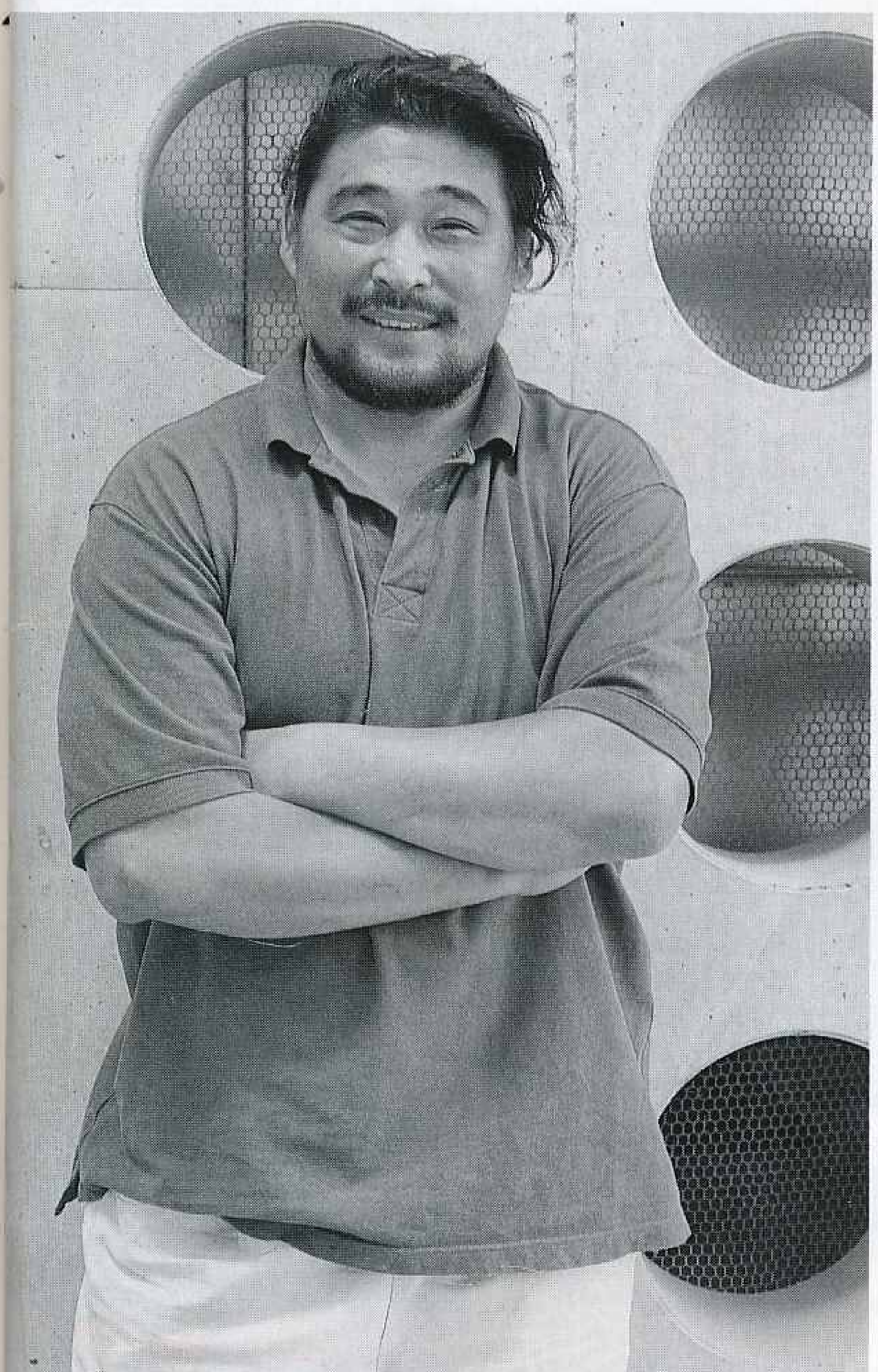
谷津　そういう意味では逆に出番がなくなっちゃった感じもあるけどなぁ。まあ、これからは「プロレス」と「総合格闘技＝リアルファイト」と「レスリング」の三本柱になってくると思うんだよな。

——三本柱ですか！

谷津　そう。欧米では完全に分かれてるでしょ。WWFにしてもこの線引きから総合格闘技には入ってこないでしょ。逆に総合格闘技で名を売ってプロレスの方に入ってくる奴はいるかもしれないけど、プロレスからはチョッカイ出さないよな。チョッカイ出しても結果を出せればいいけど、石澤(常光)みたくボカしちゃったらダメージを被るわけだろ。

——なんだかんだ言っても〝新日本幻想〟〝石澤幻想〟って大きいですからね。

谷津　石澤なんかは真面目に『PRIDE』を見過ぎちゃってさ、身体も絞りすぎたよな。腰が浮いちゃってたし、打撃の練習も充分にできなかったと思うんだよな。ただなっ、石澤の潜在能力が花開けばあんなもんじゃないぞ！　そういう意味では可哀想な部分もあるよな。



ファンの目を肥やさせないのは プロレス界、俺たちも戦犯だ！

——石澤さんには、ゼヒ「もう一丁！」って言ってほしいですね。

谷津　でも、まだ出るって言ってないでしょ。まあ、どういうふうに新日本プロレスが対応するか見物だよな。石澤も担ぎ出されちゃった部分もあるからな。

——本人の意志もあったでしょうけど、どちらかと言うと出されちゃったという気持ちの方が強いんでしょうかね？

谷津　出されちゃったんでしょ。試合前もずっと巡業も回ってやってたもんね。

——そういう谷津さんも『PRIDE』参戦を前に長い巡業があるじゃないですか？

谷津　そうなんだよ(笑)。まあ自分の目標を見失わないように頑張るしかないな。

——でも谷津さんは、今回の参戦によってさきほど言った三本柱の3つとも顔を出すことになりますよね。

谷津　それは藤田(和之)も石澤も同じでしょ。経験があって、ある意味では多少なりとも自分の自信もあるからそういうところに出て行くわけでしょ。逆に新日本プロレスでG1クライマックスのチャンピオンとか……今年は誰がなったの？

——今年は佐々木健介選手ですよ。

谷津　あっそう。じゃあ健介が『PRIDE』に出るか？

——今のところはないでしょうね(笑)。

谷津　そうだろ？　逆に藤田とか自信がある奴が出るわけだろ。そこでみんな名前を売ってまた戻ろうとしてるわけだよな。

——でも藤田さんは、いまはプロレスはあ

谷津嘉章

まりやる気はないって言ってますけどね。

谷津　いや、いずれ戻るでしょ。なぜかって言ったら、リアルファイトはいつまでもできないわけよ。44歳になってもやるか？

——まあ、アメリカとかではダン・スバーンとかいますけど、日本人では谷津さんぐらいでしょうね（笑）。

谷津　そんな無謀なことするのは俺ぐらいなもんだろ（笑）。まあでも最後はやっぱり原点に戻ってくると思うんだよ。そういう意味では、今までプロレスっていうのは50年以上、半世紀の歴史があるわけだよ。やっぱり世間一般の日本の常識ではアマチュアレスリングの方がプロの下だと見なされる訳だからな。

——そう見てる人がほとんどでしょうね。

谷津　自分は、84年にプロアマ問題の時に、必死になって練習してアマチュアの大会に出てプロアマの壁を突破したんだよ！

——「三十路の青春」という名言が飛び出した頃ですね（笑）。

谷津　そうそう。ちょうどジャパンプロレスを作ったばっかりの頃で、硬派な部分を見せたいばっかしにな（笑）。アマチュアレスリング協会のひとつのプロパガンダみたいなところもあるけど、逆に自分らの団体もプロパガンダであったわけだよな。

——プロパガンダですか。

谷津　その時期が一致して、結局、日本レスリング協会も解禁して「じゃあやろうじゃないか」と。それでお客さんが呼べるんじゃないかっていう思惑もあったわけだよ。ところが、あの当時は世界レスリング協会の方がダメだとペケにしちゃったわけだよなっ。今はそれもなくなっちゃってプロもアマもクソもないわけだよ。

——プロもアマもクソもないですか（笑）。

谷津　だから、例えばG1クライマックスのチャンピオンがレスリングの世界選手権に出てもいいわけだよ。

——健介さんが世界選手権にですか？

谷津　じゃあIWGPのチャンピオンでもいいよ（笑）。

——IWGPのチャンピオンも健介選手なんですけど（笑）。

谷津　あっそう（笑）。でもそうはなんないよな？

——なっては欲しいんですけどね（笑）。

谷津　じゃあ、キング・オブ・スポーツって何だって話だよなっ？

——スポーツの王様ですからね（笑）。

谷津　だから、ある意味ではエンターティンメントなわけでしょ、プロレスは。エンターテインメントの人間がこっちに来て、そういう意味では『PRIDE』だってひとつの小屋だからな。まだ歴史は浅いけどプロモーターのハウスなわけだから。

——『PRIDE』はひとつのハウスと。

谷津　いろんな格闘技をやってる連中が一同に介して『PRIDE』という"場"に集まるわけでしょ。そういう感覚でいけばプロレスは上だっていう感覚、そういうふうにコーディネートしてるってことはナンセンスだと思うわけ。

——『PRIDE』も、この間は日本人選手のほとんどがプロレスラーでしたよね。

谷津　俺なんかに言わせれば、それではいけないと思うんだよな。そういう意味で総合格闘技はまだ何か欠けてんだよね。まあ今年はオリンピックイヤーでもあるし、俺なんかは藤田とか石澤とかよりもレスリング協会に近いわけよ。だから、こういう所でも練習させてくれるわけでしょ？

——そうでしょうね。ということは、谷津さんが『PRIDE』に出るということは、プロレスだけじゃなくレスリング協会も背負ってる部分もあるわけですね。

谷津　それはあるよな。なんだったら『PRIDE』に現役のアマチュアレスラーが出てもいいじゃんかなぁ？

——バンバン出てほしいですね。

谷津　そういう部分を俺はレスリング協会に訴えてるわけよ。それがまたできるのも自分であってね。ある意味では現役のアマチュアレスラーが出て、すぐに勝てるとは思わないけどな。

——意外に現実的ですね（笑）。

谷津　そんな甘いもんじゃないからな。でも桜庭（和志）にしてもある程度、総合を研究してから出たわけだよ。ところが石澤は1ヶ月ぐらいしか練習してないんだよ。その差が今回の石澤の敗因だと思うんだけどな。桜庭だって1ヶ月やそこらでデビューさせられたらやられちゃうよ。

——やられちゃいますか（笑）。

谷津　ある意味では、それぐらいプロモーターは活性化させたいわけだよ。だから新しいもの新しいものって行くわけでしょ。

——そういう部分はありますよね。

谷津　そうだろ？　そういう意味で俺は言いたいんだけど、もっともっとファンにね、ミーハーな感覚じゃなくて格闘技ってものの見方をある程度勉強してもらって、目を肥やしてもらいたいんだよな。目を肥やさせないのは、ある意味ではプロレス界、そして俺たちも戦犯だ！

——谷津さんも戦犯ですか！

谷津　レスリング協会も「俺たちはいい

谷津嘉章『PRIDE』参戦決意表明会見



『PRIDE.10』の興奮冷めやらぬ8・31、東京都・文京区「椿山荘」でSPWFの谷津嘉章が、10・31大阪城ホールで行われる『PRIDE.11』に正式に参戦表明をした。

谷津は席上から「私はプロレスに入って20周年、SPWFも8年目を迎え、デスマッチをやったり、常になんかにチャレンジしないと自分の性格的に気が緩んでしまう感じがします。かねてからDSEからは2、3回打診がありましたが、若手の後継ということで選手諸君に多大な迷惑をかけるので、調整するうちに遅れて今になってしまいました（苦笑）。いろいろ悩みましたけど、44歳になり、どれぐらいの体力があるのか心配はありますけど、44歳の中年のジジイが、こういう形で挑戦することで、同世代に希望と期待を与える結果になればと思って参戦する次第となりました。急に決まったので練習はしてませんが、自分なりのペースで練習して、10月31日に向けてやらしてもらおうと思います。対戦相手はDSEにお任せします。誰でも構いません。まあできるなら、大刀光の借りを返したいという希望もありますけども、相手方の土俵ですから誰でも構わないです。自分にはいろんな経験がありますけど、自分の身体と44歳の体力を信じて頑張っていきたいと思います」と、かしこまり気味に挨拶した谷津（その後、いつものように威勢のよい谷津節が炸裂したが）。

更に今後、谷津側のDSEとの交渉はSPWFではなく「オフィス荒武者」（鈴木竜三郎代表）が担当する事が発表された。

や」って感覚になってるのもいるから、それもある意味では戦犯な部分があるよな。俺としては、オリンピックを目指しながら、そういうリアルファイトもやって、なおかつそれがウケて、その選手を支持するファンがレスリング協会に流れ込むような大会にできれば最高なんだけどな。

——プロが栄えればアマも栄えると。

谷津　そういうことだよ。それと同時に、（遠くを見つめ）例えばポルシェかなんかに乗ってきてレスリング協会の試合に出て、ファンから「サインして下さい」って言われるような光景が目に浮かぶわけよ。

——ポ、ポルシェですか！

谷津　まあポルシェでもフェラーリでもいいけどな（笑）。でも、そうしたいんだよ、俺は！　これまでみたいな暗～いイメージじゃなくてね。今は静かながらも、どこの団体でもレスリングが見直されてきてる部分があるでしょ。ある意味では、もうちょっとしっかり線引きをしてね、これはエンターティナー、これはリアルファイト、これはアマチュアレスリングというふうにしっかりと3つに分けたいよな。だからと言って、すぐにはそれはできないわけじゃん。

——すぐには無理でしょうね。

谷津　やっぱり『PRIDE』なんかもプロレス界の大御所を使って「ワァ～」って煽ってる部分があるでしょ。ある意味では『PRIDE』側も今はまだ客寄せパンダじゃないけど、そういうのも必要だわな。

——客寄せパンダは別として、谷津さんは「新日本でもガチンコの強い選手、藤田とかカシンとかがいるんだから『PRIDE』とかに出ればいいんだよ」って言ってましたけど、その通りになりましたよね。

谷津　そうだろ？　あと、これは長州さんに聞いてもらってもいいけど、自分がジャパンプロレスからアマレスに出た頃だよ。レスリング協会には重量級の選手が溢れてるから「選手に営業させながら、なおかつオリンピックに出して、その後にプロレスで育てましょうよ」って言ったんだよ。

——後の「闘魂クラブ」ですか？

谷津　そう。その第一号が馳（浩）なんだよ。そう言ってるうちに袂が分かれてしまったからな（笑）。そっくりそのまま長州さんが新日本に持ってっちゃったんだよ。

——そうだったんですか（笑）。それこそ、石澤さんとか藤田さんとか中西（学）さんがジャパンプロレスに入ってた可能性があったんですね。

谷津　そういうことだよ。あの連中はいきなりプロレスじゃなくて最初は事務員からだったわけ。なぜかっていったら、プロレスをやるとコンディションを壊しちゃうからだよ。だからレスリングをやりながら「俺たちはプロレスはやりません」って言ってたんだけど、結局はやっちゃったと。

——やっちゃいましたね（笑）。でも袂を分かつことがなかったら、ジャパンプロには上からマサ（斉藤）さん、長州さん、谷津さんに、下にもそういう選手が続けば最強のレスリング集団ができたでしょうね。

谷津　そういうはずだったんだけどな。でもそれが今となっては良かったかもしれない。高田（延彦）とか前田（日明）とか藤原（喜明）さんがリアルファイト系を作ったわけでしょ。さらに下の突き上げがあって「なんだよ、冗談じゃない」ってなって、はじき飛ばされたところがあるでしょ。レスリングでもリアルファイトでも強い奴がトップにならなきゃいけないんだよな。

——それはそうですよね。

谷津　プロレスの場合はもっと難しい部分があって、強さにプラスしてエンターティナーの部分も持ってなきゃいけないんだよ。あとはスター性もあるしな。ある意味ではアピールっていうか、そういうことがヘーキで言える時代にきちゃったわけだよな。

——極端な話、客を呼べる選手がトップとも言えますからね。

谷津　そういうことでしょ。だってインターネット上でも「アングル」って専門用語が出ちゃうんだもんよ（苦笑）。

——バンバン出てますからね（笑）。

谷津　今はもう隠そうとしたって隠しきれないでしょ。そういう時代に来ちゃってるからな。ある意味ではアメリカとかヨーロッパでは「俺たちはエンターティナーだ」って言い切ってる部分があるわけだよ。

——向こうの選手はバンバン言っちゃいますからね（笑）。

谷津　でも絶対に総合格闘技の領域には来ないわな。逆に言うとリアルファイトの人はギャランティーを求めてプロレスに来

アントニオ猪木が谷津嘉章を語った
俺が見てきたファイターの中ではアイツが一番強い！



『PRIDE』プロデューサーに就任したアントニオ猪木が9月4日、恒例の成田空港での離日会見を行った。猪木の口から『PRIDE』参戦が決まった谷津へ贈られた言葉とは？「（谷津選手が今度『PRIDE』に出場しますが？）面白いんじゃない？　そういう意味じゃ、俺が見てきたファイターの中ではアイツが一番強いからね。まあ本気でやればね。今は知らないよ。遊びまくってきた部分っていうのはね。パンチにどう対応するかは知らねえけど、タックルとかに関しては一番の実績と安定感を持ってるからね。まあ体力的な衰えもあるかもしれないけど、そういう欲が出てきたら、みんなひと花咲かせればいいんだよ。ンムフフフフ」。強いヤツを見せてくれ！

に聞いてもらってもいいけど、自分がジャ
があって、強さにプラスしてエンターティ
——バンバン出てますからね（笑）。
人はギャランティーを求めてプロレスに来

谷津嘉章

ちゃう場合があるわけじゃない？『PRIDE』とかもやっぱりプロレスラーを使わなくてもお客さんを呼べるぐらいのスターをもっと作らなくちゃいかんと思うよな。それがある意味では皮肉なことにプロレスラーでもある自分の使命じゃないかなって思ってるわけだよ。

——使命だらけだ（笑）。会見でも「今回の挑戦は、自分の格闘技界における宿命みたいなものだ」って言ってましたよね。

谷津　そう思いますよ。44歳になって普通そんなことはやんないでしょ？

——『PRIDE』最年長になりますからね。四十路の青春ですよ！（笑）。

谷津　バカ言ってんじゃないよ！（笑）。でも俺は「それで自己満足してる人間じゃねぇぞ」って思うわけよ！「バカヤロー、そんなことをやりやがって」ってレスリング関係者とか友達も言うんだよ。それが自分にとって一番グサッとくるよな（笑）。

——これはヘタな所は見せられないぞと。

谷津　ちゅうか、俺はそんな歳なのかなって思うよな。それと同時に「谷津は勇気があるよな」って意味も両方兼ね備えているわけだよ。

——それはプレッシャーでもありますよね（笑）。谷津さんは心情的にいくつぐらいのつもりなんですか？

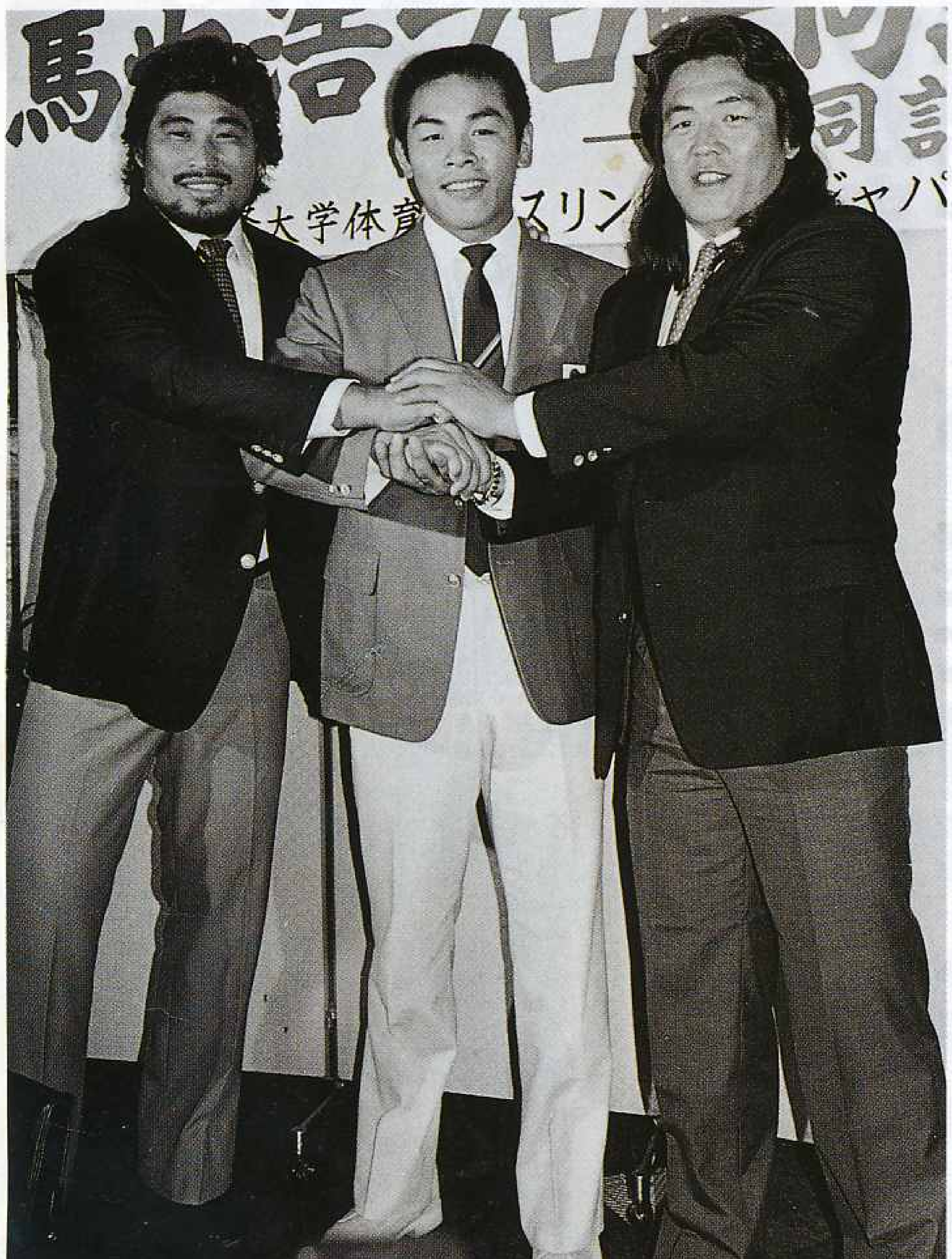
谷津　まだ35ぐらいじゃないの？

——35ですか！（笑）。

谷津　訂正！　やっぱり30歳未満だな（笑）。それぐらいがいいんじゃない？　まあ今は別に失うものなんか何にもないから。別に新日本に世話になってるわけでもないし、全日本に世話になってるわけでもないからな。逆に自分の失態は自分で尻拭いをすればいいわけだから。誰にも迷惑をかけてないでしょ（笑）。

——バーリ・トゥード（以下VT）にプロレスラーが出始めた頃は、負けたら自分の団体にとって、もの凄いリスクがあったと思うんですけど、今ぐらいまで成熟してくると、例え負けたとしても、いい試合をすれば評価されますからね。

谷津　だよな。そのぐらいの感覚に周りもファンもようやくなってきたんじゃないの？　ただ、俺なんかもやる限りは負ける気持ちなんか毛頭ないから。意地でも勝たせてもらうよ（キッパリ）。



ミュンヘン五輪代表の長州と、モスクワ五輪代表（日本不参加）の谷津、ロス五輪代表の馳。その上には東京五輪代表のマサ斎藤までいる。まさに一足早いリアル・ジャパニーズ・レスリングチームである。

やる限りは負ける気持ちなんか毛頭ないから。意地でも勝つぞ！

——初期の『PRIDE』では、谷津さんも「おかまのエッチみたいな試合が多い」って言ってましたけど、今はやってる選手の意識も上がって膠着とかも少なくなってきてますよね。

谷津　前に比べるとテンション上がってきてるもんな。でも、やっぱりルールでもね、アメリカなんかはVTをやれる場所が狭まってるでしょ。情操教育上よくないと。日本だけだよ、無法地帯になってるのは。ある意味では、現行のルールでは市民権を得られないと思うんだよな。あんなのはゴールデンじゃ放送できないでしょ。

——でも、今はやってますよ。

谷津　でも将来的にストップがかかると思うよ。会場で見てる人間はファンだからいいけど、テレビっていうのは、チャンネル合わせると嫌でも「えっ！　何これ？」って見ちゃうわけでしょ。青少年の育成のためにも、今こそしっかりしたルールを作らなきゃいけないと思うんだよ。また一方では修斗なんかにしても、あそこはみんな軽量級が多いでしょ。だから、修斗のように軽量級も重量級も出来るようなレスリングスタイル、柔道スタイルのような感じでね、階級別にカテゴリーを作っていってランキングを決めていったら面白いだろうな。

——谷津さんは、以前から修斗のことは評価してますよね。

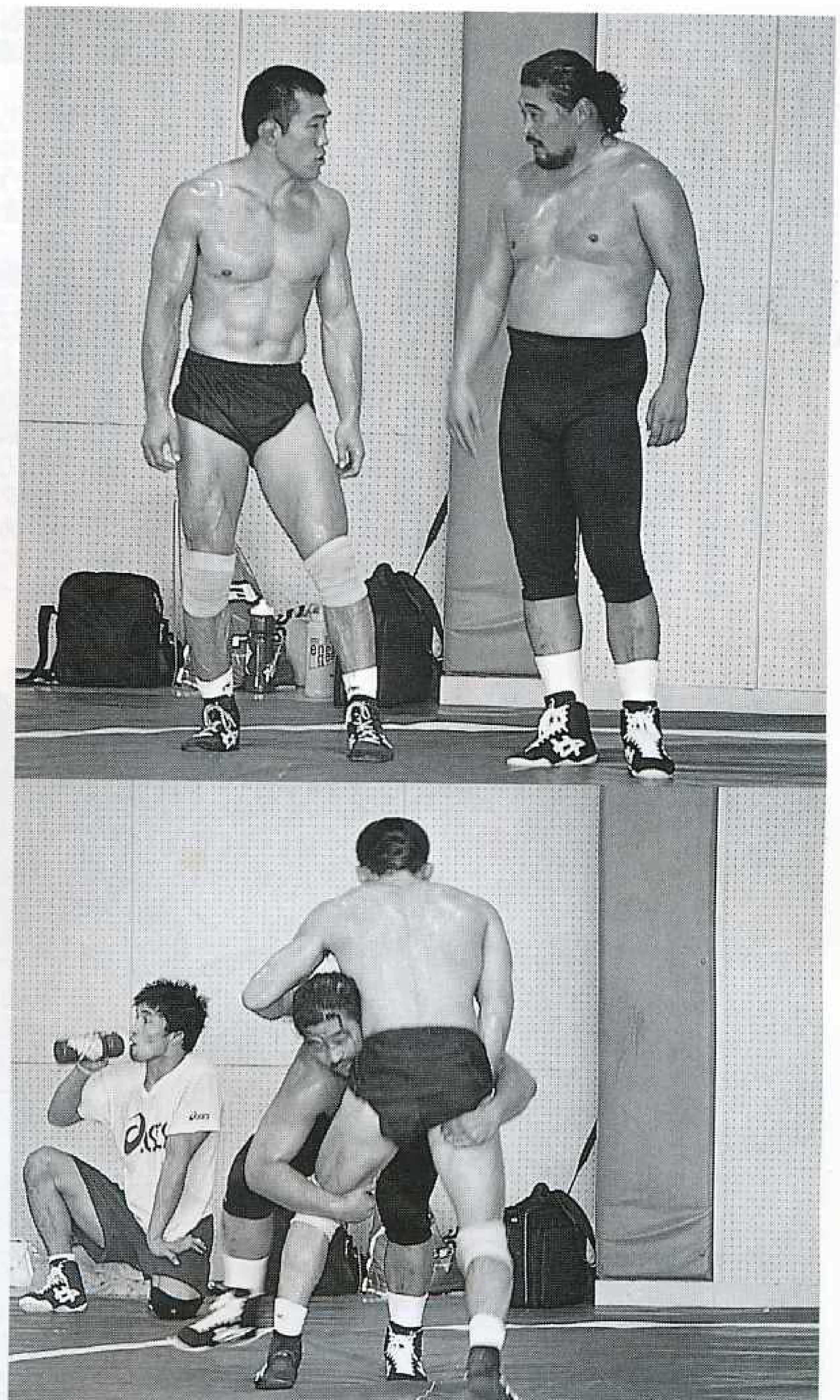
谷津　前も言ったと思うけど、修斗は『PRIDE』に比べて歴史があるでしょ。だから選手の技術にしても熟成してるし、もう完成に近いもんな。軽量級は技をいっぱい持ってるしね。

——谷津さんが『PRIDE』に続いて修斗に出たら、それは画期的ですけどね（笑）。ただ、K—1やボクシングもそうですけど、素人が見て分かりやすいのは、どうしてもヘビー級になっちゃいますよね。

谷津　だよな。重量級はどっちかと言うと何でも大ざっぱだもんな（笑）。

——谷津さんは以前、「マーク・ケアーみたいな選手が一番強いんじゃないか」って言ってましたけど、最近の総合格闘技界を見て、一番強いと思う選手は誰ですか？

谷津　今はわかんなくなってるよな。評論家としてはいくらでも言えたけど、今回は外野から一歩出ちゃったから（笑）。まあ



『ゴン格ボイス』でインタビューが掲載され一躍注目を浴びた、シドニー五輪レスリング85キロ級日本代表の川合達夫。現在、群馬で高校教師をしている川合選手と谷津は実家が4〜500mしか離れていない近所同士だという。二人のスパーリングも実現した。

中年のジジイをつかまえて「出てくれ」って言ってくるんだよ

打撃もレスリングも、しっかりバランスよくできる奴が一番強いんじゃない？

――今はトータル的な技術がないと通用しなくなって来てますよね。

谷津 そうなってきてるよな。ある意味では両翼が揃わないと厳しいんじゃないの。

――谷津さんは、正直言って打撃の部分では厳しいところがあるでしょうね。

谷津 あるよな。俺なんかはある意味では片翼の飛行機みたいなもんだからな。バランスが悪いのをどうやって騙すかだから。これはハンデだと思ってるよ（笑）。

――会見でも言ってましたけど、『PRIDE』からは2、3回オファーがあったみたいですね。『PRIDE』だけじゃなく他の総合格闘技の大会からも谷津さんには声が掛かってたみたいですけど。

谷津 中年のジジイをつかまえて「出てくれ」って言ってくるんだよ（笑）。

――谷津さんは、「総合格闘技の試合に出るにはそれ相応の準備期間がないと出れない」って前から言ってましたよね。

谷津 そりゃそうだよ。そういう意味では、俺は甘く見てないからね、絶っ対に！

――でも、いろんなところからオファーがあった中で『PRIDE』を選んだ理由は何だったんですか？

谷津 やっぱりね、（ブッカーの）川崎君が何度も来たし、川崎君は前にSWSにいたからな（笑）。そういう縁があったしね。でもギャラ的にはひっどいよ！

――ワァ〜オ！（笑）。

谷津 「こんなんで自分のプライドを売っちゃうの？」っていうのはあるよ。俺のプライドはそんなもんじゃないからな（笑）。

――インターネットとかでは「谷津はギャラが目当てで出場した」とかって失礼な書き込みもありましたけど、それは違うと？

谷津 そんなことはないよ、何を言ってんだと思うよ！（怒）。じゃあ、ぶっちゃけて言ってギャラは●★▲◆だぞ！

――えっ、●★▲◆なんですか！ でも谷津さん、それはぶっちゃけ過ぎです（笑）。

谷津 そんなもんで普通出るか？ それぐらいだったらプロレスで稼ぐぜ！ おちょくってるのかと思ったよ。だから絶対にサポーターがいないと出れないと思ったな。

――そのサポーターが「オフィス荒武者」ということなんですね。

谷津 そういうこと。銭の問題じゃないんだよ！ 俺にはビジョンがあるから出るんだって！ そうやって書いとけよ！

――わかりました（笑）。でも、谷津さんは以前から「男のロマンを一番追い続けているのは俺だ！」って言ってましたよね。

谷津 そう、その通り！ 例えば新日本プロレスにいたって結局みんなサラリーマンじゃんかよ。

――サラリーマンレスラーですか（笑）。

谷津 契約して月々いくらになるって感じでしょ。だから逆に言えば長州さんとかから見れば「谷津はバカじゃないか」って思ってると思うよ。そんなんじゃないんだって！ 俺はいつもロマンを追ってるし、今回はレスリング協会と他の団体の架け橋になるっていうビジョンがあるから出るんであってね。一個人だったら出ないよ、こんなギャラで！

――わかりました（笑）。会見では、「大刀光の仇討ちで（ゲーリー・）グッドリッジとやりたい」って言ってましたけど。

谷津 そうだね。グッドリッジも情報聞くと（マーク・）コールマンの所でお金を払って練習してるみたいだよな。だからといってね、1ヶ月か2ヶ月でレスリングなんか覚えられないよ！ それができたらみんなチャンピオンになっちゃうだろ。ある程度、ニュアンス的にタックルの切り方とかを教えてもらうぐらいだと思うけど、逆に言うとボクシングだってそれぐらいの期間じゃ覚えられないよ。

――実質、試合まで2ヶ月ないですから、ガードを固めるぐらいですかね。

谷津 ボクシングでの「心構え・その1」「イロハのイ」みたいなもんでさ（笑）。

――あしたのジョーみたいですね（笑）。

谷津 ボクシングでも1年やれば違ってくると思うけどな。まあ自分の体力と相談みたいなもんで。体力というか気力との相談で、体力と技術が向上してくれれば年齢は関係ないと思うんだよ。今回、一回限りじゃなくやってみたいけどな。

――ファンの間での"谷津幻想"はデカいですからね。ボコボコに殴られる姿だけは見たくないんですけど（笑）。

谷津 だけど殴られることも仕方ないんじゃないの？ まあ殴られることはそれだけ実力がないってことだしな。

――ボコボコになるのも覚悟してると？

谷津 だって相手だって必死だからさ、向こうだってハンデを持ってプレッシャーがあるわけでしょ。それは五分だよ。みんなある意味では怖いと思うよ。『PRIDE』に出てる連中見ると、みんな武者震いして頭がおかしいのばっかりだもんなっ（笑）。

――まあ、多少おかしくないとできない部分もあるでしょうからね（笑）。

谷津 俺みたいな常識人は難しいだろうな

格闘ロマン OLYMPIA 2000

谷津嘉章

（笑）。まあ一発目は、大刀光の仇討ちって意味もあるし、グッドリッジがいいよな。「SPWFっていう名前がこのままじゃまずいから名誉回復させてくれ」って。「ギャラも高くないんだからそれぐらい言っていいでしょ」って言ったんだよ（笑）。

――それぐらい発言権はほしいですね。

谷津　まあ「次からは誰でもいいですよ」って言ったけどな。俺もハンデを克服してやってるわけだから、それぐらい言う権利はあると思うんだよ。

――そういえば、大刀光さんは「猪木さんは相撲取りが嫌いだから、俺はもう『PRIDE』で出番はないんじゃない」ってボヤいてましたね（笑）。

谷津　大刀光はその程度のもんでしょ。練習もしてないしな。それにアイツはプロレス業界の裏がわかってないから（苦笑）。

――わかってませんか（笑）。

谷津　わかってねえよ。俺なんかは猪木さんは備え付けのアクセサリーだと思ってるから（笑）。

――アクセサリーですか（笑）。それでも猪木さんが出てきただけで場内の歓声は凄かったですよね。

谷津　逆にそういう部分が、俺は『PRIDE』がまだ未完成の部分だと思ってるんだよ。だってよぉ、猪木さんが「ダーッ！」やった時に「え〜」って顔した奴も多かったもんな（笑）。「お呼びじゃないんじゃない」って奴もいたからな。あとは小川（直也）もどんどん外に出て行ってやらなくちゃダメだよ。もう、そこまで追いつめられちゃってるよな。

――佐竹戦の可能性も出てきましたけど。

谷津　小川もセコンドについて、佐竹（雅昭）なんかと「わ〜わ〜」やってないでドンドン試合すればいいんだよ。

――確かに試合はしてほしいですけどね。

谷津　そうだろ。小川は（イゴール・）ボブチャンチンとかマーク・ケアーなんかとやったらいいんだよ。

――それだけの力を持ってますからね。

谷津　だから「なんで佐竹なの？」って思うんだけどな。俺なんかも小川だったらやってもいいよ（キッパリ）。

――谷津対小川戦ですか！　それは見たい……ような見たくないような（笑）。それと今度の「PRIDE・11」では高田（延彦）さんの復帰戦もありますよね。高田さんに対しては谷津さんもいろいろ言ってましたけど。

谷津　でも、やっぱり高田と俺では格闘技の基礎が違うでしょ。

――やるんだったら自信はあると。

谷津　まあやらせてくれるんだったらやりたいわな。でも誰だっていいんだよ、自分は。なんていうかな、ひとつの、まな板の上の鯉みたいなもんだからな（笑）。

――好きに料理してくれと（笑）。

谷津　（可愛らしく）「好きにしてぇ」と（笑）。まあ難しいことは言いっこなしだけど、『PRIDE』は新しいジャンルになりつつあるわけでしょ。21世紀の格闘技の担い手になりそうな勢いだし、ある意味では〝新プロレス〟と言えるよな。

――『紙プロ』でも『PRIDE』はそういう捉え方をしてるんですよ。

谷津　新プロイズベストだよ！（笑）。

――うまいっ！（笑）。でも『PRIDE』と比べて、いわゆる〝純プロレス〟の方はちょっと元気がないんですけど、これからどうなっていくんでしょうか？

谷津　ハッキリ言ってプロレスはアメリカと同じようにエンターテインメントになるしかないと思うよ。WWFだってWCWもあれだけ隆盛を極めてやってるわけだからさ。それをファンもわかってきてるじゃん。

――そうは言っても、金銭的なモノも大きいとは思いますけど、日本ではWWFのように完全なエンターテインメントまでは針を振りきれてないですよね。

谷津　そういう意味ではプロレス界はエンターテインメントしかないって気づかせるのも俺の役目でもあるんだよ（笑）。現役でやってるわけだからな。

――大変だぁ（笑）。ノアの秋山（準）選手は最近レスリングの重要性を、よく口にしてますし、格闘技的なものを取り入れたりしてやっていこうとしてますよね。

谷津　ネックロックとか使ってるもんな。だったら秋山が『PRIDE』に出ればいいじゃんかなぁ？

――秋山さんもそうですけど、ノアにはレスリング界の大物の本田多聞選手もいますからね。

谷津　多聞はダメだな（あっさり）。多聞はヒザが悪いから。

――あ、そうか。DSEの森下社長は、ノアや全日本にも招待状を送ったりしてますけど、やっぱり『PRIDE』のリングで闘ったら、後輩の三沢さんや川田さんは

久々の谷津インタビューということもあり、緊張気味で取材場所へ向かうと、開口一番「お前、ハゲたよなぁ」と口撃してきた。ボクはショックを受けながらも、谷津親分の元気さを見て一安心。これも谷津なりのダンディズムなのだろう。『ＰＲＩＤＥ』もゴー＆オリャ！



俺なんかも小川直也だったらやってもいいよ（キッパリ）

谷津嘉章

別に仲野に言われたからやるわけじゃないぞ！（笑）

「目えつぶって30秒」ですか？

谷津 まあプライベートで話す時は先輩、後輩になると思うけど、やっぱり今は社会的な尾ひれ、はひれが付いてくるでしょ。それについて「おい！」とか言いたくないし、向こうも言ってもらいたくないと思うからな。だから三沢なんかも、アイツは後輩といってもプロレス界を引っ張って行ってるような人間なんだから。「おい三沢ーッ」なんて言えないよな（笑）。

——三沢さんは、谷津さんに対して「アマレスでも強かったかどうかよく分からない人ですね。相手もいなかったというのがあるけど」って言ってたみたいですよ（笑）。

谷津 いますぐ三沢をここに連れて来い！

——いますぐは無理です（笑）。

谷津 まあそれは、三沢の社会的なスタンスがあるからそうなっちゃうわけだよな。三沢をここに呼んで来たらそんなことを言えないでしょ（笑）。だから、1対1ならそうなるけど、社会的にアイツもアイツなりの意地があるわけでしょ。それを頭ごなしに言うとそうなっちゃうわけだよ。

——そういえば仲野信市さんも、谷津さんに対していろいろと言ってましたね（笑）。

谷津 アイツはいろいろ言ってるよ（苦笑）。いろいろあったからしょうがないな。

——しょうがないですか（笑）。仲野さんは「谷津嘉章も高田のことをいろいろ言ってるけど、VTをやる気がないくせにそういうことを言っちゃいけない」って言ってましたけど、まあ結局、やることになりましたからね。

谷津 やるときゃやるんだって！ 俺は子供じゃないから、いろんな事を考えてるんだからなっ。一個人だったら俺はいつだってやるけど、意味がなければやってもしょうがないでしょ。だから時期が来たからやっただけであってさ。別に仲野に言われたからやるわけじゃないよ！（笑）。

——それだけはハッキリさせたいと（笑）。

谷津 そうだよ（笑）。そんな簡単なものじゃないでしょ。勘違いしちゃいけないよ。まあ、いろいろあっていいんじゃない？ 生きてればいろんなことがあるわな（笑）。

——会見で、今度の試合は「恋愛のプロセスみたいなものだ」って言ってましたが、やっぱり不安もあるんでしょうけど、楽しみな部分も多いんじゃないですか？

谷津 ホントそうだよ。ある意味では、いけるっていう自信もあるけど、一方ではドキドキする部分もあるわなっ（笑）。

——ヒャハハハ！ それは素敵な例えですね（笑）。

谷津 いろいろと駆け引きも大事だし、恋愛に似てるところはあると思うよ（笑）。

——ゼヒともその恋愛は成就して欲しいですね（笑）。

谷津 お祈りしたりしてな（笑）。（突然）でもよぉ、『PRIDE』に出てる連中は、みんな目がイッちゃってるよなっ！

——ハイアン・グレイシーとかも凄い目してましたよね。

谷津 絶対なんかやってるだろっ（笑）。

——どうなんですかね（笑）。でもハイアンに監獄固めをかける谷津さんとか見たいですけどね（笑）。

谷津 ガハハハ！ アイツは相当悪いらしいからな（笑）。

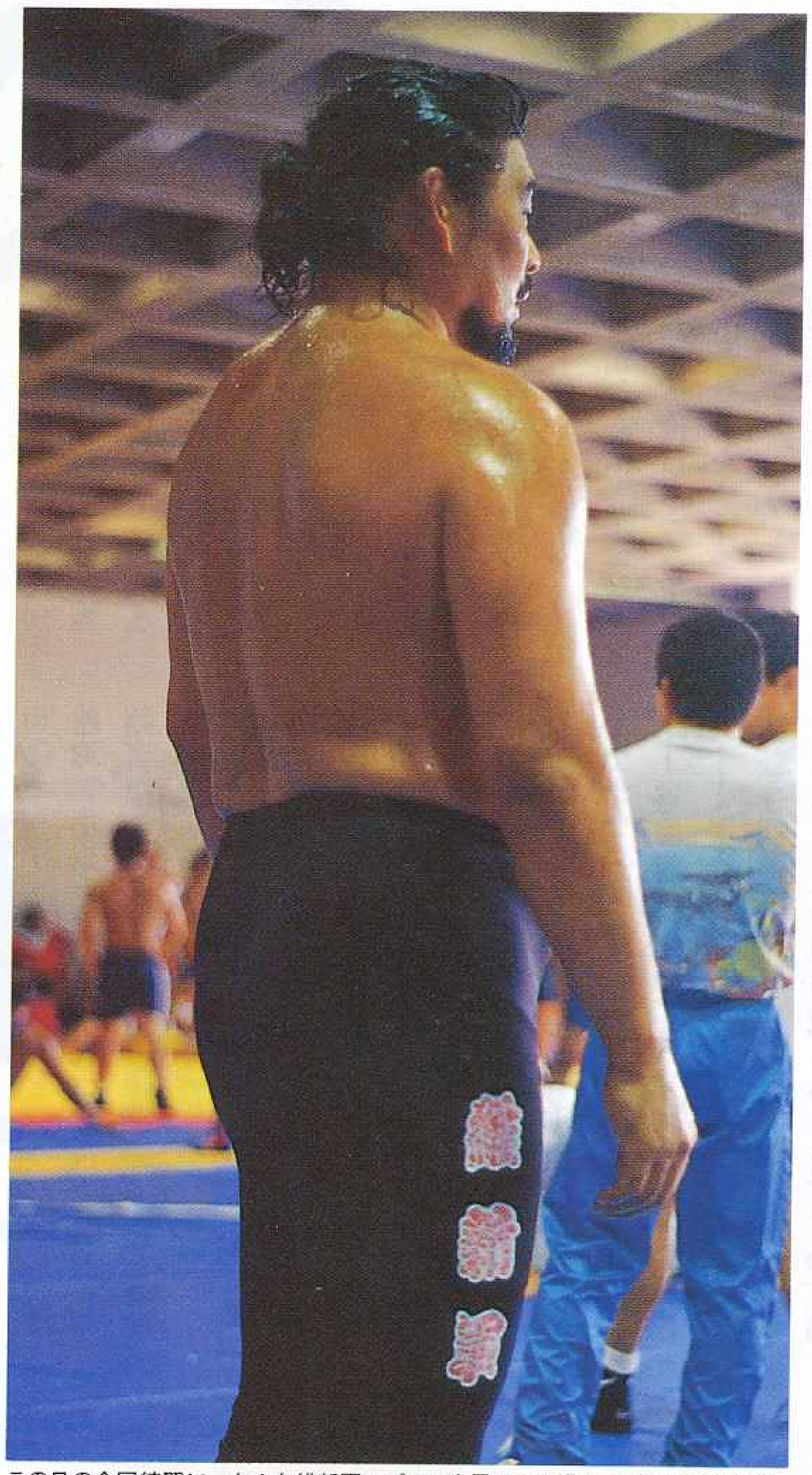
——まあ今は、手堅い判定狙いはブーイングが出ますから、そういう意味でも谷津さんには期待してますよ！

谷津 んなこと言ったってやる方は必死だよ！（笑）。期待されてもそこまで考える余裕なんかな〜い、俺は！

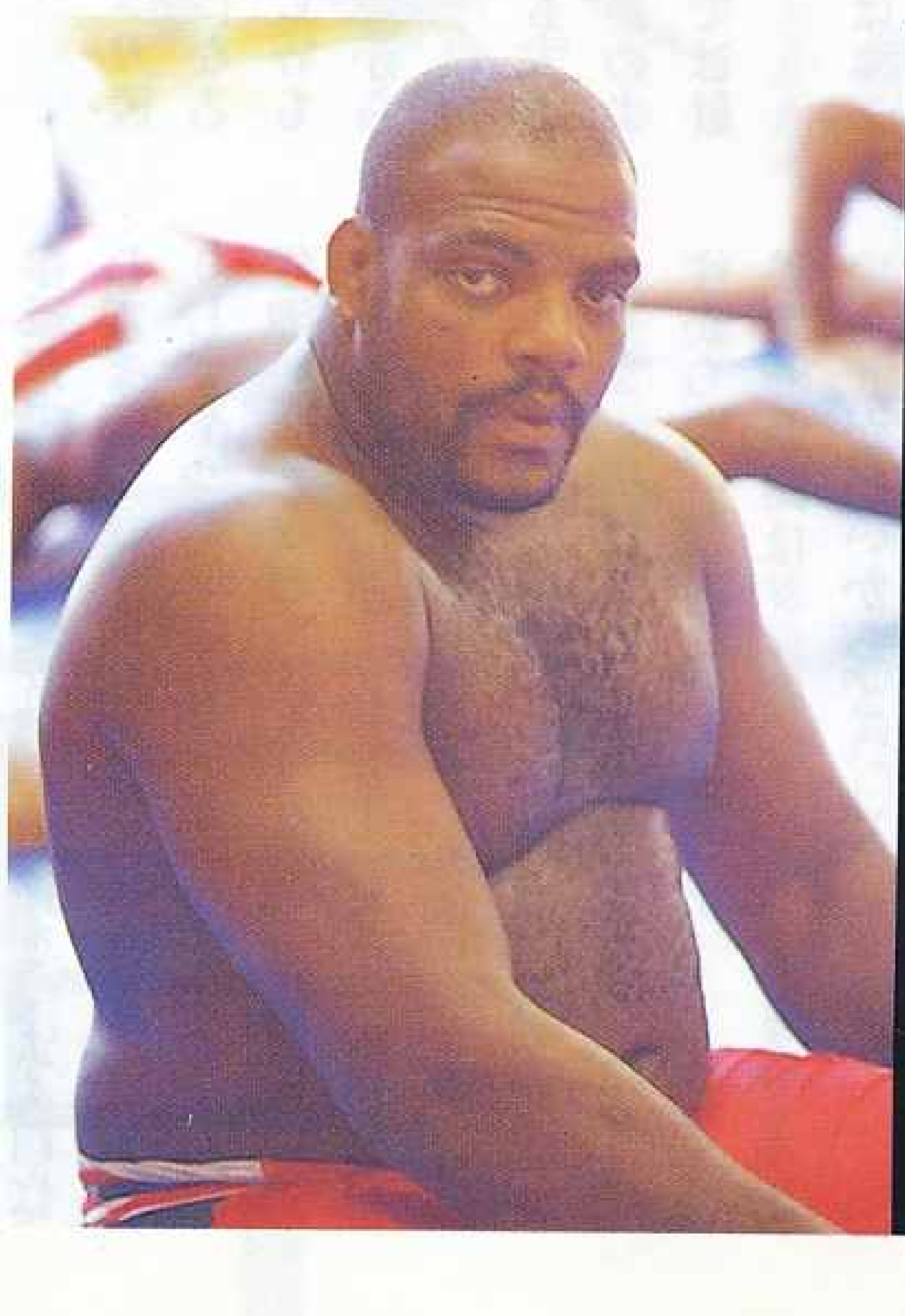
——いやいや、谷津さんはキャリアも実績もルッキンも十分なんですから、大阪城で大暴れして下さい（笑）。

谷津 「ガオ〜ッ」ってか（笑）。まあでも出るからには負けられないからなっ。俺なりのプライドをお見せしますよ！

【00年9月4日／山梨学院大学にて収録】



この日の合同練習に、なんと維新軍スパッツを履いて登場した我らが谷津親分。『PRIDE.11』でのG・グッドリッジ戦まで約1ヶ月。レスリングスピリット溢れる維新魂の爆発に期待したい！ 頼むぞっ、オリャ！ オリャ！ オリャ！

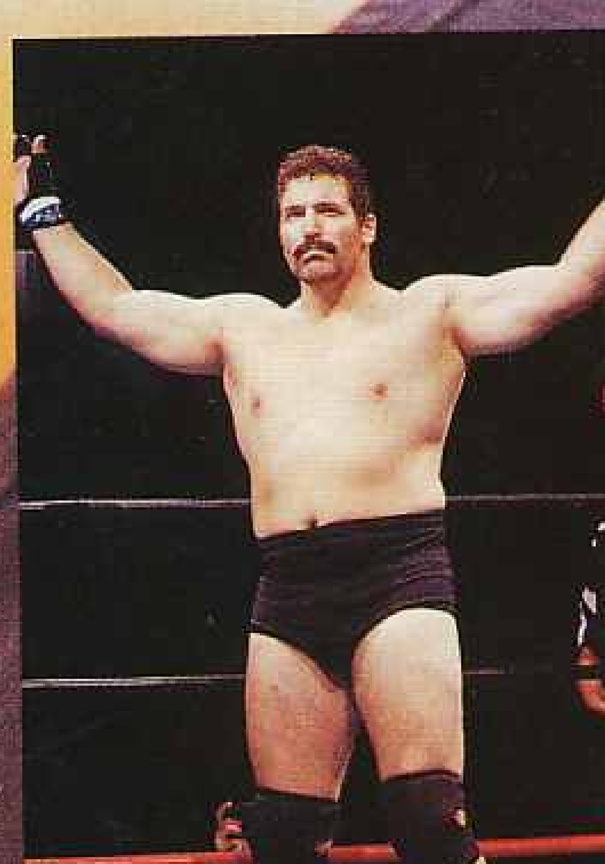


カレリンのライバル『PRIDE』参戦か!?

左のナイスルッキンの選手が、キューバ・レスリング五輪130キロ級代表のエクトル・ミリアン（32歳）である。9月6日付けの『東スポ』の裏一面に「カレリンに勝てる男“プロレス入り激望”新日・全日争奪戦に発展」とデカデカと書かれた記事を見た読者も多いだろう。ミリアンはキューバ生まれで身長186センチ、体重135キロの超ヘビー級戦士でバルセロナ五輪グレコローマン100キロ級では金メダルを獲得。さらに昨年ギリシャのアテネで行われた世界選手権、グレコローマン130キロ級では、あの“地球の番長”アレキサンダー・カレリンと対戦。カレリン相手に真っ向勝負を挑んだミリアンだったが両者とも譲らずポイント差なしで判定となった。しかし、カレリンの世界的な知名度が有利に働き、最終的には3-0の判定負けとなった。

さて、今年のシドニー五輪でカレリンの前人未到の五輪4連覇をミリアンは阻止することができるか？ それとも新たな英雄が誕生するのか？ 何はともあれ注目！ 新日でも全日でも『PRIDE』でも世界のプロレスでもノー問題！ リアル・キューバン・アサシンの日本マット登場に期待したい。なっ？





もう一つの『レスリング・ウィズ・シャドウズ』

プロレスリングとは“物語”を作りだすことなんだ

Dan "The Beast" Severn

wrestling life is beautiful

ダン・スバーン
インタビュー

遂に日本にも押し寄せてきたプロレス情報公開の波。映画『レスリング・ウィズ・シャドウズ』では、WWFの内幕が克明に映し出されていたが、果たしてこれはWWF内だけでの出来事なのか。それを確かめるために“世界一振り幅の広いレスラー”ダン・スバーンに直撃してみた。するとスバーンは「デリケートな問題だ」と前置きした上で、自らが経験したUインター、UFC、WWFの真実について静かに語り始めた。

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie

撮影／森鷹博
photographs by Takahiro Mori

撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

—今日はスバーン選手には聞きたい話が山ほどあるんですよ。ですから少し長くなりますけれど、よろしくお願いします。

スバーン OK。でも、私の（アマから数えた）レスリング・キャリアは30年にも及ぶから、一晩や二晩で語り尽くせるものではないよ（笑）。

—そこまで長くならなくても結構です（笑）。では、そもそもアマチュア・レスリングのトップ選手だったスバーン選手がプロレスラーになろうとしたきっかけは何なんですか？

スバーン 私はもともと子供の頃、プロレスファンだったんだよ。その頃は、土曜の夜に『ビッグタイム・レスリング』の試合が放送されていたので、ボボ・ブラジルやザ・シークらの試合を毎週テレビの前でかじり付いて見たものさ。

—最初に見たプロレスがザ・シークとボボ・ブラジルというのは衝撃的ですね（笑）。その頃は自分が将来プロレスラーになることとかは考えていたんですか？

スバーン NO。夢にも思わなかったよ。子供の私がまさかザ・シークと闘うなんて考えられるはずがないだろう？（笑）。

—まぁ、そりゃそうですよね（笑）。

スバーン それにその頃、兄弟でよくプロレスごっこをして家の家具を壊したりしていたから、両親は子供たちにプロレスを見せたがらなかったしね（笑）。

—それなのにどうして大人になってからプロレスをやろうと思ったんですか？

スバーン 私は大学を卒業した後、現役のアマチュア・レスラーであると同時に、アリゾナ州立大学とミシガン州立大学でレスリングのコーチをしていたんだ。そこでの出会いが私の人生を大きく変えたのさ。

—誰と出会ったんですか？

スバーン ミシガン州立大学の学長だよ。彼は元プロレスラーだったんだ。

—大学の学長が元プロレスラーですか！　名前は何というんですか？

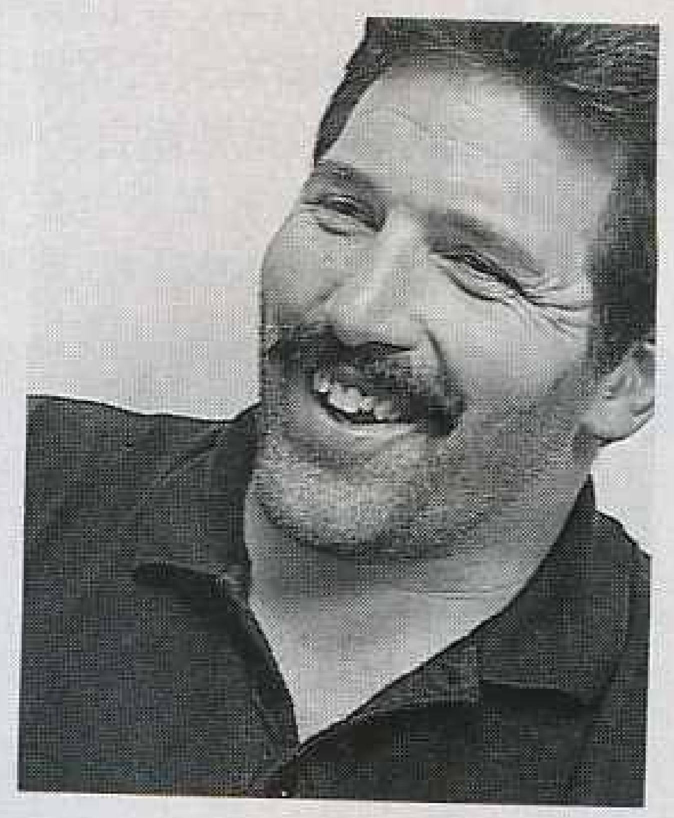
スバーン 名前はダニー・キャス。ミシガン、インディアナ、オハイオなどの小さなインディペンデント団体だけで試合をしていたレスラーだから、日本で知っている人はまずいないだろうけどね。彼は私にプロレスリングについての話をたくさんしてくれたんだ。そうして彼の話を聞いているうちに「私もプロレスができるんじゃないか」と思い始めたんだよ。

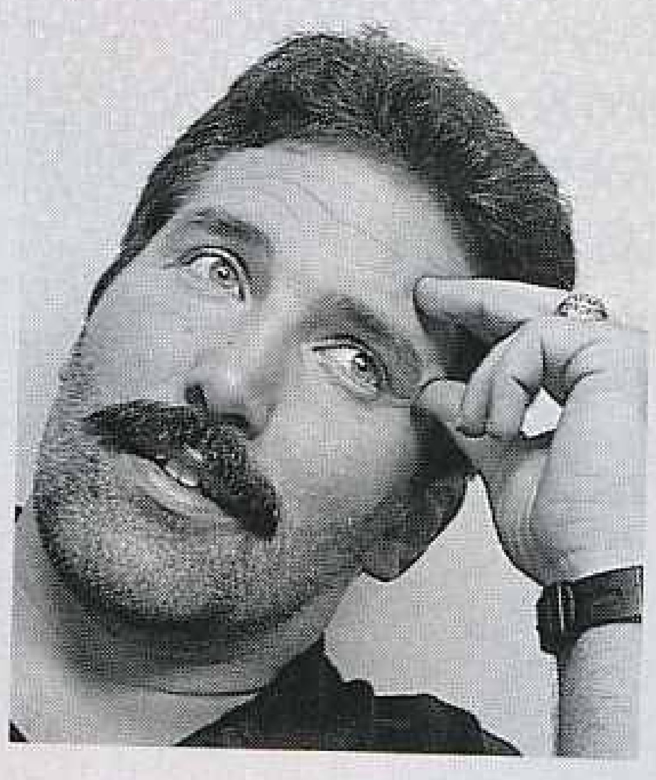
—そこでプロレス転向を決意したんですか？

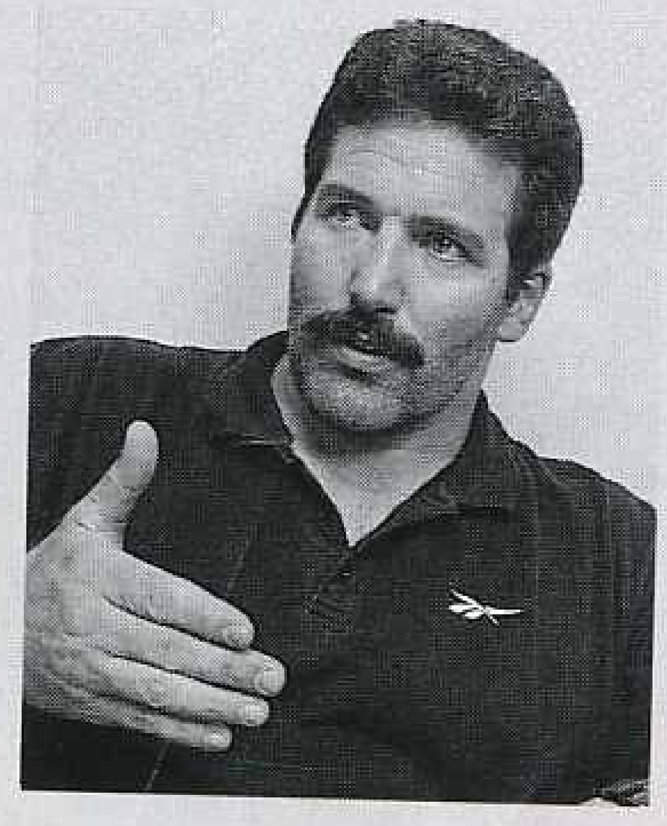
スバーン いや、その時点ではまだプロレスラーになるつもりはなかったんだよ。その学長と出会ったのは80年代の半ばぐらいだったんだが、実はその時点から私はいくつか団体から「プロレスラーにならないか？」という誘いを受けていたんだ。でも、私はオリンピックを目指していたから、プロレスラーになることでアマチュアの身分を失いたくなかった。

—確かに当時はプロのオリンピック参加は認められてませんでしたもんね。

スバーン そう。ところが92年にオリンピック委員会がプロにもアマへの門戸を開いたので私もようやくプロレスラーになる決心がついたんだよ。







—スバーン選手が34歳という遅いデビューになったのは、そういう理由があったんですね。では、プロレス入りに際してプロレスリングのムーブは誰に習ったんですか？

スバーン 私の最初の先生はアル・スノーだよ。

—え!?　あの"ヘッド"ですか？

スバーン そう、マネキンの頭をリングに持ち込んでECWやWWFでブレイクした、あのアル・スノーだよ（笑）。

—それは意外ですねぇ。グレコローマンをベースにしたオーソドックスなスバーン選手のスタイルとは全然違うじゃないですか。

私は子供の頃、ザ・シークやボボ・ブラジルの試合を夢中になって見たものだよ

スバーン いや、彼はああ見えても数え切れないほどのタイトルを獲得した優秀なアマチュア・レスラーだったんだよ。しかもレスリング・スクールを主宰し自ら興行のプロモートもしていたんで、私は自然な形でプロ・スタイルを学ぶことができたんだ。

—アル・スノーは同じアマからの転向組だったから学びやすかったんですね。

スバーン そのあと私はサーキットをしながら、先輩レスラーの試合を見て、そして直接質問してプロレスリングを勉強していったんだ。現役レスラーだけでなく、ルー・テーズ、ダニー・ホッジ、ブルーノ・サンマルチノ、ビル・ロビンソンら多くの偉大な先人たちにも積極的に話を聞きに行ったよ。

—先輩レスラーたちはどんなことを話してくれましたか？

スバーン プロレスリングについての全てのことだよ。プロレスリングには技術書もマニュアルもないんだ。レスラーからレスラーへ語り継がれ、技術を受け継いでいくものなんだよ。だから私は彼らから話を聞き、自分の目で見て、それをノートしていった。いまやそれは膨大なファイルになっているよ。

—そういうオールド・タイマーから聞いた話で、強く印象に残っている言葉はありますか？

スバーン そうだな……ディック・マードックの言葉をよく覚えているよ。

—ディック・マードックですか！

スバーン 彼は私にプロレスリングは「レス・ミーンズ・モア」だと教えてくれたんだ。

—どういう意味ですか？

スバーン 「"より少し"が意味するものは、"より多い"ということ」さ。つまり今のレスラーはとにかく技をたくさん出すだろ？　でも、本当は質のいい技をひとつ出した方が、たくさんの技に勝るんだよ。

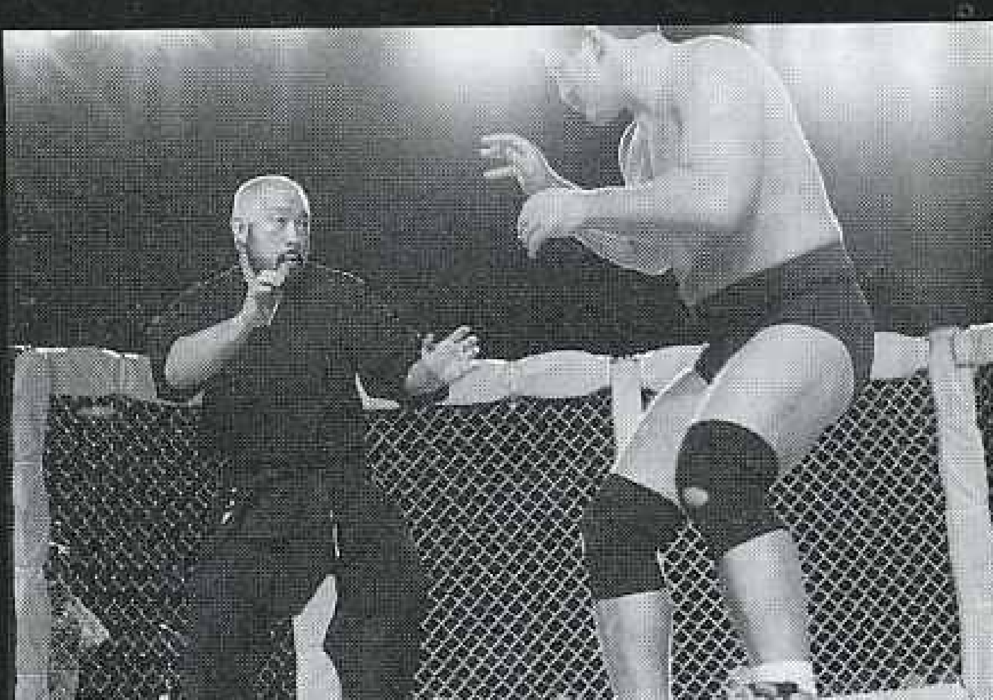
—確かにマードックは技らしい技といえば、ブレーンバスター、カーフブランディング、ドリル・ア・ホール・パイルドライバーぐらいですもんね。

スバーン そう、だからこそ彼のブレーン

History of Dan Severn



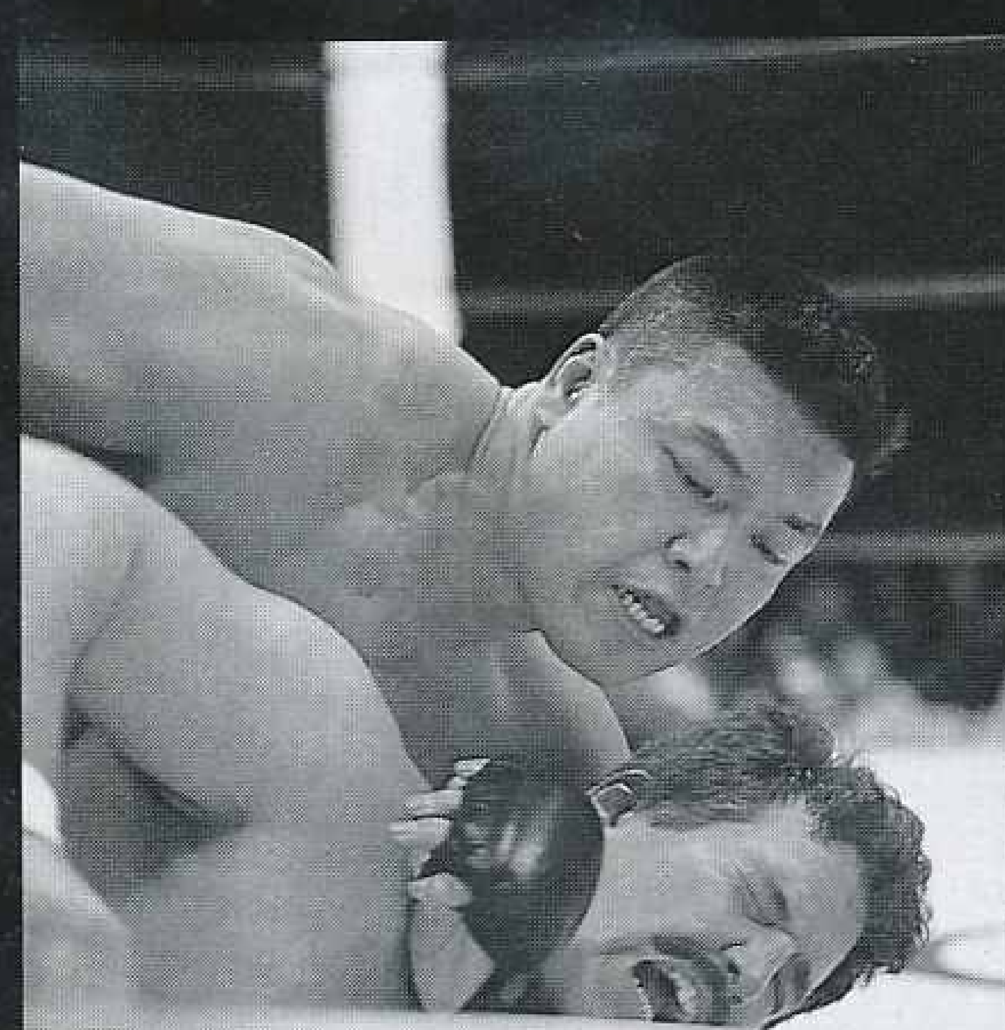
【98・8・21ＩＷＡジャパン／川崎球場／vsターザン後藤】ＮＷＡとＵＦＣの２冠王となり商品価値が一気に高騰したスバーンをどこが呼ぶかが注目されたが、なんとＩＷＡ伝説の川崎球場大会に登場。ターザン後藤とＮＷＡ世界戦を行った。



【96・11・17Ｕ－ＪＡＰＡＮ／有明コロシアム／vs松永光弘】アルティメット王スバーンが日本で始めてオクタゴンで闘うことで注目されたこの大会。“ミスター・デンジャー”松永は有刺鉄線バットを持参したが、試合はスバーンの圧勝。



【97・10・11『ＰＲＩＤＥ・１』／東京ドーム／vsキモ】記念すべき『ＰＲＩＤＥ』第１弾。スバーンはそのセミに登場。しかし、キモと見せ場がないまま30分時間切れドローに終わってしまい　株を大いに下げてしまった。



【99・３・14ＵＦＯ／横浜アリーナ／vs小川直也】この２ヶ月前、破壊王を相手に“１・４事変’を起こしたオーちゃんとＮＷＡ王座を掛けて対戦。しかし勢いに乗るオーちゃんに虎の子のベルト（とテーマ曲）を奪われてしまった。ちなみに今回のインタビューで小川の印象を聞くと、一言「オガワ・イズ・グッド・ジュードープレイヤー」と言ってニヤリと笑った。

Dan "The Beast" Severn

wrestling life is beautiful

バスターはフィニッシュ・ホールドとしてのクオリティを長年保つことができたんだよ。彼にはもっといろんなことを教えてもらいたかったんだが、4年前にシンガポール、マレーシアに遠征に行って、アメリカに帰ってきたあとすぐに死んでしまった。残念だよ。

――では、いままで一番影響を受けたレスラーは誰ですか？

スバーン　う〜ん、一人を選ぶのは非常に難しいね。まず、最初に影響を受けたのは、初めてプロレスリングを習ったアル・スノーだし、それから自分がプロレスラーとしてサーキットしていくなかで、多くのレスラーと出会い、彼らの試合を見て、話を聞いて私自身のプロレスラー像が形成されたと思っている。それに私が幸運だったのは、出会った多くのプロレスラー、例えばテリー・ファンク、ドリー・ファンクJr.、バッドニュース・アレン、“スーパーフライ”ジミー・スヌーカ、グレック・バレンタイン……彼らはみんな本物のレスリングが出来る選手たちなんだよ。だから私は本物のプロレスリングを学ぶことができた。最近のレスラーたちはコスチュームやミュージックにばかり凝って、肝心のレスリングが忘れられている。その原因のひとつは私はいまの若いレスラーたちは、よきレジェンドたちとの出会いがなかったからだと思うね。それは実に可哀想なことだよ。

――スバーン選手がプロレスを教えてもらったという選手は、みんなプロレスリングというビジネスに誇りを持っている選手ばかりなんですけど、スバーン選手も彼らと同じように、誇りを持ってますか？

スバーン　もちろん持っているよ。その証拠に私はリングネームではなく、本名を使っているんだ。だからリング上の私が、そのままリングを降りたときの自分の信用に直結するんだよ。つまり私は24時間「ダン・スバーン」なんだ。そして私はプロレスリングに誇りを持っているからこそ、テクニックにこだわりたいんだ。オールドレスラーを尊敬し、私も彼らと同じレスラーだというのは、一番大切にしていることがレスリングのテクニックだということなんだ。いまの若いレスラーはテクニック以外の全てのことはこだわるのに、テクニックにこだわらない。だから私のプロレスリングは「時代がスリップしている」と言われることがよくあるんだが、私はそちらにこだわりたいんだよ。

私の生涯のベストマッチはドリー・ファンク・Jr.戦とスティーブン・リーガル戦だよ

――でも、いまの時代ではそういうこだわりはなかなか受け入れられませんよね。

スバーン　いや、そんなことはないよ。例えば私はドリー・ファンク・Jr.との試合とスティーブン・リーガルとの試合が生涯で最も印象に残る試合なんだ。ドリーとの試合は30分、スティーブン・リーガルとの試合は35分間闘った。そしてどちらの試合もテクニックの応酬だったんだよ。私がこう攻めれば、彼がこう返す。彼がこう攻めれば、私はこう返すといったように、プロレスリングの理想的な試合が出来たと思うよ。そして試合が終わったあと、観客がみんなスタンディング・オベーションで褒め称えてくれた。これがプロレスリングさ。

――なるほど。確かにそれがプロレスラー福利に尽きる瞬間なんでしょうね。ではスバーン選手は92年からＵＷＦインターに参加しますが、それはやはり「オールド・スタイルのプロレスリングを復活させる」というコンセプトに共鳴してのものだったんですか？

スバーン　いや、そのコンセプトはＵＷＦに参加したあとにルー・テーズに教えられて知ったんだよ。でも、そのコンセプトは私が望むものでもあるけどね。

――では、どんなきっかけでＵＷＦインターに参戦することになったんですか？

スバーン　それは小さな物語があるんだよ。話が長くなるので、なるべく短めに話すよ。まず最初はオハイオ州から始まるんだ。そこにひとりの女子プロレスラーがいて、私は彼女とサーキットを共にしてよく話をしていた。するとある日彼女のボーイフレンドが私にＵＷＦ・Ｉ（スバーンはＵＷＦインターをこう呼ぶ）の話を持ちかけてきたんだよ。

――そのボーイフレンドというのは何者なんですか？

スパーン　UWF・Iに参加していたトム・バートンだよ。私は彼にビジネスカード（名刺）とキャリア・レコードを書いた紙をわたしたんだ。そしてその後、テネシーにいるときにUWF・Iのエージェントであるシンジ・ササザキ（笹崎伸司＝元・新日本プロレスのレスラー）という人物が私のところに来て、彼とトレーニングのセッションを2回やったんだ。そのセッションが結果的にUWF・Iのオーディションになり、3週間後に日本に行くことになったんだよ。





日本でのダン・スパーンといえば、やはりUWFインター時代。スパーンは92年に初来日。初戦の宮戸戦を皮切りに、スープレックスとフィニッシュホールドのリバース・バイパーホールドを武器に安生、そして日の出の勢いにあった田村（写真・上／93・4・10大阪）などを破り破竹の3連勝。オブライトと同じように、無敗のままエース・高田戦を迎えた（写真・下／93・5・6日本武道館）。しかし、運が悪いことに、この日から超大物外人レスラー、ベイダー（Uインターでのリングネームは「スーパー・ベイダー」）が参戦。観客の興味はメインの高田vsスパーン戦を飛び越えて、「いつ高田vsベイダー戦が組まれるか」に移っていた。しかも、当時の高田は半年前に北尾光司をKOし、「最強幻想」のピーク。館内は「高田が負けるはずがない」という安心しきったムードができあがり、試合もほぼ危なげなく高田の快勝。これ以降スパーンはダブルバウトでのオブライトのパートナーというポジションに甘んじることになる。結局、スパーンがUインターで活躍できなかったのは、同じアマレス出身でスープレックスを武器にしたオブライトに、存在感で完全に負けていたことと、ベイダー登場のタイミングの悪さが原因だったのだろう。

私はUFCで突然強くなった訳でなく、Uインターにコントロールされていたんだ

——ところで、スパーン選手は後にUFC王者になるほどの実力を持ちながら、UWFインター時代はなぜ実力を発揮できずにくすぶっていたんですか？

スパーン　I don't know（笑）。私はずっと同じことを考えて、同じことをやっているんだ。それを人々がわかってくれるかどうかだけなんだ。UWFインターの時代はみんな認めてくれなかった。それだけなんだよ。94年にUFCに参加してからは、取材も莫大に増えて有名になったが、私は急に強くなったわけじゃないし、私自身は変わらないけど、人々が私をどう評価するかが変わったんだと思うよ。ただ……。

——ただ、なんですか？

スパーン　UWF・Iでは私に対してある種のコントロールがあったんだよ。

——コントロールというと、具体的にはどういうことですか？

スパーン　……それは難しいね。非常にデリケートな問題さ。ひとつ言えるのは……例え話をしよう。1984年のこと、私はオリンピックの代表になるために必死になっていたんだ。当時の私は実力、実績ともナンバー1だったが、結局オリンピックの代表に選ばれたのはナンバー2の人間だった。つまり選考に不正があったということさ。どんな世界でもやはり裏で一種の政治的な駆け引きは存在するんだ。UWF・Iでも同じようなことがあったんだよ。

——つまり、それがスパーン選手のいう「コントロール」ということですね。

スパーン　YES。だからUWF・Iは私が初めてUFCに出場すると知ったときに「試合をしないでくれ」と言ってきた。彼らは私がUFCに出たら、どのような闘い方をするか知っていたんだよ。でも、私はコントロールされるのはもう嫌だった。だから私は自分のスキル、テクニックをコントロールされることのないUFCに出場したんだよ。

——では、あなたにとってUWFインターでのキャリアとはどんな意味がありましたか？

スパーン　私の全ての経歴を考えると、あの時代のウエイトというのは非常に軽いものなんだ。ただ私自身の考えとして、どのようなことでも〝存在した〟ということには理由があると思うんだよ。だからUWF・Iに出場した時代があったからこそ、いまの私があったという部分は必ずあるんだ。サクラバだって私と同じだと思う。サクラバもUWF・Iでは活躍できなかったが、あの時代があって、いまのサクラバがあるんだよ。

——実際、UWFインターにはいい選手が

揃ってましたしね。

スバーン　イエス。タムラなどは特に当時から、グッドレスラーでグッド・テクニシャンだったよ。タムラ以外でもタカダ、アンジョー、カネハラ……いま活躍している選手は当時からみんな素晴らしかったよ。

――そんな中でも当時のUWFインターで一番強いと思っていたのは誰ですか？

スバーン　それはタカダ以外にいないよ。メンタルでもフィジカルでも当時のタカダはすべてにおいてピークだったんじゃないかな。他に挙げるとするなら、ゲーリー・オブライトだね。でも、私はアメリカならゲーリーにプロレスリングでもアマチュア・レスリングでも負けることはないよ（ニヤリ）。

――つまりそれが……。

スバーン　イッツ・デリケート！（笑）。

――それは実にデリケートですね（笑）。実はウチの読者というのは、比較的ディープなファンなので、そういう部分も含めてプロレスラーの凄さを伝えたいんですよ。

スバーン　OK、では少しアメリカの話をしよう。いまのWWFなどは、それこそすべてコントロールされているんだ。つまり上層部の指示が絶対なんだよ。

――スバーン選手はWWFにあまり長く在籍しませんでしたけど、それもコントロールされるのが嫌だったからなんですか？

スバーン　まぁ、同じ理由と言えば同じ理由だけど、ちょっとアメリカの場合は違うんだ。WWFではレスリングの重要度は極めて低い。なぜなら技術と能力が同じでも、有名か有名じゃないかでの区別が酷すぎるからさ。そしてコントロールする人間は正直であったり、ダブルクロスがあったりする。常に二つの顔を持っているんだ。

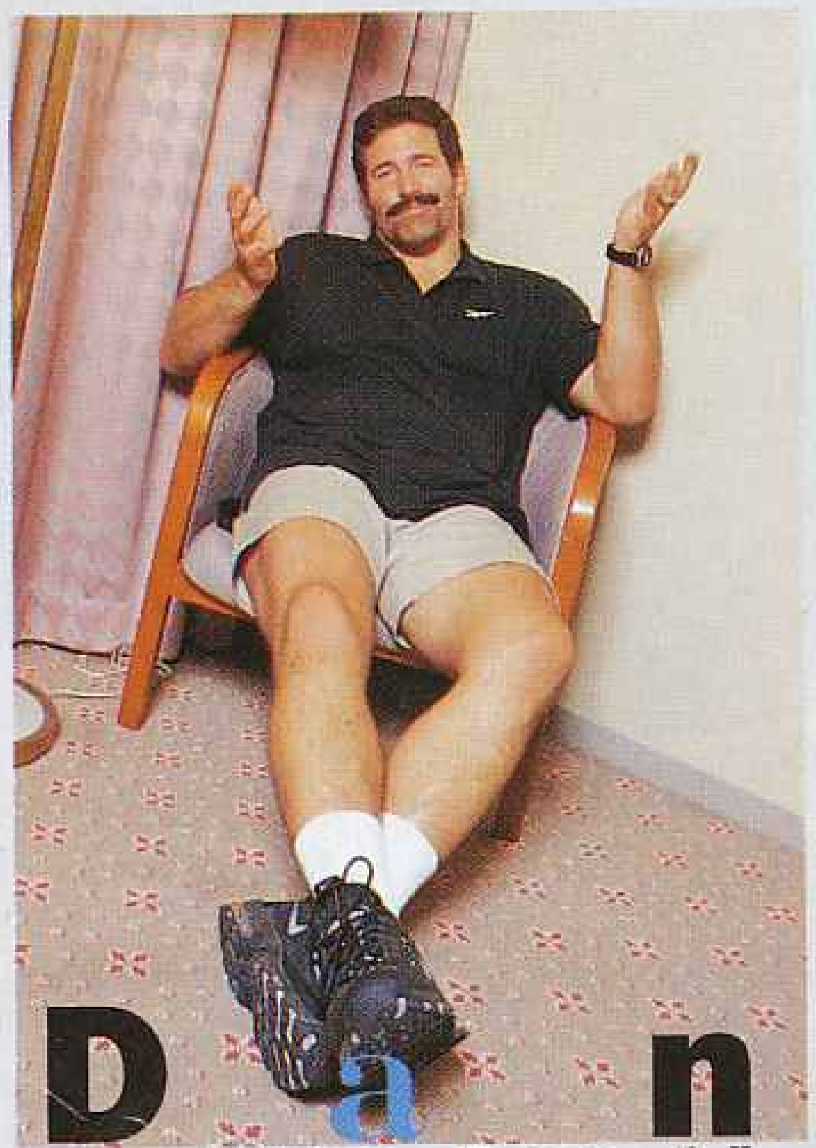
――その辺りは『レスリング・ウィズ・シャドウズ』という映画でもそういう場面がありました。

スバーン　私はシングルマッチが得意だが、WWFではその機会がほとんど与えられなかった。ほとんどがタッグマッチやシックスメンタッグ。その他には「乱入せよ」など、レスリング以外の指示が多すぎたんだよ。でも、こういったことは、どれもデリケートな問題なんだ。やはりプロレスリングにはシークレットにしておかねばならない部分というものが必ずあるからね。

――ところが、いまはそういった部分がどんどんタブーでなくなっている風潮も、特にアメリカなどではあるんじゃないですか？

スバーン　それはやはりインターネットの問題があると思う。ファンというものはどうしても、ある時期から奥を奥を見ようとするようになるだろう？　それをいまはインターネットによって、実際に知ることができるようになったからね。そしてファンはそこに書かれていることが真実であろうとなかろうと、「ああ、わかった！」となるんだ。

アメリカでなら、ゲーリーにプロレスでもアマレスでも負けることはないよ



Dan "The Beast" Severn
wrestling life is beautiful

――確かにそうですね。

スバーン　でも、まだアメリカにはそれほどスマートなファンは多くないけどね。大体ファンの10人に一人くらいかな。ほとんどのファンはTVを見て楽しむだけだよ。「ザ・ロック、セ～イズ！」なんて言いながらね（笑）。日本人はどうかな、プロレスリングをどのように見ているんだい？

――5対1くらいで、普通にテレビを見るようなファンが多いと思います。

スバーン　では、キミのマガジンはその「1」の方なんだね。マガジンのタイトルが「RADICAL」な意味がわかったよ（笑）。そういうことなら、私はいま本を書こうと思っているんだよ。

――え!?　もしかしてザ・ロックやマンカインドが出したような自伝ですか？

スバーン　YES。私には書くことがたくさんあるからね。アマチュア・レスリング、プロレスリング、UWF-I、UFC、そしてWWF。ページがいくらあっても足りないよ（笑）。

――うわぁ～、それはメチャクチャ読みたいですね。そのときはゼヒ、日本語版も出版してください（笑）。

スバーン　ハハハ。まぁ、楽しみにしていてほしいね（笑）。

――では、話は少し前後しますけど、UFCについての話を聞かせて下さい。まず最初の疑問は初期のUFCは非常にバイオレンス性が高いイメージがあったのに、レスリングのアスリートであるスバーン選手がなぜ参戦を希望したかということなんですよ。

スバーン　確かにUFCはバイオレンス性が糾弾されてはいたけど、その一方でアメリカでは当時多くの人がこのニュースポーツを楽しんでいて、PPVの契約数などもボクシング以上を記録していたんだ。そして私は初めてUFCを見たとき、単なるバイオレンスとは思わず、これは究極のテスト（試練）だと思ったんだよ。

――つまりまったくのノールールの中で、自分の技術が通用するかどうかを測定する“場”だと思ったんですね。

スバーン　YES。確かに私が最初にUFCに出たときには、MMA（ミックスド・マーシャルアーツ＝アメリカでのバーリ・トゥードの呼称）のセオリーも知らなかったし、MMA用のテクニックも持っていない単なるレスラーだった。でも、この中で自分のレスリング技術は他のカラテ、ムエタイ、ボクシング、柔術などと闘っても、勝てるだけのものを持っているか確かめたかったし、またそれを証明したかったんだ。だから私が「なぜUFCに参加したか」よりも、「なぜ第4回まで参加しなかったか」を話すことにするよ。

――そうですね、お願いします。

スバーン　そもそも私が住んでいるミシガンは小さい街なんでPPVがなかった。だからUFCのことはしばらく知らなかったんだよ（笑）。

――あ、単に知らなかった（笑）。

スバーン　それが私の友人がある日、第1回と2回のUFCのビデオを見せてくれたんだ。それを見たときに、私はすごい衝撃を受けた。そしてその後に格闘技のマガジンを読んだら、UFCの出場者を募集している記事をみつけたんだよ。

――UFC初期は雑誌で出場者を公募していたんですか（笑）。

スバーン　そう、だから私は自分でプロフィールを書いて、応募したんだよ。でも実

をいうと最初は落選だったんだ（笑）。

―後のアルティメット王が書類選考で落とされましたか！（笑）。

スバーン 恥ずかしながらね（笑）。私が最初に応募した頃は毎日200～300くらいの応募があったらしくて、全然電話がかかってこなくて、それっきりだったんだよ。でも、当時私はプロレスラーとして活動していたから、UFCの本部があったロスにサーキットで訪れたときに、UFCのプロモーターに電話をして、直接交渉をしたんだ。

―公募がだめなら直談判と。

スバーン そこでプロモーターのアーサー・デイビーと話をしたときに、まず最初にこう言われたんだよ。「私たちのイベントはリアル・ファイトだということを、ミスター・スバーン、あなたはわかっていますか？」ってね。

―ああ、プロレスラーであることに、偏見を持たれたんですね。

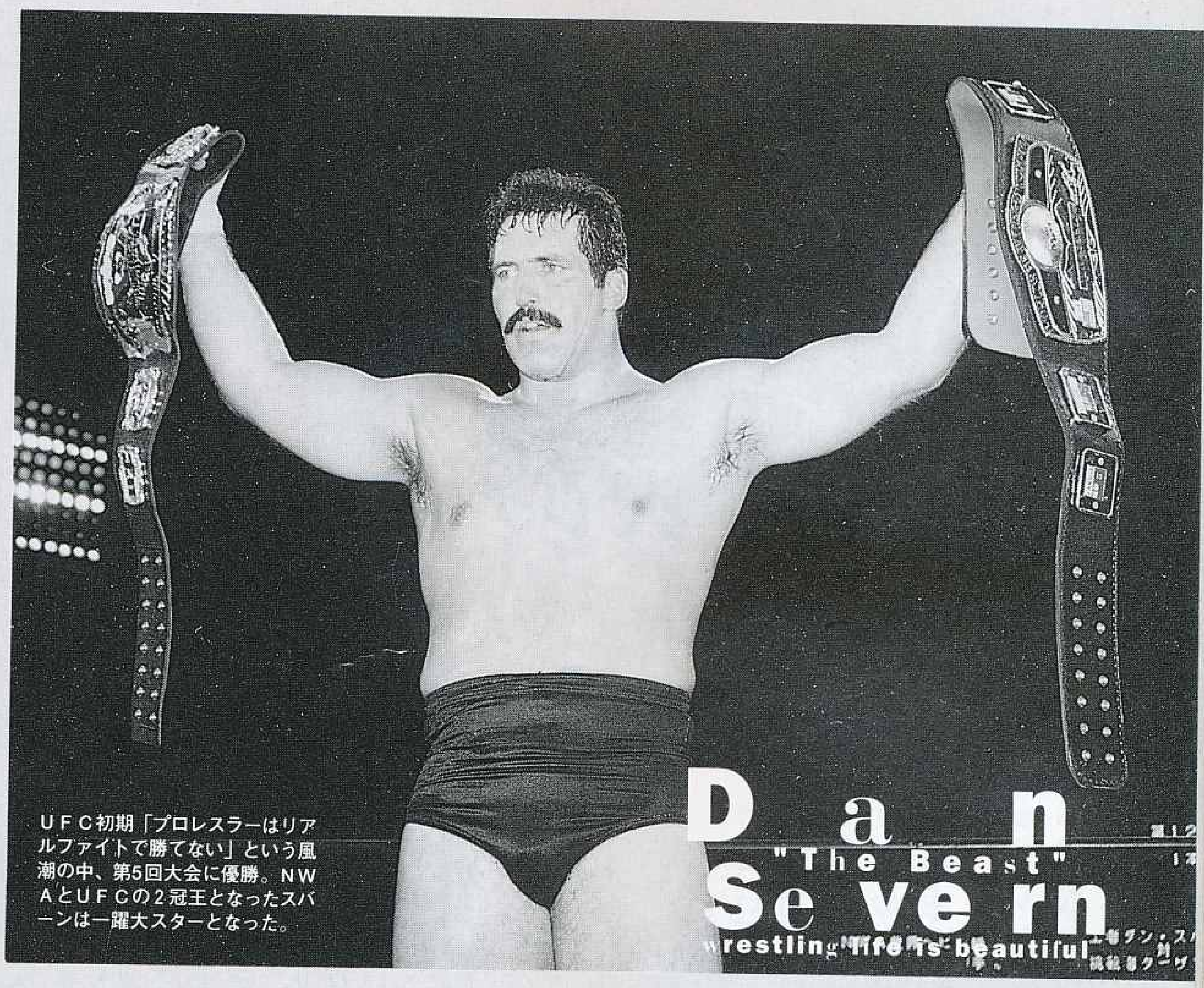
スバーン その後に「アマチュア・レスリングでの戦績をみせてください」と言われたんだ。でも、私の戦績はあまりにも膨大で全て覚えているわけではないし、資料を持ち歩いているわけでもなかったので、「いや、持ってない」と答えたんだよ。

―それではアマの戦績はないと思われますよね。

スバーン そしたら「あなたはUFCのビデオは見たことがありますか？ 見たのなら、なぜあなたはUFCで闘える自信があるのか？」と聞いてきたんだ。そこで私はこう答えたんだ。「私は両親にいい育て方をされたんで、喧嘩で相手を殴ったりしたことはないけれども、26年間のレスリングを始めとする格闘技のキャリアがあるので、自分の中では自信がある」ってね。それでもアーサー・デイビーには「確かに26年のキャリアは尊重するけども、それはルールで守られた世界のキャリアだから、UFCでは即、通用するものではない」と言うんだ。

―なかなか認めてもらえなかったんですね。

私は最初に「UFCはリアルファイトだということをわかってますか？」と聞かれた



UFC初期「プロレスラーはリアルファイトで勝てない」という風潮の中、第5回大会に優勝。NWAとUFCの2冠王となったスバーンは一躍大スターとなった。

スバーン それで結局アーサー・デイビーとの会談をしたものの、その後オファーはなかったんだ。ところが、第4回大会の直前になって参加をキャンセルした選手が出たらしく、大会の4日前になって私のもとに参戦のオファーが来たんだよ。

―4日前ですか！ それもずいぶん急な話ですね。

スバーン だから私が初めてUFCに出たときは、わずか2日間のトレーニングで出場したんだよ。

―では、わずか2日間の準備期間で決勝まで進出して、ホイス・グレイシーをあと一歩まで追い詰めたんですね。では、準備期間さえあれば、あの時点でホイスを倒していた可能性は高かったんじゃないですか？

スバーン まぁ、それは言わないでおくよ（笑）。

―では、UFCの決勝でホイス・グレイシーと闘ったとき、ガード・ポジションを取られた際に顔面を殴らなかったのは、どんな理由からだったんですか？

スバーン 私はホイスをテイクダウンしたあと早い段階で、自分の二の腕を使って彼のアゴを上げることに成功したんだよ。それから殴ればおそらく彼をKOできた。しかし、私は殴るのをやめたんだ。なぜなら私の方が体が随分大きいし、力も強いので、その体勢から彼を殴ることによって彼を必要以上に痛めつけてしまい、取り返しのつかないくらいのダメージを与えてしまうのが怖かったんだよ。そのあと、試合が進むにつれて展開がなくなったので、パンチを打ち始めたんだが、フックで側面は殴れても、ストレートで上から顔面を打ち抜くことはできなかった。やはりレスラーにとって顔面を殴るというのは、どうしても抵抗があるものなんだ。だからMMAを始めてしばらくは顔面パンチを打つことについて常に葛藤があったよ。

―スバーン選手はホイスに敗れた次の大会（第5回UFC）で優勝するわけですけど、それ以後もなぜかスーパーファイト戦ですらホイスとの再戦が組まれることはありませんでしたよね。あれはなぜなんですか？

スバーン その理由は私にもよくはわからない。ただ、UFCというのは、初期はアーサー・デイビーとグレイシー・ファミリーが半分づつ持っていた会社なんだよ。そしてここからはあくまでも私の想像だけれども、やはりそれはビジネスが一番の理由として考えられる。

―どういうことですか？

スバーン もともとグレイシーがこのトーナメントを開いた理由は、優勝することによって、〝グレイシー〟の名前を高めて道場経営のビジネスをアメリカそして、世界に広めようとしていたんだよ。そして実際にあの当時彼らは世界中にビデオとグッズを販売して、セミナーを行うことに成功していたんだ。

―グレイシーの名前は瞬く間に広まりましたよね。

スバーン しかし、私と対戦したとき、彼は初めて延長に持ち込まれて、しかも試合で

は終始下のポジションで守る展開を強いられた。だから、もし私と再戦をして私に負けるようなことがあったら、これまで築いてきたグレイシー・ファミリー全体のビジネスを壊してしまうことになりかねない。だから、彼らは私との再戦を組まなかったんだと思うよ。

――なるほど。当時グレイシー・ファミリーが運営していたUFCというのは、トーナメントの組み合わせなんかも、ホイスに有利に組まれているという声もあったんですけど、実際のところはどうだったんですか？

スバーン　確かにそれは私も感じたよ。トーナメントの組み合わせは実に巧妙に組まれていた。そもそもアーサー・デイビーが私をトーナメントに組み込んだのは、おそらく私のレスリング・キャリアを利用して、いい〝負け役〟だと思ったんだろう。

――いわゆる〝噛ませ犬〟ですね。ところがスバーン選手が予想外に活躍してしまった、と。それからは、毎回UFCからオファーが来るようになったわけですか？

スバーン　いや、単に「1位か2位にいる間は、契約が延長される」という契約だったんだよ。だから私を追い出そうにも追い出せなかったわけさ（笑）。それで私が出ていかなかったから、仕方ナシにUFCは私に〝ザ・ビースト〟というニックネームをつけて売り出したんだよ。こんなやさしい男に対して〝ビースト（獣）〟なんてね（笑）。

――いやぁ、スバーン選手は本当に自力でこの地位を築いたんですね。

スバーン　私に対するプロモーターの扱いは実はいまでも変わらないんだよ。このあいだWEFでマーカス・コナンと闘ったときも、WEFは私に勝つことによって、コナンをスターにしてビジネスしようとしていたんだ。しかし結果的に私は勝ってしまった。だからいまアメリカの大きなNHBのイベントでは、私を使いたがらないんだ。年末にマーク・ケアーとWEFで闘うという話もあったんだが、それも流れそうだしね（苦笑）。

――いま、スバーン選手は再びWEFやリングスに出場するなど、42歳にしてMMA系の闘いを続けていますけど、日本でプロレスのリングに再び上がることは考えていないんですか？

スバーン　オファーさえあればゼヒやりたいよ。以前からニュージャパン（新日本プロレス）のリングで友人のドン・フライとタッグを組んで暴れたい気持ちは持っていたんだ。でも、どうやらニュージャパンは私が以前IWA（ジャパン）に出場したこと（95年8月）が気に入らないみたいなんだよ（笑）。

――アハハハ！　新日にはメジャーの誇りがありますからね（笑）。

スバーン　私は日本でどの団体が大きくて、どの団体が小さいのかわからないんだよ。IWAとニュージャパンの差がこ～んなにあるなんて日本に来て始めて知ったんだ（笑）。だから出来れば、団体のランク付けをキミに書いて欲しいくらいだよ（笑）。

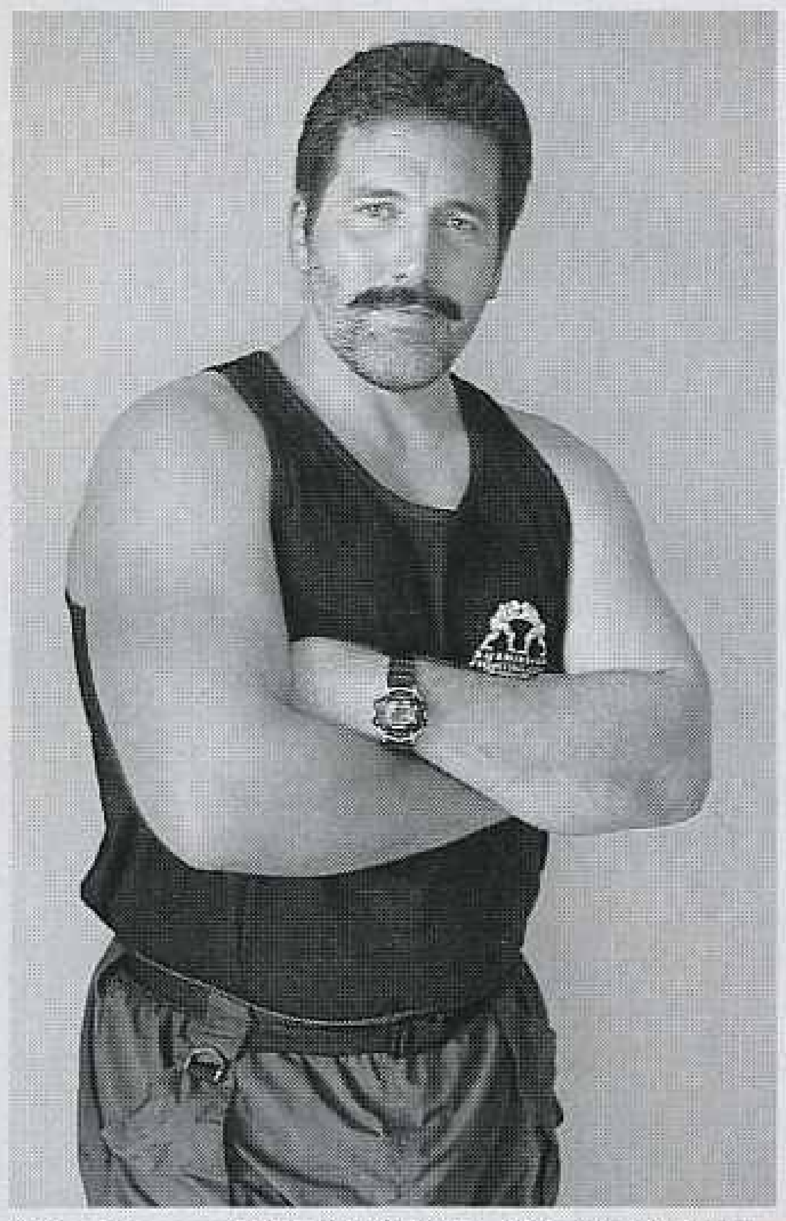
――では最後の質問なんですけど、スバーン選手はプロレスリングとUFCやリングスの一番の違いはなんだと思いますか？

スバーン　（微笑みつつ、大きな深呼吸をしてから）またデリケートな質問だね（笑）。簡単に言えばMMAは〝競技〟であるのに対して、プロレスリングはクローズライン、ボディスラムなど、技を出すことによって作られる、〝物語〟なんだ。そこが一番の違いだよ。

――〝物語〟ですか。

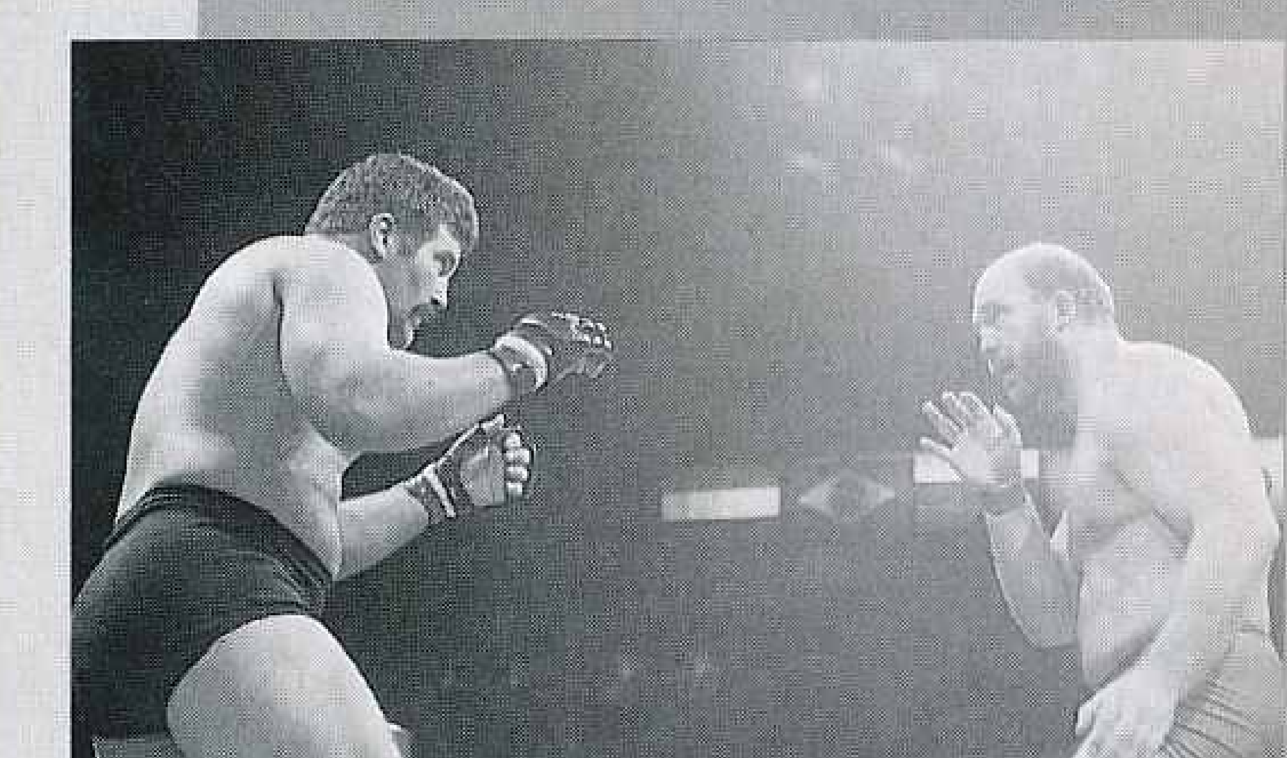
スバーン　YES。でも、その物語の出演者でいることは大変なことなんだ。ましてや主役になろうとしたら並大抵なことではない。だから私が巻いていたNWA世界ヘビー級のベルトというのは、若い人は知らない人もいると思うが、これまで多くの偉大な王者が腰に巻いてきた輝かしい歴史があるベルトなんだよ。私はいまでもNWAのベルトは世界王者の証だと思っているし、私はいまはNWAの王者ではないけど、その歴史を受け継いでさらに積み上げていくのが自分の使命だと思っているんだよ。

【8月21＆24日　都内某ホテルにて収録】



【Dan Severn】1958年6月9日、ミシガン州フリント出身。アマレスではオリンピック、世界選手権を除く全てのメジャータイトルを獲得。77年から88年まで12年連続入賞という途方もない実績を持つ。92年にUインターにい初来日。UFCでは「UFC5」と「アルティメット・アルティメット」に優勝。今年5月にはマーカス・コナンを破り42歳にしてWEF王者となる。いまでも毎週末プロレスの試合をこなす「元祖・プロ格ファイター」。

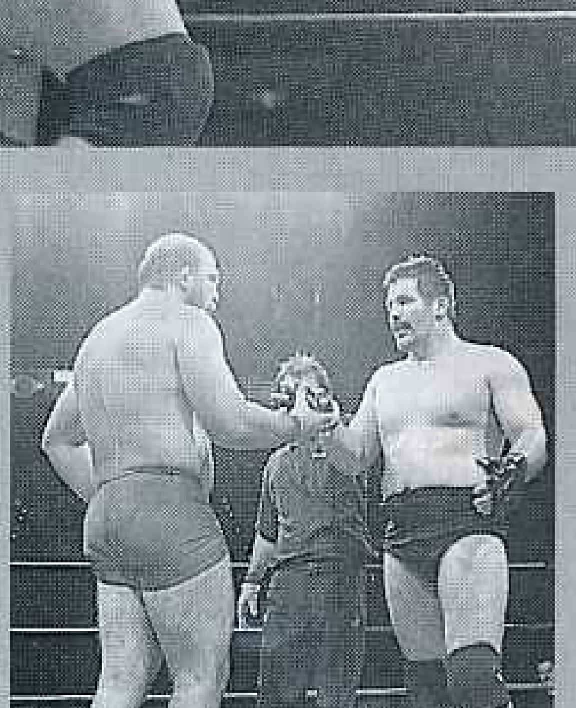
8.23リングス大阪府立体育会館
○ダン・スバーン（判定）A・コピィロフ●





ポジショニングはキープするも、“極め”が不足していたため、「上に乗ってるだけやないか！」のヤジが飛んでしまった。

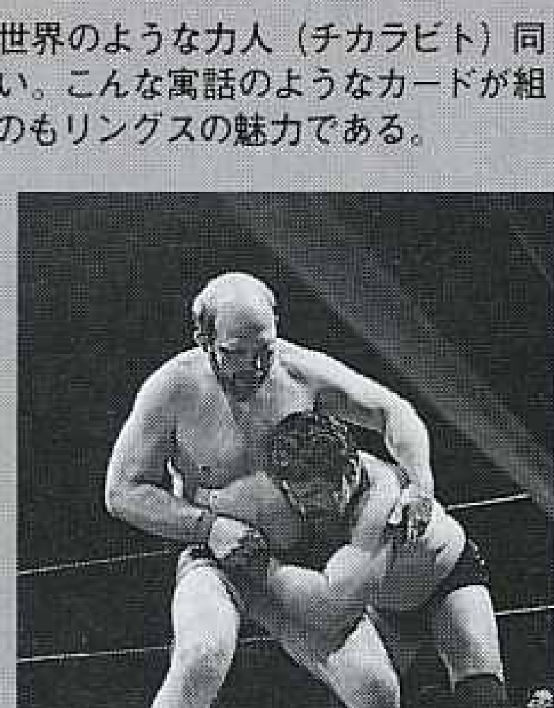
神話の世界のような力人（チカラビト）同士の闘い。こんな寓話のようなカードが組まれるのもリングスの魅力である。



「中年の星」対決は判定でスバーンに軍配。それにしても試合後のビールが実に似合いそうなふたりである。



結局、ふたりともフラフラの殴り合いという、ある意味、予想通りの展開になってしまったのは残念だ。



スバーンのジャーマンか、コビのヒザ十字が！　と期待させたが、体勢が崩れてしまい不発。

試合写真／平工幸雄

今度こそリングス軽量級は存続できるか!?

村浜武洋に見た可能性

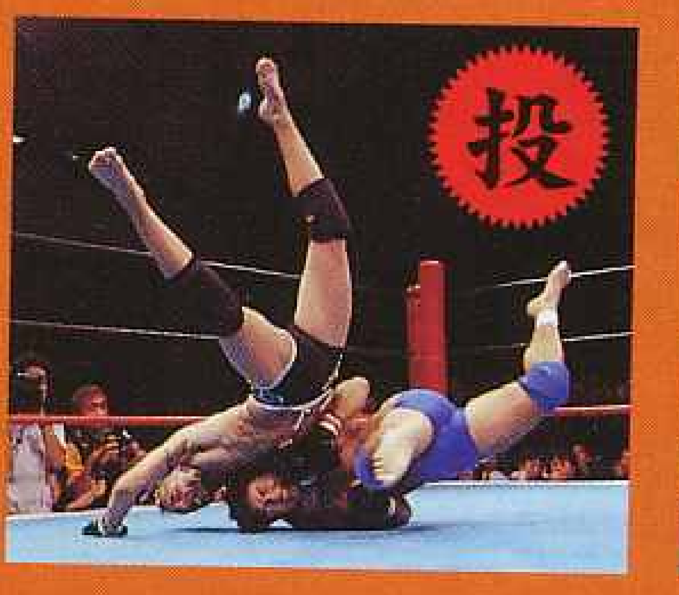
格闘技のリングに
帰ってきたぜ〜!
くることができました!!





村浜の目に注目。ガブリエルのキックをガードしながら、目は相手から離さずパンチを打てる体勢になっている。これが本職。これがK－1 JAPANフェザー級チャンピオンだ。







試合後 村浜節 炸裂!!



柔道を長いことやってたんで、巻き投げの癖がどうしても取れなくて下になる場面が多くなりました。でもKOKルールっちゅうことで。顔面ナシなんで下になっても大丈夫やろっちゅうことで。最後はもう関節取れたら取ろうかなって感じだったんで、よく練習してたあれが出たんでよかったなあって感じです。一発（パンチ）もろたんで腫れてもうたんですけど。K－1ジャパンフェザー級王座としてはもうひとつかなってとこがあるんですけど。そういえば今日レフリーしてくれてた平直之さんが格闘技オリンピックでエリック・エデレンボスとやってアームロック決めたんであれと同じ状態でしたね。だからアームロック決めながら思いだしましたもん。平さん見ててくれた。おんなじやんけ（笑）。

実に丸1年ぶりの開催となるリングス後楽園大会。今回はいささか唐突な感はあるが、かつての『実験リーグ』を彷彿させる他流派、中量級を中心としたカード編成となった。

これまでもリングスでは主に後楽園ホールで、中量級選手の試合を組んできたが、いずれも単発で終わっている。これは従来のリングス・スタイルが、あくまで「並外れた体格と体力を持つ男たちが闘う」という、いい意味でプロレスの匂いを残していたことから、軽中量級選手の試合が、どうしてもファンに受け入れられなかった部分があるのだろう。

しかし、KOKルールになってから、80キロそこそこの選手が次々と登場。今年7月のハワイ大会では中量級のトーナメントも開催されるに至り、いよいよヘビー級以外の選手が活躍出来る土壌がリングスにも整いつつあることを伺わせた。

そしてこの日、リングス軽中量級の可能性を探るのにもってこいの男が登場。それが村浜武洋である。自らを「ちっちゃいオーちゃん」と称する、軽量級立ち技最強の爆弾（発言）男だけに、総合デビュー戦ながら期待と好奇の眼差しが向けられた。

そこで村浜が見せた闘いはまさにKOKのセールスポイントである「膠着なし!」そのもの。SBでKOの山を築いたパンチのラッシュ、思わずシュートポイントをつけたくなる一本背負い、そして修斗で活躍する兄・村浜天晴と練習したという寝技。それらが目まぐるしく繰り出される、まさに村浜の言うところの「オモロイ試合」を披露してくれた。

この試合を見て断言します!

KOKの軽中量級は面白い!

アマリン王者がWEF参戦権獲得!!



今年のアマリン優勝者である小谷直之は、このトーナメントもブッチギリの優勝。米WEFへの出場が決まった。小谷の活躍はアマリンをより活性化させるだろう。



田村の「U－FILE　CAMP」から初の生え抜きプロ・デビューとなった、西内太志朗。1回戦をKOで飾るなど、スタンドに非凡さを見せた。

小谷直之(RODEO STYLE)	小谷直之	小谷直之
姿　清仁(四王塾)		
西内太志朗(U-FILE CAMP)	西内太志朗	
藤原智嗣(和術慧舟會総本部)		

強すぎる!! 凄玉外人続々登場!!



ムチのようにしなるド迫力のハイキックで坂田をKOしたグスタボ・シム。「素質はレナート・ババル以上の逸材」というふれ込みに嘘はなかった。



グスタボ・シム（1R1分35秒　TKO）坂田亘
エメリヤーエンコ・ヒョードル（1R12秒）高田浩也



勝ってもまったく笑わないところが魅力のヒョードル。「寝技になったら私の世界」というほど、柔道とサンボの達人だが、今回はわずか5ヶ月しか練習していない打撃でRJWの高田をKO。この男、もしかしたらとてつもない掘り出し物か。

SEPTEMBER.2000

BEST OF THE スピコラム™

うまいか? まずいか? は読んでから判断してもいいんじゃないの? なコラムです!!

★今号のラインナップ★



Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

じぇりー・うかい■最近プロレスにインポぎみ。実際プライド以降まったく勃起してません。オーちゃんが試合やれば確実にカウパー氏が出てきそうなんですけどね。ちなみに今一番ビンビン来るのはオリンピック&黒沢優&仕事。

BEST OF THE スーパーコラム

リングスで優勝した小谷弟は強いよ!!
去年完敗した私は断言する!

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL



ヒクソン柔術大会帰りの花くまゆうさくが8・27格闘祭りを斬る!!

ロスに行き第2回ヒクソン柔術大会に出場してきました。会場に着くとTBS「ZONE」が密着取材している。しかし、北野あつし君柔術デビュー戦に気づいてないようで、ちとマヌケであった。私はとにかく優勝したかったので安全策をとり、30才以上の青帯の部にエントリーしました(ちとチキン)。なんとか勝って優勝し、ヒクソンから金メダルもらって感激。30才以上の部で相手はブラジル人ひとりだけだったんだけど、表彰台のてっぺんに登るのはうれしいもんでした。この日は、麻雀20年間無敗の桜井章一先生、エリオ、ヒクソンなど偉大な人と続けて握手できてよい一日でした。

ヒクソンは家族とデモンストレーションでマットに立つ。子供、娘らと一人づつ闘う負け役なのだが、その負けっぷりのトボケた感じに藤原が少し入ってた。会場のウケもよく、うれしそうにトボケたおやじぶり発揮のヒクソン。日本に触れるようになって、プロレスに目覚めたのか?

あと会場で不思議な面の東洋人発見! マンガや映画でしか見た事のない顔(図1)が気になってしょーがないので後をつけると、会場の売店のとなりで1分1ドルでマッサージしている先生であった。おもわずシャッターを切ってしまった(写真1)。やはり外国で通用するには、見てくれのギミックは必要なのかと思いました。


写真 1

日本に帰ると8・27だ。修斗は会場、プライドはPPVで見ることにした。カード的に地味な修斗は、大丈夫なのかと心配したがほぼ満員でビックリ、すごいね。

前座のハイライトは村浜兄。ゴング鳴ってダッシュして飛びヒザげりKOだ。アマチュア時代からゴング直後にフライングボディアタック+ヒザげりをトライしていたが、今回大会場で最高の形で成功しましたね。セコンドの矢野さんも大喜び。今年の鳥合はやるぞ。

そしてマーシオ・フェイトーザ登場。相手は宇野じゃなく三島☆ド根性ノ助、宇野よりキツいんじゃないのか。試合始まると、やはり三島強し、フェイトーザ負けちゃうのか? と思いつつも後半に盛り返すフェイトーザでなんとか引き分け。やはり三島は強かったし、フェイトーザのテクも光った。三島に宇野なみのスタミナがあれば凄い事になっちゃうよ。


図 1

ルミナvsクワタク、あいかわらず1Rのルミナはメチャクチャ強い! が、2Rになるとちと失速? それともセーブしてるのか判らないが見ていて不安を感じるようになる。昔はそんな不安を感じる事などなかったのだが……。

メインのノゲーラ強し! やはりノゲーラに勝てんのは植松しかいない。朝日にきっちり勝って次はノゲーラだ、植松がんばれ! サムライの格闘ジャングル見てたらノゲーラが「12月はバレット・ヨシダとやりたい。それか矢野。植松は強敵だから準備期間置いてからやりたい。」と発言。実に判ってるじゃないかノゲーラ。バレット、矢野と口に出すそのセンスいいぞ。植松が一番強敵なのも判ってるしね。

しかし聞き手が言ったわけじゃないのにノゲーラの口から「ヤノ」と出たのは衝撃。凄いよ矢野さん、ブラジルでも一部で有名だ。

そんでプライド10。桜庭一人ズバ抜けてるね、もう相手いないんじゃないの。フランク、役者のお勉強はあと3年待ってくれないか? 桜庭戦の為に練習再開してくれよ。あと誰がいる? 安生に完勝したブスタマンチか。リングスジャパン勢に物足りないとぼやく田村だが、だったら桜庭がいますよ!

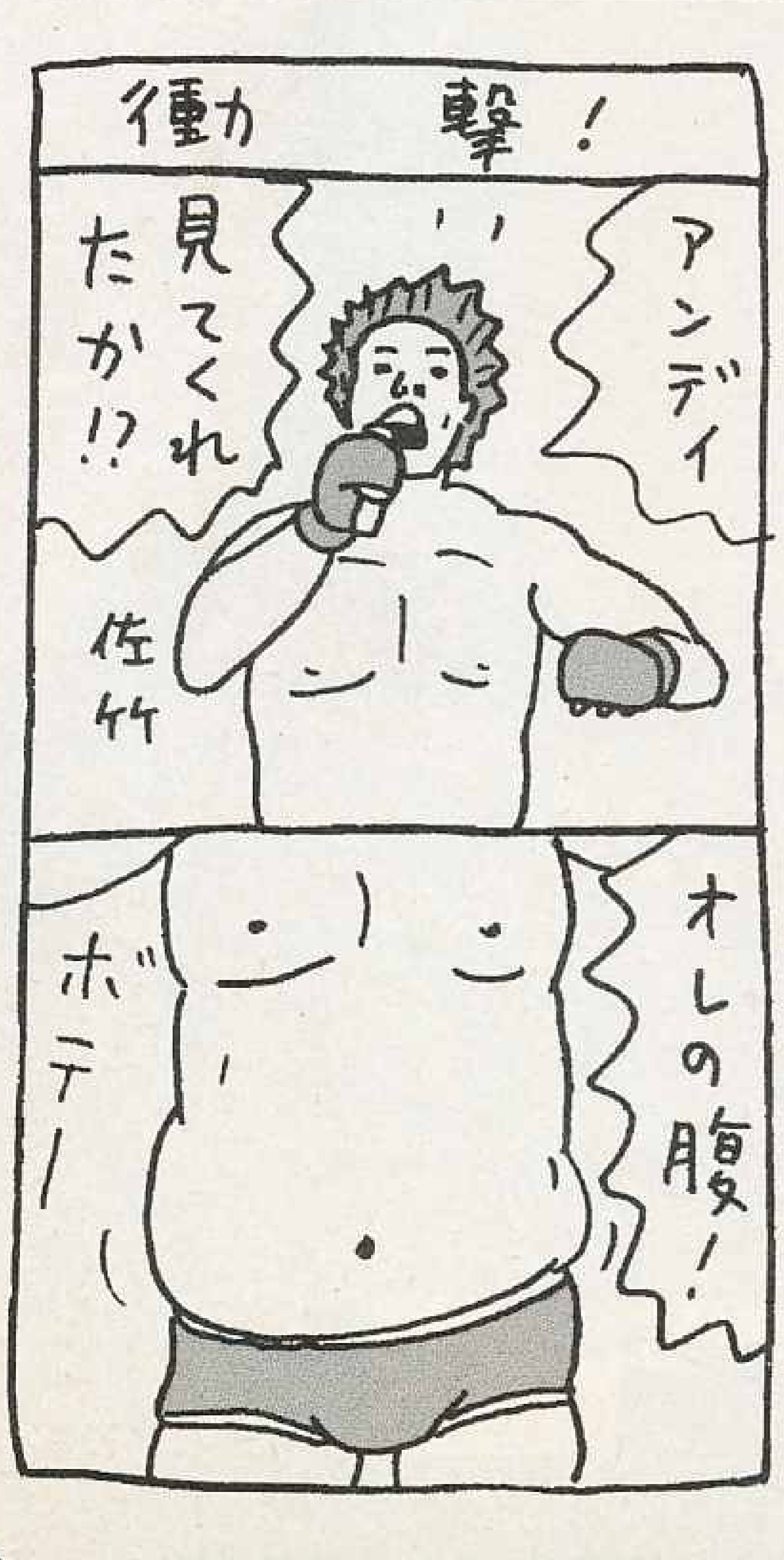
それにしても桜庭一人だけなんだよ。桜庭一人でプロレス救ってるじゃん。桜庭がいなかったらどうなっているか想像してみてくれプロレス界の偉い人達。もっと感謝したほうがいいんでないの。

イチバン衝撃だったのは、やっぱカシンvsハイアン。ハッキリ言ってハイアンは、どアマチュア選手。プロとして人前でしかもあんな大会場で試合したことないし、体もカシンより小さく軽い。試合前の練習でヒザ痛めてたし、もともとあまり練習しないとウワサだった。だからハイアンは5分で自滅すると思ってたから、あんな結果でビックリだ。まず入場曲でビックリ、なんで小柳ゆきなの!? ハイアンから日本でいま流行ってる曲をとリクエストし、聴いて即決だったらしいです。

そんでリングに上がってからのあの目!(あんな目は初期ネグロ・カサス以来だ)あの顔! 恐えー、あんな人とケンカしたくないよ、ごめんなさい! 対するカシンの入場時の顔は悲壮感ただよう緊張顔。あれっ黒澤?と思った。名古屋のプライド9に現れた時の人を喰ったカシン顔じゃなかった。

これからカシンはどうすんだろうか。これをバネにしてまたやってほしいのだが……。あといつものカシンの調子で「お前が出てみろバカ」とか、新日の人達(大谷とか金本とか健介とか)に言ってほしいナリ。

猪木がプロデューサーになり、プライドはどうなってしまうのか? 不思議な試合が増えていってしまうのか? しかし会場のファンは喜んでるし、選手達もまんざらでもなさそうだし、それが自然なのか? よく考えて見れば、プライドの客の85%はプロレスファンなんだから、プライドがグレードの高いUFOになっても何の問題もないってことですかい? 外野は黙ってろってことですか。

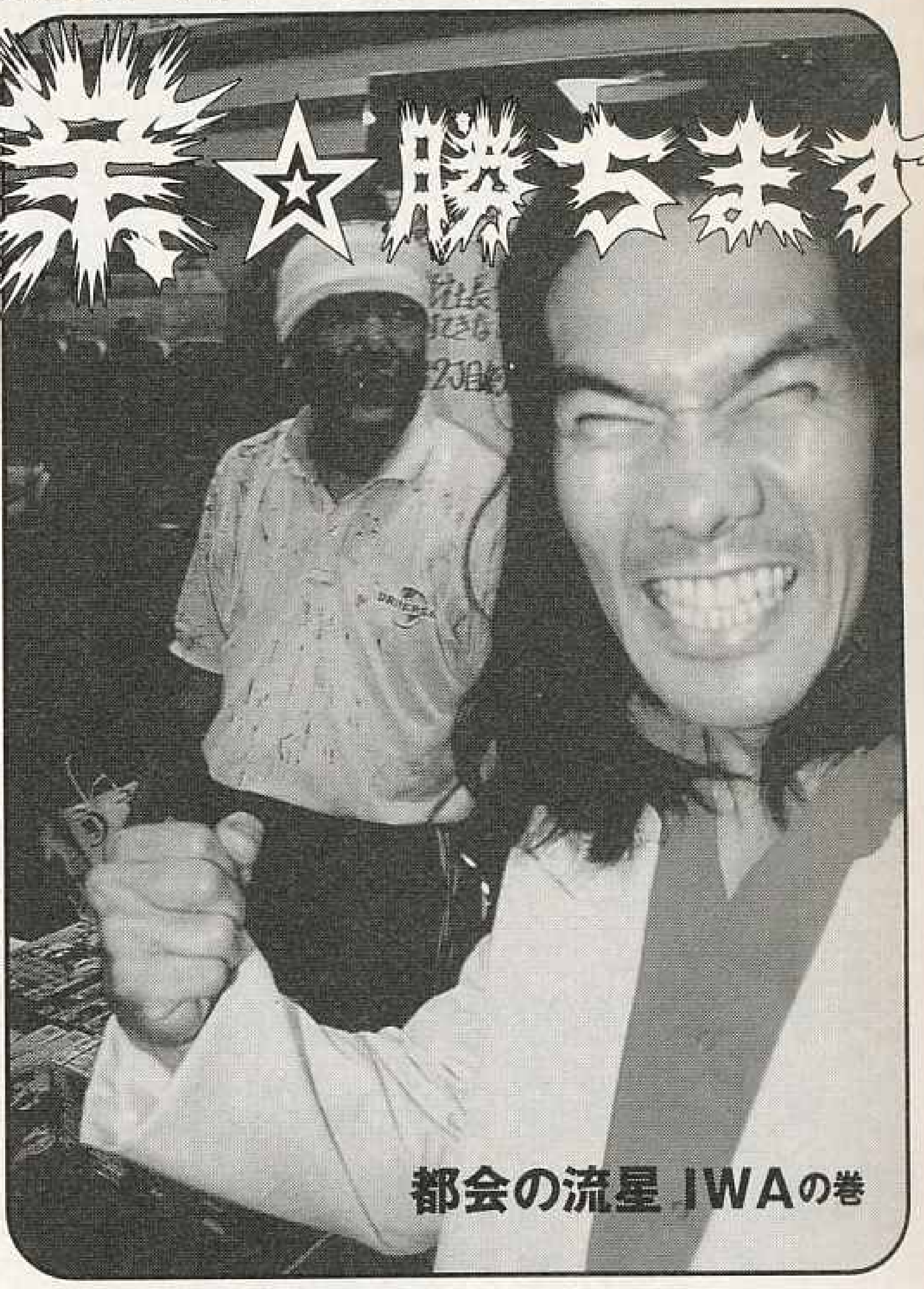


はなくま・ゆうさく■辻と柴田コンビの石沢ハイアン戦の実況に唖然。あれでプロレス守ってるつもりなのか、バカ!

BEST OF THE スーパーコラム

男気啓豪バンド『ロマンポルシェ』の説教担当掟ポルシェ

干☆勝ちます



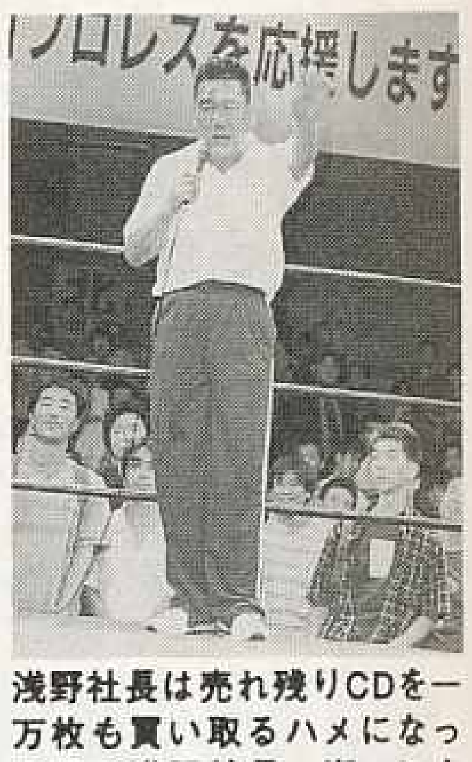
都会の流星 IWAの巻

例えば、おまえん家のアパートの隣りの部屋にジェラルド・ゴルドーが引っ越して来たとする。当然、朝練を欠かさないから朝4時にはセイヤッのかけ声と息吹の連発で、うるさくて寝てられなくなる。当然、新しい64版マリオをフルボリュームでやり出すのも目に見えている。そのココロは、息抜きなどという生やさしいものではない。闘魂ダチョウ倶楽部時代、オーちゃんに対し猪木、佐山が課したのはプロレスゲームのシュミレーションだったことを思えば、格闘家たるもの「いつ何時」を想定した訓練を練習の合間にさえ忘れないものだと。いつ何時、風呂場で石けんを踏んづけてスベッた勢いでガラス戸をブチ破り、選手生命を絶たれないように、と念頭に置きつつカメを踏む訓練。カラフルなキノコを食してアンドレ並に巨大化するという、どうにもアシッドな精神状態でも力の加減を間違えず人を殺めてしまわない訓練等、〝ギリギリの殺気〟を保つためのマリオを、ゴルドーが練習メニューに加えているのは間違いないだろう。それが猪木イズムを一度でも注入された者の宿命なのだから……。

だが！　しかし！　隣室がある日突然ドージョー・カマクラになり、睡眠時間が劇的に削られるのを、おまえ自身はまた、宿命として受け入れるべきなのだろうか、と。

ハッキリ言わせてもらえば、そこはガツン！　と、泣き寝入りすべきである。嫁の来手をTV特番に頼らざるを得ない孤島ならいざ知らず、わざわざ移り住んだ都会の住宅事情にイチイチ不平不満を訴えるのは野暮という他ない。多分ゴルドーだって、おまえの部屋から聞こえてくる大音量のエロビデオの声に「おっ、隣りヤッてんのかよ!!　……イヤ、このやけにスムーズな展開はAVだぜ！　SIT！」と、キキ耳をたてては一喜一憂しているに違いないのだ。しかしそれでもゴルドーが、おまえの住む201号をハードにノックし、ドアが開いた途端おまえの水月に前蹴りブチ込んだりしないのは、「他人に干渉しないのが都会に住む者のルール」だということを理解しているからだ。隣室で道場開きしようが、ノイバウテンのコピーバンドの練習をしようが、ノミ競馬の電話受付ステーション化して四六時中ヤ○ザが出入りしようが、都会の事情の上ではノー干渉当り前なのである。

プロレスマスコミの間では「あの人がプレスリーでは？」と噂される掟ポルシェが激筆！



浅野社長は売れ残りCDを一万枚も買い取るハメになった男・浅野社長。潔いにも程がある！

そして東京、後楽園ホール。他人に干渉されなすぎたモデルケースのような者達が到り着いた終着の浜辺ともいえるこの地で、最もド終着な団体IWA　JAPANの興行が行われていた。若白髪のマッシュルームカット、何の作業なのか皆目見当のつかない（多分何の作業でもなくただのファッションとしての）作業着風ジャケット、ハイテクすぎてプレミアのつかないスニーカー、という平均的なプロレスファンルックに身を包んだ紳士達で（微妙に）ゴッタ返す会場内は、不必要なまでに熱い熱気でムンムンしていた。他人に干渉されないのが当り前の東京で純粋培養された彼等が、あえて干渉を楽しむことの出来る場としてIWAは機能している。なんせヤジりどころが豊富すぎ！　常に変わらぬユル加減と、誰もがイスからズリ落ちること受け合いのア～アな仕掛けで、観客を嫌が応にも干渉したい気持ちにさせてしまうのだ。

この日のメインは6人タッグ。いつものように浅野社長軍と猛牛軍の対戦だが、今日の敗者チームは先日リリースしたばかりの『新宿2丁目劇場』CDの売れ残り一万枚即金買い取りの罰ゲームが待っている。もちろんとっ払いで一千万円払える訳もない社長、今日も「社運を賭け過ぎる団体」の名に恥じない自殺行為商法。有刺鉄線と借金一千万、ホントに痛いのがどちらかは明白であり、明らかに商売人の発想ではないCDプレス枚数に、ある意味デスマッチの進化形を見た。

試合は、あらゆる意味で浅野社長が手塩にかけて育てたIWAきってのベビーフェイス・山下義也がターザン後藤にボロクソにやられるいつも通りの展開で、いつも通り浅野社長軍が負け、一千万全かぶりが決定！　だがとっ払い要求にニジリ寄るCD発売元のユニバーサル社に対して、浅野社長の逃げ口上が〝なのヨ節〟ではじまった！

「10月13日の後楽園、あのプレスリーが来るのヨ！　生きてるわヨ、昨日も電話で話したんだから！」プレスリーと浅野社長のデュエット曲の発売権と今回の一千万をムリヤリ相殺するウルトラCで、IWAはまた皮一枚のところで崩壊を逃れたのだった。

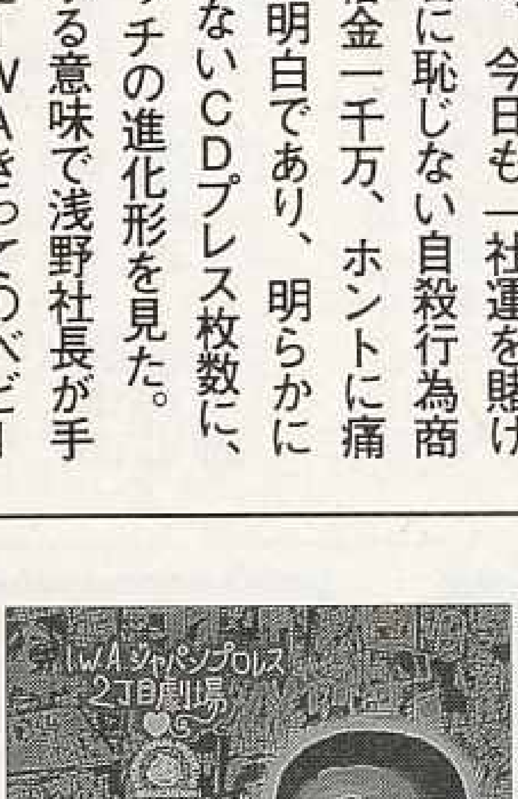
それにしてもプレスリーは本当に生きているのか？　いざフタを開けたら岩本恭生や本郷直樹だったというベタなオチではないか？　そしてIWAの行く末は……。

（干渉したくてタマラナイ俺による浅野社長インタビューは次号、プロレス界の激震とほぼ無関係に掲載予定……。尻の穴をひきしめて待て!!）

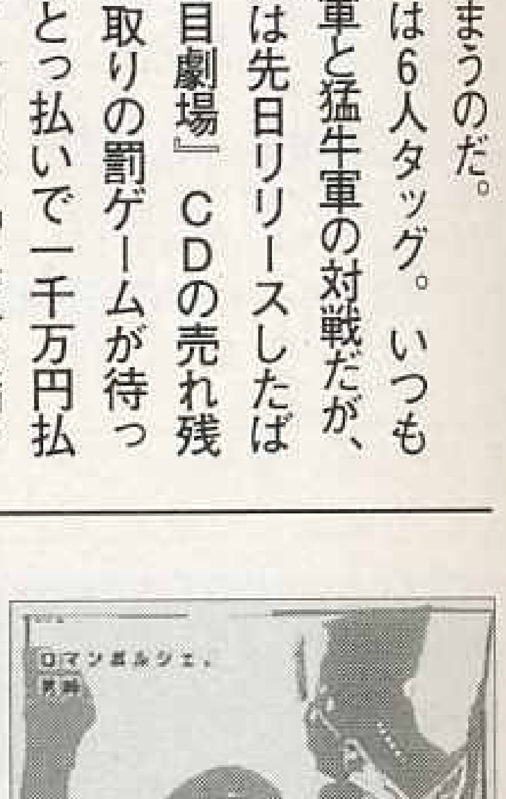
おきて・ぽるしぇ■ロマンポルシェ・ライブ日程は、10月21日福井CHOP、10月22日渋谷タワーレコード、11月2日札幌、11月4日函館、11月5日青森。問03-5468-8869山内まで。

今月の オトコラム プレッシャーズ

キラー・ケロンパ降臨!!　9月2日『いい朝8時』にゲスト出演したクラッシュ2000に思わぬ刺客が襲いかかった！　うつみ宮土里。芸能界きってのレスラー殺し・ケロンパは、千種の「子供が欲しい」発言をキッカケに、とにかくクラッシュの夜事情ばかり引き出そうとするのだった。「男の人と浮いた話ぐらいはあったのネェ？」の問いに苦笑いでゴマかそうとする飛鳥に対して、千種は「某スポーツ選手にアンタ、チューされたことあったよね」と、ユルいフォロー。なんのことはない飲み屋で泥酔した水戸泉にダンプと2人まとめてキスされただけだったという話だが、そんな力士のよくある悪ふざけに喰いつくケロンパではない。話が三禁に及んだとき、ついにケロンパは殺しのブルースを奏で始めた!!「一人前になるまで男の人と付き合っちゃいけないんじゃあ、レズになっちゃう人もいるんじゃない!?」「女子プロの人ってレズっちゃうことあるって聞いたわよ！　ねェ、誰と誰がレズなの!?　ねェ!!」女子プロ＝レズという親父的短絡思考を女子レスラー本人に浴びせかける無礼アンド掟破りなトークで、クラッシュを完全に破壊してしまった。しかも終始笑顔で……キラーだ!!



浅野起洲社長と猛牛CLUBのバッファロー太野の歌声を収録した『すてきな16歳／24000のキス』はユニバーサルから発売中！　っていうか廃盤中？



男気啓蒙バンド・ロマンポルシェの説教が満載のCD「暴力大将」は絶賛発売中！　10月18日には新作「男峠」（写真）が登場！　今後は浅野社長ともレーベルメイトだ！

有名人学歴KGB・堀越日出夫の

凄頭

偏差値を通してプロレスを見ろ！

昨日の夜、都内のとある通りでケビン山崎さんと遭遇しました。異様にゴツくて、しかもあのキャップをかぶってたのですぐ分かりました。尾行しようとしたけど、朽木のようになぎ倒されそうなので止めときました。

新日本、全日本、SWSに続いてのレスラー学歴特集第4弾。今回はU系を取り上げてみた。

まずは全体的な印象から。今回調べのついた32人中、大学経験者は11人（34％）。新日、全日よりも劣るのである。

これは、U自体の歴史が浅いため、大学のレスリング部とのラインが強くないと。つまり、長州が専修から馳や中西を引っ張ってくるようなスカウティング活動が弱いのである。

表を見てもらえばわかるだろうが、みーんな自ら率先して団体の門を叩いたのであって、スカウトされたわけではないのだ。

でも、逆に、そのほうがモチベーションが高いから、強くはなるだろう。

そんな中、栄えある1位は桜庭和志！

IQと偏差値はまったく同じではもちろんないが、関連はある。「世界が恐れるIQレスラー」のキャッチはダテじゃなかったのだ。

でも、「ミドル級最強」の異名をもほしいままにするサクは、商学部で何を学んだのだろうか？　「マーケティング論」とか「商法」とかマヌケな授業を受けてたのだろうか。

でも、隠れ1位は武南幸宏（神戸大学中退）か。今、どこで何してんでしょうか？

その他、大学編では、高阪、高橋が上位に名を連ねるなど、バーリトゥードで結果を残しているレスラーがランクインした。なんでもありと偏差値……、どうやら何らかの関係があるようだ。

そして、今回、衝撃的だったのが高校編。

な、な、なんと、最高でも49という体たらくはどうしたことか！

とはいえ、地方の高校はとくに偏差値という概念自体をキャトルミューティレーションしていこうという動きがあるため、よくよく調べてみると、以下のような事実が判明した。

バトラーツ石川社長の小田原高校は神奈川県西学区最高峰の学校で、偏差値は63！　社長の書いた文章を読むと、「タダ者ではないな」との印象を受けていたのだが、やはりそうだったか。なにしろ、青学に31人も送りこむ高校なのだ。

また、ノアを離脱して、総合系の団体に上がることが予想される垣原（新居浜西高）だって負けていない。東大に4、京大に2人を送りこむ進学校卒だったのだ！　これはお見逸れいたしました！

そんなある程度保証された道を捨ててまでしてマット界に殴りこんだカッキー。今後、上がるリングはどこか？

しかーし、この2名以外はとてもホメられたもんではなく、はやくから勉強を捨て、レスリングや柔道に打ちこんでいたのだろう。ひとつのことに集中して、全国レベルの成績を残しつつ高偏差値を誇るなんて、それこそ超人。両方デキりゃあ、それはそれで理想だが、まあ、どっちでもいいだろう。

最後にすっかり恒例となった同窓生情報。

アレクサンダー大塚と新崎人生は同じ徳島東工業高校。鈴木みのると渋谷修身は横浜高校のOBだ（宇野薫も）。これらはあまりにも有名ですな。

窪田幸生の城山高校（高知）はキックボクサー山崎通明と同じ。山崎は体育科だったが、窪田もそうか？

山本宜久の桜ヶ丘高校（山口）は長州力もOB。進学率はかなり低いが、スポーツ校として名を馳せている。

偏差値世代のはずなのに あえて背を向ける生き方に 「オトコ」を見た！

安生の和光高校（埼玉県和光市）は帰国子女こずえ鈴と同輩。両者は和光市の星だ。

須藤元気の関東一高（江戸川区）は元チェキッ娘・矢作美樹も最近卒業している。あと、ボクサーの福田健吾も。偏差値は44！　あちゃぁ。

岡山出身者から「あそこはヤバイよ」と忠告を受けた岡山理科大付属高校は田村がエントリー。ということは、CCガールズ藤原理恵もヤバイってことになるが、岡山県民の皆さん、こんな結論でよろしいでしょうか？

それはそうと、もっとも羨ましいのは菊田早苗。彼の母校＝明大中野（東中野）は芸能学校としても有名で、古くは麻丘めぐみ・マッチ・中森明菜から、最近ではグレチキ・観月ありさ（中退）・坂口憲二（荒鷲二世）までも輩出している！

ちなみに、当方の調査によると、菊田は浅香唯の2コ下、清水美砂・神田利則の1コ下、川越美和の1コ上であることが判明！　廊下でアイドルとすれ違ってたわけだ。う、う、羨ましすぎるぅ！

さっき、日テレの「ろみひー」を見てたら西川きよしの履歴書を公開してたのだが、そしたら驚いた！

なんと、小学校が前田日明兄さんと同じ市岡小（大阪市立）じゃないか！　でも、兄さんは城東小に転校しちゃったけど。

だから、「ろみひー」は侮れない。ゲストの履歴書を公開してくれるから、毎週チェックしてるのだ。

凄頭な男たち



前田日明
関西高校情報に疎いため、また、前田のインテリ的イメージもあいまって、てっきり進学校出身と思ってたのだが、北陽高校はそうでもない。これは前田自身も『格闘王への挑戦』（講談社）で認めている。



安生洋二
父、兄が東京大学卒であったことから、その反動分子になってしまった安ちゃん。英語ぺらぺらなのは、帰国子女であるからであって、偏差値とはまったくの無関係であると断言できる。



髙田延彦
いまどき、というか当時でも珍しい中学→フリーター→プロレスラーという出世コース。神奈川県下では有名な野球少年だったのは知られているが、学校の成績はどうだったのか？

ほりこし・ひでお■先日、愛媛県の東予工業高校というところで、「生徒が先生を刺す」というショッキングな事件が起きた。どっかで聞いたことある高校だなぁと思ってたら、なんと村上竜司の母校ではないか。20年間、校風は変わっていないのであろうか？

凄 総合格闘技と偏差値は連鎖する!?
プロレスラーを目指す諸君、
強くなりたきゃ勉強しろ!!

高卒編

この表には今まで語られなかったUWFの歴史がある!

★偏差値ランキング★
〜 都内近郊 〜

49 鈴木みのる➡横浜高（神奈川）
渋谷修身➡横浜高（神奈川）

42 安生洋二➡和光高（埼玉）

39 山崎一夫➡玉川高校（東京）

★出身校一覧★

アレクサンダー大塚➡徳島東工業高（徳島）
金原弘光➡瀬戸高（愛知）
窪田幸生➡城山高（高知）
佐野なおき➡苫小牧西高（北海道）
田村潔司➡岡山理科大付属高（岡山）
長井満也➡砂川北高（中退・北海道）
成瀬昌由➡科学技術学園高（定時制）
冨宅飛駈➡初芝高（大阪）
藤原嘉明➡黒沢尻工業高（岩手）
前田日明➡北陽高（大阪）
柳澤龍志➡田名部高（青森）
山本宜久➡桜ヶ丘高（山口）

寸評　第二次UWFトップ3選手＝前田・高田・山崎を「前高山」と評してたことがあった。船木・鈴木らはこの山を登れと。しかし、学歴・偏差値的に言えば、この山はそう高くはなかったのである。
　数値化されていない選手の中では、金原の瀬戸高校が進学率は高い。といっても、最高でも成蹊大（1名）なので、進学率は高いけれども、決し進学校ではない。それにしても、49でトップになってしまうというのも、新日・全日にはない際だった特徴である。

大卒編

サクによる偏差値革命が確実に起きようとしている!

★偏差値ランキング★

60 桜庭和志➡中央大・商（中退）

55 高阪剛➡専修大（学部不明）
石川雄規➡日本大・国文
高橋義生➡日本大・経済
宮戸優光➡玉川大（学部不明）

54 渡部謙吾➡大東文化大（学部不明）

52 稲垣克臣➡明治大・商・産業経営二部（中退）

50 入江秀忠➡国士舘大（学部不明）

47 菊田早苗➡日本体育大・体育（中退）

41 松井大二郎➡国際武道大・体育

40 須藤元気➡拓殖短大

寸評　上の表をよく見てほしい。なにか気づいた点はないだろうか？
　ボクも驚いたのだが、第二次UWF経験者が誰もいないのだ。あっ、宮戸がいた。でも、結論の邪魔になるので、この際、無視！
　この現象は何を意味するのであろうか？　みな、示し合わせたかのようにある方向性を持った選手がズラリと並んでいる。
　しかも、バーリトゥード経験者がやたら目立つ。桜庭、高阪、高橋、謙吾、菊田、松井に須藤元気。そして、おおむね好成績をあげているのだ。
　左の高校編を見てみるとその差は歴然としている。鈴木、佐野、成瀬に山本と、最近伸び悩んでいる選手ばかりなのだ。
　これは、桜庭の偏差値革命なのではないか？　つまりは、論理的で合理的な練習をすることによって成し遂げつつある、高偏差値選手による革命なのである。

中卒編

ヒクソンに敗れし2人はともに中卒!! こうなったらやはりサクしかいないのか?

★出身校一覧★

髙田延彦➡横浜市立中和田中（神奈川）
船木誠勝➡弘前大付属中（青森）

寸評　約20年間プロレスを見続けてきたが、すっかり見落としていたことがある。
　それは、ヒクソンに敗れた高田と船木は、ともに中卒だったことである。これは単なる偶然だろうか？
　まあ、船木に関して言えば、大学の付属中ということで、本人は否定するだろうが、地元では「お坊ちゃん」というイメージがあるだろう。
　勉強方面では英語が得意だったようだが、あとはからきしダメ（『ストレイト』より）。たぶん、高田はもっと苦手だっただろう。
　つまり、何が言いたいかというと、次は大学経験者にヒクソン退治を託してみてはどうかということである。
　まだまだ柔術対策が万全とは言えない95年に中井祐樹（北海道大）がそこそこの勝負をしているのだから、この理論もあながち否定はできまい。やはり桜庭しかいないのか？

BEST OF THE スタコラム



タブーに挑戦!! 心の貧乏人にならないための短期集中連載！

プロレス長者番付

第3回 '85〜'89の長者は誰だ!?

アンディ・フグ選手急逝につき、各種マスコミにまぎれて正道会館・東京本部前を張りこんでいたところ、藤原紀香、せんだ光雄らを生目撃し、不謹慎ながら興奮。ところで、なぜにアンディはせんだとそんなに親しかったのだろう？

有名人データー墓堀人・堀越日出夫

さて、レスラーの年収を考察する短期集中連載の第3回。今回は85〜89年である。

世間的には昭和から平成への転換期であり、プロレス界で言えば初代タイガーマスクが新日本を去った翌年から、第二次UWFが隆盛を極めるまでの時代にトップレスラーはいくら稼いでいたのであろうか？

この時代、地味ながらも業界トップを走っていたのは、われらがアントンである！

年々減少傾向にあるが、これは新日本が大都市中心のサーキットになり、試合数が減ったことと無関係ではないだろう。

それだけでなく、佐山タイガーが去ったことで観客動員も下降線をたどったはずで、社長みずからが「減俸！」の判断を下さざるを得なかったと。そこんとこシビアである。

あるいは、「リズムタッチ」なんかのCMを見なくなったから、その分のギャラがダウンしたとも考えられる。CMって結構もらえるらしいので。

とはいえ、プロ野球界で85年に6700万ももらってた選手が何人いたか？ こう考えると、猪木（もしくはプロレスというジャンル）がいかにビッグビジネスの可能性をはらんでいるか、よーくわかるのだ。

そして、ドサクサに紛れて坂口＆藤波のコンビもランクイン！ そういえば、84年中盤から88年まで長州たちがごっそりと抜けてたから、「その分ギャラがよくなったのではないか？」などと邪推してしまうのだが……。部外者のボクには一生わかりそうもない。

ただひとつだけ言えることは、全日が"馬場さん一極集中"であるのに対して、新日は長者が3人もいるということだ。新日本の底力を見る思いだ。

そういえば、85年ころの「週刊プロレス」かなんかで、ギャラについて聞かれた藤波がこう答えていた。

「いやー、そんなにもらってないですよ（笑）。そうだなあ、巨人軍の中畑選手と同じくらいかなあ」

このドラゴン発言がずーっと気になっていたボクは、おおよそ正しかったことをようやく理解したのであった（足かけ15年）。でも、やや過大申告気味だが。

表を見てもらうとわかる通り、新日のレスラーは数字の浮き沈みが激しい。しかし、堅実派の馬場さんはかなり安定している。さすが馬場さんだ。

現役プロレスラーの方も自分の年収と比較してみてくださーいっ！

思えば、鶴田も天龍もかなり脂が乗っていた時期だと思われるが、どっちも登場していない。やはり、伝統的に全日本はギャラが安いのだろうか？

登場してないといえば、前田日明。89年なんかは第二次UWF満員神話も浸透してきて、初のドーム大会も成功させているのにいまだ登場せず。

結果的に、これが「経理の不透明さ」につながったのではないか？ と邪推してしまうのである。

'85〜'89' ランキング

	1985	1986	1987	1988	1989
アントニオ猪木	3,430万円 (6,700万円)	2,206万円 (4,800万円)	3,270万円 (6,500万円)	1,704万円 (4,000万円)	••••
坂口征二	1,046万円 (2,800万円)	2,224万円 (4,800万円)	••••	••••	••••
藤波辰爾	••••	1,590万円 (3,800万円)	••••	••••	1,088万円 (2,800万円)
ジャイアント馬場	1,492万円 (3,700万円)	1,307万円 (3,400万円)	1,219万円 (3,100万円)	1,052万円 (2,800万円)	••••

※（　）内はかなりラフな推定年収。



「いつまでこんな時代が続くんですか！」という、聞き取りづらいドラゴンの叫びは、ギャラ問題まで言及していたのかもしれない。

実録

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

最狂プロレスファン列伝

構成／イナズマ★K

BEST OF THE スーパーコラム

大人気ストリート・ブランドとノアを結んだ意外な接点とは!?

この連載始まって以来の男前が登場!? ストリート雑誌のモデルとして活躍し、今や盟友ARATAクンとのブランド、『REVOLVER』のディレクターとして大忙しのKIRIクン。

さて、御存じの読者もいると思うが『REVOLVER』は三沢光晴率いるノアのジャージを手掛けている。修斗とデビロックのことを考えればなるほどと思えるが、でもプロレス団体と新進気鋭のストリート・ブランドが結びつくなんて、これまでちょっと考えらんなかった革命的な出来事だ。その当事者となった彼のプロレスルーツからまずはいってみよう。

「子供なんで最初はタイガーマスク、タイガーマスク二世のアニメの方から入りました。それでたまたま4チャンつけたら全日に2代目タイガーが出てたんです。新日もどっちも見てたんだけど、親の知り合いで全日系の人がいてチケットもらってよく会場に行ってました。選手と写真撮ってもらってたりして」

小学生の頃から週プロとゴング両方買ってる熱の入り具合。お気に入りはタイガーに、その頃来日してたロックンロール・エキスプレスやマレンコ兄弟など。次期来日外国人選手を楽しみにしてたなんて相当のもん。気が付けばバリバリ旧全日好きのようだが。

「昔なじみの部分と（笑）、それとは別に四天王の試合とか激しかったじゃないですか。新日も見てましたよ。でも、昔から新日は行く前の組み合わせで期待させるけど、帰る時落ちる（笑）。逆に全日は行く前は『またこういうカードかぁ』と思って観に行くと『あー、いい試合だったな』って気持ちになる。そこの違いです。今は、『SAMURAI!』にも入ってるんで幅広く観ますよ。WWFやECW、闘龍門のCIMAや大日本とかも凄いですよね。修斗もプライドも凄い観てますけど、やっぱり格闘技の良さより、自分はプロレスの方が観て面白いです。他の人がどう思うじゃなくてね」

本人は至ってニュートラルな姿勢でプロレス支持派なのだ。さて、ノアのウェアを手掛けることになったKIRIクン。実はそこには幼き日から流れるストーリーがあったのだ。

「実は昔、三沢さんがウチに来たことがあるんですよ。母親が某選手と仲良くてそれで呼んでくれたんです。三沢さんは素顔で、カバンにマスク入れてました。写真撮る時は被って（笑）。子供ながらに凄く緊張して全然喋れなかったんですよ」

そして時が経ち2000年。ARATAクンがKIRIクンの誕生日プレゼントに三沢フィギアを送ったことで、何の因果か三沢選手とのラインがつながり、御対面となったのです。

「その頃、ちょうど『REVOLVER』の雑誌を作ろうって話があって三沢さん秋山さんに出てほしかったんです。だけど本が延期になっちゃって、でももしTシャツとか作らせてもらえるならお願いしますって、知り合いづたいに伝えてもらってたんです。そしたらある日、『三沢さんが錦糸町で呑んでるから』って急に呼ばれて、スゲー緊張して。こっちからすれば久しぶりなんだけど、『初めまして』って挨拶して（笑）。昔の話を言おうか言うまいか迷ったけど、しばらくして話したんです。そしたら三沢さん完璧に覚えてて（笑）。で、しばらくする内に、『Tシャツと、あとジャージもお願い』って言われて。そこまで考えてなかったからビックリでした」


ノアのカッコいいジャージとTシャツはリボルバー製だったのだ!! 三沢の言った「今風」はハッタリでも何でもなかった。有言実行とはこのことである。

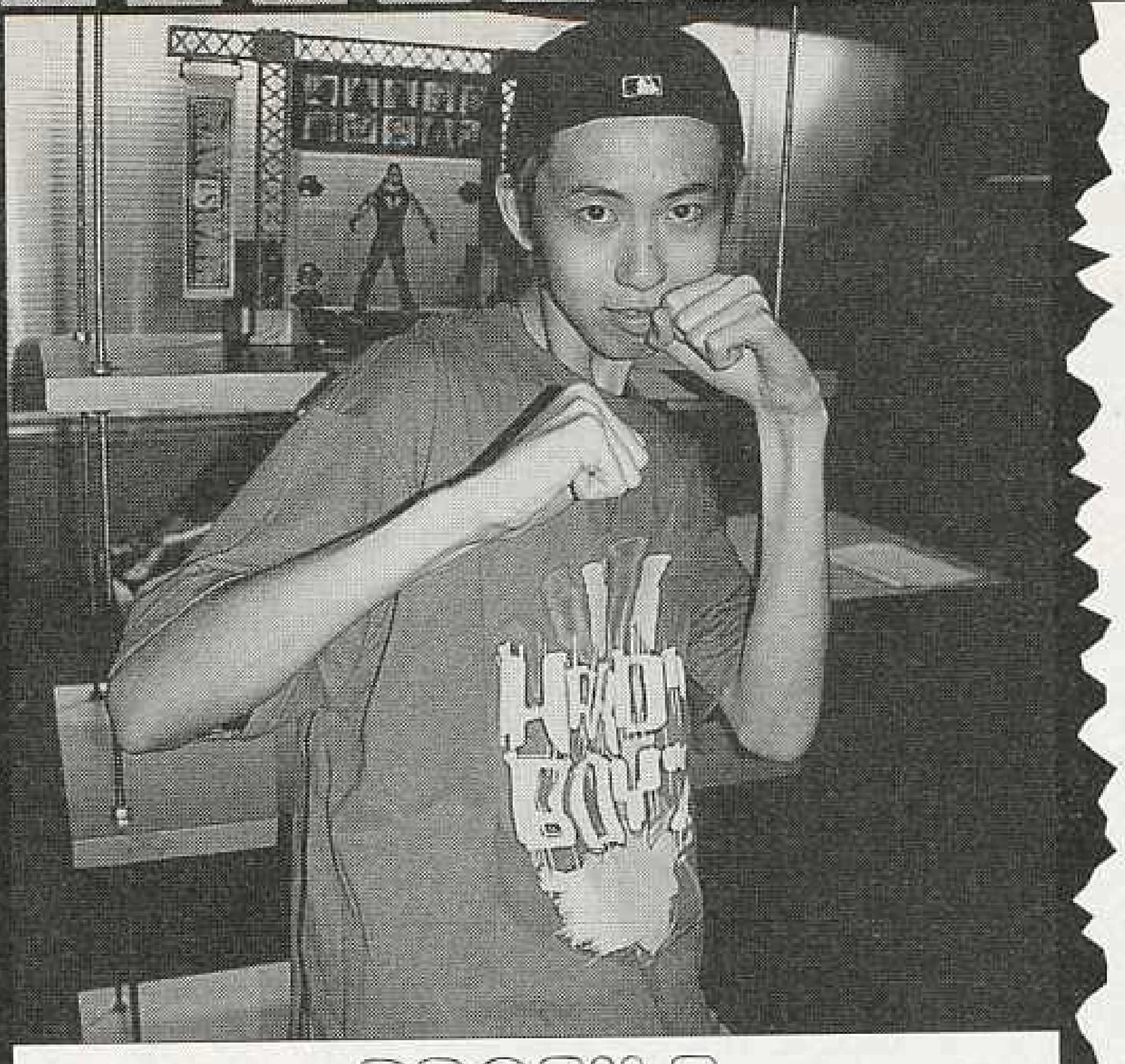
なんとまあ、ファンだった三沢選手と、自分の専門分野で見事にタッグを組むことになったのだ。その嬉しさといったらないだろう。

「スゲーいい経験です。今回の事で一気にデザインの幅も広がったし、成長しました。ただプレッシャーは凄くて、旗揚げ前まで頭おかしくなりそうになってました（笑）」

そんな状態を乗り越えた『REVOLVER』。やり終えたその時には、ノアの船出と共に、一皮剥けた自分達がそこにいたのだ！

「旗揚げの選手入場式から一番前で観てたんですけど、もうわけ分かんなくて（笑）。選手皆が、自分らのロゴマークが付いたの着てるわけじゃないですか。なんでだよーって（笑）。ほんと夢の中でしたよ。忙しさも、もう全然喜びでクリアーですよ。ほんと生きてて良かった（笑）。頑張ってて良かった」

SHOP REVOLVER ■東京都渋谷区神宮前3-27-17原宿V。電話番号は03（3478）7008。小橋建太、秋山準両選手のTシャツを10～11月にかけて販売します!!



PROFILE

No.8 ノアTシャツは俺色に染める!!
KIRI（リボルバー）

モデル仲間のARATAクンと共に旗揚げした人気ブランド、『REVOLVER』を率いる現在23才の若専務。KIRIクンの奮闘の甲斐もあり会社の方も絶好調。最近、店舗をリニューアルオープンしたぞ。「最初、9月15日オープンにしようと思ってたけど、ノアのディファ有明大会が15日と16日にあるからって17日にずらしました（笑）」。どうですか、ノアに対する思いは深いのです。特に、「三沢さんの人間性っていうか正直なところが好きです。秋山さんはインタヴュー読んでても、考え方とか冷静なとこあって凄い共感するんです。自分で会社やってるし、いろんな意味で凄い分かる。小橋さんはとにかく熱い（笑）。で、ARATAクンも熱いんですよ。こないだなんか2人で5時間喋ってたらしいですよ（笑）」。

ということで今度は秋冬の選手ジャージと小橋選手のコスチューム一式を手掛けるとのこと。今回はさらに自分達の色を出していくそうだからノア共々期待大。とにかくWWFも大好きな、ナイスガイだったぜ！



「『男を張る』とか『身体を張る』とか
『張る』っていうことはさらけ出すことだから」
（アラーキー談）

格闘男

**天才・アラーキーが
11人のプロレスラーと
ひとりひとりサシで勝負した!!**

撮影 **荒木経惟**／プロデュース **南部虎弾**（電撃ネットワーク）

定価 **¥2500**（税込）**全国書店で絶賛発売中!!**

（書店にないと場合は、「ワニマガジン社発売の『格闘男』を注文します」とレジの前で大きな声で注文しましょう!!）

「男を張る」――そんな言葉がピッタリとハマる11人のプロレスラーたちが大勢登場しているこの写真集。桜庭和志、藤田和之、村上一成、アレクサンダー大塚らがこの写真集でしか見れない、"生身"をさらけ出した超貴重なカットが満載だ。コレを買わずに世紀末マット界を語ることなかれ！　全プロレスファン必見だ！

お問い合わせ■発売：プロレスをおもしろがる会　TEL.03-5459-9199
発行：（株）ワニマガジン社　TEL.03-3357-2911

強い男の強い本

「ナーシャ!!　読まないヤツがバカなんだ!!」
（石川雄規談）

情念

夢一途なり
石川雄規・著



**本誌で約2年半続いた
ドラマチックな自叙伝的
連載エッセイに
大幅加筆＋書き下ろし!**

定価 **¥1619＋税　全国書店で絶賛発売中!!**

（書店にないと場合は、「ワニマガジン社の『情念』をください」とレジの前で大きな声で注文しましょう!!）

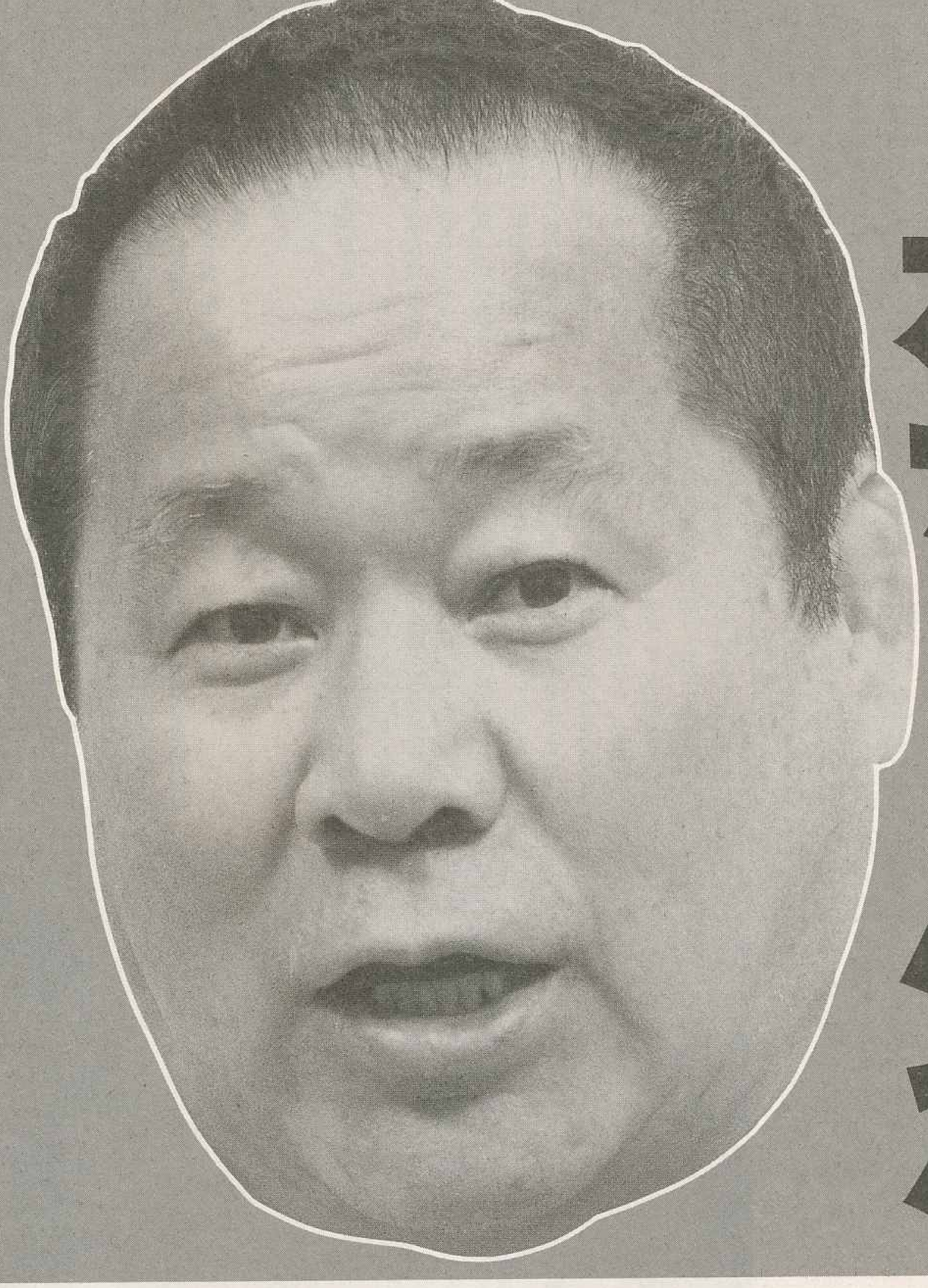
バトラーツの代表取締役社長・石川雄規が、夢を追って追って追いまくった半生を振り返ったドラマチックな自伝が遂に完成！　創作劇場も満載だ。また、ゴーストライターも一切使っていない、正真正銘本人が執筆した、鮮烈なるプロレス界初の自伝である。

お問い合わせ■販売：（株）ワニマガジン社　TEL.03-3357-2911
発行：（株）ダブルクロス　TEL.03-3403-5188

昭和プロレスの凄みに触れる
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

新日クーデターからジャパンプロレス秘話
全日分裂、ノア旗揚げの真相まで

永ちゃんが いっちゃやった!

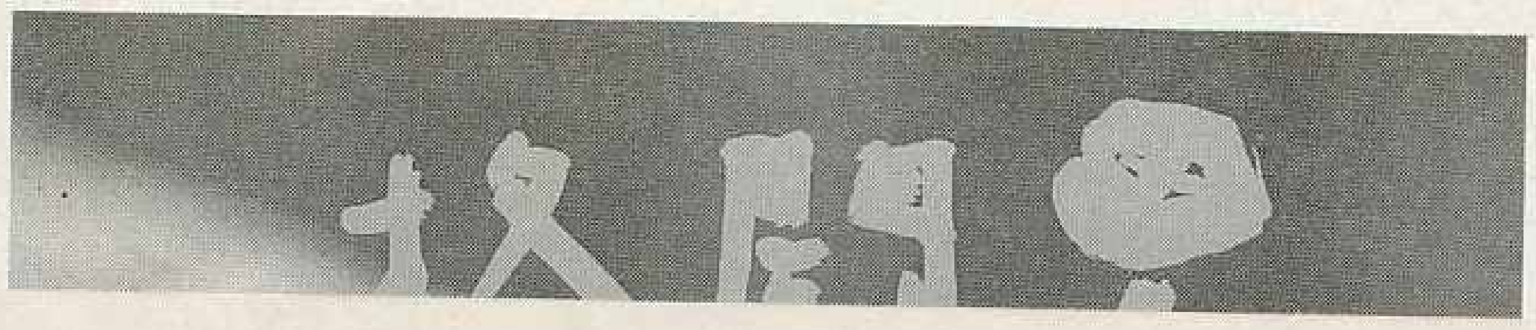




永源遙【NOAH】後編

前号で掲載した「前編」では、相撲時代、東京プロレス、日本プロレス、海外遠征秘話、そして、昭和新日話といった今まであまり語られなかった話をざっくばらんに大放出してもらい、昭和プロレス者、永源ファンだけでなく、ファン歴の浅い読者にも大好評だった永源インタビュー。後編の今回は、首謀者のひとりでもあった永源が、新日クーデターの真相を遂に激白! さらにジャパンプロレス秘話、全日分裂の真相から、ノア旗揚げまでの道のり、そして総合格闘技論まで、今だから話せるエピソードをノンストップでお届けします! これを読めばキミも今日からハルカマニアだ!

聞き手/吉田豪
interview by Go Yoshida
撮影/モーリー
photographs by Morry



「『男を張る』とか『身体を張る』とか『張る』っていうことはさらけ出すことだから」

（アラーキー談）

——その頃、新日内部でもアントンハイセル絡みでゴタゴタがあったんですよね。いわゆるクーデターというか。

永源　クーデターは俺なんかが起こしたんだから（キッパリ）。

——ええ、それは有名ですよね(笑)。

永源　いま思うと、会社にいてクーデター起こして、何人かは何も処分がないっていう会社も寂しいけどね。山本小鉄と藤波（辰爾）と大塚直樹と4人でやって。普通は、なんだかんだ処分するもんでしょ？

——終わってみたら猪木さんが社長から降格して、新間（寿）さんが外れただけでしたよね。

永源　そうそう。解雇はしないまでも、それに近いことはあるもんだよねぇ。

——当時、決議文を皆さんで書いたっていいますよね。

永源　文書？　書類みたいなヤツか？

——ええ。

永源　（感心して）よく知ってんねぇ。

——それぐらいは知ってます（笑）。

永源　でもよ、クーデターとかそういうことしたって同じだから。結局、変わらないよ。レスラーっていうのは子供みたいに掴んだらどっかに逃げててね、そういう部分ってあるから。特に新日本にいた時そう思った。悪い言い方するとコロコロ変わるって言うかね。だから、一般社会ではプロレス界っていうのはなかなか認知できない部分があると思うよ。

——クーデターを起こそうと思ったきっかけっていうのは……。

永源　（遮って）別に会社は悪くないのよ。結局、ハイセルにお金が全部流れるからね。

——お金の流れはあまりにも不明瞭だったみたいですね。ましてや、当時はあれだけ爆発的なプロレス・ブームだったわけですからね（笑）。

永源　相当利益はあったでしょうね。数字はある程度知ってるけどさ。まあ言わねえけど（笑）。

——ダハハハ！　そんな時に猪木さんが赤字の会社をやってたわけですからね（笑）。

永源　だって猪木さんの話を聞いたら、雲に橋をくっつけるような話をしてるんだもん。ハッキリ言ってそれは無理だから（笑）。「凄いですねぇ」とか言って聞いてたけどね。

——当時は風車の理論の勉強会とかが行われていたみたいですけど。

永源　あとは●●教とかね。

——猪木さんは当時ハマってましたからね。

永源　（手をかざしながら）「永源！　少し熱いだろ」とか言われて、「いやぁ〜、そうッスねぇ。そういえば少し熱いスッねぇ」って。猪木さんも「そうだろう！」みたいに自信もってね（笑）。まさか全然効かないとは言えないだろ。

——言えないですね、猪木さんはケガも自分の手かざしで治そうとしてたみたいだし（笑）。

永源　でもあの人は、そういうマッサージみたいなもんが好きなんだよね。一回さ、俺が腰が痛くて試合できなくなったの。そしたら「永源、ちょっとそこに寝ろ！」って言ってマッサージしてもらったんだよ。それから30分ぐらいしたら不思議に完全に治ったんだよ。それは憶えてるよ。

——身体のツボを知り尽くしてるんですね。

永源　知ってるねぇ。自分もしてもらうけど、自分ですることも知ってるんだよ。（唐突に）ところで、いまあの人は何してんの？

——最近は『PRIDE』とかに絡んでいろいろプロデュースしたり、アメリカで健康にいい豆腐パンとかの売り出しをしたりとか（笑）。あとミネラルや磁気エネルギーに興味があるみたいですね。

永源　そんなこと商売人はとっくに考えてるって（あっさりと）。

——まあ昔も今も全然変わってないんですけどね(笑)。

永源　でも、そうやって一生夢を追っかけるっていうのは、ある意味幸せなのかもしれないね。「これがうまくいったら凄いことになるんだ」とか言ってね。

——ボクもそう思います。

永源　でも、最初会った人には「猪木さんは文化人ですね」とか言われて「そうですか。ありがとうございます」って言うんだけど、2回3回目に猪木さんに会うとみんな「もういいです」ってなるからな（笑）。確かに弁は立ちますよ、いろんな意味でね。国会議員も6年やったんだから。一回、少年院へ慰問に行ったとき、少年院の人間が猪木さんの話聞いて感激して涙流してたこともあったよ。

——あっ、そうなんですか？





昭和の新日マットでアントニオ猪木が突き進んだ闘魂ロード！　そのすぐ横で、いつも睨みを利かせていたのが永源である。それにしても、ストロング小林、藤原喜明、マサ斉藤、星野勘太郎、栗栖正伸など、コクのある昭和レスラーが勢揃いした祝勝シーンは今となっては壮観の一言。さらには、WWF社長として有名なビンス・マクマホン・ジュニアの父親ビンス・マクマホンの姿も。

昭和プロレスの凄みに触れる 実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

藤波は今は立派な社長かもしれないけど、あの頃はコンニャクだから!

永源　やろうとしていることや言ってることは、全くその通りなんですよ。

——それが、なかなか実現しないわけですね（笑）。さきほど、「リング上でのアントニオ猪木は素晴らしい」と言ってましたけど、猪木さんに対する想いはズバリそういう感じですか?

永源　まあそうだね（苦笑）。一回、姫路で猪木さんが16人ぐらい選手集めて言ったことがあったんだよ「言いたいことあったら何でも言え。何か言いたいことはないか、永源?」って。俺は「ないッスよ」って言ったんだけど、「何でもいいから言えよ!」って言うから「アントニオ猪木は素晴らしいと思いますけど、猪木寛至さんはちょっとイマイチですね」って言ったんだよ。そしたら、本人えらくガックリしてたよ。

——ダハハ! 正直に言い過ぎましたか（笑）。

永源　ホントにアントニオ猪木は凄い人だよ。だけど猪木寛至になったら別だよ。それをハッキリ言ったんだよ。そしたら猪木さんはガックリして新間さんにすぐ電話したんだよ。そしたら今度はすぐ新間さんから電話かかってきたよ。「永源ちゃん、みんなわかってるんだから、そんなこと口に出すなっ!」って。

——みんな思ってても言わないんだからって（笑）。そういえば木村健悟さんも同じようなこと言われてましたね。

永源　そうでしょ。だから、あなたよりちょっと上の世代の人にとっては、リング上のアントニオ猪木は素晴らしいわけですよ。

——良くも悪くも、リング上では誰も猪木さんに勝てないですからね（笑）。

永源　そう。ファンにとってみれば、リング以外は何をやっても関係ないわけだからね。

——ただ、選手にしてみれば、リング外の部分はどうしても目についてしまいますよね。

永源　そりゃあ、会社のトップの人間がすることは嫌でも目につきますよ。同じ会社にいるんだから。

——だからこそ、クーデターは起こさざるをえなかったと。

永源　クーデターっていっても、そんなたいしたことじゃないんだけどね。でもまあ……そういうことかなあ。

——結局、クーデターは新間さんと大塚さんが新日から抜けるということで終わりになったんですよね。

永源　まあ、そうだね。それで、その後みんな長州が引っ張ったんだよな。

——その流れに永源さんも乗って、ジャパンプロレスへと移籍したわけですね。

永源　藤波も最初は行くって言ってたんだよ（キッパリ）。

——あっ、そうなんですか!? 当時、藤波さんは「絶対に移籍しません。僕は人間・猪木ではなくレスラー・猪木について行きます!」とか言われてましたよね。

永源　いまは立派な社長かもしれないけど、あの頃はコンニャクだったから! 言ってることがすぐ変わるから。

——ダハハハ! コンニャクのようにグニャグニャ変わると（笑）。

永源　いまでもそうだと思うよ。

——しかし、その辺りについては安達（勝治＝ミスター・ヒト）さんもかなり怒ってましたけど、藤波さんはどこに言ってもあまり良く言われないですねぇ（笑）。

永源　ハッキリ言って人望はないと俺は思うよ（キッパリ）。ただ、クッション的に社長になってるだけで、将来は見えちゃってるよ。

——ダハハハ! そうなんですか?

永源　母ちゃんの実家には気ィ使ってるらしいよ。藤波は母ちゃんには頭上がらないから。

——しかし、藤波さんはファンが想像する通りの人なんですね（笑）。

永源　でもそうでしょ。事実なんだから。

——まあ、そうですね（笑）。

永源　まあよく言われないってことは悪く言ってるんですよ。

——そうなりますか（笑）。ボクはジャンボ鶴田さんがアメリカに旅立つ当日に取材してるんですけど、「彼は結局、社長になりたいんでしょ?」とか藤波さんについてかなり手厳しいこと言われてて、みんな思うところがあるんだなあって思いましたよ。

永源　でも彼はやっぱ難しいでしょ。だって彼に付いていく人っていないんじゃないの?

——それはクーデターの時に痛感したわけですか?

永源　いや、その前からだよ（あっさりと）。人望はないと思うよ。それは書いていいよ。事実なんだからしょうがない（キッパリ）。

——そうですか（笑）。その頃、安達さんがクーデターの時に「（ダイナマイト）キッドが新日に参戦するのを止めてくれ」って言われて、動いてたみたいですね。

永源　彼もいろいろ協力してくれたよ。それでさっきも言ったけどクーデターの時は、藤波も来るって言ってたわけ。でも、アイツは途中で〝回れ右〟したわけよ。

——で、しばらく藤波さんから連絡が来ないと思ったら「もう仲直りしたから」って言われて、安達さんが怒ったっていう話は聞きましたね（笑）。

永源　そんなことまで知ってんのか（笑）。だから、なんで新日本の社長にしたのかなって思ったんだけどね。まあ別に誰が社長になろうが関係ないことだけどね。

——まあイメージ的なものなんだろうと思いましたけど。

永源　クッションでしょ。次はあれがなるでしょ、倍賞（鉄夫）。「俺は弟の面倒みてんだよ」と。

——確かに、いまでも前の奥さんに対する想いはあると思いますね。そういえば、倍賞美津子さんを間近で見てどうでした?

永源　俺、同い年なんだよ。昭和21年生まれでさ。まあ、普通の女の子だね。

——普通の女の子ですか（笑）。ボクの中では「男気のある素敵な人」ってイメージがあるんですけど。

永源　そうそう、その通り。サバサバしてて、余計なことは口挟まないし。一緒に中近東行ったり台湾とか行ったりしてるからね。

——一緒に遊べるぐらいの女の子だったと。

永源　そうそう。彼女のお母さんがプロレス好きだったんですよ。

——そうらしいですね。

永源　（感心して）いろんなこと知ってるんだなあ。いいことから悪いことまで。

——いえいえ、そんなことないですよ（笑）。で、ジャパン移籍の話に戻りますけど、「これは大塚さんの人間関係から腹を決めました」って当時、永源さんは言われてましたよね。

永源　んなこと言ったの?

——ええ。全然覚えてないですか（笑）。

永源　まあでも、俺は1回クーデターやってる人間だから。新日にはいられないでしょ?

——居心地は悪いでしょうしね。

永源　でも、長州だって大阪から東京に戻る新幹線の中で決断したと思うよ（昭和59年9月20日、大阪府立体育会館での新日最後の試合後、午後11時過ぎに「心は決まっています」と大塚氏に電話）。8割は新日出ようと思ってたけど、2割ぐらいはやっぱり戻ろうかなと思ってたでしょ。いい悪いは別にして、しゃべって決断したことでスッキリしたっていうのはあったと思うよ。

——その時点で、大塚さんには「谷底に落ち

「『男を張る』とか『身体を張る』とか『張る』っていうことはさらけ出すことだから」
（アラーキー談）

るかもしれないから覚悟して来いよ」って言われたみたいですけど。

永源　そんなことは言わないよ（笑）。

——ダハハハ！　そうでしたか（笑）。

永源　まあ、それに近いことは言ったと思うけどね。長州は「全員で同じ墓場まで行こう。それぐらいの気持ちでいよう」って言ったけど、結局は彼が一番先に〝回れ右〟したからね（笑）。

——ダハハハ！　そうでしたね（笑）。

永源　長州はそう言ったんだから。だって、最後に全日本に残ったのは俺ひとりだけじゃない。

——もともと「ジャパンプロレスは一蓮托生。この次、何か揉め事が起きたら全員足を洗う」って長州さんは会見で言われてましたけど、そういう覚悟で始まった団体だったわけですよね。

永源　その時点ではね。でも、月日が経ってしまえば変わるよね。長州なんかも入って半年ぐらいには、もう新日本に帰りたかったんじゃないの？

——それは全日本と合わなかったっていうことですかね？

永源　いや、合わないっていうことはないと思いますけど、やっぱりあの人も猪木信者のひとりだったと思うからね。

——そうなんですか（笑）。

永源　だってそうでしょ。いまでも猪木さんの言うことは聞くんじゃない？

——まあ、一番意識してるとは思いますね。

永源　仲悪くても、最終的には猪木信者だからね。

——あとは全日で、（ジャンボ）鶴田さんなり、外人選手との間で壁にぶつかったっていうのもあるでしょうね。

永源　それはあるだろうね。やっぱり身体は小さかったから。日本人相手にはいいけどね。

——外人選手とはいい試合できないと言われてましたからね。

永源　そうだねえ。外人とはいい試合やった記憶は（思い出して）まあ（リック）フレアーとちょっと良かったぐらいで、あとはないなあ。大阪でジャンボとやって引き分けた時も、7対3ぐらいで押されてたからね。

——試合後の元気さが全然違いましたからね（笑）。

永源　でも、よくそこまで頑張ったなぁと思うよ。彼はもともと淡白な人間だからね。長い試合やるよりババババってやるタイプだから。

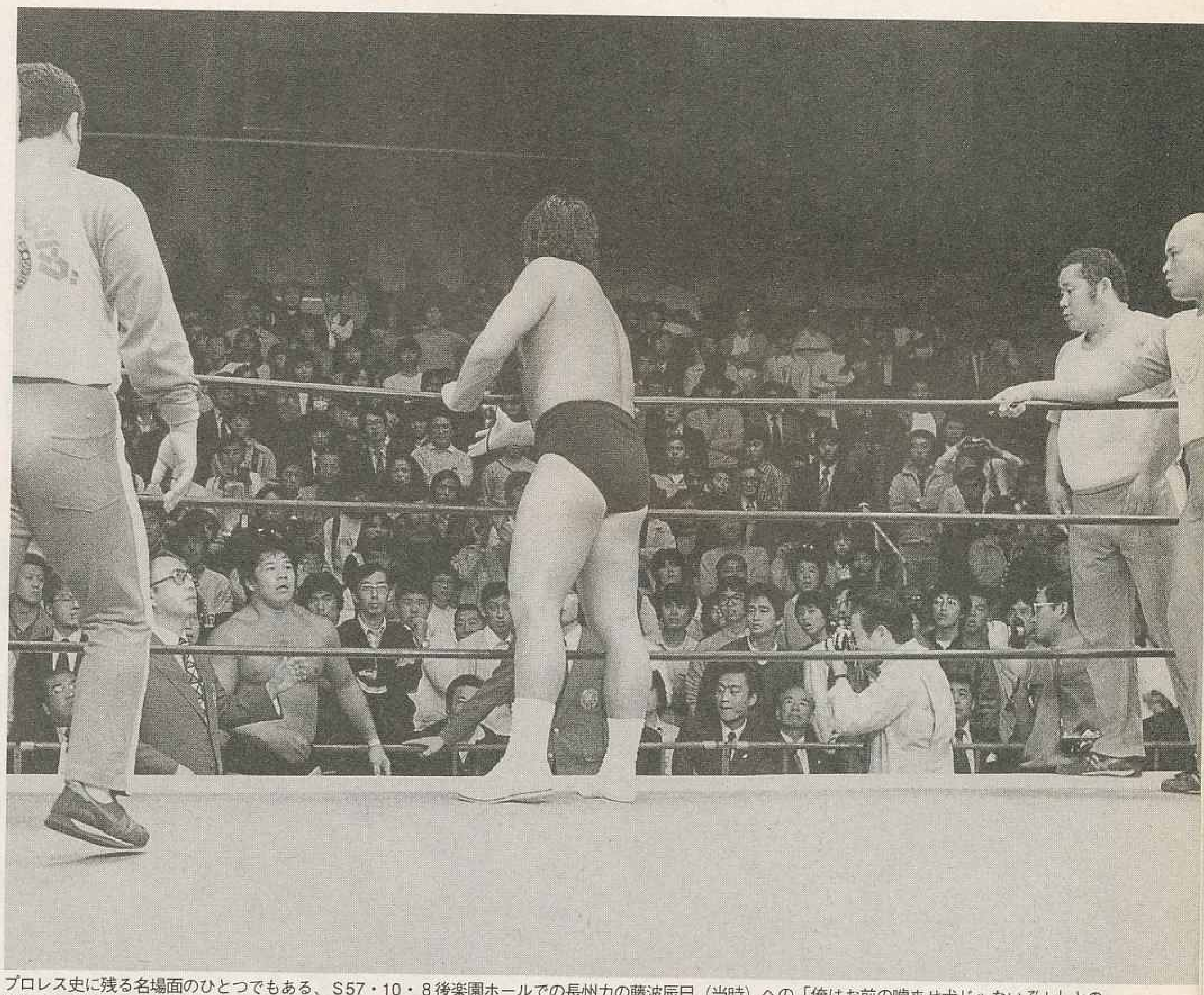
長州は、仲悪くても最終的には猪木信者だからね

——よくよく考えてみたら、鶴田さん相手に60分やったってだけでも無茶ですよね（笑）。

永源　だから女の子相手でも電光石火だよ（笑）。

——ダハハハハ！　パワーファイトで（笑）。

永源　あの頃は女の子にモテたからね（笑）。よくキラー・カンが「なんで永源さん、俺はモテないのかなぁ」なんて言ってたよ（笑）。



プロレス史に残る名場面のひとつでもある、S57・10・8後楽園ホールでの長州力の藤波辰巳（当時）への「俺はお前の噛ませ犬じゃないぞ！」との、俗に言う“噛ませ犬事件”。この現場にも当然のように永源の姿が。試合後、激怒したアントニオ猪木は、控室で藤波、長州に鉄拳制裁を加えたという。

「お前、自分の顔見てみろ！」って言ってやったけど（笑）。

——ダハハハハ！　女性に関しては当時の伝説って結構ありますもんね。

永源　小林（邦昭）もモテたし谷津（嘉章）もモテたしね。

——ああ、邦昭さんは誰に聞いてもモテたって言いますね。「サンペイちゃんは凄い」って。激しい試合をして、いい女と遊ぶと。やっぱりプロレスラーはそうあってほしいですよね。ちょっとマジメな話に戻しますけど（笑）。UWFが出てきた頃、いわゆる（カール）ゴッチさん的なシューティングの試合がもてはやされた中で、長州さんは「スタンドから試合をすれば勝てる」とか「力もシューティングだ」と言って、アマレス的なパワーファイトの強さをアピールしてましたよね。

永源　長州はいまだにスタンドでやれば強いと思うんですよ。歳はいってるけど、体力は全然落ちてないから。

——グラウンドから始まるような極めっこだと負ける可能性もあったけど、スタンドからは強いと？

永源　結構、彼は瞬間的なパワーが強かったから。藤波なんかとは全然違うよ。

——ダハハハハ！　そこでまた藤波さんが出てきますか（笑）。

永源　いやホントに。ねちっこさとかスタミナは藤波の方があるかもしれないけど、瞬間的な強さは長州の方が全然あったね。

——細かい技術を超えた強さがあったわけですね。

永源　あったあったあった。

——だからこそジャパンプロレスのエースとして押し出すことができたと。

永源　そうだね。その通りですよ。

——永源さんから見て長州さん的な強さとゴッチさん的なもの、どっちが上っていう言い方は難しいかもしれないですけども、どちらも間近で見てきた永源さんはどう感じてたわけですか？

永源　アマチュアだったらゴッチが強かった

昭和プロレスの凄みに触れる
実録! 豪傑一代記

紙のプロレス

スーパースター列伝

かもしれないけど、そういうのとプロレスは違うからね。ゴッチだって相撲やったら吹っ飛ばされてたから。まあ立ち技から入れば長州の方が強いんじゃないの?

——最近のバーリ・トゥードとかはスタンドから始まるからレスリング勢が強さを発揮してますけど、プロレス的な関節技のテクニックを持った人はイマイチ強さを見せられないですからね。

永源　そうそう。よくわかってんじゃん（笑）。

——ジャパンの話に戻りますけど、『週プロ』を取材拒否してた頃に矢面に立っていたのが永源さんだったって印象があるんですけど。

永源　そんなこともあったなあ（しみじみと）。輪島（大士）さんが七尾でデビューする時に、正式に関係が良くなったからな。あの時、『週プロ』から「取材させて下さい」って言われたんで「はい、いいです」って言ったんだよ。

——永源さんが窓口だったんですか?

永源　まあそうだね。

——選手会長として、取材拒否とかを決定したりするのも永源さんだったと。

永源　結構そうだったね。でも、いま考えてみれば、なんでそういうことになったのかわからないんだけどね。まあなんかしら理由があったからそうなったんでしょうけど。でも、取材拒否っていっても3ヶ月ぐらいで、そんな長くなかったんじゃないかなぁ。

——永源さんは揉めたこともスッキリ忘れていくタイプなんですね（笑）。

永源　そういうわけでもないけど、揉めたのは事実ですからね。

——その頃、マスコミに対してはどういう思いがあったんですか?

永源　だってマスコミとケンカしても得しないでしょ。得はしないけどそうなったってことはそれなりの何かがあったわけですよ。俺個人の意思じゃなくて、選手全体としても「取材拒否はしょうがないでしょう」って部分はあったよ。俺も好き嫌いハッキリしてるから。（ターザン）山本も、新日本が取材拒否だって言ってクビになったんだからね。「ヘッドが変わらなきゃ永久的に取材はノーだ!」って言うんだから。やるんだったそこまでやった方がいいと思うよ。

——とことん潰しに行くぐらいの感じで。

永源　その方がいいんじゃない?　わかりやすくて。

——ジャパンが分裂に至る予兆を、永源さんはいつ頃から感じてたわけですか?

永源　長州が入って1年過ぎたら、「新日本に帰る」って言ってたような気がするけどな。

——インタビューとかでも、しょっちゅう青山（新日本）がどうとか言ってましたからね。

永源　だって、全日本からはリング以外でも結構気を使ってもらってたからね。「馬場さんとか全日とかに対しては何もない」って言ってたけど、「じゃあ何でやめんだよ」って聞いたら「いや〜っ。馬場さんにも感謝してるし」って。だから、さっき言ったように、やっぱり外人の壁があったりジャンボ鶴田の壁があったりとか、それも一部の理由かもしれないね。外人とやると、どうしてもパワーの差があったから。新日本なら藤波とか日本人相手にしてパワーが見せられるわけだから。

——長州さんが（ブルーザー）ブロディとやった試合も、いまでは伝説的ですよね。ブロディが全然試合させなかったっていう。

永源　長州もパワーはない方じゃないけど、ブロディにかかっちゃねぇ（しみじみと）。長州じゃなくても誰だってダメだと思うよ。でもさ、ああいう強さ持った選手って、いまはいないねぇ。ケンカやったら強いだろうなぁ。

——鶴田さんも唯一、「ブロディには勝てなかった」って言ってますからね。

永源　さすがのジャンボもアップアップしてたからね。スタミナもパワーもあるから。

——当時は新日本の方が強いっていうイメージが世間にあって、長州さんも全日のことを「ぬるま湯の中のオナラ」とか言われてましたけど、ブロディも含めて全日本にはどう考えたって強い外人とバックボーンがある日本人選手が集まってたことにボクも後から気付いたんですよ。

永源　あの頃はブロディも（スタン）ハンセンもいたからなあ。やっぱりね、外人に関しては全日本は凄いよね。俺が新日本にいる時、足立区体育館かなんかで猪木さんがテレビを見てて「凄いなぁ。新日本でこれだけの外人選手は呼べねえよ」って言ってたし。（ブルーノ）サンマルチノとか（ボボ）ブラジルとかね。

——それで話は変わりますけど永源さんは、ジャパン時代から馬場さんとは仲が良かったみたいですね。

永源　仲が良かったって言うけど、俺より大



S59・12・4高松市で行われたジャパン・プロレスのプレ旗揚げ戦。控室でスクラムを組んで一致団結をアピールをするジャパン勢。ちなみにこの日のメインで長州と対決したのはストロング・マシーンに酷似した怪覆面X（ノット桜庭和志）。その正体は、全日本プロレスのマイクアピール上手な某ベテラン選手と言われている（バレバレ?）。

「『男を張る』とか『身体を張る』とか『張る』っていうことはさらけ出すことだから」
（アラーキー談）

……渕は残ったって、あれ、声掛かんなかっただけでしょ（あっさりと）

先輩ですから。仕事の関係で馬場さんの側にいた時だって、やっぱり2歩3歩下がってましたよ。

――仲野（信市）さんも、「永源さんは馬場さんのハートを掴むのがうまかった」って言ってましたけど（笑）。

永源　ハートを掴むっていうかね（笑）、こうしたら喜んで、こうしたら怒るんだろうなっていうのはわかってましたよ。極力怒るようなことはしないようにしてただけだから。でも、たまには怒るようなことを言わなきゃいけない時もあるんだけどね。そういう意味でも、プロレスは駆け引きですから！

――勉強になります（笑）。そういうのもあって、ジャパンプロレスが分裂した時に永源さんが残ったっていうのは……。

永源　俺は残るって言ってたから。戻る気はなかったしね。でも結局、新日本で分裂して、ジャパンも分裂しちゃったからね。それで新日本に帰る人間と全日本に残る人間がいたわけよ。

――その残った人達がまたSWSに行ったわけですからね。

永源　そうそうそう。考えてみたら凄いよねぇ（笑）。

――凄いですよね（笑）。ホントに永源さんには様々な分岐点があったわけですけど。

永源　あんまり深くは考えなかったからね。人間あんまり深く考えたら動けないよ。

――常にフットワークよく軽い気持ちで（笑）。

永源　いやっ、軽い気持ちばっかりじゃダメだけどな（笑）。でも考えてみたら、一旦飛び出してまた戻るっていうのは一般社会じゃ全く考えられないことでしょ？

――まあそうですね。そう考えるとプロレス界って凄いですね。

永源　ん？　凄いって言うけど、あんたバカにしてんの？（笑）。

――いえいえ、そんなことないです（笑）。

永源　ある意味では寂しい世界ですよ。戻る方も戻る方だし、受け入れる方も受け入れる方だと思うけどね。

――クーデター起こした人が社長にもなれるし（笑）。

永源　そうですよぉ。

――それで、全日本に残られたわけですけど、その頃は永源さんも完全にショーアップされたプロレスに徹してたわけですよね。

永源　そんなに……（考え込んで）20年ぐらい内容は変わってないと思うよ。

――ツバは新日本の頃から吐いてたっていう話ですね（笑）。

永源　そうだっけ？　長いねぇ（しみじみと）。

――長いですねぇ（笑）。あれのきっかけってなんだったんですか？

永源　俺もよくわかんない。なんかアクシデントじゃないかなあ。なんかの拍子でツバが飛んじゃっただだろうねぇ。

――それが思いのほか受けたんですかね（笑）。

永源　受けたわけじゃないだろうけど。

――でもあの飛距離は凄いですよね。

永源　そんなこと自慢になることじゃないだろっ！（笑）。

――いやいや（笑）。ツバが飛ぶ限りはまだまだ現役でみたいな感じがあるじゃないですか、飛距離が落ちてきたとか言われないようにしてるわけですよね（笑）。

永源　んなこたぁねぇよ（笑）。（飽きてきて）まだインタビュー長いの？

――そろそろノアの話に移りますから（笑）。ああいう試合スタイルに移るに至るキッカケって非常に気になるんですけどね。もともとはああいう感じの試合スタイルじゃなくて、カッチリとした試合をしてましたよね？

永源　なに？　いまはどんな試合してるっていうんだよ！

――いやいやいや（笑）、幅が広がったというか。

永源　あっそうか。たまにはいいこと言うねぇ（笑）。

――ダハハハハ！　でも（ドン）荒川さんもそうですけど、営業力のある選手ほどショーアップされた試合に行きつくような気がするんですけど。

永源　それはどうかなぁ。

――お客さんの目を意識してるというか。

永源　それはあるよ。やっぱり日本と海外のマットじゃ試合内容は別だからね。

――永源さんの試合は子供から老人まで届くと思うんですけどね。

永源　（謙遜して）そんなことないですよ。

――ところで永源さんが興行とかをはじめたのは全日本時代からですか？

永源　興行を手伝いはじめたのは新日本の頃から。だから、27～8年ぐらいやってることになるかな。

――新日時代からなんですか？

永源　その頃からキップ売ってたよ。でもチケットを売るっていうのは難しいもんで、必ず調子のいいこと言わないと売れないからね。

――そういうもんなんですか？

永源　普通はそういうもんじゃないんだろうけど、プロレスはそういうもんなんですよ。例えば車を50台売る営業マンがプロレスのチケット売れるかっていったらそうでもないと思うよ。キップ売るにもいろいろ駆け引きがあるんだよ。

――これも駆け引きですか（笑）。荒川さんと永源さんは相当キップ売ったんだろうとは思うんで、永源さんがノアで営業部長というポストに就いたのが凄い納得できましたね（笑）。

永源　まあなんかね、少しはノアのお手伝いしようと思って。でも今は、俺の周りは景気悪いからね、ハッキリ言って。その点、新日本はそういう後援者を掴むのがうまいよ。

――猪木さんなんかもそういう感じですよね。それで、そろそろ永源さんがノアに移った理由をズバリ聞きたいんですけど。

永源　いや、別に理由も何もないよ。ただ単に三沢社長と考え方が近かったっていうことですよ。

――三沢さんは全日を抜けるに当たって、選手との契約面での問題があったって言われてましたけど。

永源　それは若干あったかもわかんないね。その辺は俺もあんまり詳しくは話もしないし、突っ込まなかったんだけどね。でも経営者が考えてることは大体わかるからな。だから俺と（同席している）仲田龍（リングアナ）は悪



S61・1・28東京体育館で鶴田＆天龍組の持つインター・タッグに挑戦した長州＆谷津組。この試合は敗れたものの、2・5札幌中島体育センターで再挑戦し、見事王座奪取に成功。控室で喜ぶジャパン軍団の面々。

昭和プロレスの凄みに触れる実録！ 豪傑一代記

紙のプロレス

スーパースター列伝

いことは全部関わろうと思って（苦笑）。

―ダハハハ！ 三沢社長の弾よけになるんですか？ 昔、猪木さんの弾よけになったように。

永源 そういうのとはちょっと違うよなぁ（苦笑）。

―三沢さんとは、全日を離脱するにあたって結構お話はされてたんですか？

永源 「なんかあったら協力するよ」とは言ってたけど、それ以上の細かい話はしてませんよ。彼と俺とは歳も時代も違うしね。俺が考えてることはもう古いのかもわかんないしね。

―これだけ団体を移ってきた永源さんが、いままた移るっていうのは結構決断が必要だったんじゃないかって思ったんですけど。

永源 そんなに決断はしてないよ（あっさりと）。

―全日に残るっていう選択肢はなかったんですか？

永源 いやぁ、なかったね（キッパリ）。あんまり話の合わない人もいるしね。（小声で）大きな声じゃ言えませんけど。

―でも、永源さんだったら、（馬場）元子さんとも話が合いそうなイメージがありますけど。

永源 えっ、俺？ 話すれば噛み合うと思いますけど、またどっか行っちゃうと金の話になるからね。

―ダハハハハ！ そうですか（笑）。

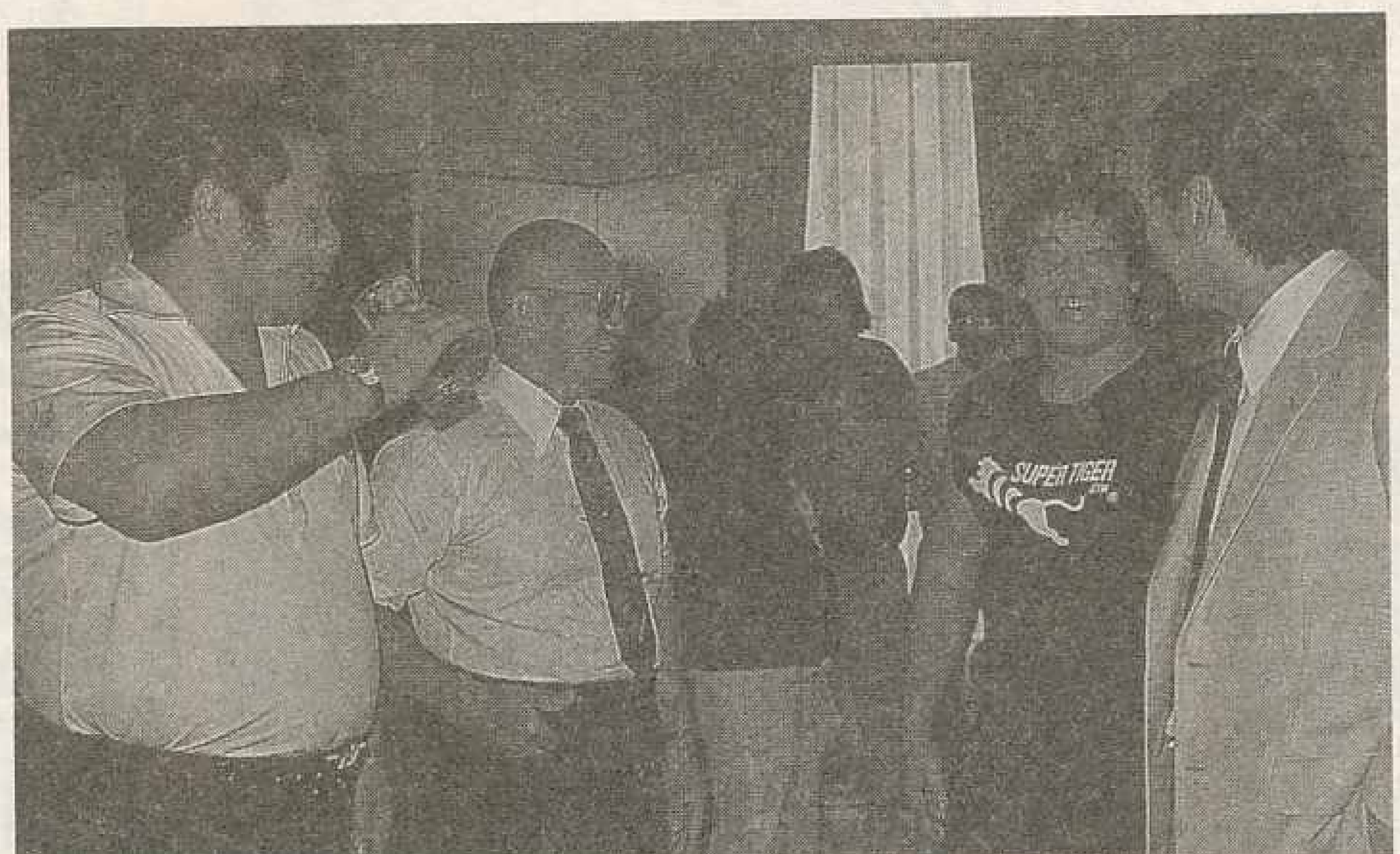
永源 載っけちゃっていいよ、事実だから。そりゃあ話を合わせることはできますよ。ただ、あとはこっちが戦略するんだから。そこでこの人と付き合えるか、この人とは付き合えないかとか判断すればわかるわけだからさぁ。

―そこで三沢さんを選んだっていうことが全てだったわけですね。

永源 まあ残るか出るか、ふたつにひとつですからね。まあこれだけの選手が抜けたってことはね？

―ただごとじゃないですよね（笑）。

永源 やっぱり居心地が良くなかったんでしょ。いろんな部分でね。いい部分もあったけど悪い部分が多かったたってことでしょうね。



たまたま編集部で写真整理をしていて発見した、おそらくターザン山本氏の出版記念パーティーでの一枚。永源&山本小鉄&佐山聡&大塚直樹、後ろにはターザンの姿も。このメンバーで座談会をやったら相当面白いはず。

―同じ悪役商会の渕（正信）さんが残ったっていうのは何なんですかね？

永源 ……渕は残ったって、あれ声掛かんなかっただけでしょ（あっさりと）。

―ダハハハハ！ そういう噂はよく聞きますけど（笑）。

永源 だって渕だって声掛かれば来るでしょ。だから、まあハッキリ言って人望がないってことだと思うよ。

―わぁ（笑）。川田（利明）さんに続いて。

永源 いやいや、だってそうでしょ（キッパリ）。まあそれは、あなた達もいろいろと聞いてるだろうけど。

―まあ、たぶんそういうことなんだろうとは思いましたけどね。

永源 来る来ないは別として、声も掛かんないっていうのは寂しいことですよ。川田にしても渕にしても、声が掛かれば考えるだろうから。でも、それを判断する口実がなかったっていうことは、やっぱり川田と渕だって嬉しくはないんじゃない？

―まあ嬉しくはないでしょうね（笑）。

永源 まあ川田も渕もスポーツ選手としての前に人間的に成長しないといけないでしょ。相撲でも横綱になる人は、人間的にも横綱にならなきゃ人は認めてくれないでしょ。

―北尾（光司）さんとかですか（笑）。

永源 俺は名前は言わないけど（苦笑）。俺の後輩になるわけだからね。

―その点は、猪木さんにも通じるところがあるんでしょうね。リング上ではいいけどと（笑）。

永源 それはみんなそう思ってるんじゃない？ これも事実だから書いてもいいよ。

―ダハハハ！ 鶴田さんが最初にアメリカに渡る前に「ボクはツバを吐いたりすることもできないし、渕くんみたいに世渡りもうまくないし」って言ってたんですよ。その時は普通に聞き流してたんですけどね（笑）。

永源 ツバを吐けないってどういうこと？

―そういう試合はボクには向いてないしっていうことだと思いましたけど（笑）。

永源 あ、試合が？ それはシックスメンに入るってことでしょ。彼だってプライドがあったら、一回きりだったら入ってもいいけど、1年2年入ったら彼がいままで作ったものがなくなっちゃうわけだよ。俺なんかは上にあがらないからできるんであってね。

―それを考えると（ラッシャー）木村さんはよくシフトしましたよね。

永源 そうだよね。あの人は立派ですよ（しみじみと）。あの人ぐらいに泣き言も言わずにまっすぐ生きてる人はホントに尊敬するよ。

―木村さんの悪口って誰も言わないですからね。

永源 あの人はね、口を広げたら言いたいことは山ほどあると思うよ。でも絶対愚痴は言わないしね。

―いろんな被害者になってるはずですからね（笑）。

永源 まあそうだね。そういう意味では渕っていうのは……世渡りうまいっていうか、周りの人間から嫌われてるんだよ。

―ダハハハ！ 難しい問題ですねぇ。

永源 だから、若い連中が渕に誘われて嫌な時は、「永源さんとメシ食いに行かなきゃならないから」って言えって。

―なるほどなるほど（笑）。

永源 あいつは、いま46かなんかだけど、結婚してないだろ。いまだに独身だからね。

―ファンとかにもよくネタにされてますからね（笑）。

永源 俺は前に言ったことあるの。「結婚しないと世間的な信用も得られないよ」って。なぜ結婚しないかわかるでしょ？

―いや、知らないです（笑）。

永源 そのうちわかりますよ（笑）。

―人間性の問題なんですかね？

永源 ボクの口からは言えないな（笑）。

―そうですか（笑）。それで今回、全日分裂の件で他団体とかの人も含めて話を聞くと、「川田はわかってない」っていう意見が非常に多いんですよね。

永源 彼もまだ世の中知らないというかね。わかってない発言とか多いでしょ？

―三沢さんも「川田は考えないで発言しすぎる」って言ってましたね。

永源 外の世界を知らないんじゃない？ それに自分の立場とかっていうのをわかってないんでしょ。入ったばっかりの人間が何喋ったって記事にならないけど、彼なんか話したら記事になるんだから、ここでこういうこと

声掛かんなかっただけでしょ（あっさりと）

思うんで、永源さんがノアで営業部長という

（同席している）仲田龍（リングアナ）は悪

「『男を張る』とか『身体を張る』とか
『張る』っていうことはさらけ出すことだから」
（アラーキー談）

喋らなきゃいけないってわかるでしょ。

――川田さんの発言は常にズレてますからね（笑）。

永源　でもまあ残ったんだからしっかり頑張ってほしいとは思うけどね。渕は現役はそんなに長くないけど（あっさりと）。

――ダハハハ！　そうですか（笑）。

永源　川田はまだまだ力もあるし、ネームバリューもあるし、華もあるからね。

――でも、これから絡んでいくであろう新日の選手まで「川田の顔は見たくないから、それよりノアの選手と闘いたい」ってことを言ってて、とても興行を盛り上げる発言には聞こえないんですよね。

永源　興行を盛り上げるんだったらそんなこと言いませんよ。でもそう思ってるっていうのは事実でしょう。どっちがメリットあるかって考えたらあなただってわかるでしょ？

――ええ。だから全日本と交流しようとしているフロントの考えと選手の考えがバラバラで面白いなっていう（笑）。

永源　でも俺も、こんなに移ってくるとは思わなかったよ。実際のところ5～6人だと思ってたから。別に手を引っ張って「必ず来いよ」なんて全く言ってないしね。会社に50人近くいて、40何人が来てるんだからね。俺は逆にみんなに「何で来た？」ってよく聞かれるんだけど「8割以上の人間が来るんだから、なんか理由があるんだろ」って言うと、みんな理解してくれるよね。

――先ほど永源さんは「自分には先はない」って言ってましたけど、現役生活はあとどれぐらいだとお考えですか？

永源　自分には先はないけど、会社にはあるよ。それに俺はもう、あなたのお父さんみたいな年齢だから。

――でも、まだまだ何かやってくれるだろうっていう期待はありますよ。

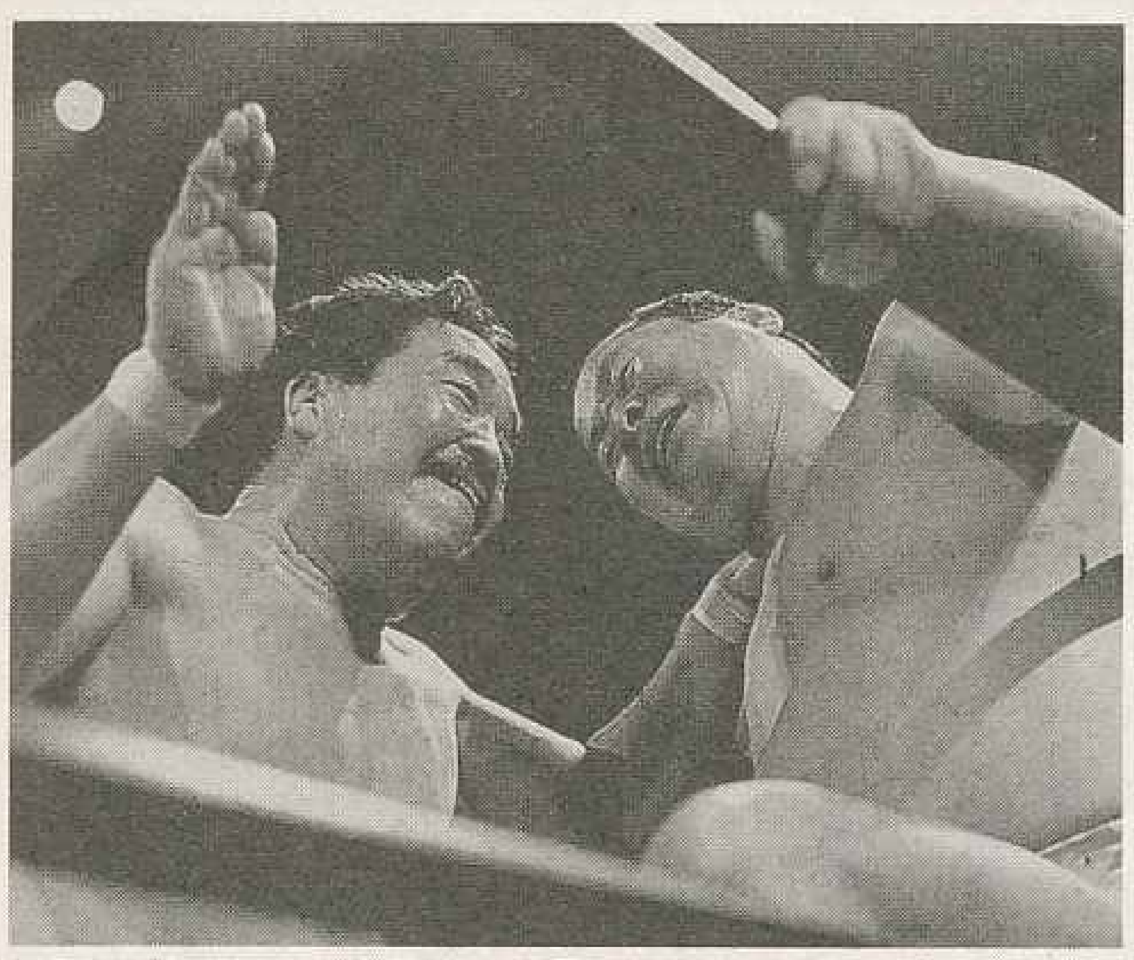
永源　そう？　まあ俺も、もう少しは頑張りたいと思うよ。現役自体はもう長くないと思いますけどね。

――コンディションはいいですからね。フルマラソン走るコンディションを保つっていうのは凄いですよ。

永源　仲田も走ったんだよな。

プロレスラーは強いんですよ。（突然）はいっ、もういいでしょ？





新日本時代の若かりし永源とともに写っているのは、吉田光雄時代と思われる長州力現場監督に、元リングスレフェリー・北沢幹之さんの姿も確認できる【写真上＝北沢幹之さんの秘蔵写真】全日本からノアヘリングは変わっても、ファミリー軍と悪役商会の"明るく楽しく激しい"重要文化財的ファイトは続行中だ！　この闘いを見なければ20世紀も終われないぞ！

仲田　死ぬかと思いました（笑）。

永源　まあリング上がる以上はね、練習して上がらないと、お金を払って来てくれる人に失礼ですよ。木村さんだってね、ハードな練習はしないけど、一週間に三回ぐらいはジムに行って練習してるからね。

――秋山（準）さんが、永源さんとか木村さんの試合は重要文化財なんだから大事にしなきゃいけないって言ってましたね。

永源　重要文化財はねえだろ！　バカにしやがって（笑）。

――ダハハハハ！

永源　まあ以前からずっとやってるけど、まあ野次とかもほとんどないしね。いいか悪いかは別にして本人はそれなりに一生懸命やってんだから。

――そういう面白い試合の中にも怖さも感じさせるようなものもないとダメですよね。

永源　やっぱり怖さもないと、面白いばっかりじゃダメでしょ。

――若手選手に激しく当たったりとかっていう（笑）。橋（誠）さん相手だと特に凄いみたいですよね。

永源　いやぁ、橋なんかは思いっきりガンガン行かないとわかんないんですよ。いまのうちに苦しい思いをした方がいいんですよ。ず～っと温室にいたらいいレスラーになれないですよ。

――面白い試合の中にそういうスパイスが入るとだいぶ変わりますからね。

永源　そうですね。お客さんが認めてくれたらいいなぁって思ってね。もう終わり？

――最後に一つだけ。花柄タイツは、あれは永源さんのアイディアですか？

永源　あれは俺が作ってるタイツ屋のお兄ちゃんが「旗揚げ戦にぜひ履いてくれ」って言うんで履いたんだけど、せっかくもらったからね。ああいうのは女の子が花柄パンツ履けば機嫌いいけど、俺が履いたら気持ち悪いでしょ。

――ダハハハ！　昔のマイティ井上さんみたいでしたよね。

永源　（感心して）よく知ってるねぇ。あの人もああいうタイツが多かったからね。

――今後もコスチュームとかも今風にドンドン変えていくんですか（笑）。

永源　いいものがあればね。もうそろそろいいだろ？

――あと少しだけお願いします（笑）。最近格闘技系の試合がブームになってますけど、それについて何かありますか？

永源　別にないねぇ（あっさりと）。まあウチはウチでしっかりやってれば、それが一番いいんじゃないですか？

――はぁ。三沢さんなんかはそういうブームに対して危機感を感じてやってる部分もあると思うんですよ。

永源　いや、それは少しはあるでしょ、危機感はね。でも一緒にすることはおかしいと思うけどなぁ。果たしてそれでお客さんが入るのかっていったら必ずしもそうじゃないしね。K-1だって以前より落ちてるわけだしね。

――『PRIDE』とか対グレイシーといった流れに関してはどう思われますか？

永源　俺なんか試合することは有り得ないけどね。社長なんかは何があっても対応できるようにトレーニングしてると思うからね。

――この間、百田（光雄）さんにインタビューした時に、同じような質問をしたら「昔のブラックジャック・マリガンとかだったら絶対負けねえよ！」って言ってたんですよ。

永源　そりゃそうですよ！　プロレスラーは強いんですよ。（突然）はいっ、もういいでしょ？

――ありがとうございました（笑）。

【00年8月7日、ノア事務所にて収録】

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　AM11:00～PM7:00　年中無休

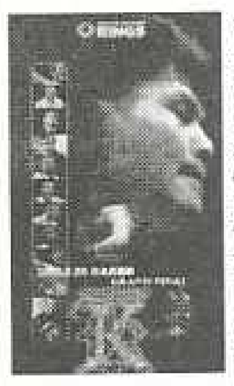
秋の夜長には…話題作続々登場!! 文子優勝!トーナメントスカイビデオ! 武藤スペシャルコレクションDVD!

VIDEO &DVD 特集

KING of KINGS WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT

10/4発売

3本組360分予定￥15,000



1999.10/28 代々木、12/22 大阪、2000年2/26 武道館で開催されたリングスのビッグイベント『KOKトーナメント』がついにビデオ化!しかも3本組BOX!初回特典としてKOKステッカー封入!全試合完全収録はもちろん、記者会見の模様など未公開映像も大量に収録。また前田代表の検証インタビュー、さらに決勝の武道館での田村vsヘンゾのUのテーマでの入場シーンを完全再現!各大会ごとに1本なので非常に見やすくなってます。コレで今年のKOKも準備万端!

収録内容

【Aブロック一回戦】(1999.10/28 代々木)
●ハステルvsアフメッド●ザザvsババル●ユーリvsA.オーフレイム●V.オーフレイムvsノゲイラ●金原vsホーン●バクーリvsヘンダーソン●ミーシャvsマッコーリー●山本vsコーラー　二回戦●ババルvsハステル●ノゲイラvsユーリ●ヘンダーソンvs金原●コーラーvsミーシャ

【Bブロック一回戦】(1999.12/22 大阪)
●コピィロフvsブランコ●フィエートvsロバーツ●スミスvsリー●坂田vsヘンゾ●タリエルvsアイブル●高阪vsヘイズマン●ジュリアスコフvsラジック●田村vsメネー　二回戦●フィエートvsコピィロフ●ヘンゾvsスミス●高阪vsアイブル●田村vsジュリアスコフ

【GRAND FINAL】
準々決勝●ミーシャvsババル●アイブルvsヘンダーソン●コピィロフvsノゲイラ●田村vsヘンゾ　スペシャルマッチ●ザザvsホフマン　準決勝●ヘンダーソンvsノゲイラ●田村vsババル　スペシャルマッチ●ヘイズマンvsコーラー　決勝戦●ババルvsヘンダーソン

PRIDEvs掣圏道

9/29発売

アルティメットボクシングinYOKOHAMA ARENA
￥9,970



2000年6/11横浜アリーナ。初代タイガーマスクこと佐山聡が築き上げた、市街地型実戦武道せい圏道とバーリ・トゥードのPRIDEが激突。この対抗戦には日本人4選手も参戦。注目はやはり怪獣王国佐竹。得意の打撃で楽勝かと思いきやピンチの場面も…。他にも噂のジャイアント落合選手も登場!外人では桜庭を苦しめたブラガやUFCライト級王者パット・ミレテックを撃破した噂の強豪ペレも登場。元リングスオランダのフライも出ているよ!

収録内容　●太刀光vsズラフ●ブラガvsマゴメド●ブラスドーブvsアンドレイ●ジャイアント落合vsイゴリ●園田隆vsグレゴリー●ペレvsナシル●フライvsカフカズ●佐竹vsデニス

プライド.9 ～ギルバート・アイブルついにPRIDE見参～

120分9,970円



2000年6/4名古屋レインボーホール。プライドGPが終わりPRIDE新展開の幕開けとなったPRIDE9。今回の目玉は何と言ってもギルバート・アイブル!リングス無差別級王者のままPRIDEに参戦、PRIDEルールでどういった戦いをするのか?注目を集めたが実力者ビクター・ベウフォートに圧倒されてしまう。何故アイブルが?その答えをこのビデオで!他にもPRIDE男小路の激勝、久々佐野参戦、GP準優勝者ボブッチャンチンvs松井、オランダの暴れん坊ピータース参戦と今回も見所多し。

収録試合　●アイブルvsベウフォート●松井vsボブチャンチン●グッドリッジvsロドリゲス●小路vsレンケン●佐野vsニュートン●ホワイトvsゴエス●テリグマンvsバヘット●ヒーリングvsピータース

桜庭和志vsホイス・グレイシー

～死闘1時間49分完全収録～　120分2,940円



2000年5/1東京ドーム。桜庭ブーム到来!日本格闘技史上屈指の名勝負となったこの一戦。もちろん完全ノーカットでお届け!あの恥ずかし固めから、胴着脱がし、サクラバード・チョップ、そして、怒涛のローキック。勿論、細かい技術攻防もしっかり見て欲しい。桜庭の破天荒な攻撃もしっかりとした技術があってこそとわかっていただけるビデオです。グレイシーの呪縛がこのビデオで解き放たれます。ともかく、永久保存版として御家庭に一本は必要です。ビデオ用の特別インタビューも収録。プラス、プライド8の桜庭vsホイラー・グレイシーもダイジェスト収録。

プライド.GP2000 10,290円

DVD



2000年1/30&5/1東京ドーム。プライドDVDシリーズ第3弾!人類最強トーナメントプライドGP2000の全試合を収録。藤田、佐竹のプライドデビュー戦やそして桜庭vsホイスと絶対保存試合ばかりです。DVD特典として1.副音声で桜庭、浅草キッド、サダハルンバらが厳選された8試合解説。(藤田vsナイマン、桜庭vsメッツァー、大塚vsボブチャンチン、高田vsホイス、桜庭vsホイス、藤田vsケアー、桜庭vsボブチャンチン、コールマンvsボブチャンチン)特典2、試合後のオフィシャルインタビューを収録。敗戦後のホイス、エリオらの敗北を認め桜庭選手を称えるコメントは超貴重!特典3、ビデオ未収録のリザーブマッチ、シウバvsシュライバーを収録。

大日本プロレスオフィシャルビデオVol.1

プレ・ワールドエクストリームカップ 国内代表選手選抜戦

3,500円(送料込)

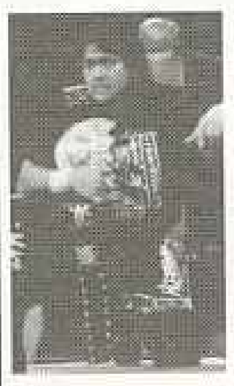


2000年3/26三郷村、3/27浜松、4/4伊勢原、4/5名古屋。久々に出ました大日本ビデオ!ワールドエクストリームカップの国内代表権を賭けたジ・ウインガー、アブドーラ、本間、葛西の4選手のリーグ戦を全戦収録。このリーグ戦の主役は本間!最終戦ではすでに1位で代表権を獲得したウインガーを破り、連続で小林との2位決定戦を行い、熱闘に次ぐ熱闘の末、代表権を獲得。男、本間を堪能して下さい!全リーグ戦十決定戦収録。

武藤敬司スペシャルコレクション

DVD

9/25発売　2枚組287分10,500円



1985年のYL杯での1999年の中西戦まで、武藤敬司のベストバウトを一挙収録。今年3月に発売されたビデオ「武藤敬司スペシャル1&2」に新たに7試合を追加収録。vsジェリー・グレイ(`86年8/9ハワイ)、ブラック・ニンジャvsマーク・スター(フロリダ修業時代)、vsペドロ・オタービオ(`96年9/23横浜アリーナ)、vsスコット・ノートン(`99年1/4東京ドーム)、vs小島聡(`99年7/20札幌)、vs永田(`998/11大阪)、vs中西(`99年10/11東京ドーム)、どれも必見の名勝負!これぞ、武藤敬司の保存版です。

その他の収録試合　vs蝶野(`85年3/15鹿児島)、ホワイト・ニンジャvsデニス・ブラウン(`86年2/14フロリダ)、vs藤波(`86年10/13後楽園)、武藤&越中vs前田&高田(`87年3/20後楽園)、武藤&蝶野vsザ・ロード・ウォーリアーズ(`90年7/22月寒)、武藤&馳vsビガロ&ベイダー(`92年3/1横浜アリーナ)、vsスティーブ・オースチン(`92年8/10両国)、vs天龍(`99年5/3福岡)他

初代タイガーマスク ファイナルコレクション

～猛虎伝説～

DVD

769分6枚組31,500円



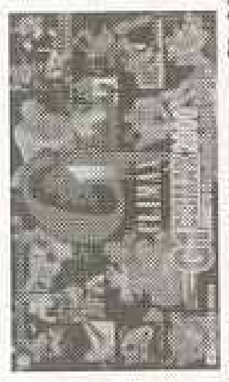
ついに登場!初代タイガーマスクのDVD!それもこれまでに発売された猛虎伝説のビデオシリーズ全部をDVD化、プラスLDのみに入っていた佐山氏本人による技の解説も収録。更にこのDVDのみに初収録が5試合もあります!それは`81年10月蔵前・タイガーvsM.ハリケーン、`81.12月愛知・タイガー&藤波vsS.マキナ&カネック、`82.3月鹿児島・タイガー&星野vsブラックマン&C.コロセッティ、`82.8月後楽園・タイガー&藤波vsB.タイガー&P.ロバーツ、`82.9月タイガー&星野vsB.タイガー&ビジャノ3号の5試合。さらにシングル戦全162試合のデータの検索可能!ジャケットも豪華!本当にこれぞ永久保存版DVDです。

主な収録試合●`81.4/23.デビュー戦vsキッド●`82.1月.WWF.Jr王座決定戦vsキッド●`82.2/9.WWF.Jr戦vsベビーフェイス●`82.6/18&7/6.WWF.Jr戦vsウルトラマン●`82.8/30.WWF.Jr戦vsキッド●`82.11/4.WWF&NWA.Jr戦vs小林●`83.6/12.WWF.Jr王座決定戦vsフィッシュマン●`83.8/4.WWF.Jr戦vs寺西　他

G-1 CLIMAX 2000 VOL.1&2

9/25発売

各¥10,290



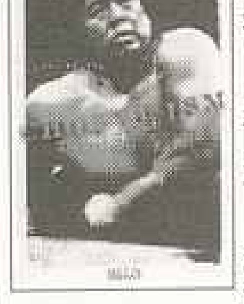
2000年8/7&8日 大阪府立体育館、8/9 広島サンプラザホール、8/11～13 両国国技館。第10回記念大会を迎えたG1クライマックス!ジュニア戦士初参戦!史上最多の総勢20名が4ブロック・リーグ戦で激突!新日最強を決める真夏の祭典で健介が史上2人目のIWGP&G1 2冠制覇!

収録内容

【VOL.1】(全試合ダイジェスト)
●西村vs鈴木●藤波vsライガー●蝶野vs高岩●天山vs中西(8/7.大阪)●小島vs木戸●飯塚vsライガー●永田vs藤波●蝶野vs吉江(8/8.大阪)●天山vs安田●健介vsヒロ●ライガーvs後藤●永田vs飯塚●越中vs蝶野(8/9.広島)●藤波vs後藤●平田vs越中●中西vs西村●永田vsライガー●佐々木vs小島(8/11.両国)　他全32試合

【VOL.2】(8/13のみ全試合ノーカット)
●小島vsヒロ●高岩vs越中●中西vs安田●西村vs天山●後藤vs永田●佐々木vs木戸●蝶野vs平田●飯塚vs藤波(8/12.両国)●永田vs飯塚●中西vs天山●佐々木vs永田●中西vs蝶野●佐々木vs中西(8/13.両国)

長州イズム 長州力特集 120分¥9,870



長州イズム…それは、頑なまでに己を貫き通した人生の証し。そのイズムから発せられる闘いは、多くのレスラーに無言のインパクトを与えながら脈々と息づいている。今あらためて、天下の長州イズムを徹底検証。

収録内容●長州・マサ斉藤vs藤波・ベイダー('92.10/17 福岡)●vsグレート・ムタ('92.8/16 福岡)●長州・飯塚・山本・金本vs越中・木村・青柳・斉藤('92.9/10 大阪)●長州・藤波・武藤・馳・飯塚vs越中・木村・カブキ・小林・青柳('93.6/14 大阪)●長州・ライガーvs武藤・W.ペガサス('94.9/24 愛知)●長州・佐々木vs橋本・中西('95.6/13 静岡)●長州・佐々木vs橋本・ノートン('96.10/20 神戸)　他

コロシアム2000ヒクソン・グレイシーvs船木誠勝

140分￥10,000



2000年5/26東京ドーム。話題の世紀の一戦を完全ノーカット収録。船木vsヒクソンは船木の引退試合にもなってしまった。TVでは試合途中でCMになったり、肝心のフィニッシュシーンが十分に見られなかったりと欲求不満の方も多いと思いますがこちらのビデオは十二分に見せてくれます。そして、試合後の船木の「15年間、ありがとうございました。」発言もしっかり押さえ、試合後の両者のインタビューも押さえています。入場から(テーマ曲込み)船木の最後の試合の一部始終をこのビデオで見て下さい。そして、このビデオの凄い所は何と解説がリングス前田社長!近藤、須藤、金原、田村、そして船木の試合を解説。他のキックの試合は魔裟斗本人が空手の試合は鈴木本人が解説。そして、ヒクソン本人が試合を見ながら解説をしています。全試合ノーカット。

大日本プロレスオフィシャルビデオVol.2

ワールドエクストリームカップ2000全試合

3,500円(送料込)



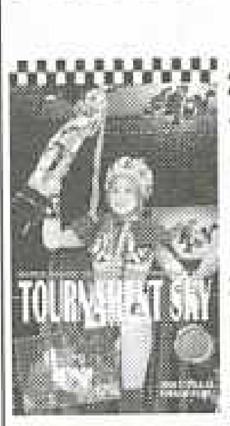
2000年4/24開幕戦～5/14の決勝戦。全試合収録。ムスタファ、ドゥーム、山川、ルイス、ジ・ウインガー、ブル、クレージー・シーク、ザンディグ、シャドウWX、ピーター、本間、サンプラスと何だか凄いメンバー!これぞ!大日本という試合の連続。特に新川崎での準決勝ザンディグvs本間、決勝シャドウWXvsザンディングは壮絶!凄い攻撃のオンパレードです。プロレスファンなら一度は見てみましょう!

アルシオン

トーナメントスカイ2

9月下旬発売

120分6,930円



2000年7/16&8/18後楽園ホール。昨年はASARIvsマリーと誰も予想しなかった決勝となったトーナメントSKY。今年はよりグレードアップして開催!昨年優勝のASARI選手は勿論、スカイハイ王者マリー、成長著しいファビー&藤田、パワフルテクニシャンのリンダ、他団体からは夢ファクの仮面天使ロゼッタ、Jdの坂井、そしてアルシオンの未来のエース、AKINO&文子の9名が参加!注目はやはりメインの決勝戦文子vsAKINO。デビューしてまだ2年のライバルで有り、タッグパートナーの2人が名勝負を繰り広げる。そして、この決勝に勝るとも劣らないのが準決勝のAKINOvsマリー。鉄柱越えトペコン、ブランチャなど二人の素晴らしいテクニックはムイビエ～ンです。試合以外にも涙で優勝の挨拶のできない文子を支えるAKINOや「準優勝」「敢闘賞」「ベスト・スカイ・テクニック賞」を受賞して男泣きのAKINOと感動シーン満載です。そして、その文子が名古屋でスカイハイ&P☆MIX王者としてアルシオン王者アジャに挑んだ(ノンタイトル)8/18後楽園大会も収録。苦悩する文子をこのビデオで感じて下さい。勿論、ビッブvsリドラッグの7月のタッグ、8月の4vs4勝ち抜きや高瀬ベストマッチのリンダ戦、ラスカチョアルシオン1周年マッチ等盛り沢山。

収録試合

7/16後楽園～アジャ&吉田vs下田&三田、藤田vsリンダ、ASARIvsマリー、AKINOvsファビー、ロゼッタvs藤田、浜田vs坂井、AKINOvsマリー、浜田vsロゼッタ、GAMI&玉田&リンクスvs大向&府川&J、浜田vsAKINO、8/18後楽園～リンダvs高瀬、AKINO&藤田vsマリー&ファビー、吉田vsASARI、三田vsGAMI、三田vsリンクス、三田vs玉田、Jvs玉田、JvsPIKO、大向vsPIKO、アジャvs文子

COMPLETE ARSION Vol.5

～軍団闘争からP★MIX GRAND PRIXまで　6,930円



軍団抗争の流れがバッチリ解るコンプリートシリーズ第5弾発売!今回は2000年1/15徳島から6/29後楽園、2000年前半をまとめました。全タイトル戦は勿論P☆MIX GPトーナメント全試合、6月の6人タッグリーグ戦全試合他話題になった試合を収録!何と全112試合収録予定です。キャッツアイの内乱、リドラック、ビッブの登場といつも以上に色々あって本当に盛り沢山の内容。そして、今回も試合以外のボーナス映像が色々入ってます。特に水着特写は大向、文子、藤田は勿論、山縣、前田までも入ってます。これは必見です!

収録内容

1.二上&玉田の反乱と軍団抗争の勃発　浜田、AKINOvs奥津、藤田(1.15徳島)　二上、玉田vsアジャ、吉田(2.9大阪)　GAMI、玉田vs奥津、矢樹　アジャ、吉田vs浜田、AKINO(2.18後楽園)
2.軍団抗争激化&VIP旋風　三田、下田、大向、府川vs奥津、浜田、AKINO、藤田(3.5静岡)　下田、大向、三田、府川、Jvsアジャ、吉田、奥津、AKINO、藤田(4.28板橋)
3.熾烈な個人闘争&P☆MIXトーナメント　トーナメントARS2000(5.7後楽園)　AKINO、浜田親子vsAKINO、日高　矢樹、タイガーvsASARI、サスケ(6.24宮城)　浜田親子vs矢樹、タイガー　浜田親子vs府川、田中(6.29後楽園)
4.ARSION2度目の北海道ツアー　下田、大向vsソチ、文子　アジャvsGAMI　吉田vs府川(6.10札幌)　GAMI、玉田、LYNXvs浜田、AKINO、藤田(6.24函館)
5.ボーナス映像満載　オーストラリアツアー　ファッションショー　バースデーパーティー　他

パンクラス2000トランスツアー キング オブ パンクラス タイトルマッチ

DVD

106分5,040分

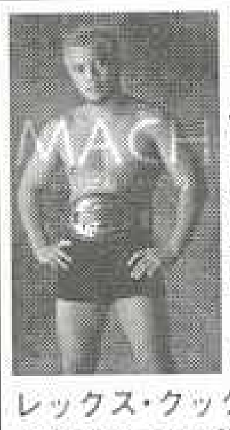


2000年4/30横浜文化体育館。パンクラス初のDVD登場!ビデオが御無沙汰なので是非このDVDでパンクラスを味わって欲しい。メインはキング オブ パンクラス タイトルマッチ、セーム・シュルトvs高橋。タックルを解禁した高橋だったがシュルトのパンチの前に轟沈。他、鈴木の秒殺などパンクラスがたっぷり楽しめます。8試合中5試合が完全決着!(GIVE UP or KO)インタビューも入ってます。

収録試合●シュルトvs高橋●國奥vsカーター●デルーシアvsスタインズ●渋谷vs太田●鈴木vsダグティ●佐藤vsクォーク●冨宅vs大介●窪田vsマッシブ

MACH SAKURAI HAYATO

100分5,040円



修斗ミドル級王者として絶大な人気を誇る桜井"マッハ"速人。無敗街道をひた走るマッハの全試合を収録した初めての総集編。現ウェルター級王者・宇野薫と対戦したデビュー戦から今年3月の初防衛戦までマッハ自らが語り下ろした解説付き。

収録内容

宇野(1996.10/4.後楽園)　桑原(1997.1/8.後楽園)　小島(1997.6/25.後楽園)　アリ・エリアス(1997.8/27.後楽園)　アレックス・クック(1997.11/29.NK)　中尾(1998.5/13.後楽園)　ロニー・リヴァノ(1998.7/29.後楽園)　セルゲイ・ヴィチコフ(1998.10/25.NK)　アデミール・オリヴェイラ(1999.1/15.後楽園)　マセロ・アグア(1999.5/29.横浜)　ブレッド・エアズ(1999.1/15.後楽園)　アロウド・ビクトリアーノ(1999.12/1.NK)　加藤(2000.3/17.後楽園)

特典カード封入!!

DVD各種絶賛発売中!!

●PRIDE.1998	￥10,290	●初代タイガーマスク	￥21,000
●PRIDE.1999	￥10,290	●愚零闘夢多BOX	￥21,000
●PRIDE.-GP決勝戦	￥10,290	●新日ラディカルファイト100＋α1	￥7,140
●UFC J-2000	￥6,090	●新日ラディカルファイト100＋α2	￥7,140
●前田日明闘いの証　天の章	￥31,290	●DOME IMPACT	￥5,040
●前田日明闘いの証　地の章	￥31,290	●猪木引退試合	￥7,140
●コロシアム2000	￥5,040	●猪木物語1・2	各￥5,040
●パンクラス2000.4.30	￥5,040	●レスリング・ウィズ・シャドウズ	￥5,040
●キューティー鈴木 ガードレス	￥3,990	●一触即発1・2	各￥7,140

●DVD発売日延期のお知らせ　DVD商品の橋本小川～決着～、など発売延期(発売日未定)になっております!お申込の前にお問い合わせをお願い致します。●

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき￥500、2本以上サービス、グッズの送料はお手数ですが、お問い合わせ下さい。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

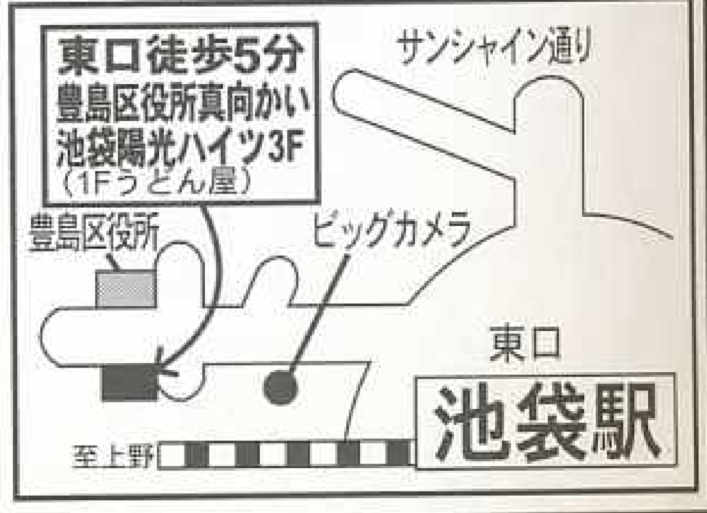
【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号　00180−8−65236　レッスル通販
※郵便振替通販に関してのお問い合わせは池袋店にお願いします。

レッスル渋谷店　通販部 03-3464-1780　TEL 03-3464-0078
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル

レッスル池袋店　通販部 03-39877817　TEL 03-3989-0056
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306



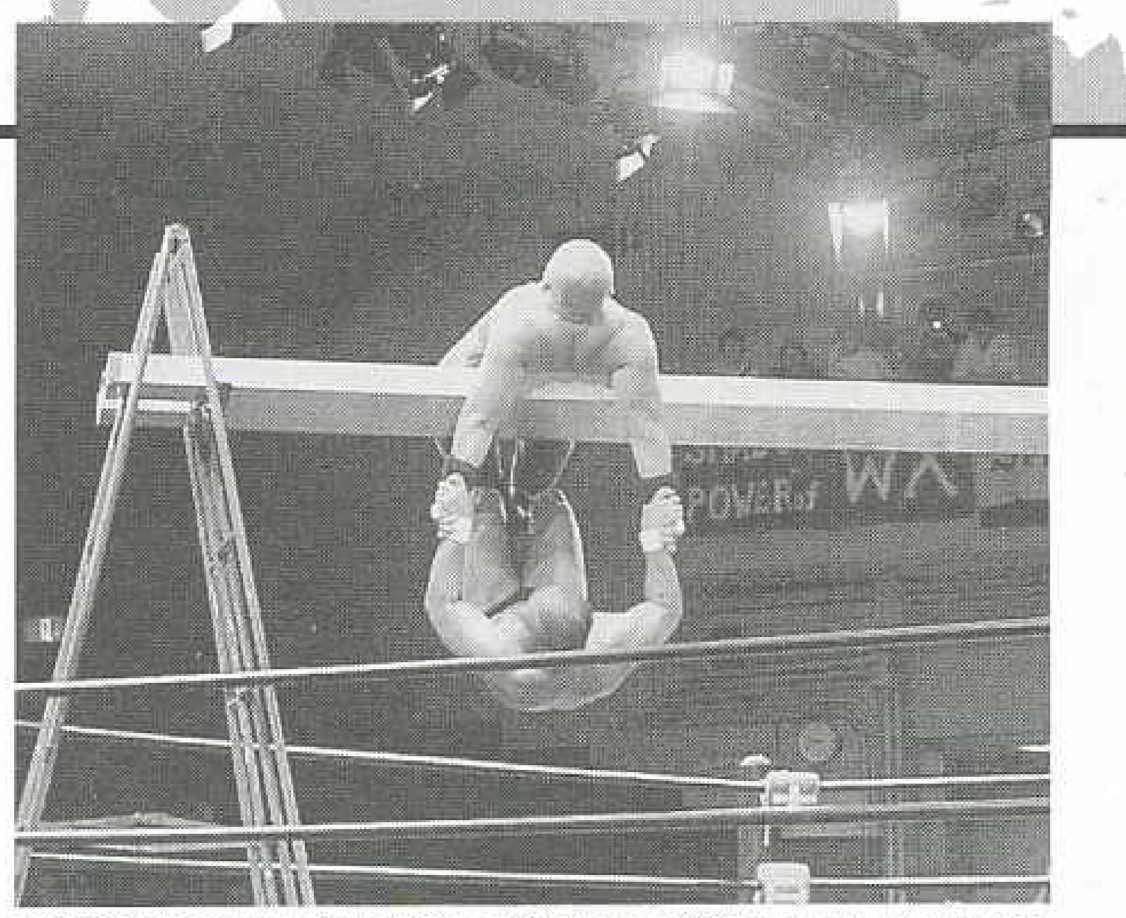


たとえ「純プロレス」がこの世から絶滅しようとも
愛すべきプロレスバカたちの「不純プロレス」は不滅よ♡



狂い咲きインディーロード
〜本誌注目のミニマル団体観戦記〜

この本が店頭に並んでいる頃には、すでに結果は出ているが、オイッ、オイッ、オイッ、大仁田トメさん（72歳）お身体は大丈夫ですかーーッ？　そして、権利書は無事に奪回できましたかーーッ？　最後に、トメさん、アンタも役者やのぉ〜。というわけで、トメさんのことを考えると心配で心配で夜も眠れないという日本全国100万人のインディーファンだけに向けてブッ放す『狂い咲きインディーロード』。今回はなんと"平成の狂い咲き男"ビートたかしも執筆しているぜ！　さあ、お前らも狂い咲け！（今号のモデル＝ナオミ・スーザン）



高所恐怖症の本間が死に物狂いで繰り出した建設現場式ロメロスペシャル。フィニッシュは、これまた驚きの建設現場式フランケンだった。

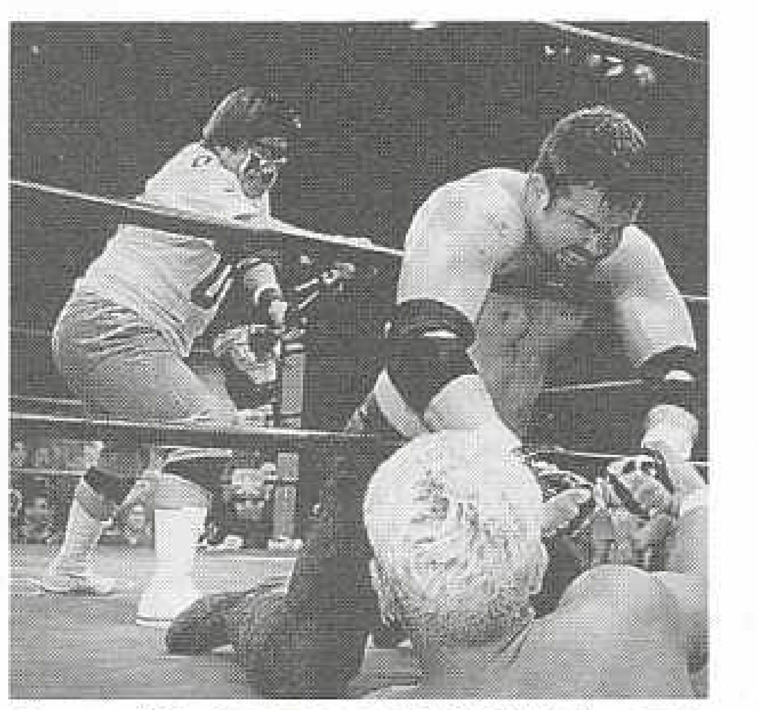
大日本プロレス それぞれの"デスマッチ"論（取材・三浦店長）

デスマッチが語られ、ファンに議論されるのは嬉しいことだ。賛否、愛憎、なんでも構わない。静かに無視されること以外なら、大日本のリングはその全てを受けてたつ勢いと準備がある。けれども今の大日本を語るならば、ぜひ会場でLIVEを体験してからにして欲しいということ。映像、写真では今が旬のBJWの空気が悲しいかな伝わりきらない。毎日、メジャー並みの無謀なツアーを敢行しているので、ぜひその目で確認してから語り始めてもらいたい。否定論、邪道論、おおいに結構だが、今の大日本のパワーをナメるなよ。食わず嫌いの一見さんは、覚悟の上で観戦しないと中毒となってしまう魔力を秘めているのだから。

春の日本列島に上陸をはたし、そのますっかり停滞してしまったCZW台風。コイツ等がまた、嫌になるほど元気だ。向こう見ずな、ハードコアを超えたバイオレンススタイルで狂暴性を売り物にしている彼等も、いつのまにか試合の刹那に人間味や茶目っ気までも垣間見せて、ますますキャラ立ちまくり。その分かりやすい存在感をこのまま放って置いたら、一気にベビー人気までも奪ってしまいそうで要注意。そろそろ、ガツンと"STOP CZW"を達成しないと、いよいよヤバくなってしまうぜ。

そんなCZW勢が標榜するスタイルは、レスリングを無視したところから発生した"街の喧嘩"をマット上で再現すること。それも喧嘩のプロ達のド迫力のツブし合いをだ。まさに"路上では警察沙汰"野郎達がリングにおいて"路上の王"となるべく殴り合う実に分りやすい試合形式。そして、その舞台となるリングという名の路上には、なぜか危険なアイテムがゴロゴロと落ちているのだ。せっかく落ちているのだから、その全てを使い切るのは当たり前の話。アメリカの路上にはきっと、ホチキス、芝刈機、看板、そして有刺鉄線バットまでもが、要所要所に落ちているはずだ。一方的に切り刻み、叩きのめしてこそがCZWの存在証明。

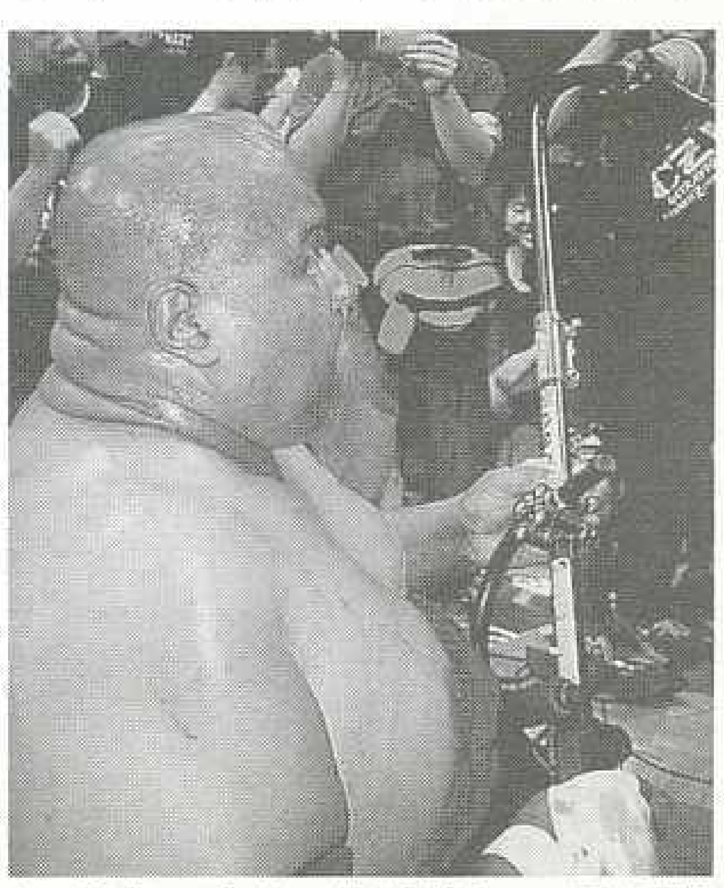
そして山川、WXが体現しているのが、自分の体を限界ギリギリまで追い込み、どんどんアイテムを先鋭化させていく試合形式。デスマッチだからこそ、その危険性から逃げずに、全てを容認したうえで闘い続け、また、プロとしてキッチリと見せる試合を行うのが彼等のスタイル。どんな敵であろうと、相手を思いきり光らせるのがこの二人であり、ためらうことなく危険に向かっていく姿が大きな感動を生む。だが誤解してほしくないのは彼等のデスマッチの主役はあくまでも人間であって、アイテムではないという事。熱い人間同士が闘うからこそ、それを観る人間が感動するという単純なことを、デスマッチのリングで体を張って表現し、証明し続けている。



8・26呉大会でのWX対葛西戦をもって大日本ではファイヤーデスマッチを一旦、封印。これまで以上に進化したデスマッチに期待！

だが、かつてデスマッチ三人衆の一人として暴れまくった本間朋晃の考え方は全く違うのだ。なんせ、危険なもの、危ないことは大嫌いを公言してはばからないのだから。彼は「ファイアーなんて絶対いやですよ。危ないじゃないですか」と、デスマッチヘビー級王者時に真顔で言い放ち葛西にチキン扱いされたのはご存知のとおり。危険なアイテムを使用する試合を極端に嫌っているけれど、本間がデスマッチを否定しているのかと言えば、けっしてそうではないところが複雑なのだ。「デスマッチでもレスリングで魅せなければならない」はBJWの基本命題であるが、彼は人一倍その思考が強い。自身の発想とひらめきに圧倒的に自信を持っている本間は、常に新しいムーブ、想像もつかない展開でデスマッチを闘い抜く。IQを駆使した彼の言葉による「安全なデスマッチ」とは、インテリジェンスが前面に出た、ハイスパートに衝撃を起こし続ける試合のことなのだ。

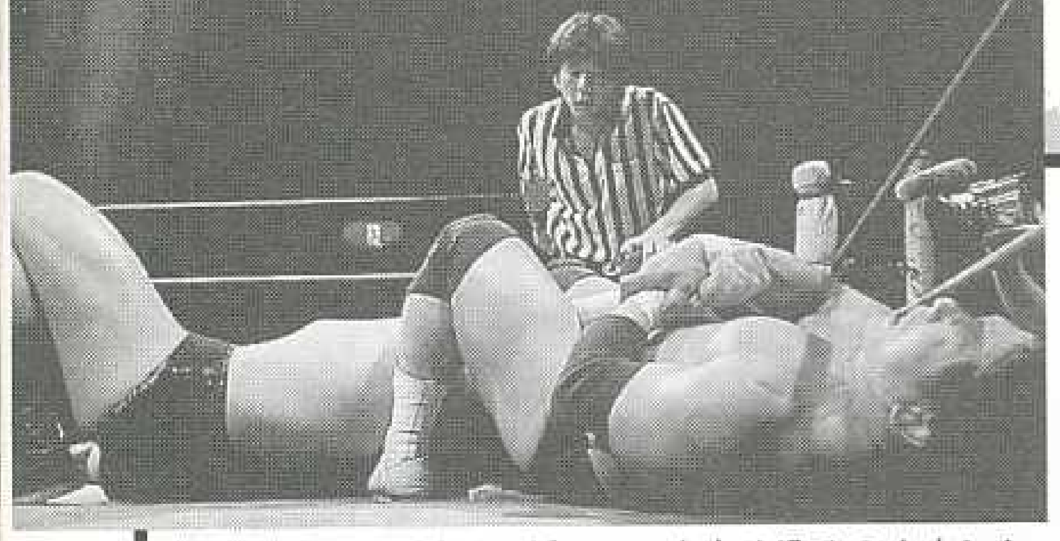
今の大日本には「デスマッチ」の一言では括りきれない様々なスタイルが混在し、またそれらが交わることによって発生する化学変化が混沌とし先が見えないながらも熱い状況を生み出している。ぜひ、今のうちに見ておけ!!



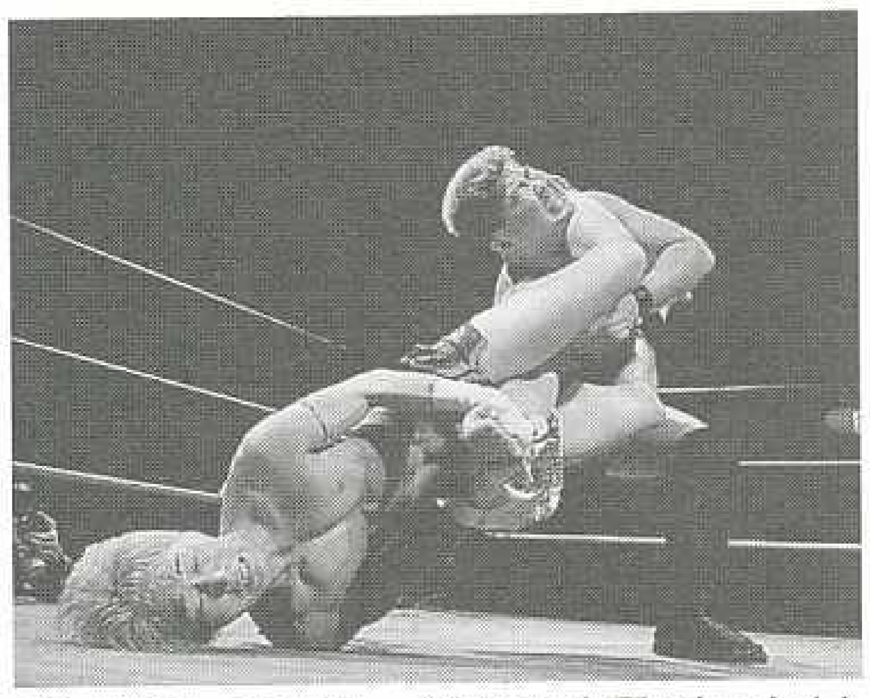
シャドウWXとタッグを結成し、一躍全盛期さながらの歓声に包まれた愛しのブッチャー。芝刈り機でCZW軍を蹴散らしまくりだ。



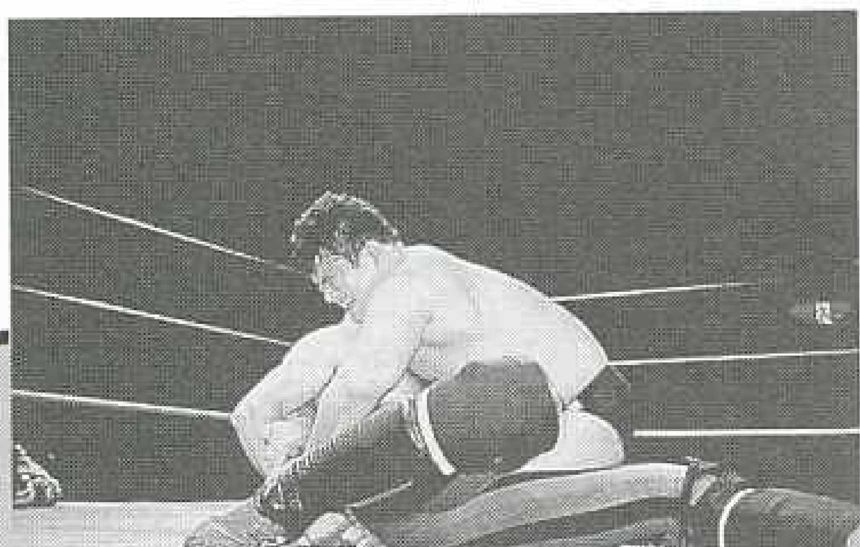
その態度のデカさから、すっかり天狗呼ばわり＆孤立状態の本間朋晃（黒いパンツの頑固者）。本間が天性のひらめきを活かしたIQデスマッチを確立するのはあと一歩だ。



ゴング早々、浜田はジニアスを丸め込み3カウント。勝利をアピールするも、UNWルールにより試合続行。8分過ぎ、腕十字でジニアスからタップを奪い勝利をアピール……UNWルールにより試合続行。再び腕十字でジニアスがタップ。浜田は激怒して控室へ直行。



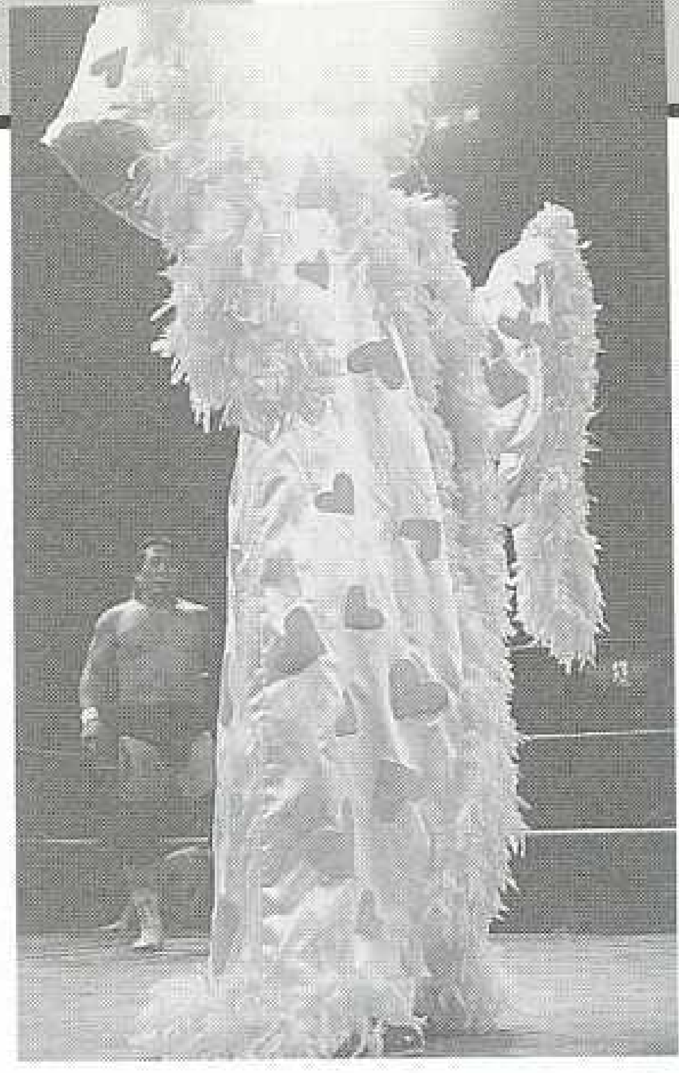
ゴングが鳴ってもグローブを付ける気配のないタノムサク。プロレスマットでは初の打撃なしのグラウンドオンリーで高田慎一を攻め込んだが、さすがに体格差が響いたか途中でグローブを付け、最後はKO勝ち！



ポイズン澤田BLACK対内藤恒仁というマニア好みの師弟対決が実現。最後はキャトル・ミューティレーションが極まりポイズンが勝利を掴んだが、内藤の怖さと強さと不気味さが存分に発揮された試合だった。

UNW
悲しき天才vs小さな巨人の超異色対決は大熱戦の末、はぁ~カックン

（文・チョロ）



これが前号で言っていた「フレアーよりもっとゴージャスで気が狂ったとしか思えないガウン」だ。確かにド派手ではあるが、「ストリッパーが控室で着てる衣裳みたい」との声も。

「フォール、ギブアップのあと10カウント以内にファイティングポーズをとらなければKO負け。ファイティングポーズをとれば何度フォールされてもギブアップしても続行」というUNW特別ルール採用の今大会。総合格闘技界ではルール問題の紛糾はよくあるが、この日のジニアス対浜田戦はルール問題で大紛糾の末、浜田の試合放棄という最悪の結末に……。

そもそも完全決着を付けるために設定されたこのルール。従来のプロレスルールを見慣れている観客にとっては、3カウントを取ってもギブアップを奪ってもフィニッシュとならないこのルールは理解に苦しむのもしょうがないことだろう。

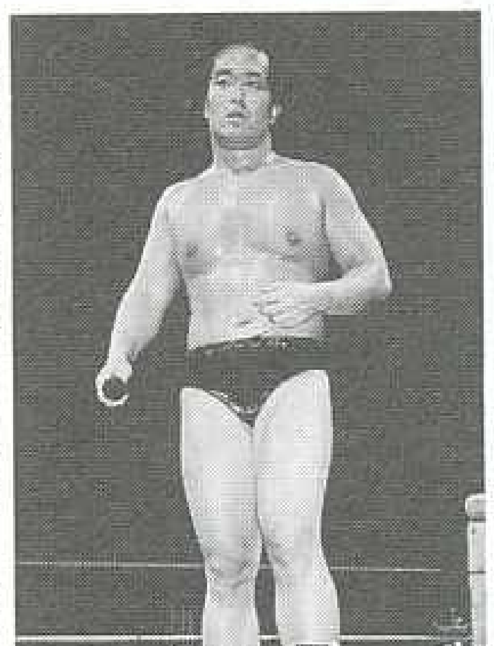
何度ギブアップしても10カウント以内にファイティングポーズをとれば負けとならないということは、例えば、関節技を極められても、ノーダメージでタップしてしまえばいいわけで、よっぽどダメージが蓄積されない限り、闘いはエンドレスに続行する。実際、タノムサク対高田戦でも、関節技を極められたタノムサクに対し、セコンドの鴨居長太郎から「早くギブアップしろ！」という指示があり、観客からは「え~」という声もあがっていた。

そんな中で始まったジニアス対浜田戦。3カウント&ギブアップを何度も奪った浜田だが、「1、2、3……」とカウントが数えられる度に、「相手の腕を折るまでやれってのか？　そんなもん試合じゃねえ！」と激怒。納得できない浜田は、そのまま控室に引き上げ、試合放棄の裁定が下されたのだ。

そういえば、この日の大会名は「時代の先っちょをいく闘い」である。

今回の興行で「時代の先っちょをいく闘い」が見られたかというと、「はぁ~カックン」というのが正直なところである。

まあ角度を変えて見れば、あまりにも時代の先っちょをいきすぎてスッポ抜けてしまったと言えるかもしれない。そう考えると、ある意味凄いぞ、U・N・W!?



「バカらしくてやってられねぇよ！」と浜田が控室に引き上げると、ジニアスは「中途半端なマネしやがって！　ちゃんとルールに則ってやってんだから。普通のプロレスより厳しいことやってんだよ！」とこちらも激怒！

一言物申す！
(by三浦店長)
イーンディーないかい？

デスマッチとは何か？

勝手なことを言わせてもらえば、それは「人為的に過剰な緊張感を生じさせる舞台を認定し、レスラー・観客ともに多くのストレスを与える空間を演出するために人工的に作られた格闘空間」となるのではないか。

大仁田厚によって発明され乱発されるようになった、近代のデスマッチも発生からすでに十年が経過した。

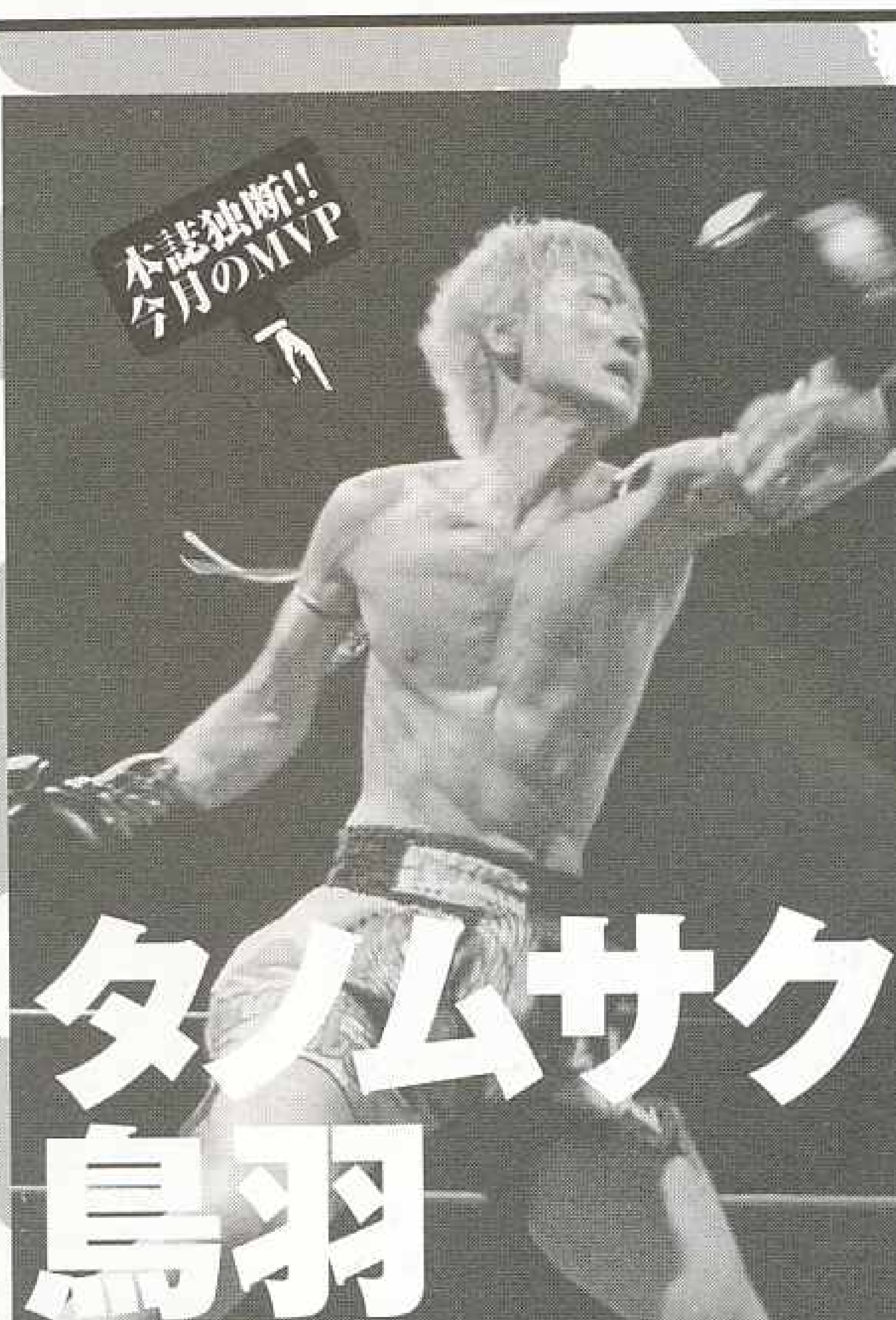
当時からその形式のエスカレートを心配する声はあったが、現在もそのアイテムはあまり変わってはいない。かつての大発見であった有刺鉄線もその効力を失うことなく、延々と中心アイテムとして使用され続けている。

そしてデスマッチを“危険度”という単純な切り口で考えてみても、大仁田時代のFMW、W★ING、初期IWAの頃の方が遥かに危険であった。それよりも遥かに事故と怪我がつきまとった一時代を過ぎ、ファンはデスマッチに対してグロを求めるのではなく、その対局であるはずの爽快感とカタルシスを期待している。それは選手の言葉にも表れていて、大日本の本間選手は常々「明るく爽やかなデスマッチ」という言葉を多用している。

この一昔前ならば全く意味不明の発言も、現在のデスマッチを目にしている我々は、何の不自然さもなく理解することができる。

この十年の間にデスマッチ野郎はアイテムを過剰に研ぎ澄ませることなく、己の技量を上げることで偏見と闘ってきた。確かに低水準の試合を提供する団体、レスラーが存在するのも事実だが、熱い男達が、熱く闘っている素晴らしいデスマッチもマット界の片隅で多く行われていることを、無視を決め込む人々に強く述べたい。

本誌独断!! 今月のMVP
タノムサク鳥羽



ここ最近“モチベーション”という言葉が乱発されているが、メジャー・インディー問わず、この男の試合に対するモチベーションの高さは群を抜いている。

今日はDDT、明日はキングダム、あさっては二瓶組、その次の日は夢ファクというように、様々な団体で強行スケジュールをこなしているタノムサク。もちろん団体が違えば、スタイルもルールも相手も違うのは当たり前。しかしながら、タノムサクはいつ何時どんな団体でも「これ以上やられたら死ぬだろ！」というバンプを取り続け、一転して攻めに転じると「やりすぎだろ！」と誰もが思うほどの強烈な打撃を叩き込む。毎試合毎試合、確実にインパクトの残る試合を見せてくれるのだ（しかし試合後はいつも不満顔）。

9月は、2日にキングダムで村浜と闘い、3日はダブルヘッダーでTAMA&二瓶組に登場、5日はUNW、7日はDDTと、インディーでもスタイルの違いすぎる団体で熱い闘いを繰り広げたタノムサクを独断で今月のMVPに認定！（何も出ないけど）。

ハードスケジュールの合間を縫って、中華料理屋で働き、さらには『SSSアカデミー』というジムでキックの指導もしているタノムサク。キミも体感せよ！

本誌特選!! 注目選手
流浪の格闘家（芳賀元太改め）
山上道及



9・2キングダム川崎大会第1部のメインを務めたのが、元バトラーツ営業&流浪の格闘家・芳賀元太。『紙プロR.NO10』では、2Pもの大特集？が組まれたほどの伝説の男なのだ。試合前、体育館の片隅でぼんやりと佇む芳賀元太改め山上道及を直撃！（なんで改名したんですか？）たまたま図書館で借りてきた本に「山上道及」という人が出てまして。2ページぐらいしか出てこないんですけど、それにすぐ死んじゃうんですよ（苦笑）。（大会パンフの自分の紹介欄を見て）「得意技＝腕ひしぎ十字固め」とか書いてあるけど、得意技なんてないんですよ。全然なんもダメだもの俺（苦笑）。（最近はバトラーツへは？）いや、2、3日前に行ったんですよ、チャンコ食いに（笑）。やっぱり拒否されましたけど、行ったからには食わないと。（突然）俺ヤバイんスよ、体調も良くないし。メインだっていうのもさっき聞いたばっかりだし……（ブツブツ言いながら控室に消えていく、元・元太）。

この後、キングダムの稲野岳と闘った山上。試合は時間切れポイント差で敗れてしまったが、藤原組長&内藤恒仁も「今日のベストバウトだ」と道及を絶賛！　流浪の格闘家（芳賀元太改め）山上道及に注目しろ！

キングダム・エルガイツ『PROJECT・U』
U・イズ・デッド？　いや、Uは永遠に不滅です！
（取材・チョロ&ギョロ）

「ボクはホモじゃありませ～ん！（絶叫）」と『紙プロR・NO29』で激白し、一部マニアの間では大反響を巻き起こしたキングダム・エルガイツの入江秀忠インタビュー。その際、入江の口から飛び出したのが、UWFヘビー級トーナメント開催&UWFチャンピオンベルト設立宣言であった。なんでも、UWFにゆかりの深い選手、そして超大物Xなどを一堂に会し、UWFヘビー級チャンピオンを決めてしまおうというビッグプラン。ファンの間でも「Uに思い入れのある超大物Xって誰だよ？」と話題騒然（言い過ぎ？）となっていたこの大会『PROJECT U』が、9月2日川崎市体育館で行われた。

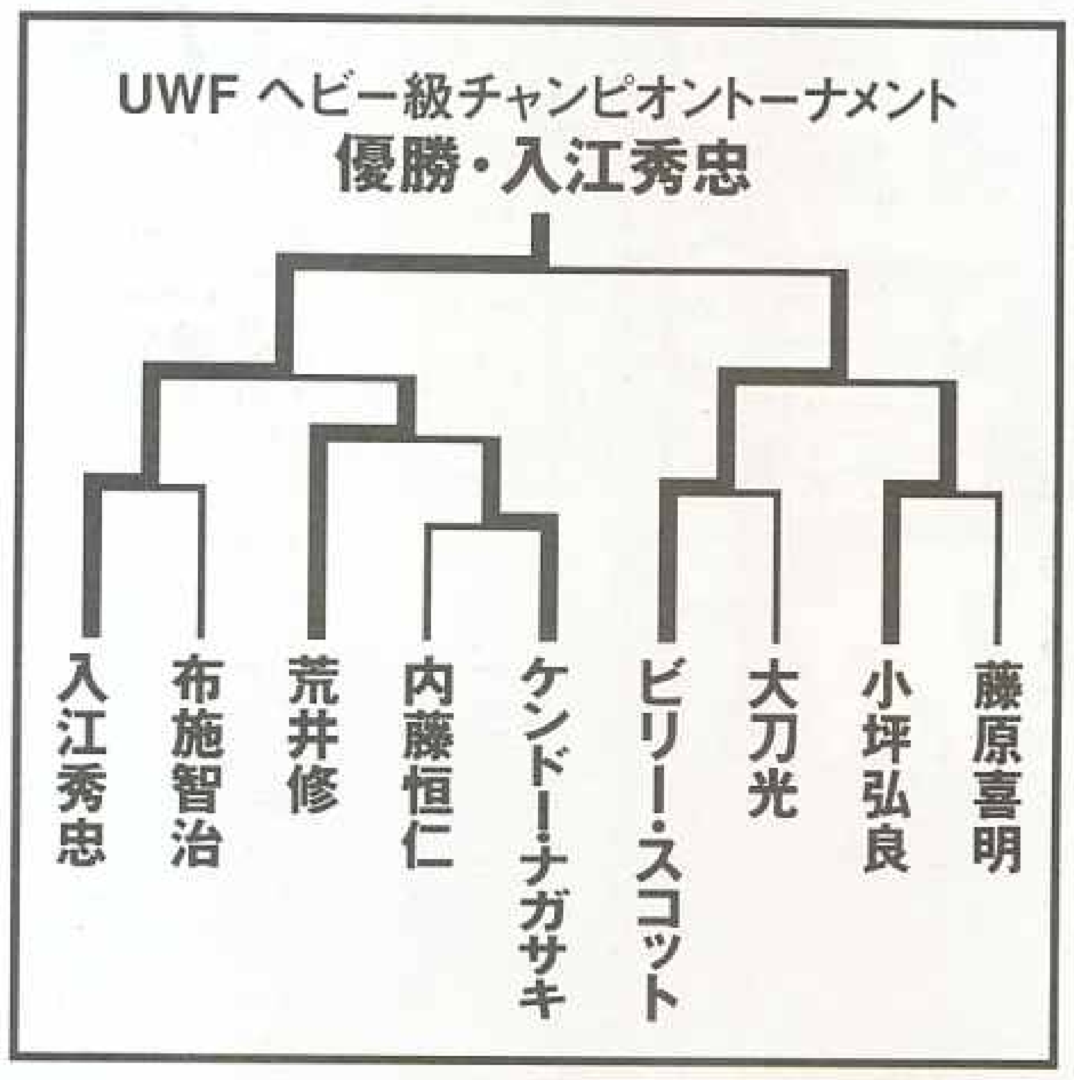
あの長州力から「なあ山本、Uはお前なんだよ！」と言われたターザン山本ことビートたかしが開会宣言をぶっ放し、試合開始前から一波乱も二波瀾もありそうなこの興行。終わってみれば、やはり真夏の最後の夢ともいえる摩訶不思議な劇的空間となったのだった。

「お願いです（半泣）ヒクソンと闘わせてくださ～い（号泣）」



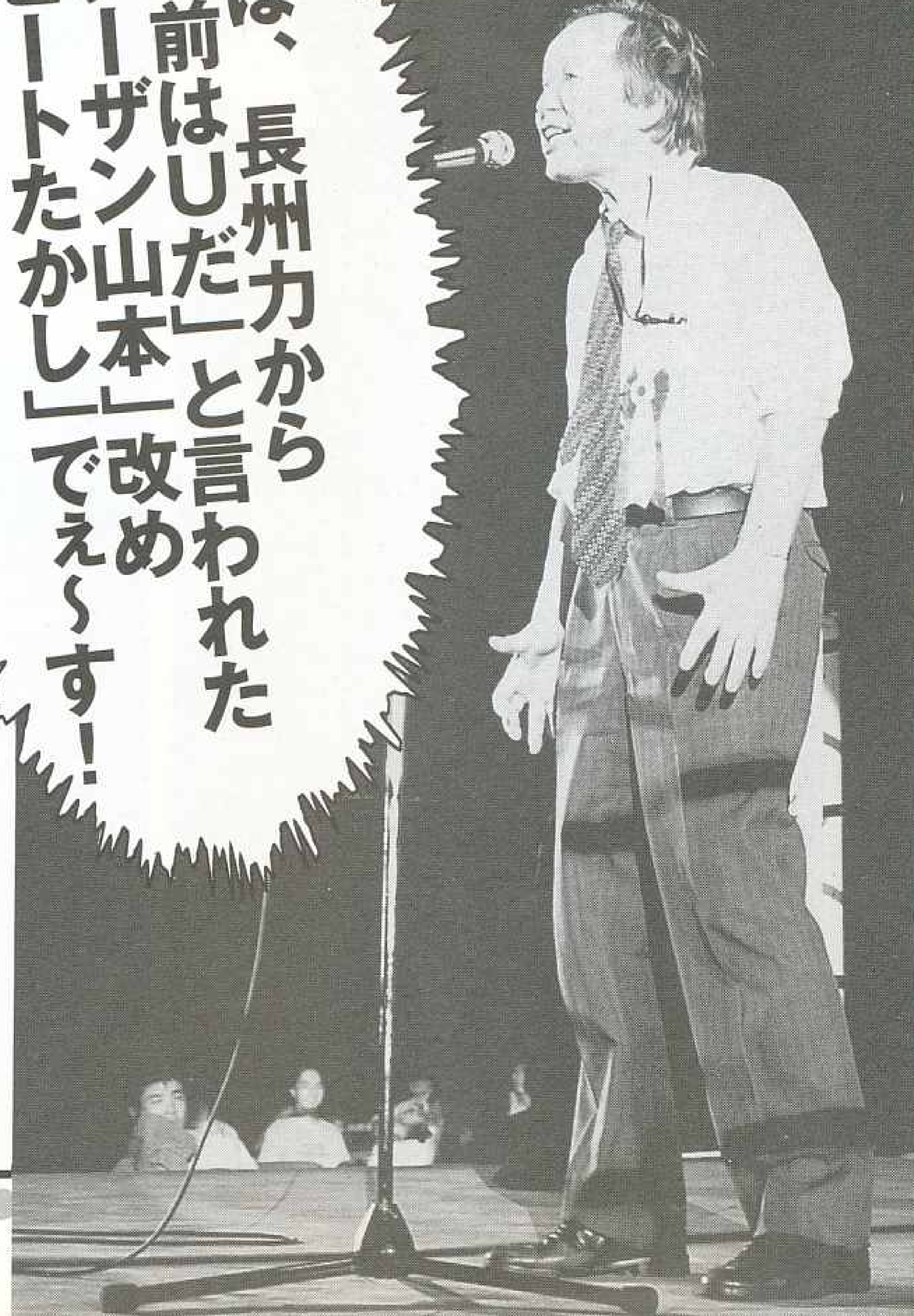


見事、トーナメント優勝を果たした入江は涙ながらに「僕のお願いを、たった一つだけ聞いてくださ～い！」と絶叫。入江からのお願いは「僕はっ、ヒクソンと闘いた～～い（号泣）」。一瞬のタイムラグの後、場内からは失笑も…。しかし本人は本気。これで小川、近藤、そして入江までもがヒクソン争奪戦に名乗りを上げた。挑戦権を賭けた闘いはまだ始まったばかりである。

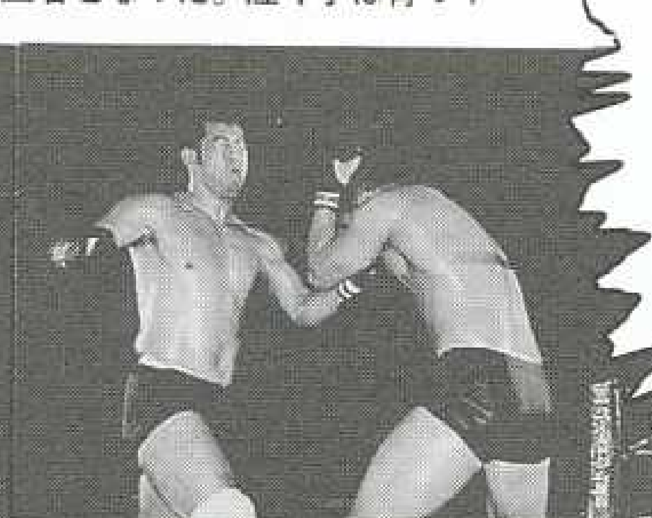


Xは一体誰なのか？　垣原？　木戸？　山喧？　様々な噂が駆けめぐったが、発表されたのは小坪弘良。小坪は、師匠の藤原喜明から初勝利を上げXとしての役目を十分に果たし二回戦進出。相撲殺法大爆発の大刀光はビリー・スコットに敗れ無念の初戦敗退。Aブロックでは内藤恒仁を敗り一回戦を突破したケンドー・ナガサキが怪我を理由に二回戦を辞退。代わりとして何事もなかったように荒井修が二回戦へ登場。しかし一回戦の布施智治戦に続き入江のルタ式変形固めが極まり敢えなくタップ。一方、Bブロックではビリーが小坪を腕十字で敗り決勝へ。そして迎えた入江対ビリーの決勝戦は、またしても必殺ルタ式変形固めが炸裂、入江秀忠が涙涙の初代王者となった。泣く子は育つ！

私は、「お前はUだ」と長州力から言われた「ターザン山本」改め「ビートたかし」でぇ～す！









【写真左】Uインタールールで行われたこの試合。タノムサクは軽量級最強の男、村浜に何度も壮絶なダウンを喰らう。しかし観客の大声援に押され「七転び八起き」を見事に体言化。素直に頑張れタノムサク！　と応援せずにはいられなくなる事この上ない試合であった。【写真右上】流浪の格闘家芳賀元太改め山上道及（元バトラーツ営業）のガチガチファイト。山上は「むしゃしゅぎょ～」の成果をいかんなく見せつけた。試合前のスーダラトークからは想像出来ない、危険な男の香りがプンプンしていた。【写真右下】（折原に対する）中野の怒りを明確に示す、秒殺ファイト。「立場上ああするしかねえ！ 高田に悪かった」を試合後連発。とばっちりを受けた高田選手は気の毒としか言いようがない。

「“U”はお前だ！」ことビートたかし観戦記



開会宣言を終えたビート氏を直撃すると「やっぱりリングは麻薬ですよォォオ！ 気持ち良かったぁ」とピースサイン。最近はピンク映画にも出演し「喪服妻相手に駅弁をやったんだよォォオ！ 気持ち良かったぁ」と炎上！

9月2日、その日はすべてが“ギャグ”だった。ギャグとしかいいようがないよ。まったく！ 8月の始め、キングダムの入江選手から電話が家にかかってきた。

俺、入江選手って、会ったことも、見たこともないんだよ。「山本さん、9月2日、川崎市体育館でUWFヘビー級トーナメントをやりますので、その開会宣言をやってくれません？」。正直いって俺は、いたずら電話かと思ってしまった。

面倒臭いから例によって俺はいい加減に「ああ、いいよ」と言って電話を切った。そうしたらこれが、本当の話だったんだよ。

何？ 9月2日？ 全日本プロレスが日本武道館で試合がある。完全に後の祭りだ。俺は人から頼まれたらなんでもOKするタイプの人間。いわゆる“お調子者”なのだ。

それでも俺の中では「まあ、いいか。適当にドタキャンすればすむ話だ！」と高をくくっていた。そうしたらどうだろう。

1週間前から毎日、チェックの電話がはいる。「9月2日、川崎大会、お願いしますよ…」。当日も昼頃、また最後のお願いの電話がケイタイにかかってきた。

この人、俺の性格をよく知っているなあと、あきれてしまった。これじゃまるでストーカーといっしょじゃないか？

神が全日本の武道館ではなく、超・超マイナーなキングダム・エルガイツの川崎に行ってやれと、俺に命令を下したのかも。神のお告げなら俺は川崎に行くしかない！

そういえば全日本から9・2武道館に来て欲しいとは、誰も俺に言わなかった。俺は結局、口説き負けしてしまったんだよな。

行ってみて二度驚いた。これがあっと驚く為五郎の連発。いや、ギャグのオンパレードではないか？ 藤原さんはあの小坪に負けるは、ケンドー・ナガサキさんも内藤に勝ったが、負傷を理由に準決勝を棄権。2人ともそのまま川崎市体育館から、ドロンと幽霊のように消えた。

次に折原も会場で偶然に二瓶組長と会い口論。何が気に入らなかったのか、こちらもとんずらして中野との試合はパーに。

おまけに二瓶組長はプレスルームにはいってきて、記者会見をぶっ放す。もう、すべてがぐちゃぐちゃ、ドタバタ、マンガ、ギャグのオンパレードだ。

そんな泥の中で美しく咲いた蓮の花。イノセントファイターが入江選手だった。でもこの人が“泣き虫ファイター”とは、俺も初めて知った。しかも見事、トーナメントに優勝。

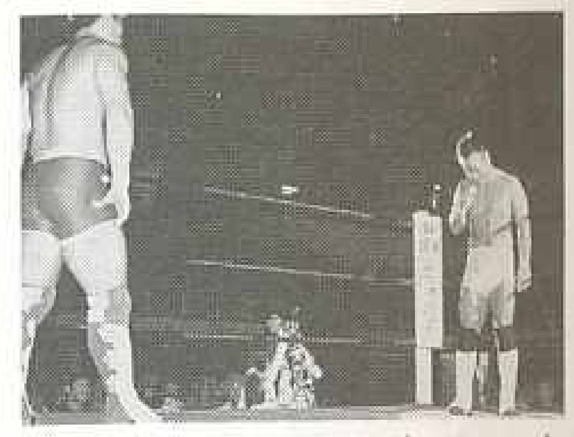
マイクをつかんで「ボクはヒクソン・グレイシーとやりたいんです！」と言った時には、ギャグも最高潮に達した。ところがこの原稿を依頼してきたチョロッチが「山本さん、入江選手はプロレスはあまりうまくないですけど、シュートは誰もが認めているように本当にもの凄く強いんですよ」と言った時には、これぞギャグのダメ押しとしか俺には思えなかったのだ。



入場曲が流れても登場する気配すら見せないケンドー・ナガサキ。会場には「来てねぇんじゃねぇの」との空気が流れたが、5分後ようやく入場。



聞こえるのは「フフフウン」の藤原式呼吸法とマットの軋む音、そして小坪の「イタイ！」。試合は組長の途中棄権により小坪の勝利。

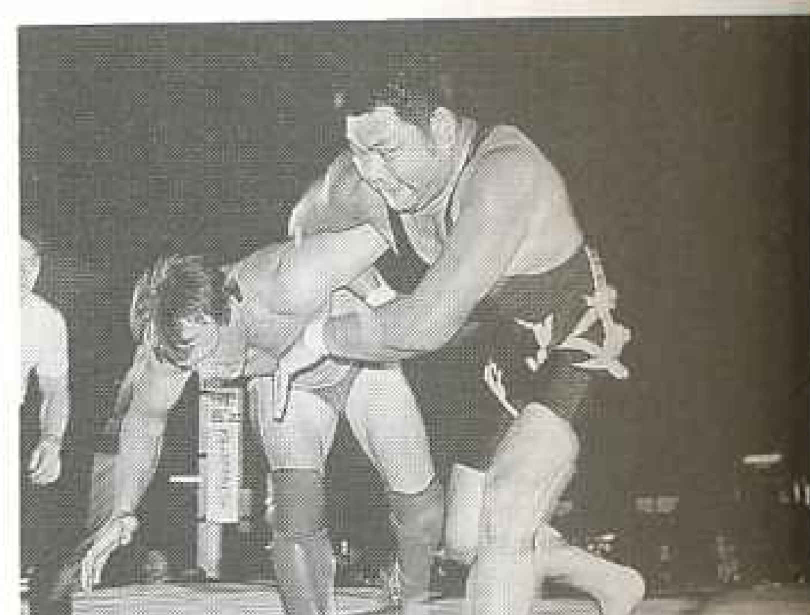


熱い入江（試合中から涙）、クールな布施。布施の強さが際立った試合だったが、入江は先輩の意地を見せ勝利。もちろん試合後には涙のマイク。

トーナメントを勝ち抜き初代UWFヘビー級チャンピオンとなった入江秀忠。試合後の涙ながらのヒクソン戦絶叫アピールには失笑がもれたが、入江本人はいたって本気！

大会終了後、入江が会社に置き手紙を残し、失踪していることが判明したのだ。その手紙には「私は川崎大会で精神的にも肉体的にも燃えつきてしまいました。しばらく社長業も休みます。目標であるヒクソン戦も普通にやっていたら実現しそうにないので、ボクは全国の隠れ“U”信者の署名を集めながらUWF伝道の旅に出ることにしました。1万通のファンの署名を集めたら帰ります。くれぐれも探さないでください」

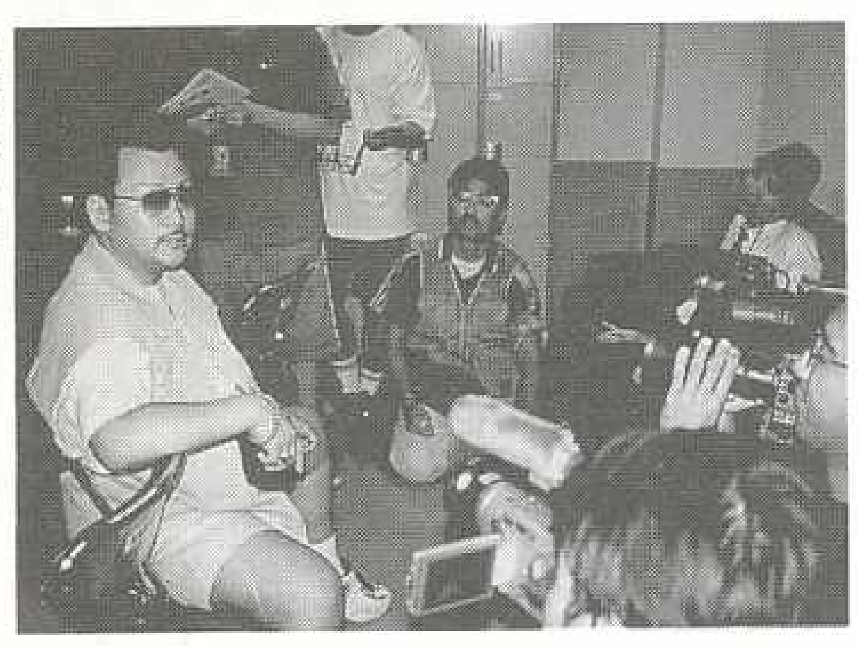
キングダムでは入江を見かけたら事務所まで連絡して欲しいと呼びかけている。出て来～ひ、入江！ はぁ～カックン。



一回戦でビリー・スコットと対戦した大刀光。この試合は第一次UWFルールというで、グローブはナシ。大刀光はルールを活かし得意の突っ張りで何度もビリーを吹っ飛ばしたが、最後はワキ固めでタップ。う～ん無念ばい！

キングダム入江が、そして二瓶組長が、相次いでグレイシー戦を表明！

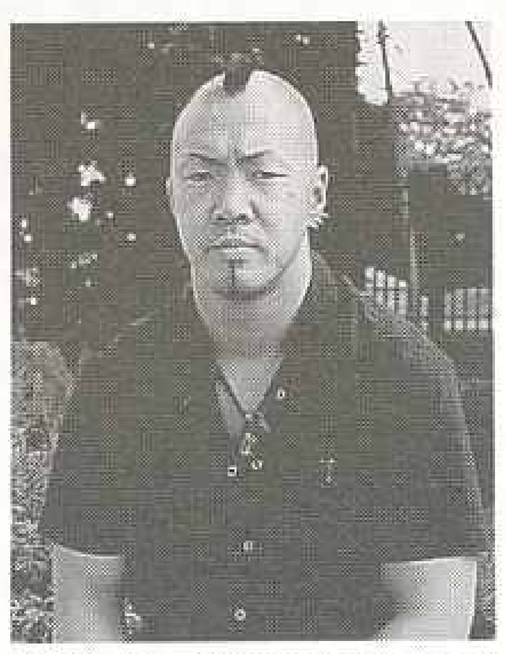
『仁義なき闘い』川崎編 再度、勃発！
そして二瓶組長、ハイアン戦をブチ上げる！



「レスラー同士が喧嘩して、なんで刑事事件で訴えるんだよ。彼（折原）は俺の株を下げようとしたのかもしれないですけども、俺は逆に株が上がったと思っていますよ」と、二瓶組長。

この日、二瓶組長と折原昌夫の間でまたもやトラブルが勃発！ 試合前、控室で遭遇した二人の間でイザコザが発生すると、折原は試合もせずに会場を後にしてしまったのだ。

休憩中に会見を開いた組長は『（折原は）俺とガチンコでやればいいじゃないスか。悪いけど負ける気しないッスよ。プロレスのキャリアはたかだか5年、6年ですけど喧嘩は30年以上やってんスから。あと喧嘩500戦無敗って言ってたハイアン・グレイシー！ 喧嘩500戦無敗って俺の肩書ッスよ！ 肩書賭けて闘いたいッスね。俺が捕まってる時に、折原とカシンが闘って、勝ったカシンが『この勝利を二瓶組長に捧げる』って言ってくれて勇気付けられましたよ。実現するかわかんないですけど、もし俺がハイアンに勝ったら『この勝利をケンドー・カシンに捧げる』って思いっきり言ってやりますよ』とタイムリー発言。ハイアン対二瓶組長！ かなり見たいッス。どうですか、お客さん？



大会翌日、新宿の公園で会見を開いた折原。「キングダム、お客さん、そして私の対戦相手だった中野さんに対しては謝罪したいと思います。彼（二瓶組長）に対しては、中にいろいろな人が入っているので話せない」。

中野も激怒！



折原のドタキャンにより急遽、高田慎一と対戦した中野（ハイキックで秒殺）。「ホント最低だよ！ あんなヤツこの業界から抹殺してやればいいんだよ！ 高田が可哀想だよ」と怒り大爆発！

はみ出しインディーニュース！

【世界のプロレス】出場選手と日程が二転三転し、開催自体も不安視されていた『世界のプロレス』NWAジャパン・ワールド・タッグリーグ戦がスタート！（してるはず）。テリー・ゴディ親子の来日中止はダメージが大きいが、最終的な参加チームは、相島勇人＆ホーラス・ザ・サイコパス組、水前寺狂士郎＆ビシャス・ビッグ・グリムス組、ビル・アーウィン＆スーパー・デストロイヤー組、ダブル・アイアン・シーク1号＆2号組、マーク・メルセデス＆ビリー・コール組、ナックルズ・ネルソン＆ブライアン・デイ組の全6チーム（平均身長187cm）。注目はダブル・アイアン・シーク1号＆2号だ。見ればわかるさ【DDT】7・13渋谷クラブATOMで行われた、大仁田厚対高木三四郎の一戦がビデオになったん邪！ お問い合せは【THREE AMIGO】03-5385-3343まで。どいつもこいつもファイヤー！【フリー】本誌編集部のチョロも潜入した中牧昭二選手がオーナーを務めるピンサロ『キャンキャン』が今年5月に潰れていたことが発覚。ショック！

ザ・検証

プロレス点と線

祝!!! ヤワラちゃん、金メダル。そして、野村選手も金メダルおめでとう。我々、格闘ファンもうれしい限りです。ヤワラちゃんは『Re-Mix』で野村選手は修斗で待ってま～す。無理ですね。

ザ・検証

【今月の検証】

「もういっちょ!」はギャグなのか?

by せき詩郎

チャンピオンズリーグ&オリンピック開幕、そして『ウイニングイレブン2000』。大忙しの毎日だ。本当は原稿書いてる暇なんかない。

こんなことを書くと「チャンピオンズリーグくらい見ないで我慢すれば良い」と怒る人もいると思うが、そうはいかない。見ないとクラスの友達の話題についていけなくなる。ついて行けない、イコール仲間はずれ。つまりイジメへとつながるのだ。これはいただけない。

そして『ウイニングイレブン』。いわずと知れたサッカーゲーム。今の時期、一日休むと三日以上いやそれ以上の差がついてしまう可能性がある。前作とディフェンスの仕方が多少変わったので、今のうちに完璧な操作を自分のものにしなければ。よってこれも休むわけにはいかないのだ。私のプレステはもう何日も電源入れっぱなしだ。いつ、何時、誰がいても私は『ウイニングイレブン』をやる!

とは言っても、維震軍のことを考えない日などあるわけがない。維震軍のことを考えないわけではない。オリンピックを見れば「維震軍が出てれば楽勝で金メダルなのに」と思うし、『ウイニングイレブン』ではせっせとエディットで維震軍メンバーを作ったりしている。

とりあえず毎日、新聞と雑誌で情報は収集している。すると先ほど驚くべき記事を発見した! それは〝高田、ボブチャンチンと復帰戦〟なる記事である。高田が誰と復帰戦を行おうが別に驚かないのだが、問題なのは高田の発言。この記事の中で高田が、なんと敗れた場合は「バーリ・トゥード(総合格闘技)はキッパリやめます」と発言しているではないか! 私はすぐさま理解した。これはあの高田ギャグの前フリであると……。

ホイスだかに負けた時に飛び出した高田ギャグ「もういっちょ!」。えっ、もう1回やるの!? と高田を応援していたファンもそうでない人達も全員ずっこけさせた伝説のギャグだ。

よくコントにこんなシーンがある。チンピラにからまれケンカを売られ、シャドーボクシングや拳法の型をやりながらカッコ良くケンカを買うが、あっけなく負ける。なのにまたカッコつけながら「今日はこのくらいにしてやろう」と捨て台詞。そして周りの人たちが全員ずっこける。

高田ギャグはそんなコントに似ている。全然なのに「もういっちょ!」。この一言が、若かりし頃の私を怒らせ、そして悲しませたヒクソンとの2戦さえもただの前振りに変えてしまったのだ。〝最強〟のイメージを植え付け、なのにからっきし、そこで「もういっちょ!」。先述したコントに酷似! いやはや最高のギャグだ。

このギャグが今、再び飛び出そうとしている。滑走路を加速する飛行機のように高田ギャグが再び離陸しようとしている。「負けたらやめます」と前振り→ボブチャンチンに負ける……。そしてこの瞬間「もういっちょ!」が離陸するのだ!

最高のギャグと言う割りにはオチがみえみえだと指摘する人もいるかもしれない。しかしこの手のギャグはみえみえであることが重要なのだ。例えばダチョウ倶楽部の上島が「訴えてやる!」と帽子を床へ叩きつけるギャグ。「訴えてやる!」というかなり前から上島は帽子へ手をやる。すると我々は「出るぞ!」と察知し、「出るぞ! 出るぞ!」と察知し、あのギャグが出るぞ!」と察知し、それだけで面白くなってしまう。そして帽子が叩きつけられた瞬間、笑いは頂点へと達するのだ。それと同じだ。今から高田ギャグが出るぞとわかっていた方が「もういっちょ!」が断然いきてくるのだ!(高田が勝った時のことは一切考えずに力説)

そういうわけで、現在の生活はテレビ(『あぶない刑事』の再放送)とゲーム(カービィをなんか転がすやつ)中心に回っているのだ。今「無人島へ持っていくものは?」と質問されたなら、「メモリーカード」と即答するであろう。身内に不幸があって田舎へ帰らなくてはいけない時でも、メモリーカード持参。「チャンピオンズリーグ見てから帰る」と言って怒られる可能性も大だ。

9・4、越中詩郎の誕生日——それは特別な日。越中本人は馬場元子社長と会談実現!!

が、そんな私でもテレビやゲームから一切離れる日がある。9月4日。そう、越中詩郎の誕生日だ。

この日、私の生活からテレビが消える。ラジオも消える。車もそんなに走らなくなる。ピアノも消え、バーも消え…(中略)…ギターも無い、ステレオも無い、喫茶もそして集いも無い…(中略)…ディスコも無い、のぞきも無い、レーザーディスクは何者なんだ……と、吉幾三なら東京へ行きたくなるほどの生活に変化するのだ。

いつもならほっとくと夕方まで寝ているのだが、9月4日だけは誰に起されることもなくきちんと起床する。1年に1度だけのすがすがしい目覚め。今にも嵐みたいな風が吹きそうな、良い天気だ(勢いの良い天気)。「さあ、今年の越中誕生日も突っ走るぞ」と私はパジャマ(維震軍の袴)を脱ぎ、服(維震軍の袴)に着替える。維震軍のタオル使用して洗顔等をし、玄関へと出る。祝日らしく国旗ならぬ維震軍の旗を掲げるためだ。だいたいなぜ9月4日は休日じゃないのだろう? 私は休みなのに(毎日が夏休み)。

そうして私は越中誕生日パーティへと赴く。もちろん私の手による自主興行。

今回の検証はその模様を1ページも使って皆さんへお届けします。「越中フィギアは一つで充分!」とか言わずに読みましょう。



P112～
せき詩郎
自主興行による
越中詩郎誕生日パーティーの
模様を完全実況中継!
急げ! 急げ!

ザ・検証

【今月の検証】

ドラゴン・カウントダウン

by 椎名基樹

　俺は、とにかく一度、訊いてみたいんだけど、新日ファンとかいう、あの小僧共の「新日最強」と信じ込む、その根拠はどこにあるんだ？　なぜ、プライドの会場で、藤田がシャムロックにああいう勝ち方して喜べるんだ？　石沢とハイアンが闘って、どうしてグレイシーをブッ殺せっていうふうになれるんだ？

　お前ら、今まで何にも参加してねえだろ？　悔しい思いも嬉しい思いもしてねえだろ？

　それにしても、藤田vsシャムロックみたいな試合（猪木プロデュースな試合）を見た後、どうにもならないイヤな気持ちになるのは、なんだろう？

　リング上で行われたことが、猪木プロデュースだからってだけじゃない、空しいような、悔しいような、寂しいような、気味の悪いもの見たような、孤独感のような、盗んだバイクで走り出したいような、あの気分はなんなんだ！　石沢がハイアンの首を抱えてるだけで、わき起こる「落とせコール」の中で、俺はどう振る舞えば、いいってんだ？　あれは、パスガードもしてるし、本当だったら（猪木プロデュースじゃなかったら）、石沢がマウントを取られて、じゃなかったら、ハーフガードで何とか首をかかえた状態で、「ドント・ムーブ！」をかけるべきですよ、と、銀縁メガネどもに説明するべきか？　デタラメが堂々と行われて、それに拳振り上げるヤツがいて、多数決で負けてるから、どうにも声が届かなくて（でも、俺は椅子の上に立ち上がって、あらん限りの大声で〝引っ込めプロレスラー〟と何度も何度も藤田に向かって大絶叫。あと、競輪場では言ってもいいけど、格闘技会場では言ってはいけない言葉を連呼。あんなに大声出したのはイリューヒン・ミーシャvsメストレ・フッキで、一人「ミーシャ」コールを続けた以来。しかし、西武ドームのスタンドからじゃいくらなんでも遠すぎて、リングには届かず、チクショー！　けど、周りの新日小僧の黙りっぷり。俺の周りだけ盛り上がれなくて、残念だったな、ザマーミロ！）、でも本当の正体は、多数決っていっても、そこに大勢いるだけで、世間的にはまったく閉じている、その空しさ。お前らが、新日ダメにしたんだろ。お前らUインターが新日に参戦した時、桜庭にグレイシーと同じ罵声浴びせただろ。席譲ってやったんだから、今度は出てけよ。大体、何で俺が遊び場奪われなりゃならねえんだよ。お前ら気味悪りいんだよ。

　あと、藤田。お前も気味悪んだよ。お前、プライドGPで膝の靭帯切ったんじゃなかったの？　もう、くっついたのか？　お前の靭帯はアメーバーか？　あの時、お前何て言った？　「靭帯は切れてるけど、ファンのために出てきた」だと？　フザケロだよ。そんなファンをバカにした発言があるか。エラソーに。やることと言うことの性根が腐ってるよ。なんでも、プライド10はブラジルにも衛星中継されてたとのこと。恥ずかしいからヤメてくれよ。エンセンや桜庭も同じに見られるよ。それから、前回の俺の原稿、担当のライターを越えたスーパー編集者殿が「あのコールマン戦はなに言われても仕方ないよ」っていうふうに、なぜか直してくれたので、もう一度書くけど「あのケアー戦は何言われても仕方がないよ」。石沢もレスラーが柔術家にタックルで倒されて、上になられるなんて、メチャクチャだよ。猪木の今やっていることは、サッカー協会の釜本とか千葉すずをクビにした古橋とかいうジジイといっしょ。とにかく、気味が悪過ぎ！

　以上、こざっぱりした可愛いオネーチャンには、全然モテない文章でした！

　と、いうことで、ここから本題。今回、検証してみたいと思うのは、もちろん中島らもの本で、ミスター・ヒトに「あんなに悪いヤツはいない」と酷評されてしまった、我らがまだら（日焼け跡が）呪術師・藤波社長のドラゴン・カウントダウンについてだ。ご存じのように、藤波社長は引退までの秒読みを発表しながら、蝶野戦を1試合したただけで簡単になかったことにしてしまった。

「馬場さんの言葉に、生涯現役という名言があるけど」ああ、ドラゴンはいつ引退するのか!?

　逆に最近は、先に早々と引退してしまった橋本の復帰戦の相手を務めるなど、さっぱり意味不明だ。重要なことをあっさり取り消すのも、言っていることとやることが逆なのも、正に藤波イズムなのだが、では、ドラゴンは自分の引退をどのように考えているのだろう？

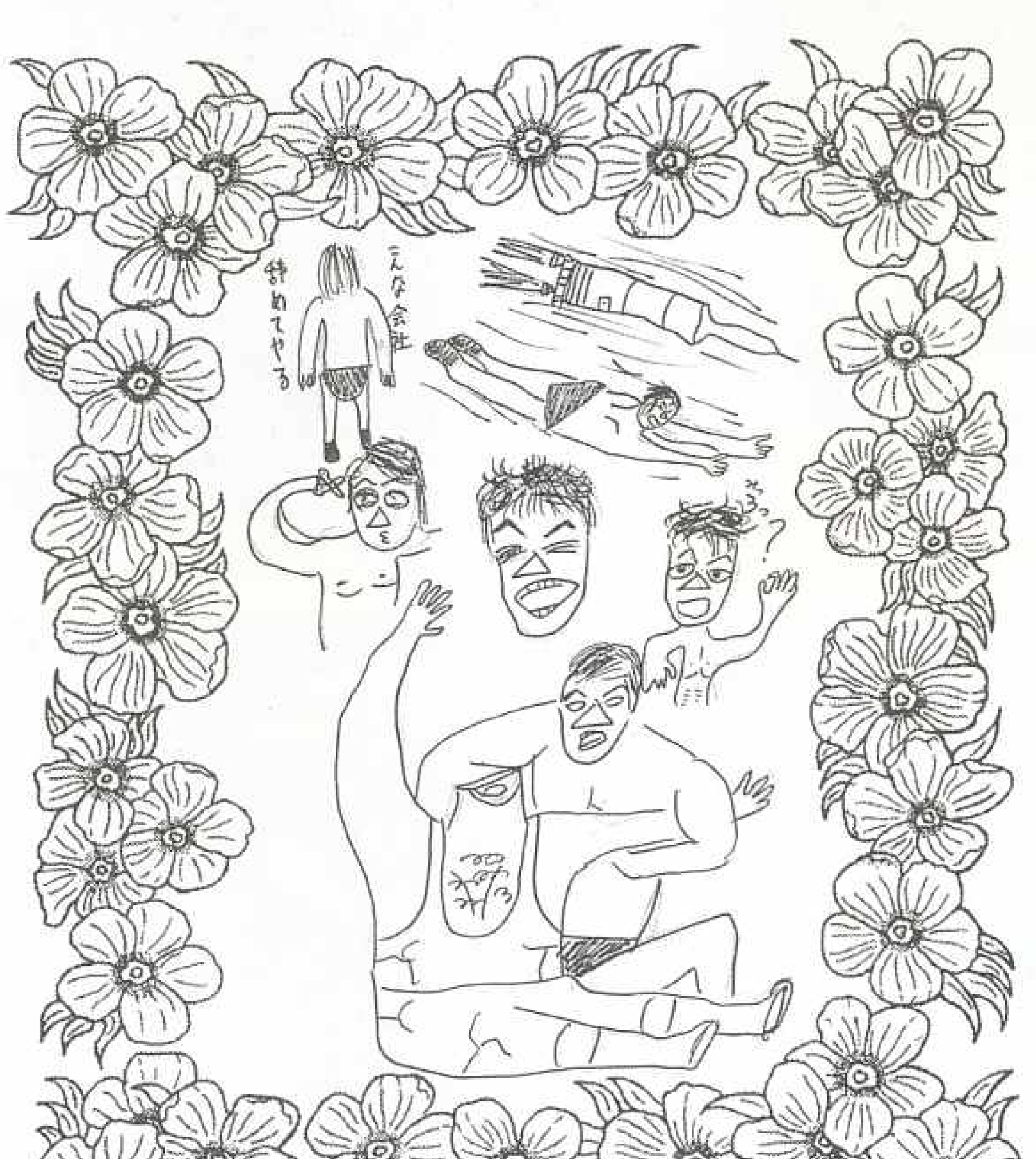
　その答えをドラゴン自ら、『サムライ！』のムトちゃんが司会を務める番組で、いともあっさり吐露していたので、ここに記したい。この番組は、ムトちゃんが各界様々な人に、お話を聞くトーク番組なのだが、ムトちゃんはどうも自分の引退のことが、気になって気になって仕方ないらしく、話題はいつもスポーツマンの引退の時期についてになってしまう。その中でマサ斉藤やアニマル浜口、競輪の中野浩一など、みんな同じように「それは体が教えてくれる」、「後進のこと、業界全体のことも考えた時」など、もっともで男らしいことを言うのだが、我らドラゴンだけが違った。

　「馬場さんの言葉に、生涯現役という名言があるけど」と、昭和新日戦士とは思えない言葉をいきなり切り出すムトちゃん。「へ？」と意表をつかれるドラゴン。「では、引退しないんですか？」と訊かれて「いや、もちろん格は下げていかなければいけないけど」さらには「引退して体がなまるのも怖いし」と全然噛み合わない会話。ドラゴン、また全然わかってないよ！

　しかし、これでドラゴンが、蝶野戦でいともあっさり負けた理由が見えてきたではないか。ドラゴンは、戦いによって格の違いを見せつけることによって（しかも、自分の方が下だというー！）、馬場のように前座戦線に居場所を確保したかったのだ。負けるが勝ちという、なんと完璧なパラドックス！　これも呪術の一種かと思えるほどの巧妙な手口！　だが、そうなると永源遙（なんという素敵な名前）のツバ吐きのような客を沸かせる一芸が必要ではないか？　そこ浮上するのがドラゴン・ケツ出しだ。前座戦線で毎度ケツを出して、客を喜ばせるドラゴン。ああ、今すぐ会場に走りたい！

　しかし、そうはいかないだろう。新日がWWFのようなエンターテーメント路線にシフト・チェンジした場合、WWFの真の主役・マクマホンJr.の日本版をやるのは、ドラゴンしかいないではないか。ドラゴンはいつだって主役なのだ。がんばれ、ドラゴン！

　P.S.　前記のようにプライド10の時、藤田に「ひっこめプロレスラー！」と渾身の罵声を浴びせていたら、ものすごく腰が痛くなってしまったのですが、あれはもしかして、ドラゴンの呪術……。ごめんなさい、ごめんなさい。だと、したら謝ります。怖過ぎ！



担当編集・坂井ノブの
線路歩いて絵を描いて……vol.2

HAPPY BIRTHDAY♡HAPPY BIRTHDAY♡HAPPY



ザ・検証 【今月の~~検証~~→誕生日

♪ハッピ～バースデ～エッチュ～～!!

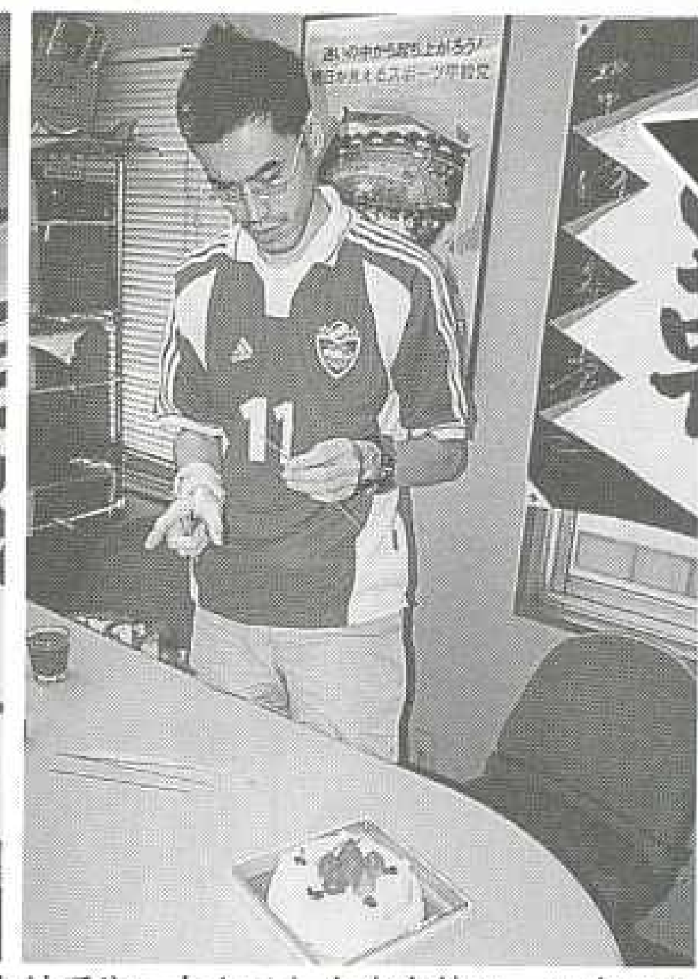
9月4日は越中詩郎を祝え!!



燃やしてすっ飛ばしてやるって!!

ケーキのロウソクに火をつけ終えたばかりのところ。この時、編集の坂井君はこの後披露する予定の宴会芸（人間ポンプと江川の投球フォームのモノマネ）の準備のために着替えてました。





編集の坂井君が、摩擦熱を利用し3時間かけてやっとおこした火を使い、ロウソクに火を灯しました。この火があの大惨事を巻き起こすなんて、その時は思ってもいませんでした……。



お誕生日、おめでと～♥

プロテイン入りの特製ケーキを用意しました！ なんとこのケーキは私の手作り！ ケーキを持って思わず笑顔。この時、自分の家が燃えているなんて思いもせずに……。



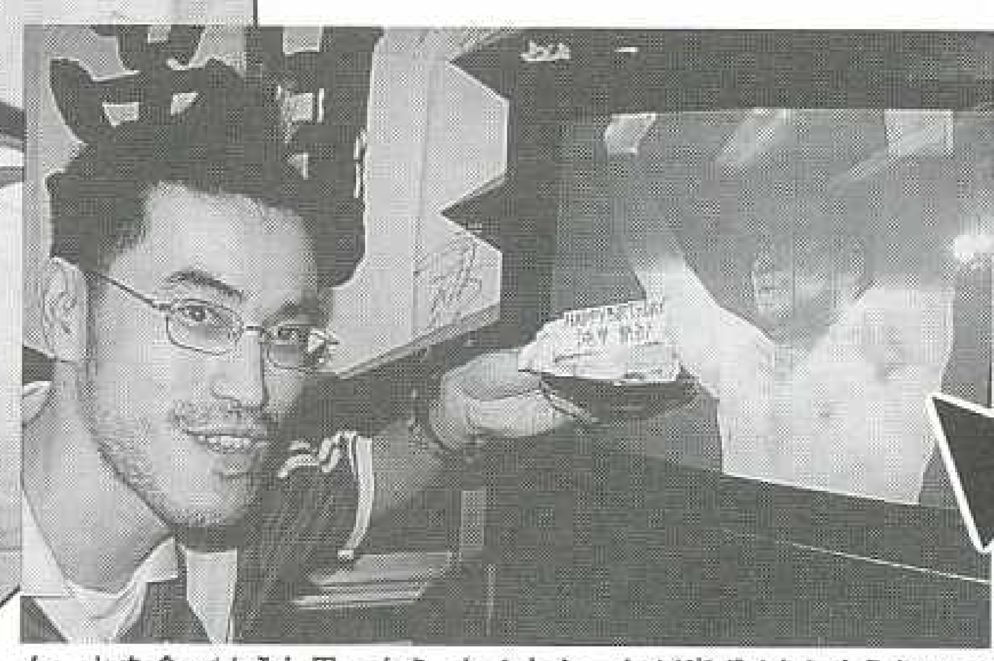
嵐みたいな風吹かせてやるって★



編集の坂井君がギター弾き語りで歌ってくれたオリジナルバースディソング（20分もあるプログレ）がやっと終ったところで、私が嵐みたいな風をおこして火を消しているところ。



やるべきことはすべてやった!!!



ケーキを食べようと思ったら、なんとケーキが半分以上もうないではないか！ 坂井君を問い詰めると「食べてません」と言いつつ、口の周りがクリームだらけ！ まったく、もう!

ビールがないぞ、ビールが!!





そして乾杯！ と思ったらビールがない！「ビールが無いぞ、ビールが！」と叫ぶと編集の坂井君が缶ビールを2本だけ持ってきました。「なんだこの2本は！」と張り倒された坂井君。

花火のようにパーッとパーティーだよ★

そういうわけで、今年の誕生日も無事終了しました。集まってくれた維震ファンのみんなと越中について語り合ったり、輪になって歌を歌ったり、フォークダンスをしたりと大変楽しい時間を過ごしました。残念ながらというか当然ながら越中選手は欠席でしたが、越中選手の席に写真を置き、そこに料理や飲み物を並べました。まるで影膳！ さて、来年も懲りずにやる予定なので、参加希望者は募集を見逃さないように！

CAT FIGHT WORLD

第6回目

マジ!?
「ガチンコキャットファイトとは?」
バトルビデオ企画・製作担当　木根さん

ガチンコファイトとは?

女同士の激しく熱い戦い"キャット・ファイト"の中でも、脚色を排して、純粋に勝負論を追求した闘いのことである。

全キャットファイトファンは『ReMix』の桜庭あつこと『バトル』に注目せよ!!

―今回は、第一回目に登場して頂いた木根氏から、再びキャットファイトの魅力を聞いてみたいと思います。

木根　今回は、キャットファイトの中でも特にファンが強い〝本気・真剣勝負〟の魅力です。

―本気、ですか。それって、ただの格闘技じゃ?

木根　キャットファイトはあくまでキャットファイトなんですよ(苦笑)。アメリカでは、キャットファイトと女子プロレスは完全に違う物として認識されているんですよ。

―日本では女子プロレスも、キャットファイトとして見る人がいるって聞いたことありますが。

木根　まあ、それは置いておいて。キャットファイトって、どちらかと言えばショー的な物だとは思いませんか?

―イメージには、そうですよね。

木根　でも、一番ファン層が多いのって、本気で喧嘩や試合しているキャットファイトなんですよ。

―そ、それは、以外ですね。

木根　まあ、リアルがずば抜けてって分けじゃないですけど。僅差で(笑)。

―と、言うとやっぱりL-1とかそういうのが人気あるって感じですよね。

木根　L-1……を、美少女、美女が行っている……というか。

―コメントしにくいですが(笑)決して、L-1の舞台に出ていた方々が美女ではない、わけじゃあ、ないんですよね?

木根　(無視して)女性同士が本気で戦っている、まあ喧嘩にしろ試合にしろ、と言うのが良いんでしょうね。

―純粋に格闘技として、好きという事ですか?

木根　キャットファイトはあくまで「お色気」として見るものでしょう(笑)中には、そういう方もいるとは思いますが。だから、本気の試合でもヌードで行ったりします。

―あ、やっぱり。

木根　いやいや「脱がなくても良い」って方がほとんどですよ!

―ええ、じゃあ、どこで、どこで⁉

木根　どこで、って(苦笑)僕なんかもそうなんですけど、やっぱり絡み合ってる体とか、技を極められた時に自然と漏れてしまう吐息とか声、表情でしょう。

―よくバラエティーで足壷健康法とか、水着の女の子がやられて痛がるコーナーがあるじゃないですか。あれと同じ……?

木根　表情は同じかもしれませんが(笑)根本的に違うでしょう。本気で相手に勝ちたい、負けたくないって思っている女の子が、逆にやられちゃっている、というシチュエーションですね。言いたくないのにギブアップって言ってしまう瞬間とか、グッときますよ。

―でもそれって、女子プロレスじゃあ、駄目なんですか?(何が駄目なんだか……)。

木根　女子プロレスが好きという方は、本当にたくさんいますよね。そんなファンの中でも、そういうお色気を目当ての一つにしている方だって、必ずいると僕は思っているんです。もちろん、女子プロレスの魅力をそれだけだとは思いませんが、そういう要素だってあるんじゃないかと。

―まあ、最近はそういうイベントも増えてはいますよねえ。

木根　12月2日の『Re-Mix』、桜庭あつこ参戦……これは外せませんよ。

―確かに、本気でやるとは聞いていますが……。

木根　キャットファイト色がかなり濃くなる事は間違いなし!　頑張ってください、桜庭選手‼

巨匠入魂第24回
真樹日佐夫

illustration▶ 中川雅博

前回までのあらすじ

天性の格闘技センスを持つ男、万無比人。その素質をいち早く見抜きプロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスでは連勝街道を突き進み、異種格闘技戦でも、ある程度の成果を収めた無比人は標的をヒクソン・グレイシーに定めた。交渉は難航したものの、道場での非公開試合という形でヒクソンと運命の対峙を果たし、互角の闘いを繰り広げた無比人。しばらくして、ヒクソン対船木戦が発表されると、無比人は半ば道場破りのような形でパンクラス道場に出向き、強引に船木と相対峙した。始めはそれを見守っていた氷見子だったが、耐えられずそれを遮ったのだった——。次に無比人が姿を現したのはマジソンスクエアガーデンのリング。WBC・IBF統一ヘビー級王座を防衛したレノックス・ルイスが勝ち名乗りをあげているところに乱入した無比人は、リング上で王者に対しての強烈な正拳突きを叩き込んだ。この無比人の突飛な行動は、最前列で観戦しているマイク・タイソンに対してのアピールだったのだ。数ヵ月後、紆余曲折の末、タイソン対無比人戦が正式に発表となった。無比人はタイソン戦へ向け、ボディプラントそして巻道場で特訓に入った。闘いのゴングは間もなく——。

（51）

むちむちと白い水蜜桃を思わす尻が、菊の蕾を天井へ向けた状態で目の下をゆっくり過ぎて行く。

常の女の尻ではない。千人からの従業員を擁する食品会社の社長にして、プレイガールとしても名を馳せ数多の男どもを食い漁ってきたゴージャスな熟女の尻。そう思うことで勝利の味わいはいや増し、さらなる征服欲への妄想のあれこれに氷見子は舌嘗めずりせずにはいられない。

芳賀絹子は、ナースキャップを着けただけの素っ裸で病室の床に四つん這いとなり、見舞い客用の椅子に坐る氷見子の足許をよぎってベッドの際へ。ベッドには顎をギプスで固定した無比人がいて、ヘッドボードに半身を凭せかけた格好で芋虫さながらの絹子の動きを注視しているのだ。

御茶ノ水駅からつい目の先の大学病院外科病棟の個室病室。そこへ無比人が緊急入院させられて、あと三日で三週間になる。顎のギプスは一両日中には取れるだろう、と主治医が宣うまでに恢復していた。

「これ、ブタ絹子。ちょいと早いよ。もっとペースを落とすんだ。お許しも出ないうちに大王さまにタッチなどしようものなら、お仕置きだからね！」

絹子の動きが一瞬止まる。エアコンのせいか、腰から股にかけて鳥肌が立っている。氷見子が絹子や真澄や千堂にとっては女王さまで、そのご主人さまである無比人は即ち大王さまなのであった。

「よーし、そこで伏せだ」

とベッドの上から無比人。絹子は尻だけを押っ立てたまま、下顎を床に突く。両手はまっすぐ前に伸ばす。いうところの伏せの姿勢。

シャワー室のドアが開く。絹子と同じくナースキャップのみの真澄が、いと気恥ずかしげに這い出る。臀部から股へと流れる肉置きのたおやかさは、絹子にも増して見事だ。ミルク色のしっとりとした肌が氷見子の目にも、こよなく魅惑的に映った。

「随分と仕度に手間取ったじゃないか。ブタの絹子は、もうあんなとこまで行っちゃってるよ。先にベッドへ上がられてもいいのかい。この白ブタが」

「それは……厭でございます～」

「だからといって、早足歩行は厳禁だよ。ゆっくり、あくまでもゆっくりと。ベッドへ辿り着くまでに、そのいやらしい尻をじっくりと目で犯してやるんだから。わかってるね！」

女と女。ライバル意識が働くせいか、ことんいたぶらなくては納まらない気分にさせられる。おのずと口付きもきつくなる。

真澄は尻を振り振り、ややもすると膝の運びが滑らかになりかかるのを、時折後退りなどもしてセーブするのに懸命な様子だ。

氷見子の残忍な視線と言葉に幾度となく刺し貫かれながらも、ようやくベッドの下へ到ると、

「伏せだ、伏せ。ヒップをしっかり上げろ」

待っていたように無比人の声が降りかかる。真澄は言われた通り、絹子と尻を列ねる位置にて同じく伏せの姿勢を取った。

「白豚二匹、よーく聞け。これよりそこでキャットファイトをやり、勝った方にだけベッドへ上がる権利を与える。敗者にあるのは、プレーを見せつけられる辛さと屈辱だけだ」

無比人が勿体らしく告げるのを聞き、そうか二人を呼び寄せた狙いはそれだったかと、後れ馳せながら氷見子にも得心された。夕食を摂っているときに、

——デリバリーさせろよなあ、奴隷たちを」

思い出したように彼が言った。

——ここへ？

——ああ。これから消燈までの三時間、

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン
本格格闘プロレス小説

無

いや四時間か。もう退屈で退屈で死にそうなんでねー。

いくらなんでも病院にまで、と氷見子にもさすがに躊躇いが生じたが、言い出したら諾かない無比人のこと、渋々ながら頚を縦に振るよりなかった。

——三人とも呼ぶ？

——いいや、千堂は今日はいい。病室に男性ヌードが転がるんじゃ、洒落にもならないんで。

ということで携帯電話で二人を掴まえ、非常招集をかけた。病院の夕食は早い。まだ五時を回ったばかりであった。

一時間もしないうちに、真澄と絹子は一緒に姿を見せた。ナーススプレーもやらすかと無比人が言うのでキャップと白衣を持参させたが、いざとなると白衣は着なくていい、ということになり彼女らを氷見子はシャワー室へ追って仕度を急がせた。

ここでのプレーの醍醐味の最たるものは、本物のナースがいつなんどき入ってこないとも限らぬという、そこのところにあろうかと思いをめぐらす一方で、開き直りのゆえにか、いつか事態を愉しむ心境にもなっていた。個室病室といえどもドアには鍵は付いておらず、担当の看護婦や医師がいきなり現れても不思議はなかった。

キャットファイト——即ち女同士の掴み合いの喧嘩で、これをショー化して売り物にするビヤホールや金髪バーなども近頃は増えているという。

「髪の引っ張り合い、チョーク攻撃、殴る・蹴る、何でもありだけど、ただ咬み付き。これだけは反則で、犯した方はその場で敗けにするよ！　勝つには気絶させるか、ギブアップでタップを奪うか——」

氷見子はレフェリーを買って出、思いつくままを口にのぼせた。咬み付きは相手の肌に傷をのこすことになる、それは無比人も善しとすまいと思われた。

「はじめ！」

の合図で絹子と真澄は両膝立ちの姿勢からぶつかり当い、忽ち仲良く尻餅を突いた。女の隠しどころの奥の奥までが氷見子の目に晒された。双方の頭からナースキャップが飛んだ。

真澄が先に態勢を立て直し、掴みかかろうとした。と、それを嫌ってか、のけぞったまま絹子が蹴りを出した。一撃は下腹をしたたかに据え、真澄は今度は尻の割れ目の全容を曝け出して蝦状になった。豊満この上ない肉がぶるぶると震え、苦しげだ。

絹子は起つと後ろへ回り、片手で髪を鷲掴みにした。容赦もなく体重をかけて毟ろうとする。引っ張られて真澄も立ち上がるのを余儀なくされたが、反り身のうちに途中で肘を後方へ振った。

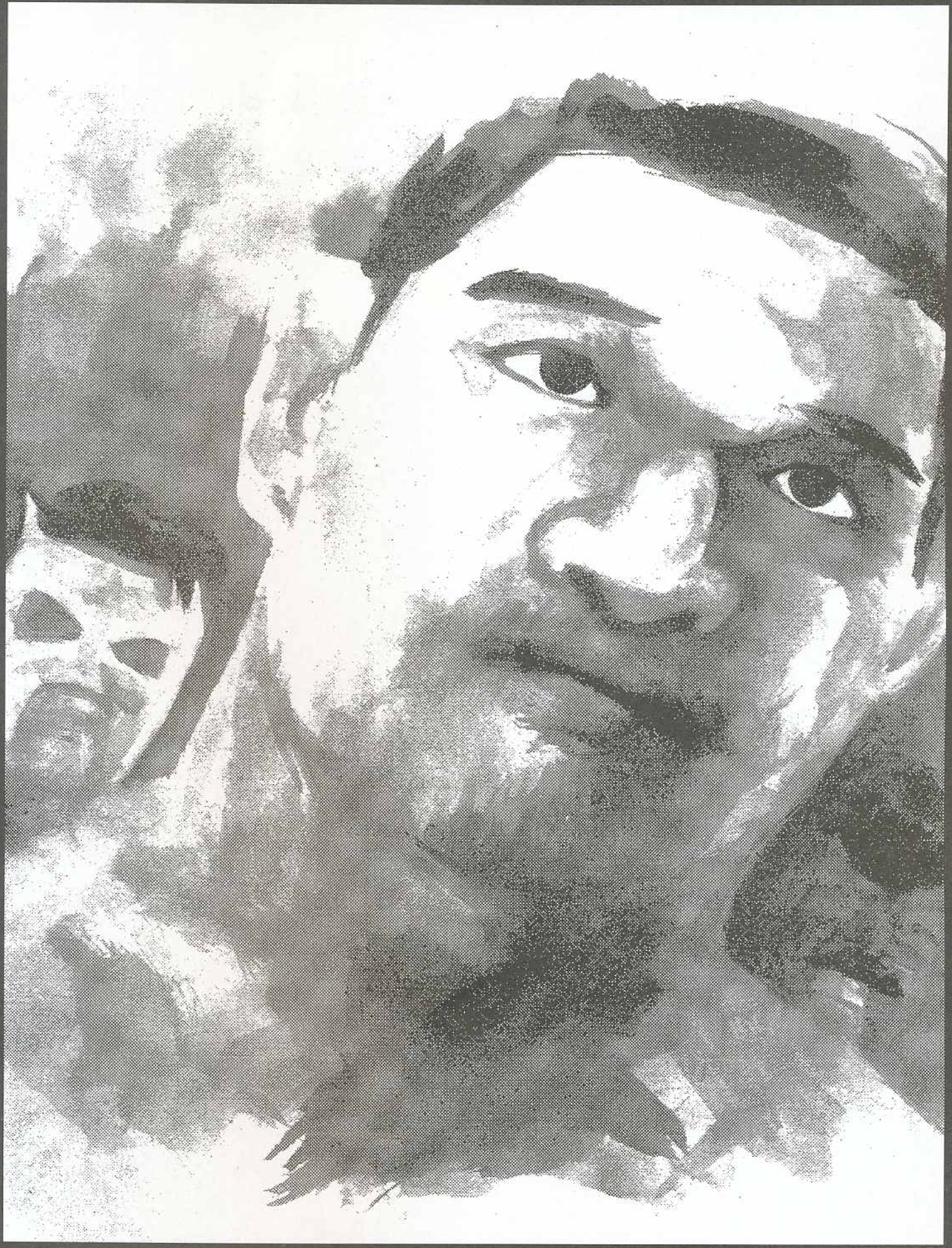
苦し紛れの肘打ち一発は鳩尾に入ったか、絹子は手を放してすとんと膝から落ち、前のめりに倒れ込んだ。肩も背中も腰も痙攣している。その腰を踏み付けるような感じの蹴りが襲う。

女社長二人、内実はどうあれ表向きは笑顔で接し、時にはよからぬ遊びも一緒になってしてきたろうに、見栄も恥もかなぐり捨ててあられもない肉弾戦を繰り広げている。いつドアが開くかわからない、ということを考えぬはずはないにもかかわらず、どちらの動きも野放図なまでに開けっ広げなのはハマってしまっている証拠か。

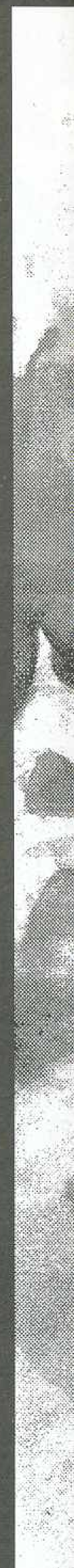
この二人をマゾ奴隷に堕として以来、豚扱いしていくら尊厳を踏み躙ろうとも、そのつど必ず何か新発見があり厭きがこないのは、要するにそれだけどちらもが奴隷として上質であるということなのでは。最近氷見子もそういう見方をするようになっていたが、一つ不満があるとすれば女王さまにも大王さまにも揃って従順になり過ぎた点で、ちょっぴり物足らないでもなかった。

もう一人の奴隷、千堂はどうかというとプレーの相手をさせても尚どこかぎごちなさが付き纏い、雄としてのプライドが未だ邪魔をしているとしか思えない。女二人に較べて数等質は落ちよう、というのが氷見

そのいやらしい尻をじっくりと目で犯してやるんだから。わかってるね！



子の視るところであった。
キャットファイトは結局、体力面で優る真澄が最初は押し込まれたものの逆転し、チョーク攻撃でタップさせることに成功。それだけに止まらず、尚も頚を絞め続けて絹子を失神せしめた。
レフェリー役の氷見子としては、絞め続ける真澄を一度は制止しようとしたのだが、自分に浣腸までした女の苦しみ踠くさまがなんとも小気味よく、浮かせた腰をじきに椅子に戻していた。
ベッドの足許の床に四肢を押っ広げたまま伸びた絹子の傍らで、再度伏せの姿勢を見せる真澄へ、
「よし。それでは這って上がってこい」
と無比人。両手と膝だけを用いて上がり、パジャマの下半身を開いたその狭間にお坐りするのを待って、
「何が望みだ」
「ご奉仕を――させて頂きとう存じます」
「どんな」
「あれを……」
「あれじゃわからん。はっきり言え」
「その……フェラを」
「もっとはっきり」
「大王さまの太くて硬くて巨きい――」
言い継ぐうちにも、無比人のパジャマの前が見る見る力感を漲らせるのが氷見子のところからもわかった。
SでもMでもない、ナチュラルなのが男のやしさゆえにMに徹してくれているのだと、無比人について氷見子は勝手にそう決め込んでいたが、ここへきて自信が持てなくなった。自分などより本当はずっとSなのでは……。それはしかし千堂とのことが原因でアナルまで蹂躙されたあの夜だけで、その後は、内輪ではまたそれまで通りの関係に落ち着いていたのだが。
やっとお許しが出て、犬がミルクを啜るような音を真澄がさせだしてほどなく、無比人が見返った。
「自分で慰めな」
言われなくとも、すでにして絹子が絞め落とされて失禁した辺りで氷見子は、半ば無意識のうちに股でパンティーの奥をこねくるようにしていたのだ。憚りなく手指を使いはじめた。
床頭台の上に置いた携帯電話が鳴った。手を止めぬままに出たら、千堂で、
「病室だろ。彼に代わってくれないか」
「いまは……ちょっと」
無比人の両手は、真澄の頭と乳房とで塞がれている。
「では伝えて欲しい。アンディが死んだ」



無比人は今度は派手に吹っ飛び、背中からロープへ叩きつけられた

「では伝えて欲しい。アンディが死んだ」

「アンディって――アンディ・フグ?」

「つい先刻、六時二十一分に急性前骨髄球性白血病で」

電話は切れた。

（52）

K-1王者アンディ・フグ急死の報は全国を駆けめぐり、三日後の八月二十七日、港区元麻布の麻布山善福寺で執り行われた告別式には万余の参列者が詰めかけた。

開始時刻の一時半より少し遅れて氷見子は、千堂、無比人と一緒のタクシーで寺へ着いた。ギプスは取れていた。訃報を聞いた後、無比人は通夜にも出たがったが、その段階ではまだ医師の許可が出ず、この告別式の日の朝になってようよう退院に漕ぎつけたのである。

寺の山門から商店街の通りまで、すでにファンが長蛇の列をなしていたが、関係者ということで千堂が手を回していたらしく、三人とも待たずに境内へ入ることができた。

焼香をすませ、山門をでてきたところで報道陣に取り囲まれた。

「顎はもういいんですか」

「故人とは生前にどのような――」

「タイソン戦の感想を、是非ひとつ」

無比人へ質問が集中した。タイソンの名前が飛び出して、この場所でなにもと氷見子は自分のことのようにやきもきさせられたが、試合会場の日本武道館から救急車で病院へ運ばれて以来、一切のマスコミをシャットアウトしてきた。その点を考えれば、無理からぬことといえないでもなかった。

無比人が氷見子に語ったところでは、彼とフグは六本木の鮨屋で一度顔が合って話をしただけだが、日本人の多くがどこかに置き忘れてきてしまった武士道精神が脈々と息づいているのが感じられ、いたく心を揺さぶられたそうな。

「――感想ねえ。彼のパンチはまあ警戒したほどでもなかったが、参ったのはあの肘――プロレスのエルボーね、空手では猿臂っていうようだけれども、あれには参った。いや、効いたのなんのって」

やりとりのうちにも記者やカメラマンらの数は増す一方で、いまや無比人がタイソン戦以前の彼ではないという客観的事実を図らずも氷見子は、揉みくちゃにされながらとくと悟り知った次第。

千堂も少なからず戸惑った様子ではあった。

マイク・タイソン対万無比人の異種格闘技戦は先のアリと猪木戦の顰みに倣うかのように、中盤までは淡々とした攻防のうちに回を重ねた。強いて言うなら、立ち上がりの2R、タイソンの左に合わせて無比人が頭突きに行こうとしたが紙一重のところで届かず、フォローの右フックを浅くレバーにもらいカウント3のダウンを喫した、それくらいか。試合は、三分十五ラウンド制が採られていた。

波瀾は7Rに訪れた。

タイソンが足を止めて左右の連打を揮い、これを小手受けで一々カットしつつ無比人が、いきなり頭突きを放った。見切られて右ストレートを浴びたところまでは2Rと似た展開だったが、打たれた無比人は今度は派手に吹っ飛び、背中からロープへ叩きつけられた。

千堂以下無比人陣営が浮き足立つなか、巻一人が涼しい顔をしていた。というのも6R終了後のインターバルでリングへ入った際、動体視力が抜群のタイソンにフェイントもなしに頭突きを当てるのはどうやら無理のようだ、いいからもう一度パンチを合わせられるように仕向け、もらったら思い切りロープへ飛べとの指示を与えたのは、ほかならぬセコンドの彼であったからだ。

ロープ際からリバウンドして弾き返された無比人は、これも巻に授けられたのだったがその勢いを利して、またまた頭突きを一杯に伸ばした。作戦は奏功し、どうにかタイソンの顔面にヒット。

すかさずさらに踏み込んでロープを背負わせたとき、左の喉輪が深く入り五指が頸動脈と気道とを圧迫していた。

頭突きで飛ばし喉輪に繋ぐ――巻久生直伝のタイソン退治の奇手であり、喉輪を鍛えるのに無比人は巻道場での特訓中、分厚い電話帳二冊をぼろぼろにした。握力八十強だったのが、お蔭で百近くまでアップしたものと思われた。

タイソンは喉輪を振りほどこうとして無理と知ったか、顔面パンチに活路を拓く作戦に切り替えた。が、連打するも右は無比人の左腕によってほとんど殺されており、頼みは左のみ。それもしかし右の小手受けでカットされるケースが目立ち、ひょっとすると満場期待を膨らましただろう。それを根こそぎにする感じで突然、小手で封じたはずの左フックが肘打ちに変じ、ガードを盗んで顎を破壊してのけたのであった。

無比人は横ざまに沈んだが、直後にタイソンも力尽きたとみえて泥人形のように頽れ、そのままレフェリーのトータルテンを聞いたのだ。ダブル・ノックアウト。大会ドクターの発表によると、無比人は顎の骨を骨折。タイソンの方は頸椎を損傷しており、全治までには双方とも最低一ヵ月はかかろうとのこと――。

三時の出棺間際になって、ひと騒動持ち上がった。

〈以下次号〉

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

PART2

雑誌『TVチョップ』（エンターブレイン）の連載企画「男気万字固め」で取材させていただいたガッツ石松兄ィのマネージャー、金澤氏からたったいま電話有り。いきなり「原稿を読んだけど、感動しました！ あなたはかなりのガッツ石松マニアみたいだし、ウチの大将のお墨付きでもあるから、一緒にガッツ伝の最高峰を作りましょう！」と言われちゃいました。答えはもちろん、「よし、やろう！」。そんなガッツ信者がお送りする、「ダイ・ウィズ・ガッツ」な書評コーナー。〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉

『昭和プロレス維新』
（小佐野景浩／日本スポーツ出版社／952円）



新日クーデター＆ジャパンプロレス内の具体的な金の動きや細かい派閥の問題まで克明に描いた便利な資料であり、今号の永源インタビューを読み解く上でも非常に役立つサブテキスト。

ジャパンの大塚直樹社長が、トム・マギー（単なる重量挙げ選手）との世紀の凡戦に続く**「長州の異種格闘技路線としてカナダ・プロフットボールのフレッド・ウォルツィー、WWFの『レッスルマニア1』でホーガンとタッグを組んだミスターTをリストアップ」**していたことなど衝撃情報も多々あるが、重要なのはもちろん藤波！

かつて新間寿が名著『プロレス仕掛人は死なず』（84年／みき書房）で「藤波辰巳らの魔の手」「山本小鉄を担いだのが彼らの失敗だ」とブチ上げたように、ここでもクーデターの悪役として描かれている2人というか、ぶっちゃけた話で言えば藤波が面白くてしょうがないのである。

もともと、大塚直樹が新日を辞めようとして山本小鉄に相談したところ、なぜかそれが気が付くと新団体設立構想となり、そこに永源が賛同したのが発端だったという新日クーデター。

そこでキーポイントになってくるのがよりによって藤波なのだから、もうたまらなすぎるのだ。

「（新団体を）スタートするかしないかは藤波次第というところまで話は進んだ。つまり、藤波をエースとした新団体構想が出来上がったのだ。その後、役員人事は社長＝山本、副社長＝藤波、専務＝永源、大塚とし、新団体は『ワールド・プロレスリング』として59年3月に独立という計画は練られた」

どうですか、この完璧な布陣！ それでも井上（義啓）さんが「藤波だけが猪木を裏切らなかった！」と言い続け、著書『オレが天下を取る』（85年／ワニブックス）で「自分の城を放棄してなぜ他団体に移らねばならないのか!!」と吠えた藤波が、新日という大事な自分の城を捨てるわけがないだろう。

ところがビックリ。**「山本取締役から新団体構想を打ち明けられた藤波は二つ返事でOKした」**とのことなのであった……。

「藤波も新日本の収益が合法的に『アントン・ハイセル』に流出していることにかねてから疑問と危機感を持っていたのだ。また『ハイセル』のために愛妻の実家から千万単位の金を何度も借り入れ協力もしていたし、この年の契約更改ではノーギャラアップだったこともあり、我慢の限界に達していたのだろう」

疑問と危機感を持っていた割にはちょっと金銭的に協力しすぎという気もするんだが、だったらなぜ藤波は初期『Number』誌上で「クーデターに参加した奴等はゴキブリだ！」などととんでもないことを吠えたりしたのだろうか？

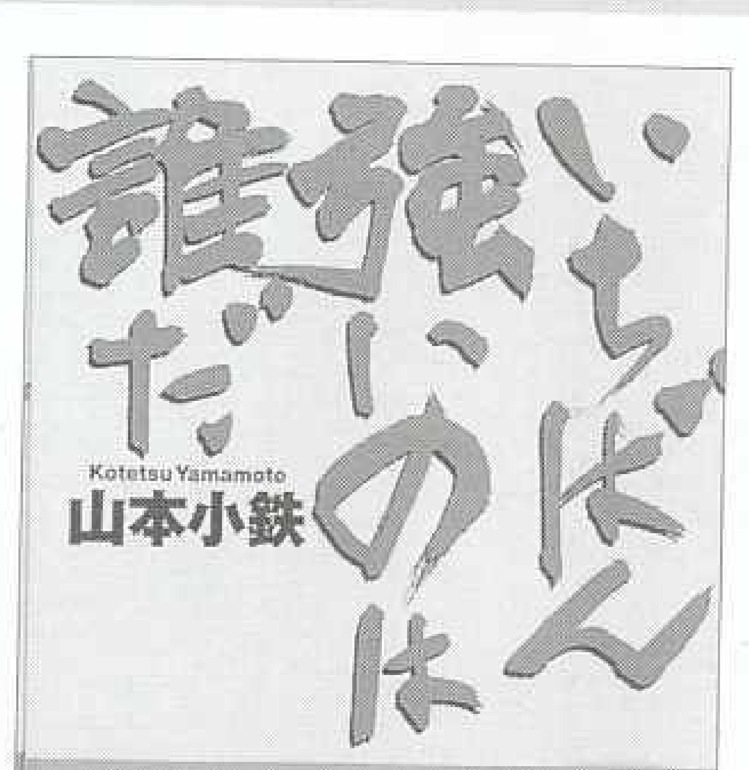
結局、クーデターが**「営業＆経理派、タイガー派、出向役員派、本来は大塚氏と一心同体であるはずなのに各派と接触を持つ山本取締役、藤波という複雑な絡みの中で決行」**されたという以上、藤波がコンニャク（by永源）だったばかりにクーデターが失敗し、そのことを関係者に叩かれまくった藤波が女房の手前、逆ギレしたとしかボクには思えないのであった。

その後、藤波にはジャパン移籍の噂が流れたこともあったが、大塚氏によれば**「実際には、一度も誘ったことはありませんでした。なぜなら藤波さんは自分一人で決められる立場ではありませんでしたから……」**とのことなので、どうも当時からかおり夫人の許可がなければ立場的に身動き取れなかったらしい彼氏。

つくづく「藤波について考えることは喜びである」と声を大にして言いたくなる次第なのだが、そのうち長州率いる維新軍団があえて藤波をターゲットにして革命をブチ上げた理由もクレバーなボクにはボンヤリとわかってきた。

そう、マサ斎藤が**「本当に強い奴がトップを取らなければ、日本のプロレスは駄目になる」**と主張して、長州も**「俺たちは俺たちの考えているプロレスをやりたい。それは実力で勝負するプロレスです」**と**「実力主義」**をしつこいぐらいに口にしたのは、猪木に続いてトップに立つはずだった藤波を「あいつは弱い！」と暗に告発していたのに違いないのである。

『いちばん強いのは誰だ』
（山本小鉄／講談社／780円）



3年前にリリースした時点で「高田や船木に喧嘩試合はやらせたくない」「このままいけば、あと3年で小川には誰も勝てなくなる」と予言していた鬼軍曹・山本小鉄の名著が、遂に文庫化。

それに合わせて「馬場さんと試合させられる三沢や川田が可哀想だ」「船木がルッテンに打ち合いで勝てるわけがない」「頭半分抜けている橋本、いちばん伸びる可能性のある健介」などの項目が消え去り、代わりに**「本当はPRIDEで藤田のセコンドにつきたかった」**（**「実は、ある人を通じて、藤田のセコンドについてくれという要請があった」**とのこと）**「今だからこそ語る"橋本vs小川"の全て」「小川の真価は中西戦で見える」**などの書き下ろし原稿が追加されたので、たとえ前のバージョンを持っていても男なら買うべき一冊だとボクは思う。いや、本当に。

なにしろ、いきなり**「断言するが、格闘技でないプロレスなど学生プロレスの遊びと同じだ。強さを追求しない奴はプロレスラーじゃない」**とブチ上げて、小鉄はこう断言するのだ。

「僕からすれば、藤田や桜庭クラスなら、そうそう簡単に負けないことはわかっている。それよりも、ろくにトレーニングも積んでいないような二流、三流プロレスラーをぶっ潰して、プロレス界に衝撃を与えてくれた選手たちに感謝したい。ダメな奴はダメ、強い奴は強いという当たり前のことを思い出させてくれて、アルティメットよ、PRIDEよ、ありがとうという感じだ」

それ以外にも、迷わず全面支持できる発言ばかりが追加収録されているわけなのである。

「現在はプロレスのスタイルも当時とは変わってきて、総合格闘技と呼ばれるような"外敵"にも立ち向かわなくてはいけない。ファンの目が、どんどん厳しくなっていることを、レスラー全員が自覚するべきだ」

「やっぱり高田、船木は汚いことができなかったなど。**特に船木は、ヒクソンを転がして上になるというチャンスをつかみながら勝てなかったのは、精神面の弱さが原因だ。一撃で眼底骨折までさせたのに、なぜ"殺す"ことができなかったのか」**

まあ、確かに**「僕もヒクソンの試合のビデオを観たりすると、"ちくしょう、30年前だったらオレがやってやるのに"と血が騒ぐ。ああいう闘いは昔から大好きだからね」**という発言も含めて、自分が引退しているからこその言いっ放しという気がしないでもないが、そんなのは面白ければ問題なし！

かつて全日に向けられていた牙が、**「日本で『エンターテインメントプロレス』なんてほざいてる奴もいるが、しょせんはマニアックな狭い世界でしか通用しない」「大仁田はタレントがプロレスをやっているのであって、もはや本業が逆転している」**とFMW方面に向けられるようになったのも、面白いからOKなのだ。そのタレントを新日マットに上げたことについてどう思っているのかも、ぜひ知りたいものなんだが。

それと、もうひとつ。この文庫版で抜群に面白いのは、状況が変化したため微妙に文章を書き直している部分を見比べることなのであった。

たとえば、「レスラーの中でも、そういうセオリー破りみたいな試合が好きな奴は、他流試合に自分から望んで出ていく。プロとして名前を売るには絶好の機会だからね。今の新日本で言えば、橋本や武藤、健介、それに石沢常光や永田裕志も、この主の闘いを好むタイプだ」という文章の代表例が、この文庫版では**「永田や中西、石沢常光（ケンドー・カシン）」**に変更。

タックルが下手な選手の代表例も、やっぱり山本宜久＆高山善廣から橋本へと変更。

蝶野＆橋本の写真に付けられたキャプションにしても「武藤にSTFを仕掛ける蝶野」「現時点で仮想実力日本一の橋本真也」から、**「昔のような技のキレが見られない蝶野」「なまくらになってしまった橋本」**に容赦なく変更。

そして「新日本以外で仮想実力日本一の最短距離にあるのは高田だろう」という文章も、**「やっぱり小川が『日本最強』に、いちばん近い場所にいる男だと思う」**に変更。

パンクラスを批判して「橋本vs小川の（最初の）二連戦は、本物のプロレスを見せてくれた試合だ

った。あの緊張感と迫力こそが、ストロングスタイルの真髄だと思ったね」と新日を持ち上げた文章も、**「正直に言えば、今の新日本だって僕の考**

それにしても、TVというか単なる構成作家（おちまさと）がブチ上げた「小川に負けたら即引退スペシャル」によって引っ込みがつかなくなり

よねえ。立派なもんですよ。カッコイイですよ。魅力ありますよね。笑顔もいいし（ニコニコ）」

額の「借金」があり、「鬱病」で「日本の若い男にも目がない」というとんでもない男、ジョン・

め括りには、みんなで六本木にくりだして、ピザを頬張った」

った。あの緊張感と迫力こそが、ストロングスタイルの真髄だと思ったね」と新日を持ち上げた文章も、**「正直に言えば、今の新日本だって僕の考える怖くて強いプロレスとは違うよ。残念なのは、猪木さんの時代から受け継いできた『強さ』へのこだわりを、しっかり継承していくべき選手の一人だった橋本が、途中でなまくらになってしまったことだ」**に変更。

全日は実戦の練習をやっていないという批判にも、やっぱり**「しかし、これは、当時の全日本の選手だけではなく、パフォーマンスにこだわりすぎる一部の新日本の選手や、他のインディー団体の選手も含めて指摘したい」**という文章を追加し、**「僕は特に秋山準という選手に注目している。今すぐにでも中西や永田とやらせてみたい」**という説得力のあるオチで文章を締める。

こうして平成の新日もキッチリ批判していくから、ボクにも共感できることこの上ないのであった。

なお、3年前の予言のうち最も当たりすぎていてボクが怖くなったのは冒頭の発言ではなく、「藤波自身は、『無我』は趣味でいいと言うかもしれない。しかし、『無我』に入門した若い選手はどうなる。責任を持って育てて一人前にするのは大変なことだ。もし適当なところで放り出したら、インディーが犯しているレスラー乱造の過ちを新日本の幹部が同じように犯すことになる」という非常に正しい指摘だったのだが、さすがにカットされてしまったのが個人的には残念でならない。

その代わり、今回は藤波に何と指摘しているのかと言えば、**「かつての馬場さんが言っていた『生涯現役』を、最近、藤波も口にしているようだが、とんでもないことだ」**とのこと。

どうやら新日クーデター以降、この2人はシュートで仲が悪い様子なのである。



『週刊プロレス・スペシャル2 劇的引退復活伝説』
（ベースボール・マガジン社／762円）

それにしても、TVというか単なる構成作家（おちまさと）がブチ上げた『小川に負けたら即引退スペシャル』によって引っ込みがつかなくなり引退に追い込まれ、同じ構成作家が作るスポーツ・バラエティ番組の千羽鶴企画で復帰させられることとなった橋本は本当に不幸だとボクは思う。

橋本が愛車のボンネットに「小川」と落書きされたのは最初の対戦で負けた直後の出来事だったのに、それをあえて意図的に時間軸をズラし、1・4事変で小川に破壊された後の出来事だったように報道してきたのも問題あるだろうし。

そう、いまの新日には問題ありなのだ！

というわけで、これは橋本復活に合わせてリリースされた『週プロ』増刊の第2弾。業界の内側にいるため無難な発言しかできない選手や、外側にいすぎて現状を知らないOBばかりが登場するこの本の中でもズバ抜けて光っていたのが、意外なことに**「同じことを思っている選手はいっぱいいると思いますよ。ただ、現役だから言えないだけで」**という立ち位置で容赦なく新日に牙を剥いてみせる『スナック・カンちゃん』（近々歌舞伎町に移転予定とのこと）のマスター、キラー・カンだったのである。

カンちゃんは（聞き手・藤本かずまさ）分裂騒動に巻き込まれて引退することとなったというジャパン最大の被害者（アニマル浜口と新倉史祐も引退したが、後に復帰）ゆえなのか、かつてのリーダー・長州に対する毒舌ぶりはまさにキラーの一言！

「もし（ジャパンが）ダメになったらみんなで辞めようとまで誓い合ったのに、あの頃のアタマの長州とかが（新日本に）戻ったというのを聞いてね、なんだ男らしくないなあと思った」

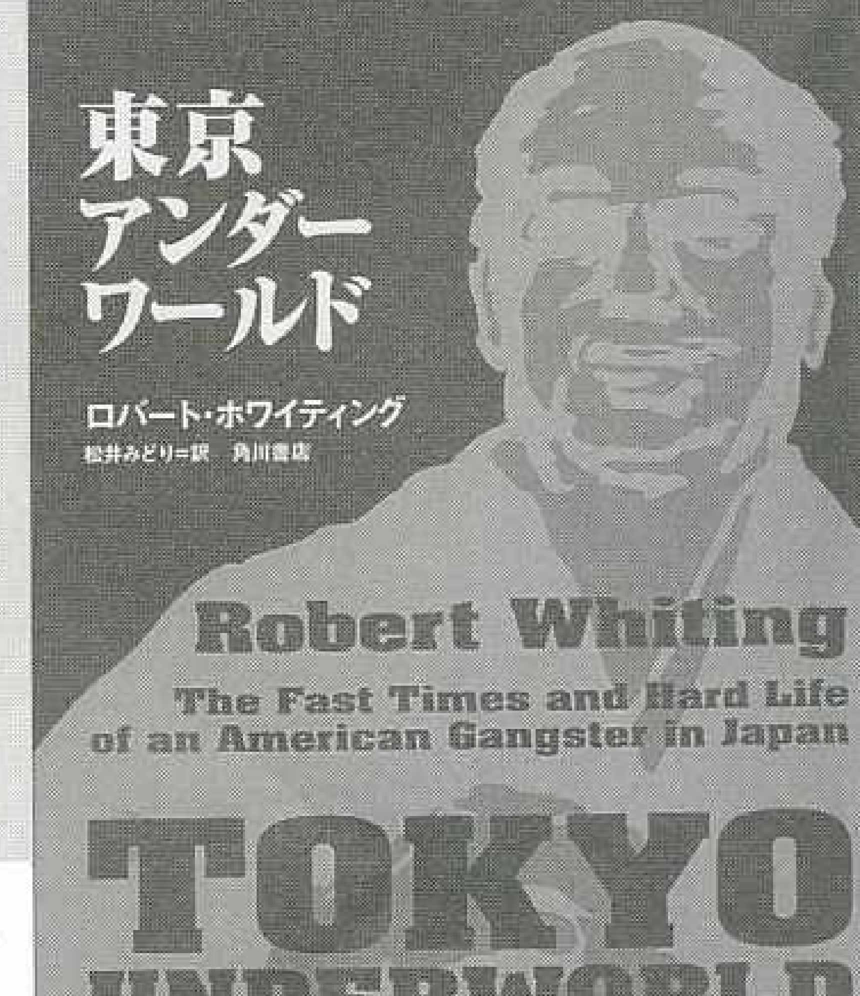
「あっちに転がりこっちに転がりしてると、そのたびに金が動くでしょ。みんな戻って金をポケットに入れて『フザケるな！』と思いましたよ。自分の会社を見捨てて金を出す方に転がるなんて、フザケるなと」

そんな調子で当時の長州を批判するのはまだわからないでもないが、現在の長州も容赦なく断罪してみせるからカンちゃんは本当にキラーなのだ。

「俺は長州にいいたいんだけど、三流四流のレスラーに踊らされて戻ってきたら、あなたも三流四流になっちゃうよと。俺はこれで長州の見方変えますよ。『三流になりましたね』っていいたいですよ。そんな人間をジャパンプロレスの社長にしてたのかと思うと、ガックリきますよ」

長州は3流！　それじゃあ1流は誰なのかと思えば、**「あの人、強いですよねえ。立派なもんですよ。カッコイイですよ。魅力ありますよね。笑顔もいいし（ニコニコ）」**と、同じモンゴリアンチョップ仲間の桜庭を褒め称えるのだから、ズバリ言って文句なし！　断じてボクもカンちゃん全面支持なのである。

『東京アンダーワールド』
（ロバート・ホワイティング／角川書店／1900円）



著書『菊とバット』などで知られるロバート・ホワイティングが、六本木のピザ屋『ニコラス』の店主であり**「東京のマフィアボス」**と呼ばれたニコラ・ザペッティの人生を綿密な取材の上で描いた衝撃のドキュメントがこれ。

一見プロレスとは無関係だと思うかもしれないが、著者はもともとリキ・マンション在住で上の部屋から**「馬場がバック転の練習をする音がときどき聞こえてきた」**（後ろ受け身のことか？）と不思議なコメントを残すような男であり、主役のザペッティも元プロレスラー。

そして、**「ネブラスカの野牛」**ことゴージャス・マックの宝石泥棒事件を計画したため、共犯で逮捕されているほどの男なのである！

当然、その事件についてもゴージャス・マックがホテルで宝石を奪った直後にロビーでサインに応じたなどの呑気なエピソードも含めてキッチリ描かれているんだが、そんなことよりも「プロレスとは何か？」と考えさせられる裏ネタの数々がいちいち本当に衝撃的すぎなのだ。

なにしろ、当時のザペッティは身長173センチ、体重100キロのジュニアヘビー級で**「海軍時代に四種類のホールドを習った程度」**のレスリング歴しか持たなかったというのに、1試合500ドル（当時の平均的サラリーマンの年収以上）の契約でプロレス・デビュー。

同じ海兵隊員で**「プロレスについてはほとんど何の知識もない」**のみならず**「不法入国」**で多額の**「借金」**があり、**「鬱病」**で**「日本の若い男にも目がない」**というとんでもない男、ジョン・マックファーランド三世に至っては、身長190センチというガタイだけでスターとなり**「ゴージャス・マック」**と呼ばれるようになったというのだから、**「ゴージャス」**を名乗って強盗するなと思わず突っ込みたくなる気持ちで一杯なのである。

こんな素人たちがどうやってプロレス仕事をこなしていったのかと思えば、答えは簡単。

「興行主はザペッティとマックファーランドに、トランクスと100ドル札の詰まった封筒と、3つの基本ルールを記したリストを手渡した。①30分から40分は、リング上でねばること。②スポーツと勘違いしないこと。自分は役者だと思え。③勝とう、などとは間違っても考えるな」

「試合には、シナリオがちゃんと用意され、本番前にリハーサルまで行われていたのだ。アメリカ人レスラーたちは、喜んで協力した。あとでたっぷり報われるからだ」

つまり、そういうことだったのである。

なお、『ニコラス』にピザを食いに来たペッパー・マーチン（渡米中の猪木と組んでタッグ王座に就いた元フットボーラー）も、引退したザペッティにこう告白していたのだという。

「ダンスの振り付けなみに、すべて決まってるのさ。ここでフォールして、あそこでフォールしろ。これをやれ、あれをやれってな具合に。試合全体のシナリオができていて、ファンを喜ばせるキックもたっぷり盛り込まれてる。デカいアメリカ人が、最後にはリキの空手チョップで大の字にのびる、という筋書だ。その代償に、1試合につき800ドルが闇ドルで転がり込んでくる。ビールはたらふく飲めるし、女の子には事欠かない。お前も復帰したらどうだ」

かくもエゲツない活字『レスリング・ウィズ・シャドウズ』と表現したくなる仁義なき内幕暴露ぶりが、本当にたまらないのだ。

さらに怖い者知らずな外人という立場ゆえか、力道山のかなりブラックな人脈もズバリ追求。

「力道山が手に入れた東京のペントハウスが、韓国や自民党の高官、児玉（誉士夫・右翼の大物）、町井（東声会会長）、さらにはKCIAの幹部などの、極秘の会合場所として利用されはじめるのは、このころからだ。そして会合の締め括りには、みんなで六本木にくりだしてピザを頬張った」

「力道山を『日本甦生のシンボルであり、保守、右翼の宣伝マン』ととらえた児玉は、このプロレスラーに湯水のように金をつぎ込んだ。東京における試合のセッティングや、営業許可の申請、警備体制の確保などは、もっぱら東声会の連中にまかせ、児玉自身は、夕刊紙『東京スポーツ』を買収して、みずから経営者におさまり、プロレスの〝バイブル〟へと仕立て上げた。言うまでもなく、共産主義を打破するためには、愛国心が欠かせないからだ」

こうした黒い交際によって、力道山邸で**「映画スターやビジネス界の重鎮、自民党議員、東京の暴力団幹部。さらには警視庁の上層部」**というメンバーたちによる一口最低10万円のオイチョカブが行われ、力道山門下生がショットガン片手にガードマンやウェイターを務めていたのだと『プロレス・アンダーワールド』な光景まで描いていくから、ロバート・ホワイティング恐るべし。

そんな力道山も、六本木で酔っ払い**「いきなりズボンのチャックを下ろして、マスターベーションを始め」**たりの暴走はしても、友人には優しかったとザペッティは証言するのであった。

つまり、ニコラス・ピザをメニューに加えた商売敵がいるとザペッティから聞けば**「嵐を起こしに行こうぜ」**と男らしく立ち上がり、ライバル店で**「猛烈な喧嘩ごっこ」**をスタート。相手を殴ると見せかけてお互いにウェイターをブン殴り、椅子をブン投げ、ピアノを破壊していったのだそうである。うん、確かにいい奴だ！

「力道山はいい奴だったよ。いったん知り合いになると、本当にいい奴なんだ。世界一いい友だちさ。何だってやってくれる。ただ、酒が入ると人が変わる。とんでもないクソッタレになっちまう。もちろん問題は、しらふのときがほとんどないことさ」

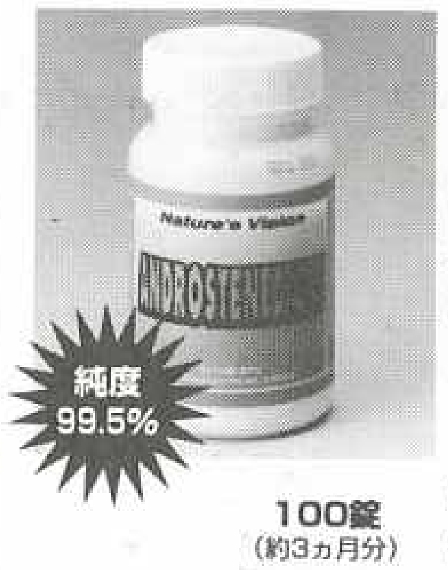
そう証言したザペッティも、泥酔した力道山が女子をボコボコにする様を目撃すると元レスラーなだけあってステゴロ勝負を決意（未遂）。彼が**「力道山との試合を少しも恐れていなかった」**理由は、**「最近のリキはやけに衰えが目立っている。リング上でもさっぱり生彩がないのに結局は勝っている。彼の試合は大半が八百長だからだ」**とのことで、その後はボクシングやプロ野球、相撲の八百長問題にも言及していくのであった。

なお、こんなエゲツない内容ながらマーチン・スコセッシの手による映画化も決定したとのことなのだが、力道山は一体誰が演じるのか？　できれば長州力や前田日明であってほしいとボクは心から願うばかりなのである。

アメリカの薬局「メイジファーマシー」の協力により、一部大幅値下げ！

健康食品よりも効果のあるワンクラス上の商品を！

アンドロステジオン 筋肉増強薬
—ホームラン王マグワイアも愛用—



究極の筋肉増強薬として有名。米国内では補助栄養剤として市販されている。法律的に購入、使用は全く問題ないが、I.O.C(国際オリンピック協会)が禁止薬物として指定する筋肉増強剤なのでドーピング検査のある人は使用できない。

純度99.5%

100錠（約3ヵ月分） 1個 16,000円 2個 30,000円 3個 42,000円（税込み）

プロザック 脳内薬
—全世界で二千万人以上が愛用する抗うつ剤—



塩酸フルオキシンを原料としたうつ病の薬。欧米では健康な人にも気軽に処方されている。考え方をプラス指向にし集中力が高まり積極性が増す。又、自信を持って行動し、性格が変わり、明るくなるといわれている。

値下げ

20mg/30錠（1ヵ月分） 1箱 13,000円 2箱 22,000円（税込み）

ロゲインエキストラストレングス 育毛促進薬
—育毛に革命を起こしたベストセラー—



「効き目がなければ返金します」というキャンペーンを行ったが返金を求めた客はいなかったという。1日に2回、頭に直接すりこむ。

NEWタイプ

2%・5% 男性用・女性用

（ホワイトタイプ） 3本(3ヵ月分) 14,000円 6本(6ヵ月分) 27,000円 12本(1年分) 51,000円（税込み）

プロペシア 飲む育毛促進薬
—世界初の経口タイプ—



試験では服用の83%の人が髪を増やす効果があったという。アメリカ国内で購入するには処方箋が必要で、それだけ効果が期待できる。

アメリカ純正品

1mg/30錠（約1ヵ月分） 1個 15,000円 3個 40,000円 6個 75,000円 3個＋ロゲイン 3本 50,000円 6個＋ロゲイン 6本 95,000円（税込み）

ザンドロックス 育毛促進薬
—ミノキシルズ12.5%配合—



ミノキシルズ12.5%配合の超強力発毛剤。必ずロゲインなどのミノキシルズ配合の商品で3〜6ヵ月頭皮を慣らして、次の段階で使用するようにして下さい。

※生え際に特に効果があると言われていますので、生え際に使用するようにして下さい。頭頂部にはロゲイン等の商品を使用し、生え際にはザンドロックスを使用(併用可)して下さい。ロゲイン等の商品で頭頂部に効果のなかった方のみ、頭頂部に使用して下さい。

約4ヵ月分 38,000円（税込み）

ゾロフト 抗うつ薬



プロザック以上の効果があると言われる知る人ぞ知る抗うつ薬。プロザックより早く効果が現れ、プロザックが効かなかった人にも効果があった例もある。依存性もなく早漏の治療薬としても有名。

NEW

50mg/28錠 1個 15,000円 2個 28,000円

100mg/28錠 1個 18,000円 2個 34,000円（税込み）

ゼニカル ダイエット薬



98年に大手医薬品メーカー、ロシェ社が開発したやせ薬。従来のやせ薬が食欲抑制や下剤効果に重点を置いていたのに対し、ゼニカルは体内に脂肪を吸収させないことを主眼を置いています。アメリカでは99年4月に認可されました。

84食分 26,000円（税込み）

ジンク（亜鉛） ミネラル



ケガを早く直す。精力アップ。髪の毛や筋肉の成長を促進すると言われる。低アレルギー性商品なので、アレルギー体質の方にもご使用いただけます。

NEWタイプ

50mg/100錠（3ヵ月分） 6,000円（税込み）

Cal.Mag.Zinc 180錠 栄養剤



カルシウム1000mg マグネシウム400mg 亜鉛15mgを1日で摂る総合栄養剤。

（上記の数字は1日の必要摂取量です。）

NEWタイプ

180錠（2ヵ月分） 7,000円（税込み）

DHEA 栄養剤



成人病予防、細胞の衰えを防ぎ、活力・精力を高めると話題のDHEA。人体に必須の代謝物に作りかえられ、老化により崩れていくホルモンバランスを整える働きがあります。

NEWタイプ

25mg/90錠 6,000円（税込み）

ピラセタム 頭が良くなる薬



頭が良くなる薬で記憶力が増し、学習能力もアップすると言われている。この薬はコリン（100錠3,000円）と一緒の服用をおすすめします。

NEW

400mg/150錠（約2ヵ月分） 12,000円 ＋コリン 14,000円（税込み）

パワープレイニュートリションプログラム

5本セット〈筋肉増強＋体重増加セット〉



①〜⑤ 1〜2ヵ月分 17,000円（税込み）

4本セット〈筋肉増強セット〉



①〜④ 1〜2ヵ月分 11,000円（税込み）

① B.C.A.A.（100錠） 筋肉の疲労を回復させアミノ酸の合成を促進します。

② スーパーステロールアナボリックコンプレックス（90錠）
電解質、ビタミン、アミノ酸、植物栄養素、ハーブ（花粉、朝鮮人参、ロイヤルゼリー）肉体成長因子が豊富で脂肪のない筋肉を増やし、エネルギーが長く続くように働きかけます。

③ アミノマックス1500MG（180錠）
100%ナチュラルな20種類のアミノ酸が1錠1500MGも入っています。プロテインパウダーより早く吸収されます。

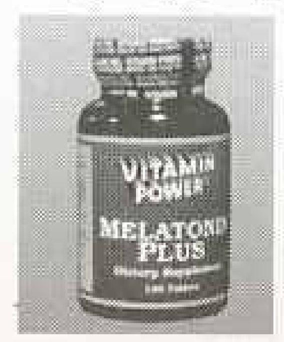
④ ニュートラクロムミュームピロリネイト（100錠）
日本人に大変不足しがちな微量栄養素です。筋肉を成長させるために細胞に栄養を吸収しやすく余分な体脂肪を燃焼させます。

※①〜④を一緒に飲むことによりアマチュア、プロを問わず、危険な薬に頼ることなく全く安全に誰にでも筋肉増強ができます。

⑤ プロテインパウダー（1.8Kg）
炭水化物が多く含まれており、体内に多くのエネルギーを作ります。体重をもっと増やしたい方、食事の不規則な方は1〜4のセットと一緒に飲んで下さい。1.8Kgと大変お得な質のよいプロテインパウダーです。

※5本セットの方がプロテインパウダーの効果により4本セットよりも体重が増加します。

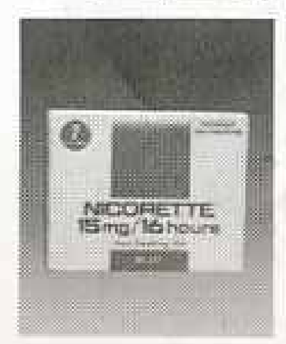
メラトニン 体内時計調整



老化防止。子供のような自然な睡眠が得られる、習慣性のない安全な睡眠誘発剤。また、コレステロール値を下げたり、女性にはシミ、シワに大変有効であると言われています。

100錠（約3ヵ月分） 4,800円（税込み）

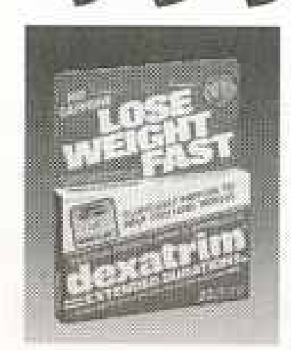
ニコパッチ 禁煙用処方薬



体内にパッチで害のないようにニコチンを取り入れ、ニコチンの禁断症状を緩和する。自分自身の意志の強さももちろん大事だが、この商品があれば、12週間で無理なく禁煙できるといわれている。日本では処方せん薬となっている。

12週間分 完全禁煙プログラム 40,000円（税込み）

テグサトリム ダイエット薬



ダイエットしたい方、体重制限のある方に。脳に命令して食欲を減退させる薬。約3週間で効果が出るという。

40錠（40日分） 10,000円（税込み）

セント・ジョンズ・ワート 脳内薬



プロザックと同程度の効果を持ち、副作用の少ない健康食品。精神的スランプ、うつ状態にどうぞ。研究結果によると症状の50〜80%が減少し、うつ病患者に使用される処方せん薬と同程度の効果があると報告されている。

NEWタイプ

450mg/100錠 4,800円（税込み）

バイアグラ 勃起不全治療薬
—不能治療薬のベストセラー—



ライフスタイル・ドラッグ（生活改善薬）の大ベストセラー。しかし、強精剤・精力剤ではないので、何もしなければ（性的な興奮・刺激がなければ）効果はありません。

50mg 100mg 共 4錠 12,000円 8錠 20,000円 30錠 40,000円（税込み）

ハーバルV 性欲覚醒 栄養補助食品



ハーバード大学の研究者により開発された、天然成分による精力増強・性欲覚醒健康補助食品。

男性用・女性用共 30錠 8,000円（税込み）

お申し込み・問い合せは フリーダイヤル 0120-680-214 夜12時まで電話受付中・年中無休

※表示料金は全て税込み。お支払いは代金引替か現金書留、銀行振込みにて。商品のお届けは2〜10日、ご不在がちの方は希望の日時を指定して下さい。送料は一律1,000円

「個人輸入」について
上記の商品は海外で医薬品として開発・販売されており、日本では個人の責において輸入・使用できるものです。第三者への転売・譲渡はできませんのでご注意下さい。個人輸入のため発注後のキャンセルはできませんので、事前によくご検討のうえお申込み下さい。

1.電話・FAXによるご注文
フリーダイヤル 0120-680-214
TEL(078)643-2349
FAX(078)643-2597

2.ハガキによるご注文
50 〒653-0803 神戸市長田区前原町2-5-22 ケイトレード 紙のプロレス

①商品名 ②個数、金額 ③住所 ④氏名㊞ ⑤年齢 ⑥TEL 番号 ⑦職業

3.前払いによるご注文
前払いの場合は **送料無料！**
必要事項を記入の上、商品代金と一緒に左記住所までお送り下さい。現金書留もしくは、銀行振込にてお願します。

ケイトレード
〒653-0803 神戸市長田区前原町2-5-22
フリーダイヤル 0120-680-214
TEL (078)643-2349

読者の頭を徹底的に鍛えあげる。読者の為の投稿ページ

KAMIPURO UNIVERSITY

集え若人！ 生徒絶賛募集中!!

紙プロ・ユニバーシティ学校説明

青森県・青木雄大



水戸泉（仮）校長プロフィール

永遠の無職生活に別れを告げ、2ヶ月前に『紙プロ』編集部に入社。某団体の記者会見に行きそびれたり、本誌編集長の愛車を壁にこすったり、バトラーツの島田レフェリーからは、とある事情で試合会場への出入り禁止を通告されたりと、順調にキャリアを育む23才。
先月号で新ホーリーネームを募集したところ、思っていたより多数の応募があったことに感謝してはいたものの、どれもこれも気に入らないらしく、今月号でも名前は水戸泉（仮）のまま。

校長



水戸泉（仮）

これまでの読者ページなど読んだこともナシ！　それどころか最近まで『紙プロ』に読者ページが存在することも知らなかった水戸泉（仮）が校長を務める『紙プロ』読者養成学校。今まで読んだこともなかったくせに、先月号までの「グレート・チョロのハガキ劇場」のような半チクな読者ページにだけはしたくないと力強く宣言！　これまでよりも、さらに身近に読者に接して、一丸となったページにすることが基本理念。死ぬまで紙プロ魂の硬派な人間から、プロレス初心者まで、実に幅広い窓口で入学希望者を随時受け付け！　手紙なり、イラストなり、何でもいいから採用されたら、即座に入学決定です！　そして、盛り上がれば何でも良しということで、『紙プロ』編集部にシュートを仕掛けたくてたまらない特攻野郎もガンガン来いや！　『紙プロ』に対する異論、反論がある野郎はまずはこのコーナーに来い！　水戸泉（仮）校長が『紙プロ』を代表して受けて立ちます。ただし、読むに値しないモチベーションの低い手紙は一切無視！　骨があると思われる意見にのみ対応させて頂きます。笑いから、闘い、お色気まで、面白そうなものには何でも応対させて貰いますんで、遠慮なくどうぞ。とにかくみんなで盛り上げて下さいってことです。よろしくお願いします。それじゃあ、行きますかーッ！

今後のカリキュラム（予定）

東京都・キャプテン名倉



先頃、藤田穣と浪速がみちのくを退団。「もう雑用はいやだ」という、昔からして見れば考えられない何とも笑える退団理由について、みなさんの意見をお聞かせ頂きたい。２人と同世代のヤマケンも似たような発言をしており、この世代について何か言いたいことがある人は言っちゃって下さい！　ちなみに本誌編集部入社２ヶ月目の若手、水戸泉（仮）は校長にもかかわらず雑用三昧のヘビーな毎日の連続です。誰か慰めてくれ！

佐竹とムツゴロウさんの国王対談を熱望するハガキが到着。今後もいろんな企画のアイディアを絶賛募集します！　本当に素晴らしい企画に限り、水戸泉（仮）から本誌鬼畜編集長に直談判して差し上げます！　他にもレスラー以外に気になる人物等、どんどん教えてちょーだい。ちなみにムツゴロウさんが、『紙プロ』に登場するのは面白いアイディアだ！　怪獣王国国王との対談よりも、もっと素晴らしいムツゴロウさんの使い方を思いついた人、ぜひとも教えて下さい！

愛知県・負け犬ヒデポン



第１回目　講義

悲しき天才（チョロ命名） アントニオ文朱（１００才）徹底分析

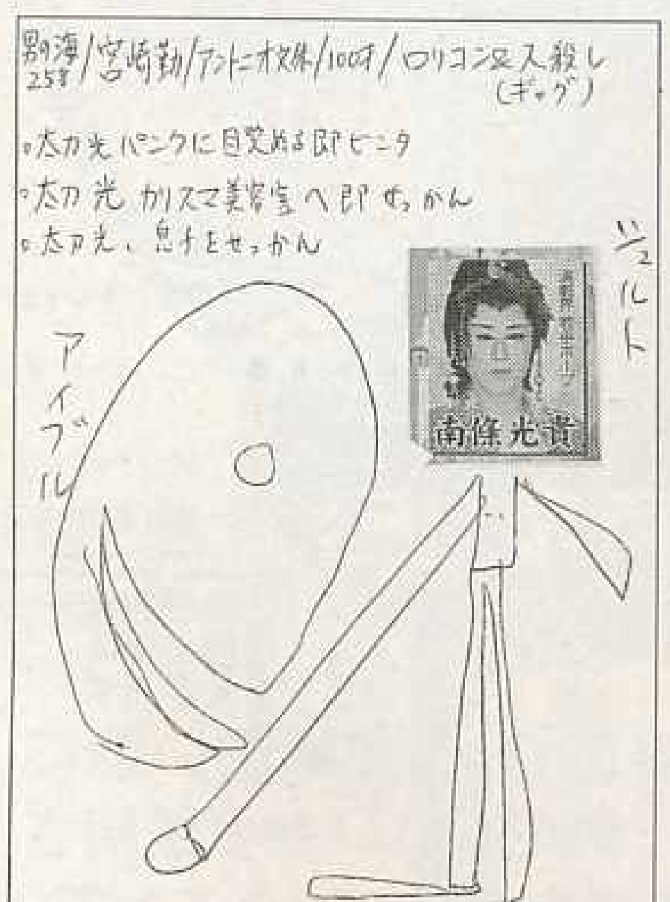
君はアントニオ文朱を知っているか？　これまでの読者ページでも常連さんだったのだが、バックナンバーをお持ちの人は、今すぐに彼のこれまでの作品に触れていただきたい。文朱の入門作品として、27号に掲載されてるヒップホップ調のポエムはぜひともオススメしておきたい。特集しなければ見えてこない文朱の徹底分析を敢行ーッ！



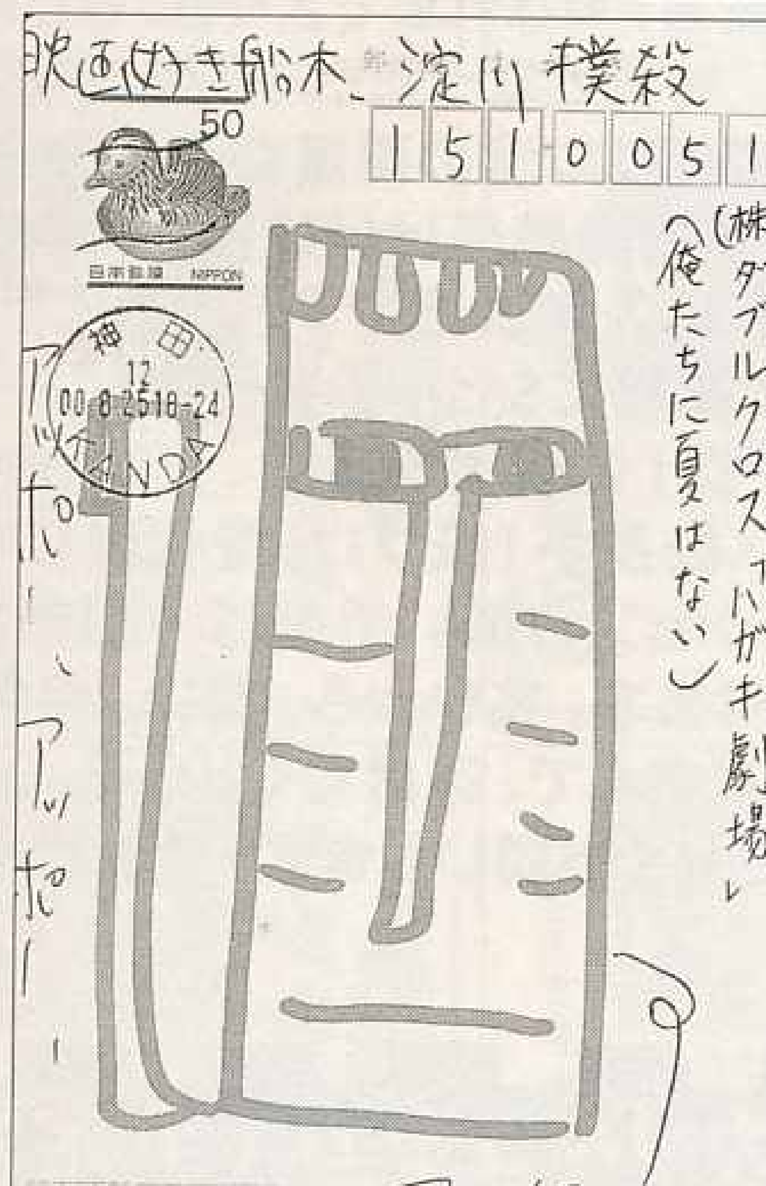


先月までの読者ページで、ぶっちぎりのポイント１位だった青木雄大さんによると、「アントニオ・文朱にはジョン・レノンの作風が入っている」らしいのだが、どことなくそんな感じのする２作品をピックアップ。珍しく文字が少なくシンプルな、これらの作品は文朱的には極めて珍しい作品と言える。
文朱の可能性が、少しだけ覗き見れる作品である。





まさしく、これぞ文朱！　と言える２作品。まずは、何と言ってもその言語センスに注目！　「映画好き船木、淀川撲殺」、「ビートルズ、ＤＤＴ参戦、大日本乱入」と崇高なパンク精神が感じられはしないだろうか？　そして下の作品のアッポーマンとは一体何？　坂本９９２４８５とは？右イラストのやけに似ているシュルトにも要注目。
誰でも描けるなんて思った人は、一回でいいから真似して描いてみてほしい。こんなに完璧なシュルトは、選ばれた人間にしか描けないことを思い知ることであろう。



まず、何と言っても、名前が宮崎勤になっている部分に注目して頂きたい。宮崎勤名義のハガキの時には攻撃性もアップ！　嫌いなレスラーのセンスも抜群である。誤字を塗り潰した所を、そのままジャイ落やつるみのイラストにしてしまう力技でさえ芸術に感じてしまうから不思議である。「太刀光ゴダールに熱中即死刑」など、おしゃれな固有名詞を知っている所もあなどれない、ちなみに太刀光ではなく、大刀光が正しい表記ですが、そんなことは関係ねえんです。



文朱作品の中で、最も難解な作品と言えるであろう。ちなみに、この作品での職業は邦画畑。もはやここまで来るとイラストの方も意味不明。さらにはイビザなどと、またしてもオシャレな地名が！　ちなみに並んでいるアンドレとつるみのイラストはどこが違うのだろうか？　これらの一連の文朱の作品は芸術なのか？それとも落書きなのか？皆さんの見解を是非ともお聞かせ下さい。言葉の組み合わせのセンスに関しては椎名林檎など比較にならない素晴らしいものをもっていると思うのだが、皆さんはどう思われますか？　アントニオ文朱さんに関するお便りガンガン受け付けます！



アントニオ文朱とは

本名不明。年齢100才。住所不定（これまでの主な住所は、獄中96-97、金物屋85、疎開先2-14、島根デンマーク２、おフランス245、その他多数）。職業多数（受刑者、林業、ため息まじり、ボケ老人シグマ、その他多数）。ほぼ毎月、約20通ほどのハガキを本誌編集部に送り込んでくる謎の人物。理解しようと思っても、常人では到底不可能と思われる強烈な言語＆イラストセンスの持ち主。ハガキの〒番号の上に必ず記してくる韻を践んだメッセージに秀作多数（「藤田和之ラップでジャンプ」、「許永中、小島を半殺し」、ボンクラス尾崎、玉ねぎ残しまくり、スカートめくり」、その他多数）。本誌以外にもＳＲＳ・ＤＸの読者ページ「ワンフー・マクダニエル」でも常連さんで実はちょっとした有名人。ハガキの裏と表にイラストと文を自分の思い付くままに書き殴るバスキアのようなスタイルが基本的なスタンスだと思われるが、一般人にはあまりにも意味が伝わりにくいその作風のせいなのか、宮崎勤説が流れたこともあり。今回、文朱の作品によって何かを感じずにはいられなかった人、自分なりの文朱の解釈をぜひとも編集部まで。また、文朱本人からの連絡もお待ちしております。

アントニオ文朱とは何か？

メールの書き方講座

口にはとても出せない恥ずかしいことが手紙よりもさらに書きやすいことが、メールの利点の１つだと思うのだが、あまりにも素晴らしい実例が本誌編集部のメールボックスから発見されたので、ここに紹介したい。

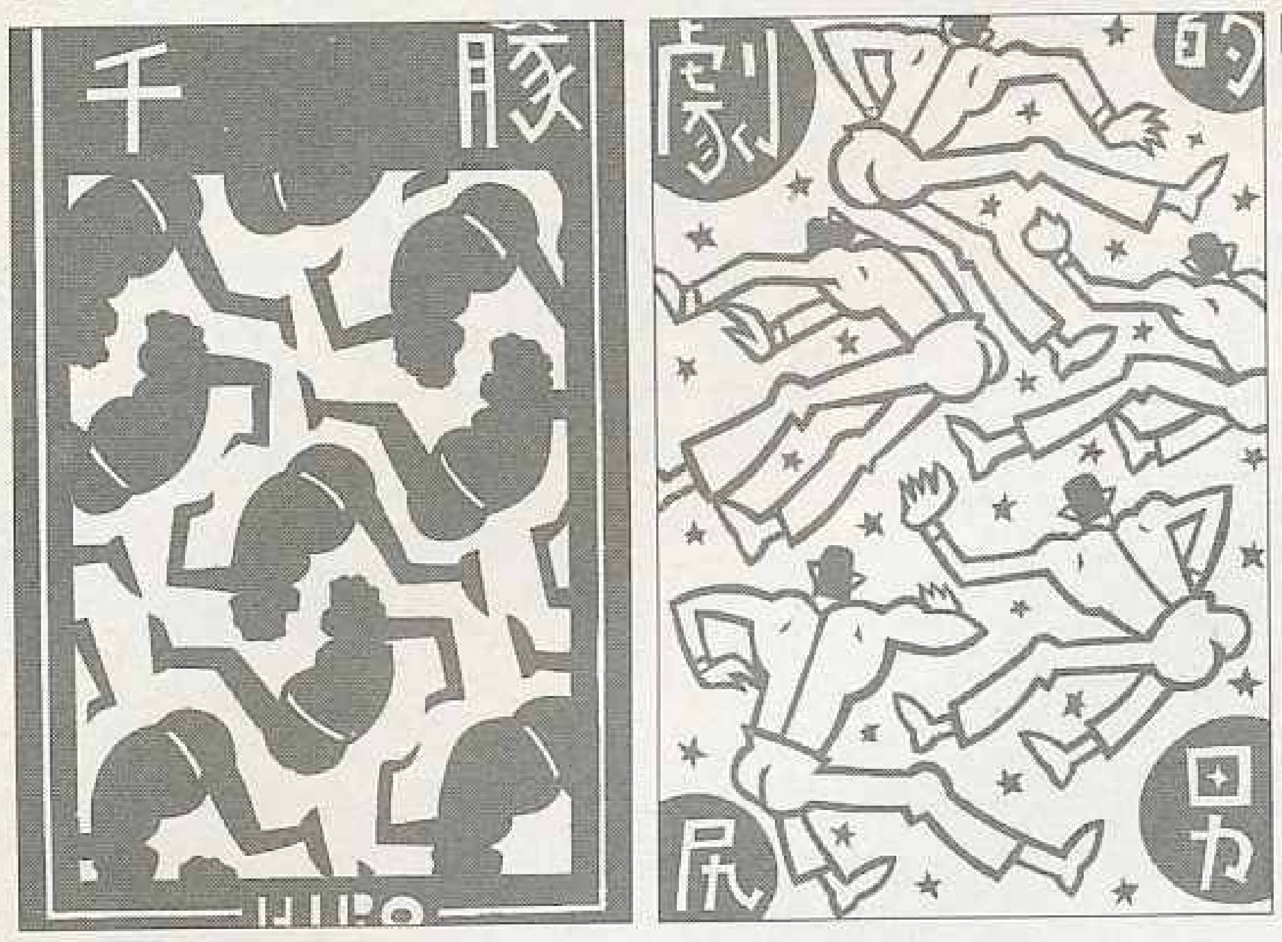
> 行く行く！
> ベトナム行きたい！
> 私をベトナムに連れてって！　そして、星の数ほど抱きしめて！
> ゴーゴーバーとかあるんでしょ？（それってタイだっけ？）
> 「バクシーン！」とか言いながら子供が寄ってくる国だっけ？
> （インドか？）
> ランボーが怒った国だ！（言うまでもなくアフガンですな）
> ど～んなところか妄想膨らむねぇ。
> あの夏、いちばん静かだった国。
> っていうか、その国凶暴につき？
> ３－４×ベトナム！

女の子からメールでベトナム旅行に誘われた、本誌食いしん坊力士、坂井ノブの返信メールである。どーですか！　この文章！
このメールをこっそり盗み見た編集部一同にでさえ、しっかり喜びが伝わってしまうほどの名文である。これぞ、プロの仕事。ノブのお仕事であるはずの、ノアのレポートやインタビュー等からは感じられないリズムの良いのびのびとした文章には、本誌編集長山口も「普段の仕事でもこれぐらいのいい文章を書いてくれれば……」とコメント。皆さんも参考にして下さい。

在校生紹介

勝手に在校生にしてしまったんですが、KAMIPURO UNIVERSITYの未来を背負って立つ、大御所からヤング・ジェネレーションまでを紹介！ 入学希望者も随時募集中！ 下手なイラストでも手紙でも、何でもいいから送って来い！

大阪府 英加直純



「たけしの誰でもピカソ」グランプリ受賞者の芸術家にかかれば、越中でさえ、こんなに芸術に！ 劇的尻男というキャッチフレーズは、かなりかっこいいぞ！ それじゃあ、千豚は？ というとヒロ斉藤のことである。解らなかった奴は、よーく覚えとけ！

熊本県 塩本祐介（34）





先月号の永源インタビューは大好評でしたが、先々月号で明らかになった谷津の極悪ぶりも大反響！ 本気になった谷津が見れるかもしれない。プライドでももちろん、目ぇつぶって30秒でしょ！

青森県 青木雄大



『紙プロ』読者コーナーには欠かせない人物、青木雄大さん。みなさんは、三沢と橋本、どちらの意見に賛同ですか？ ボクはスピードで勝負です。

東京都 仏生寺



非常に素晴らしすぎるハガキだったんですが、締切の都合上、小さなスペースになっちゃいました。サクがサイヤ人なら、魔人ブーは誰なんでしょうか？

大阪府 俵まり（10）



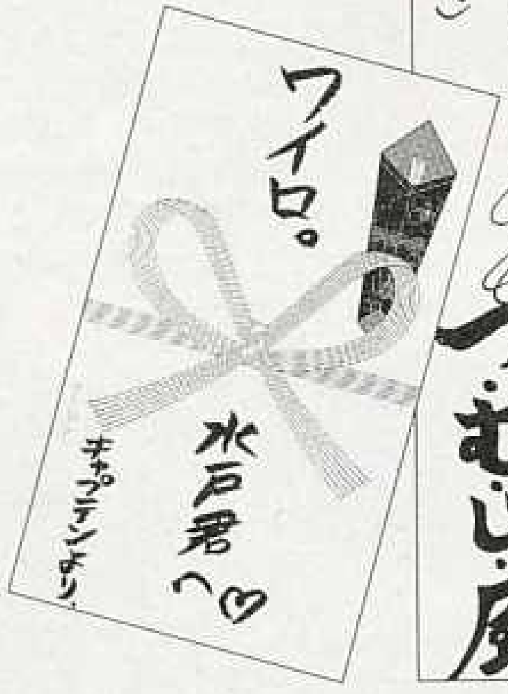
10才にして、ウィリー・ウイリアムスのイラストとは驚愕です！ 立派なお子さんに育て上げたお父さんの俵俊司さんも在校生に決定！

愛知県 たっつあん



社長もつらいが、ボクだってつらい！ これを書いてる今現在、朝の5時です。寝たいです。藤波社長にはぜひとも、今月のピンナップを見てほしい！

東京都 キャプテン名倉





ステキなワイロありがとうございました。中身（お金じゃないよ）は大事に使わせてもらってます。イラストは、本当にボクには何のことかさっぱりわかりませんでした。またワイロ下さい！

北海道 ネスカフェ（高1）



思う存分、捧げて下さい。これでチョロも報われることでしょう。今度はボクにも捧げてくれるんでしょうか？ 楽しみに待ってます。

埼玉県 中川雅博（22）

アーバン・ケンのキャラが見事なまでに生かされた秀逸な一枚。小路がAOコーナーを熱く唄った「青空プロレス道場」の模様はP126に。



俺はまだまだもの足りないゼ!

今月からスタートした、『紙プロ』ユニバーシティでしたが、みなさんいかがでしたでしょうか？ はっきり言って、まだまだ「グレート・チョロのハガキ道場」の遺産が残っているというか……。ハガキを送ってくるメンバーがいつも一緒というか……。あんな半チクなコーナーの面影なんて、さっさと消して、俺色に変えて行きたいと思っているので、どうかよろしく。その為にも、新しい人の登場を大いに期待。誰か現状を変えて見ろ！ そんな奴の登場を俺は待ってるぜ！

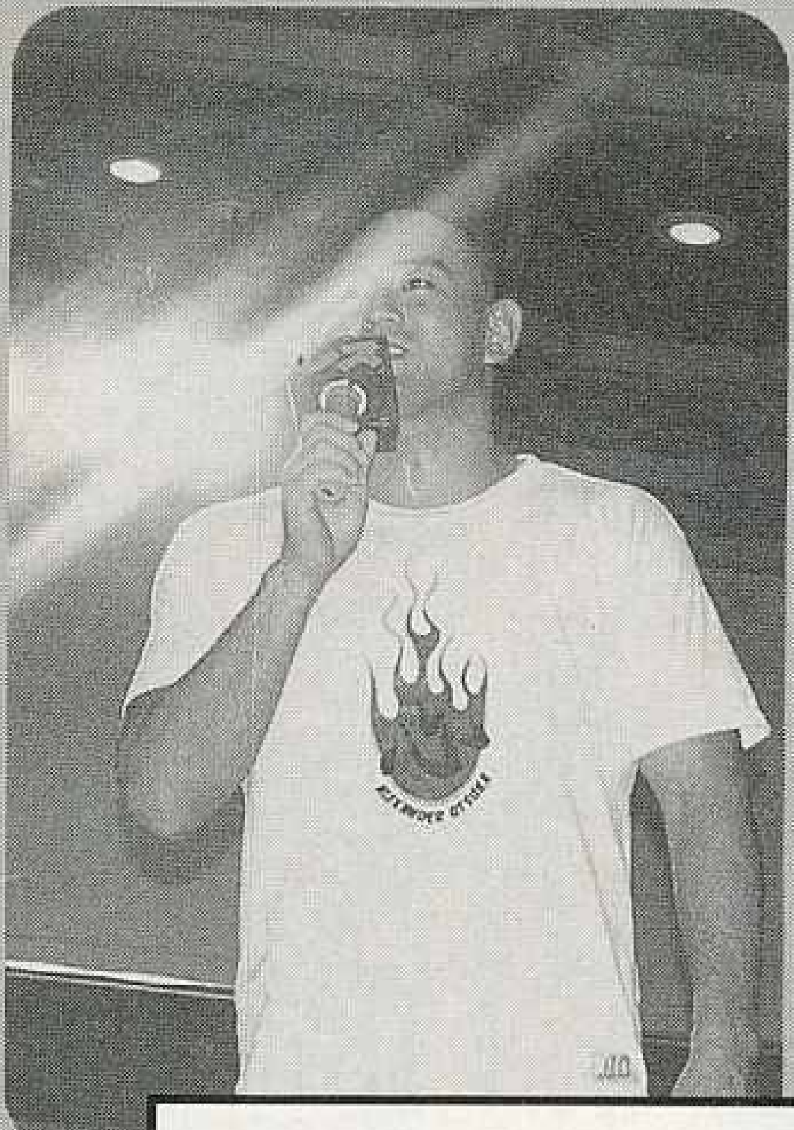
投稿&ハガキ 大募集!

『KAMIPURO UNIVERSITY』では、みなさんからの、ご意見、ご要望から、恋文、性のなやみ、さらには苦情、怒り、憎しみのこもったメッセージまで、どんなことでも受け付けます！
すべての宛先は…
〒151−0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
（株）ダブルクロス『KAMIPURO UNIV.』係まで。合い言葉は「最速の男、マッハ戸高」です。

ジュクプロがますます過激に！　電撃ネットワークが遂に参戦!!

新宿プロレス通信

R指定プロレスがプロレスを大人の娯楽に変えた！



バトのツアーでのロード・ウォリアーズとの対戦を控え、次回の『ＰＲＩＤＥ』にも参戦予定でありながら、アレクが新宿プロレス初参戦。その振り幅の広さはさすがである。



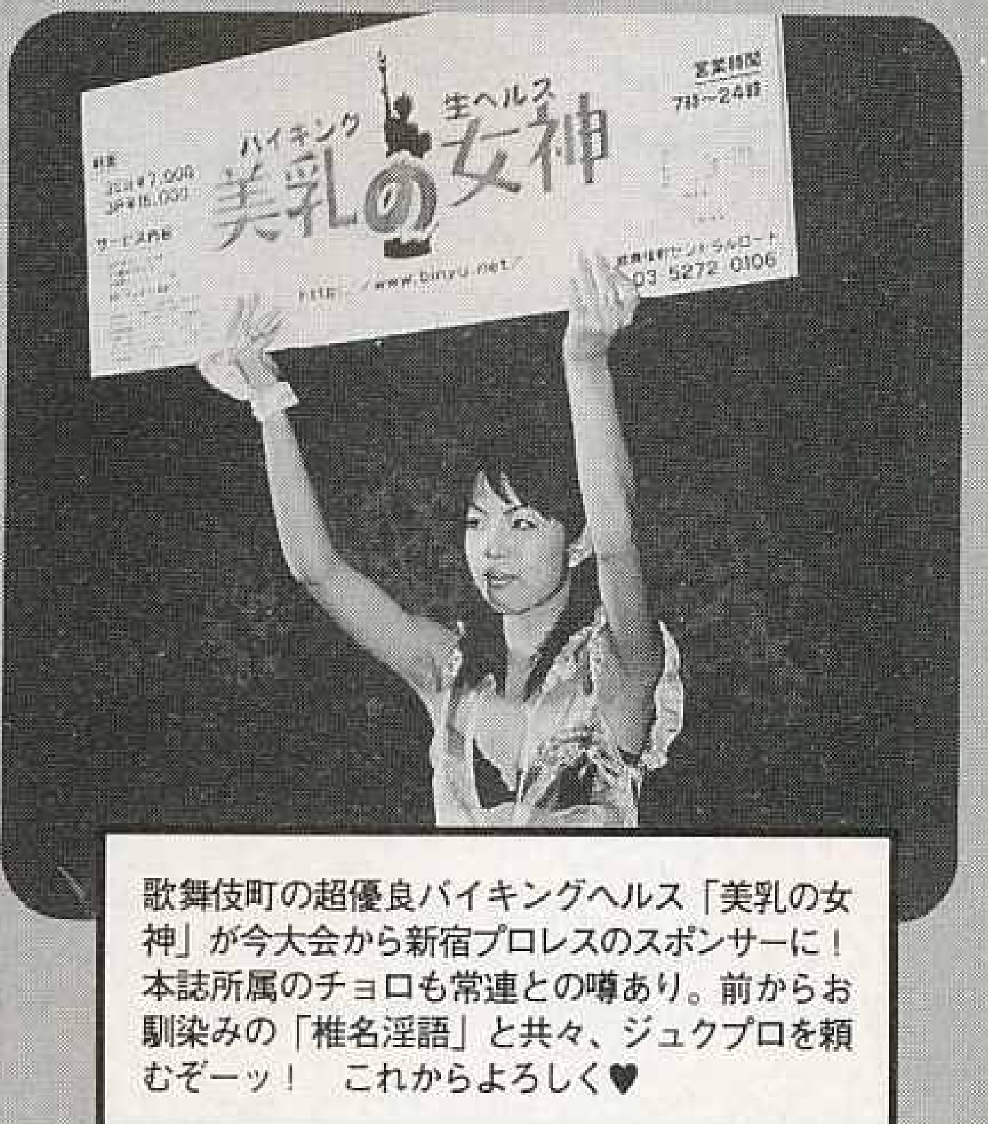
満を持して電撃ネットワークが参戦！　サソリやロケット花火を使ったお馴染みの芸を披露していたのだが、突如、とんでもない暴挙に！　この行為には、さすがにサスケ社長もストップをかけるべくリング上に。何をやっている写真なのかは、ご想像におまかせしますが、マット史上に残る凄いことをやってしまったことだけは確かです。



電撃ネットワークの暴挙を止めにリングに上がったサスケ社長だが、どういうわけか、こんな姿に！　布団圧縮パックの中でミイラ状態になることにも躊躇しない、芸人レスラーの姿勢を強烈にアピール！



ラジオ体操をしている所（なぜだ？）、ツボ原人に脱がされそうになっている女の子は、前回も登場した、椎名淫語にお勤めの女の子。公式記録ナシだけにこの後どうなったかは、見た人だけが知っているというか…。



歌舞伎町の超優良バイキングヘルス「美乳の女神」が今大会から新宿プロレスのスポンサーに！本誌所属のチョロも常連との噂あり。前からお馴染みの「椎名淫語」と共々、ジュクプロを頼むぞーッ！　これからよろしく♥

9月5日、歌舞伎町のすぐ近く、東京飯店で月に1度開催される新宿プロレス（通称・ジュクプロ）は、またも満員御礼となった。今回が3回目となるR指定プロレスの開催である。

前回の村上一成参戦の時のようなインパクトのあるカードこそなかったものの、それでも満員となってしまうのは、ズバリ言ってプロレスファン以外のお客さん層を取り込むことに成功しているからだろう。

プロレスという闘いの場を観に行くというよりも、歌、色気、笑い、闘いが混同された新宿プロレスというイベントへの好奇心によってやって来たという感じのお客さんが圧倒的に多かったのである。

相変わらずこの日も芸人として参戦したサスケ社長が進行を担当。コントは披露しなかったものの、電撃ネットワークとの絡みでは衝撃の芸人魂を見せつけてくれた。

歌～ルチャ～ミゼット～女子プロ～電撃ネットワークといったバラエティに富みすぎた演し物のラインナップ。それでいて、違和感を感じることなく、中華のフルコースを食べながらプロレスを観戦するという、ちょっと優雅に見えてしまうお客さん達。「大人の娯楽」としてのプロレスを新宿プロレスが提供していることを思わず実感してしまうのであった。

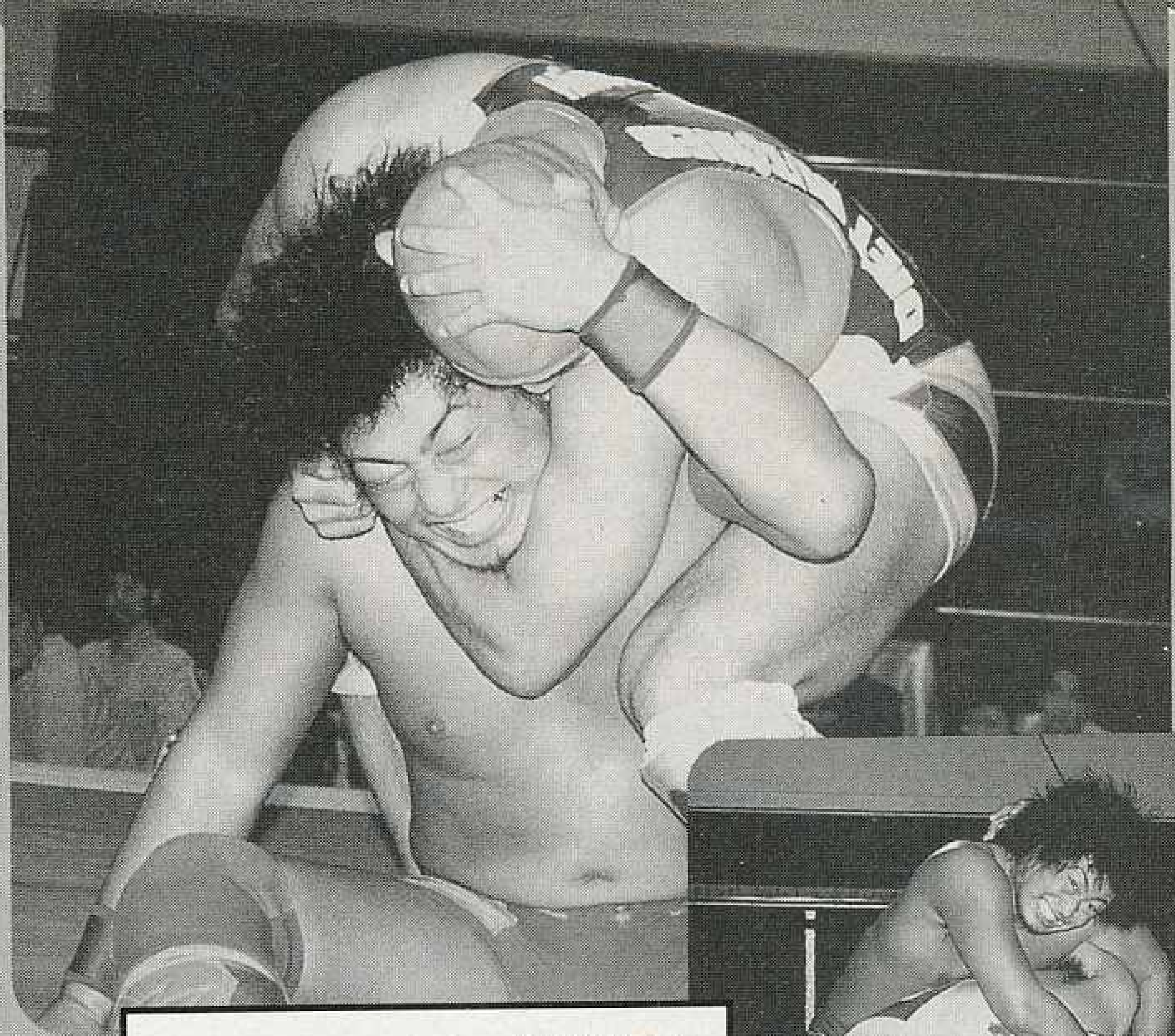
メインのヨネ&日高組対アレク&田中稔組の一戦は、前回、前々回のメイン同様、殴る音が会場中に響き渡る、食事中でも気の抜けない闘争心剥きだしのバチバチファイトを展開。充分すぎるほどの、プロレスの凄みを見せてくれた。

メインの試合が新宿プロレスに闘いの激しさを注入！



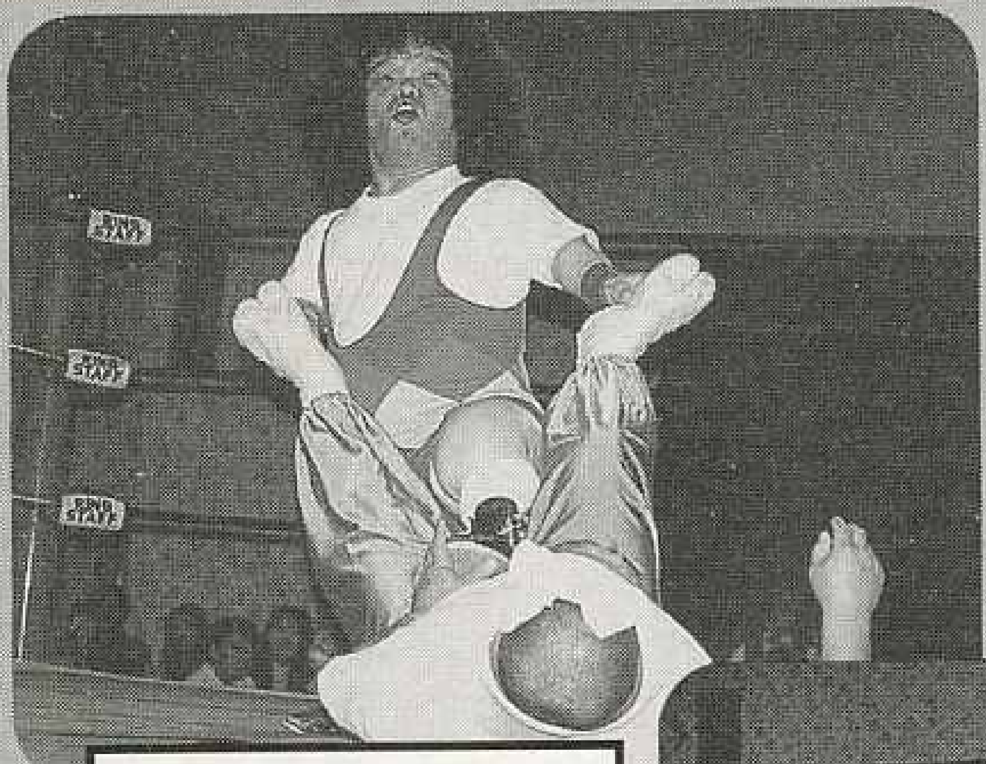
とにかく鈍い音が会場内に響きっぱなしだったメインの一戦。殴る、蹴る、絞めるだけでレスラーの凄みが伝わってくる試合内容にお客さんも大満足だった様子。ヨネの試合後の表情を見ればいかに壮絶な試合だったのかは一目瞭然だろう。

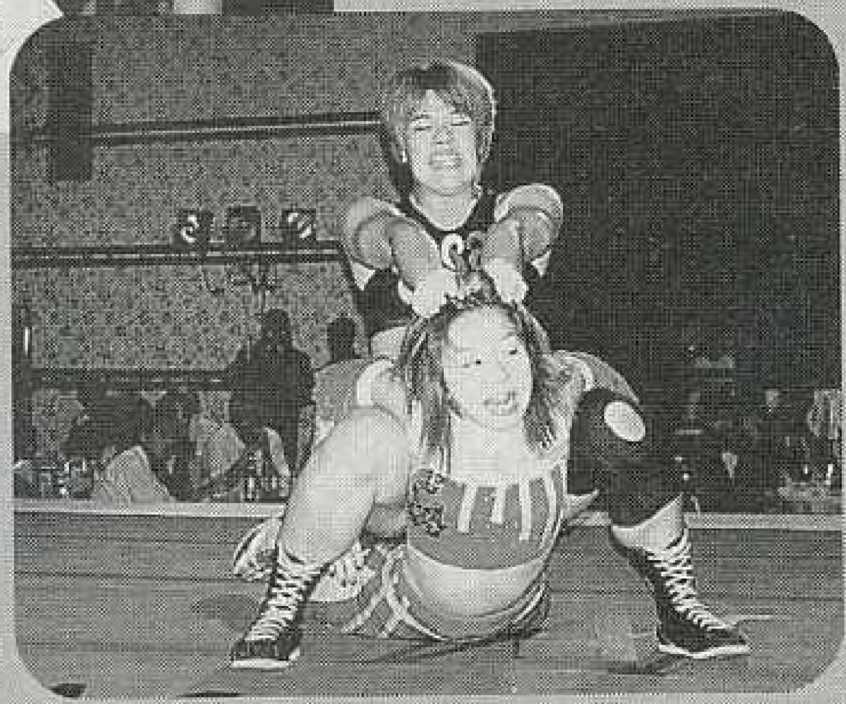




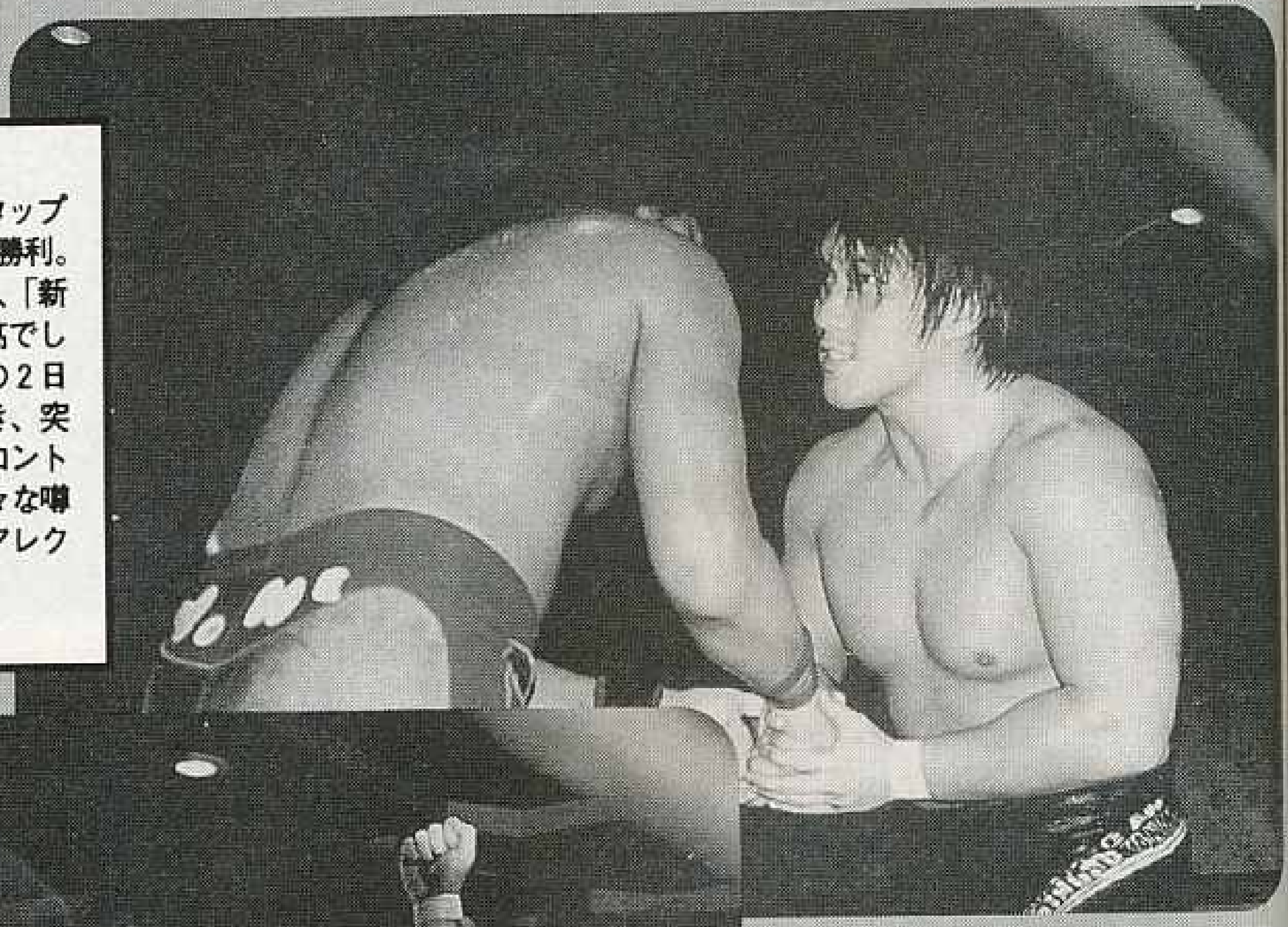


メインとなったモハメドヨネ＆日高郁人組対アレクサンダー大塚＆田中稔組。ネームバリューからか、最初は俄然アレク組に集まっていた声援が、やられたら、やりかえすという単純ながらも壮絶なシバキ合いで試合が進むにつれて、勝敗など度外視した声援に。ヨネとアレクの意地の張り合いには、円卓のお客さんも食事が止まっていたのだった。

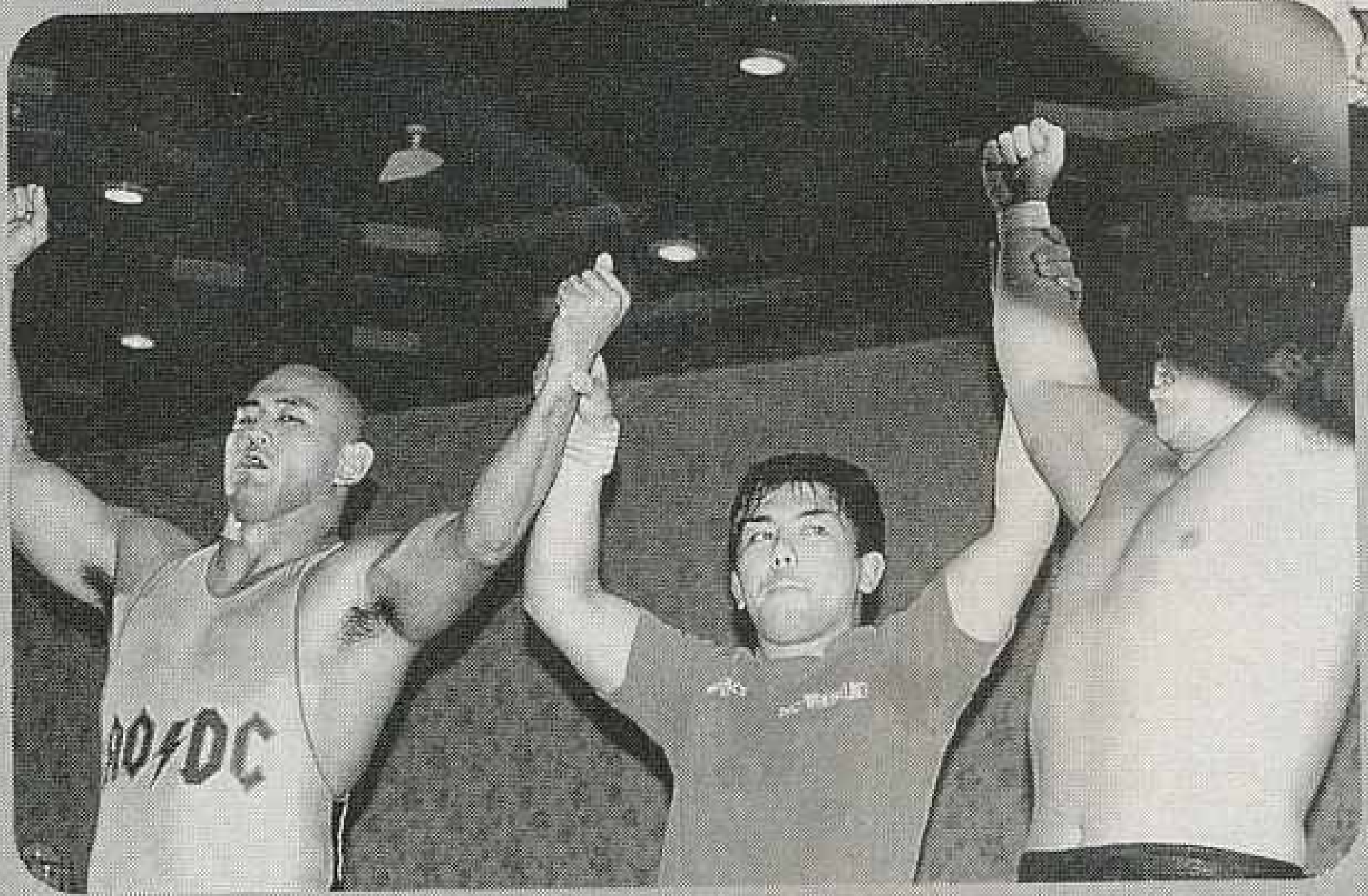




リトル・フランキー対角掛留造、C・ASARI対遠藤沙矢の試合は共に、ミゼット、女子プロの面白さを伝えることに大成功！ お客さんの笑いが絶えない一戦となった。



田中稔が日高から足関節でタップを奪い、アレク＆田中稔組が勝利。アレクは試合後にリング上で、「新宿プロレスのお客さんは最高でした！」と意味深な挨拶。この2日後にバトラーツが会見を開き、突然の田中のフリー宣言、フロントの人事異動が発表され、様々な噂が囁かれることになった。アレクはバトの選手会長に就任。



新宿プロレスがお笑いと闘いの激しさが同居したイベントであることをきっちり証明した一夜となった。

お笑いを求めるもよし、闘いを求めるもよし、どちらにしてもハズレなしの窓口の広さを誇る新宿プロレス。

「プロレスをおもしろがる会」では年内中に新宿以外の都市での開催も視野に入れているようだが、単なるプロレス団体の巡業がやってきたなどと思ったら、大間違いである。

新宿プロレスとは団体名ではなく、プロレスと芸能をいい意味で混同しまくったゴッタ煮空間イベントの名称なので覚悟しておくように。

プロレスがお笑いの余興になるわけでもなく、かといって、お笑いがプロレスの余興になっているわけでもない不思議な空間。妙に妖しい、大人の為の濃密な一夜のお届けとなることを約束いたします。

本紙独占情報満載!

トーク・イベント情報ページ

格闘笑点

何もかもチョロのせいで、前日までゲスト未定という最大のピンチを、何とか乗り切った青空プロレス道場。来てくれた皆さん、本当にありがとうございました。次回は大物ゲストの参戦が決定済み。これからも青空プロレス道場を頼むゾーッ!



8・26 ▶▶ 池袋コミュニティカレッジ

『青空プロレス道場』「勝手に『PRIDE』前夜祭」

前日までゲスト未定の大ピンチに小路&アレクが急遽参戦!

すっかり恒例となった本誌主催イベント『青空プロレス道場』。先月号でも、先々月号でもゲストは『PRIDE』とゆかりの深い大物X! などと告知してはいましたが、実はゲストの小路&アレクの出演が決定したのが、なんとイベント開催日前日! ブッキング担当のチョロが何にもしていなかったことが前日になって、ようやく発覚。急な出演交渉に応じてくれた小路&アレク、ゲストが未定だったにもかかわらず集まってくれた多数のお客さんには本当に感謝!

まずは本誌編集部員によるインターネットに書き込まれたらかなりマズイ時事ネタの後で、1人目のゲストとして、尾崎豊を入場テーマに小路が登場。『PRIDE』では高田や小川、エンセンなどの日本人よりも実績を残しながらも、なかなか見えてこなかった最高に面白い素顔の小路晃を存分に見せてくれたのだった。

ビデオで対談した新日の武藤に関して「武藤さん●かったです(笑)」、「WCWに誘われました」と、とんでもない発言を連発。すっかりお馴染みとなった試合後のマイクパフォーマンスのビデオ上映の際には、自分の映像に自分で突っ込みをいれ、マイクに関しては尾崎豊以外にハウンド・ドッグからも影響を受けていたことまでカミング・アウト。「カッキーと山田親分と尾崎ファンNO.1決定戦をやったらどうですか?」という声にもあっさり「いいですね(微笑)」と言い出す始末。さらにはイベント途中、アレクの登場の際には、誰も頼んじゃいないのに、AOコーナーを熱唱! 主演映画の撮影で、素の演技だけで共演者を感動泣きさせた役者なだけに、さすがのアドリブである。

小路の歌うAOコーナーでアレクが登場し、小路&アレクの意外な組み合わせがここに実現! と思いきや、最近からの『紙プロ』読者は驚かれるかもしれないが、この2人、実は過去にお互いにマスクマンとしてリング上でのコンタクトがあったのである。それだけに、自然と話はプロレスの話題に。しかし、よりによって、現役のプロレスラーであるアレクより小路の方が最近のプロレスに詳しかったことが発覚!

当事者でありながら、バトラーツのロード・ウォリアーズツアーで大刀光と自分がタッグを組むことさえ知らなかったアレクに対し、小路は「試合を見ると、選手が仲がいいのか、悪いのか解ってしまう」らしく、「ヨネさんと仲良くないんじゃないですか?」と、またもや、とんでもない発言! アレクが「もう一度、対戦カードとかで突拍子もないバトラーツを見せてほしい」と現状のバトラーツのカード編成等に不満を僅かに覗かせた際には、「(原因は)島田さんですか?」と強烈な突っ込みを笑顔で披露! アレクがこんな調子で、大丈夫なのかバトラーツ? と同時にここまでくると、ちょっととぼけたキャラクターが、どうやら本物らしいと思うことしきりなのであった。

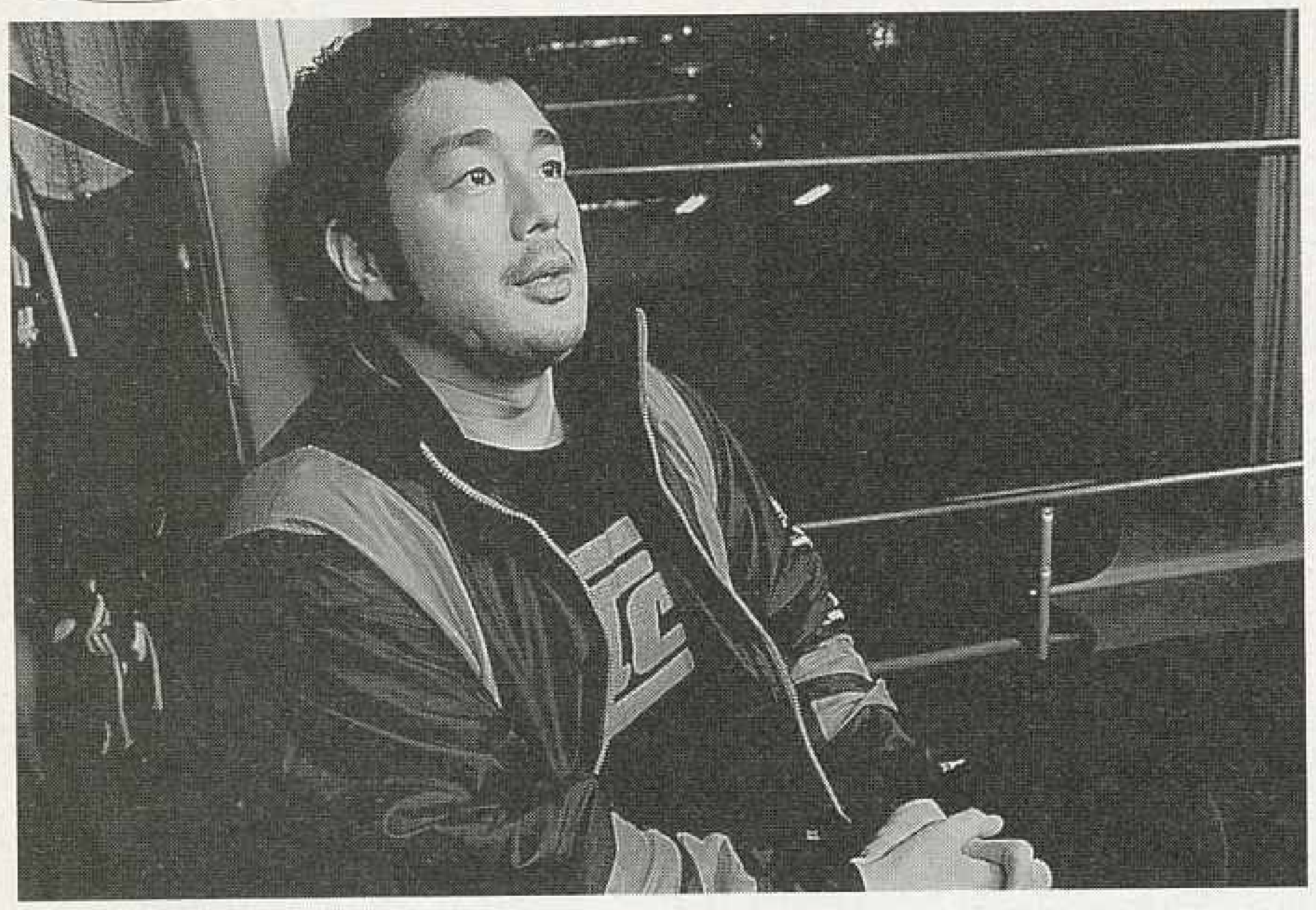
お客さんからの、「村上選手と小路選手がタッグを組んだら面白いと思うんですけど」という意味深な意見には、その返答に会場中が注目。しかし、やっぱり小路は笑顔を絶やすことなく「村上、小路組じゃなくて、小路、村上組にして下さい」と発言してしまうのだった。ここまで徹底的に温厚な人柄を思わせる小路の姿からは、ぜひとも怒りに溢れたキラー小路を『PRIDE』のリングで見せてくれることに期待してしまうことしきりなのであった。

水戸泉(仮)



アレク、小路は共に次回のPRIDEに参戦予定。この号が出る頃には対戦相手も決定していることでしょう。小路は藤田、アレクはメッツアー戦を熱望していたのだが、一体どうなる?

紙のプロレス RADICAL 主催イベント情報！



9・30 ▶▶ 池袋コミュニティカレッジ

『青空プロレス道場』
（午後六時三十分スタート）

最後の大物！　今世紀最後の青空プロレス道場に高田延彦参戦!!

サク、田村はもちろん、最近、なにかと話題豊富な谷津、さらには、日明兄さん。どういうわけかユセフ・トルコまで、幾多の大物をゲスト講師として迎え入れて来た青空プロレス道場に最後のビッグネームが降臨！　奇しくも今世紀最後となる当道場に相応しく、高田延彦がついに登場！

「夢じゃありません！」（CMでのノブ兄さん調）

おなじみの、ロッキー4のテーマで入場してくるのか、あるいは伝説となった吉川晃司作曲のテーマソングが復活するのか？　入場から興味のつきない講座となること間違いなし！　激動の連続だった90年代のマット界を、90年代の最重要人物とも言える高田自身の口から大いに語って頂きます！

『PRIDE.11』でのボブチャンチン戦に賭ける意気込みから、おそらく紙上で再現するには無理がありすぎると思われる、新日、UWF、『PRIDE.』のこと、猪木、前田、サクのことまで、滅多にトークイベントを行わない、高田の価値あるトークを聞き逃したら後悔することは必至！

今世紀最後の青空プロレス道場を頼むゾーッ！

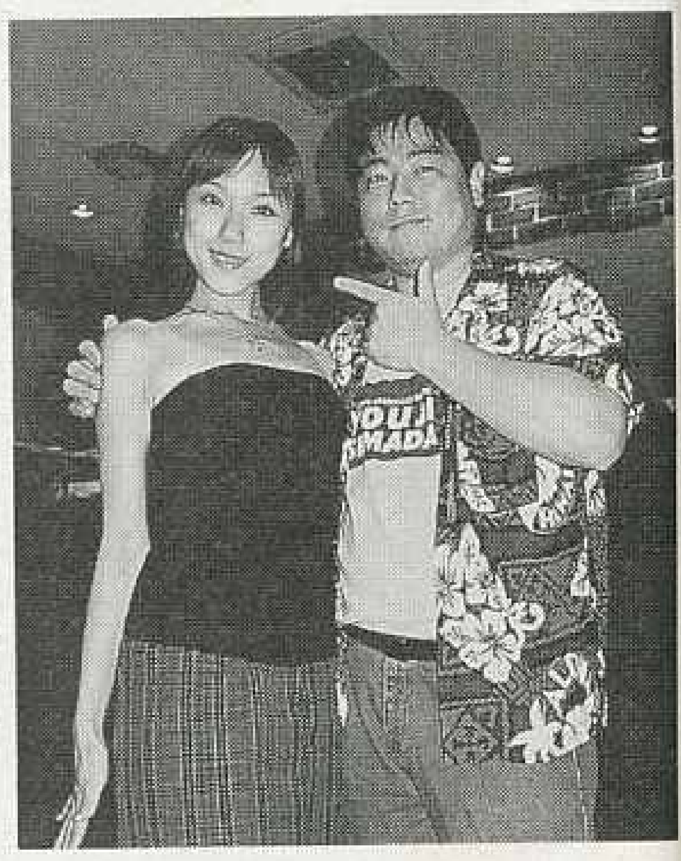
●講義時間　18：30～20：30
●受講料　会員＆一般とも3500円
●お申し込み＆問い合わせ先　03・5992・0496　〒171・8569東京都豊島区南池袋1・28・1西武百貨店池袋店イムルス館8階

8・24 ▶▶ 渋谷ロックウエスト

島田裕二プロデュースイベント
「『PRIDE』とは何か？」

M・コールマン、G・グッドリッジ突如来襲！



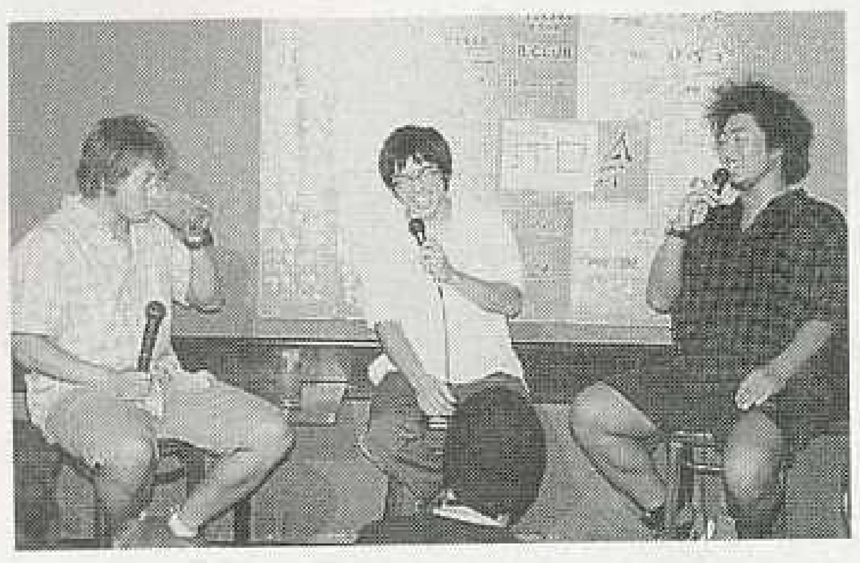


右の写真で、島田さんの横に写っている彼女こそ、島田会イメージガールのヨウコちゃんだ！　今後ともよろしく。

アンディ・フグの急逝により、サダハルンバ谷川が欠席し、本誌編集長山口と島田裕二の２人によるイベントとなった「『PRIDE.』とは何か？」。『PRIDE.10』を３日後に控え、しかも入場無料イベントとあって混雑が予想されたが、以外に寂しい客数でイベントがスタート。しかしながら、あまりにもビッグすぎる２人のゲストの登場に会場内は一気にスパーク！　本誌の『PRIDE』勝敗予想でほとんどがアイブルに負けることを予想されていることを知ってしまったグッドリッジが、本誌編集長山口に対戦をアピール。「力強さという意味では、俺が最強」と豪語していたのだが、あえて２日後の試合結果には触れないでおきたい。

9・8 ▶▶ 渋谷ロックウエスト

「『島田会』改め、『野口会』」



9・7の後楽園大会において、突然の田中稔のフリー宣言、フロントの人事異動。その翌日に行われた今回のトークイベント。様々な噂が飛び交う今のバトラーツ。しかし、鍵を握る男と言われる島田氏本人が不在。敵前逃亡か？　モハメドヨネ、日高郁人、野口レフェリーの三人がビール片手に、ヤバめのイニシャルトーク開始。しかし歯切れの悪い寸止めトークに終始した。どうしたバトラーツ？　9・23からのロード・ウォリアーズ・ジャパンツアー2000での巻き返しを期待してます。（幸田珍（仮））

その他の情報

【田村潔司サイン会】
9月30日（土）午後２時～３時30分
イサミ尚武堂（東京都千代田区三崎町2-18-5京三会館２Ｆ）
【参加条件】格闘技プロショップイサミ、イサミ尚武堂のどちらかの店舗で「U－FILE CAMP Tシャツ」か10・9代々木大会チケットを購入もしくは10月4日発売のリングスKOKビデオを予約した方（先着200名）に整理券が配布されます。
【連絡先】イサミ尚武堂 TEL.03-5214-6487

【バトラーツ情報】
「蘇る南国伝説（沖縄観戦ツアー）」
【期間】10月15日（日）～10月17日（火）
【費用】2泊3日　¥58000
【お申し込み＆連絡先】共立メンテナンス東京予約センター TEL.03-5295-7876
【スケジュール】
１日目：試合観戦後ホテル（ドーミーヴィラ沖縄）にて貸し切りパーティー開催。
２日目：ビーチにて選手との交流会。
最終日：観光バスで市内観光＆ショッピング。午後10時５分羽田着予定。

10・8邪道復活！

クラブイベント『IREGAL』に、大仁田厚バンドが満を持して遂に登場！　先月号で終焉したはずのグレート・チョロもついでに復活！キャットファイトに出場。大物格闘家もお忍びで来場予定との噂あり。



【会場】恵比寿みるく
【料金】前売り・当日共　¥3000（2DRINK付）
【チケット】チケットぴあにて発売
【出演】スラングブギー、NUMB 他多数〈ゲスト〉大仁田厚バンド
【問合せ】HEAVEN'S DOOR CO.TEL.03-3413-9331

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン

Champion

【広告のページです】

プロレス観戦に欠かせないグッズ&予備知識はココで手に入れろ!

格闘技の聖地・水道橋の駅から徒歩30秒という奇跡的な立地条件にあるチャンピオン。そこに、あらゆるグッズをノリノリで販売するマグナムOSAKAなる男がいる。



秋のビッグマッチにピッタリなマブいグッズを紹介するぜ!



マグナムOSAKA（オーサカ）■チャンピオン東京店の店長なのにOSAKAを名乗るミステリアスなマスクマン。またの名はダンチョーといい、かつしかＦＭなどに出没中。なぜか、突然マスクマンに変身した京都のプロレスSHOP・カカオの店長に対抗すべく今回も謎のマスクマンとして登場だ！　好物はベローチェのプリモ・カフェらしい。

10.9 新日本プロレス東京ドーム大会観戦前に



長州力Ｔシャツ（￥3000）横浜アリーナで力強く復活した長州Ｔシャツ。やっぱりストロング・スタイルは黒でしょ！



グレート・ムタＤＶＤ（￥21000）現在ＷＣＷで絶賛活躍中のムタのすべてがわかるＤＶＤ。他にも新日ＤＶＤは充実してまっせ！

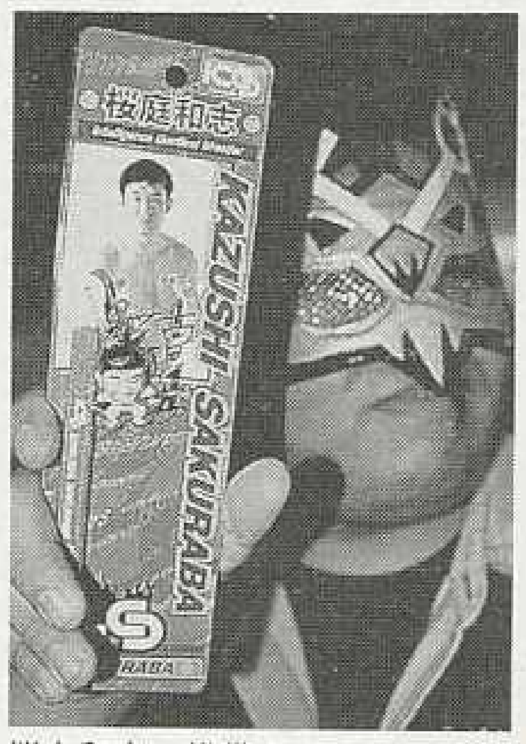


右・アントニオ猪木フィギュア引退記念バージョン／左・春一番フィギュア（ともに￥1500）人気抜群！　即ＧＥＴ！

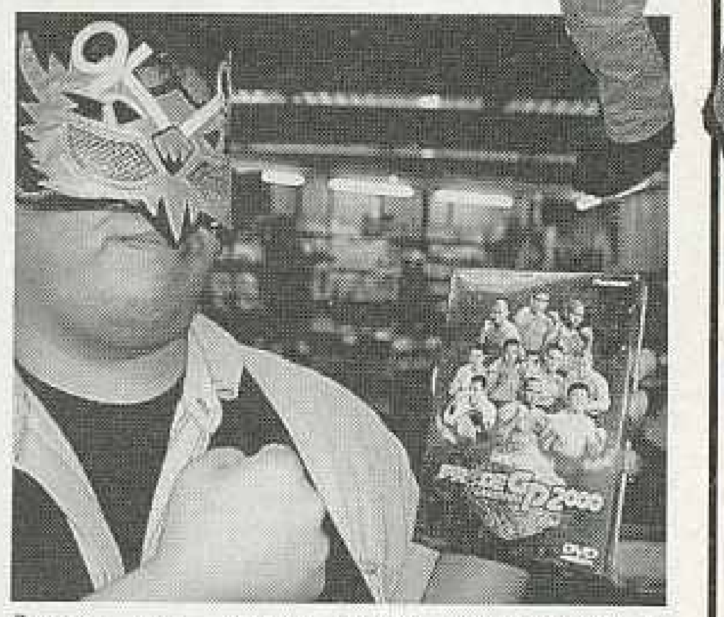


左・蝶野正洋フィギュア戦闘服バージョン（￥1500）／右・アリストトリスト・プレート（￥1000）カッコ良すぎる！

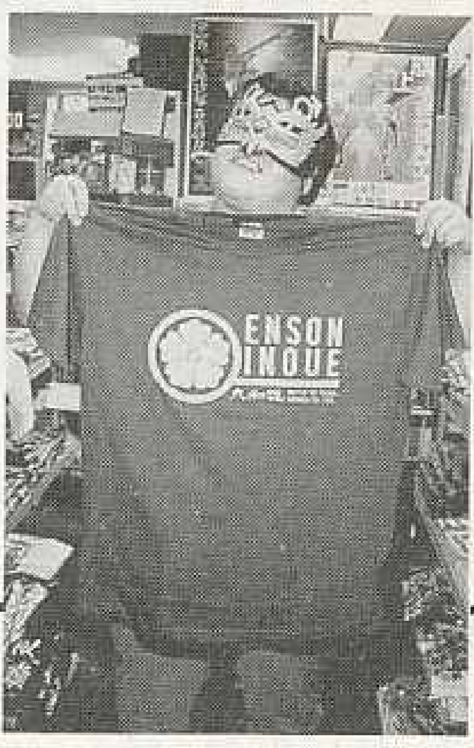
10.31 PRIDE.11大阪城ホール大会観戦前に



桜庭和志　携帯ストラップ（￥1000）新作サクグッズはストラップだ！　高田道場Ｔシャツ、サクＴシャツも入荷中！



『ＰＲＩＤＥ．ＧＰ』ＤＶＤ（￥10290）１月&５月の『ＰＲＩＤＥ．ＧＰ』の激闘を収めたＤＶＤ。必見！



エンセン井上家紋Ｔシャツ（￥4000）紫ボディーがかっこいい井上家の家紋入Ｔシャツ。『ＰＲＩＤＥ』良かったゾ！

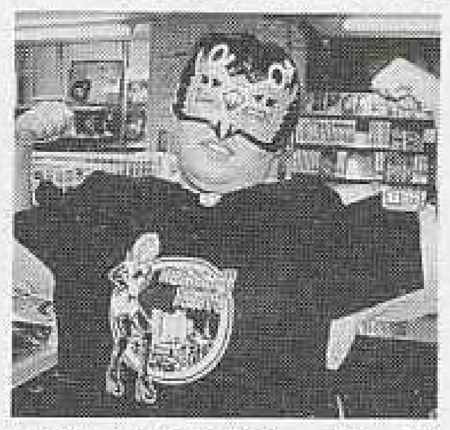


エンセン井上梵字Ｔシャツ（￥4000）エンセンの身体に入っているタトゥーと同じ梵字のＴシャツ。VIVA！　大和魂！

10.1闘龍門ディファ有明大会観戦前に



Ｃ—ＭＡＸチョーカー（￥5000）マグナムの天敵、Ｃ—ＭＡＸのメタリックなチョーカー。鬼シブな逸品。



マグナムTOKYO　Tシャツ（￥4000）／マグナム仮面（￥5000）カッコいい都会的なナイトライフを送りたい人はマスト!



闘龍門テーマ曲ＣＤ（各￥1000）左から闘龍門のテーマ、ドラゴン・キッド、斉藤了、チョコボールKOBE。必聴!



格闘ASTRALポーチ（￥1000）どーですか、お客さん!　過去にTシャツをリリースしたまでは良かったが、パンティをリリースして、一気にプロレス・グッズのツンドラ地帯を駆け抜けた格闘ASTRALの新作!　自慢の大容量でどんなものも入っちゃう!　無冠の帝王、時間無制限一本勝負などお馴染みのロゴを身につけよう!



ハヤブサ・マスク（￥7000）なんと、マスクにしては異例の低価格&素晴らしい高品質でハヤブサのマスクがリリースされた!　ちなみに、写真のハヤブタ……もとい、ハヤブサの正体は先程までマグナムOSAKAだった男である。FMWのグッズも様々入荷しているので、後楽園大会の後は気軽にチャンピオンに寄ってみよう。

店がどんなに遠くても、笑いながら歩こうぜ!　いつ何時、誰の注文でも受ける通販方法!

＜グッズ通信販売＞

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号&バックナンバー、単行本、Tシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!! もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Tシャツも、ここなら買える!　プロレスファンよ、いますぐ来い!

通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話・2ハガキ・3FAXいずれかの方法にてご注文ください。代金引換になりますので、代金+送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

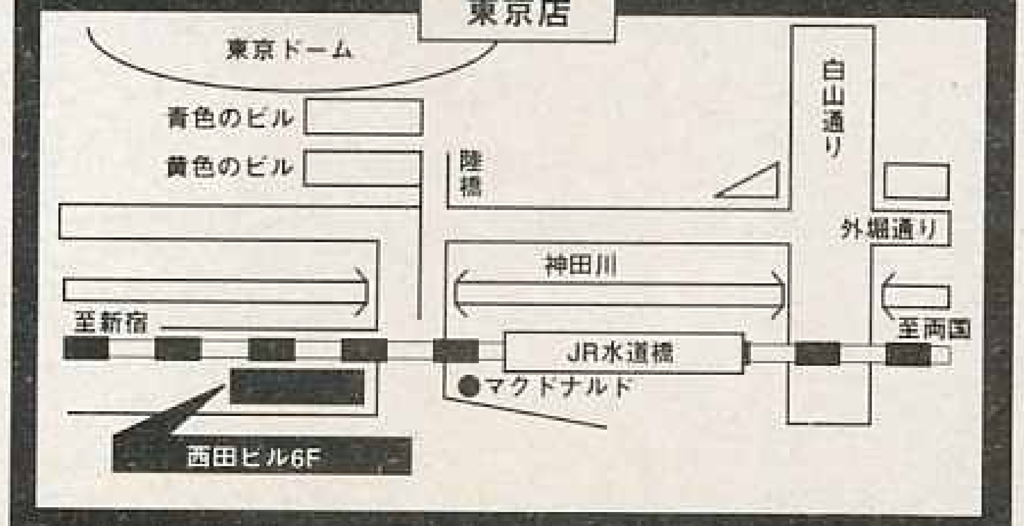
＜ビデオのレンタル方法＞

地方からも利用可能なチャンピオン独自の便利なビデオ・レンタルシステムの妙技を味わいやがれ!!　レンタル方法は以下の3通り!　どう借りるかは、あなたの都合に合わせてくれ!

1 店頭にてレンタル、店頭へのご返却
2 店頭にてレンタル、宅配便でのご返送
3 TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル

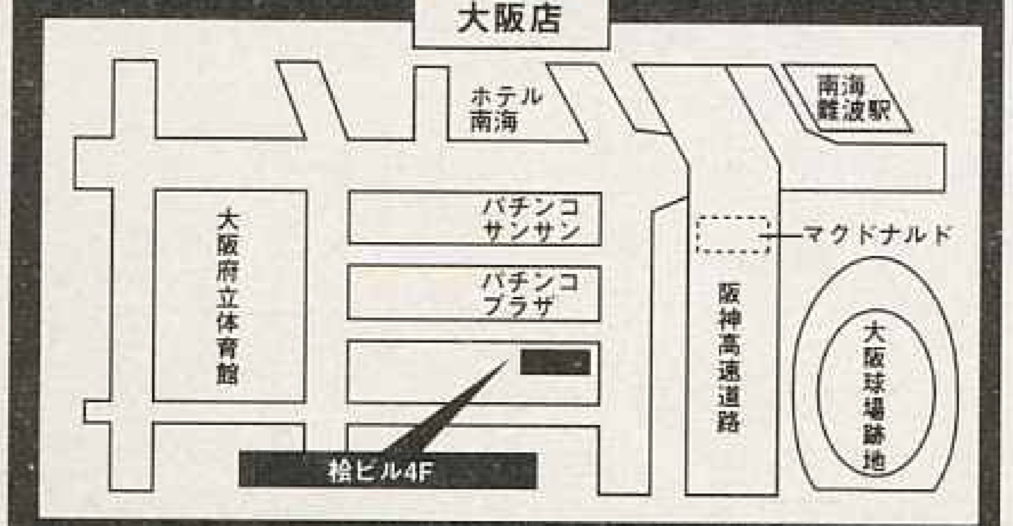
いずれかの方法で注文をお願いします!　東日本地区に住んでいる方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店を利用してください。また、通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまで郵送してください。

Champion東京店



〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237　FAX.03-3221-6267
営業時間　11:00〜22:20(年中無休)

Champion大阪店



〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186　FAX.06-6645-5187
営業時間　11:00〜22:00(年中無休)

オフィシャルビデオランキング

ビデオ・レンタルが本業だということが忘れられそうなので、人気のビデオ・ランキングをつけました。借りるときの参考にしてください!


1位 FMW『BACK DRAFT』(東芝EMI)
2位 修斗『1999BEST BOUTS』(クエスト)
3位 アルシオン『STARDOM2000』(クエスト)
4位 『ジャンボ鶴田vol.3』(vap)
5位 『ドラゴン一撃の竜』(メディア8)

人気選手の店頭サイン会、続々実施中!

10／1 チャンピオン大阪店 [パンクラス 渡部謙吾サイン会] (12:00〜12:40)
10／7 チャンピオン東京店 [闘龍門所属選手サイン会]

※時間等は各店にお問い合わせ下さい。これからも続々と店頭イベントを行なう予定なので、お楽しみに!　また団体関係者の方からのイベント開催のご要望もお待ちしております。

Championホームページアドレス：http://www.champion-j.com



Yoshihiro Takayama

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影／緒方秀美
photographs by Hidemi Ogata

ノアのリングに"異物"を持ち込んだ、
平成の怪物、3年ぶりに本誌登場!!



高山善廣

『格闘技的なもの』というよりも『全日本的じゃないもの』を持ち込んだって感覚ですね

格闘技やアメリカン・プロレスも視野に入れつつ、マット界の大海原に漕ぎだしたノアの方舟の中で、高山善廣は非常に重要なポジションにいる。

高山は、UWFインターナショナルで培った格闘技の技術と、ノーフィアーに見られるようなアメプロ的アピールの両方を兼ね備えた、マット界を見渡してみても、非常に希有な存在である。新エース・秋山準も非常に高く評価している。今回はそんな高山に「全日本とノアとUWFの違い」について聞いてみた。

そんなわけで今後のノアの進路は、高山と秋山によって決まるはずだ！　と、思っていたら、8月19日のディファ有明大会で衝撃の事件が起こった。前号では締切の関係で情報が入れられなかったが、秋山と高山が電撃的に手を組んだのだ！　21世紀のプロレスを担う強力チームの誕生である。

ところで、ノアが解禁になった本誌29号で、ボクはとんでもないミスをしてしまったのを読者の皆様はとっくにお気づきだと思う。ノーフィアーの高山善廣選手と大森隆男選手の写真が入れ替わって（不可抗力）しまったのだ。そんなビッグ・ミステイクに恐縮しながら本誌2号に登場して以来、じつに3年ぶりの高山インタビューはスタートした。

格闘ロマン OLYMPIA 2000

――（ビビリながら）前々号で、高山さんと大森さんの写真を間違えちゃって申し訳ございませんでした……。

高山　あれ、嫌がらせでしょ！（怒）

――そんな、滅相もないです。

高山　「『紙プロ』は俺にまかせろ」って色紙に書いた途端にこれだからなぁ（笑）。（テレコに向かって）もう、俺のファンは『紙プロ』不買運動だ！

――ウッ、それだけは勘弁してください。もう、ホントにお恥ずかしい限りです。読者からメチャクチャつっこまれましたよ。でも、反響も大きかったんで、ノーフィアーに対する注目度は大きいなあと改めて思いましたね。

高山　ホントかなぁ？（笑）。

――ホントですよ！　で、今回の撮影はどうでしたか？　いつもと違う感じで撮影をお願いしてみたんですけど。

高山　面白かったですよ。撮られてて気持ちよかったですね。ジム・モリソンがジャケットの撮影をしてるときは、こんな感じなのかなって。

――ああ良かった（ホッ）。で、今回は本誌2号に登場して頂いて以来で、ノーフィアーになってからは初のインタビューなんですけど、ノーフィアーになってからファンの反響は変わりました？

高山　そんなに変わらないかなぁ。

――でも、最近は、思いっきり言いたいこと言ってますよね。特に口撃のターゲットにしてる小橋選手のファンから、「小橋さんにひどいことするな！」ってカミソリ入りのファンレターが来たりとかしませんか？

高山　そういうのはないですね。まあ、裏を返せば、たいして熱心な小橋ファンがいないってことでしょうね（笑）。

――あんまり毒舌だとホントに来ちゃいそうですけどね（笑）。高山さん的にはカミソリがくるぐらいファンが熱狂してる方が望ましいわけですか？

高山　そんなのは気持ち悪いから嫌だけど（笑）。でも、カミソリ・レターが来てもおかしくはないと思いますよ。「小橋建太とそのファン」に対して、いろいろ言ってますからね。

本誌前々号のミスに高山怒る!!「俺のファンは『紙プロ』不買運動だ!!」

――ノアになってからは、三沢さんと小橋さんがベビー・フェイス、高山さんと秋山さんがヒールっていう色分けも、より一層ハッキリしてきましたね。高山さんや秋山さんが、三沢さんや小橋さんを罵倒することによって、一部のヒネくれた見方をしてるファンからは喝采を浴びるような状況になってきてますけど。

高山　そうですね、小橋ファンからは喝采は浴びていないんだろうけど（笑）。

――「斜に構えて見ている人を巻き込んでいかなきゃいけない」って、以前にどこかのインタビューで高山さんが言ってたのが、ボクはすごく印象に残ってるんですよ。

高山　「ノアが旗揚げ？　じゃあ、私たちが見に行かなきゃ」みたいな親心を持ったファンは何もなくても会場に足を運んでくれますよね。逆に「なんか、ノアってさぁ～」とか文句を言ってる連中は、まず会場には見に来ないヤツらでしょ？　そういうファンが「最近のノアってちょっと面白そうじゃん？」とか言って、見に来るようになれば観客動員も変わってくるはずですからね。

――そういう層のことも頭に入れて発言をしてる、と。高山さん自身も、ファンだった頃は結構、斜に構えてプロレスを見てたんですか？

高山　ファンとして、プロレスラーだからって無条件に応援したり許したりはしなかった



「2・9プロレス」に慣れすぎたファンはチケットで「安心」を買ってるんだよ!! オレは「事件」や「ハプニング」を売りたい!!

ね。自分の感覚では「頑張ったから、拍手しなきゃ」っていう心理は、ハッキリ言って気持ち悪い！

——アハハハ、厳しいですね。

高山 頑張ったって、ダメなヤツはダメでしょ？ アマチュア・スポーツだったらそれでもいいけど。極端な話、プロだったら頑張らなくても、観客を満足させられれば、それでいいんだから。ホント、結果オーライですよ。

——よく三沢社長は、選手から要望があると「口だけじゃなくて結果を出してから…」ということを言いますけど、プロレスの場合は相手に勝ったら「結果が出たぞ！」というのとは違うと思うんですよ。

高山 そうですね。

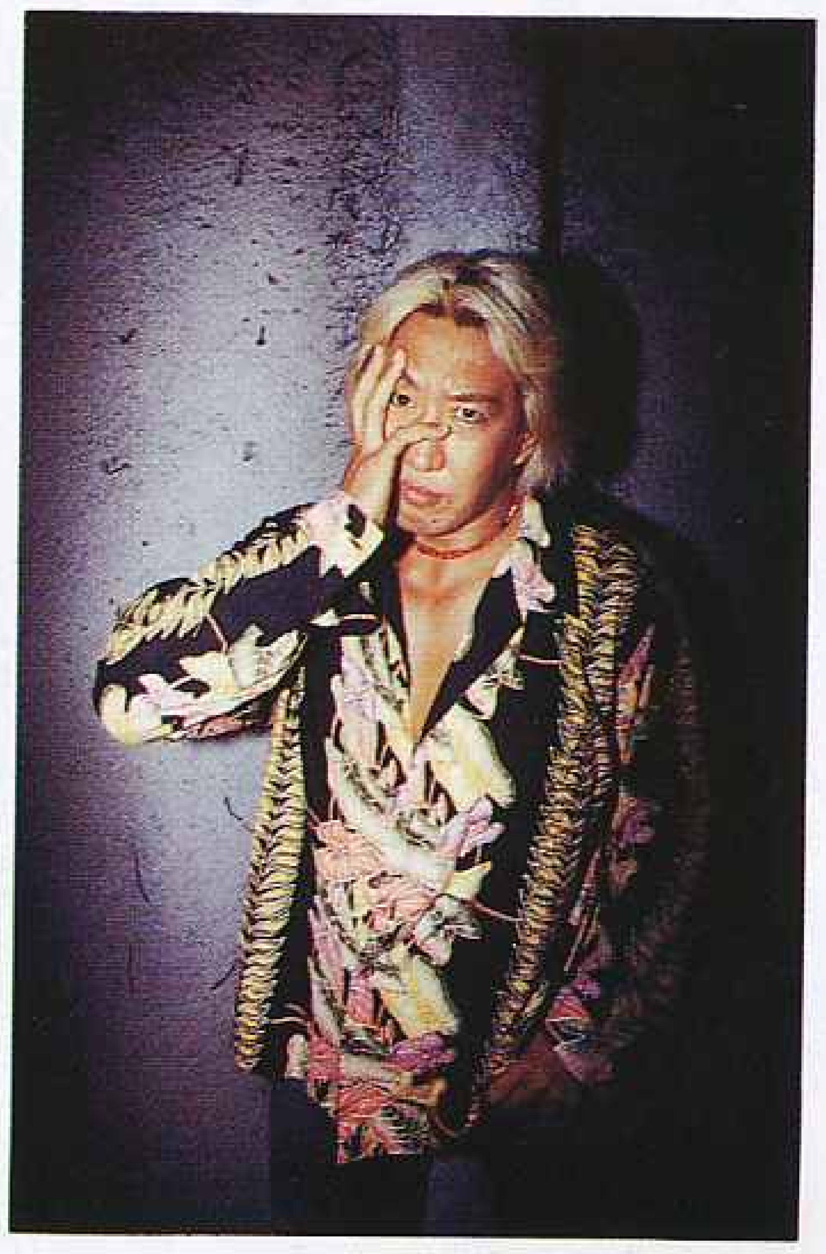
——高山さんは〝プロレスにおける結果〟って何だと思いますか？

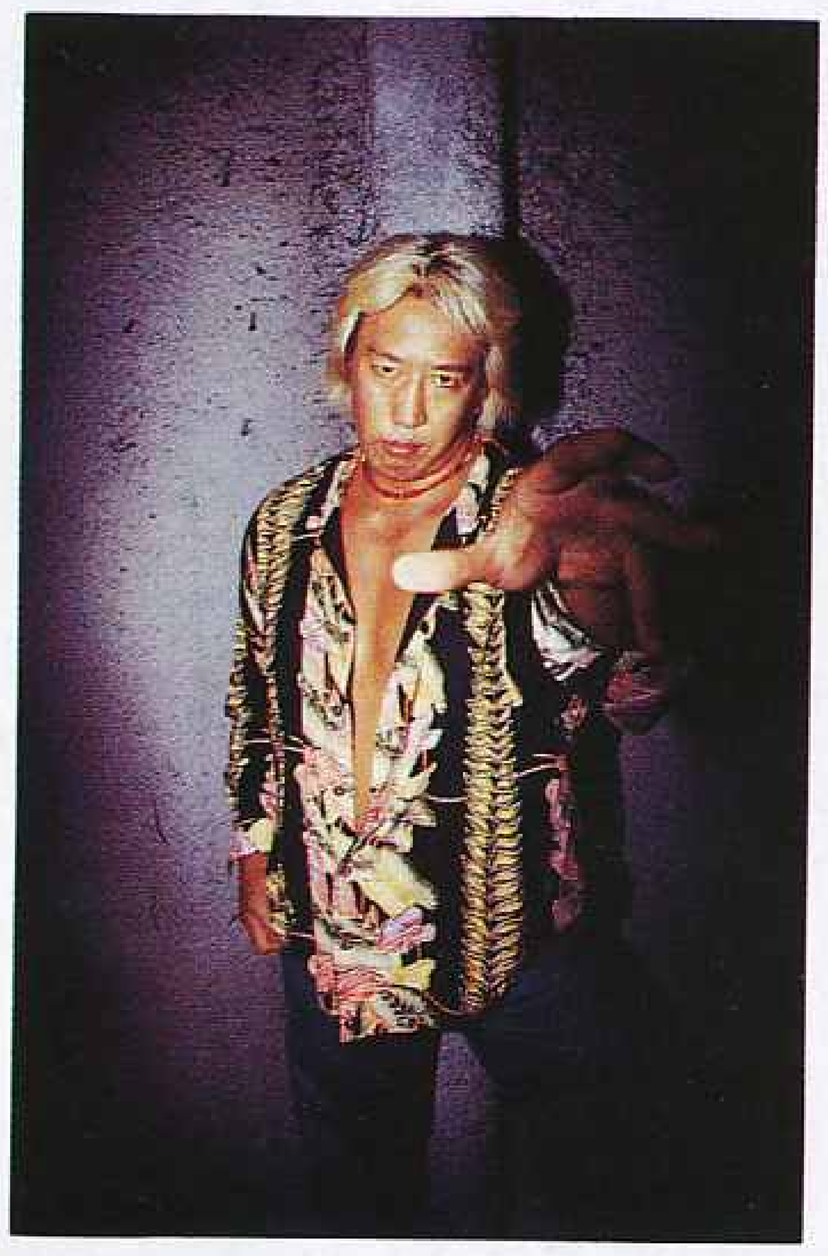
高山 たとえ負けても、自分の出た試合でお客が一番盛り上がったときですかね。将来まで語り継がれるような名勝負になって、見てる人の記憶に残ればいいと思いますけど。

——ちょっと話は変わるんですけど、高山さんはWWFってご覧になってますか？

高山 昔は見てましたけど、最近はあまり見る機会がないんですよねぇ。

——いまから3年くらい前の話ですけど、大ベビー・フェイスだった〝ヒットマン〟ブレット・ハートと、ヒールの〝ストーンコールド〟スティーブ・オースチンが抗争してたんですよね。でも、あるときから、真面目なことしか言わないヒットマンにファンが飽きちゃって、暴言を連発して相手をコキおろすストーンコールドの人気の方が上回っちゃったんですよ。なんか、これはノーフィアーや秋山さんが、小橋さんをコキおろしてる状況と似てるなあと思いましたね。





高山 そうなんですか？ まあ、オースチンが何を言ってたか知りませんけど、俺は正論しか言ってませんから。

——「次のシリーズ名は、『スーパー・ノーフィアー・シリーズ』にしろ！」とか、「チャンピオン・カーニバルに優勝したらグアムとサイパンに連れて行け！」とかですか？

高山 そんなのはどうでもいいことですよ（笑）。揚げ足取ったり、皮肉ったりはしてるけど、「お前、そりゃねえだろ」ってことは言ってないつもりですよ。「こいつらの言うことも、たしかに一理あるな」って思わせて、共感させるようなこと言わないとね。

——たとえば、マッチメイクの問題や普通じゃ言えないようなことも、ノーフィアーのフィルターを通すことによって言いやすくなりますね。

高山 別に普段から言ってますよ。ただ、俺は平（ヒラ）レスラーだから会議に呼ばれないだけで（笑）。もし営業戦略会議とか呼ばれたら、俺は言いますよ。

——秋山選手も、「僕は平レスラーだから」って言ってましたけどね（笑）。なんか状況的には、三沢さんや小橋さんの「役員レスラー」vs「平レスラー」の秋山さんや高山さんという構図になってきてますね。秋山さんとは今後、共闘していくことになりましたけど。

高山 考えてることがいちばん近いですからね。

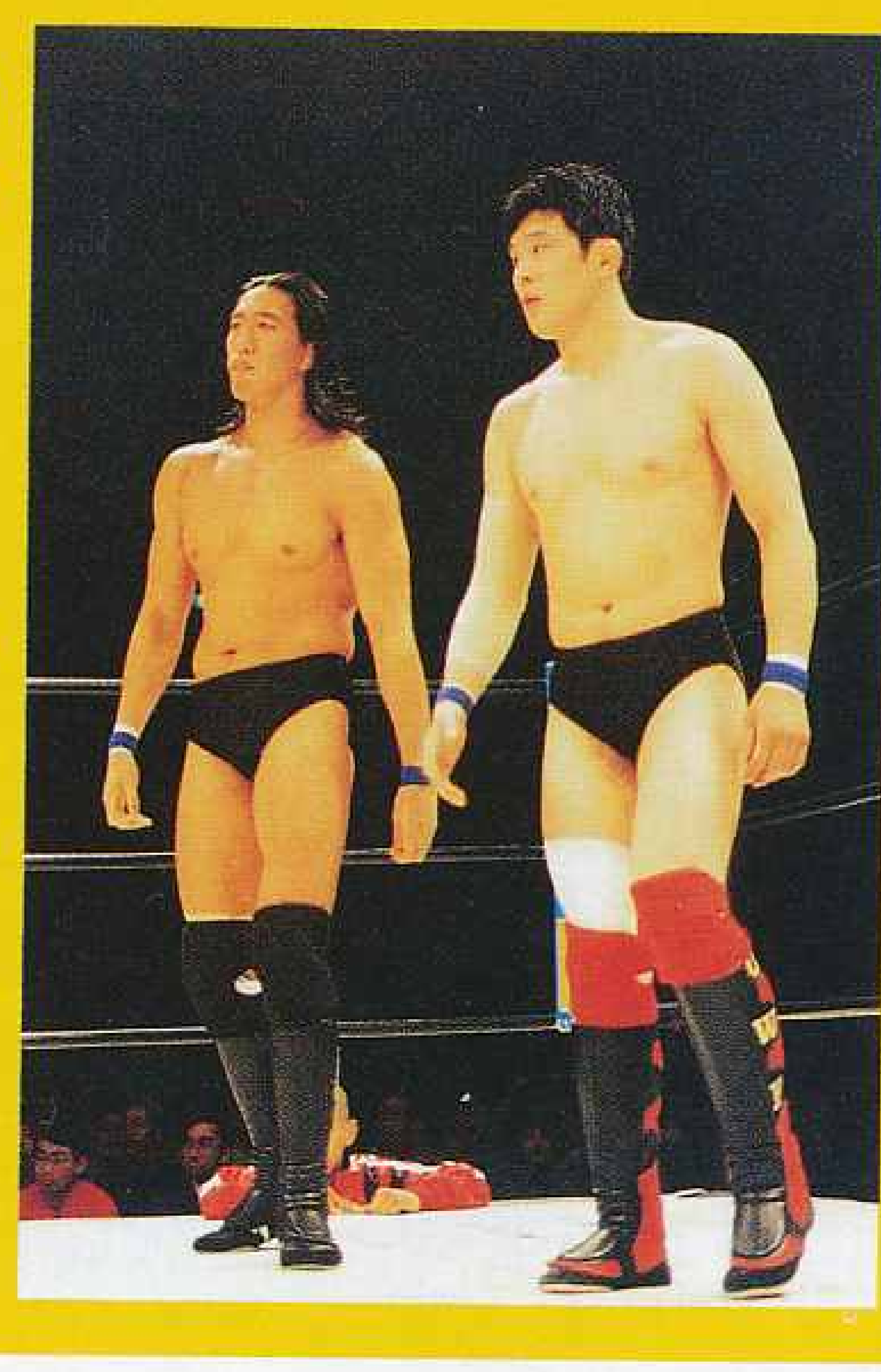
——秋山さんにはどういう印象を持っていますか？

高山 いちばん揚げ足が取りにくいタイプ（笑）。文句を言わせないような動きをしてますからね、スマートですよ。

——ノアの旗揚げが決まってから、秋山さんは、いわゆる「2・9プロレス」から卒業

一目でわかる 高山善廣 マット界放浪の軌跡

①Uインター



高山はデビュー当時からすでに大物の風格を兼ね備えていた。デビューは、92年6月28日、博多スターレーンでの金原弘光戦。丸坊主姿の初々しい高山は、先輩相手に健闘するがカカト固めで敗れている。この頃、後輩にあたる桜庭和志とも闘っている。

②新日と対抗戦



94年10月9日、東京ドームでの新日vsUインター団体対抗戦において、当時まだ「若きU者達」の一人にすぎなかった高山は、現在の新日道場王・飯塚高史と対戦。腕ひしぎ十字固めで勝つという大仕事をやってのけた。その後もスタイルの違いに悩む時期もあったが、柔軟かつ貪欲に純プロレス・スタイルを吸収。Uスタイルでは生かし切れなかった巨体を活かし始める。

格闘ロマン
OLYMPIA 2000

しなきゃいけないと言ってましたけど。

高山　そんなことは、俺はもう前の会社の頃から言ってますから。「仲良しこよしの競技会じゃねえんだ」ってね。

――あの発言はじつに衝撃でしたね！

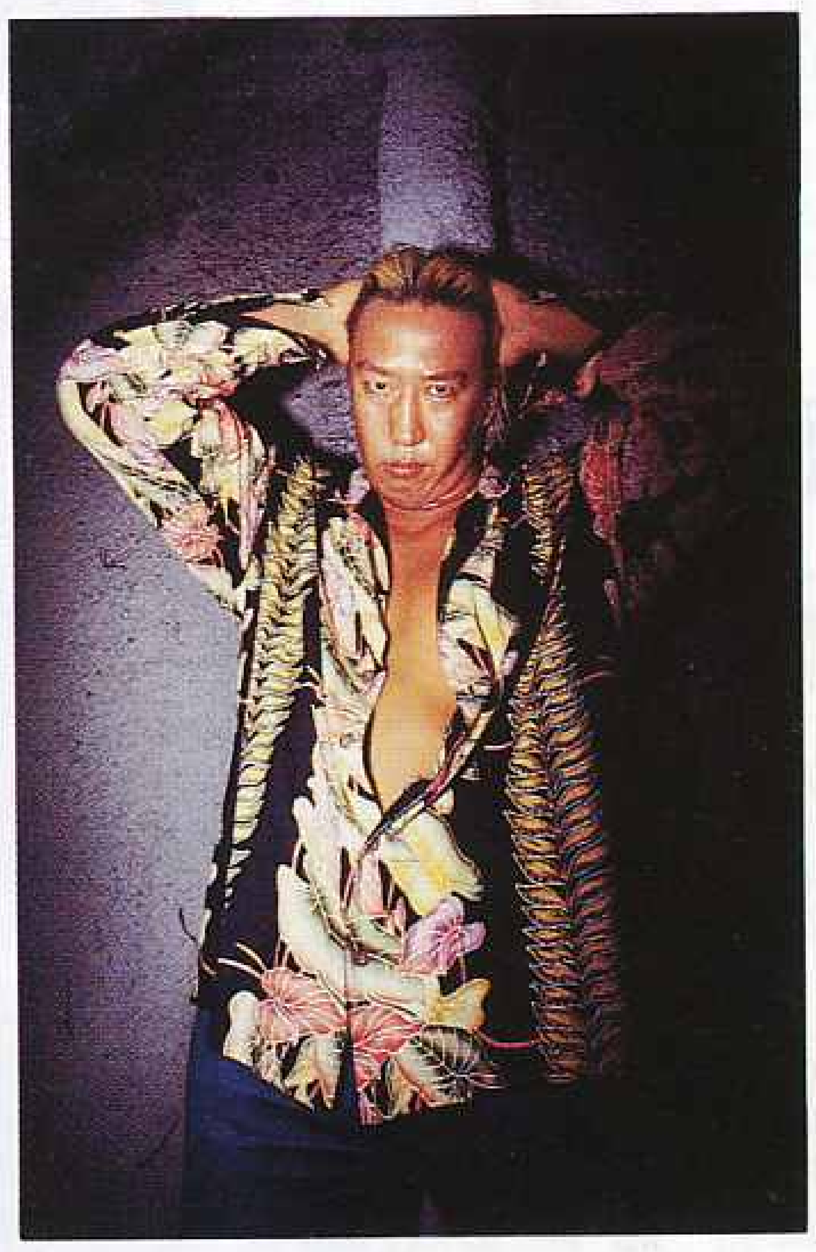
高山　ファンが「2・9プロレス」に慣れ過ぎちゃってたからね。ファンはチケットで安心を買ってるんですよ。

――エッ、安心ですか!?

高山　「このメンバーなら、いい試合を見せてくれるだろう」っていう安心をね。でも、俺は安心なんか売りたくない。

――じゃあ、高山さんは何を売るんですか？

高山　これからは事件やハプニングをチケットに乗せて売りたいですね。



――事件やハプニング！

高山　安心を売るのも大事かもしれないけど、活字でしかプロレスを追ってないようなファンは、それじゃ心はときめかないでしょ？　まあ、凄いことをやってるのは事実ですから、初めて見たファンは安心じゃないでしょうけど。

――たしかにそうですね。それで高山さんは、従来の全日本プロレスのスタイルに格闘技的なものを注入していったわけですね。

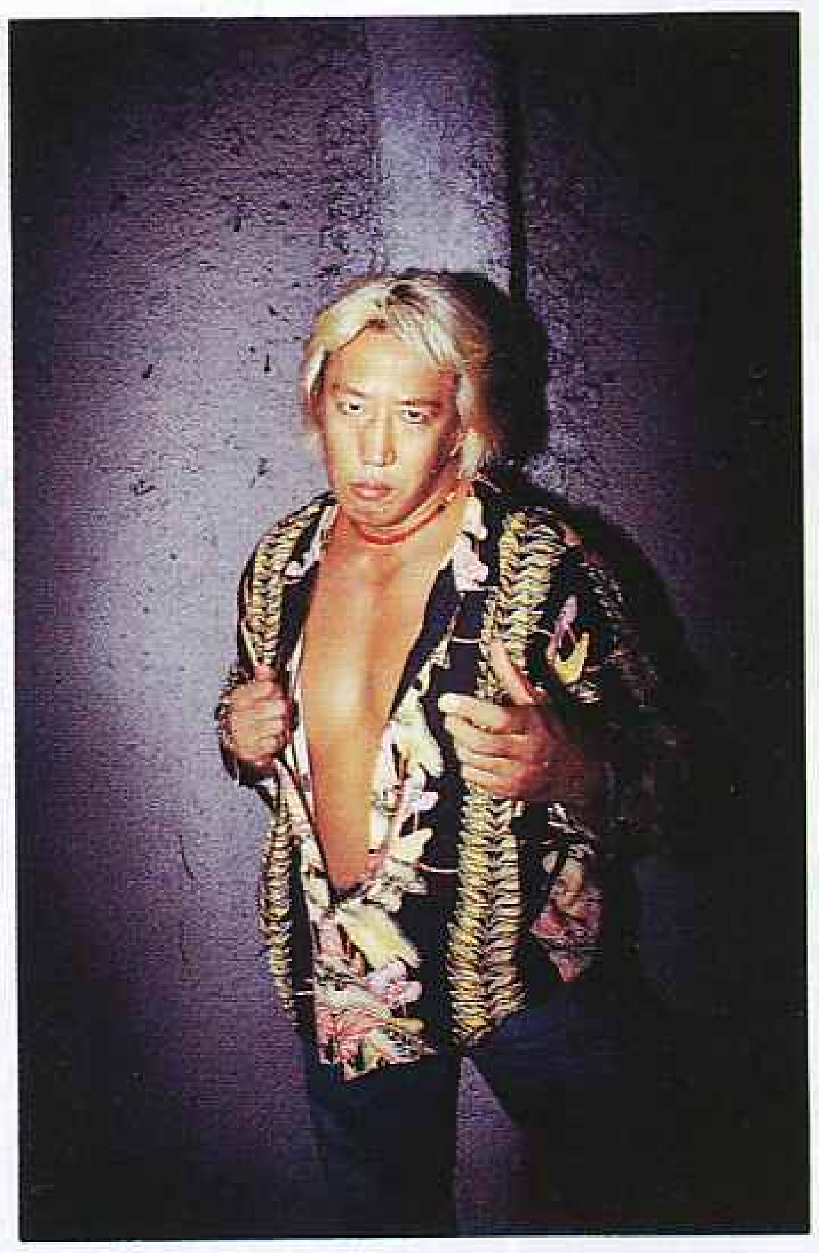
高山　格闘技的な要素を注入しなきゃいけなかったっていうのも、変な話でね。レスリングをプロ化したのがプロレスなんだから、元々は格闘技なんですよ。それなのに、格闘技的な要素を注入しなきゃいけなかった。そんなのはおかしいでしょ？

――全日本プロレスの中でも、ノアでも、高山さんの試合はトゲトゲしてますよね。

高山　ド突き合いはトゲトゲしてなきゃ、おかしいでしょ。爽やかなド突き合いなんて気持ち悪い（笑）。

――高山さんが注入した格闘技的な要素というのは……。

高山　（遮って）格闘技的じゃなくて、「全日本的じゃないもの」ですね。俺がいたUWFインターもプロレスだと思ってますし、プロレスは格闘技のひとつですからね。だから、「全日本的じゃないもの」という言葉が俺の感覚にはピッタリ来ますね。



――なるほど。で、ノアが旗揚げしたわけですけど、全体を見てそういう部分は変わってきましたか？

高山　そんなに変わってないでしょ。こないだシングルで当たった志賀（賢太郎）は変わるかもしれないけど。でもね、「ノアになったから変える」っていうんじゃ遅いんですよ。

――たしかに高山さんは、すでに全日時代から変わっていきましたからね。

高山　全日本の頃から、新しい時代を作るために準備をしている人間が、ノアになって飛び出していけるんですよ。だから、秋山準がバーッと行ったんですよ。俺たちノーフィアーは、全日本の頃から「古い体制を壊さないとダメだ」って言ってるし、実際に行動してるからね。

――そうですよね。で、ちょっと話は前後しちゃうんですけど、ノアの旗揚げ前に4大会だけ全日本プロレスに参戦しましたよね。そのとき川田選手が言った「（ノアの選手が参加して）全体のリズムが狂った」という発言に、ノーフィアーは激怒してましたね。

高山　まあ、言い訳するなって感じですけどね。セミ・ファイナルでワッと盛り上がって、メイン・イベントが寂しくなっちゃうことなんかよくあることですよ。興行は水モノなんだから！　でもね、出ていったノアの人間と、残った全日本の人間が競い合う4日間は勝負なんだから、お互い負けないように頑張ればいいじゃない？　それを「バランスが崩れた」なんて言って。だったら最初から「出てください」って言わなけりゃいいのに。

――まあ、そうなんですけどね（笑）。高山さんと川田さんは、Uインターの頃からずっと因縁がありますね。

高山　そうでしたっけ？

――いちばん最初は、96年9月11日にUインターの神宮大会で、その次は97年10月21日の全日本プロレスの武道館大会で対戦してます。川田さんって、全日本プロレスの中では、いちばん最初にUWF的なものを取り入れた選手だと思うんですけど……。

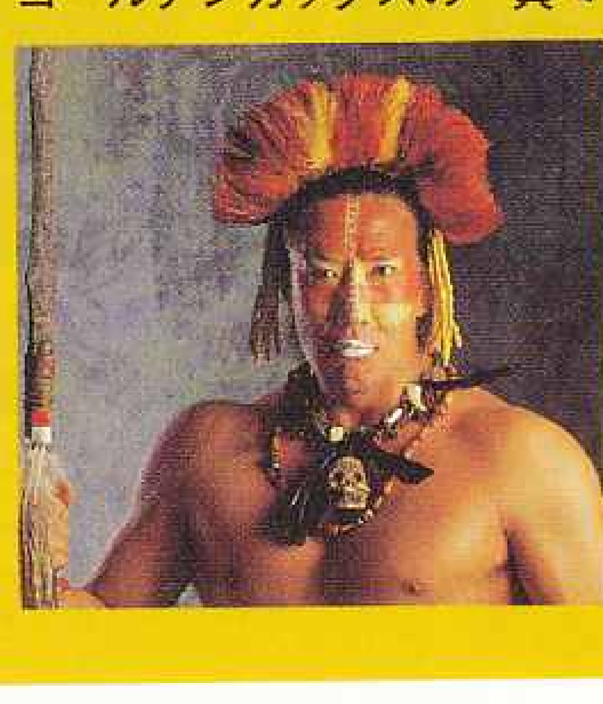
高山　（遮って）全然UWF的じゃない！　UWF的なものは一個もないですよ！　どこがUWF的なんですか？

――でも、レガースをつけて、キックや関節技を主体にした闘い方はそうだと思うんです

③ゴールデンカップス

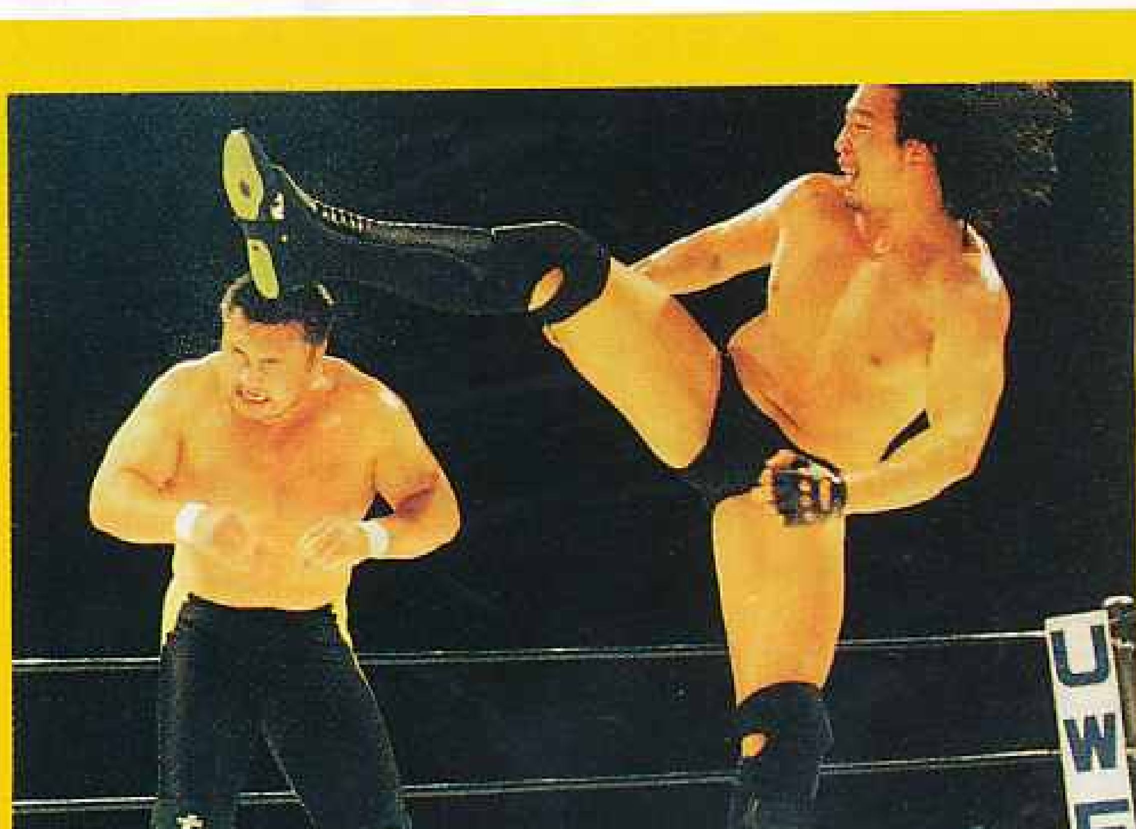


安生洋二、山本健一とのゴールデンカップス時代。当初は、執拗な勧誘にもかかわらず、安生に反発、ゴールデンカップス入りを断固として拒否してきたが、東京ドームでの安生vs冬木戦での冬木の安生に対する羞恥プレーにエキサイト！　その安生を救出すると共に、ゴールデンカップスの一員↘



として安生、山本との共闘を決意した。このとき経験した早すぎたエンターテイメント路線が、ノーフィアーの下敷きの一部になっていることは間違いない。冬木弘道、邪道、外道の冬木軍を下し、今は亡きWAR世界6人タッグ選手権のベルトも腰に巻いている。この時期、ゴールデンカップスとして『OHTACO』なるCD（左はそのブックレットに掲載された写真）まで発売している。

④川田との出会い



96年9月11日Uインター神宮大会で川田と初めて対戦。その後の高山のプロレス人生において全日本そしてノアへと導く運命的な一戦となった。再戦は97年10月21日。「UWFのスタイルで来い」という挑発を受けて立ち、川田をボコボコにし続けたものの惜敗。だが、試合後は「ボクらはこのスタイルに誇りを持ってるんだから、軽くあんなこと言うな」と怒りをあらわにした。

よ。

高山　まあ、たしかにレガースをつけてるのは同じですけどね。でも、レガースをつけたからって、即UWFではないと思いますよ。田村（潔司）さんみたいにレガースつけなくても、UWFの試合をやる人はいますから。

――では、高山さんの思うUWF的なものってどんなものなんですか？

高山　言葉にするのは難しいですけどね、問題はもっと奥深いことですよ。

――UWFといえば、垣原選手が旗揚げ戦だけ出場して、離脱してしまいましたよね。キックとパンチとサブミッションしか出さない垣原さんと、それに対抗する高山さんのシバキあいが凄く強烈だったんですけど。ファンの間ではあのスタイルが原因で垣原さんは退団したんじゃないかと思われてるんですよ。









高山　旗揚げ戦に関して、別に垣原さんが悪いとは思わないですけどね。何が悪かったかといえば、翌日から試合に出場しなかったことですよ。あれをやり通せば良かったのに。翌日は社長と対戦する予定だったんだから、社長を殴ればいいじゃないですか。エルボーで返されるかもしれないですけど。

――旗揚げ戦では「これからはトップを狙う！」って発言したりして、この先を期待させてくれたんですけどね。

高山　でしょ？　「トップを取る」とか言ってた人がドタキャンしちゃダメでしょ。

――あのままやってたらリング内だけじゃなくて、リング外でも孤立しそうな感じでしたもんね。

高山　孤立してもいいんですよ、お客を呼んでくれればね。団体が潤って、みんなが潤えば、それでトップですよ。でも、離脱したってことは、そんな気もなかったってことでしょ？　挙げ句の果てには試合後に「ノーフィアーは口だけ」って言ってましたけどね、「そりゃアンタだよ」って（笑）。

――垣原さんって結構、思い込みが激しいところはありますよね。

高山　昔からそうですよ。

――いちばん最初の「何でも無条件に受け入れるファン」の話じゃないですけど、垣原さんは一番のUWF信者なのかなって思いましたね。今回の件で。

高山　それは違うでしょ！　一番のUWF信者は田村さんと宮戸（優光）さん！

――ああ、確かにそうですね（笑）。

高山　垣原さんは全然UWF信者じゃないですよ。UWFのファンにしたら、都合のいいときだけUWF、都合のいいときだけ新日本や全日本になるって感じに見えるんじゃないですか？

――ずっと一貫してUWFが好きな感じは伝わってくるんですけどね。

高山　それだったら新日本との対抗戦に出なけりゃ良かったはずでしょ。まあ、あれは会社の方針だったから仕方ないのかもしれないですけど。キングダムが潰れたときにリングスに行けば良かったはずでしょ。

――高山さんの中ではUWFと、全日本プロレスやノアといういわゆる純プロレスの折り合いはついてるんですか？

高山　分けて考えてる部分はあるけど、同じように考えてる部分もありますね。

――リング上に関してはいかがですか？

高山　だいぶ前に俺と川田さんの試合を見た秋山選手が、「バレーボールとバスケットボールをやってるようなもんだ」って言ってたことがありましたけど、いまは試合に違和感はないでしょ？

――そうですね。スーパーヘビー級の闘いの中に溶け込んでますよね。

高山　（ノアのポスターを指さして）あそこに載ってる選手の中で、俺と大ちゃん（池田大輔）だけ純粋な全日本プロレス出身じゃないんですよ。でも、リング上では違和感なく試合を見れますよね？

――ええ。

高山　でも、フとした瞬間に、パッと違うことが出来るわけですよ。それは個性になりますよね。

――垣原さんは、その折り合いがつかなかったんでしょうね。

高山　（頭と胸を指さして）ここの違いでしょ、たぶんね。

――なるほど。高山さんは先程、「そんなに変わってない」って言ってましたけど、ノアになってからは確実に格闘技的な要素も入ってきてるとは思うんですよ。秋山さんが「もし対抗戦になったら、タックル一つ出来ないようじゃダメだ」ということで、若手にアマレスを奨励してますよね。Uインターの頃に対抗戦を経験している高山さん的にタックルの重要性というのはいかがですか？

高山　そうですね。あの対抗戦のときに、UWFファンが一番「アチャー」と思ったのは、長州（力）さんに安生（洋二）さんや

⑦格闘家との親交



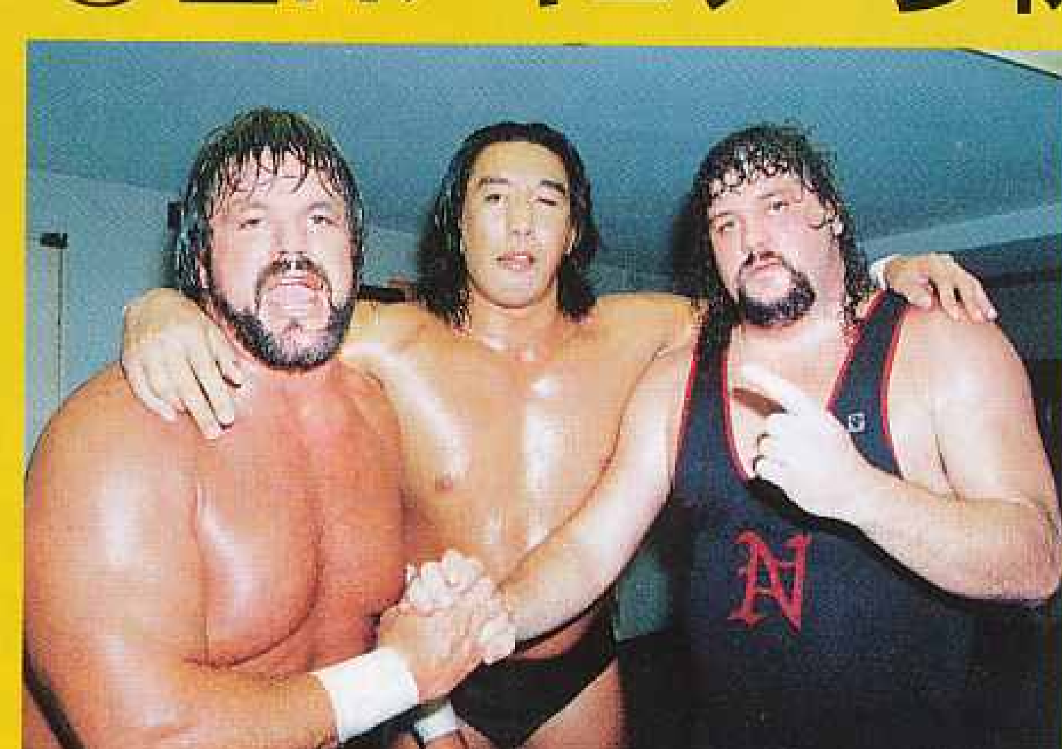
バラバラになった現在でもUインター勢との親交を続けている高山はじつに友人が多い。昨年はリングスの金原弘光とともにエンセン井上のジムのパーティーにも遊びに来ていた（写真はカーロス・ニュートン）。『PRIDE』やリングスの会場にもよく出現する。

⑥ノーフィアー結成



99年、三沢社長の新体制になった初のシリーズを機に高山は全日本に正式入団。同時に大森隆男と共にノーフィアーとして爆走を開始する。ジュニアの浅子を加えて、旋風を巻き起こした。このポーズと「ノーフィアーッ！」のかけ声は流行語にもなった。

⑤全日レギュラー参戦



98年1月を最後にキングダムが崩壊。その後の高山は全日本にフリーとして連続参戦するようになる。スティーブ・ウィリアムス、ゲーリー・オブライトと共に、（試合もビジュアルも）衝撃的なユニット・T.O.P.（トライアングル・オブ・パワー）を結成する。



対抗戦ですか？「このオヤジ（長州力）だけには丸め込まれないようにしよう」って思いましたね。

垣原さんが丸め込まれたときだと思うんですよ。俺も「アチャー」って思いましたから。

―アハハハ、たしかにあのときはドームにUファンのタメ息が充満してましたよね（笑）。

高山 俺も一回だけ長州さんとタッグで対戦したことありますけど、「このオヤジにだけは絶対丸め込まれないようにしよう」と思って、メチャクチャに暴れて、技を解いて、立ち上がって睨み付けましたから（笑）。そしたらサッと帰っちゃいましたね。

―やっぱりファンが、そこで強弱を判断しちゃいますからね。

高山 あの試合は、そこだけにこだわりましたね。

―で、ノアは旗揚げしてから試合面だけじゃなくて演出面も変わりましたけど、高山さん的にはいかがでしたか？

高山 いいんじゃないですか？ いまの方が気分的にもいいし。プロレスって、最後の試合は「メインイベント」っていうぐらいだから、お客さんにとっては“イベント”なんですよ。やっぱりイベントは華やかじゃないとダメでしょ。雑誌だって、地味な表紙だったら「こんなの読みたくもねえよ！」って言われて、誰も買わないでしょ。『紙プロ』だって、表紙に高阪（剛）さんの顔アップがボーンと出てるから「何だコレ！」ってお客さんが興味を持ってくれて、売れるわけでしょ（笑）。

―アハハハハ！ たしかに高阪選手が表紙に出たときは特に反響がデカかったですね。

高山 そういう“掴み”は大事だと思いますよ。

―旗揚げ戦でも、ノーフィアーは見事に掴んでましたからね。白いコスチュームで出てきたのは、ビックリしましたよ。同じくコスチュームを白にした秋山さんもビックリしたみたいですけど（笑）。

高山 ハハハハハ！ しょうがないでしょう。別に会議して、「キミは何色にしなさい」って話をしてるわけじゃないから（笑）。

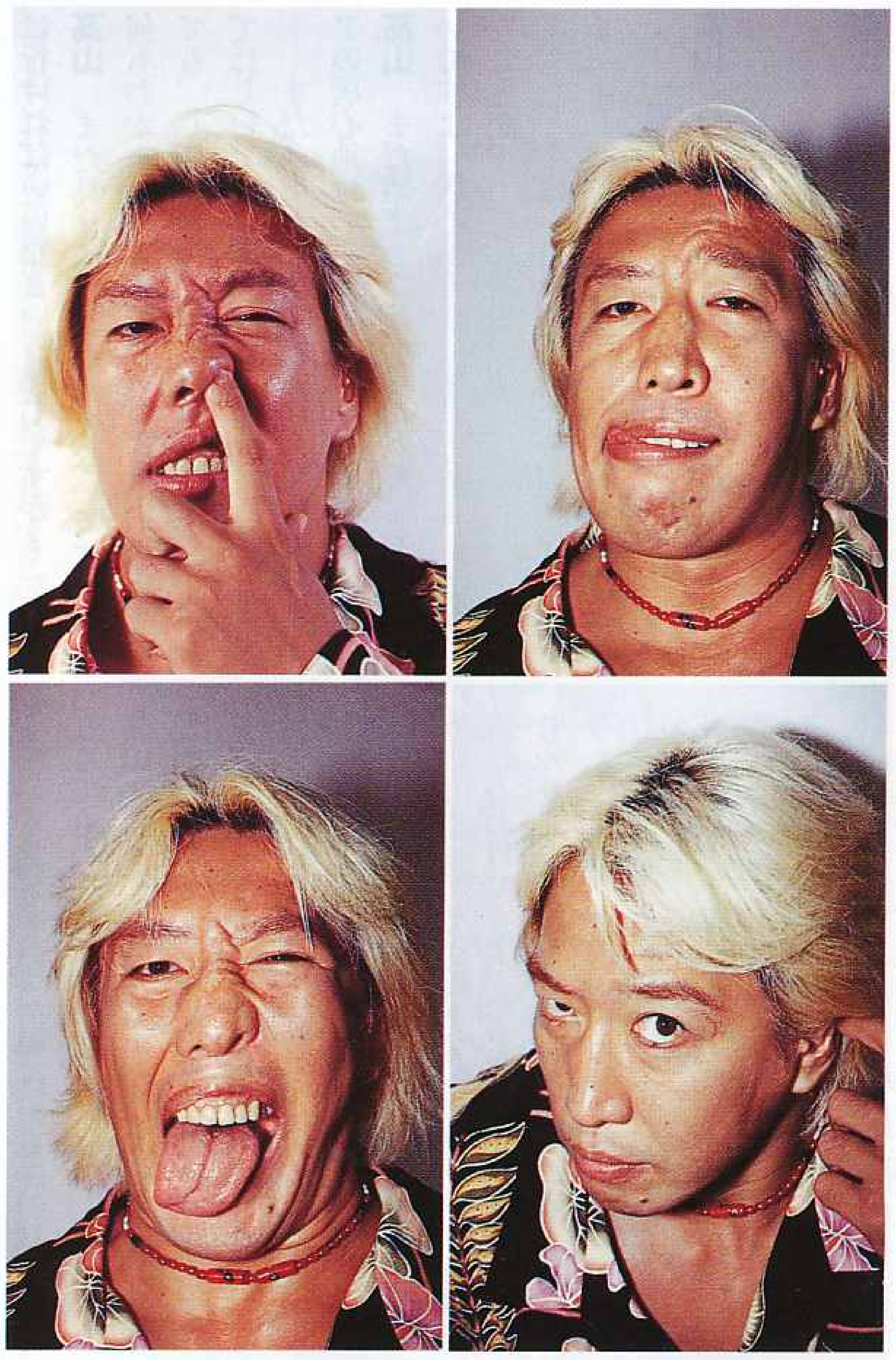
―その秋山さんは、旗揚げの2連戦で三沢、小橋、田上というトップ3選手から連勝して、いきなりノアのエースにのし上がりましたよね。そこで高山さんは対抗する立場になるのかなと思ったんですけど、手を組んだのは意外でしたよね。

高山 俺が秋山さんに立ち向かって行くっていうのも、また普通じゃないですか？ それよりも、重役レスラーの連中をどかした後から闘っても遅くはないですからね。

―その重役レスラーっていうのは、三沢さん、小橋さん、田上さんのことですよね？

高山 一番のターゲットは社長と小橋建太になりますけどね。いわゆる四天王時代の主役でしょ。それはホントに認めてますけど、そろそろお休みしてほしいですよね。

―秋山さんやノーフィアーってアメリカン・プロレス的なアピールがあるのが、四天王との大きな違いだと思うんですよ。で、素朴な疑問なんですけど、あのノーフィアーのポーズとキャラクターは高山さんが考えたんですか？



Yoshihiro Takayama

高山 俺かなぁ？ 忘れちゃった。

―カメラに向かってガナリ立てて、最後にキメのポーズを作るっていうのはインパクト有り過ぎですよね（笑）。実際、ここまでブレイクすると思ってましたか？

高山 ある程度はいくと思ったけど……最近は映像系の仕事だとどこに行っても「最後は、ノーフィアーのポーズで決めてくれ」って言われるんですよ（笑）。

―それだけ浸透したってことですよ。パソコン雑誌のテレビCMにも出演してましたけど。

高山 あれが企業イメージに合えばいいんですけどね（笑）。日テレで中継をやってた最後の頃なんか、「この大会の告知と、この番組の告知と、この放送の告知を入れて、最後は『ノーフィアーッ』でシメてくれ」なんて注文されてましたよ（笑）。

―なんか芸になりつつありますね（笑）。

高山 ある意味、芸ですよ。ホント。

―でも、高山さんはガナリつつも的確なこと言ってますからね。相当、頭いいんだろうなって思いますよ（笑）。

高山 そう！ 頭いいんですよ……って自分で言うなって感じですけどね（笑）。

―アハハハ！ 同じようにアピールしている蝶野（正洋）さんにインスパイアされた部分はありますか？

高山 それはないですね。結果的に、蝶野さんと似たようになっちゃったなというのはあるんだけど。むしろインスパイアされたのは、ファンの頃に見てた『世界のプロレス』っていう番組ですよね。

―あの！ いわゆる古き良き時代のアメリカン・プロレスを放送してましたよね。

高山 そう。ロード・ウォリアーズばかり出てたあの番組（笑）。あとは、クラッシャー・リソワスキーとディック・ザ・ブルーザーが



「UWFはファンをダマしてた」って？金を払って見せるものはすべてファンをダマしてますよ！

「ババ、今度会ったら殺してやるぜ！」とか怒鳴って、それをジョー（樋口）さんが通訳して、レポーターの徳光（和夫）さんがイジメられるような昔の映像とか（笑）。そういうのは見てたから、コレだなっていうのは頭にありましたよ。やっぱりファン時代に見てたもので、いいなと思ったものがいま出てますよね。

——そのうちロード・ウォリアーズみたいにタバスコをイッキ飲みしたりして（笑）。

高山　「俺たちはスラムでネズミを食って生きてきたんだ！」って言い出したり（笑）。あの映像には妙に説得力がありましたよね。スラム街が似合ってたよなぁ。

——ズバリ言って高山さんは、スラム出身じゃないですよね。

高山　俺はお坊っちゃんですから（笑）。東京出身ですけど、高校から神奈川の鵠沼に移りました。

——海のあるいいところですねぇ。

高山　だから言ったでしょ、お坊っちゃんなんですよ（笑）。

——高校ではどんな感じだったんですか？

高山　あんまり勉強はしませんでしたけどね。悪い教科もありましたけど、英語は80点以下を取ったことはないですよ。

——はぁ〜、そうでしたか！　そのアメリカン・プロレスな志向とか、アメ車好きなところとか、普段の格好とか、英語の点数が一本の線で繋がったような気がしますね（笑）。

高山　まあ、同じ人間が考えてることですからね。

——いま、WCWで闘っている武藤（敬司）さんがアメリカから高山さんにラブ・コールを送ってますけど、高山さん的にはアメリカでやってみるっていうのはいかがですか？

高山　あれが本気だったら、ちゃんとビジネスとしてコンタクトを取ってきて欲しいですね。

——気持ちとしては「待ってます！」という感じなんですか？

高山　（急にかしこまって）お電話、お待ちしております（笑）。

——アハハハハ！　ノアと並行してアメリカに行ければいいなという感じですか？

高山　まだ具体的に話が来てないですから、何もわからないです。マスコミを通じて言っても、しょうがないでしょ。ちゃんと話はしてほしいですよね。

——まだノアも始まったばかりですしね。ノアの居心地はいかがですか？

高山　まだ始まったばかりだから、わかんないですよ。居心地をよくするために、いろんなことをやってる最中です。

——たとえば、自分の志向を全面に押し出して「ノーフィアーだけ英語でアナウンスしろよ！」というような変え方はしないんですか？

高山　日本でやってる興行なのに、そんなことしても安っぽいだけですよ。

——まあ、たしかにそうですね。

高山　そういう演出よりも、むしろファンのノリを変えたいですね！　プロレスを見る人たちの楽しみ方を変えたい。

——具体的にはどんなところですか？

高山　ノアが好きで毎回見に来てるファンにしても「なんで、こんなマッチメイクなんだろう？」っていう試合が1大会に2試合ぐらいはあるはずでしょ？　そこで「まあ、いいや」で無条件に応援するんじゃなくて、「つまんねえ！」と思ったらトイレに行ったり、タバコ吸ったりしてほしいですね。お客も意志表示をガンガンすりゃいいんですよ。この雑誌が発売になる頃には終わってますけど、9月15日の大会なんか俺と秋山さんと金丸が組んで、小橋&菊地&力皇と闘う試合（セミ・ファイナルで行われる予定だったが、当日はメインに変更された）を見終わったら帰っていいですよ。

——メイン・イベントの三沢さんの試合は見なくてもいいんですか!?

高山　だって、俺たちの試合見終わったら興奮して疲れちゃいますからね（キッパリ）。満足したら、そこで帰ればいいんですよ。

——それは選手にとっては厳しい注文ですね。

高山　それは俺も一緒ですよ。俺自身も、「何だよ、つまんねえな」と思われる試合をやってしまうかもしれない。そしたら罵声を浴びるわけですよ。楽しむためのブーイングじゃなくて、「テメー、引っ込め！」っていうようなホントの罵声をね。でも、本来プロはそうじゃなきゃダメですよ。

——批評の目にさらされるべきだと？

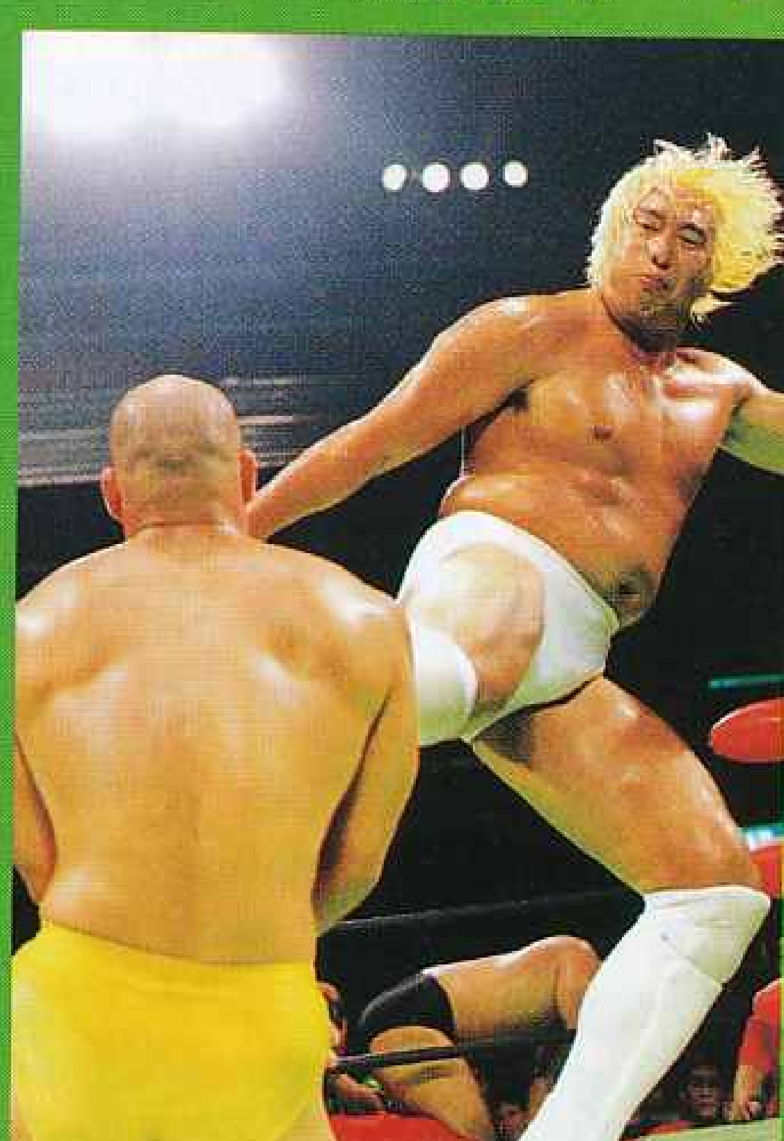
高山　そうすりゃ、もっと業界全体が良くなりますよ。だいたい、お笑い芸人だって、ストリップ小屋からスタートするでしょ？

——へっ？　どういうことですか？

高山　女の裸を見に来てる人に、下らないギャグはウケないんですよ。それを引きつけるには、凄い技が必要になってくるでしょ。プロレスとお笑いは全然違うけど、そういう厳しさは大事ですね。前座のヤツは最初から暖かい声援を受けちゃダメ（キッパリ）。まあ、最初から拍手をもらえるだけのことが出来れ

ノアで大爆発!!　高山はここまで変わった!!

カッキーの暴走に"キラー高山"出現！



8月5日の旗揚げ戦では、カッキーの暴走を止めたのは高山だった！　カッキーのキックでパートナーの大森が追い込まれると、異変を察知した高山がものすごい勢いでコーナーを飛び出して、重過ぎるヒザ蹴りを入れる！　ド迫力の掌底と蹴りも飛び出した。"キラー高山"の出現に会場は大きくどよめいたのは言うまでもない。あの怖ろしい高山の姿は是非もう一度見たい！

志賀の関節技を受けて立つ！



リング上では秋山にボロボロにされ、小橋に捨てられた志賀が高山という巨大すぎる壁に挑んだ8月19日のディファ有明大会。志賀はパンチとキックと柔道仕込みの関節技で挑み、高山に食らいついていく。最後はスリーパーで絞め落とされたが、高山はそのチャレンジ精神を認めて、自らカツを入れて志賀を称えた。

ばいいけど。

——それでみんな追い込まれれば、良くなっていくでしょうね。で、ちょっと話題は変わるんですけど、高山さんは元Uインターの人たちとは、いまでも親交がありますよね。

高山 付き合いのない人は少ないですね。リングスと『PRIDE』の会場にもだいたい顔を出してますよ。

——それぞれ仲違いがあったりしていろいろ問題があるわけなんですが、そういうのはどうなんですか？

高山 誰と誰の関係ですか？

——まず安生さんが前田さんを殴った問題についてはどう思います？

高山 俺は安生さん側の情報しか聞いてないんですけどね。安生さんの話を昔から聞いていると、安生さんだったら殴っちゃうのかなって思いますけどね（笑）。前田さんにしてみたら、何でだろう？っていう感じかもしれないですけどね。

——ヤマケン（山本喧一）さんが「UWFはファンをダマしてた」というような発言をしてますけどね。

高山 っていうか、勝手にアイツが被害者意識を持ってるだけでしょ？ だいたいね、お金を払って見せるものはすべてファンをダマしてますよ。「ダマす」って言葉が当てはまるかどうかわかりませんけど。

——ダ、ダマしてますかっ!?

高山 だって、ファンがすべてをわかってたら、金を出して見る価値はないでしょ。

——たしかに夢を売らないといけないわけですからね。

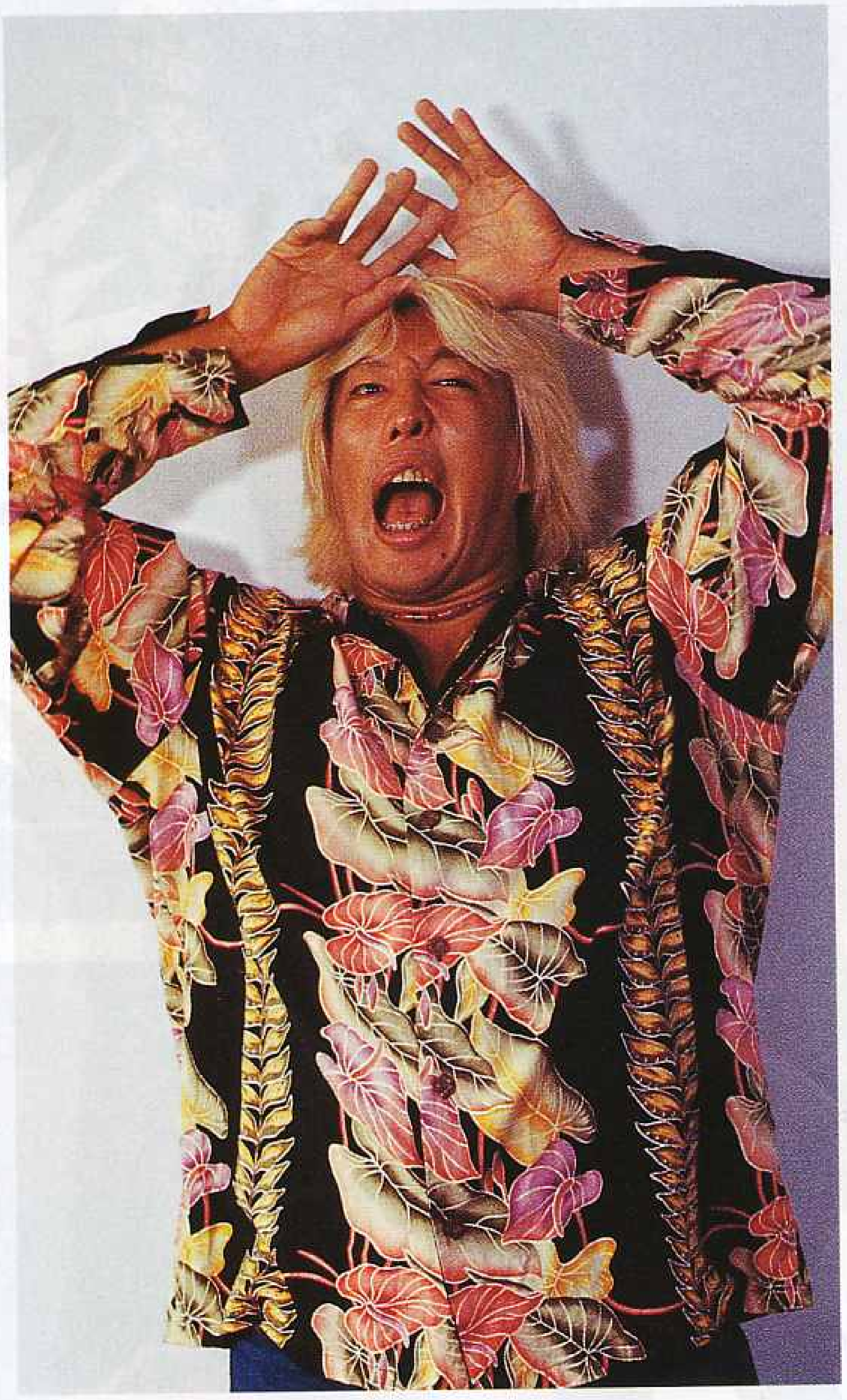
高山 夢も何もなくなったら、誰も見に来ませんよ。だから「Uはファンをダマしてた」なんて、あいつが言える言葉じゃないですよ。アイツが経験したのはUWFという歴史の中の最後のひとカケラでしかないんだから。そういう人間が、UWFのすべてを否定することは出来ないんじゃないですか？

——なるほど。じゃあ、最後の質問ですが、Uインターといえばいま桜庭さんの活躍は凄いですけど、こないだ『PRIDE』はご覧になりましたか？

高山 ええ、ビデオで見ました。会場には行けなかったんですけど。

——桜庭さんの試合はいかがでしたか？

高山 最後はキッチリ極めましたね。最後であんなにドラマチックにしちゃうんだから凄いですね。



——これから高山さんも負けずにドラマチックに、スキャンダラスに、ノアを変えていってください！

高山 スキャンダラスにね、これからバンバン事件を起こしますよ。

【00年9月6日、東京・ノア事務所にて収録】

インタビュー後記■高山は、その発言ひとつひとつから、キャリアに裏打ちされた強烈なプライドと自信を感じさせてくれる。天性の巨大な肉体、UWFで培った技術、新日との対抗戦で得たプロとしての見せ方、ゴールデンカップスで培ったズバ抜けたキャラ……そのすべてを高山曰く〝全日本的なもの〟にぶつけて、真っ正面から闘いを挑んでいるのだ。今後、高山がノアで何を表現して、どんな色で染めていくのだろうか？ 闘いはまだ始まったばかりだが、抜群に面白くなりそうな展開であることは間違いない。嫌でも視界に飛び込んでくるぐらいに高山はノアを舞台に大暴れするはずだ。

Profile

たかやま・よしひろ■昭和41年9月19日、東京都墨田区出身 。中学まで剣道を学び、高校そして大学とラグビー部で活躍した。大学時代には、ライフガードとしても体を鍛え、日本赤十字のライセンスも所持している。大学卒業後、一度はサラリーマンとして就職（サンケイスポーツ子会社の営業）するがプロレスラーになる夢を捨て切れずに脱サラを決意、91年11月にUWFインターナショナルの新人テストに合格し入門。92年6月28日、博多スターレーンでの金原弘光戦でデビュー。UWFインター、キングダム、全日本を経て、旗揚げよりノアに参戦している。スケールの大きさは、まさに和製キングコング。リング上同様、プライベートもこだわり派でドデカいアメ車を運転したり、ド派手なアロハシャツが似合ったりとプロレスラーっぽさは抜群だ。196センチ 、125キロ 。

9.15&9.16 ディファ有明大会 高山と秋山がチーム結成!!

9月15日——衝撃的な握手から約1ヶ月、高山と秋山が初めてリングでそろい踏み！ 金丸を従えて、小橋＆菊地＆力皇と対戦した。久々に闘いの最前線に戻ってきた菊地が奮闘！ 金丸からフォールを奪い小橋組が勝利を挙げる。しかも試合中、秋山と高山が同士討ちをしてしまったために不穏な空気が流れた。そして迎えた翌日。カードは秋山＆高山vs小橋＆菊地。険悪な雰囲気はなく、むしろ強固なチームワークで小橋組を追い込み、高山が菊地を落差2メートルの超絶原爆固めでフォール！ 試合後、リング上に登場した大森は、突然秋山と手を組んだ高山に詰め寄り、ノーフィアーは分裂危機をを迎える。だが、高山と秋山はともに大森に共闘するよう促した。ノアがますます混沌としてきたぞ！



いま川田利明がヤバい!!

何故この男は、ボロクソにコキおろされるのだろうか？

構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai
スーパーバイザー／吉田豪
supervise by Go Yoshida

10.9新日ドーム大会で
佐々木健介と一騎打ちが決定!!



それでも全日本プロレスの明日は、川田にかかっている!!

徹底検証・デンジャラスKの口から飛び出してきたボヤキ節の数々!!

いまの川田はヤバ過ぎる！　口を開けばボヤいてばかり。たまに舌戦などしようものなら、相手を怒らせずに呆れさせてしまう。どんなレスラーに聞いても、批判しか出てこない有り様だ。そんな調子で大丈夫なのか、川田！　と思っていたら、そんなデンジャラスKに首ったけな男がいた。その男とは？　『東スポ』で毎日川田の動向をチェック、そのコメントを欠かさず読んでは大笑いしている本誌スーパーバイザー・吉田豪！　この“プロレスマスコミの死神”をゾッコンにさせてしまう、川田利明という男を掘り下げて考えてみた。すると、なんとどんでもないことが判明した。さあ、全日や対抗戦に興味を持てないアナタも急いで川田を掘りまくれ！

たった1人で全日本を背負って立つはずのエースに逆風が吹きまくるなんて……何かがおかしい!!

なぜ川田は「狂ってる!」とまで言われるのか?

いまや押しも押されぬ全日本プロレスのエースとなった川田利明。その川田が、いまヤバい。いろんな意味で。

まずは、このページに掲載されている三沢や他団体のトップ選手や川田に縁の深い選手のコメントを読んで頂きたい。ご覧のように誰もがシュートな感情を叩きつけている。こうしてズラリと並べてみると、明らかに「川田は人間性に難アリ」という見方がなされていることが浮き彫りになってくる。

なんと!「川田=藤波」説急浮上!! これでコメントが10倍楽しめるハズ!!

「なぜ川田がそこまで言われなきゃならないんだ!? 川田は全日を守ってくれる最後の砦じゃないか!」そんな全日ファンの声が聞こえてきそうだ。じゃあ、川田自身はこの事態をどう捉えているのだろう?ということで、全日分裂以後の川田の発言を次ページでまとめてみたのだが……。

「ホントに全日を守る気があるのか?」と、全日ファンならずとも心配になってくるネガティブなボヤキの数々! 舌戦で飛び出すのは小学生顔負けの強烈なパンチライン! 揚げ句の果ては「全日のエースは天龍さんでいい」と、早くもやる気のなさをアピールしだす有り様! 批判されても、打てば響くどころか、打たれてヘコんでしまうのだから、今頃は対戦カード表を破った健介も困っているのではないだろうか? やはり、その姿勢には巨大な「?」マークを打たざるを得ない。もはや対抗戦を盛り下げるためのコメントにしか思えないのだが、川田はホントに大丈夫なのか? 両団体には一切直接取材できない本誌としては、他人事ながら心配でしょうがない。

だが、このコメントの数々を絶賛する男がいた! 本誌スーパーバイザー・吉田豪である。毎日『東スポ』を読むたびに川田のコメントを大笑いしながら読んでいるほどだ。吉田は、いまや完全なカワダ・ホリックス(川田中毒患者)である。一体、何がそんなに面白いというのだろうか!?

「最高じゃない!? なんかいつも暗い顔してボヤいてばっかりだし、必ず川田が希望したことは実現しないでしょ。つまり、川田は〝リアル藤波辰爾〟なんだよね(笑)。」

なるほど、川田=ドラゴンだったのか! これには目からウロコが落ちた。最近になってようやく笑えるようになってきたが、それまでプロレスファンは長い間ドラゴンの言動不一致にはヤキモキさせられっぱなしだったからなぁ。たしかに肩の力を抜けば、川田は相当楽しめる! 川田本人や川田周辺のリアルな発言の数々には、『東スポ』に目を通して毎日驚くドラゴンと同じリアリティを感じることが出来る。それは、ホントの意味での嫌われ者にしか醸し出せない、リアルな感情の発露かもしれない。

「ドラゴンと同じフィルターを通して見ると、健介との舌戦を見てると面白くてしょうがないもんね! 間違ったアメプロを見てるみたいで(笑)。アメプロよりリアリティあるし。なんだかわかんないけど怒ってる健介と、やる気なくボヤキ続ける川田の舌戦なんか小学生の口喧嘩を見てるみたいだもん(笑)。全日と新日の頂上対決でコレか!?って心配するより、笑っちゃった方がスッキリするでしょ。実際、かなり面白いし」

なるほど、ということは、今度の10・9は二代目・長州力とドラゴンの生き写しの一騎打ち……これはすなわち名勝負数え唄だったのか! とすると、全日=無我みたいなもので、いずれ新日の圧力で潰されてしまうのか!? 川田は、果たして自分の城を守ることが出来るのだろうか? とにかく、この一戦に至るまでの『東スポ』は毎日必読であろう。次号以降でも、引き続き「川田=藤波」問題は取り上げていく所存である。



高山善廣(ノア)

(川田の「興行のバランスが狂った」発言に対して)

力がないだけだろ。泣き言ばっか言うな!

「頭がおかしいんですよ」「あいつ狂ってると言われたぐらい、変わってましたね」

(『ダ・ビンチ』10月号)(メディアファクトリー)



物わかりのいい発言をしてほしくない。そんな川田は見たくない。

(タッグには反発していた川田が「勉強させてもらいます」と言い出したことに対して)



天龍源一郎(フリー)



三沢光晴(ノア)

俺は(ビザを)持ってましたけどあいつ(川田)は取れない状態で行かされて、見つかって強制送還で帰ってきたんですよ(笑)

(10.7より先行発売されるノア本『Thisis NOAH』(アミューズブックス)より。吉田豪もインタビュアーとして参加。必読!)



冬木弘道(FMW)

全日に上がるも上がらないも、俺は川田が大嫌いだから

(『プロレスの達人』No.22より)

他団体の選手によるエゲツない川田評はまだこんなもんじゃない!! 次号以降で引き続き掲載予定! 待っとけ!!

全日分裂以後、こんなに多くの爆弾発言が飛び出した!!

川田語録

何で（天龍と）タッグを組むのかと思った。それがこのシリーズ一番の失敗なんじゃない？

●7・23、全日本 日本武道館大会
天龍&川田組vsハンセン&モスマン（現・太陽ケア）戦後のコメント。天龍と闘いたかったのに組まされたのが不満だったようだが、この一言で新生・全日の初シリーズの感動的フィナーレを台無しに。ある意味、ラッシャー木村の「こんばんわ」とタメを張る歴史的失言と言えるだろう。

俺は（会社に）何も言わない。俺が言って通じるものなら言うけどな。

●7・23、全日本 日本武道館大会
引き続きマッチメイクの不満をネチネチ続ける川田。そういう体制が嫌でノア勢は独立したというのに、残った川田は不満タラタラというのも皮肉な話。だが、ある意味当然の結果とも言えるだろう。なぜ川田は全日本に残ったのか、いまだに謎は膨らみ続けるばかりである。

俺は全日本に残っただけでエースとかどうのこうの言われるのが嫌なんだよね。

天龍さんが戻ってきたら天龍さんがエースでいいじゃん。

●7・20 全日本 博多スターレーン大会
試合後「シリーズを通して全日本への愛情は深まったか？」という質問に対して。「いいじゃん」って、普通に考えればいいわけない。だが、ファンや関係者の過剰な期待は川田にとって重荷でしかないようだ。この無責任さが「トップに立てない男」と言われてしまう由縁なのかもしれない。

長州さんはすごいよ！長州さんはすごいよ！

プロレスとお笑いは似ている。

●9・7放送の『シムケンX』でのコメント
「だってお笑いは三段落ちで、プロレスは三段目で落とさないんですよ」などなど、ツッコミを期待したかのような無防備な発言。ひょっとすると、お笑い好きな川田のボケなのか？ また、同番組内で「（全日分裂は）正直おいしいと思った」と発言。単なる強がりなのか、はたまた心底目立ちたがり屋なのか？

●ゴング826号より。
同誌825号の長州インタビュー（その中で長州は「川田のコメントは新聞とか見る限り面白くも何ともない」と一刀両断するなど、川田にはかなり批判的）を熱心に読んで一言。その後、週プロ996号では「最後は長州さんか。長州さんとはやりたいよな」と対戦を希望。だが、これでは川田が忌み嫌う大仁田の後追いになりはしないのか？

彼を全日本に上げたら全日本らしくなくなる。

●大仁田の全日復帰に関してのコメント。しかし、インディのレスラーを寄せ集めて大会をやらざるを得ない現在の全日本の「全日本らしさ」とは一体何なのか、と非常に考えさせられる迷言。っていうか、本心の部分では大仁田が来ると目立てないから嫌なんじゃないのか？と邪推したくもなる。

G1で優勝した健介選手は素晴らしい選手だと思う。

●8・22付『東京スポーツ』
健介の対戦要求を受けて。「毎年見てる」というG1をしきりと褒めていたが、褒めれば褒めるほど虚しく感じられるのは気のせいだろうか？ それにしても、健介はG1で優勝したから素晴らしい選手なのか、素晴らしい選手だから優勝したのか？ 「ニワトリが先か、タマゴが先か？」と同じで答えは永久に出そうにない。

新日本のトップとやりたい気持ちが固まりました。

●9・2、全日本プロレス日本武道館大会
メイン後のリング上で。これだけブチ上げておきながら直後の控え室では「試合が激しくて頭がボーっとしていたから覚えてない」と大事なところでオトボケ発言。これには健介だけじゃなく、川田を応援しようと思ってたファンまでも気が萎えた。

カウント2・9の世界から卒業して、「痛みの伝わるプロレス」をしたい。

●7・1、新生全日本の開幕戦となったディファ有明大会
vs渕戦勝利後のコメント。「三沢が確立したプロレスを変えたい」という意気込みかもしれないが、その三沢は本誌29号で「2・9プロレスの方が全然痛みが伝わってますよ」と反論。分裂前の全日ファンの大多数は三沢の発言に頷くことだろう。

ハッキリ言って実績でいえば俺が上。

●9・9付『東京スポーツ』
本人は否定しているものの、健介がジャパンプロレスの新人だった時に5戦5勝（シングル2勝・タッグ3勝）していることからの自信からくる発言だろうが……。いまの時点でこの2人にどれくらいの違いがあるのだろうか？ ズバリ言って誰にもわかりません。

レボリューションってものをあの人に返したい。

●7・2、全日本、後楽園大会
天龍が10年ぶりに全日本のリングに上がった日のコメント。この日わざわざレボリューションのジャージを持ってきていて返そうとしていたが、天龍が帰ってしまったため渡せずじまい。しかも天龍は既にWARのチャリティで売っぱらっているというから、つくづくタイミングが悪い。

構成／武内理恵、坂井ノブ
text by Rie Takeuchi & Nobu Sakai

俺が負けたら全日がただのインディに成り下がる。勝算のない闘いはやらない。

●9・9付『東京スポーツ』
この日の川田は健介に対してかなり挑発的。新日流の口撃をしようとするも、どこか説得力に欠けるのは気のせいか？ この発言が何よりも、最近の全日が既にインディの寄せ集めになっているということを認めているような気がしてならない。

誰もやってなかったからやっただけで、蹴りなんて俺にとって大切じゃない。

●『週刊プロレス』996号
そうは言っても約10年間レガースをつけて、蹴りを多用している川田。特に顔面の蹴りにはこだわりを持っていたようだが？ いまさら自分のスタイルを全面否定しどうしようというのか？

試合でもないのに手が汚れるからやらない。

●9月14日付『東京スポーツ』
健介の「ウチの闘いを見に来て顔の一つも張ってみろ」という健介の挑発に対して、小学生の口ゲンカのようなコメント。これをクールと呼ばずに何と呼ぶ？ ネガティブ&脱力なコメントを吐かせたら天下一品であることを改めて証明してみせた。

今から闘いのモードに入ったら疲れるよ

●週刊ゴング834号
健介が「"ドップ"じゃなくて俺の名前を出してみろ！」という発言に対しての反論がコレ。この健介の発言や対戦表を破り捨てた映像を見るにつけ、健介というレスラーは力強いレスラーと改めて実感。精一杯盛り上げようとしてズッコける健介と、冷水をブッかける川田、噛み合わない2人が10・9にどういう試合を見せてくれるのか!?

線路があって、俺なんかレールを変えて曲がっていってもまた元のレールに戻ってこれる。でも一旦脱線した電車は元のレールには戻らない。

●'00・7・13 全日本プロレス松山大会
このコメントに対して三沢は「進路変えたのが俺らで、脱線したのがお前らじゃん！ ねえ？ アホだなぁ。相変わらず頭使って考えてねえな」（『smart』掲載・聞き手は吉田豪）と鼻で笑っている。どっちが脱線したかは今後の結果いかんであろう。

やってることはまったく違うよ！ まったく違う。それはそういうのをやってきた人に失礼。

（「川田選手は全日本の中でもUとか新日本に近い匂いがあった」という問いかけに対して）

●『週刊プロレス』996号
では、川田のキックや関節技は一体何なのか？ この論理だと、川田はここ10年間ずっと失礼なことをやり続けてきたことになるわけだが……。「俺の蹴りはK－1じゃ当たらん！ プロレスのリングだから当たるんだ！」と豪語していた全盛期の破壊王のような論理に川田幻想が一気に爆発した。

俺、エリートのヤツが嫌いだから。エリートには先に技を覚えさせられるんだよ。馬場さんなりいろんな人に。俺はそういうことやってこなかった。

●週プロ996号インタビュー
デビュー以来百連敗している川田。しかし、このコメントは「偉い人が技を教えてくれなかったから俺はこうなったんだ」とでも言いたげ。どう聞いてもひがみにしか聞こえてこないが、「あのいじけた性格こそが川田をあそこまでにさせた」と馳浩先生が言っているのだから、きっとそうなのだろう。納得！

お客さんが最後まで見て楽しめるのがプロレス。そういった意味で言うと今日の試合はバランスが悪かった。

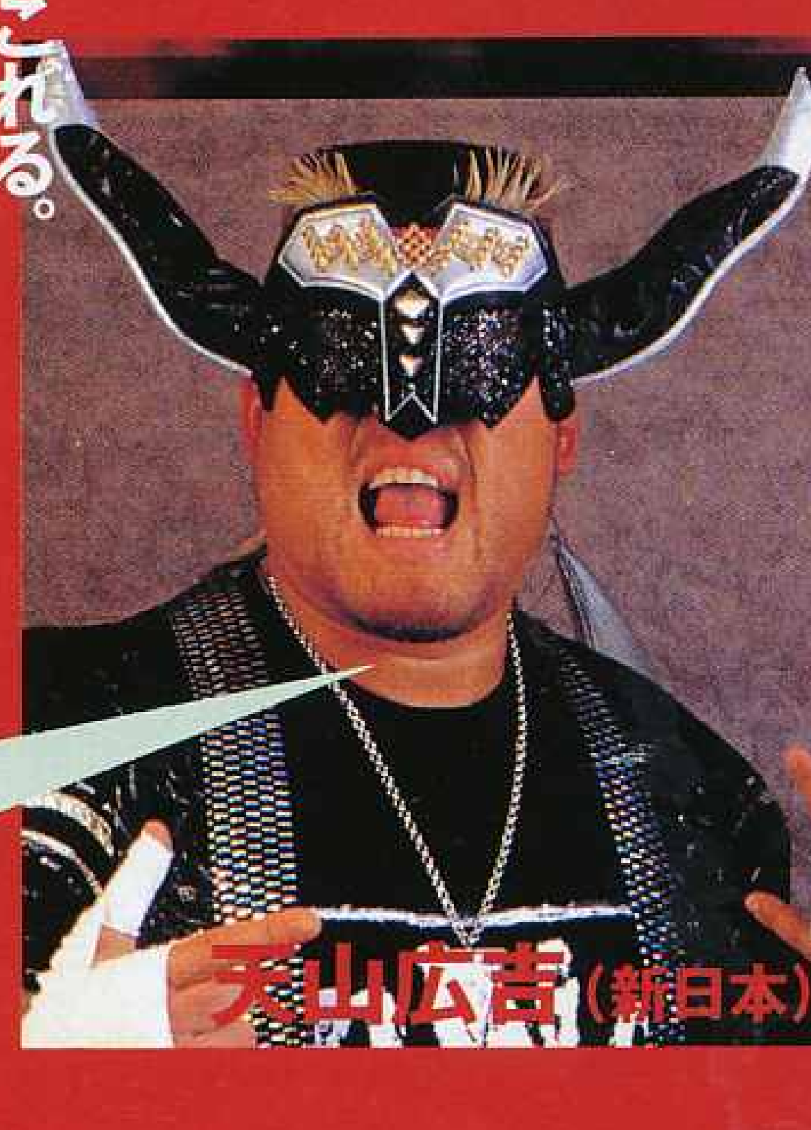
●7月13日分裂後、初めて全日本にノア勢が参加した松山大会後のコメント
これに対して三沢は「自分たちが負けたって言っているようなもの」、ノーフィアーも「興行のバランスじゃねーんだよ。面白い試合は盛り上がる。つまんねー試合は盛り下がる」と反撃。川田、墓穴を掘ったか？

イヤならいらない。

●9月14日付『東京スポーツ』
「俺が全日本を背負っているんだから健介はIWGPのベルトをかけろ」と言ったものの、拒否されてしまい、こうコメント。「いらないなら言うな」という気もしないでもないが、川田相手の舌戦はかくも難しいのだと改めて実感。


佐々木健介（新日本）

何で俺が煮え切らない奴とやらなきゃいけないんだ？
何だ、このカードは？
ふざけんじゃねぇ、
バカ野郎！


天山広吉（新日本）

「（川田は）辛気くさいっていうか、あまり顔を見たくない」
「ノア勢の方とは闘いたいが、川田は眼中にない」
（『ファイト』7月27日号より）

バト分裂!?　大量離脱!?　それとも再団結!?

バトラーツにいったい何が起こったのか!?

島田裕二（バトラーツプロデューサー）が不穏な噂を一刀両断!!



いまバトラーツがヤバイ！　ヤバイと言ってもいい意味ばかりではない。元気が一番の売りのバトラーツに、いま不穏な噂が流れまくっているのだ。「バト分裂？」「金銭の流れ不明瞭疑惑？」「団体内部の不協和音？」「観客動員激減？」等々、真偽のほどは定かではないが、水面下で何かが起こっているのは間違いない。

　そして9・7後楽園大会では、人事刷新＆田中稔のフリー宣言が発表された。風雲急をつげるバトラーツのカギを握る男・島田裕二を直撃!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／チョロ
text by Choro
撮影／丸山剛史
photographs by Takeshi Maruyama
試合写真／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

What's happened with BATTLARTS?

不穏な噂？　ンムフフフフ。どうってことねえよ！byアントンってことですよ

――さて、今回発表された新人事で「プロデューサー」という、実にインチキ臭い肩書きになった、島田裕二さんをお迎えしてます。

島田　（必要以上に勢いよく）アディオス！　カモ～ン！

――先日、「俺たちはプロレスラーなんだ。雑用をやるために入ってきたんじゃない」という名言を残して、藤田穣選手と愚乱浪花選手がみちのくプロレスから退団しましたよね。この件については感じることあります？

島田　まあ、サスケ社長の気持ちもわかりますねぇ、は～い（しみじみ）。

――ひと言（笑）。ノアの三沢社長が「自由」をテーマにするって言ってましたけど、この「自由とは何か？」という問題は非常に影を落としてますね、いま。

島田　だから、いまの若い選手の「自由」って責任感無くしちゃうってことなんですよね。責任を最後まで遂行してこそ本当の意味での「自由」を獲得できる部分ってあると思うんですよ。マルコ・ポーロのように！

――なぜマルコ・ポーロが出てくる（笑）。それから、田中稔選手が10月1日を最後にフリーになることも発表されましたよね。

島田　それについては、また次号の続きで衝撃の全真相を告白！

――やらねえよ！　しかも誰が続きがあるって言った（笑）。

島田　まあ、田中選手には、大きな船に乗って、どんどん自分の道を突き進めと。「格闘ロマンを突き進めーッ！」byアントン。これしかないですね。

――みちプロも5年目ぐらいに分裂騒動があったけど、バトも来年は5周年でしょ？

島田　（必要以上に驚いて）来ましたね！

――いま、ネットやファンの噂レベルで、いろんな話が飛び交ってますよね。内部の不協和音も伝わってきてるし。

島田　それも「ンムフフフフ。どうってことねえよ！」byアントンってことですよ。やっぱり猪木イズムですよ、僕と社長（石川雄規）は。でも今回は、フロントサイドと選手が思っていることに、だいぶ食い違いがあったのは事実ですね、は～い。みちのくの件じゃないですけど、選手は「純粋にリングで試合に集中したい」と思ってる。そのためのいい環境を作ってほしい」と思ってる。いろいろ言いたいことはあるけど、誰に言っていいかわかんないっていうジレンマがあったんでしょうね。でも、今回は僕もいろいろ言われましたし、（アレクサンダー）大塚とかが、全て汲み取ってくれて、（モハメド）ヨネたちと中心になって選手会を作ったんですよ。

――は？　それまではなかったの？

島田　昔はあったんですけど、ここ2年ぐらいなかったんですよ～、は～い。

――なぜだ！　しかも「ここ2年ぐらい」ってなんだよ（笑）。

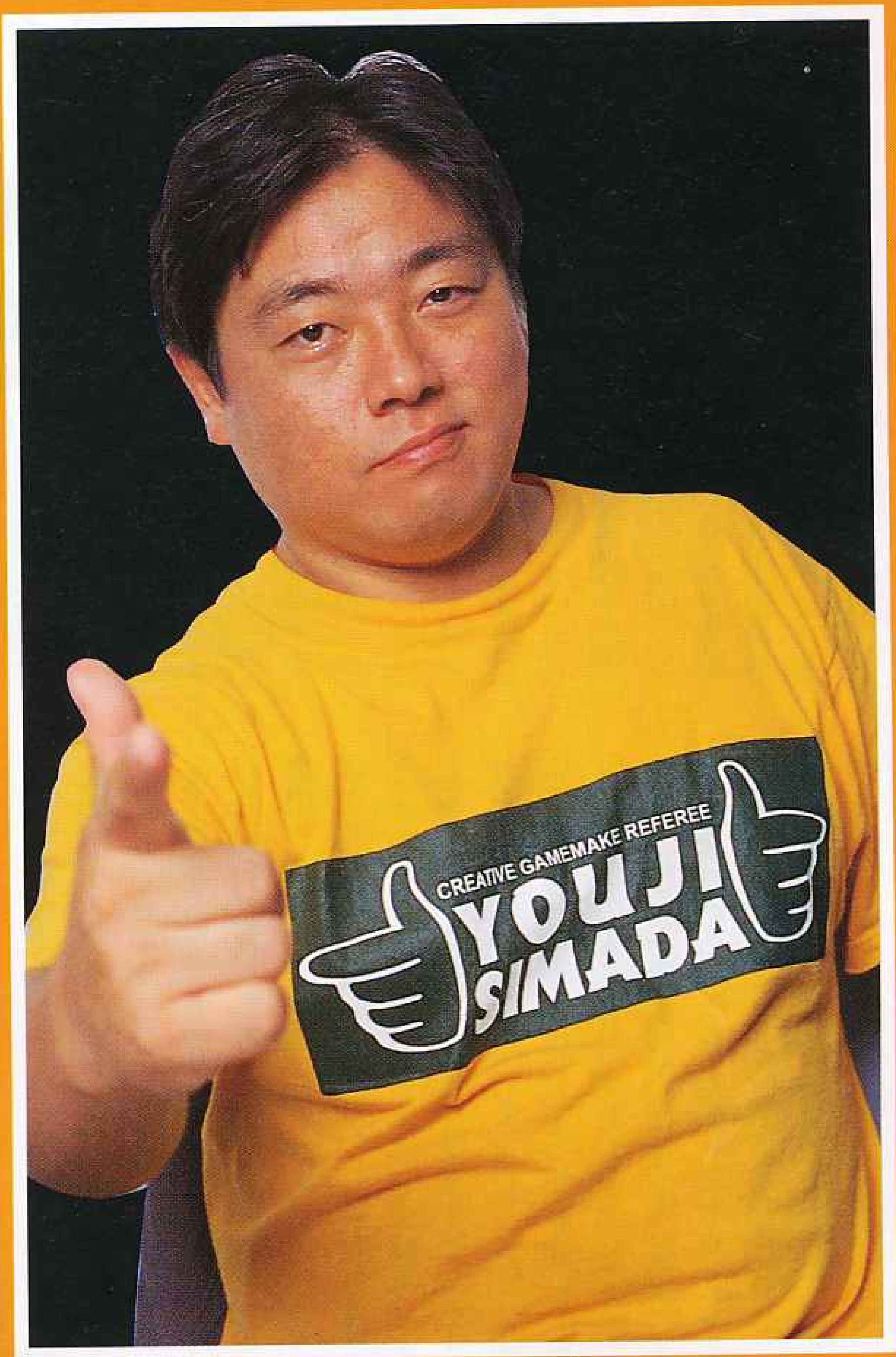
島田　いやいや、あったんですけど、なくなっちゃったんですよ。それで今回新たにまた選手会を作り直して、選手の待遇を含め、より良い改善をするために、選手会レベルでまず話をさせて、それから会社と話し合うっていう形になりました。こっちとしては「どうぞバンバンやってください。むしろそういうことを待ってたよ」っていう感じですよね。

――自発的にそういう声が上がってくるのを待ってたということ？

島田　そうですね。だから敢えて俺と社長は泥を被って悪い方向に持っていくという……悪い方向に持っていくというのは、ちょっと言い方おかしいですけど。

――悪者にされても構わない？

島田　ウマイっ！　さすが編集長！　やっぱり、プロレスラーはリング上で輝いてナンボですから。最終的には、言葉は悪いけど目立ったもん勝ちじゃないですか。どうフライングしていくかですよ。自分をどう目立たせるか。バトラーツというデパートの中にみんなそれぞれテナントを持ってるわけですから。端っこにいるのは嫌だから真ん中に店舗を移してほしいとか、8階に移してほしいとか、人通りのいいところにしてほしいとか、いろいろ要求はあると思うんですよ。その要求を通すためには、選手の方が自発的に考えるこ



トークショーの鬼！ “YOUJI SIMADA” オリジナルTシャツ（S&L）はバトラーツ会場、ロックウエストで絶賛発売中です、は～い。

僕の野望は社長と一緒で「対世間」！プロレスのゴールデンタイム復活ですよ！

とが大事だと思いますよね。

——人通りのいいところにテナントを移すには、デパート側から「どうぞ、こっちに移ってください」と言われるくらいのプランがあったり、実績を上げなきゃいけないですよね。

島田 そういうことですよ〜。さすが編集長っ！　要求を通すためには我慢しなきゃいけないこともある。で、その我慢できないことがあったら、それをやらないでいいように変えるにはどうしたらいいかを考えてほしいですよね。でも、嫌なことをやらされるから「辞める」っていうんじゃサラリーマンと変わらないですよ。プロレスラーはサラリーマンじゃないし、実力の世界なんだから、溜め込んだ情念をリング上で爆発させてほしいですよね、は〜い。

——両国大会（98年11月）以降、バトラーツが変わったっていう意見は多いですよね。

島田 まあ、やっぱり両国が成功してホッとした部分があるんじゃないですかね。でも僕はまだまだ満足していませんから。サスケ対石川で、夢の東京ドーム対決！　いずれやりたいんですよ、むしろここ何カ月の間に。

——そういうお手軽な発言が選手の反発くらってる原因なんじゃないの？（笑）。

島田 いやいや、なんでも最初からダメだと思うとできないじゃないですか。両国も「入らないんじゃないか？」と選手にも言われましたけど、結局入って、会社で利益も得たわけだから。

——両国は興行的には成功しましたからね。

島田 社長は「俺様にボーナスが出ないことがおかしい」って言ってますから（笑）。でもそれから、周りでいろんなことが起きましたからね。バトラーツも、航海していく間に、両国というちょっとした島に寄って、そこで女も酒も覚えてしまって「ワァオ！」という時期があったんでしょうね。航海するのを忘れてしまった。「あの女よかったなあ」とかいつまでも言ってるから、なかなか次の目的地に辿り着けない。でもいまは、また新しいテーマが出てきて「あの楽しそうなキャバクラに行こう」っていう状態ですよ。

——わかった！　そういう例え方が選手間から誤解を招くんだ（笑）。

島田 押忍！（敬礼）。

——去年の夏、アレクが海外修行から戻ってきて会社批判をしたけど、その時点から、いろいろと火種はあったわけ？

島田 いや、全然ないですよ。ウチのフロントは最高にいい仕事しますから。僕と加藤さんと中川さんと、あとパンチ（田原）。

——読者にはわからないだろ、加藤さんや中川さんって言ったって（笑）。

島田 今回、初めて選手会からいろいろ要望があったんでね。それまではマスコミを通じて聞かないとわかんないという。

——『東スポ』見て「こんな事になってるのか」と驚く藤波社長じゃないんだから（笑）。

島田 むしろ、これまでは選手間でどんな話をしているか、何をしたいのかがわからなかったんですよ。そうなると、僕と社長が走ってやってくしかないですよね、経営っていう部分では。でも、いまはもうノー問題！　アレクが中心になって選手の意見をまとめてくれてますから。もの凄く良くなりましたよ。

——でもぶっちゃけた話、島田裕二もフリーになった方が全然お金は稼げると思うんだよね。行動範囲だけは異常に広いから（笑）。でもフリーにならずにバトラーツにいる理由は何なんですか？

島田 それはもう石川雄規が好きだからですよ！　そしてバトラーツが好きだから！　あとフロントの人間を雇った以上責任あるじゃないですか。加藤さんや中川さんね。あっ、あと野口とオークもね。ウチの優秀なフロント陣も含めて、みんなにいい生活をさせなきゃっていう責任感もあるし、何かあったからって投げ出せないですよね。

——ネットでは、「石川社長がサイドビジネスをやってる」「島田裕二がギャラを払わずに使い込んでる」とか、いろいろと書かれてるじゃないですか？

島田 ギャラなんかバンバン払ってますよ！　社長も、そんなことしてる暇ないですよ。

——じゃあネットに書かれてる話はどれくらいの割合で合ってるの？

島田 全部嘘ですね。事実無根！　ギャラを払ってなければ、そう言われるのも当然だけど、ちゃんと払ってるわけですから。まあ、入って来るはずの入金が遅くて、ちょっと遅れたことはありますけど、払ってないということはないですから。今後もそういうことを言う奴がいるなら、俺のトークショーに来い！　そこで面と向かって俺様に質問しろ！

——なぜそこでトークショーが出てくる（笑）。じゃあ、石川社長のサイドビジネスについては？　アントンハイセルのようにバトラーツの金が流出してるとか（笑）。

島田 それも全然ないですよ。だって、社長とか僕が個人的に使える金なんかあるわけないし、ウチの経理の先生はメチャクチャ厳しいんですから。

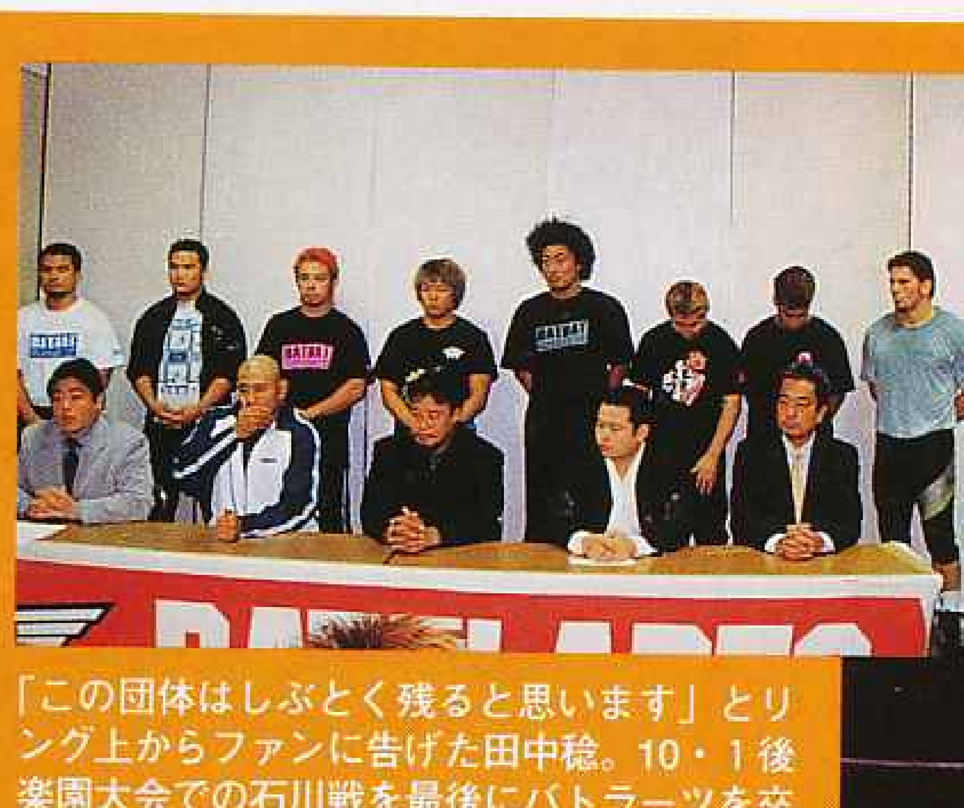
——じゃあ、そういう噂って何が原因なの？

島田 妬みとかじゃないですかね。やっぱり一部のファンは、バトラーツっていうちっちゃな団体を応援する分には良かったけど、「両国でやった」「今度は寮の経営を始めた」「B−CLUBも人が集まり始めてる」とかなると面白くないんじゃないですかね。

——一部のファンにとっては、バトが"たま

ショーン、大ちゃんに続き、田中稔がバトを卒業！

9・7後楽園大会試合前の午後5時より、格闘探偵団バトラーツの記者会見が開かれ、田中稔退団発表及び新人事の発表を行った。まず始めに、船木勝一、池田大輔に続き3人目となる田中稔のバトラーツ卒業が発表された。その後、会見には契約を更新した10選手と、新たに取締役プロデューサーに就任した島田裕二、取締役統括部長・田原博士、取締役&監査役・遠藤政文が出席。さらに選手会会長にアレクサンダー大塚、選手会アドバイザーとして小坪弘良が任命された。併せて11月26日、東京・駒沢オリンピック公園体育館で秋のビッグマッチ開催が発表された。





「この団体はしぶとく残ると思います」とリング上からファンに告げた田中稔。10・1後楽園大会での石川戦を最後にバトラーツを卒業、今後はフリーとして新日本を中心に新たな格闘ロマンを追求することとなった。

バト激震 PART 1

田中稔 退団 &人事刷新

What's happened with BATTLARTS?



プロデューサーの貫禄を漂わせ、言葉を選びながらもバトラーツの希望、そして自身の夢を語るユージ・シマダ。双子（浩岐＆沙綾）の父でもある。

ごっち"じゃなくなるのが嫌なわけだ。

島田　「バトには、いつまでもインディーのまま、マイナーでいてほしい」っていうね。

――ズバリ言って、そういうファンは切るべきですね（笑）。

島田　だから、今回はいい意味でリセットになるかなぁと。だんだんファン層も変わって来てますし。この間の9・7の後楽園大会は、いままでのファンがだいぶいなくなっちゃってましたから、は～い（笑）。

――バトの後楽園大会史上、最低の入りだったからね。

島田　でもこっから巻き返しますよぉ！　俺もプロデューサーに就任した以上は遠慮なくやらせてもらいますよ。いままでは広報という立場だから、おたくのチョロとかにも「島田！」って呼び捨てにされたり、スモーノブに「どすこ～い！」って殴られても、「すいませ～ん、ウチの記事書いてください。お願いしま～す」とかペコペコしてましたけど、今度は逆に変な記事書いたら殴りますよぉ。

――どうぞ。ウチの奴らでいいんだったら、いつでも死ぬほど殴ってください（笑）。でも、バトラーツは、ジム制度を始める、他団体には討って出る、他流試合でも実績を残す、地方でもプロレスを初めて見た人に衝撃を与える熱い闘いをやる。そういった業界の核になりえる新しい可能性を見せてきた。それが両国を1回やっただけで失速しちゃうんだったら、今後なにをやるのって話でしょ？（笑）。ブラジルに弾丸鉄道を横断させるとか、そのくらいのスケールで行ってほしいなぁ（笑）。

島田　ん～、やっぱり両国があまりにも早い期間で成功したのも良くなかったかもしれませんね。僕も、このままいけるんじゃないかなっていう思いは少なからずあったんで。いつまでもチャレンジャー！　いつまでも20代！　そして、いつまでも青春！　そういうのを忘れかけてましたね。ちょっとフカフカした椅子に座っちゃってましたねぇ、は～い。

――氷風呂にでも入ったほうがいいよ（笑）。

島田　地道な営業活動を忘れてましたよね。いまは頭下げて、この間も真狩村っていう細川たかしさんの産まれた町の"ほくほく祭り"にアレクとふたりで出て、「ど～も～」ってトークショーやってきましたから。そうやって少しでも、世間にプロレスとかプロレスラーの存在を伝えていきたいなと思ってますから。それで、僕の野望はやっぱり社長と一緒で「対世間」！　プロレスのゴールデンタイム復活ですよ！　ビッグスポンサーを付けてテレビ放映！　しかも金曜夜8時！

――あれだけ見てるほうに"熱"があったバトに"熱"がなくなったのは、俺の個人的な意見としては、やっぱり"女子プロ化"が一番大きいと思う。その選手のカラーに添った紙テープが飛び始めた頃から、「特定のファンが喜べばいい」という空気が出てきはじめたような気がするんですよ。固定ファンを大事にしすぎてると思いますね。

島田　そうなんですよ。初期の頃はまだ名前も売れてないし、試合するのが楽しかったわけですよ。でもだんだん「いい試合をやること」が最大の目標になってきましたよね。

――いい試合というか、完成された試合ですよね。

島田　やっぱプロレスラーである以上、強くていい試合っていうのは当たり前ですから。それプラス"凄み"を見せなきゃダメですよね。そういう意味では社長も、まだまだそれを伝え切れてなかったんじゃないかなと思いますね、は～い。

――『PRIDE』で、アレクがマルコ・ファスに勝っても、バトになかなか還元されなかったりもしますよね。それは試合スタイル云々じゃなく、『PRIDE』の客席にある"熱"を、バトの客席に生めないというか。

島田　う～ん……だから来年は鎖国ですね！

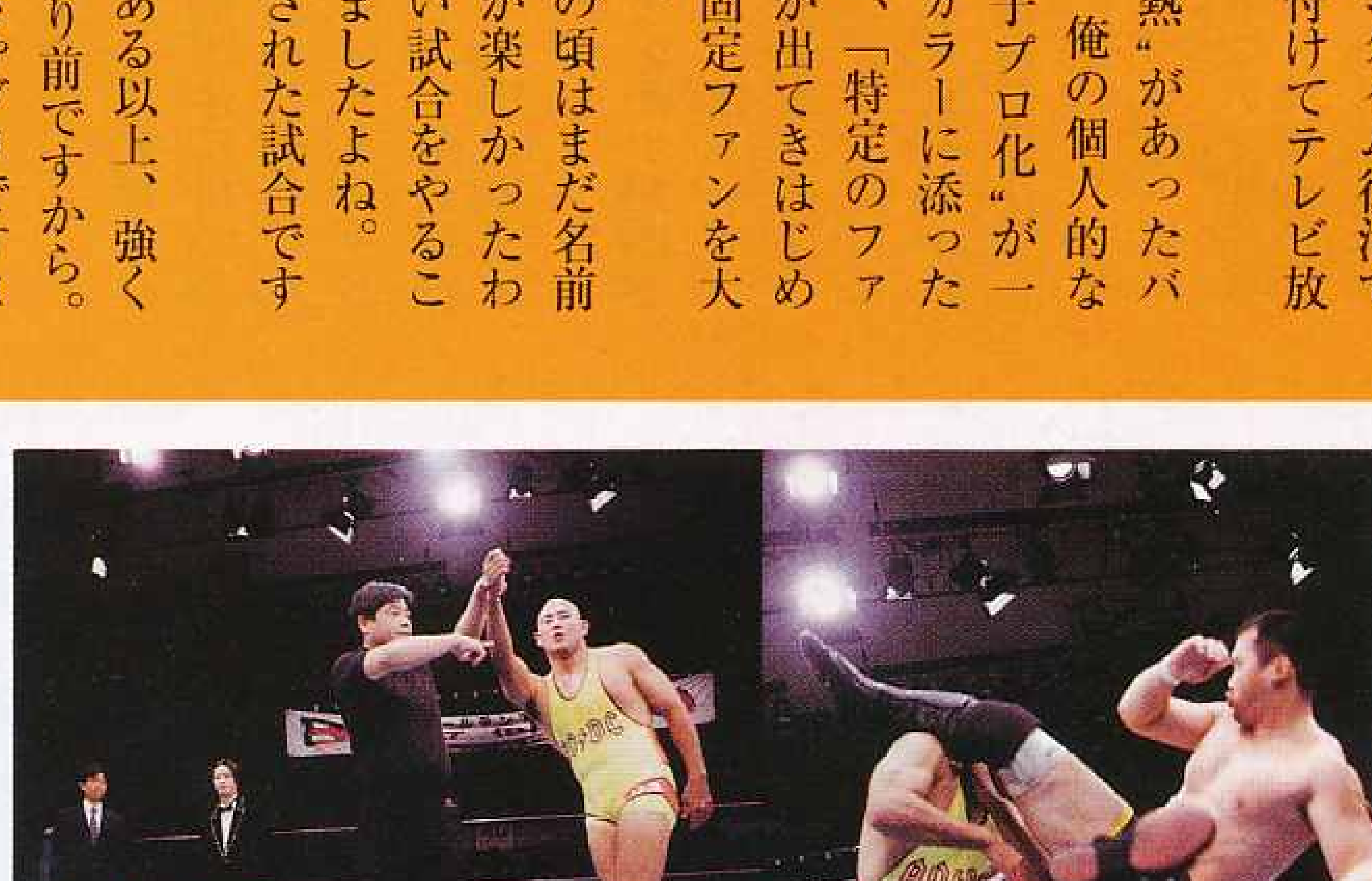
――は？　鎖国しちゃうの？（笑）。

島田　いやいや、鎖国というよりは、もっと世間に討って出る作戦が他にもいっぱいある

バト激震 PART 2
ヤンジェネは選手会長アレクが優勝！

頭打ちすぎたかアレク、ふたたび！ 混戦を制す!!

毎年恒例、バトラーツ真夏の風物詩ヤングジェネレーションバトル。2000年の台風の目となったのは初参加となる長井満也とラスタマンであった。夏はまかせろとばかりにラスタマンは序盤戦を怒涛の勢いで勝ち抜いたが後半戦で無念の失速。来年に期待！　一方の長井は黒星ゼロというブッチギリでの決勝トーナメント進出となった。その、けた外れの勢いとアレクの記憶もろとも吹っ飛ばしたパワーボムで、ヤンジェネ史上初のフリー選手の優勝なるかと思われたが、最後は、選手会長に就任したアレクの執念のヒザ十字が極まり、アレクが2度目の優勝を果たした。



完全に意識が飛んだ状態で勝利者コールを聞くアレク（写真上）。これでアレクは2度目のヤンジェネ制覇となった。惜しくも決勝で敗れはしたが、破壊力満点のキックで今年のヤンジェネを席巻した長井満也（写真右）。

んじゃないかと思って。だから社長といつも話をしているのは、プロレスを知ってる人が全人口のうち1割だとしたら、知らない人は9割いる。その9割を「プロレス好き」にさせていく方が、"熱"を生むと思うんですよ。好きな人だけに「カッコイイ」とか「サイコー!」って言われるよりもね。だから一般誌とかテレビとかにバンバン出て、とにかく俺様自らもやりますよ、トークショーとか。対世間に向けてアピールしまくりますよ!

——あんたの対世間はトークショーか(笑)。

島田 いやいや。まあ今回、選手会が出来た以上は、僕も選手会にもガンガン言って、もうホントに"凄み"の出せない、プラスアルファの出せないレスラーは試合には使わないと、それぐらいの気持ちで行きますよ。僕も彼らにナイフを突きつけられた以上、彼らに僕もナイフを突きつけないと。

——そしてお互い斬り合うと(笑)。

島田 は~い(笑)。闘いますよ、内部でも。でも、話は変わりますけど、今回俺は社長に言ったんですよ。「社長がちゃんとしないんなら俺も辞める。カリスマ性のない社長には付いていけない」って。それで、最終的には社長は「俺に付いてこい!」って力強く言ってくれましたからね。

バトラーツは11月の『格闘ロマン』をキッカケに格闘スタイルに戻ります!

——いい話だ。

島田 は~い。やっぱり命預けるか預けないかじゃないですか。僕は好きで社長に付いて行ってるわけですから。やっぱり選手にもそういう気持ちがなければダメですよ。まあ今回は社長も随分悩んでましたから、これからやっと社長らしくなるんじゃないですかね。

——もう5年目だよ(笑)。

島田 いやいや、そんなもんですよ。は~い。

——そんな中、11月26日にビッグマッチをブッ放すそうですが、今回は何がテーマですか。

島田 今回は"世界対バトラーツ"ですよ。

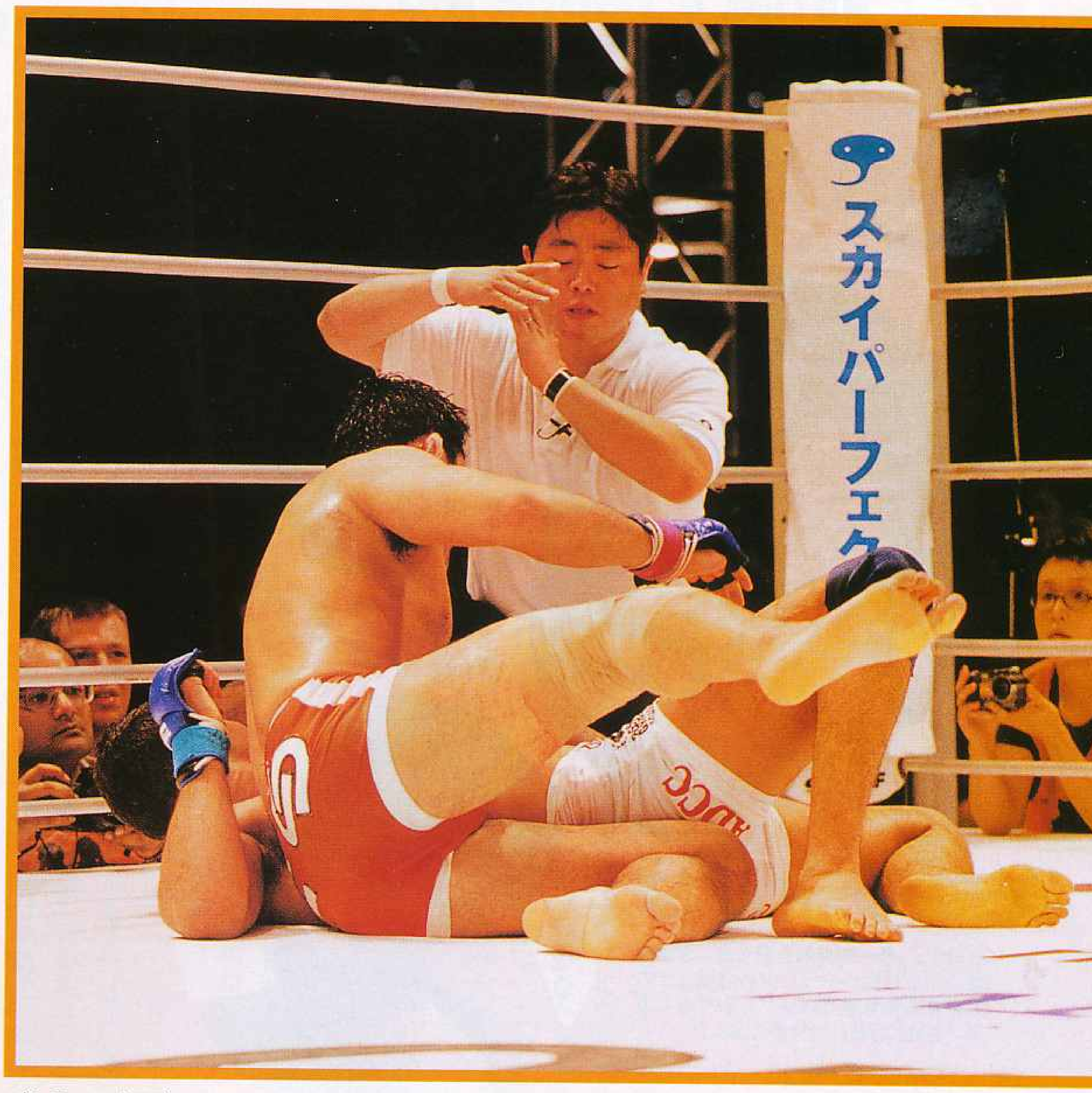
——実に漠然としてますね(笑)。

島田 いやいや。最近はアレクも『PRIDE』で負けが続いてるし、「他団体に出てもなかなか上に行けない」とか思われがちなんで、ここはバシッと世界の格闘ファイターと一戦を交えてみたらどうかなと。会場は駒沢オリンピック競技場ですから。オリンピックといえば今年はオリンピックイヤー! もう完璧にオリンピックオリンピックオリンピックでオリンピック繋がりですよ、は~い。

——ガハハハ! わけわかりません(笑)。

島田 大会名も『格闘オリンピック』にしようかなって思ってたんですけど、タイトル付ける2時間前に「格闘ロマンを突き進め!」っていう猪木さんの言葉が耳に響いて、リリースを打つ時に『格闘ロマン』って打っちゃいました(笑)。『紙プロ』でも次号で思いきり発表してやりますよ。

——誰が発表していいって言った(笑)。いまは、試合スタイル的にはバトはゴッタ煮空間なんだけど、これからは何が柱になってい

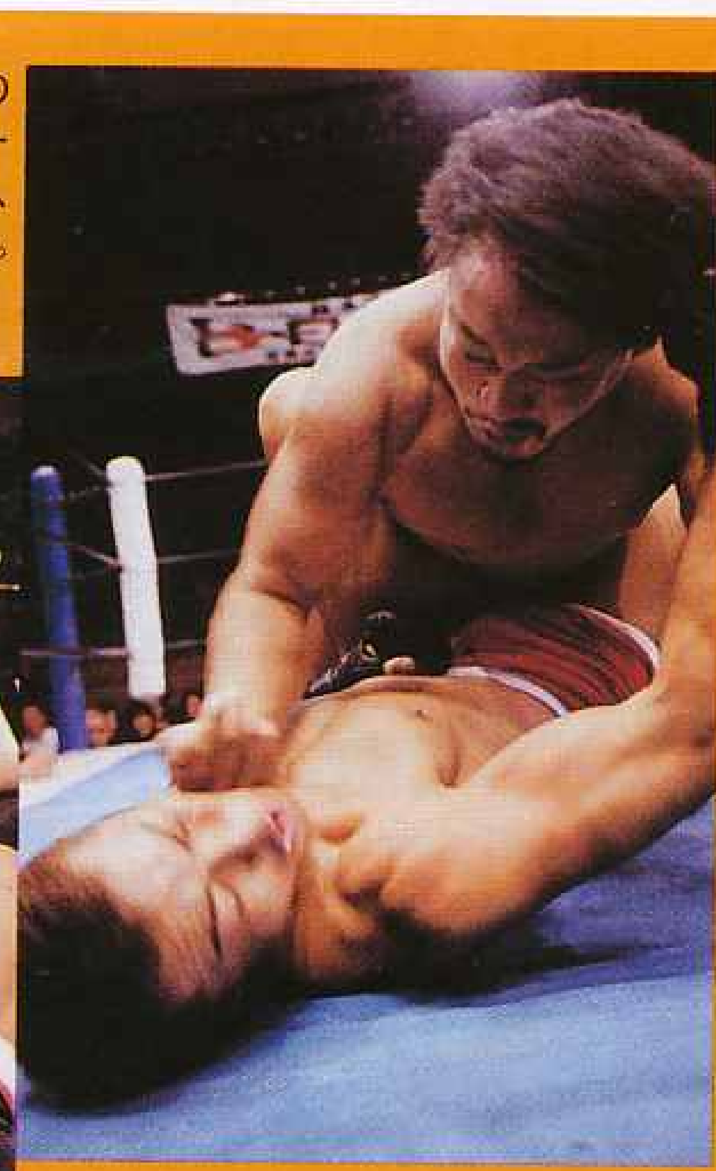


バトラーツプロデューサー兼レフェリーをこなす男、島田裕二。『PRIDE』、K-1、掣圏道、そしてもちろんバトラーツ(&各自調査)裁いた試合は数知れず! 平成の名勝負はこの男に任せた! ドゥー・ジャッジ!

初期バトを彷彿とさせるケンカ格闘プロレス復活!!

9・7後楽園のセミ・ファイナルで行われた石川雄規&カール・マレンコvs村上一成&平直行は、ズバリ言ってこの日のベストバウト! 『PRIDE. 10』以来の試合となった村上だが、KO負けのショックも感じさせぬ程に全身から殺気を漲らせて登場。その殺気が欠場明けの石川の情念に引火して、2人は試合そっちのけでひたすら殴り合い、また、平もカールもハンパじゃない格闘技術を繰り出しながら魅せまくっていた。やはりバトラーツの生きる道はケンカ格闘プロレスしかない、と改めて実感! いまのバトラーツには団結よりも殺伐とした危険な空気こそが必要なのだ。



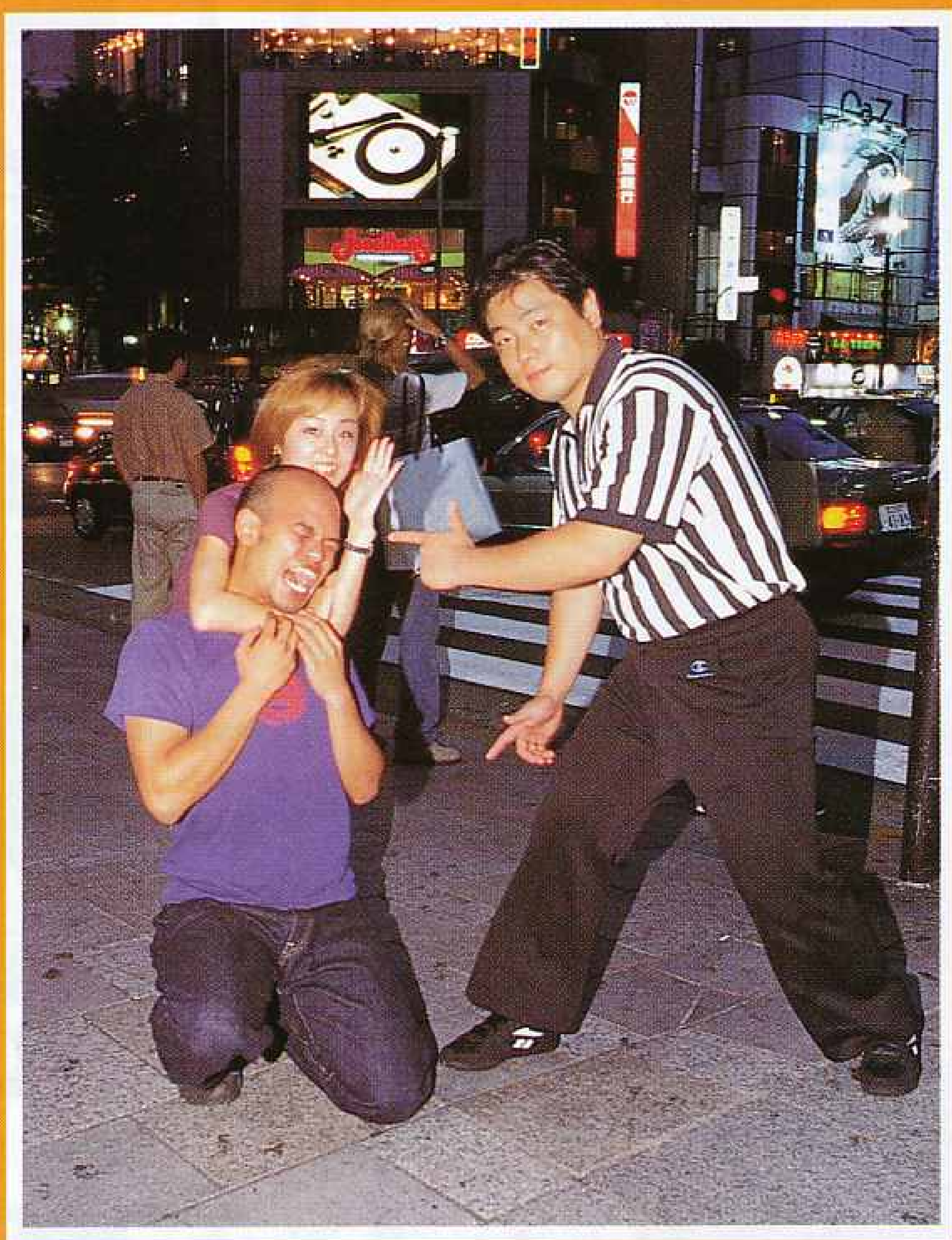


石川vs村上は、ほとんどケンカ状態で闘いの火花を散らしあった。パンチも蹴りもアピールもえげつないこと、この上なし! 両者は、お互いに「次はシングルマッチだ!」と熱望。11・26駒沢で実現か!?

バト激震 PART 3

これぞ、トゲのように刺さるプロレス!

What's happened with BATTLARTS?



いつ何時、誰の試合でも裁く！ 猪木イズム溢れるレフェリー島田裕二。ナンパに励む本誌練習生（幸田珍）を発見。すかさずコーション!

くんですか？

島田 ウチは格闘スタイルに戻りますね。11月の『格闘ロマン』をキッカケに。

──いまのバトは、ズバリ言って、村上（一成）、平（直行）、長井（満也）といったフリー選手の方が熱がありますよ。そのフリー選手とやる時の石川雄規も熱がある。9・7後楽園の、石川&カールvs村上&平も面白かったしねぇ。『PRIDE』ファンが初めてバトを見て「凄ェ」って驚いてましたからね。

島田 いや、これから面白いと思いますよ。今後は"凄み"や"オーラ"がある選手をメインに起用しようかなって思ってますから。長井vs村上がメインとかね。ウチのリングで輝く選手はバトラーツ所属じゃなくてもリングジャックできる。そういうふうにしていかないことには選手もジェラシーを感じないですから。「試合してればいいや」じゃなくて「メインを張るんだ！」とか「第1試合なら第1試合の凄みを見せるんだ！」っていう選手の意気込みを引き出せるマッチメイクを仕掛けていきたいなって思いますね。

──ちゃんと考えてるじゃないですか。

島田 メチャクチャ考えてますよ。もう10年先まで考えてますから。押忍！（敬礼）。

──でも、正直言っていまはプロレス界全体が地盤沈下気味ですよね。バトラーツとしてはその問題とどう向き合うんですか？

島田 ヤバイ状況ですよね。でもいまは田舎や競艇場でもやってるんですけど、そういうとこではプロレスを一度も見たことない人が見に来るんですよ。堀り起こせる層は凄いあると思いますね、は～い。ハッキリ言って『PRIDE』とかは競艇場とかでは試合できないですから。競艇場でイゴール・ボブチャンチンvsマーク・ケアーとかできませんよね。ギャラも合わないし（笑）。

──それはぜひ見たいもんです（笑）。

島田 そういう意味で言うと、やっぱり「気軽に見に来れる」という部分と「プロレスの凄み」を伝えられる。その両方を転がせるのはバトラーツしかない！ 力道山の時代には、街頭テレビに群がった人々にも「プロレスの面白さ」は伝わったわけですよね。あの時代に戻せるのはウチしかない！ ここでカッコ、キッパリ、カッコ閉じって書いといて。

──そのまんま書いときましょう（笑）。

島田 でも、ホントに田舎行ったり、競艇場でやると「孫に誘われたんだけど来て良かったよ」っていう人が多くて、競艇目当てに来たプロレスを見たことないオヤジが孫のためにサインをせがむわけですよ。そういう意味では草の根運動、網の目産業ですよね。

──網の目産業（笑）。

島田 『PRIDE』や『K─1』はゴールデンタイムでやってる。それと同じことやって勝とうなんて絶対無理ですから。そうなると『PRIDE』とか『K─1』、あるいは新日本がやらないことをやって、プロレスの面白さを伝えたいなぁと。やっぱり一般娯楽じゃないとダメですよ、プロレスは。

──「プロレスを通じて、終生大衆に尽くす」と猪木さんも言ってましたからね。

島田 は～い。その猪木さんは「プロレスなんかなくたっていいんだよ、世の中の人には」と、昔言ってたことがあるんですよ。でも潜在的に欲してるからあるんですよ。パチンコとかギャンブルもそうじゃないですか？ いらない人にとってはどうでもいいんですよ。でも潜在的に欲してる人を「プロレスがなくちゃ生きていけないカラダになっちゃったのアタシ、うっふん♡」っていうふうにしたいですね。そういう人を増やしていきますよ！

──だから、『PRIDE』のような闘いや、必ずしも初期のバチバチ・スタイルをやれっていう意味じゃなく、"熱"を観てる側に生むには、ただ楽しいだけじゃなく、観てる人に「トゲのように刺さるプロレス」をやるしかないんですよね。

島田 いいこと言いますねぇ、さすが編集長っ！

──いや、前に猪木さんのプロレスを「トゲのように刺さるプロレス」と村松友視さんが、そう表現してたの（笑）。その「トゲ」とは何か？ が重要なんでしょうね。

島田 でも、バトラーツは死にませんよぉ！ 社長と俺がいる限りバトラーツは大丈夫！ 僕は見捨てませんよ！

──そっちが見捨てられたりして（笑）。

島田 いや～、そしたらまた違うところに行くだけですね（笑）。選手とか社長から「島田裕二はいらない、辞めてくれ！」って言われたときは「サヨナラ」って言いますよ。でもまだ必要とされてる以上は頑張りますよぉ。この有り余る能力を使って。は～い。

【9月12日／ダブルクロスにて収録】



強固な殻をブチ破り、いざ闘いの大海原へ——

柳澤龍志

Yanagisawa Ryushi

6月にパンクラスを円満退団した柳澤龍志のKOKトーナメントが急遽決定した！　元パンクラスの日本人選手がリングスに参戦するのはもちろん初めて。この勇気ある第一歩を踏み出した柳澤の真意とは何か？　そして前回本誌に登場（NO·8）してから2年半。その間、柳澤は何を考え、そしてなぜパンクラスを退団したのか？

俺は出るべくして パンクラスを出た

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／黒田文夫
photographs by Fumio Kuroda



9・5リングス後楽園大会に前田憲作と姿を現し、金原、エンセンらと試合を観戦した柳澤は、全試合終了後、前田総帥にKOK出場を直談判。それを受けて、9月11日に記者会見が開かれ、柳澤のKOKトーナメントAブロックへの出場が正式決定したことが発表された。果たして柳澤は決勝トーナメントに駒を進めることが出来るか？



「パンクラスを辞める」というのは勇気ある事だと思います

『紙プロ』にパンクラスの選手のインタビューが載らなくなって久しい。ためしに調べてみると前回載ったのはなんとNO・8！ 実に2年半前の話である。しかしその間、本誌はパンクラスの選手に興味がなかった訳ではない。ズバリ言っちまえば、取材が不可能なだけで、むしろ彼らが何を考え、どんなことをしようとしているかは、『紙プロ』にとっても重大関心事であったのだ。

そこで柳澤龍志の登場である。今年6月にパンクラスを円満退団し、今回リングス『KOKトーナメント』に参戦が決定。奇しくもNO・8で登場したパンクラシストとは、柳澤なのだ。この2年半、彼は何を考え、何をしようとしていたのか？ それを知ることは、パンクラスを知ることでもあるのだ。

柳澤 ホントついてないっスよ!!

——え!? どうしたんですか、いきなり。

柳澤 昨日（9月11日）、リングス参戦の記者会見が渋谷であったじゃないですか。俺、車で行ったんスけど、駐車場ないから路駐したら、レッカー移動されたんですよ!!

——それはリングス初参戦に際して、いきなり災難ですねぇ（笑）。

柳澤 マジでヘコみましたよ！ レッカーされたの初めてなんですよ。もう、怒りでおかしくなりそうでしたよ。

——そこまでショックでしたか（笑）。

柳澤 3万取られましたからねぇ、フリーにはツライ金額ですよ！（笑）。もう、ヤダ！ 渋谷には、止めない！

——まあ、レッカーはともかく（笑）、突然のリングス参戦表明には驚きましたよ。

柳澤 えっ、そうですか？ だって俺、フリーですから。別にどこへ行こうが関係ないと思いますし、「タイミングさえ合えば、俺はどこでも出る！」って前から言ってますから。でも、みんな驚いたみたいですけどね。

——元パンクラスの日本人選手がリングスに上がるとなったらそりゃ驚きますよ。それに柳澤選手は、K-1デビュー戦でいきなり武蔵選手とやるくらいだから、しばらくはK-1に専念するとばかり思ってました。

柳澤 いや、いや、いや！ 俺は、本当にマルチ・ファイターとして頑張るつもりですし、フリーですから、何でもやりますよ！

——そういえば昨日の会見の後も、早くもリングスを飛び越えて佐竹さん、小川さんとかいろんな名前を出して、無差別襲撃予告をしてましたよね（笑）。

柳澤 まぁ、「おんなじ位の体重だったら闘っても面白いんじゃないかな？」という位のノリなんですけどね（笑）。俺、別に闘いたいヤツなんていないっスから。

——それはまた淡泊ですねぇ（笑）。

柳澤 別に、「だれかを倒して名前上げたい」とかいう欲望がないから、誰かと闘いたいというのもないんですよ。ただ、リングス出たら、同じ位の体格のヤツとは、自ずとライバルになってくるだろうし、K-1ならジャパンの選手は、全員ライバルだと思ってやってますから。そういう状況にあるんで、自分から指名しなくても、いまは常に燃えていられる状況にいるんですよ。

——やはりフリーになっていろんな選手と闘えるというのは、ずっとパンクラスだけで闘っているより、モチベーションが高めやすいですか？

柳澤 それはありますね。だから、今は燃えられる相手だらけですから、ホント充実してますよ。ただ、やっぱり疲れますね（苦笑）。

——K-1と総合の両方をやったら、そりゃ疲れますよね（笑）。

柳澤 フリーだから給料制じゃないんで、試合しないとお金が入ってきませんから。そ

こがちょっと辛いとこですね（笑）。

――それにフリーは1試合1試合の勝敗が全て自分に跳ね返ってきますからね。

柳澤　ですよね。でも、勝とうが負けようがいまは試合さえ出来ればいいですよ。別に俺はチーム・ドラゴンのエースでも何でもないし、負けられない立場じゃないですから。自然体で、無理せず。一個人として、「勝ったらラッキー、負けたら悔しいな」という感じですよ。

――ずいぶん楽天的ですね（笑）。

柳澤　俺、元々考え込むタイプの人間なんで、近頃は考えすぎないように、何事もポジティブに受け止めるように心掛けているんですよ（笑）。そうしないと、悪い方悪い方へ行っちゃうんで。

――なにかパンクラスにいる頃より精神的な部分で吹っ切れたんじゃないですか？

柳澤　やっぱり気楽っていう部分はありますよ。でも、それ以上に寂しさの方が大きいですね。フリーは孤独ですよ。

――でも柳澤選手にはチーム・ドラゴンがあるじゃないですか。

柳澤　ドラゴンは仲間ですけど、個人個人の目指している部分が全然違うんですよ。前田（憲作）さんは、キックをやりながら映画の世界を目指してますし、コヒ（小比類巻貴之）は、キック一本でやっていきたい思っているし。俺は、総合もやるし、K-1もやる。全員目指す方向が違うんですよ。でも、パンクラスの頃は、みんなが同じ方向を目指して歩いていたわけですから、そういう仲間いなくなったのは、やはり寂しいですね。だからといって、後悔しているわけじゃないんですけど、思ったより俺って寂しがり屋なんだと気付きました（笑）。

――卒業したパンクラスの道場は、どんな雰囲気なんですか？

柳澤　みんな、仲良かったですよ。同じ釜のメシを食って、ほとんど毎日一緒にいたわけですからね。だから、いまでもたまに会えればいいんですけど、そういうわけにもいかないんで、「WOWOWで俺の活躍を見てくれ！」って感じですかね。

――パンクラスの試合はTVではご覧になってるんですか？

柳澤　辞めてからイッ回も見てないです！　個人的に仲がいい奴以外は、連絡も取ってないですから。

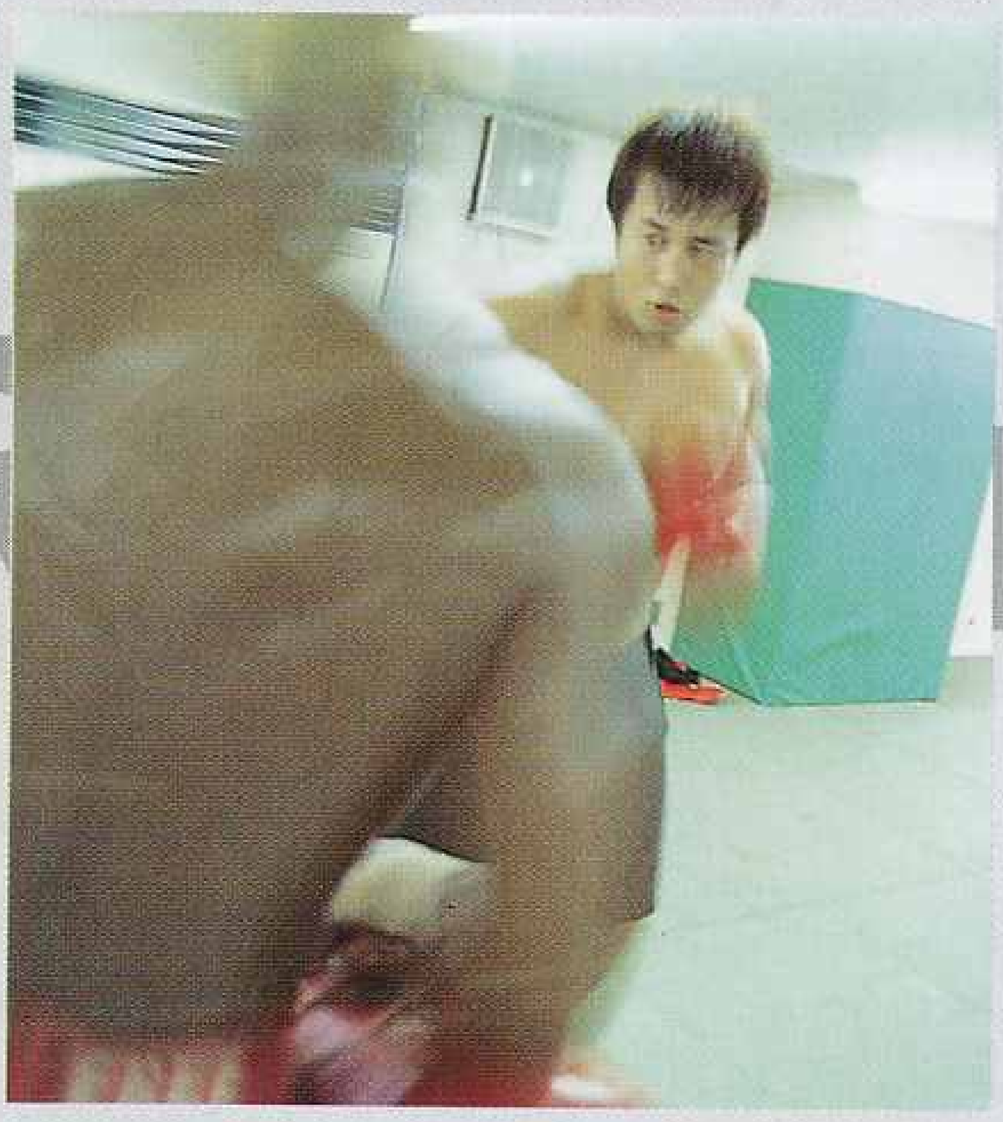
――そうなんですか。だから僕なんかは、今回柳澤選手にインタビューするに当たって「なぜリングスにあがるのか？」より「なぜパンクラスを辞めたのか？」ということに、凄い興味があるんですよ。

柳澤　真面目な話をしちゃうと、俺は旗揚げから8年位ずっとパンクラスで闘ってるんですよ。でも、いつまでもサポートしてくれる仲間がいて、守られている環境の中で同じパンクラスの仲間同士で闘うということに、どうしてもモチベーションが上がらなくなってきたんです。だから、厳しいところに出ていって、もう一度自分を探したかったというのが一番の理由ですかね。

――パンクラスに残っても闘いという部分では、目標がないと？

柳澤　それは、ありますね。このままパンクラスにいても、これ以上にもなれなければこれ以下にもならない。「俺、このまま終わっちゃうのかな？」と思ったら急に寂しくなって、「だったら飛び出して、いろんなことに挑戦したい！」と思ったんです。本当にパンクラスの中は、居心地が良かったんですよ。練習環境もすごく整ってきていたし、それに飯も食えましたしね。その中で「辞める」という選択をしたことは、我ながら勇気あると思います。自分で自分を誉めてあげたいですね（笑）。

――その、「目標を見失った」というのは、武道館でガイ・メッツァーに挑戦したタイトル戦（98・9・14）で敗れてからのような気がするんですけど、いかがですか？



柳澤　そうですね。負けてクサッて練習しないってことはなかったんですけど、あのタイトル奪取に失敗してからは、「このまま沈みたくない」っていう意地だけでしたね。

――船木さんは、メッツァーに負けて観客からブーイングを浴びた時に引退を決意したらしいんですけど、柳澤選手はどうだったんですか？

柳澤　俺も本気で「辞めよう」と思いましたよ！　メッツァーと言えば、今でこそ「何もさせない男」として有名になりましたけど、あの当時は、何もできない俺らが情けないという風に見られてましたからね。しかも、やっと掴んだタイトル戦なのに何もできなくって……、罵声とブーイング浴びて、顔ボコボコに殴られて……、正直ヘコみましたね。

――あの試合は客席で見ていても気の毒な感じはしました。

柳澤　それでもう「なんのために生きてんだろう？」って感じになって、控え室に戻ってすぐ「俺、もう辞めます！　事務所の職員になります！」って言ったんです。そしたら鈴木（みのる）さんに、ボーンと殴られて「そんなこと言うんじゃねぇーよ！」と言われてね……。あの時のことを考えると、自分でもよくここまで復活したなと思いますよ。

――何かパンクラス時代の柳澤選手というと、ことあるごとにメッツァーに苦しめられていた印象があります。

柳澤　実際そうなんですよ。俺は船木（誠勝）さんが王者だったときもメッツァーと挑戦者決定戦（98・3・18後楽園）やらなきゃダメだったし（苦笑）。その時も、20分フルタイムで負けて、またブーイング！　つらかったなぁー。俺、アイツとやる度に評価下げてたんで、正直やりたくなかったですもん。

――苦労して実績を積み上げてもメッツァーとやると台無しにされてしまう、と。

柳澤　メッツァーとは、プライベートでは

すごくいい友達なんですけど、アイツのせいで俺の格闘人生をずいぶん狂わされましたからね（笑）。じゃ、半年後くらいに『PRIDE』のリングでやりますか！

——いまこそ、積年の恨みを晴らそうと（笑）。

柳澤　でも、またブーイング浴びたら、俺、フリーとしてマジでキツくなりますよ（苦笑）。ちょっとつらいなぁ、メッツァーは。でも、俺らの世代にトップとして立ちはだかっていたのがメッツァーだったんだから、仕方ないですね。

——しかも、柳澤選手が敗れた後に、メッツアーは王座返上してパンクラスを辞めてしまったわけですから、ついてないですよね。その後は挑戦権も柳澤選手より若い世代に移っていきましたけど、その流れについてはどう思ってましたか？

柳澤　近藤（有己）が挑戦できるのはわかるんですよ。あいつは実績も残してますし、実際強いし。俺が試合やって「強いな」って感じたのはパンクラスの中では船木さんと近藤くらいですからね。

——はー！　そうなんですか！

柳澤　ただ、今と違って俺が挑戦した頃は、なかなかタイトル戦を組んでもらえなかったんですよ。メッツアーへの挑戦も鈴木（みのる）さんがプッシュしてくれて、ようやく組まれたんです。だから「俺の時は、あんなに揉めたのに」っていう気持ちはありましたね。

——メッツアー戦後から、パンクラスを退団するまでの柳澤選手というと、常に現状を打破しようともがき苦しんでいたように見えたんですけど、ご自分ではいかがでしたか？

柳澤　（しみじみ）苦しみましたねぇ。俺はその頃、星を落としてましたし、ストレスがたまって大変でしたよ。でも、実力者とばかりやってたんで、いい経験にはなってると思うんです。小路（晃）君ともやったし、菊田（早苗）さんともやったしね。

——菊田選手や小路選手以外にも、地味でしんどいカードが多かったですよね。でも、あの頃の柳澤選手は、七転八倒してる姿から「柳澤龍志」という〟人間〟が見えて、印象深い試合が多かったですよ。

柳澤　本当ですか？　そう言っていただけると嬉しいですね。あの頃は、「誰も俺のことなんか見てねーな」と思ってましたから。だから「俺は（パンクラスを）出るべくして出たんだな」と思います。俺、あのままだったらヤバかったですよね。

——パンクラスを辞める時って他の選手に相談はされたんですか？

柳澤　してないっス。今は少し「しといた方が良かったかな」とは思いますけど。

——しこりが残っているということですか？

柳澤　しこりはないとは思いますけど、（尾崎）社長とずっと話し合いしていて、決まってからみんなに言おうと思ってたんですよ。ただ、しばらくしたらみんな、俺が辞めること知ってましたけどね（苦笑）。

——マスコミの間でも、柳澤選手がパンクラスを辞めるという噂は流れてたんですよ。「UFO入りするらしい」とか。

柳澤　実際いろんな話はあったんですよ。でも、俺はパンクラスと喧嘩別れはしたくなかったんで、円満移籍となると行けるところは限られてたんです。それで最初は坂田（亘＝UFC-J代表）さんにお話をいただいて、社長も了承してくれたんで、UFC-Jでお世話になろうかと思ったんです。でも何か同じだったんスよ。UFC-Jってパンクラスと近いじゃないっスか。それじゃ、移籍しても変わんねーなって思って。

——確かにそれでは〟出向〟みたいで、あまりイメージも変わりませんよね。

柳澤　それに俺はK-1にも出たかったたし、いろんなところに出たかったんですよ。それでいろんな人に相談したら、「チーム・ドラゴンだとK-1も近くていろんなとこにも出れる」と聞いたんで、坂田さんには不義理を



乾普也

98・9・14日本武道館『キング・オブ・パンクラス』タイトルマッチ、vsガイ・メッツァー戦。この試合を始めとして、柳澤は『ネオブラッド・トーナメント』決勝、ランキング戦、挑戦者決定戦と、大舞台でメッツァーと当たる機会が多く、その度に浮上のチャンスを逃してきた。ある意味、「ガイ・メッツァー戦法」の一番の被害者といえる。

メッツァーには、俺の格闘人生を狂わされましたね（苦笑）

はたらく結果になって申し訳なかったんですけど、チーム・ドラゴンにしたんです。

——でも、何の後ろ盾もないフリー集団のチーム・ドラゴンに入るっていうのは、リスクが大きいですよね。

柳澤 確かに何の保証もないから悩みましたよ。でも、俺も今年28歳だし、残り何年できるか分らない。それで「自分の力を試すんだったら今しかないかな」って思ったんです。だから船木さんから学んだいろんなことを守りながら、自分の力だけでどこまでやれるのか試してみたいですね。

——では、フリーになっていきなり、『K-1ジャパンGP』に出場したわけですけど、パンクラス在籍中から「K-1に出たい」という願望はあったんですか？

柳澤 それは強かったですね。やっぱ、K-1に対する憧れって昔からありましたから。

——いつごろからあったんですか？

柳澤 パンクラスが出来る前からですよ。

——そんなに前からなんですか！

柳澤 だって『トーワ杯（カラテ・ジャパン・オープン）』に出たのも、完全に俺の希望ですからね。

——へ～。「ガチンコで腕試しがしたい」とかがあったのかと思ってました。

柳澤 いや、藤原組ってほとんどガチンコですから、それはなかったです。ただ「勝てる」と思ったんですよ。いま思えば「若さって怖い」って感じですね。何の疑いもなく「優勝いけるだろ」と思ってたら、村上竜司さんにボコボコにされたんですけどね（笑）。

——では、あの大会は石川（雄規）さんも出てましたけど、「柳澤が出るから、お前も出ろ」みたいな感じだったんですか？

柳澤 そうですよ。よくわかりましたね。正直な話、石川さんは出たくなかったと思いますよ（笑）。

——アハハハ！　巻き添えを食った、と（笑）。

柳澤 K-1が出来たのって、あの大会の直後なんですよ。空手の大会に出たいと思ってたくらいだから、その最高峰のK-1には正直言って憧れましたね。そう考えたら俺、ホントは空手家になりたかったんですよ（笑）。佐竹さんが出てる雑誌とかみて、「俺も正道会館でガンガン練習してぇなぁ」とか思ってましたから（笑）。

——アハハハ！「空手家になりたかった」とは、衝撃のカミングアウトですね（笑）。

柳澤 でも俺、村上竜司さんに鼻の骨折られて負けたじゃないですか。その時、佐竹さんは村上竜司に勝って優勝して、その佐竹さんでもK-1で勝てないのを見て、「俺じゃ無理だな。やっぱ総合だな」と、思ったんですよ（笑）。それでもやっぱりK-1に対する憧れは消えなかったですけどね。

——パンクラスは消去法だったとは、実に驚きです（笑）。

柳澤 だから俺は人気があるからK-1に出た訳じゃないんですよ。あの頃の夢をまだ持ち続けられているという、純粋な気持ちなんスよ。それを実現させたことで、また、自分で自分のことが好きになりましたね（笑）。

——いやぁ、柳澤選手のK-1に対する思いは、よ～くわかりました（笑）。では、K-1の話はこれくらいにして、今回リングスに参戦が決まったわけですけど、パンクラス時代から柳澤さん個人としては、リングスに対して敵意はなかったんですか？

柳澤 俺は究極の平和主義者なんで敵意もないし、リングス参戦に抵抗もないですね。それに、俺が抵抗ないってことをリングスの方も感じ取ってくれたのか、スゴク友好的に接してくれてるんですよ。だから、それに応えられるよう、いい試合がしたいって感じです。せっかく出してくれるんで、ベストなパフォーマンスが見せれたらと思います。

——では、前田社長に対してはありませんでしたか？

前田さんに「お前は、俺を後ろから殴るなよ」って言われました（笑）

wa Ryushi



7月7日仙台、グランディ・21　vs武蔵戦。8年越しの念願であったK-1初出場で、いきなり日本人ナンバー1の武蔵と対戦。デビュー戦ながら判定まで持ち込む善戦をみせた。柳澤は現在、週5回、正道会館東京本部で練習しており、次の『K−1　ジャパン・シリーズ』も当然出場し、初勝利を狙っている。

柳澤　色々言われてましたけど、頭打たれると忘れるんで、もう覚えてないんですよ。それなら、蒸し返す必要もないかなと（笑）。

――さらに蒸し返しちゃうんですけど（笑）、柳澤選手は2年半前にウチのインタビューで「長井（満也）選手に（キックの試合で）勝ったら、完全実力主義のリングで前田日明と勝負したい」って、言ってたんですよ。

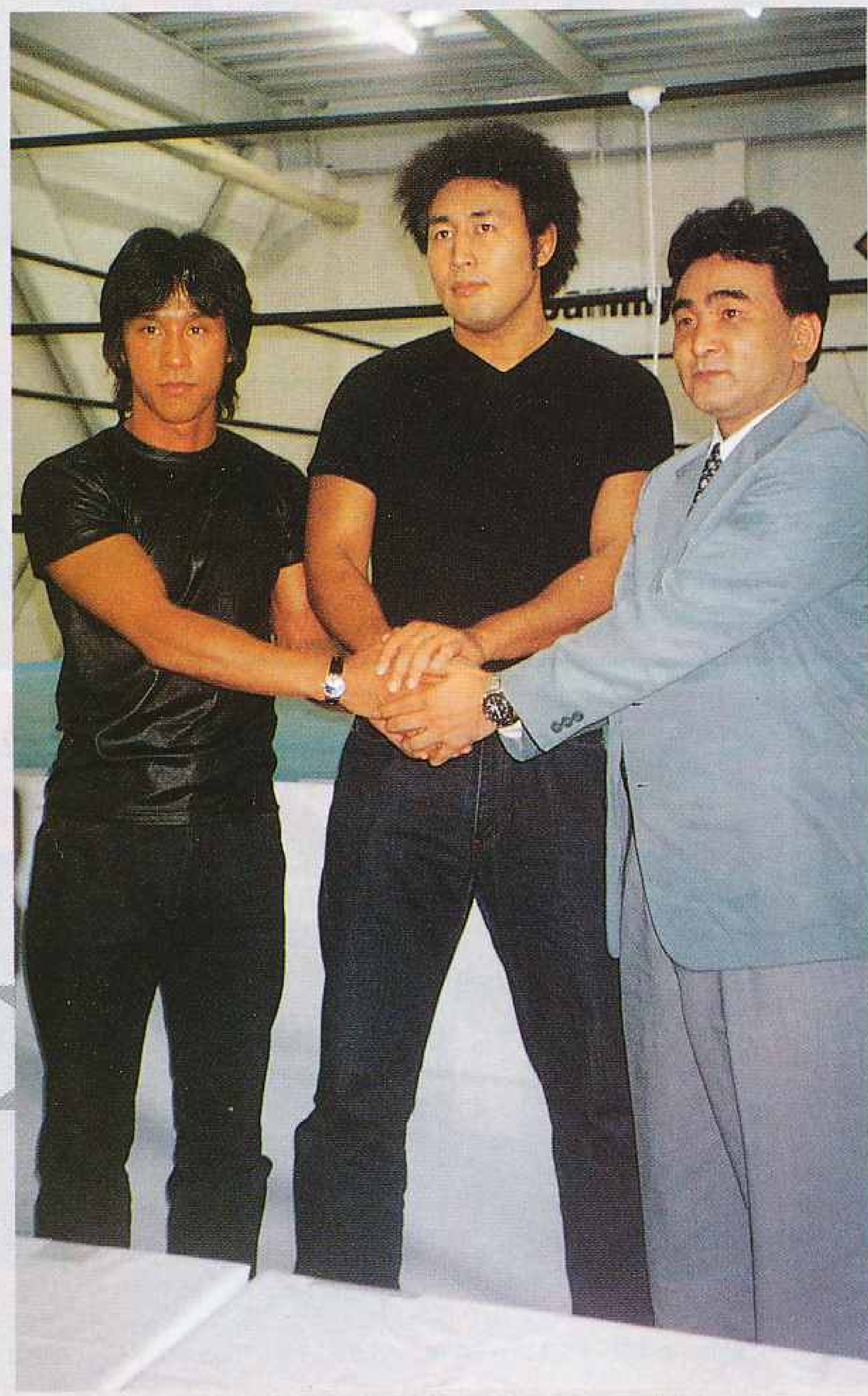
柳澤　俺がそんなこと言ったんですか？　多分、リップサービスだと思うんですけど、前田さんも引退しましたし、若気の至りというこで許して頂きたいですね（笑）。

――前田さんは実際会ってみて、どんな感じでしたか？

柳澤　気さくな方でしたよ。「聞きたいことがあったら、いつでも聞きに来いや！」って言ってもらえましたし。

――前田さんも「選手に関しては何もない」って言ってますからね。

柳澤　それより、俺のことを「あいつ、何考えてリングスなんかに上がってんだ！」って思っているパンクラスの選手もいると思うんで、そっちが気がかりですね。俺はリングスの所属選手になったわけでもありませんし、パンクラスの人たちに対して、「悪気はない」ということだけは伝えたいですね。



6月15日にパンクラスを円満退団した柳澤。フリーになったいま、K-1、リングス、そして『PRIDE』出場も希望している。この3団体を股に掛ければ前代未聞。これからの柳澤は要注目だ。

――パンクラス・ファンの中にも「裏切り者」って思っている人もいるでしょうしね。

柳澤　別に裏切ってないっスよ。「何いってんスかぁ！」って感じっスね。俺はリングスに引き抜かれた訳じゃないし、実際、フリーになって豊かにもなってないし、純粋な気持ちで一から始めてるんで。そこら辺は、誤解しないでほしいですね。

――それとですね、これは『紙プロ』的には、聞いておかなければならないんですが、去年の11月に前田社長襲撃事件がありましたよね。あの事件は、柳澤選手的には、どうお考えでした？

柳澤　俺は高阪さんと仲が良いから、あの時も敵対心とかは持てなかったっスね。それに前田さんが殴られたときは、俺は藤田愛とキャンディー奥津と話してたんで、知らなかったんスよ（笑）。

――ハハハ、舞台裏が大変な時に（笑）。

柳澤　でも、いまは前田さんもギャグにしてますよ。「お前は、俺を後ろから殴るなよ！」って、俺も言われましたから（笑）。

――アハハハ！　実に前田さんらしいですね（笑）。ところで柳澤選手は、もうKOKの1回戦の対戦相手である、ボリス・ジュリアスコフの研究とかはしてるんですか？

柳澤　昨日リングスからビデオ貰ったんスけど、車をレッカー移動されたときに渋谷警察署に忘れてきちゃったんですよ（笑）。

――アハハハ！　それじゃあ、まだということですね（笑）。

柳澤　どんな選手なんですか？

――レスリングの選手で、「地味な実力者」って感じですね。

柳澤　まぁ、相手にとって不足なしということで、がんばりますよ。

――今回は"他流試合"という感じになると思うんですけど、パンクラスの中でも、柳澤選手は『トーワ杯』や、キックへの出場を含めて、他流試合の経験は豊富な方ですよね。

柳澤　昔は、よくやってましたよね。その頃は、燃えてましたし、まぁ、若いから失うモノもなくてガンガン出ていけたんですよ。そう考えると今はフリーになって、ちょうど失うモノも何もない、あの頃みたいな状況なんです。だから、がむしゃらに頑張るだけですね。

――いや～、それは期待したいですね。ゼヒ1・2回戦勝って、決勝トーナメントでジャパン勢と対戦するのを楽しみにしてます。今日は、ありがとうございました

柳澤　押忍！　ありがとうございました！

――あっ、最後に実に2年ぶりの登場となった『紙プロ』の印象を聞きたいんですけど。

柳澤　正直、あまりいい印象はないです！（キッパリ）。

――アハハハ！　やっぱり（笑）。

柳澤　だから僕は辞めましたけど、あまりパンクラスのことを悪く書かないでくださ～い（笑）。

【00年9月12日　原宿『デニーズ』にて収録】

PROFILE



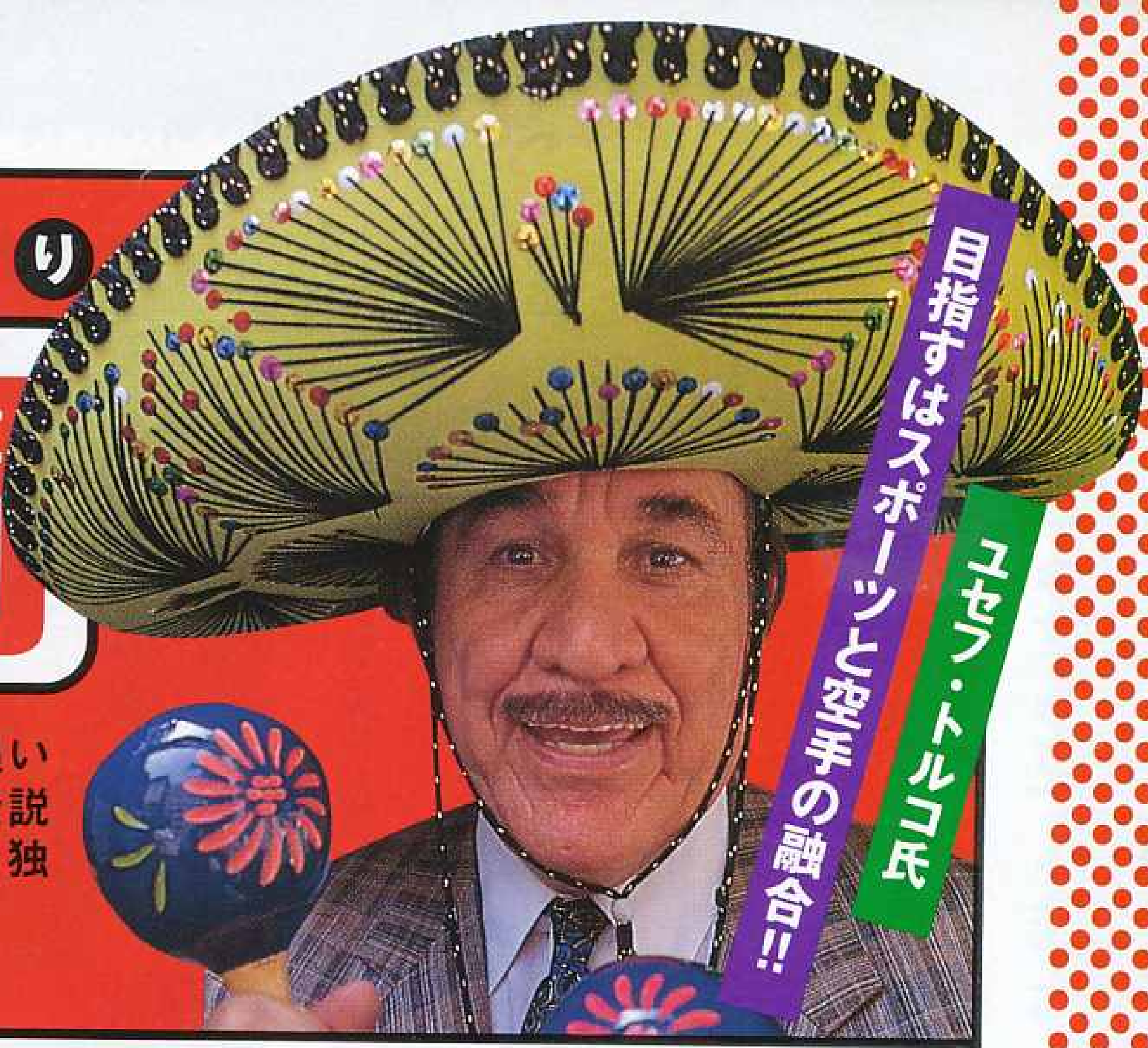
【やなぎさわりゅうし】
本名・柳澤敦史（あつし）。1972年6月22日、青森県青森市出身。92年にプロフェッショナル・レスリング藤原組でデビュー。パンクラスには旗揚げ時より参加。セーム・シュルトやオレッグ・タクタロフにも勝利し、ランキング最高位は3位。パンクラスの闘いと並行し、97年にキックボクサーのライセンスを獲得。デビュー戦を白星で飾る。今年6月にパンクラスを円満退団。K－1や総合各団体へ、フリーとして広く闘いの場を求める。191cm、101kg。

8/19 ➡ 9/14 マット界の1ヶ月丸わかり

紙の新聞

KAMINO SHINBUN

(毎月22日発行)
発行所:(株)ダブルクロス



目指すはスポーツと空手の融合!!

ユセフ・トルコ氏

9月号

㊗破壊王復帰決定! ドラゴンを通じて破壊王復帰への道を追い続けた『紙の新聞』としても嬉しい限りだ。というわけで、破壊王伝説の始まりを祝して、みんなで歌おう! 歌はもちろん「栄光への独白」! さ〜がしてるぅ〜い〜まもぉ〜♪

編集長/堀江ガンツ　助手/戸高“マッパ”イク人

8/19 【LLPW】草加

夢の対決、佐山vs風間ルミ実現!



トータルエネルギー・プレゼンツのチャリティ興行として行われたこの日、初代タイガー&神取vs4代目タイガー&風間社長という夢のミックスドマッチが組まれた。7月に神取v天龍という究極のカードに続いて、この日は佐山vs風間社長という夢の体型そっくりさん対決を実現させるLLPWは凄い。そしてミックスドマッチでアキレス腱断裂してしまう佐山もある意味凄い。

8/20 【全日本プロレス】後楽園ホール

マウナケア・モスマン、「太陽ケア」に改名



日本人選手が大量離脱し、川田と渕のわずか2人となってしまった全日本に「俺は日本人だ!」(byユセフ・トルコ)とばかりに現れた救世主、それがマウナケア・モスマンである。そのモスマンはこの日、自分をさらに日本人化させるために改名。その名も「太陽ケア」! 10·9ドームでは吉江戦が決定し、変な名前vs変な髪型の一戦への期待は高まるばかりだ。

【全日本】後楽園　全日新シリーズ開幕。川田が6人タッグでいきなりバートンにフォール負け。

【みちのくプロレス】ニューワールド仙台テニスクラブ

浪花、藤田穣がみちプロを離脱宣言



みちプロにまたもや激震! 5週間にわたるロングシリーズの最終戦であるこの日、メイン終了後に事件は起きた。かねてから待遇に不満を持っていた愚乱・浪花と藤田穣がリング上でみちプロ離脱を表明したのだ。その理由のひとつが「新弟子みたいな雑用が多いから」とは驚き。はたして雑用はプロとしての底力とはなりえないのか!?

【全女】後楽園・伊藤薫、ジャパングランプリ2000トーナメントに優勝。
【UFO】茅ヶ崎球場　サザンオールスターズの茅ヶ崎ライブにオーちゃんが聖火ランナーとして登場。

8/21 【K−1】

210cmの大巨人、K-1に現る!


210センチ 大巨人X
10·9 新日ドーム
8·27 PRIDE
殴り込み
胸囲150・腕回り58
体だって超柔軟だ

もともとキモとパト・スミの金網アルティメット戦を組んだり、ベイダーやノートンを本気で参戦させせようとするなど、「話題第一」という実に素晴らしい方針が、その人気の秘訣でもあった初期K−1。そんなアーリーK−1の魅力が久々に味わえそうなのが、210cmの大巨人『ミスターX』の登場である。石井館長も好きねぇ。

8/23 【新日本プロレス】伊藤忠商事ビル

新日本、CS放送開始決定



CSスポーツ専門チャンネル「スポーツ・アイESPN」が10月から隔週月曜日に新日本の試合を放送する新番組『SXW』を発表した。同番組では試合以外にもオリジナル企画の放送も予定しており、その中の一つに選手の肉体を徹底分析する「新日本プロレス肉体図鑑」がある。そこでは破壊王の体脂肪率チャック、武藤のヘアチェック等を行う予定……はまだない。

【リングス】大阪府立体育会館

田村、リングス・ジャパン批判



この日のメインで、現・UFCライト級王者のP・ミレティッチから危なげない判定勝ちをおさめた田村が、試合後にまたもや物議を醸す発言をした。曰く「日本人が出てこないとリングスはダメになる。ここ1・2年出てこなければ自分の闘いをする」。果たして田村の真意は? そしてジャパン勢の反応は? さらに金ちゃんはどうボヤく? 詳しくはP24へ——。

8/23 【新日本プロレス】

ドラゴン、感涙(?)、破壊王、復帰決定!



破壊王の復帰がこの日、遂に発表された。ドラゴンの苦労がようやく報われたわけである。しかし、この復帰決定にも、あまりに決断が遅かったために周囲は冷ややか。アントンは「くだらない話だ」と一刀両断し、健介も「素直に喜べん」という。もちろんこれまで「引退式やるぞ!」「もう自分から連絡を取ることはない!」と、人一倍、破壊王の決断の遅さにイラついていたドラゴンも同様かと思いきや、「全日との交流とか『PRIDE』とか三沢のノアとかいろいろあるなかで、橋本の復帰はちょうどいいタイミング」と、ひとり呑気発言。いくらなんでも、ちょうどよくはないだろうに……。

【PRIDE】世田谷　グレイシー・ジャパン

ハイアンが石沢を1分秒殺予告



『PRIDE.10』での石沢戦を4日後に控えたこの日、噂の“グレイシー最狂の男”ハイアンが兄・ヘンゾと共に公開スパーリングを行った。ハイアンは下からの三角絞めなど石沢戦を想定した動きを見せた後、「石沢は1分で倒す」と秒殺宣言。さらには「俺はケンカを400回やって1度も負けたことがない」と豪語。でも、『PRIDE』でのキャッチコピーは「ケンカ500戦無敗」だったような……。“グレイシー一族の異端者”といわれるハイアンだが、この辺の数字のいい加減さ、胡散臭さという点で実にグレイシーらしい男だったのである。

8/24 【K－1】
"ミスターK-1"アンディ・フグ死去



鉄人アンディ・フグが8月24日の夕方、日本医科大学付属病院で「急性前骨髄性白血病」により35歳という若さで急死した。プロレス関係者からは橋本真也、高田延彦が弔問に訪れ、また告別式には佐々木健介、安生洋二が参列し、健介は、「アンディの精神力を尊敬していた」と語った。アンディ・フグさんの御冥福を心よりお祈りいたします。

【闘龍門】後楽園　ドラゴン・キッドが"マスカラ・コントラ・カベジェラ"でSUWAに勝利。　アラケンが堀口元気を破り、NWA世界ウェルター級選手権を初防衛

8/25 【UFO】
オーちゃん、破壊王の再戦要求にアキレ顔



遂にというか、ようやくというか、今頃になってというか、いずれにしても時期を見事に逸していた破壊王の復帰宣言。その会見の席で破壊王は改めて「打倒・小川」を宣言したわけだが、当の小川はというと今回の復帰には、すっかり呆れたようす。まずは「何か時が解決してくれるなんて甘く考えてない?　世間を甘く見てるというか、心から笑わせていただきました」と、復帰宣言が遅くなったことをズバリ断罪。さらに破壊王の「アイツ(小川)を振り向かせるよう、仕掛けていく」という発言には「俺は世間を敵に回したくないから新日本ではやらない」と一刀両断。破壊王のイバラの道はつづく……。

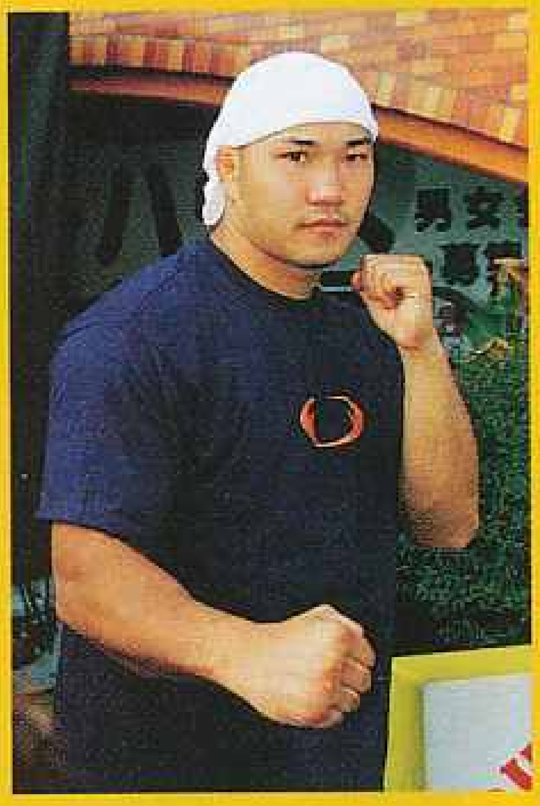
【全日本】長岡市厚生年金会館　天龍と川田がそれぞれハンセン&人生、藤原&太陽ケアをパートナーに10年8ヶ月ぶりに激突。(川田が人生をピン)

8/26 【全日本プロレス】後楽園ホール
大仁田、元子夫人に全日参戦を直訴



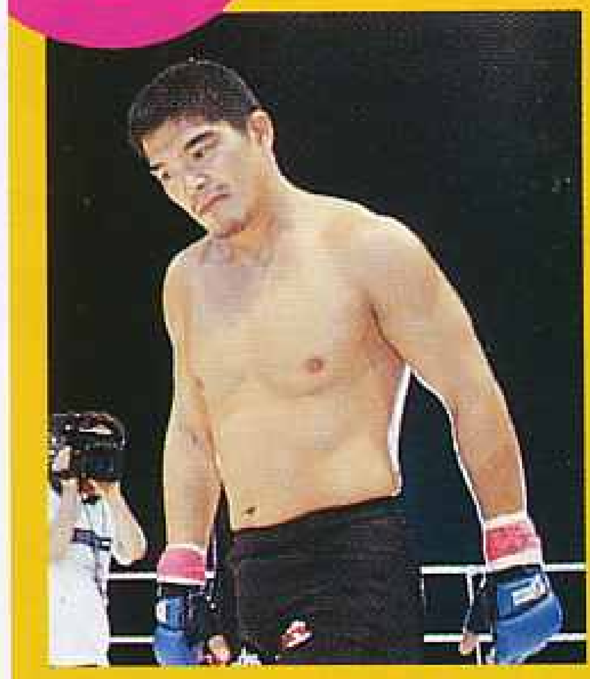
グレート・チョロばりに髪を金色に染めた大仁田が古巣、全日本の会場を訪問。元子社長そして同期の渕に会い直接全日本参戦を希望する内容の請願書を手渡した。年内引退(?)を決意した大仁田は最期の舞台に全日本マットを選択したようだ。大仁田劇場・帰郷編～お帰り、大仁田くん～は元子さんというヒロインを得て暫くはアットホームな路線を進んで行きそうだ。

【プロレスリング・ノア】府中市・「パワーハウス」
カッキー、ノア離脱を語る



8月5日の旗揚げ戦を最後にノアを退団したカッキーこと垣原賢人が、ノア退団後初めて公の場に姿を現した。垣原は「ズバリ、僕のワガママです」と前置きした上で「欠場中に刺激あるトレーニングができ、それを続けることにした」と、退団理由を語った。気になる今後は「格闘技団体を含めた全てのプロレス団体が選択肢」という。カッキーよどこへ行く。

8/27 【PRIDE・10】西武ドーム
石澤、ハイアンに秒殺される



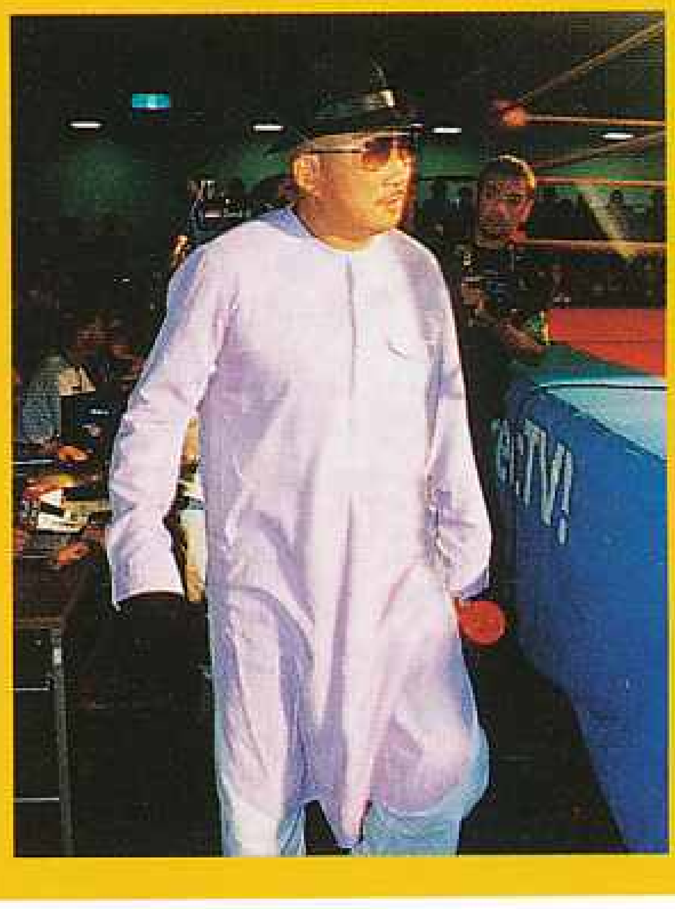
注目の石澤vsハイアンは石澤の秒殺TKO負けという無惨な結果に終わってしまった。しかし、結果以上に重要なのは、「これから石澤がどうするか」ということ。ターザンは予想通り「石澤よ即刻"辞表"を提出して新日本を退社せよ！」とアジるが、もしそうなった場合、破壊王に続いてまたしてもドラゴンが辞表を破り捨て「認めん！」と叫ぶのか。ドラゴンの苦悩は続く……。

8/28 【プロレスリング・ノア】NOAH事務所
NOAHと『SAMURAI!』がタッグ結成



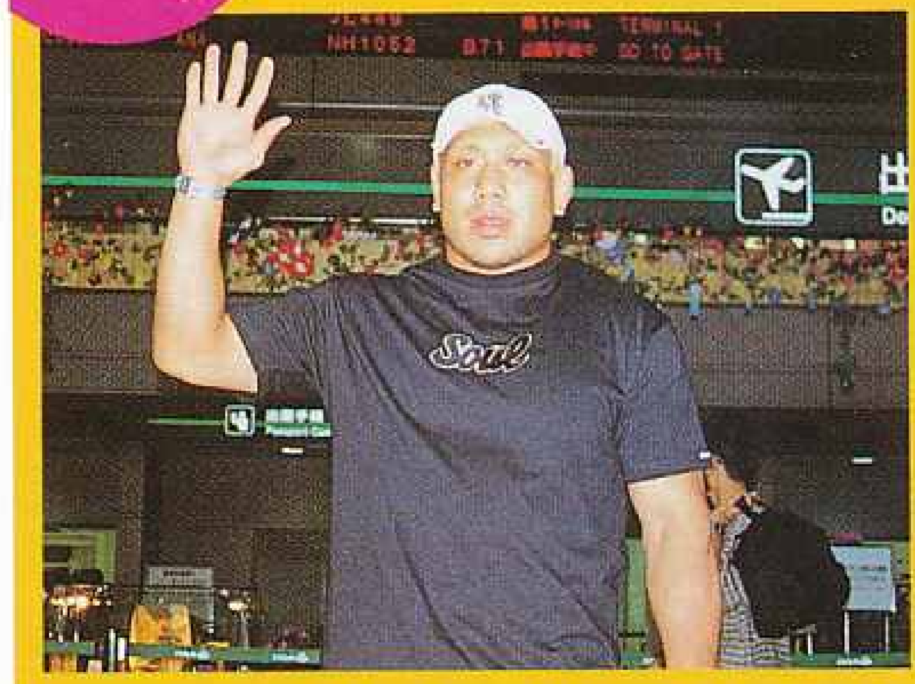
設立当初は日本テレビでの定期放送が確実視されていたノアだが、ここに来て噂されていた10月からの放送はとりあえず見送られることとなった。これによってノアの先行きを不安視する声も一部で上がっていたが、この日まずは9・16ディファ大会の『サムライ！』でのPPV放送（1500円・『サムライ！』加入者は無料）が発表された。宣伝効果という点ではどうしても地上波に軍配があがるが、ファンにとっては30分番組で地上波放送されるよりむしろ、PPVで全試合たっぷり、しかも完全生中継で放送されるのはありがたいだろう。やはり、これからのプロレス放送はPPVが中心になっていくのか。

【FMW】後楽園ホール
将軍KYワカマツがFMWに登場



"UFOの総帥"がFMWのリング飛来！　……といっても、アントンの話ではなく、あの将軍KYワカマツが久々に登場！　かつて宇宙パワー軍団を率いて、高野拳磁と果てしない宇宙規模の不毛な抗争を続けていたワカマツだけに、FMWで「UFOをよびまーす」などとやっている山崎直彦が許せなくなっての登場である。ワカマツは、お馴染みのサングラス、白装束、黒ハット姿で登場。もちろん右手には拡声器が握られている。試合内容は割愛するが、試合後なぜか弟子入りを志願する山崎に対し、ワカマツは「宇宙パワーが最も集まる、北海道芦別に来なさい」と自らが市議会議員を務めるふるさとの宣伝につとめたのであった。

8/29 【PRIDE】新東京国際空港
藤田和之、ブラジル修行に出発



"霊長類ヒト科最強の男"ケアーに続き、初代キング・オブ・パンクラシストにして元UFCスーパーファイト王であるケン・シャムロックを破り、『PRIDE』ヘビー級エースの座を確固たるものにしつつある藤田和之が、『PRIDE・10』の2日後、早速12月に予定されるコールマン戦に備えてブラジル修行に飛び立った。シャムロック戦ではパンチを浴びまくりながらも、人間離れした打たれ強さで倒れなかった藤田だが、さすがにその2日後ではダメージが残っているかと思いきや、全く平気な様子。呆れるほどのタフネスぶりである。

【新日本プロレス】
永田が悪の進言「小島&天山はミセス元子を誘拐しろ」



遂に実現する全日本vs新日本の第1R・渕vs蝶野戦。そこで蝶野のセコンドとして武道館来場が決まった天山&小島に対して、ライバル永田が檄を飛ばした。「結局、天山も小島も蝶野の子分から抜け出せないってこと。蝶野を押しのけて全日制圧に乗り出すぐらいじゃないと、彼らは一生あのままだ。蝶野と闘う前に渕選手、川田選手をボコボコにして、ついでにミセス元子を誘拐して、T2000にスカウトしろ！　そこまでやったら俺も2人をT2000のボスだと認める」この悪の進言、永田最高！……というか、やっぱり東スポの高木圭介記者最高としか言いようがないのである。

8/30 【LLPW】後楽園ホール
OGが集結! 立野紀代デビュー20周年記念



ルミエ社長が粋な計らい！　立野記代デビュー20周年となったこの日、その記念カードとしてLLRW旗揚げ戦のカードである、立野&ハーレーvs穂積&半田が組まれた。穂積と半田は共に既に引退し、現在は2児の母。そんな2人が立野のために一日だけの復帰をしたのだ。遺影を持ってきたりしない、こういう復帰は実に清々しい。試合以外でもNYからJBエンジェルスの相方、山崎五紀を始めとして、ジャガー横田、ジャンボ堀、小倉由美、永堀一恵、永友香奈子、コンドル斎藤らが駆けつけ、立野の20周年を祝った。

8/31 【SPWF】文京区　椿山荘
谷津の『PRIDE』出場、遂に決定! なっ!



「三沢、川田は俺の後輩だぞぉ。目えつぶって30秒で勝てるよ!」「グレイシーよりもアマレスの方が強い!」「ガチンコだったら俺は負けねえぞ!」など、本誌紙上での抜群の発言で幻想を高めまくり、かねてからVT出陣が望まれていた谷津の『PRIDE・11』出場が少々(かなり?)遅ればせながら遂に決定した。詳しくはP73からのインタビューを読んでもらいたいが、「PRIDE出場決意表明会見」となったこの日は「中年ジジイが挑戦することで同世代に夢や希望を与えたい」と殊勝に宣言。注目の対戦相手は「大刀光の仇討ち」でグッドリッジに内定。谷津よ、「駄目な奴(谷津)になるな」(byアントン)

9/1 【パワー・オブ・ドリーム】
ヤマケン、「タイタン・ファイト」開催発表



先月号でお伝えした、ヤマケンプロデュース大会がアマ大会から、プロアマオープントーナメント『タイタン・ファイト』に名称を変更！　優勝賞金も30万円から一気に80万円に！　話題となった超アグレッシブルールは変更ナシ！　一部で出場が噂されながら、逃げの発言に終始している本誌スモーノブだが、賞金がアップし、プロも参戦可能となっただけに、ここへ来て協力な助っ人を連れて登場との噂も……。また、大会当日、ヤマケンからさらなる重大発表が！（9月29日　フジタヴァンテホールにて午後5時試合開始予定）

9/2 【キングダム・エルガイツ】川崎市体育館
打倒グレイシーに次々と名乗り!



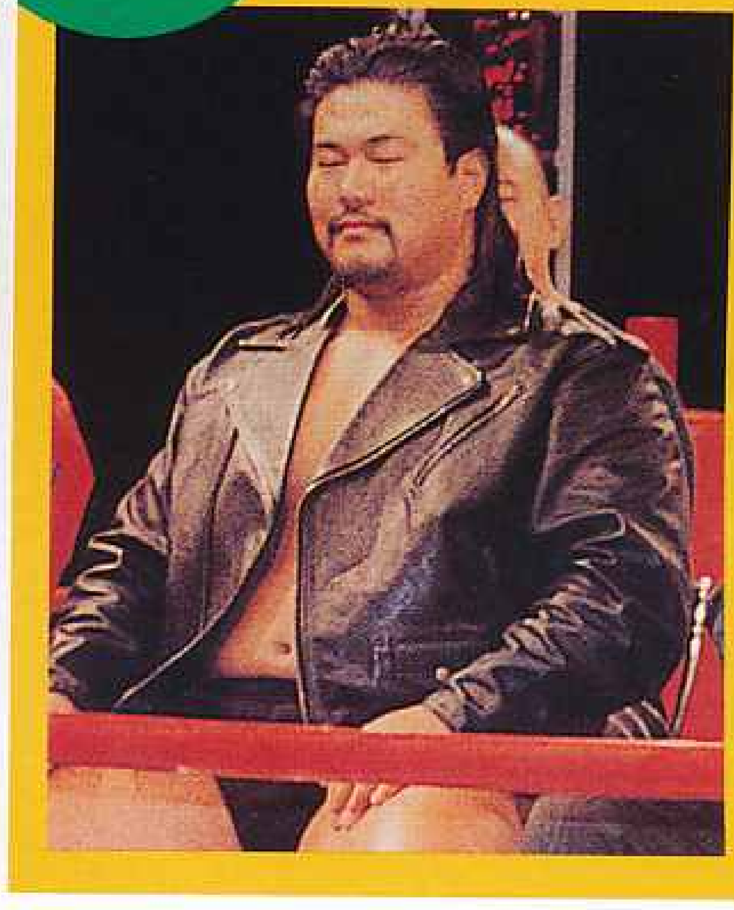
サクがホイス、ヘンゾを破ったことで一段落ついたと思われたUWFvsグレイシーが意外なところで、再燃した。まずは「UWFヘビー級王座決定トーナメント」に優勝した入江秀忠が例によって涙ながらに甲高い声で「追いかけてきた格闘家がいます。ヒクソン・グレイシーです！」と絶叫。さらには、またもや折原とひと悶着あった二瓶組長までが、『喧嘩500戦無敗』は俺の肩書き。ハイアンに勝って『この勝利をカシンに捧げる』と言いたい」と、こちらも桜庭戦が噂されるハイアンに挑戦状を叩きつけた。今後『PRIDE』とキングダムの仁義なきグレイシー争奪戦が勃発しそう……なのかなぁ？

9/3 【WKネットワーク】
宇野薫、CIMAに対戦表明!?



「昨日、久しぶりに全日本の武道館大会を見に行ったんですよ。天龍さんは相変わらずカッコ良かったです。あとCIMA選手の試合を初めて見たんですけど、いい選手ですね。一回闘ってみたいです」と衝撃発言をしたのが宇野薫。この日『コンテンダーズ2000エンディングレセプション』がディファ有明で行われ、会場にはWKネットワーク勢はもちろん、リングス、パンクラス、修斗に参戦している選手まで大挙集結した。修斗ウェルター級王者・宇野薫対C-MAX・CIMA。修斗でも闘龍門でもいい、ゼヒ実現して欲しい夢のカードだ。

9/4 【新日本プロレス】
新日本のトップは誰か言ってみろ!



「新日本のトップとやりたい」渕が蝶野に敗れたことで、川田が遂に対抗戦出陣の決意を表明したが、IWGP、G1の2冠制した押しも押されるトップ中のトップ健介が、川田発言に激しく反発した。なんと「トップって誰のことなんだ!新日本のトップは俺、佐々木健介。やる気があるなら口に出してみろ!辞めたっていいんだぞ!」と、自分の名前を出すことを強要。そのあまり強引に言わせようとする姿は、ほとんんど「女王様とお呼び!」に近いものがあるが、このトップ発言に蝶野は「健介と川田、"トップ"同士で俺の挑戦者決定戦をやればいい、俺は"スーパートップ"だから」と皮肉った。

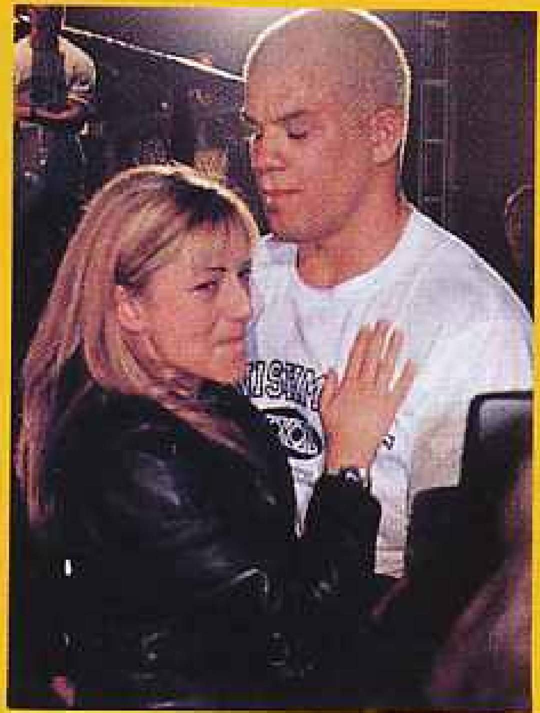
【IWA】後楽園　浅野社長CD1万枚買い取り決定。

9/5 【リングス】後楽園ホール
元パンクラシストがリングスに現る!



元パンクラスの柳澤が、リングス後楽園大会にチーム・ドラゴンの前田憲作と共に来場。金ちゃん、エンセンと試合を観戦し、休憩時間に前田総帥にKOKトーナメント出場を直訴した。柳澤は試合の感想を聞かれ「レベルが高い。特に外国人選手が強いっスね」と返答。KOKはその「強い外国人」が勢揃いするイベント。果たして柳澤は勝ち抜けるか?

【UFC】
ティトやっぱり欠場。近藤戦フッ飛ぶ



9月22日のUFCで予定されていたティト・オーティズvs近藤有己のUFCミドル級選手権が、ティトの欠場により中止が決定した。以前から、ティトはケガでのキャンセルが噂されていたが、理由はケガではなく、交渉の決裂という。現在のUFC最大のスターとのタイトルマッチというチャンスが消えた近藤は、気の毒としか言いようがない。

【UNW】北沢タウンホール
21世紀のネイチャーボーイ現る!



時代の先っちょをいくレスラー、セッド・ジニアスが3月のザ・コブラ戦に続いて、昭和の大物G・浜田とリアル・ワールド・ヘビー級のベルトを懸けて闘った。詳しくはインディーページを見ていただくとして、注目は前号で予告していた「フレアーよりゴージャスで気が狂った」(ジニアス談)ニューガウン。まぁ、見ての通りです。は〜カックン。

9/7

【新日本プロレス】

なぜだ! ドラゴン、越中の全日移籍を後押し



突如浮上した越中の「全日移籍」問題。越中本人は「馬場さんにお線香をあげたかっただけ」と言うが、天龍が復帰し大仁田までもが復帰しようとしているいま、越中の復帰も信憑性を帯びている。この噂に“マット界の流れを東スポで知る社長”こと、ドラゴンは例によって「認めん!」と突っぱねるかと思いきや、意外にも移籍を承認するような発言をした。「本人がその気なら出たっていい。気持ちをストレートに出したら、もっといい越中詩郎もでるだろうし」。なんと、あの人一倍、というか人間の極限までストレートに気持ちを出しすぎなファイト・スタイルの越中に対して、「もっと気持ちを出せ」とは……。

【新日本】事務所　健介、対戦カードを破り捨てる

【格闘探偵団バトラーツ】後楽園ホール

バトラーツが無料託児所を開設



アレクが長井満也を破っての優勝で幕を閉じた、今年のヤンジェネ。その決勝戦が行われたこの日の後楽園から、またもやバトラーツが業界初の試みをスタートさせた。それが無料託児所である。もちろんこれは、双子が生まれた島田レフェリー夫人のため……では、少なくとも表面上はなく。ましてや石川社長夫人やアレク夫人のものものためでも表面上はない、子供がいるためにプロレスが見に行けないお母さんたちのためのもの。当面は後楽園とTFMで行い、専任の保母さんも募集するという。詳しくはバトラーツにお問い合せ下さい。

9/8

【新日本プロレス】

破壊王、藤波戦を熱望!



遂に復帰が決定した破壊王。その対戦相手が注目されたが破壊王は何を血迷ったか「俺の気持ちをぶつけられるのは、藤波社長しかいない」とドラゴンを指名。これに対しドラゴンは「甘い!」と一蹴。いまにも「やるんだったら、俺を殺すまでやれ!」と言い出しそうな勢いだったが、以前その言葉を口にして、福岡ドームでホントに破壊王に半殺しの目に遭わされた事があるためか、あえてその言葉は飲み込んだようだ。それにしても破壊王の復帰会見では「彼の頭にあることをストレートに出してほしい」とドラゴンは言っていたはずなのに、いざストレートに言えばこの調子である。ドラゴンらしいとしか言いようがない……。

9/10

【新日本プロレス】浜松市体育館

野人・中西、ドラゴンを罵倒?



近頃、ガ然注目の健介劇場。川田に対して「俺の名前を呼べ!」とサディスティックに要求したかと思いきや、この日は一転「俺の顔を張れ!」とマゾヒスティックなプレイを要求。なんとも複雑な性癖を露にした。そして、この日はもうひとり、中西も爆弾発言を敢行。自分との対戦を却下した破壊王に対して、「50近い藤波社長とやって何になる?イバラの闘いができるんか!」と罵倒したのだ。だが、ちょっとまて、長州より年下で現役のドラゴンに対して、この発言はひどいんじゃ……。このままでいいのか、ドラゴン!

9/12

【LLPW】新宿　ヒルトンホテル

11・22『L-1 2000』



本誌が桜庭あつこにうつつを抜かしている間に、LLPWが「L-1 2000」を11・22代々木第2体育館で開催すると発表した。注目の出場メンバーは、神取、堀田、遠藤、高橋、熊谷直子という日本最強メンバーとも言うべき布陣。ここになんと(体型が)女・初代タイガーことルミエ社長加わるのだ。ルミエ社長のVT……見逃せない!

【新日本プロレス】

破壊王vsドラゴン、第1試合に決定



復帰戦
橋本
前座
第1試合
で出直し
藤波戦正式決定

破壊王vsドラゴンという、『紙の新聞』の2大スター激突する、世紀の大一番が遂に正式決定した。当初は「なぜ俺だかわからなかった」と対戦を拒否した藤波社長だが、破壊王の話をじっくりと聞いた結果、あっさり言いくるめられた模様。話せばわかる男・藤波辰爾。どうやらディベートは苦手のようだ。

9/13

【新日本プロレス】

ドラゴン、橋本戦を語る



「社長に審判してもらいたい」と破壊王復帰戦の相手に指名されたドラゴンが、その思いを受けとめ、熱く語った。「橋本の“審判”という言葉が引っかかる。動きなのか、リング上での感覚を見てほしいのか。それだけじゃない気がする」。どうやらドラゴンは、前日に破壊王と長時間の会談を持ったにも関わらず、破壊王が何を言っているのかサッパリわからなかったらしい……。

はみだしニュース

【新日本プロレス】

10・9新日本、東京ドーム全カード決定!



全日本プロレス、9・2日本武道館　この日、新日vs全日の第1Rがあったようです。入れるのをすっかり忘れてました。ごめんなさい。

- ●橋本真也vs藤波辰爾
- ●獣神Tライガーvs S・デルフィン
- ●格闘技戦(!)
  飯塚高史vsドン・フライ
- ●IWGPジュニアヘビー級選手権
  高岩竜一vs金本浩二
- ●IWGPタッグ選手権
  天山&小島vs中西&永田
- ●新日本vs全日本
  吉江豊vs太陽ケア
  S・ノートンvs S・ウイリアムス
  蝶野&ミスターTvs渕&越中
  佐々木健介vs川田利明

9/14

【新日本プロレス】

藤波辰爾46歳、飛龍原爆失敗したら即引退スペシャル!?

破壊王の引退問題のどさくさに紛れて、自身のカウントダウン一時凍結に成功し、しかも周りが指摘しないのをいいことに、引退問題が解決したいまも、一向にカウントダウンを再開させる気配がないドラゴン。そんなドラゴンに突然の引退の危機が訪れた。しかも例によっての自らの不用意な失言によって……。それが「禁じてであるドラゴン・スープレックスを狙っていく」という、ドラゴンらしい突拍子もない発言である。飛龍原爆といえば、「あまりにも危険すぎる」という理由で封印されてきた、幻のドラゴン究極兵器。大谷晋二郎が毎試合のように出しているいまでは、「危険すぎる」も何もないのだが、ドラゴンが出すとなったら話は別。腰に爆弾を抱えるドラゴンが、現在絶賛増量中の破壊王に仕掛ければ、それこそ(自分の腰が)あまりにも危険すぎる。もし、失敗した場合ドラゴンの選手生命はどうなるのか?　今度は我々はドラゴンのために千羽鶴を折らねばならないのか?　その答えは10月9日にでる。

PRESENT U

2000 ANATANISASAGERU PUREZENTOKONĀ

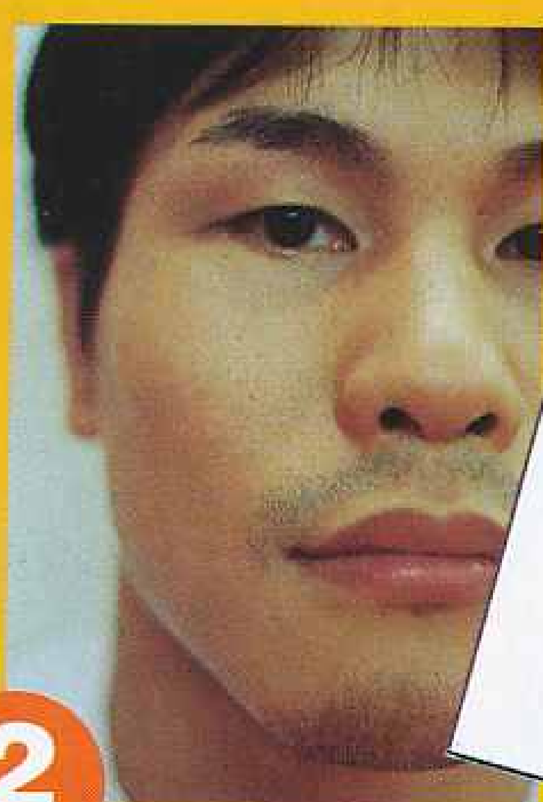
あなたへ…



目玉商品不足により、キングダムの入江選手ばりに涙ながらの絶叫モードであなたにお届けする読プレコーナー。今月からボク、水戸泉（仮）が担当することになったので、どうぞよろしく！

田村潔司 直筆サイン色紙

赤いパンツの頑固者、田村潔司の直筆サインを読者のためにゲット！ 今後の動向が気になる田村選手ですが、しっかりとマイペースと記してくれました。シンプルながらも今の田村選手の心境が伝わりまくりのサイン色紙は、筋金入りのＵＷＦファンに限りプレゼントします。ＵＷＦへの熱い気持ちを一言添えた、Ｕイズム溢れる応募をお待ちしております。
【田村潔司提供】





2 名様

真樹日佐夫先生 直筆サイン入り



真樹道場の結成20周年を記念して、9月24日に開催された空手選手権のポスターを真樹日佐夫先生の直筆サイン入りでプレゼント！ どうですか！ 今にも男汁が溢れ出しそうなこのデザイン！ 本物の漢を目指している人にのみ限定で大プレゼント！ 本当に部屋に飾る人のみの応募に限らせて頂きます。このポスターに応募せずして、君は本当の漢になれるか？
【真樹道場提供】

10 名様

『PRIDE.10』関連グッズ大放出！



BACK

サイズ S/M/L/XL

各サイズ 1 名様

プライドREAL Tシャツ



BACK

各サイズ 1 名様

『PRIDE.10』大会記念Tシャツ
サイズ M/L/XL



各サイズ 1 名様

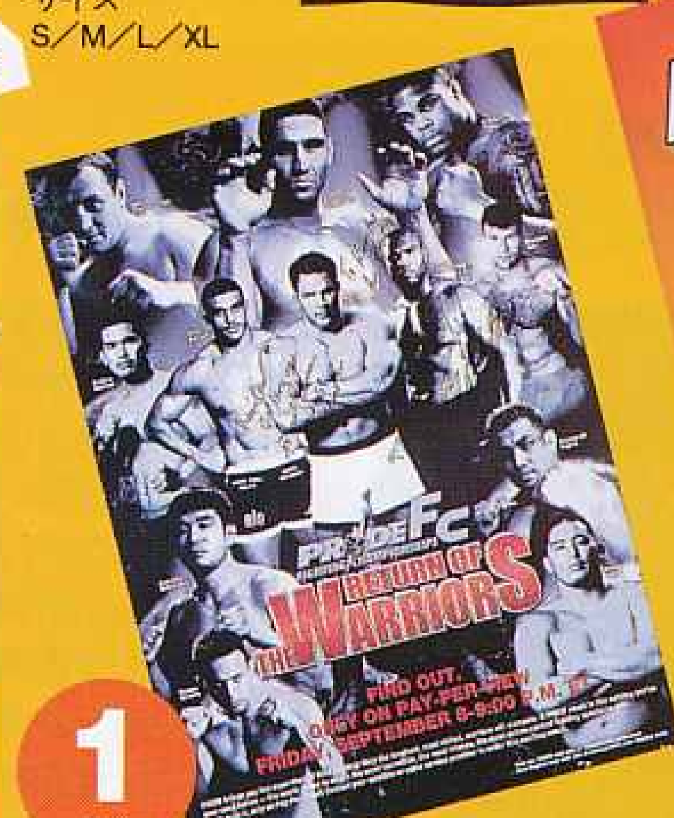
「殴る刺青」Tシャツ
サイズ S/M/L/XL

BACK



各 2 名様

藤田＆エンセン応援ハチマキ



1 名様

ポスター（USAバージョン）



3 名様

『PRIDE.10』大会パンフレット

『PRIDE.10』のオフィシャルグッズに加えて、他では手に入らないＵＳＡバージョンのポスターはコールマンとグッドリッジの直筆サイン入り！ オフィシャルグッズの方は通販でも大絶賛発売中！ お問い合せ：ドリームステージエンターテインメント（03-5775-5700）、プライドオフィシャルサイト（http://www.jside.com/pride/） 【DSE提供】

激レア！ グレイシーマガジンTシャツ



サイズM

BACK

1 名様

ブラジルの雑誌「グレイシーマガジン」のTシャツ。これを逃したら手に入らなくなることは必至です！ 【堀江ガンツ提供】

大和魂爆発記念



BACK BACK

サイズXL

各 1 名様

サイズXL

ボブチャンチン戦では結果以上の感動をあたえてくれたエンセン。これぞ大和魂！ 新作Tシャツを着て大和魂を感じろ！
お問い合せ：イーフォース・ジャパン（047-378-6400）
【イーフォースジャパン提供】
※エンセンが所属し、講師も務める大宮ジムでは入会者を随時募集してます。柔術クラス、トータルファイティング、関節技クラスなどコース多数。身体を鍛えたい方、護身術を身につけたい女性も大歓迎！ お問い合せ：PUREBRED大宮（048-378-6400）

大日魂!



各1名様

ウインガーTシャツ
サイズM

スキンヘッダーズTシャツ
サイズL

現在、大怪我で長期欠場中のウインガーの為に作成されたウインガーエイドＴシャツは収益の一部がウインガー基金となります。キッチュなスキンヘッダーズＴシャツ共に、最近昇り調子で絶好調の大日本の会場で販売中。【大日本プロレス提供】

大好評のジェットシンシリーズにトレーナー登場

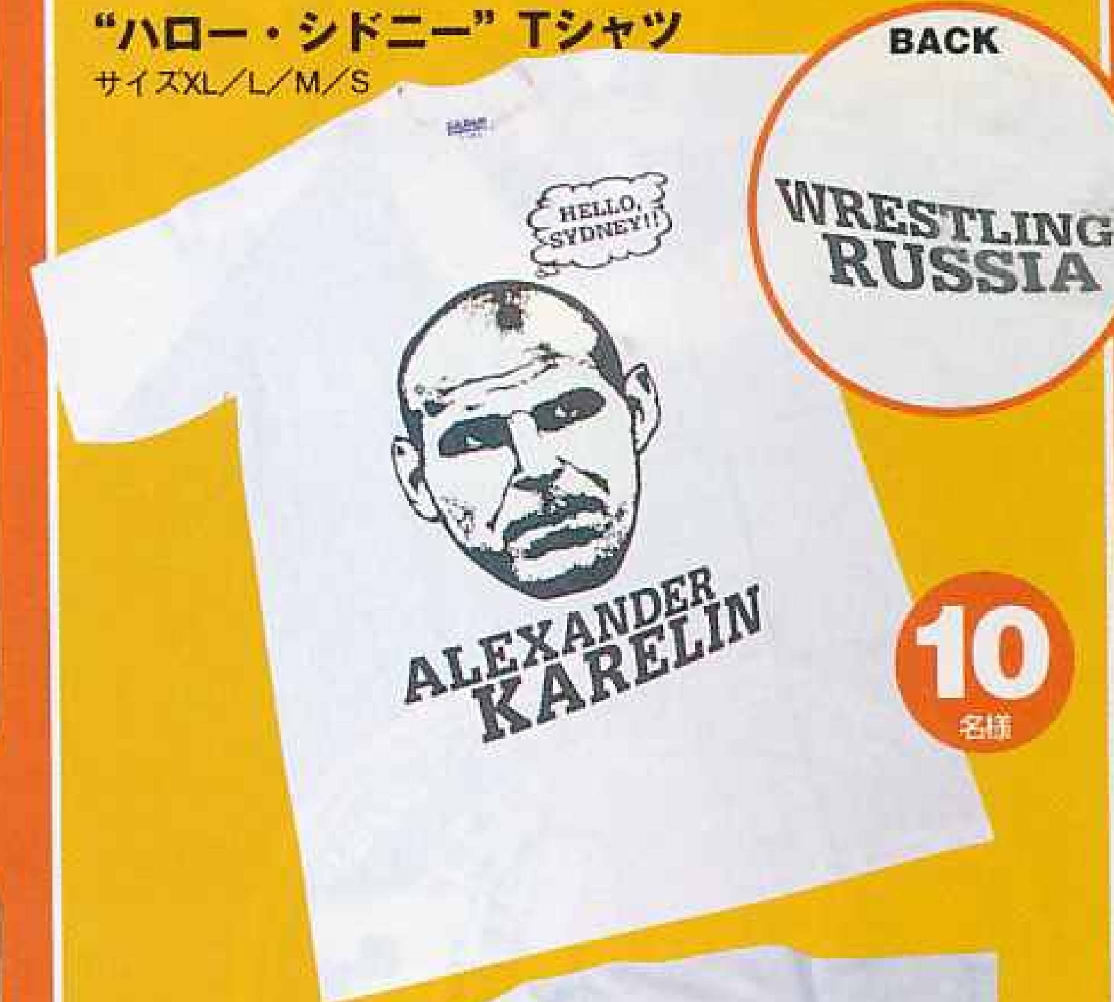


2名様

先月号に掲載されたキャミソールも大人気だったジェットシンシリーズに秋らしくトレーナーが登場。チャンピオン東京店、渋谷クアトロ内ブレーンバスターで販売中。【HAOMING提供】

オリンピック絶賛開催中記念 もうすぐ発売! SRS・DXがお届けするカレリンTシャツ

"ハロー・シドニー" Tシャツ
サイズXL/L/M/S



10名様



10名様

"カレリンズ・リフト" Tシャツ
サイズXL/L/M/S

"ハロー・シドニー" は井上きびだんご、"カレリンズ・リフト" は五木田智央が、共に入魂のデザイン! SRS・DX編集部に問い合わせ殺到中! カレリン本人もご愛用! 共に、￥4000で販売予定。入手方法はSRS・DX本誌を要チェック! これを着て前人未到の４連覇を見届けろ! SRS通販専用ダイヤル 0570-007800（携帯からは掛かりません）【井上きびだんご提供】

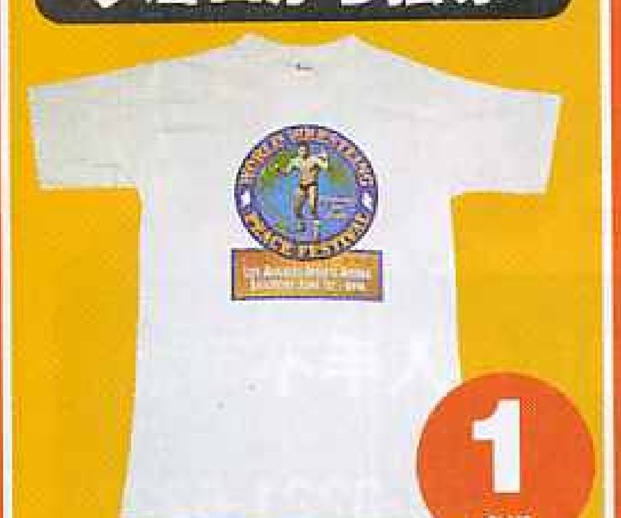
IVYブックスのＴシャツ各種ドーンと提供



各2名様

IVYブックスの味付けで製作された、伝説の名書「1·2の三四郎」（本誌編集長山口推薦図書）の各キャラクターから、バトラーツ、ＪＷＰのＴシャツはまさに名作! サイズM/L【IVYブックス提供】

チョロから強奪!



1名様

目玉商品不足の為、チョロからアントンのレアＴシャツを強奪! ロサンゼルスで開催された平和の祭典Tシャツです。平和の祭典を知らない、にわかファンは是非!【チョロ提供】

謙吾復帰記念



5名様

この号が出る頃にはジョー・チャールズとの復帰戦を終えている渡部謙吾のフィギアが登場。刺青までしっかりカバーした精巧な作りになってます。【キャラクタープロダクト提供】

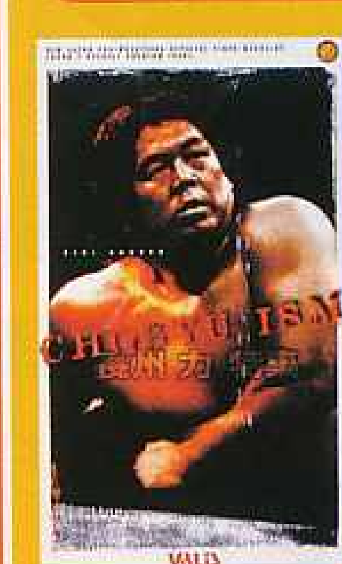
なかなか買えない（というか買わない）具志堅 用高タオル



各1名様

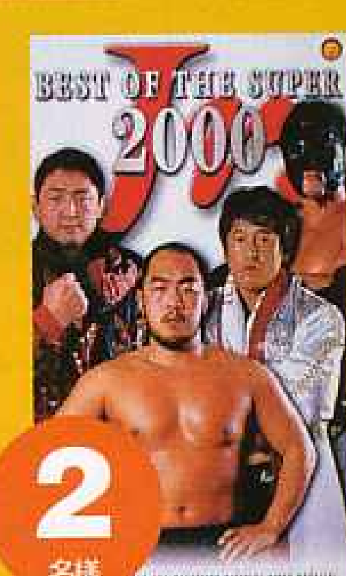
沖縄の新観光名所、具志堅用高記念館のお土産品。この機会にぜひ!【堀越日出夫さん提供】

今月のビデオも名作揃い!



長州イズム
頑なまでに己を貫き通したラリアットプロレスの証しを収録。
【ヴァリス提供】

2名様



ベスト・オブ・ザ・スーパー・ジュニア2000
闘魂の家臣ことケンドー・カシンから雑用嫌いな藤田稔まで、これぞまさしくスーパージュニア。
【ヴァリス提供】

2名様



PRIDE対掣圏道
佐竹のＶＴ戦初勝利から、ジャイ落のデビュー戦まで、怪獣王国満載。お問い合せ：メディアファクトリーカスタマーサポートセンター（03-5469-4880）
【メディアファクトリー提供】

1名様



西村修物語
最初で最後の藤波イズムの後継者、無我の魂が今、ここに! 人間・西村の哲学を感じてほしい。
【ヴァリス提供】

2名様

プレゼント応募方法

どうも、水戸泉（仮）です。今回からボクが読プレを担当させて貰います。先月号のこのコーナーで、ボクの名前を募集したのですが、今月も懲りずに募集します。誰かステキな名前を考えて! お願いします。

応募券

1. 郵便番号
2. 住所
3. 電話番号
4. 氏名
5. 年齢
6. 職業
7. 希望商品
8. 面白かった記事＆その理由
9. あなたの好きなレスラーと嫌いなレスラーを1人ずつ教えて下さい
10. あなたはが『紙プロ』を読みはじめたのは何号からですか？（ちっちゃい頃の『紙プロ』も含む）

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロＲＡＤＩＣＡＬ』編集部
「マッハGO! GO! GO!」係まで
※締切は10月20日です

編集部大掃除敢行記念 各団体パンフレット多数



あまりにも乱雑すぎて、誰もが不可能だと思っていた編集部の大掃除を２日掛かりで奇跡的に敢行! その際、発掘した大量のパンフレットをドーンと大放出! 写真はあくまでほんの一部です。 かなり貴重品多数! 発送が面倒臭すぎるので、編集部に取りに来てくれる人に差し上げます。その他に発掘した粗大ゴミまで持って帰ってくれる人大歓迎!
【編集部提供】

秋のG1シリーズ到来記念



庶民にとって最大のジャパニーズドリームとも言える秋のG1シリーズを万全で望みたいあなたへ! ￥2000の豪華本です。
【エンターブレイン提供】

3名様

天龍源一郎、川田利明に続け!! とばかりに

黒と黄色のニクいヤツ登場!!



花くまゆうさく先生のイラストがクール!!

秋の新作、遂にドロップ!
U.M.F Tシャツ(黒×黄)
¥3.800
サイズ S or M or L



左ソデに光るワンポイント!!

完全限定品なのでお早めにお求めください!!

確実に手に入れたい人のための通販方法

以前からリクエストの多かったU.M.F.Tシャツの新色が遂に登場! 黒×黄といえばレボリューション? それとも阪神タイガース? 着こなしは各自自由です! 今回も限定品なので、急がないと速攻で品切れしちゃいますよ。読書の秋、芸術の秋、『紙プロ』Tシャツの秋! っちゅうことで通販方法は以下の通りです。商品をご希望の方は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、希望商品、希望枚数を書いたメモを必ず同封して(これがないと届きません)、商品の代金+送料(何枚買っても¥500)と一緒に現金書留で下記住所までお送りください。左ページに掲載したTシャツと一緒に購入することも可能です。

【現金書留送付先】
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス『買っていいとも』係まで
お問い合せ■(株)ダブルクロス TEL.03-3403-5188

通販以外ではこの4店舗しか入手不可能

■東京・チャンピオン東京店	TEL.03-3221-6237
■大阪・チャンピオン大阪店	TEL.06-6645-5186
■岐阜・バンザイ商会	TEL.0584-75-4966
■宮城・スクワット	TEL.022-264-8160

紙のプロレス RADICAL
No.31
2000年10月30日発行

No.32は10月下旬発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松澤チョロ
堀江ガンツ
水戸泉重千代(仮)
幸田魚屋(仮)
マッハ戸高(仮)
八木賢太郎(句会で1位をとったため非番)

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
中村愚乱
金田謙太郎

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
ヒサくん
マツ(腰痛のため非番)
村松さん
グッチー
モリやん(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)
古賀ゆきえ
海老澤勇(ZERO graphics)

出前
出前持ち入江(TwoThree)

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
黒田史夫
戸成ぶつぞう
松本崇
緒方秀美
丸山剛史

試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定
林ヘックション一枝

レギュラー雑誌が次々と廃刊!!
中村カタブツ君(37歳)

たずね人
ジャイ子

フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)

ニュータイプの麻雀雑誌!

今月の格言
裏ドラと他人の金はアテにするナ!!



ダントツの面白さつみ込んで
絶賛発売中!!

楽しさの無駄ヅモなし!

ワニマガジン社

Chuッ10月号増刊 定価380円(税込)

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 151
2000 NO.31

夏の「ストロング・スタイル」は『PRIDE』にあり!!

平成12年10月30日発行 編集発行人/山口日昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体800円+税

9784898296325
雑誌 69862-51
ISBN4-89829-632-
C9476 ¥800E
1929476008008

印刷:図書印刷株式会社

TLINDEX

全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
高田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-362-0707	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505
世界のプロレス	093-203-5170	〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F−E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	0427-54-8851	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
K−1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-3961-2704	〒173-0001 東京都板橋区本町34-4 石田コーポラス501
WK/Network(和術慧舟會、A^{3}GYM、RJW)	03-5200-3546	〒103-0021 東京都中央区日本橋石町3-3-11 山田ビル5F
シュートボクシング協会	03-3843-1212	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1〜3F
UFC−J事務局	03-3343-2444	〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	03-3432-1682	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd'	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	03-5452-0344	〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-2-22-101

10・9 破壊王・橋本真也復活！

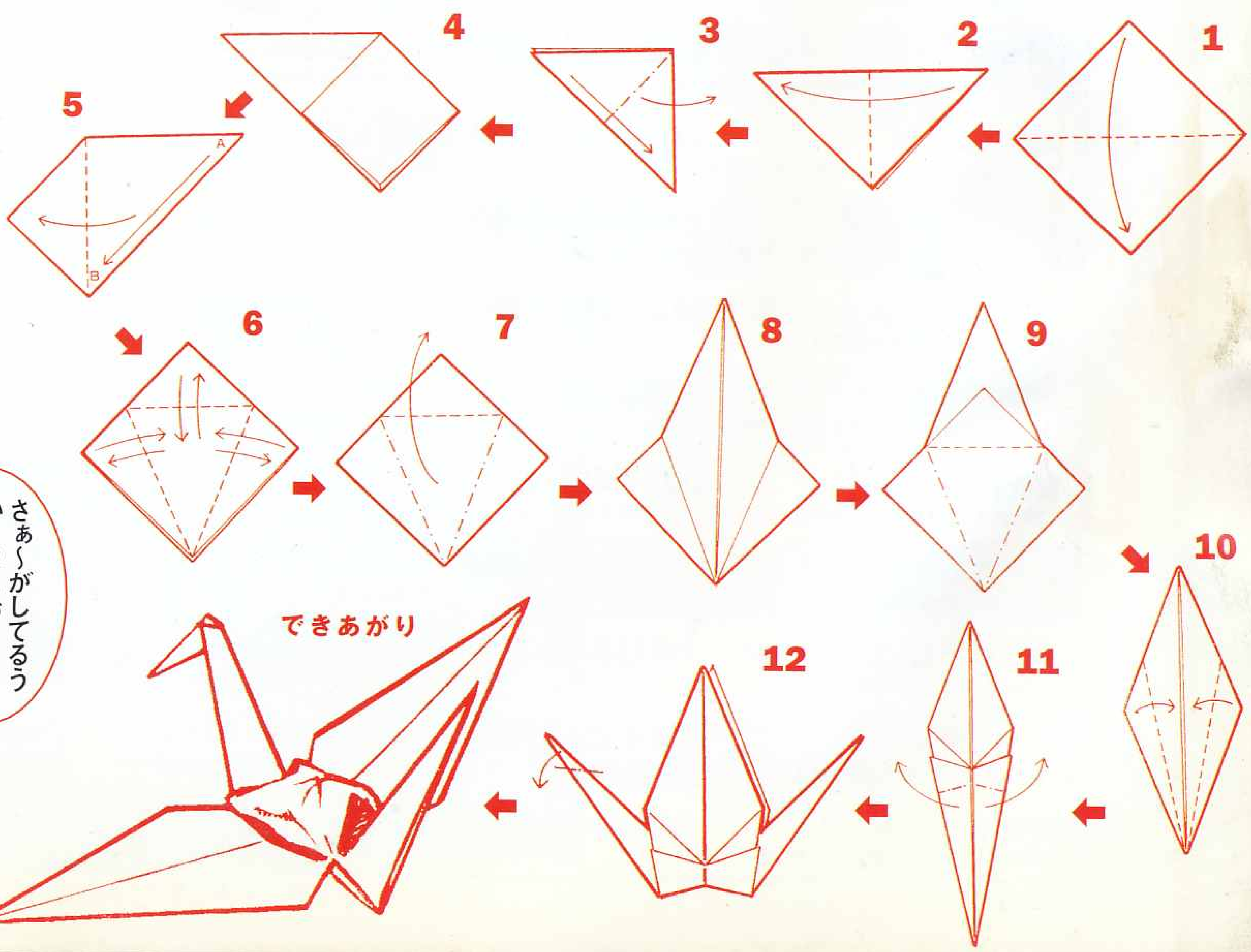
あえていまこそ おりづるを折ろう!!

折り鶴百万羽達成記念

祝・橋本真也復帰記念おりがみ

きりとり線

上の折り紙を切り取って左図のように折ろう！







格闘芸術『燃える闘魂』by 五木田智央


燃える闘魂
Pacto

CAL CALENDAR

(19:00) ◆□

(18:30)

30)

場 (時間不明)

0)

明)

5:00)

8:30)
館 (16:00) ★◆♡
★
(17:30)
0)

0)

0)

:00)

車場特設リング (17:30)

アルシオン■埼玉・熊谷市民体育館 (18:30)

15 SUN.

新日本■兵庫・富岡市民体育館 (15:00)
大日本■北海道・札幌テイセンホール (15:00)
バトラーツ■沖縄予定♡
レッスル夢ファクトリー■東京・板橋産文ホール (17:30)
IWA■横浜・大津スイミングクラブ (18:30)
大阪■大阪・NGKスタジオ (15:00)
掣圏道■神奈川・横須賀市総合体育館 (時間不明)
ノア■福岡・博多スターレーン (15:00)
全女■東京・後楽園ホール (12:00)
Jd'■東京・後楽園ホール (18:30)

16 MON.

全日本■福島・いわき市立総合体育館 (18:30)
大日本■北海道・旭川大成市民センター (18:30)
アルシオン■秋田・鷹巣町民体育館 (18:30)

17 TUE.

全日本■岩手・ユードーム一関市総合体育館 (18:30)
大日本■北海道・名寄市スポーツセンター (18:30)
ノア■金沢・石川県産業展示館2号館 (18:30)
アルシオン■秋田・大館市民体育館 (18:30)

18 WED.

全日本■宮城・名取市民体育館 (18:30)
新日本■長崎・長崎県立総合体育館 (18:30)
大日本■北海道・帯広市総合体育館 (18:30)

19 THU.

新日本■長崎・島原復興アリーナ (18:30)
大日本■北海道・紋別市スポーツセンター (18:30)
ノア■茨城・つくばカピオ (18:00)

20 FRI.

新日本■福岡・福岡国際センター (18:30)
大日本■北海道・北見東スポーツセンター (18:30)
ノア■盛岡・岩手県営体育館 (18:30)
アルシオン■群馬・群馬県総合スポーツセンターサブアリーナ (18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール (時間不明)

21 SAT.

全日本■愛知・愛知県体育館 (18:00)
新日本■大分・別府ビーコンプラザ (18:30)
大日本■北海道・根室青少年センター (18:30)
掣圏道■大阪・枚方市総合体育館 (時間不明)
アルシオン■兵庫・姫路みなとドーム (18:00)

22 SUN.

全日本■大阪・大阪市中央体育館 (15:00)
新日本■鹿児島・鹿児島アリーナ (15:00)
FMW■京都KBSホール (17:00)
大日本■釧路鳥取ドーム (18:30)
ノア■東京・ディファ有明 (15:00)
サムライプロジェクト■東京・有明コロシアム (14:00)
GAEA■東京・後楽園ホール (12:00)
アルシオン■三重・四日市オーストラリア記念館 (17:30)

24 TUE.

全日本■和歌山・和歌山県立体育館 (18:30)
新日本■宮崎・宮崎市総合体育館 (18:30)

FMW■大阪府立体育館第2競技場 (18:30)

25 WED.

全日本■福井・福井市体育館 (18:30)
新日本■熊本・熊本市総合体育館 (18:30)

26 THU.

全日本■香川・高松市市民文化センター (18:30)
FMW■新潟・上越市厚生南会館 (18:30)

27 FRI.

新日本■山口・下関市体育館 (18:30)
FMW■千葉公園体育館 (18:30)
大日本■山形・東根市民体育館 (18:30)
世界の■兵庫・神戸サンボーホール (時間不明)
アルシオン■盛岡・岩手県営体育館 (18:30)

28 SAT.

全日本■東京・日本武道館 (18:00)
世界の■四国予定
ノア■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念 (18:00)

29 SUN.

新日本■兵庫・神戸ワールド記念ホール (16:00)
FMW■東京・後楽園ホール (18:30)
大日本■茨城・大洗町総合運動体育館 (18:30)
世界の■福岡・宮田町 (時間不明)
掣圏道■東京・有明コロシアム (時間不明) ♠
Jd'■大阪・NGKスタジオ (14:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール (12:00)

30 MON.

大日本■東京・後楽園ホール (18:30)
世界の■鹿児島・鹿児島市体育館 (時間不明)
Jd'■東京・北沢タウンホール (19:00)

31 TUE.

DSE『PRIDE.11』■大阪・大阪城ホール (19:00) ★□
IWA■北海道・札幌テイセンホール (18:30)
世界の■福岡・田川市武道館 (時間不明)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモーノブ
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
□ 水戸泉 (仮)
♡ 幸田ギョロ (仮)

(今号のピンナップは) **どーですかッ、お客さん!?**

元気ですかーッ!! え～、今回の「格闘芸術ピンナップ」はヤバい! じつにヤバい! なんと、今回は『SRS・DX』のワンフー・マクダニエルでも絶賛活躍中のゴキータこと五木田智央氏の登場、ダァ～ッ! (ヨダレを垂らして拳を突き上げながら)。ズバリ言って、このピンナップのためだけに、今号は「保存用」と「部屋に張る用」と「切り取らないで観賞する用」の3冊買ってもいいほどの鬼のようなクオリティというか、ンムフフフ。まあ、何というか「格闘が昇華して芸術になるならば、芸術も進化すれば格闘になる!」というこのピンナップの主旨を見事に体現した文字どおりの「格闘芸術」で……(突然) ゴキータッ、アリガトーッ!

それではみなさんッ、いきますかーッ!?

イーチッ、ニーッ、サンッ、シッ、ゴキータッ、ダァーッ!!

五木田智央 (ごきた・ともお) ■イラストレーター。イラスト界最後の猪木イズム継承者として多方面で絶賛射精中。猪木さんやアレンはもちろん、なぜかカート・ヘニングにレイ・メンドーサも登場する極太作品集『ランジェリー・レスリング』(リトルモア刊) も好評発売中。

RADICAL CA

●はイベント情報です。

9 September

27 WED.

大日本■鹿児島・牧園町総合体育館（18:30）
バトラーツ■岡山・卸センターオレンジホール（18:30）
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
世界の■静岡・アクトシティー浜松（18:30）
JWP■東京・東天紅上野店（19:00）
●Jd' スポーツ教室■神奈川・Jd道場（19:00）コーチ：フロング鈴木

28 THU.

大日本■福岡・大牟田市民体育館（18:30）
バトラーツ■福岡・アクロス福岡（18:30）
DDT■東京・板橋産文ホール（19:00）

29 FRI.

闘龍門■千葉・千葉公園体育館（18:30）
世界の■愛媛・八幡市民スポーツセンター（18:30）

30 SAT.

大日本■福岡・甘木青果市場（18:30）
バトラーツ■愛知・名古屋レインボーホール代3競技場（17:00）
闘龍門■長野・飯田（18:30）
世界の■兵庫・神戸サンボーホール（18:30）♠
大阪■大阪・NGKスタジオ（19:00）
全女■東京・後楽園ホール（18:30）
LLPW■静岡・焼津市民体育館（18:00）
GAEA■埼玉・本川越ペペホール「アトラス」（17:00）
Jd' ■東京・板橋産文ホール（18:00）
●青空プロレス道場■東京・西武百貨店イムルス館8F池袋コミュニティカレッジ（18:30）ゲスト：高田延彦

10 October

1 SUN.

大日本■福岡・博多スターレーン（15:00）
バトラーツ■東京・後楽園ホール（12:00）
闘龍門■東京・ディファ有明（18:30）
大阪■大阪・NGKスタジオ（15:00）
掣圏道■鹿児島・鹿児島ドーム（時間不明）

3 TUE.

大日本■兵庫・淡路勤労者体育センター（18:30）

新宿プロレス■新宿・東京大飯店8F大ホール（19:00）◆□
LLPW■東京・後楽園ホール（19:00）

5 THU.

アルシオン■神奈川・大磯プリンスホテル別館（18:30）

6 FRI.

アルシオン■大阪・泉佐野市総合体育館（18:30）

7 SAT.

FMW■宮崎・都城市体育館（18:30）
バトラーツ■大阪・大阪府立体育館第二競技場（時間不明）
大阪■大阪・NGKスタジオ（19:00）
ノア■東京・ディファ有明（18:00）◎
アルシオン■大阪・サティ八尾店駐車場（18:30）

8 SUN.

全日本■東京・後楽園ホール（12:30）
FMW■長崎・ncc&スタジオ（17:00）
バトラーツ■徳島・文化の森野外劇場（時間不明）
みちのく■東京・ディファ有明（12:00）★
大阪■大阪・NGKスタジオ（15:00）
ノア■神奈川・横浜文化体育館（15:00）
LLPW■愛知・名古屋笹島跡地特設リング（15:00）
Jd' ■神奈川・Jd' 横浜道場（14:00）
アルシオン■兵庫・赤積市民体育館（13:00）

9 MON.

新日本■東京ドーム（15:00）◎
FMW■鹿児島・御陵下・旧川内市体育館（18:30）
リングス■東京・国立代々木競技場第2体育館（16:00）★◆♡
みちのく■東京・新宿厚生年金会館（12:00）★
レッスル夢ファクトリー■東京・板橋産文ホール（17:30）
ノア■前橋・群馬総合スポーツセンター（15:00）
K−1■マリンメッセ福岡（17:00）
修斗■東京・北沢タウンホール（17:30）
JWP■東京・後楽園ホール（12:30）

10 TUE.

FMW■福岡・博多スターレーン（18:30）

11 WED.

大日本■福島・いわき市立総合体育館（18:30）
DDT■東京・北沢タウンホール（19:00）
ノア■名古屋・愛知県体育館（18:00）

12 THU.

新日本■大阪・なみはやドーム（18:30）
ノア■岡山武道館（18:30）

13 FRI.

新日本■金沢・石川産業展示館1号館（18:30）
IWA■東京・後楽園ホール（18:30）
ノア■広島・広島市東区スポーツセンター（18:00）
NEO■東京・板橋産文ホール（19:00）

14 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール（18:30）
新日本■三重・四日市市体育館（18:30）
FMW■北海道・函館市民体育館（18:00）
大日本■北海道・札幌テイセンホール（18:30）
IWA■静岡・小山町　日帰り温泉“天恵”駐車場特設リング（17:30）
大阪■大阪・NGKスタジオ（19:00）

アルシオン■埼玉

15 SUN.

新日本■兵庫・富
大日本■北海道・
バトラーツ■沖縄
レッスル夢ファクト
IWA■横浜・大津
大阪■大阪・NGK
掣圏道■神奈川・
ノア■福岡・博多
全女■東京・後楽
Jd' ■東京・後楽

16 MON.

全日本■福島・い
大日本■北海道・
アルシオン■秋田・

17 TUE.

全日本■岩手・ユ
大日本■北海道・
ノア■金沢・石川
アルシオン■秋田・

18 WED.

全日本■宮城・名
新日本■長崎・長
大日本■北海道・

19 THU.

新日本■長崎・島原
大日本■北海道・
ノア■茨城・つくば

20 FRI.

新日本■福岡・福岡
大日本■北海道・北
ノア■盛岡・岩手県
アルシオン■群馬・群
NEO■東京・北沢

21 SAT.

全日本■愛知・愛知
新日本■大分・別府
大日本■北海道・根
掣圏道■大阪・枚方
アルシオン■兵庫・姫

22 SUN.

全日本■大阪・大阪
新日本■鹿児島・鹿
FMW■京都KBSホ
大日本■釧路鳥取ド
ノア■東京・ディファ有
サムライプロジェクト■
GAEA■東京・後楽
アルシオン■三重・四

24 TUE.

全日本■和歌山・和
新日本■宮崎・宮崎